

令和6年度第4回

朝霞市地域福祉計画推進委員会・朝霞市地域福祉活動計画推進委員会

次 第

日 時：令和7年3月14日（金）

午後1時30分から

場 所：朝霞市総合福祉センター

第1・第2会議室

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 議 題

（1）第5期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画の策定に係るアンケート調査・団体ヒアリングの結果報告について

（2）第5期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画の策定に係る地域懇談会の結果報告について

（3）グループディスカッション

（4）その他

4 閉会

第 5 期朝霞市地域福祉計画・
第 5 期朝霞市地域福祉活動計画
策定にかかる
アンケート調査・グループヒアリング
結果報告書

令和 7 年 3 月
朝霞市
朝霞市社会福祉協議会

目 次

I アンケート調査の概要.....	1
1 調査の目的.....	1
2 調査概要.....	1
3 集計・分析のための地区区分.....	1
4 回収結果.....	2
5 報告書の見方.....	2
II 市民調査結果.....	3
1 回答者自身について.....	3
2 暮らしの状況について.....	11
3 近所付き合いについて.....	19
4 朝霞市社会福祉協議会（朝霞市社協）について.....	27
5 民生委員・児童委員、保護司について.....	28
6 身近な地域の課題について.....	29
7 コミュニティ活動について.....	45
8 防災活動について.....	54
9 困りごとの相談について.....	57
10 福祉施策について.....	64
III 児童生徒調査結果.....	71
1 回答者自身について.....	71
2 地域での暮らしについて.....	74
3 地域での活動について.....	80
IV 専門職調査結果.....	84
1 回答者自身について.....	84
2 地域の課題について.....	87
3 活動の状況について.....	139
V 団体調査結果.....	172
1 団体について.....	172
2 団体の活動について.....	173
3 地域の課題について.....	185
VI アンケート調査結果からみえる主な課題・方向性.....	211
VII グループヒアリングの概要.....	217
1 調査の目的.....	217
2 調査概要.....	217

Ⅷ グループヒアリング結果.....	218
1 子ども分野.....	218
2 高齢者分野.....	221
3 障害者分野.....	225
4 地域福祉活動分野.....	228
5 ヒアリング結果からみえる主な課題・方向性.....	231

I アンケート調査の概要

1 調査の目的

本調査は、第5期朝霞市地域福祉計画及び第5期朝霞市地域福祉活動計画の策定にあたって、一般市民、市内で福祉・医療・介護または教育・保育機関で業務を行う皆様の『地域福祉』に対するご意見を各々の計画に反映させるため、アンケート調査を実施しました。

2 調査概要

種別	対象	調査方法	調査期間
市民調査	市内在住の18歳以上の方 (無作為抽出)	郵送配布・ 郵送回収 及びWEBによる 本人回答方式	令和6年 11月8日(金) (児童生徒調査は11 月15日(金))～ 11月29日(金)
児童生徒 調査	市内の小学5年生、中学2年生、 高校2年生相当にあたる方		
専門職 調査	市内で福祉・医療・介護または 教育・保育機関で業務を行う方 (代表者)		
団体調査	市内に組織されている 福祉関係団体の方(代表者)	郵送配布・ 郵送回収による 本人回答方式	

3 集計・分析のための地区区分

区分	地区
地区1	大字上内間木、大字下内間木、宮戸、大字宮戸、朝志ヶ丘
地区2	東弁財、西弁財、三原、泉水
地区3	本町1・2丁目、溝沼1～5丁目、大字溝沼、膝折町3～5丁目
地区4	仲町、根岸台、大字根岸、大字台
地区5	青葉台、栄町、幸町、膝折町1・2丁目、大字膝折、本町3丁目
地区6	北原、西原、浜崎、大字浜崎、田島、大字田島、岡、大字岡、溝沼6・7丁目

4 回収結果

種別	配布数	有効回収数	有効回収率
市民調査	3,000 件	946 件	31.5%
児童生徒調査	1,000 件	341 件	34.1%
専門職調査	450 件	158 件	35.1%
団体調査	83 件	52 件	62.7%

5 報告書の見方

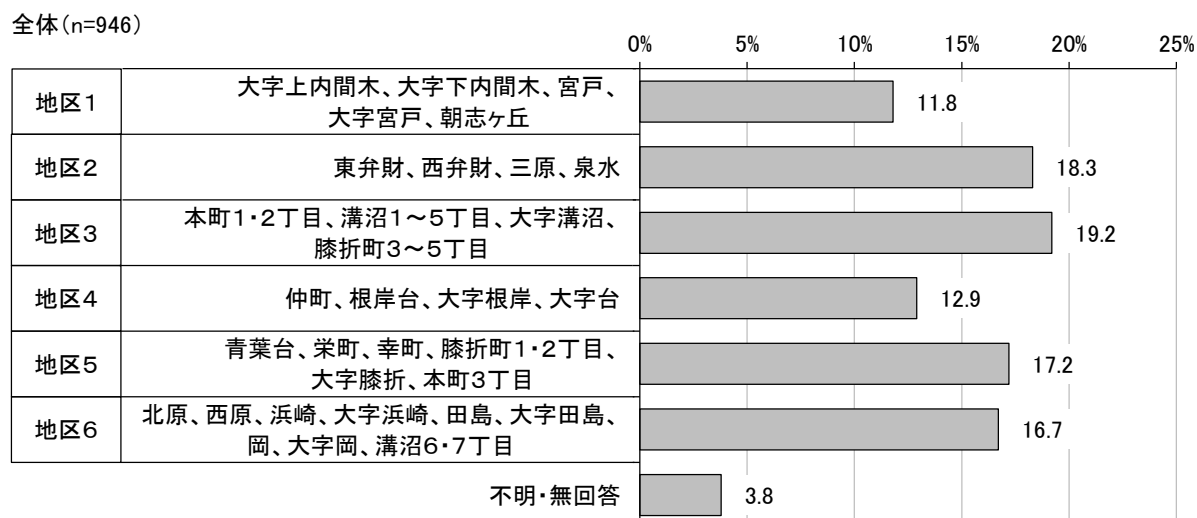
- ◇回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- ◇複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- ◇図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- ◇図表中の「n (number of case)」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。
- ◇本文中の設問の選択肢は簡略化している場合があります。
- ◇集計対象者総数（n）が少ない（10件未満）クロス集計については、分析文の記載を省略しています。

Ⅱ 市民調査結果

1 回答者自身について

問1 あなたのお住まいはどの地区ですか。(1つを選択)

「地区3(本町1・2丁目、溝沼1～5丁目、大字溝沼、膝折町3～5丁目)」が19.2%と最も高く、次いで「地区2(東弁財、西弁財、三原、泉水)」が18.3%、「地区5(青葉台、栄町、幸町、膝折町1・2丁目、大字膝折、本町3丁目)」が17.2%となっています。



〈性別クロス〉

性別にみると、男性では「地区2」、女性では「地区3」が最も高くなっています。

単位: %		地区1	地区2	地区3	地区4	地区5	地区6	不明・無回答
全体(n=946)		11.8	18.3	19.2	12.9	17.2	16.7	3.8
性別	男性(n=387)	12.4	19.9	16.5	13.7	18.1	17.8	1.6
	女性(n=538)	11.7	17.7	21.6	12.5	17.3	16.5	2.8

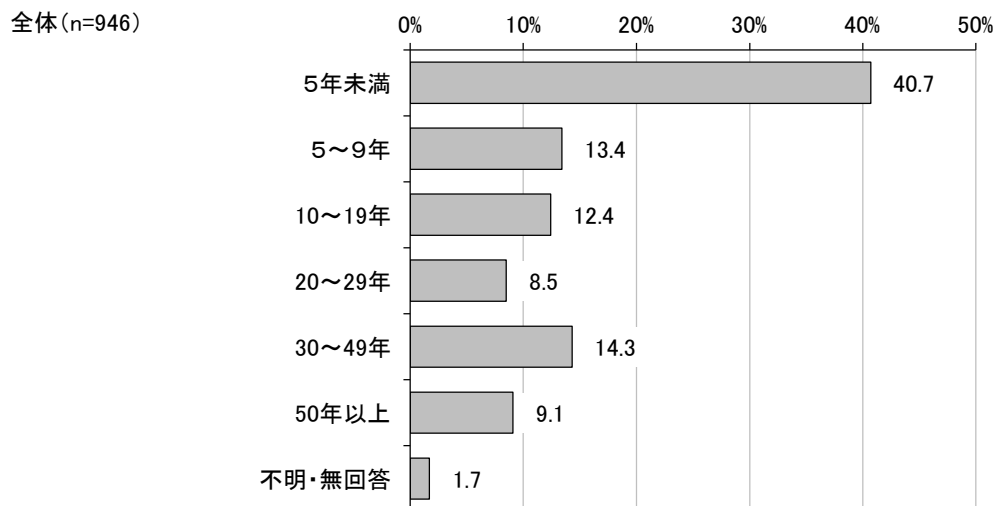
〈年齢別クロス〉

年齢別にみると、年齢の高い方が「地区3」の割合が低くなる傾向にあります。

単位：％		地区 1	地区 2	地区 3	地区 4	地区 5	地区 6	不明・無 回答
全体 (n=946)		11.8	18.3	19.2	12.9	17.2	16.7	3.8
年 齢 別	18～29歳 (n=69)	10.1	13.0	23.2	17.4	17.4	17.4	1.4
	30～39歳 (n=132)	11.4	12.9	22.7	17.4	15.9	18.9	0.8
	40～49歳 (n=157)	8.9	18.5	20.4	13.4	17.8	18.5	2.5
	50～59歳 (n=197)	16.8	20.8	18.8	11.2	14.7	15.2	2.5
	60～69歳 (n=150)	8.0	22.0	18.0	11.3	20.7	18.0	2.0
	70～79歳 (n=146)	16.4	19.2	17.8	9.6	19.9	15.1	2.1
	80歳以上 (n=77)	9.1	20.8	16.9	15.6	16.9	16.9	3.9

問2 あなたは、朝霞市にお住まいになってどのくらいになりますか。延べ年数でお答えください。(1つを選択)

「5年未満」が40.7%と最も高く、次いで「30～49年」が14.3%、「5～9年」が13.4%となっています。



〈地区別クロス〉

地区別にみると、いずれの地区も「5年未満」が最も高くなっています。

単位：％		5 年 未 満	5 ～ 9 年	1 0 ～ 1 9 年	2 0 ～ 2 9 年	3 0 ～ 4 9 年	5 0 年 以 上	不 明 ・ 無 回 答
全体 (n=946)		40.7	13.4	12.4	8.5	14.3	9.1	1.7
地 区 別	地区1 (n=112)	37.5	15.2	13.4	8.9	14.3	10.7	0.0
	地区2 (n=173)	37.6	11.0	16.8	14.5	13.3	6.9	0.0
	地区3 (n=182)	46.2	16.5	9.9	5.5	15.4	6.6	0.0
	地区4 (n=122)	56.6	10.7	7.4	6.6	8.2	9.8	0.8
	地区5 (n=163)	38.0	16.0	9.8	9.2	14.7	12.3	0.0
	地区6 (n=158)	36.7	12.7	15.8	6.3	18.4	10.1	0.0

〈性別クロス〉

性別にみると、男女ともに「5年未満」が最も高くなっています。

単位：％		5 年 未 満	5 ～ 9 年	1 0 ～ 1 9 年	2 0 ～ 2 9 年	3 0 ～ 4 9 年	5 0 年 以 上	不 明 ・ 無 回 答
全体 (n=946)		40.7	13.4	12.4	8.5	14.3	9.1	1.7
性 別	男性 (n=387)	40.8	11.6	12.7	8.5	15.5	10.9	0.0
	女性 (n=538)	41.4	15.1	12.5	8.7	13.8	8.2	0.4

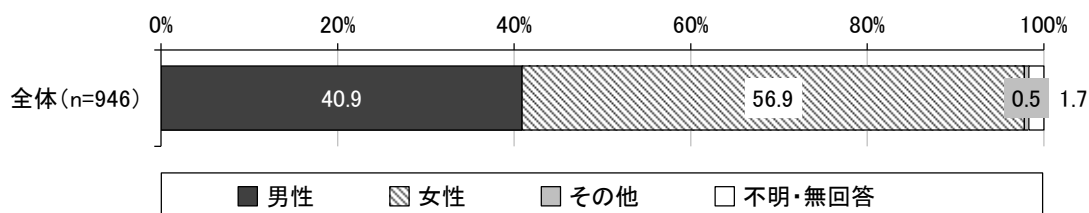
〈年齢別クロス〉

年齢別にみると、年齢の低い方が「5年未満」の割合が高く、年齢の高い方が「30～49年」「50年以上」の割合が高い傾向にあります。

単位：%		5年未満	5～9年	10～19年	20～29年	30～49年	50年以上	不明・無回答
全体 (n=946)		40.7	13.4	12.4	8.5	14.3	9.1	1.7
年齢別	18～29歳 (n=69)	82.6	8.7	7.2	1.4	0.0	0.0	0.0
	30～39歳 (n=132)	75.8	18.2	2.3	0.8	3.0	0.0	0.0
	40～49歳 (n=157)	45.9	22.9	20.4	5.7	5.1	0.0	0.0
	50～59歳 (n=197)	31.5	15.2	19.8	13.2	10.7	9.6	0.0
	60～69歳 (n=150)	27.3	8.0	11.3	14.7	24.7	14.0	0.0
	70～79歳 (n=146)	22.6	8.9	9.6	11.6	30.1	16.4	0.7
	80歳以上 (n=77)	26.0	6.5	7.8	3.9	27.3	28.6	0.0

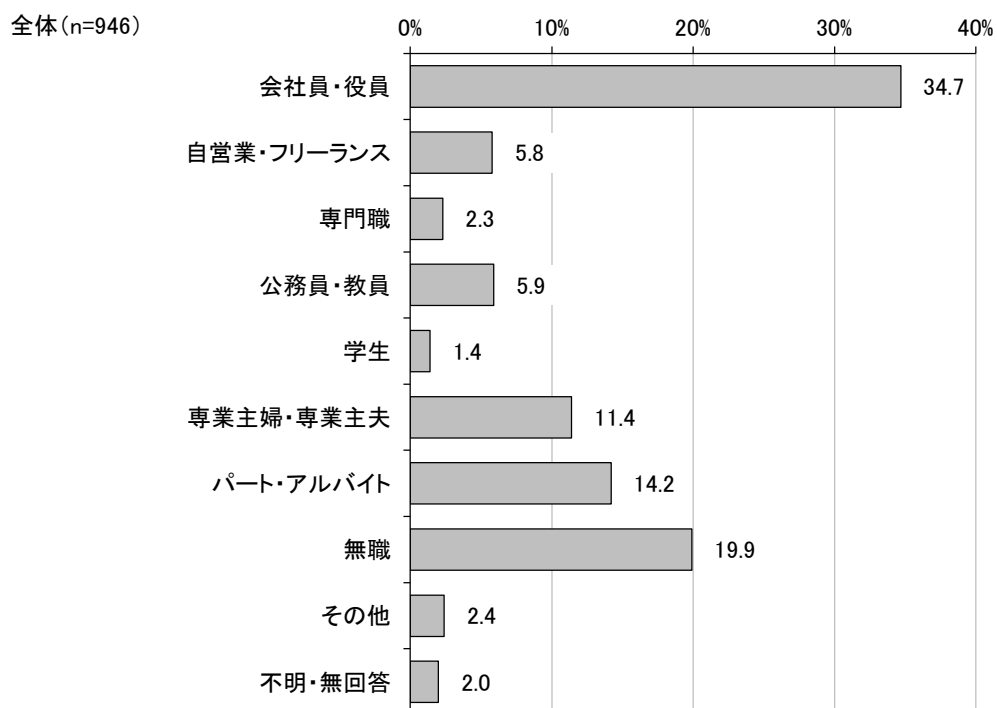
問3 あなたの性別をお答えください。（1つを選択）

「女性」が56.9%と最も高く、次いで「男性」が40.9%となっています。



問4 あなたの職業をお答えください。(1つを選択)

「会社員・役員」が34.7%と最も高く、次いで「無職」が19.9%、「パート・アルバイト」が14.2%となっています。



〈性別クロス〉

性別にみると、男女ともに「会社員・役員」が最も高くなっています。また、男性では「無職」の割合が女性と比べて高く、女性では「パート・アルバイト」「専業主婦・専業主夫」の割合が男性と比べて高くなっています。

単位: %		会社員・役員	自営業・フリーランス	専門職	公務員・教員	学生	専業主婦・専業主夫	パート・アルバイト	無職	その他	不明・無回答
全体(n=946)		34.7	5.8	2.3	5.9	1.4	11.4	14.2	19.9	2.4	2.0
性別	男性(n=387)	41.3	7.8	2.6	9.3	1.3	0.3	6.2	26.9	3.9	0.5
	女性(n=538)	30.9	4.3	2.2	3.7	1.5	19.9	20.4	15.1	1.5	0.6

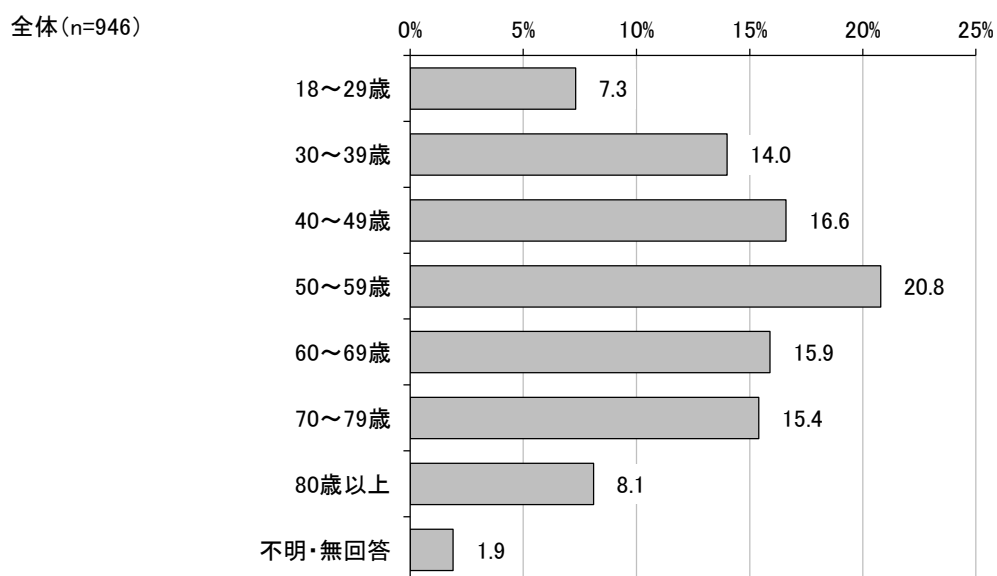
〈年齢別クロス〉

年齢別にみると、18～59 歳では「会社員・役員」、60 歳以上では「無職」が最も高くなっています。

単位：%		会社員・役員	自営業・フリーランス	専門職	公務員・教員	学生	専業主婦・専業主夫	パート・アルバイト	無職	その他	不明・無回答
全体(n=946)		34.7	5.8	2.3	5.9	1.4	11.4	14.2	19.9	2.4	2.0
年齢別	18～29歳(n=69)	42.0	4.3	1.4	14.5	18.8	4.3	7.2	1.4	5.8	0.0
	30～39歳(n=132)	59.8	5.3	4.5	9.1	0.0	8.3	11.4	0.8	0.8	0.0
	40～49歳(n=157)	58.0	3.2	4.5	10.2	0.0	7.6	12.7	2.5	1.3	0.0
	50～59歳(n=197)	44.7	7.1	2.0	6.6	0.0	7.1	20.8	7.1	4.6	0.0
	60～69歳(n=150)	20.7	9.3	1.3	2.7	0.0	16.7	21.3	26.7	0.7	0.7
	70～79歳(n=146)	5.5	6.2	1.4	0.7	0.0	16.4	13.0	53.4	2.7	0.7
	80歳以上(n=77)	1.3	2.6	0.0	0.0	0.0	24.7	2.6	64.9	2.6	1.3

問5 あなたの年齢をお答えください。(1つを選択)

「50～59 歳」が 20.8%と最も高く、次いで「40～49 歳」が 16.6%、「60～69 歳」が 15.9%となっています。



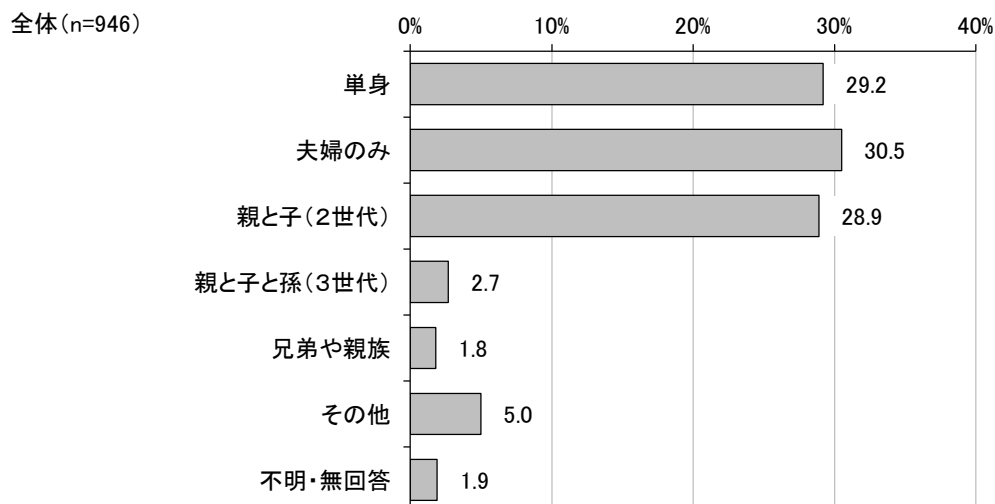
〈性別クロス〉

性別にみると、男女ともに「50～59 歳」が最も高くなっています。

単位：％		1 8 ～ 2 9 歳	3 0 ～ 3 9 歳	4 0 ～ 4 9 歳	5 0 ～ 5 9 歳	6 0 ～ 6 9 歳	7 0 ～ 7 9 歳	8 0 歳 以上	不明・無回答
全体 (n=946)		7.3	14.0	16.6	20.8	15.9	15.4	8.1	1.9
性別	男性 (n=387)	4.7	13.4	15.5	24.3	17.1	17.8	7.0	0.3
	女性 (n=538)	9.5	14.5	17.8	19.0	15.6	14.1	9.1	0.4

問6 あなたの同居している世帯・家族の構成をお答えください。（1つを選択）

「夫婦のみ」が 30.5%と最も高く、次いで「単身」が 29.2%、「親と子（2世代）」が 28.9%となっています。



〈性別クロス〉

性別にみると、男性では「単身」、女性では「親と子（2世代）」が最も高くなっています。

単位：％		単 身	夫 婦 の み	親 と 子 （ 2 世 代 ）	親 と 子 と 孫 （ 3 世 代 ）	兄 弟 や 親 族	そ の 他	不 明 ・ 無 回 答
全体 (n=946)		29.2	30.5	28.9	2.7	1.8	5.0	1.9
性別	男性 (n=387)	37.7	34.4	21.2	1.6	1.6	3.4	0.3
	女性 (n=538)	24.0	28.4	35.5	3.7	2.0	5.9	0.4

〈年齢別クロス〉

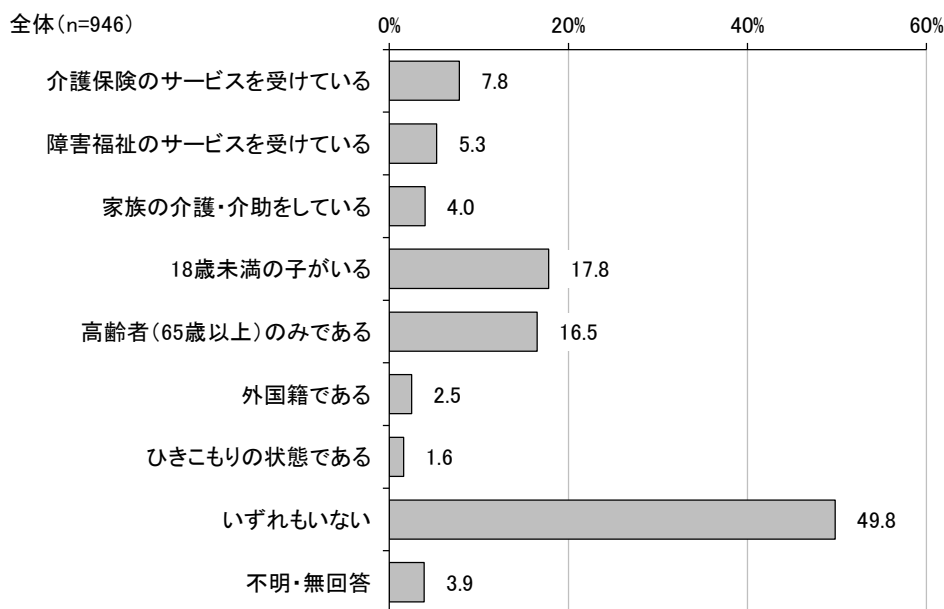
年齢別にみると、18～49 歳では「親と子（2 世代）」、50～59 歳、70 歳以上では「単身」、60～69 歳では「夫婦のみ」が最も高くなっています。

単位：%		単身	夫婦のみ	親と子（2 世代）	親と子と孫（3 世代）	兄弟や親族	その他	不明・無回答
全体 (n=946)		29.2	30.5	28.9	2.7	1.8	5.0	1.9
年齢別	18～29 歳 (n=69)	23.2	26.1	33.3	1.4	1.4	14.5	0.0
	30～39 歳 (n=132)	19.7	25.8	47.7	0.8	0.8	5.3	0.0
	40～49 歳 (n=157)	22.9	22.9	47.1	1.3	1.3	4.5	0.0
	50～59 歳 (n=197)	34.0	31.5	24.4	0.5	4.1	5.6	0.0
	60～69 歳 (n=150)	27.3	48.7	15.3	4.0	2.0	2.7	0.0
	70～79 歳 (n=146)	41.1	34.9	12.3	7.5	0.7	3.4	0.0
	80 歳以上 (n=77)	39.0	19.5	31.2	5.2	1.3	3.9	0.0

2 暮らしの状況について

問7 あなた自身もしくは、ご家族の中で該当する方はいますか。
(あてはまるものすべてを選択)

「いずれもない」が49.8%と最も高く、次いで「18歳未満の子がいる」が17.8%、「高齢者(65歳以上)のみである」が16.5%となっています。



〈居住年数別クロス〉

居住年数別にみると、いずれの居住年数も「いずれもない」が最も高くなっています。また、20年未満では「18歳未満の子がいる」が2割台、30年以上では「高齢者(65歳以上)のみである」が3割台となっています。

単位: %		介護保険のサービスを受けている	障害福祉のサービスを受けている	家族の介護・介助をしている	18歳未満の子がいる	高齢者(65歳以上)のみである	外国籍である	ひきこもりの状態である	いずれもない	不明・無回答
全体(n=946)		7.8	5.3	4.0	17.8	16.5	2.5	1.6	49.8	3.9
居住年数別	5年未満(n=385)	6.8	5.5	4.2	23.1	7.8	5.2	1.3	52.5	3.4
	5～9年(n=127)	7.9	6.3	3.1	26.8	11.0	1.6	3.9	48.0	1.6
	10～19年(n=117)	5.1	2.6	0.9	29.1	12.0	0.9	1.7	50.4	2.6
	20～29年(n=80)	8.8	5.0	6.3	5.0	20.0	0.0	1.3	58.8	3.8
	30～49年(n=135)	8.1	3.7	3.7	3.0	34.1	0.7	0.0	45.9	5.9
	50年以上(n=86)	12.8	7.0	4.7	2.3	36.0	0.0	1.2	39.5	7.0

〈性別クロス〉

性別にみると、男女ともに「いずれもない」が最も高くなっています。

単位：％		介護保険のサービスを受けている	障害福祉サービスのサービスを受けている	家族の介護・介助をしている	18歳未満の子がいる	高齢者（65歳以上）のみである	外国籍である	ひきこもりの状態である	いずれもない	不明・無回答
全体 (n=946)		7.8	5.3	4.0	17.8	16.5	2.5	1.6	49.8	3.9
性別	男性 (n=387)	6.2	5.9	2.8	14.7	17.8	2.6	2.1	53.0	3.1
	女性 (n=538)	8.7	4.5	4.5	20.4	15.2	2.6	0.9	47.4	4.5

〈年齢別クロス〉

年齢別にみると、18～39歳、50～69歳では「いずれもない」、40～49歳では「18歳未満の子がいる」「いずれもない」、70歳以上では「高齢者（65歳以上）のみである」が最も高くなっています。また、30～49歳では「18歳未満の子がいる」が4割台と他の年齢と比べて高くなっています。

単位：％		介護保険のサービスを受けている	障害福祉サービスのサービスを受けている	家族の介護・介助をしている	18歳未満の子がいる	高齢者（65歳以上）のみである	外国籍である	ひきこもりの状態である	いずれもない	不明・無回答
全体 (n=946)		7.8	5.3	4.0	17.8	16.5	2.5	1.6	49.8	3.9
年齢別	18～29歳 (n=69)	1.4	2.9	1.4	21.7	0.0	5.8	1.4	65.2	2.9
	30～39歳 (n=132)	0.8	5.3	1.5	40.9	0.8	5.3	0.0	50.0	1.5
	40～49歳 (n=157)	2.5	7.6	0.6	42.7	1.9	3.8	1.9	42.7	1.9
	50～59歳 (n=197)	10.7	6.6	5.6	10.7	1.5	2.5	1.5	66.0	3.0
	60～69歳 (n=150)	6.7	2.0	4.7	2.0	22.0	0.7	3.3	62.0	3.3
	70～79歳 (n=146)	7.5	4.1	5.5	4.1	54.8	0.0	1.4	29.5	4.8
	80歳以上 (n=77)	29.9	5.2	6.5	1.3	41.6	1.3	0.0	23.4	13.0

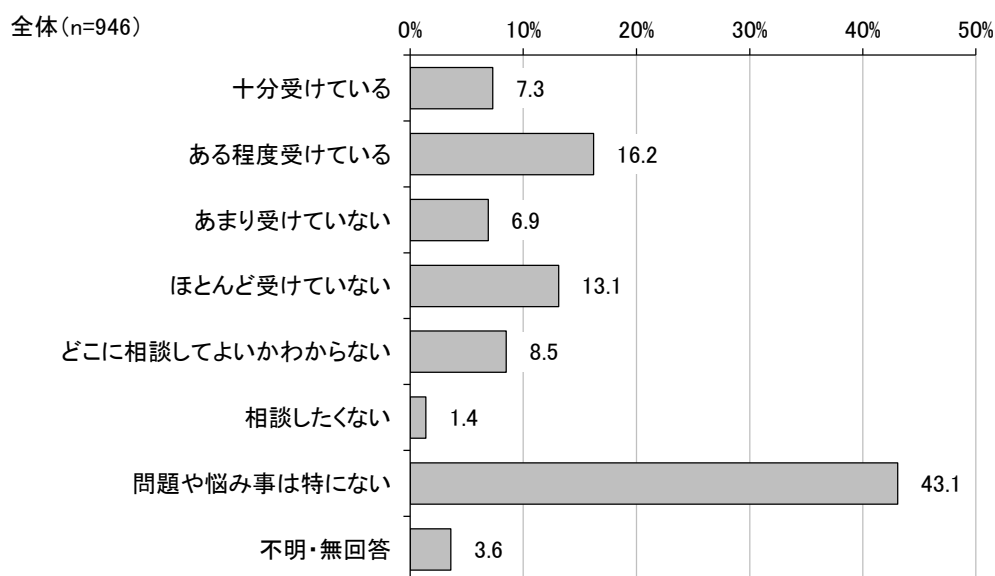
〈家族構成別クロス〉

家族構成別にみると、〔親と子（2世代）〕〔親と子と孫（3世代）〕では「18歳未満の子がいる」、その他の家族構成では「いずれもない」が最も高くなっています。

単位：％		介護保険のサービスを受けている	障害福祉のサービスを受けている	家族の介護・介助をしている	18歳未満の子がいる	高齢者（65歳以上）のみである	外国籍である	ひきこもりの状態である	いずれもない	不明・無回答
全体 (n=946)		7.8	5.3	4.0	17.8	16.5	2.5	1.6	49.8	3.9
家族構成別	単身 (n=276)	7.2	5.4	1.8	1.4	22.5	1.4	2.2	60.9	3.3
	夫婦のみ (n=289)	6.6	3.1	5.5	1.4	24.2	3.1	1.4	60.6	3.5
	親と子 (2世代) (n=273)	8.1	6.2	2.9	50.5	4.0	2.2	0.7	29.3	4.4
	親と子と孫 (3世代) (n=26)	19.2	7.7	7.7	50.0	0.0	3.8	0.0	23.1	7.7
	兄弟や親族 (n=17)	5.9	11.8	0.0	17.6	23.5	0.0	5.9	41.2	5.9
	その他 (n=47)	8.5	4.3	8.5	10.6	10.6	8.5	2.1	55.3	2.1

問8 あなたや家族は、生活上の問題や悩み事について、相談や支援を十分に受けられていますか。（1つを選択）

「問題や悩み事は特にない」が43.1%と最も高く、次いで「ある程度受けている」が16.2%、「ほとんど受けていない」が13.1%となっています。



〈年齢別クロス〉

年齢別にみると、いずれの年齢も「問題や悩み事は特にない」が最も高くなっています。

単位：％		十分受けている	ある程度受けている	あまり受けていない	ほとんど受けていない	どこに相談してよいかわからない	相談したくない	問題や悩み事は特にない	不明・無回答
全体 (n=946)		7.3	16.2	6.9	13.1	8.5	1.4	43.1	3.6
年齢別	18～29歳 (n=69)	10.1	18.8	2.9	7.2	15.9	1.4	43.5	0.0
	30～39歳 (n=132)	9.8	19.7	10.6	8.3	12.1	1.5	37.9	0.0
	40～49歳 (n=157)	7.6	18.5	6.4	8.3	12.1	1.9	43.3	1.9
	50～59歳 (n=197)	5.1	17.8	6.1	15.7	7.1	2.0	43.1	3.0
	60～69歳 (n=150)	4.0	13.3	7.3	15.3	8.7	1.3	46.0	4.0
	70～79歳 (n=146)	6.8	9.6	6.2	16.4	2.1	0.0	52.7	6.2
	80歳以上 (n=77)	10.4	20.8	6.5	19.5	1.3	1.3	31.2	9.1

〈家族構成別クロス〉

家族構成別にみると、いずれの家族構成も「問題や悩み事は特にない」が最も高くなっています。

単位：％		十分受けている	ある程度受けている	あまり受けていない	ほとんど受けていない	どこに相談してよいかわからない	相談したくない	問題や悩み事は特にない	不明・無回答
全体 (n=946)		7.3	16.2	6.9	13.1	8.5	1.4	43.1	3.6
家族構成別	単身 (n=276)	5.1	13.8	4.7	18.5	5.8	1.8	46.4	4.0
	夫婦のみ (n=289)	4.5	12.1	6.6	11.4	10.0	0.3	51.9	3.1
	親と子 (2世代) (n=273)	11.4	22.0	9.9	10.6	7.7	0.7	35.5	2.2
	親と子と孫 (3世代) (n=26)	15.4	15.4	3.8	19.2	11.5	3.8	26.9	3.8
	兄弟や親族 (n=17)	0.0	23.5	5.9	11.8	11.8	11.8	29.4	5.9
	その他 (n=47)	8.5	25.5	4.3	4.3	12.8	4.3	34.0	6.4

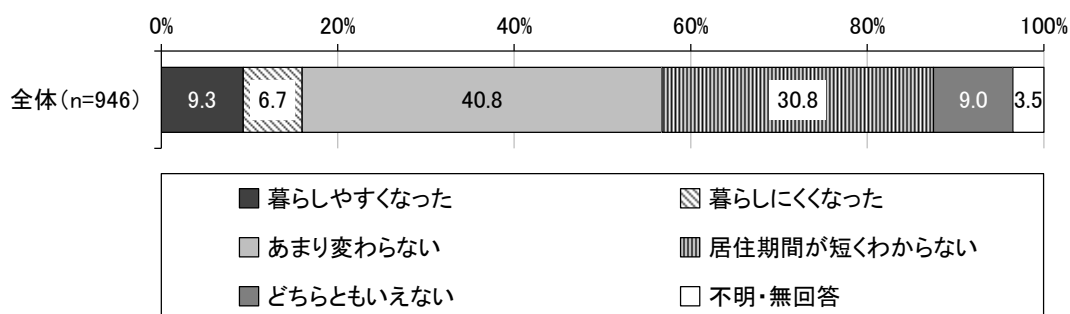
〈家族内被支援者別クロス〉

家族内被支援者別にみると、〔介護保険のサービスを受けている〕〔障害福祉のサービスを受けている〕〔家族の介護・介助をしている〕〔18歳未満の子がいる〕では「ある程度受けている」、〔ひきこもりの状態である〕では「どこに相談してよいかわからない」、その他の区分では「問題や悩み事は特にない」が最も高くなっています。

単位：％		十分受けている	ある程度受けている	あまり受けていない	ほとんど受けていない	どこに相談してよいかわからない	相談したくない	問題や悩み事は特にない	不明・無回答
全体 (n=946)		7.3	16.2	6.9	13.1	8.5	1.4	43.1	3.6
家族内被支援者別	介護保険のサービスを受けている (n=74)	21.6	44.6	10.8	5.4	0.0	0.0	13.5	4.1
	障害福祉のサービスを受けている (n=50)	22.0	50.0	10.0	6.0	8.0	0.0	2.0	2.0
	家族の介護・介助をしている (n=38)	7.9	55.3	10.5	7.9	2.6	0.0	7.9	7.9
	18歳未満の子がいる (n=168)	17.3	27.4	10.7	8.3	9.5	1.2	24.4	1.2
	高齢者 (65歳以上) のみである (n=156)	5.1	12.8	7.1	19.9	3.2	0.6	45.5	5.8
	外国籍である (n=24)	8.3	12.5	4.2	8.3	20.8	12.5	25.0	8.3
	ひきこもりの状態である (n=15)	6.7	20.0	0.0	6.7	40.0	6.7	20.0	0.0
	いずれもない (n=471)	3.6	7.6	5.7	13.8	9.1	1.3	57.1	1.7

問9 あなたにとって、朝霞市は5年前と比べて暮らしやすいですか。(1つを選択)

「あまり変わらない」が40.8%と最も高く、次いで「居住期間が短くわからない」が30.8%、「暮らしやすくなった」が9.3%となっています。



〈地区別クロス〉

地区別にみると、地区3、地区4では「居住期間が短くわからない」、その他の地区では「あまり変わらない」が最も高くなっています。

単位：%		暮らしやすくなった	暮らしにくくなった	あまり変わらない	居住期間が短くわからない	どちらともいえない	不明・無回答
全体 (n=946)		9.3	6.7	40.8	30.8	9.0	3.5
地区別	地区1 (n=112)	2.7	8.9	44.6	31.3	11.6	0.9
	地区2 (n=173)	8.1	7.5	45.7	24.3	9.8	4.6
	地区3 (n=182)	12.1	5.5	35.7	38.5	6.0	2.2
	地区4 (n=122)	8.2	4.9	34.4	42.6	6.6	3.3
	地区5 (n=163)	11.7	5.5	40.5	27.6	11.0	3.7
	地区6 (n=158)	9.5	6.3	46.2	25.9	8.9	3.2

〈居住年数別クロス〉

居住年数別にみると、5年未満では「居住期間が短くわからない」、5年以上では「あまり変わらない」が最も高くなっています。

単位：%		暮らしやすくなった	暮らしにくくなった	あまり変わらない	居住期間が短くわからない	どちらともいえない	不明・無回答
全体 (n=946)		9.3	6.7	40.8	30.8	9.0	3.5
居住年数別	5年未満 (n=385)	3.9	2.1	13.0	70.6	4.9	5.5
	5～9年 (n=127)	10.2	7.9	62.2	10.2	8.7	0.8
	10～19年 (n=117)	20.5	8.5	61.5	0.0	7.7	1.7
	20～29年 (n=80)	11.3	7.5	62.5	0.0	16.3	2.5
	30～49年 (n=135)	11.9	8.1	65.9	0.0	11.9	2.2
	50年以上 (n=86)	11.6	17.4	51.2	2.3	16.3	1.2

〈年齢別クロス〉

年齢別にみると、18～39歳では「居住期間が短くわからない」、40歳以上では「あまり変わらない」が最も高くなっています。

単位：％		暮らしやすくなった	暮らしにくくなった	あまり変わらない	居住期間が短くわからない	どちらともいえない	不明・無回答
全体 (n=946)		9.3	6.7	40.8	30.8	9.0	3.5
年齢別	18～29歳 (n=69)	1.4	2.9	15.9	71.0	8.7	0.0
	30～39歳 (n=132)	6.1	2.3	25.0	59.8	5.3	1.5
	40～49歳 (n=157)	12.1	7.0	40.8	34.4	3.2	2.5
	50～59歳 (n=197)	11.7	5.6	51.8	18.8	9.6	2.5
	60～69歳 (n=150)	8.7	8.0	46.7	19.3	14.0	3.3
	70～79歳 (n=146)	8.2	8.9	49.3	17.1	11.0	5.5
	80歳以上 (n=77)	13.0	10.4	40.3	18.2	10.4	7.8

〈家族構成別クロス〉

家族構成別にみると、〔親と子（2世代）〕〔その他〕では「居住期間が短くわからない」、その他の家族構成では「あまり変わらない」が最も高くなっています。

単位：％		暮らしやすくなった	暮らしにくくなった	あまり変わらない	居住期間が短くわからない	どちらともいえない	不明・無回答
全体 (n=946)		9.3	6.7	40.8	30.8	9.0	3.5
家族構成別	単身 (n=276)	8.7	8.3	45.3	24.3	11.2	2.2
	夫婦のみ (n=289)	9.7	6.6	41.5	32.2	6.2	3.8
	親と子（2世代） (n=273)	9.5	4.4	37.4	38.5	7.3	2.9
	親と子と孫（3世代） (n=26)	11.5	3.8	50.0	15.4	11.5	7.7
	兄弟や親族 (n=17)	11.8	11.8	41.2	5.9	29.4	0.0
	その他 (n=47)	6.4	6.4	34.0	36.2	10.6	6.4

〈家族内被支援者別クロス〉

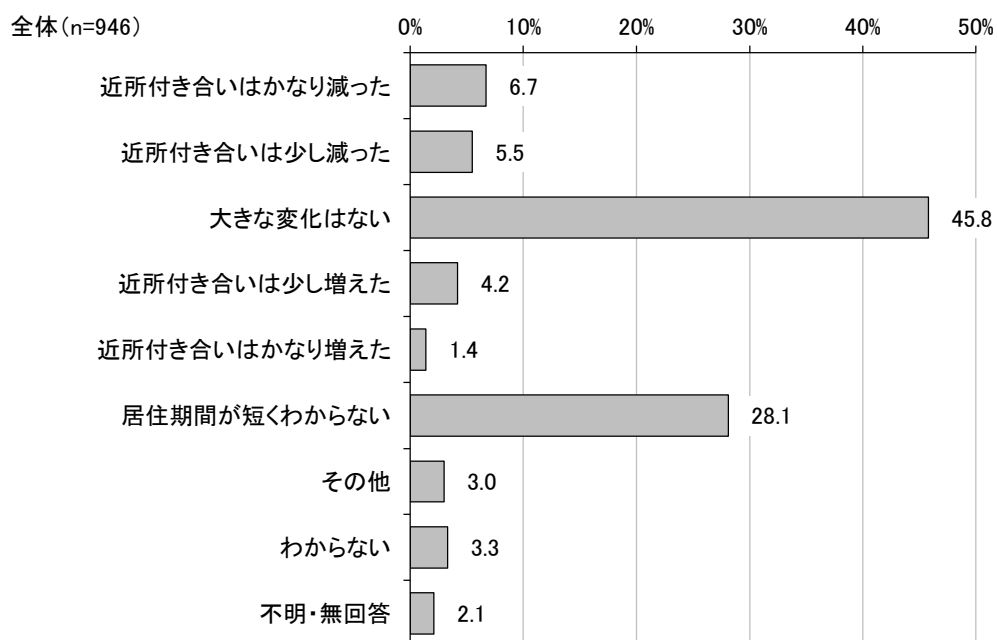
家族内被支援者別にみると、「家族の介護・介助をしている」「18歳未満の子がいる」「外国籍である」では「居住期間が短くわからない」、その他の区分では「あまり変わらない」が最も高くなっています。

単位: %		暮らしやすくなった	暮らしにくくなった	あまり変わらない	居住期間が短くわからない	どちらともいえない	不明・無回答
全体 (n=946)		9.3	6.7	40.8	30.8	9.0	3.5
家族内被支援者別	介護保険のサービスを受けている (n=74)	12.2	2.7	40.5	28.4	12.2	4.1
	障害福祉のサービスを受けている (n=50)	18.0	6.0	36.0	26.0	10.0	4.0
	家族の介護・介助をしている (n=38)	10.5	7.9	31.6	36.8	7.9	5.3
	18歳未満の子がいる (n=168)	10.7	5.4	36.9	44.0	3.0	0.0
	高齢者 (65歳以上) のみである (n=156)	6.4	10.9	53.2	13.5	11.5	4.5
	外国籍である (n=24)	16.7	12.5	25.0	33.3	4.2	8.3
	ひきこもりの状態である (n=15)	6.7	20.0	26.7	20.0	13.3	13.3
	いずれもない (n=471)	8.1	5.9	40.3	34.0	9.8	1.9

3 近所付き合いについて

問 10 5年前と比べて、普段の近所付き合いはどのように変化しましたか。(1つを選択)

「大きな変化はない」が45.8%と最も高く、次いで「居住期間が短くわからない」が28.1%、「近所付き合いはかなり減った」が6.7%となっています。



〈地区別クロス〉

地区別にみると、地区4では「居住期間が短くわからない」、その他の地区では「大きな変化はない」が最も高くなっています。

単位: %		かなり減った 付き合いはか	近所 減った 付き合いは少	大きな 変化は ない	近所 増えた 付き合いは少	近所 増えた 付き合いはか	居住 期間が 短くわ	その他	わからない	不明・無 回答
全体(n=946)		6.7	5.5	45.8	4.2	1.4	28.1	3.0	3.3	2.1
地区別	地区1(n=112)	11.6	8.0	43.8	3.6	0.0	27.7	2.7	2.7	0.0
	地区2(n=173)	5.8	5.8	51.4	4.0	2.9	23.1	3.5	1.2	2.3
	地区3(n=182)	6.0	2.7	42.9	4.4	1.6	34.1	4.9	2.2	1.1
	地区4(n=122)	5.7	4.1	33.6	3.3	1.6	41.0	4.1	4.9	1.6
	地区5(n=163)	5.5	6.7	47.2	4.9	0.0	25.2	0.6	6.1	3.7
	地区6(n=158)	6.3	6.3	50.6	5.1	1.3	23.4	1.3	3.2	2.5

〈居住年数別クロス〉

居住年数別にみると、5年未満では「居住期間が短くわからない」、5年以上では「大きな変化はない」が最も高くなっています。また、50年以上では「近所付き合いはかなり減った」が50年未満と比べて高くなっています。

単位：％		近所付き合いは かなり減った	近所付き合いは 少し減った	大きな変化は ない	近所付き合いは 少し増えた	近所付き合いは かなり増えた	居住期間が短く わからない	その他	わからない	不明・無回答
全体 (n=946)		6.7	5.5	45.8	4.2	1.4	28.1	3.0	3.3	2.1
居住年数別	5年未満 (n=385)	3.4	1.3	15.8	3.9	1.0	64.4	2.3	4.7	3.1
	5～9年 (n=127)	7.9	2.4	64.6	7.9	0.8	6.3	6.3	3.1	0.8
	10～19年 (n=117)	5.1	6.0	76.9	2.6	1.7	0.9	2.6	3.4	0.9
	20～29年 (n=80)	3.8	8.8	75.0	1.3	1.3	1.3	2.5	5.0	1.3
	30～49年 (n=135)	9.6	13.3	67.4	2.2	0.7	2.2	3.0	0.7	0.7
	50年以上 (n=86)	18.6	12.8	50.0	9.3	3.5	2.3	1.2	0.0	2.3

〈年齢別クロス〉

年齢別にみると、18～39歳では「居住期間が短くわからない」、40歳以上では「大きな変化はない」が最も高くなっています。

単位：％		近所付き合いは かなり減った	近所付き合いは 少し減った	大きな変化は ない	近所付き合いは 少し増えた	近所付き合いは かなり増えた	居住期間が短く わからない	その他	わからない	不明・無回答
全体 (n=946)		6.7	5.5	45.8	4.2	1.4	28.1	3.0	3.3	2.1
年齢別	18～29歳 (n=69)	4.3	1.4	15.9	0.0	0.0	71.0	2.9	4.3	0.0
	30～39歳 (n=132)	1.5	0.8	28.0	11.4	2.3	52.3	0.8	2.3	0.8
	40～49歳 (n=157)	3.8	5.1	48.4	5.7	0.6	31.2	1.9	1.9	1.3
	50～59歳 (n=197)	7.1	5.1	56.3	2.5	1.5	17.8	4.1	4.1	1.5
	60～69歳 (n=150)	12.0	6.0	54.7	0.0	0.7	18.0	2.7	4.0	2.0
	70～79歳 (n=146)	7.5	11.0	51.4	5.5	1.4	14.4	2.7	3.4	2.7
	80歳以上 (n=77)	9.1	9.1	41.6	3.9	2.6	16.9	6.5	3.9	6.5

〈家族構成別クロス〉

家族構成別にみると、いずれの家族構成も「大きな変化はない」が最も高くなっています。

単位：％		な 近 り 減 つ き 合 い は か	し 近 所 付 き 合 い は 少	大 き な 変 化 は な い	し 近 所 付 き 合 い は 少	な 近 り 増 え き 合 い は か	か 居 住 期 間 が 短 く わ か ら な い	そ の 他	わ か ら な い	不 明 ・ 無 回 答
全体 (n=946)		6.7	5.5	45.8	4.2	1.4	28.1	3.0	3.3	2.1
家 族 構 成 別	単身 (n=276)	6.2	5.8	52.2	1.8	1.4	24.6	3.3	2.9	1.8
	夫婦のみ (n=289)	6.2	7.3	44.3	4.8	0.3	29.8	2.4	3.1	1.7
	親と子 (2世代) (n=273)	5.5	2.9	41.8	6.6	2.2	31.9	2.9	4.4	1.8
	親と子と孫 (3世代) (n=26)	11.5	0.0	46.2	7.7	3.8	19.2	3.8	0.0	7.7
	兄弟や親族 (n=17)	23.5	5.9	52.9	5.9	0.0	5.9	0.0	5.9	0.0
	その他 (n=47)	8.5	12.8	36.2	0.0	0.0	34.0	4.3	2.1	2.1

〈家族内被支援者別クロス〉

家族内被支援者別にみると、〔家族の介護・介助をしている〕では「大きな変化はない」「居住期間が短くわからない」、〔ひきこもりの状態である〕では「近所付き合いはかなり減った」、その他の区分では「大きな変化はない」が最も高くなっています。

単位：％		な 近 り 減 つ き 合 い は か	し 近 所 付 き 合 い は 少	大 き な 変 化 は な い	し 近 所 付 き 合 い は 少	な 近 り 増 え き 合 い は か	か 居 住 期 間 が 短 く わ か ら な い	そ の 他	わ か ら な い	不 明 ・ 無 回 答
全体 (n=946)		6.7	5.5	45.8	4.2	1.4	28.1	3.0	3.3	2.1
家 族 内 被 支 援 者 別	介護保険のサービスを受けている (n=74)	17.6	8.1	33.8	4.1	2.7	23.0	4.1	4.1	2.7
	障害福祉のサービスを受けている (n=50)	16.0	8.0	44.0	4.0	2.0	20.0	2.0	2.0	2.0
	家族の介護・介助をしている (n=38)	10.5	10.5	34.2	0.0	0.0	34.2	5.3	2.6	2.6
	18歳未満の子がいる (n=168)	5.4	1.8	41.7	8.3	3.0	35.7	1.2	3.0	0.0
	高齢者 (65歳以上) のみである (n=156)	7.1	11.5	54.5	3.2	1.3	14.1	2.6	5.1	0.6
	外国籍である (n=24)	0.0	4.2	41.7	4.2	4.2	37.5	0.0	8.3	0.0
	ひきこもりの状態である (n=15)	40.0	6.7	20.0	0.0	0.0	13.3	13.3	0.0	6.7
	いずれもない (n=471)	5.5	4.9	45.4	3.6	0.8	32.3	3.4	3.4	0.6

〈生活上の問題等への支援状況別クロス〉

生活上の問題等への支援状況別にみると、「どこに相談してよいかわからない」では「居住期間が短くわからない」、その他の区分では「大きな変化はない」が最も高くなっています。

単位：%		なり近 り所 減付 った き合 いは か	し近 減所 った き合 いは 少	大 き な 変 化 は な い	し近 増所 えた き合 いは 少	なり近 り所 増付 えた き合 いは か	か居 ら住 ない期 間が 短く わ	そ の 他	わ か ら な い	不 明 ・ 無 回 答
全体 (n=946)		6.7	5.5	45.8	4.2	1.4	28.1	3.0	3.3	2.1
生活上 の問題 等への 支援 状況 別	十分受けている(n=69)	10.1	7.2	36.2	8.7	1.4	29.0	0.0	7.2	0.0
	ある程度受けている(n=153)	10.5	7.2	40.5	6.5	1.3	26.1	2.6	3.9	1.3
	あまり受けていない(n=65)	7.7	4.6	40.0	6.2	1.5	32.3	0.0	7.7	0.0
	ほとんど受けていない(n=124)	8.9	7.3	54.8	4.8	1.6	14.5	4.8	2.4	0.8
	どこに相談してよいかわからない(n=80)	8.8	2.5	37.5	2.5	1.3	41.3	5.0	0.0	1.3
	相談したくない(n=13)	7.7	0.0	61.5	0.0	0.0	23.1	7.7	0.0	0.0
	問題や悩み事は特にない(n=408)	3.7	4.9	49.5	2.9	1.2	31.6	2.9	2.9	0.2

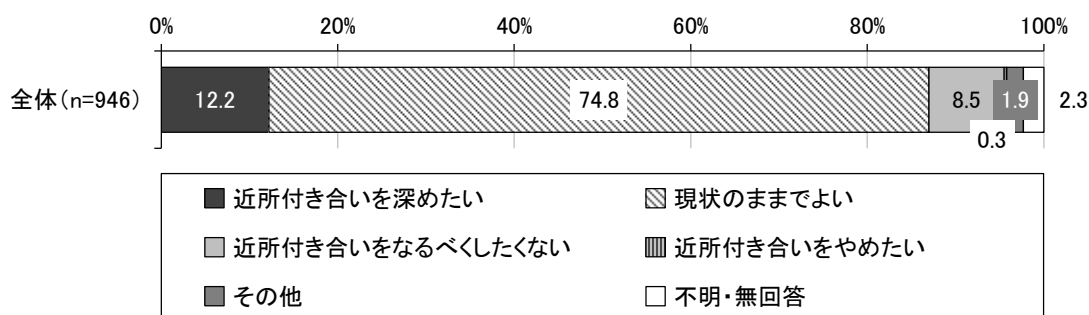
〈暮らしやすさ別クロス〉

暮らしやすさ別にみると、「居住期間が短くわからない」では「居住期間が短くわからない」、その他の区分では「大きな変化はない」が最も高くなっています。

単位：%		なり近 り所 減付 った き合 いは か	し近 減所 った き合 いは 少	大 き な 変 化 は な い	し近 増所 えた き合 いは 少	なり近 り所 増付 えた き合 いは か	か居 ら住 ない期 間が 短く わ	そ の 他	わ か ら な い	不 明 ・ 無 回 答
全体 (n=946)		6.7	5.5	45.8	4.2	1.4	28.1	3.0	3.3	2.1
暮 ら し や す さ 別	暮らしやすくなった(n=88)	9.1	9.1	61.4	9.1	3.4	2.3	2.3	2.3	1.1
	暮らしにくくなった(n=63)	17.5	14.3	58.7	0.0	0.0	3.2	3.2	1.6	1.6
	あまり変わらない(n=386)	7.5	7.3	71.2	4.9	1.0	3.1	2.8	2.1	0.0
	居住期間が短くわからない(n=291)	1.4	0.0	4.5	4.1	1.4	82.5	1.7	4.1	0.3
	どちらともいえない(n=85)	11.8	7.1	55.3	1.2	1.2	9.4	5.9	8.2	0.0

問 11 あなたは、普段の近所付き合いを今後どうしたいと思いますか。（1つを選択）

「現状のままでよい」が74.8%と最も高く、次いで「近所付き合いを深めたい」が12.2%、「近所付き合いをなるべくしたくない」が8.5%となっています。



〈地区別クロス〉

地区別にみると、いずれの地区も「現状のままでよい」が最も高くなっています。

単位: %		め 近 た 所 付 き 合 い を 深	現 状 の ま ま で よ い	る 近 所 付 き 合 い を な	め 近 た 所 付 き 合 い を や	そ の 他	不 明 ・ 無 回 答
全体 (n=946)		12.2	74.8	8.5	0.3	1.9	2.3
地区別	地区1 (n=112)	9.8	77.7	8.9	1.8	0.9	0.9
	地区2 (n=173)	10.4	75.7	9.2	0.0	1.7	2.9
	地区3 (n=182)	11.5	76.4	7.7	0.5	3.8	0.0
	地区4 (n=122)	14.8	69.7	11.5	0.0	0.8	3.3
	地区5 (n=163)	12.9	75.5	6.7	0.0	1.2	3.7
	地区6 (n=158)	12.0	75.9	7.6	0.0	1.9	2.5

〈居住年数別クロス〉

居住年数別にみると、いずれの居住年数も「現状のままでよい」が最も高くなっています。

単位：％		め 近 た 所 付 き 合 い を 深	現 状 の ま ま で よ い	る 近 所 付 き 合 い を な	め 近 た 所 付 き 合 い を や	そ の 他	不 明 ・ 無 回 答
全体 (n=946)		12.2	74.8	8.5	0.3	1.9	2.3
居 住 年 数 別	5年未満 (n=385)	16.9	66.8	10.4	0.5	3.1	2.3
	5～9年 (n=127)	7.9	80.3	7.9	0.8	1.6	1.6
	10～19年 (n=117)	11.1	79.5	6.8	0.0	1.7	0.9
	20～29年 (n=80)	7.5	80.0	11.3	0.0	0.0	1.3
	30～49年 (n=135)	6.7	86.7	3.0	0.0	1.5	2.2
	50年以上 (n=86)	10.5	77.9	7.0	0.0	0.0	4.7

〈年齢別クロス〉

年齢別にみると、いずれの年齢も「現状のままでよい」が最も高くなっています。

単位：％		め 近 た 所 付 き 合 い を 深	現 状 の ま ま で よ い	る 近 所 付 き 合 い を な	め 近 た 所 付 き 合 い を や	そ の 他	不 明 ・ 無 回 答
全体 (n=946)		12.2	74.8	8.5	0.3	1.9	2.3
年 齢 別	18～29歳 (n=69)	14.5	62.3	18.8	0.0	4.3	0.0
	30～39歳 (n=132)	16.7	72.7	9.1	0.8	0.8	0.0
	40～49歳 (n=157)	12.7	72.0	10.8	1.3	1.9	1.3
	50～59歳 (n=197)	9.1	77.2	10.7	0.0	1.0	2.0
	60～69歳 (n=150)	10.7	77.3	5.3	0.0	3.3	3.3
	70～79歳 (n=146)	6.8	87.0	2.7	0.0	0.7	2.7
	80歳以上 (n=77)	20.8	67.5	1.3	0.0	3.9	6.5

〈家族構成別クロス〉

家族構成別にみると、いずれの家族構成も「現状のままでよい」が最も高くなっています。

単位：％		め 近 た 所 付 き 合 い を 深	現 状 の ま ま で よ い	る 近 べ く 付 き 合 い を な	め 近 た 所 付 き 合 い を や	そ の 他	不 明 ・ 無 回 答
全体 (n=946)		12.2	74.8	8.5	0.3	1.9	2.3
家 族 構 成 別	単身 (n=276)	9.8	73.2	11.6	0.4	2.2	2.9
	夫婦のみ (n=289)	10.7	78.5	7.3	0.3	0.7	2.4
	親と子 (2世代) (n=273)	16.1	75.5	6.2	0.4	0.7	1.1
	親と子と孫 (3世代) (n=26)	11.5	80.8	3.8	0.0	3.8	0.0
	兄弟や親族 (n=17)	5.9	94.1	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他 (n=47)	12.8	57.4	10.6	0.0	14.9	4.3

〈家族内被支援者別クロス〉

家族内被支援者別にみると、いずれの区分も「現状のままでよい」が最も高くなっています。また、〔外国籍である〕では「近所付き合いを深めたい」が他の区分と比べて高くなっています。

単位：％		め 近 た 所 付 き 合 い を 深	現 状 の ま ま で よ い	る 近 べ く 付 き 合 い を な	め 近 た 所 付 き 合 い を や	そ の 他	不 明 ・ 無 回 答
全体 (n=946)		12.2	74.8	8.5	0.3	1.9	2.3
家 族 内 被 支 援 者 別	介護保険のサービスを受けている (n=74)	18.9	68.9	4.1	0.0	2.7	5.4
	障害福祉のサービスを受けている (n=50)	10.0	76.0	10.0	0.0	2.0	2.0
	家族の介護・介助をしている (n=38)	18.4	71.1	2.6	0.0	2.6	5.3
	18歳未満の子がいる (n=168)	15.5	74.4	7.1	1.2	1.8	0.0
	高齢者 (65歳以上)のみである (n=156)	9.6	82.1	5.1	0.0	1.3	1.9
	外国籍である (n=24)	29.2	45.8	12.5	0.0	8.3	4.2
	ひきこもりの状態である (n=15)	13.3	73.3	6.7	0.0	0.0	6.7
	いずれもない (n=471)	10.0	76.9	10.4	0.2	1.9	0.6

〈近所付き合いの変化別クロス〉

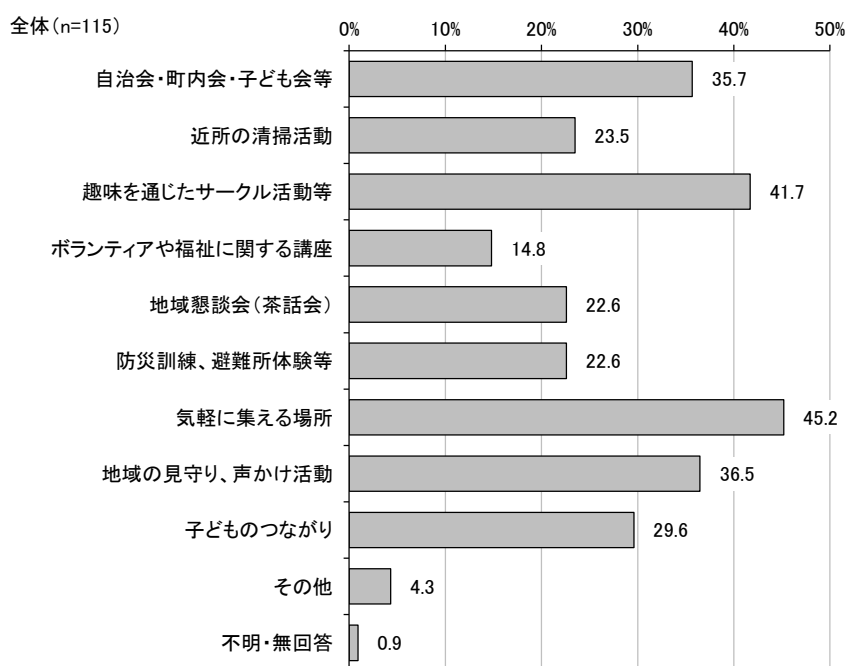
近所付き合いの変化別にみると、いずれの区分も「現状のままでよい」が最も高くなっています。また、「近所付き合いはかなり増えた」では「近所付き合いを深めたい」が他の区分と比べて高くなっています。

単位：％		近 所 付 き 合 い を 深 め たい	現 状 の ま ま で よ い	近 所 付 き 合 い を な く し て よ い	近 所 付 き 合 い を や め たい	そ の 他	不 明 ・ 無 回 答
全体 (n=946)		12.2	74.8	8.5	0.3	1.9	2.3
近 所 付 き 合 い の 変 化 別	近所付き合いはかなり減った (n=63)	19.0	66.7	12.7	0.0	1.6	0.0
	近所付き合いは少し減った (n=52)	11.5	76.9	1.9	0.0	3.8	5.8
	大きな変化はない (n=433)	6.5	84.8	7.4	0.5	0.7	0.2
	近所付き合いは少し増えた (n=40)	17.5	80.0	0.0	0.0	0.0	2.5
	近所付き合いはかなり増えた (n=13)	30.8	69.2	0.0	0.0	0.0	0.0
	居住期間が短くわからない (n=266)	19.5	66.2	11.3	0.4	2.3	0.4
	その他 (n=28)	3.6	57.1	7.1	0.0	21.4	10.7
	わからない (n=31)	9.7	67.7	22.6	0.0	0.0	0.0

問 11 で「近所付き合いを深めたい」を選んだ方

問 11-1 近所との付き合いを深めるためのきっかけとして、どのようなものが必要だと思いますか。（あてはまるものすべてを選択）

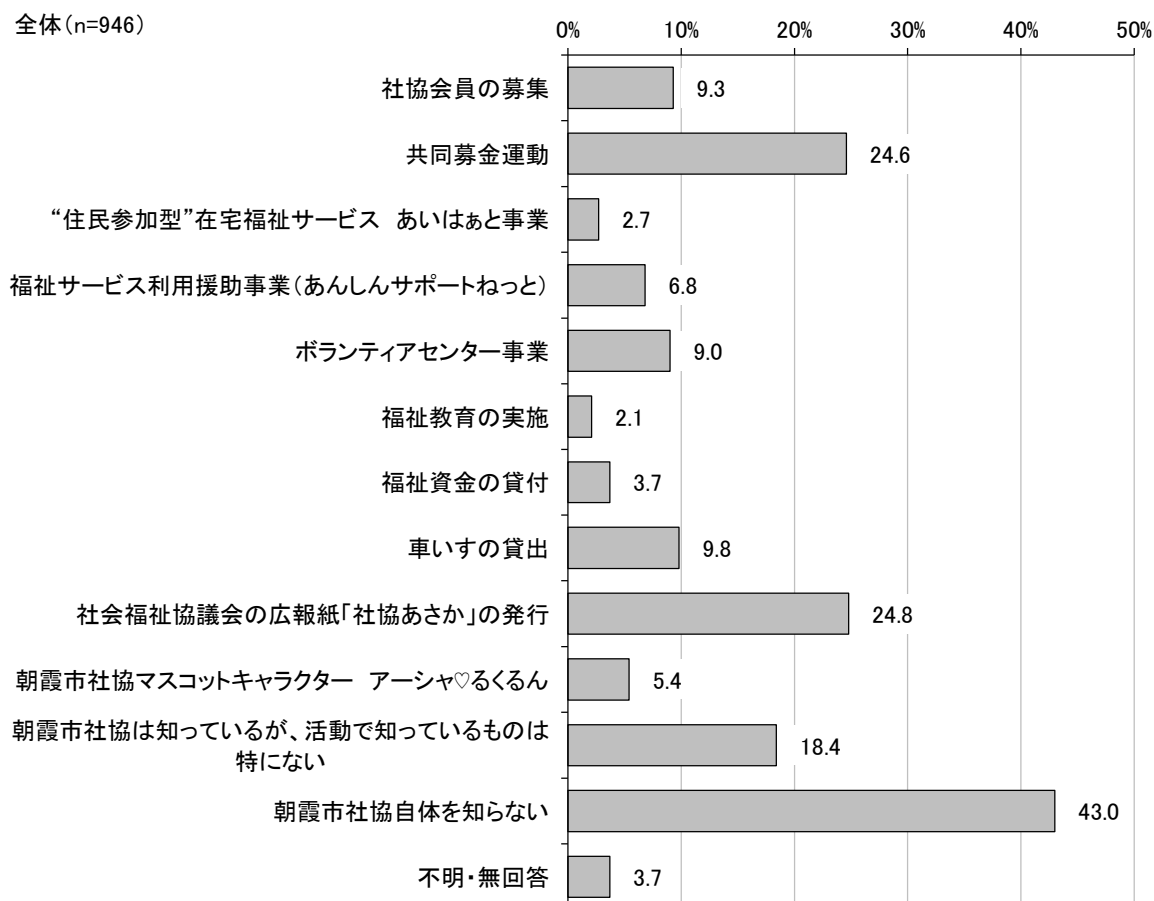
「気軽に集える場所」が 45.2%と最も高く、次いで「趣味を通じたサークル活動等」が 41.7%、「地域の見守り、声かけ活動」が 36.5%となっています。



4 朝霞市社会福祉協議会（朝霞市社協）について

問 12 朝霞市社会福祉協議会（朝霞市社協）の活動のうち、知っているものは何ですか。
（あてはまるものすべてを選択）

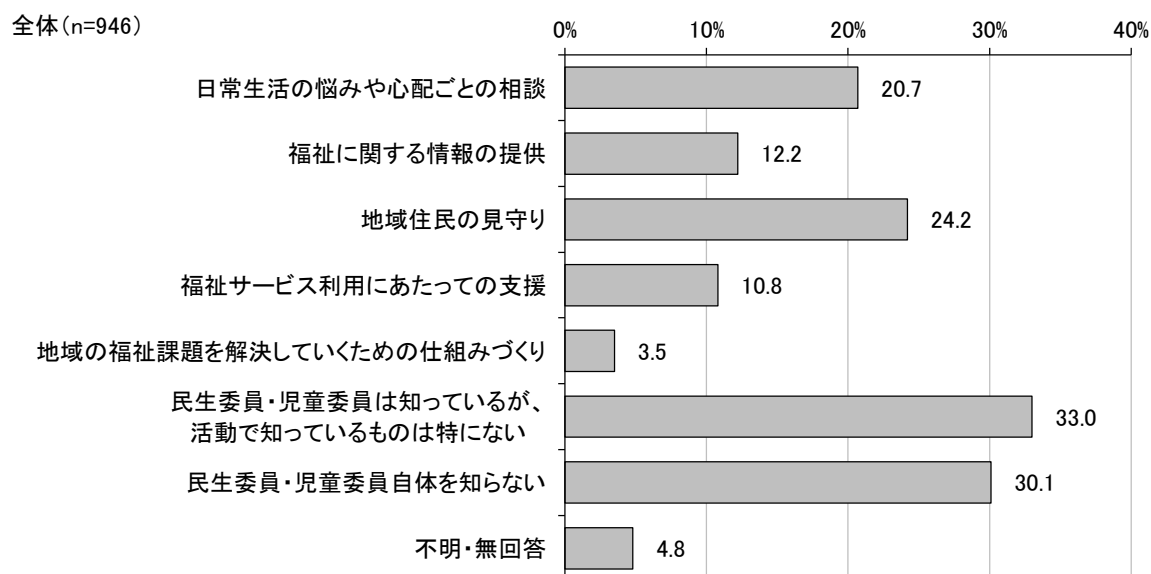
「朝霞市社協自体を知らない」が43.0%と最も高く、次いで「社会福祉協議会の広報紙『社協あさか』の発行」が24.8%、「共同募金運動」が24.6%となっています。



5 民生委員・児童委員、保護司について

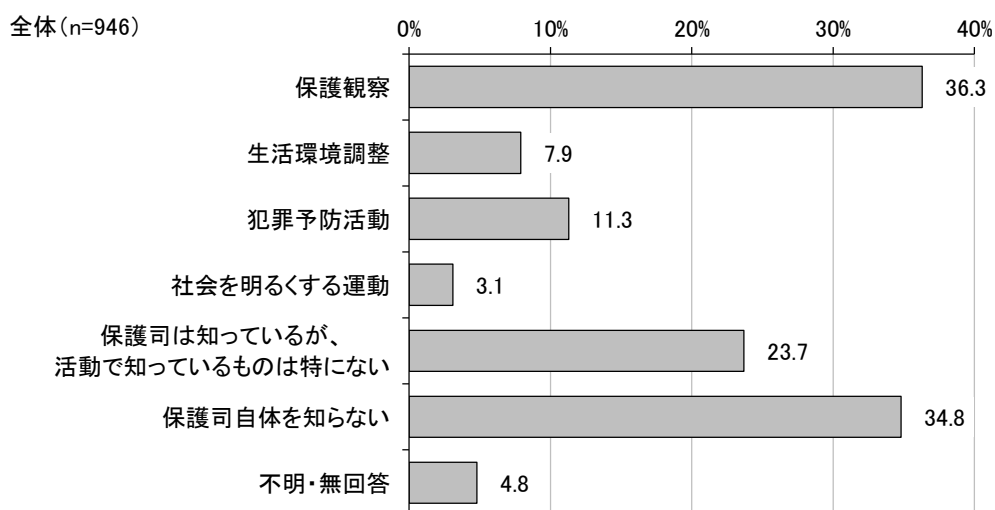
問 13 民生委員・児童委員の活動のうち、知っているものはありますか。
(あてはまるものすべてを選択)

「民生委員・児童委員は知っているが、活動で知っているものは特にない」が33.0%と最も高く、次いで「民生委員・児童委員自体を知らない」が30.1%、「地域住民の見守り」が24.2%となっています。



問 14 保護司の活動のうち、知っているものはありますか。
(あてはまるものすべてを選択)

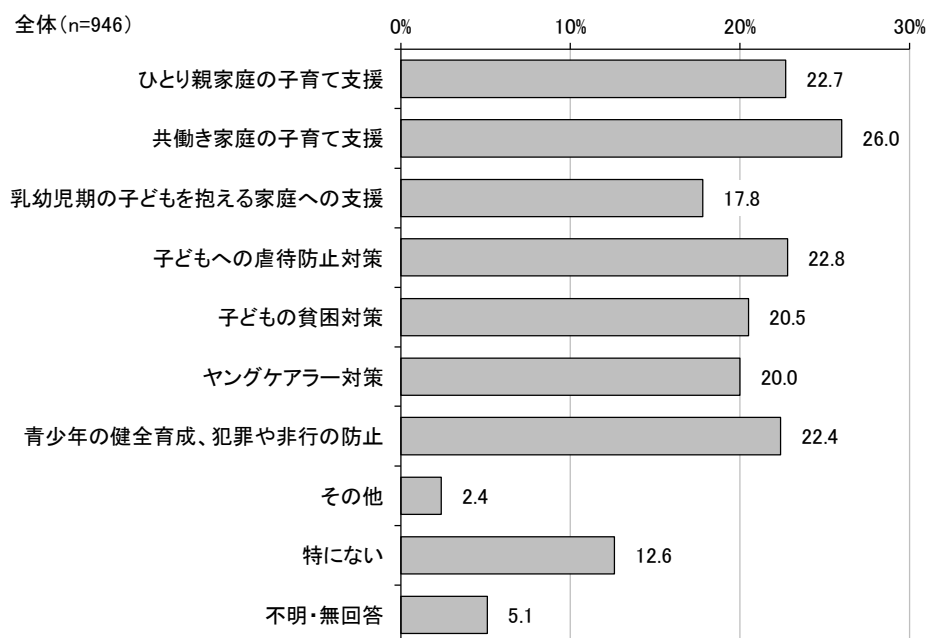
「保護観察」が36.3%と最も高く、次いで「保護司自体を知らない」が34.8%、「保護司は知っているが、活動で知っているものは特にない」が23.7%となっています。



6 身近な地域の課題について

問 15 子ども・若者支援に関して、あなたの身近な地域で、今後優先的に取り組むべきと感じるものは次のどれですか。（2つまで選択）

「共働き家庭の子育て支援」が26.0%と最も高く、次いで「子どもへの虐待防止対策」が22.8%、「ひとり親家庭の子育て支援」が22.7%となっています。



〈年齢別クロス〉

年齢別にみると、年齢の高い方が「共働き家庭の子育て支援」「乳幼児期の子どもを抱える家庭への支援」の割合が概ね低くなる傾向にあります。

単位：％		育ひとり て支親 援家 の 子	共働 き 家 庭 の 子 育	支を乳 援抱幼 え児 る期 家の子 庭のど へのも	止子 対ども 策への 虐待防	子 ども の 貧 困 対 策	策ヤ ン グ ケ ア ラ ー 対	防成青 止、少 犯年の 罪健 や全 非育 行の	そ の 他	特 に な い	不 明 ・ 無 回 答
全体 (n=946)		22.7	26.0	17.8	22.8	20.5	20.0	22.4	2.4	12.6	5.1
年 齢 別	18～29歳 (n=69)	23.2	46.4	34.8	8.7	13.0	18.8	15.9	0.0	8.7	0.0
	30～39歳 (n=132)	15.9	52.3	41.7	18.2	13.6	9.8	20.5	5.3	4.5	0.8
	40～49歳 (n=157)	18.5	35.7	18.5	22.3	21.7	22.9	23.6	4.5	6.4	1.3
	50～59歳 (n=197)	27.9	15.7	11.7	24.4	22.8	24.9	19.8	3.6	16.2	2.5
	60～69歳 (n=150)	28.0	20.0	13.3	30.7	24.0	21.3	24.7	0.7	10.0	4.7
	70～79歳 (n=146)	22.6	12.3	6.2	26.7	24.0	21.9	27.4	0.7	22.6	6.2
	80歳以上 (n=77)	16.9	9.1	3.9	14.3	14.3	10.4	22.1	0.0	22.1	29.9

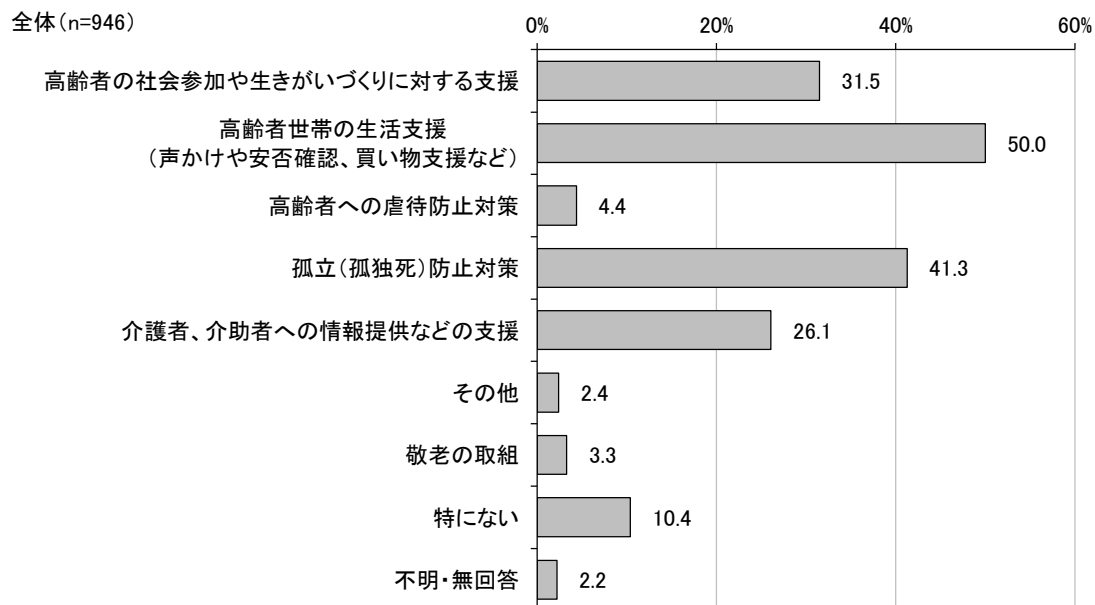
〈家族内被支援者別クロス〉

家族内被支援者別にみると、〔介護保険のサービスを受けている〕〔家族の介護・介助をしている〕〔外国籍である〕では「ひとり親家庭の子育て支援」、〔障害福祉のサービスを受けている〕では「乳幼児期の子どもを抱える家庭への支援」、〔18歳未満の子がいる〕〔いずれもいない〕では「共働き家庭の子育て支援」、〔高齢者（65歳以上）のみである〕では「子どもへの虐待防止対策」、〔ひきこもりの状態である〕では「子どもの貧困対策」が最も高くなっています。

単位：％		育ひとり て支親 援家 の 子	共働 き 家 庭 の 子 育	支を乳 援抱幼 え児 る期 家の子 庭のど へのも	止子 対ども 策への 虐待防	子 ども の 貧 困 対 策	策ヤ ン グ ケ ア ラ ー 対	防成青 止、少 犯年の 罪健 や全 非育 行の	そ の 他	特 に な い	不 明 ・ 無 回 答
全体 (n=946)		22.7	26.0	17.8	22.8	20.5	20.0	22.4	2.4	12.6	5.1
家 族 内 被 支 援 者 別	介護保険のサービスを受けている (n=74)	31.1	20.3	12.2	20.3	27.0	17.6	25.7	1.4	17.6	9.5
	障害福祉のサービスを受けている (n=50)	20.0	26.0	30.0	24.0	26.0	16.0	24.0	6.0	18.0	2.0
	家族の介護・介助をしている (n=38)	50.0	31.6	21.1	26.3	21.1	23.7	26.3	2.6	10.5	2.6
	18歳未満の子がいる (n=168)	17.3	45.8	37.5	19.6	18.5	17.3	23.8	4.8	1.8	0.0
	高齢者 (65歳以上) のみである (n=156)	20.5	16.0	5.8	31.4	25.0	20.5	29.5	0.6	16.0	7.7
	外国籍である (n=24)	41.7	16.7	16.7	16.7	12.5	8.3	37.5	4.2	8.3	0.0
	ひきこもりの状態である (n=15)	26.7	13.3	20.0	33.3	40.0	33.3	13.3	0.0	26.7	0.0
	いずれもいない (n=471)	24.0	26.5	16.3	22.1	20.6	22.1	20.0	2.1	14.0	3.0

問 16 高齢者支援に関して、あなたの身近な地域で、今後優先的に取り組むべきと感じるものは次のどれですか。(2つまで選択)

「高齢者世帯の生活支援（声かけや安否確認、買い物支援など）」が 50.0%と最も高く、次いで「孤立（孤独死）防止対策」が 41.3%、「高齢者の社会参加や生きがいのづくりに対する支援」が 31.5%となっています。



〈年齢別クロス〉

年齢別にみると、いずれの年齢も「高齢者世帯の生活支援」が最も高くなっています。

単位：％		が高齢者の社会参加や生活支援	い（高齢者世帯の生活支援、買物支援など）	高齢者への虐待防止対策	孤立（孤独死）防止対策	介護者、介助者への情報提供などの支援	その他	敬老の取組	特にな	不明・無回答
全体 (n=946)		31.5	50.0	4.4	41.3	26.1	2.4	3.3	10.4	2.2
年齢別	18～29歳 (n=69)	21.7	40.6	14.5	29.0	23.2	2.9	2.9	21.7	0.0
	30～39歳 (n=132)	23.5	49.2	3.0	47.0	27.3	0.8	1.5	13.6	0.8
	40～49歳 (n=157)	36.3	49.0	1.9	42.7	35.7	3.8	0.6	7.6	0.6
	50～59歳 (n=197)	32.0	56.3	5.6	46.2	29.4	1.5	0.0	7.6	0.0
	60～69歳 (n=150)	38.7	50.7	4.0	45.3	25.3	3.3	4.7	5.3	2.7
	70～79歳 (n=146)	34.9	47.3	2.7	34.9	14.4	2.7	6.2	10.3	5.5
	80歳以上 (n=77)	18.2	46.8	2.6	28.6	20.8	1.3	10.4	18.2	9.1

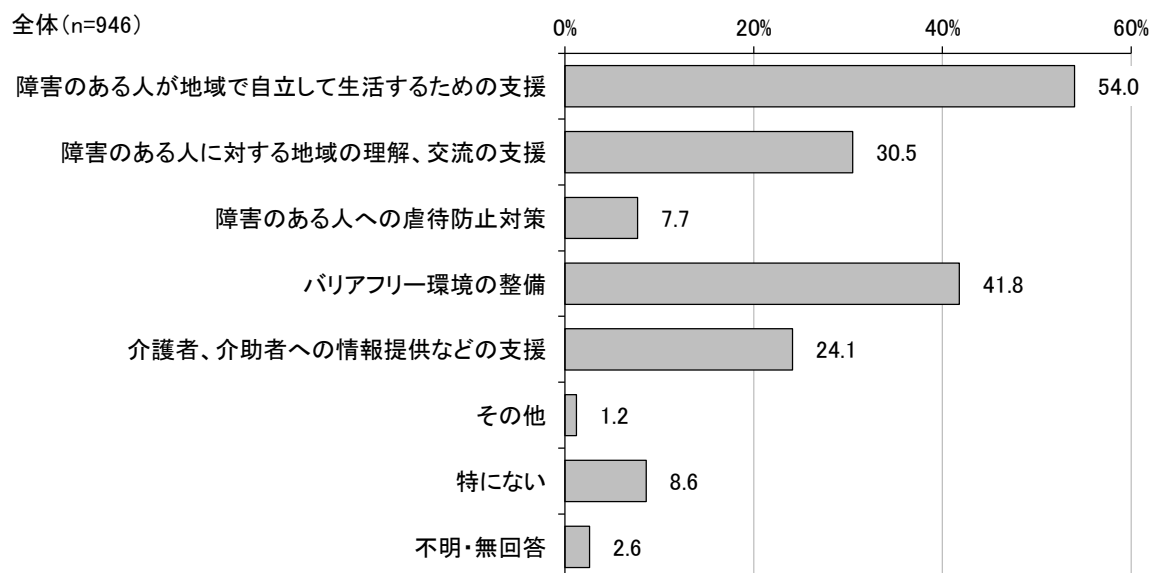
〈家族内被支援者別クロス〉

家族内被支援者別にみると、〔家族の介護・介助をしている〕では「介護者、介助者への情報提供などの支援」、〔ひきこもりの状態である〕では「孤立（孤独死）防止対策」、その他の区分では「高齢者世帯の生活支援」が最も高くなっています。

単位：％		が高齢者の社会参加や生活支援	い（高齢者世帯の生活支援、買物支援など）	高齢者への虐待防止対策	孤立（孤独死）防止対策	介護者、介助者への情報提供などの支援	その他	敬老の取組	特にな	不明・無回答
全体 (n=946)		31.5	50.0	4.4	41.3	26.1	2.4	3.3	10.4	2.2
家族内被支援者別	介護保険のサービスを受けている (n=74)	28.4	48.6	6.8	36.5	37.8	2.7	8.1	6.8	4.1
	障害福祉のサービスを受けている (n=50)	32.0	52.0	10.0	38.0	34.0	2.0	6.0	14.0	0.0
	家族の介護・介助をしている (n=38)	23.7	55.3	5.3	39.5	63.2	2.6	5.3	5.3	5.3
	18歳未満の子がいる (n=168)	29.8	53.0	3.6	42.3	31.0	2.4	1.2	10.7	0.6
	高齢者 (65歳以上) のみである (n=156)	37.8	48.7	2.6	39.1	19.2	2.6	5.8	7.7	5.1
	外国籍である (n=24)	25.0	33.3	16.7	25.0	29.2	0.0	0.0	20.8	4.2
	ひきこもりの状態である (n=15)	40.0	33.3	13.3	46.7	33.3	6.7	20.0	13.3	0.0
	いずれもない (n=471)	30.6	49.3	4.5	43.7	25.3	2.3	2.3	11.3	1.7

問 17 障害者支援に関して、あなたの身近な地域で、今後優先的に取り組むべきと感じるものは次のどれですか。（2つまで選択）

「障害のある人が地域で自立して生活するための支援」が 54.0%と最も高く、次いで「バリアフリー環境の整備」が 41.8%、「障害のある人に対する地域の理解、交流の支援」が 30.5%となっています。



〈年齢別クロス〉

年齢別にみると、18～29 歳、80 歳以上では「バリアフリー環境の整備」、30～79 歳では「障害のある人が地域で自立して生活するための支援」が最も高くなっています。

単位: %		障害のある人が地域で自立して生活するための支援	障害のある人に対する地域の理解、交流の支援	障害のある人への虐待防止対策	バリアフリー環境の整備	介護者、介助者への情報提供などの支援	その他	特にない	不明・無回答
全体 (n=946)		54.0	30.5	7.7	41.8	24.1	1.2	8.6	2.6
年齢別	18～29歳 (n=69)	43.5	37.7	15.9	46.4	17.4	1.4	8.7	0.0
	30～39歳 (n=132)	49.2	31.1	8.3	39.4	25.8	0.0	13.6	0.8
	40～49歳 (n=157)	63.7	27.4	7.6	41.4	28.7	1.3	6.4	1.3
	50～59歳 (n=197)	57.9	27.9	6.6	43.7	26.4	2.0	6.1	0.5
	60～69歳 (n=150)	64.0	32.0	7.3	47.3	21.3	2.0	3.3	1.3
	70～79歳 (n=146)	50.7	31.5	6.8	35.6	21.2	0.7	9.6	6.2
	80歳以上 (n=77)	29.9	31.2	1.3	33.8	19.5	0.0	18.2	13.0

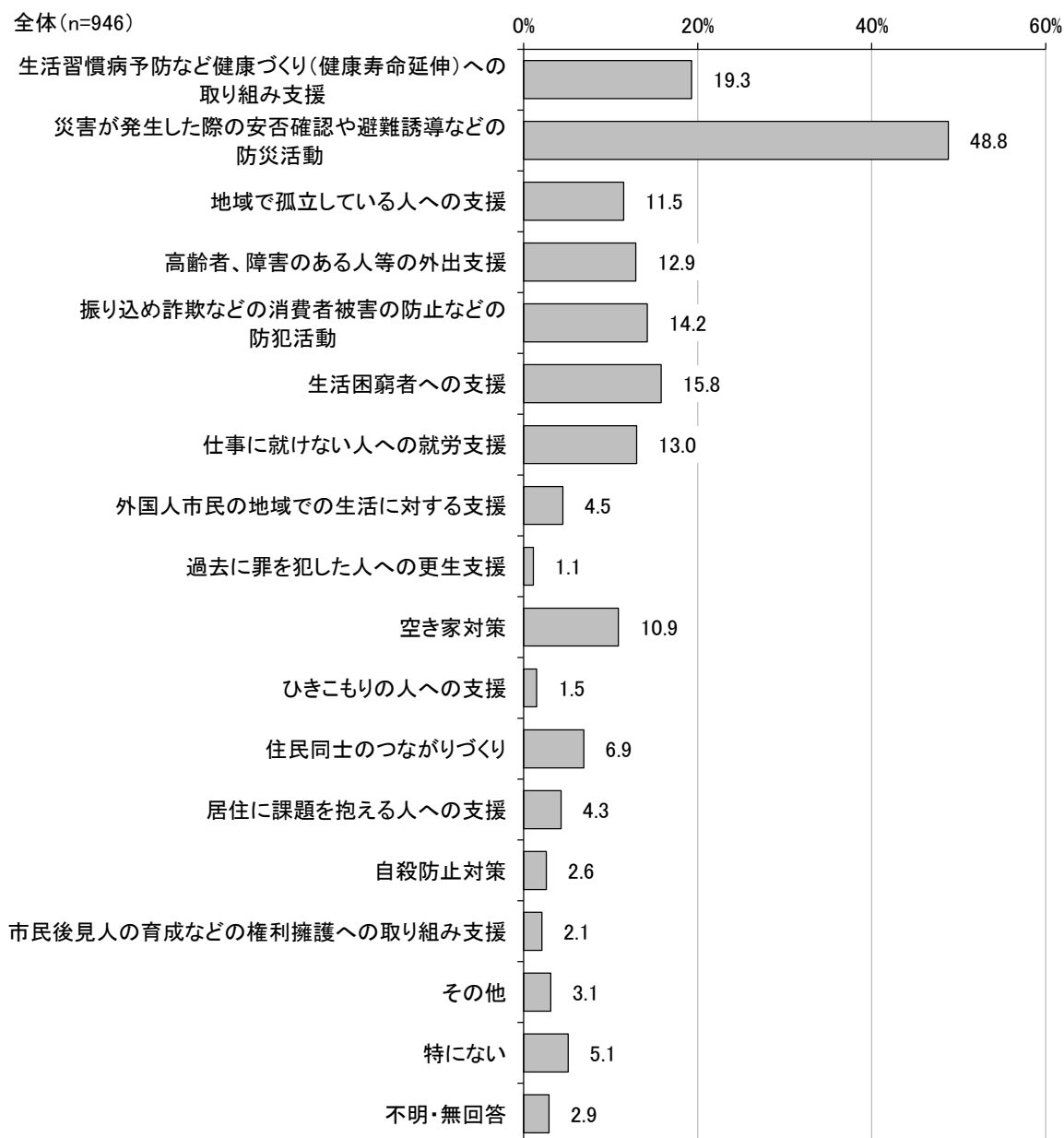
〈家族内被支援者別クロス〉

家族内被支援者別にみると、「家族の介護・介助をしている」では「バリアフリー環境の整備」、
「外国籍である」では「障害のある人が地域で自立して生活するための支援」「バリアフリー環境の
整備」、その他の区分では「障害のある人が地域で自立して生活するための支援」が最も高くなっ
ています。

単位：％		す 域 障 害 の あ る 人 が 活 地	交 流 の 支 援 の あ る 理 解 、 対	障 害 の あ る 人 へ の 障 害 防 止 策	障 害 の あ る 人 へ の バ リ ア フ リ ー 環 境 の 整 備	支 援 の 情 報 提 供 な ど の へ	介 護 者 、 介 助 者 の へ	そ の 他	特 に な い	不 明 ・ 無 回 答
全体 (n=946)		54.0	30.5	7.7	41.8	24.1	1.2	8.6	2.6	
家 族 内 被 支 援 者 別	介護保険のサービスを受けている (n=74)	48.6	31.1	6.8	43.2	28.4	0.0	8.1	4.1	
	障害福祉のサービスを受けている (n=50)	60.0	36.0	12.0	26.0	40.0	0.0	6.0	0.0	
	家族の介護・介助をしている (n=38)	47.4	34.2	10.5	65.8	26.3	0.0	2.6	2.6	
	18歳未満の子がいる (n=168)	57.7	27.4	8.3	45.2	30.4	1.2	7.1	0.6	
	高齢者 (65歳以上) のみである (n=156)	48.1	28.8	8.3	40.4	24.4	0.6	10.3	4.5	
	外国籍である (n=24)	37.5	29.2	4.2	37.5	29.2	0.0	16.7	4.2	
	ひきこもりの状態である (n=15)	60.0	26.7	13.3	26.7	46.7	0.0	20.0	6.7	
	いずれもない (n=471)	54.1	32.1	7.2	42.9	21.2	1.7	8.9	1.7	

問 18 その他の支援に関して、あなたの身近な地域で、今後優先的に取り組むべきと感じるものは次のどれですか。（2つまで選択）

「災害が発生した際の安否確認や避難誘導などの防災活動」が48.8%と最も高く、次いで「生活習慣病予防など健康づくり（健康寿命延伸）への取り組み支援」が19.3%、「生活困窮者への支援」が15.8%となっています。



〈年齢別クロス〉

年齢別にみると、いずれの年齢も「災害が発生した際の安否確認や避難誘導などの防災活動」が最も高くなっています。

単位：％		支援 （健康 寿命延 伸）へ の取組 み	生活 習慣病 予防な ど健康 づくり	避難誘 導など の防災 活動	災害が 発生し た際の 安否確 認や	地域で 孤立し ている 人への 支援	高 齢者、 障害の ある人 等の外 出	振 り込 め詐 欺な どの 防犯 活動	消費 者被害	生活困 窮者へ の支援	仕 事に 就け ない 人へ の就 労支 援	外 国 人 市 民 の 地 域 で の 生 活 に 対 する 支 援	援 過去に 罪を犯 した人 への更 生支 援	空 き家 対策	ひきこ もりの 人への 支援	住 民同 士の つな がり づく り	居 住に 課題 を抱 える 人へ の支 援
全体 (n=946)		19.3	48.8	11.5	12.9	14.2	15.8	13.0	4.5	1.1	10.9	1.5	6.9	4.3			
年 齢 別	18～29歳 (n=69)	17.4	46.4	7.2	8.7	13.0	17.4	20.3	8.7	1.4	7.2	1.4	2.9	2.9			
	30～39歳 (n=132)	12.9	56.1	9.8	9.1	12.1	15.9	16.7	4.5	0.0	12.1	0.8	6.1	5.3			
	40～49歳 (n=157)	19.7	54.8	14.0	9.6	10.8	11.5	13.4	5.1	1.9	14.6	1.3	6.4	3.2			
	50～59歳 (n=197)	17.8	48.7	10.7	14.2	12.7	14.2	13.2	7.1	0.5	13.2	0.0	3.0	4.1			
	60～69歳 (n=150)	24.0	46.0	10.0	16.0	18.0	18.7	15.3	2.7	0.0	8.0	1.3	6.7	6.0			
	70～79歳 (n=146)	21.9	45.2	13.0	12.3	15.1	23.3	7.5	1.4	1.4	10.3	3.4	11.0	4.8			
	80歳以上 (n=77)	18.2	36.4	11.7	20.8	18.2	5.2	3.9	1.3	2.6	6.5	2.6	14.3	2.6			

単位：％		自殺 防止 対策	市 民後 見人 の育 成な どの 権利 擁	そ の 他	特 に な い	不 明・ 無回 答
全体 (n=946)		2.6	2.1	3.1	5.1	2.9
年 齢 別	18～29歳 (n=69)	4.3	2.9	4.3	2.9	0.0
	30～39歳 (n=132)	2.3	0.8	5.3	8.3	1.5
	40～49歳 (n=157)	5.1	2.5	3.8	2.5	1.3
	50～59歳 (n=197)	3.0	1.5	5.1	6.1	1.0
	60～69歳 (n=150)	2.0	2.0	0.7	2.7	4.0
	70～79歳 (n=146)	0.7	2.7	1.4	6.2	4.1
	80歳以上 (n=77)	0.0	2.6	0.0	7.8	11.7

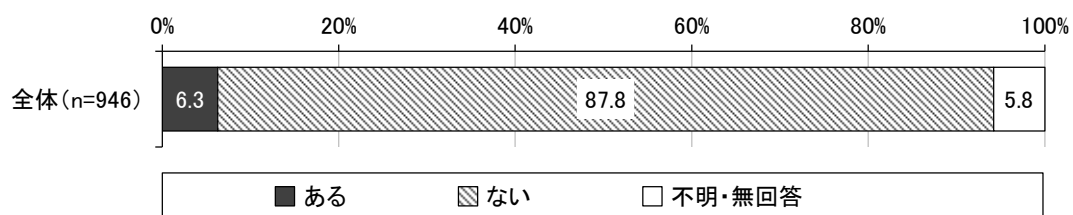
〈家族内被支援者別クロス〉

家族内被支援者別にみると、〔外国籍である〕では「外国人市民の地域での生活に対する支援」、〔ひきこもりの状態である〕では「生活困窮者への支援」、その他の区分では「災害が発生した際の安否確認や避難誘導などの防災活動」が最も高くなっています。

単位：％		支援（健康寿命延伸）への取り組み	生活習慣病予防など健康づくり	避難誘導などの防災活動	災害が発生した際の安否確認や	地域で孤立している人への支援	高齢者、障害のある人等の外出	振り込め詐欺などの消費者被害の防止などの防犯活動	生活困窮者への支援	仕事に就けない人への就労支援	外国人市民の地域での生活に対する支援	過去に罪を犯した人への更生支援	空き家対策	ひきこもりの人への支援	住民同士のつながりづくり	居住に課題を抱える人への支援
全体（n=946）		19.3	48.8	11.5	12.9	14.2	15.8	13.0	4.5	1.1	10.9	1.5	6.9	4.3		
家族内被支援者別	介護保険のサービスを受けている（n=74）	21.6	43.2	12.2	32.4	17.6	16.2	5.4	5.4	2.7	6.8	4.1	9.5	6.8		
	障害福祉のサービスを受けている（n=50）	18.0	50.0	22.0	22.0	8.0	14.0	20.0	2.0	2.0	12.0	4.0	12.0	6.0		
	家族の介護・介助をしている（n=38）	23.7	71.1	7.9	31.6	21.1	15.8	10.5	5.3	5.3	10.5	7.9	13.2	7.9		
	18歳未満の子がいる（n=168）	15.5	56.0	10.7	13.7	13.7	6.5	16.7	4.2	1.2	12.5	2.4	6.5	4.8		
	高齢者（65歳以上）のみである（n=156）	24.4	44.9	16.0	14.1	19.2	21.2	9.0	0.6	0.6	6.4	2.6	10.3	3.8		
	外国籍である（n=24）	8.3	33.3	12.5	8.3	8.3	16.7	8.3	41.7	0.0	0.0	0.0	4.2	4.2		
	ひきこもりの状態である（n=15）	26.7	20.0	26.7	13.3	6.7	46.7	40.0	6.7	6.7	13.3	26.7	13.3	20.0		
	いずれもない（n=471）	18.9	50.1	9.6	10.4	13.4	16.6	14.4	4.7	0.8	12.7	0.4	5.5	4.9		
単位：％		自殺防止対策	市民・後見人の育成などの権利擁護への取り組み	その他	特になし	不明・無回答										
全体（n=946）		2.6	2.1	3.1	5.1	2.9										
家族内被支援者別	介護保険のサービスを受けている（n=74）	2.7	1.4	1.4	6.8	5.4										
	障害福祉のサービスを受けている（n=50）	8.0	6.0	0.0	6.0	0.0										
	家族の介護・介助をしている（n=38）	2.6	2.6	2.6	0.0	2.6										
	18歳未満の子がいる（n=168）	3.0	1.8	5.4	3.6	1.2										
	高齢者（65歳以上）のみである（n=156）	1.3	3.8	0.6	5.8	2.6										
	外国籍である（n=24）	0.0	4.2	0.0	4.2	8.3										
	ひきこもりの状態である（n=15）	20.0	6.7	0.0	13.3	6.7										
	いずれもない（n=471）	3.0	1.5	3.4	5.1	2.5										

問 19 あなたの身近な地域で、孤立の状況を見たり聞いたりしたことがありますか。
(1つを選択)

「ある」が6.3%、「ない」が87.8%となっています。



〈地区別クロス〉

地区別にみると、いずれの地区も「ない」が「ある」を上回っています。

単位: %		ある	ない	不明・無回答
全体 (n=946)		6.3	87.8	5.8
地区別	地区1 (n=112)	7.1	88.4	4.5
	地区2 (n=173)	4.0	92.5	3.5
	地区3 (n=182)	8.2	86.8	4.9
	地区4 (n=122)	4.1	90.2	5.7
	地区5 (n=163)	4.9	89.6	5.5
	地区6 (n=158)	8.2	83.5	8.2

〈年齢別クロス〉

年齢別にみると、いずれの年齢も「ない」が「ある」を上回っています。

単位：％		ある	ない	不明・無回答
全体(n=946)		6.3	87.8	5.8
年齢別	18～29歳(n=69)	8.7	88.4	2.9
	30～39歳(n=132)	5.3	90.9	3.8
	40～49歳(n=157)	5.7	90.4	3.8
	50～59歳(n=197)	5.6	89.8	4.6
	60～69歳(n=150)	8.7	84.7	6.7
	70～79歳(n=146)	6.2	87.7	6.2
	80歳以上(n=77)	2.6	81.8	15.6

〈家族内被支援者別クロス〉

家族内被支援者別にみると、いずれの区分も「ない」が「ある」を上回っています。

単位：％		ある	ない	不明・無回答
全体(n=946)		6.3	87.8	5.8
家族内被支援者別	介護保険のサービスを受けている(n=74)	8.1	81.1	10.8
	障害福祉のサービスを受けている(n=50)	14.0	84.0	2.0
	家族の介護・介助をしている(n=38)	13.2	73.7	13.2
	18歳未満の子がいる(n=168)	4.8	94.0	1.2
	高齢者(65歳以上)のみである(n=156)	9.6	82.7	7.7
	外国籍である(n=24)	8.3	79.2	12.5
	ひきこもりの状態である(n=15)	26.7	66.7	6.7
	いずれもない(n=471)	5.3	89.0	5.7

〈近所付き合いの変化別クロス〉

近所付き合いの変化別にみると、いずれの区分も「ない」が「ある」を上回っています。

単位：％		ある	ない	不明・無回答
全体 (n=946)		6.3	87.8	5.8
近所付き合いの変化別	近所付き合いはかなり減った (n=63)	12.7	84.1	3.2
	近所付き合いは少し減った (n=52)	13.5	75.0	11.5
	大きな変化はない (n=433)	5.3	89.8	4.8
	近所付き合いは少し増えた (n=40)	2.5	90.0	7.5
	近所付き合いはかなり増えた (n=13)	0.0	100.0	0.0
	居住期間が短くわからない (n=266)	5.6	88.7	5.6
	その他 (n=28)	7.1	82.1	10.7
	わからない (n=31)	9.7	87.1	3.2

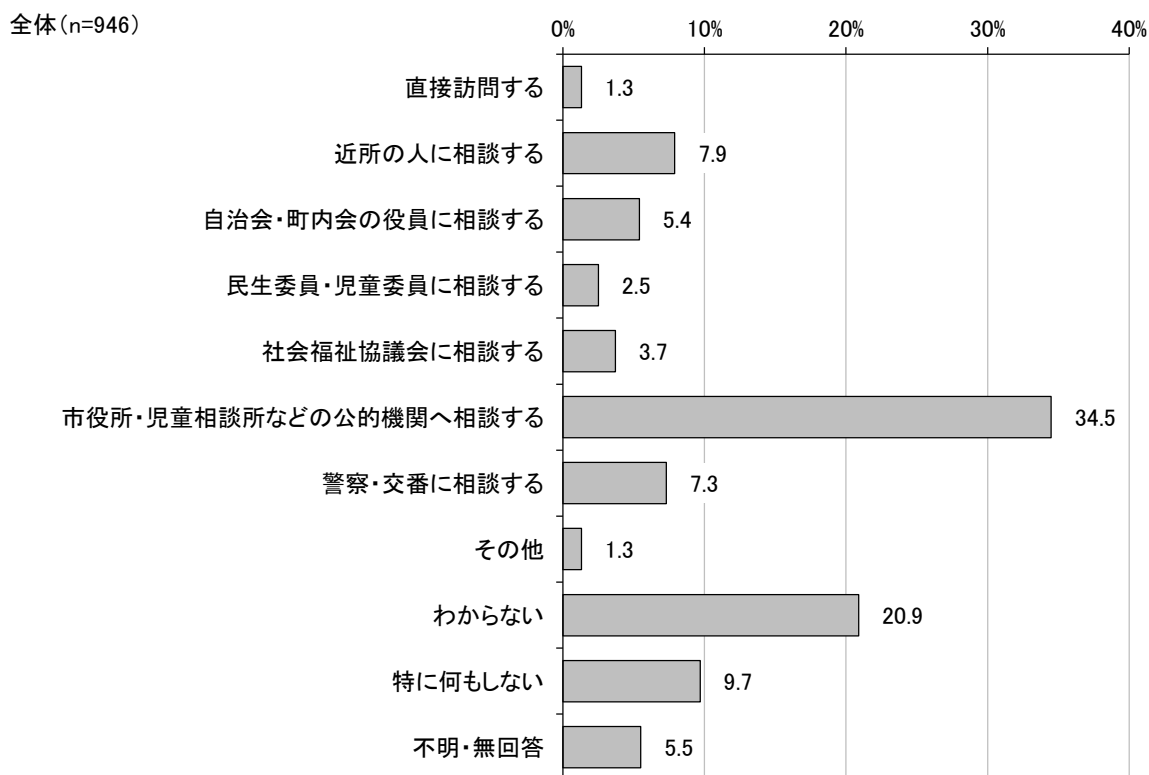
〈近所付き合いの意向別クロス〉

近所付き合いの意向別にみると、いずれの区分も「ない」が「ある」を上回っています。

単位：％		ある	ない	不明・無回答
全体 (n=946)		6.3	87.8	5.8
近所付き合いの意向別	近所付き合いを深めたい (n=115)	7.0	87.8	5.2
	現状のままでよい (n=708)	5.6	89.1	5.2
	近所付き合いをなるべくしたくない (n=80)	12.5	85.0	2.5
	近所付き合いをやめたい (n=3)	0.0	100.0	0.0
	その他 (n=18)	5.6	72.2	22.2

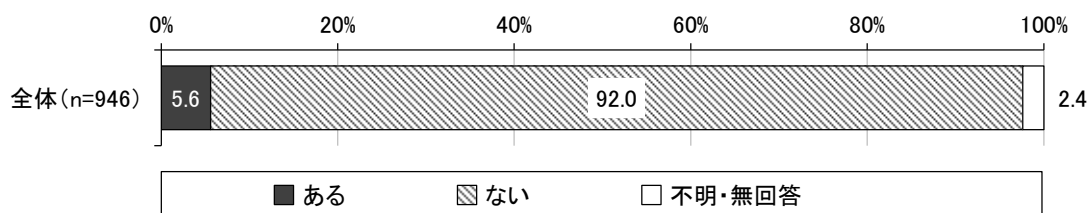
問 20 もし、あなたの周辺で孤立の状況を知った場合、最初にどのように対応しますか。
(1つを選択)

「市役所・児童相談所などの公的機関へ相談する」が 34.5%と最も高く、次いで「わからない」が 20.9%、「特に何もしない」が 9.7%となっています。



問 21 あなたの身近な地域で、虐待（児童、高齢者、障害のある人）の状況を見たり聞いたりしたことがありますか。(1つを選択)

「ある」が 5.6%、「ない」が 92.0%となっています。



〈地区別クロス〉

地区別にみると、いずれの地区も「ない」が「ある」を上回っています。

単位：％		ある	ない	不明・無回答
全体 (n=946)		5.6	92.0	2.4
地区別	地区1 (n=112)	7.1	90.2	2.7
	地区2 (n=173)	3.5	94.2	2.3
	地区3 (n=182)	6.6	90.1	3.3
	地区4 (n=122)	5.7	94.3	0.0
	地区5 (n=163)	4.9	93.9	1.2
	地区6 (n=158)	5.7	90.5	3.8

〈年齢別クロス〉

年齢別にみると、いずれの年齢も「ない」が「ある」を上回っています。

単位：％		ある	ない	不明・無回答
全体 (n=946)		5.6	92.0	2.4
年齢別	18～29歳 (n=69)	4.3	94.2	1.4
	30～39歳 (n=132)	6.8	91.7	1.5
	40～49歳 (n=157)	7.0	91.1	1.9
	50～59歳 (n=197)	6.1	93.4	0.5
	60～69歳 (n=150)	6.0	91.3	2.7
	70～79歳 (n=146)	2.1	95.2	2.7
	80歳以上 (n=77)	3.9	87.0	9.1

〈家族内被支援者別クロス〉

家族内被支援者別にみると、いずれの区分も「ない」が「ある」を上回っています。

単位：％		ある	ない	不明・無回答
全体 (n=946)		5.6	92.0	2.4
家族内被支援者別	介護保険のサービスを受けている (n=74)	6.8	86.5	6.8
	障害福祉のサービスを受けている (n=50)	12.0	88.0	0.0
	家族の介護・介助をしている (n=38)	7.9	84.2	7.9
	18歳未満の子がいる (n=168)	6.5	91.7	1.8
	高齢者 (65歳以上) のみである (n=156)	4.5	91.7	3.8
	外国籍である (n=24)	0.0	95.8	4.2
	ひきこもりの状態である (n=15)	6.7	86.7	6.7
	いずれもない (n=471)	4.7	94.5	0.8

〈近所付き合いの変化別クロス〉

近所付き合いの変化別にみると、いずれの区分も「ない」が「ある」を上回っています。

単位：％		ある	ない	不明・無回答
全体 (n=946)		5.6	92.0	2.4
近所付き合いの変化別	近所付き合いはかなり減った (n=63)	15.9	81.0	3.2
	近所付き合いは少し減った (n=52)	5.8	90.4	3.8
	大きな変化はない (n=433)	5.3	93.3	1.4
	近所付き合いは少し増えた (n=40)	5.0	95.0	0.0
	近所付き合いはかなり増えた (n=13)	7.7	92.3	0.0
	居住期間が短くわからない (n=266)	3.4	93.2	3.4
	その他 (n=28)	7.1	92.9	0.0
	わからない (n=31)	6.5	93.5	0.0

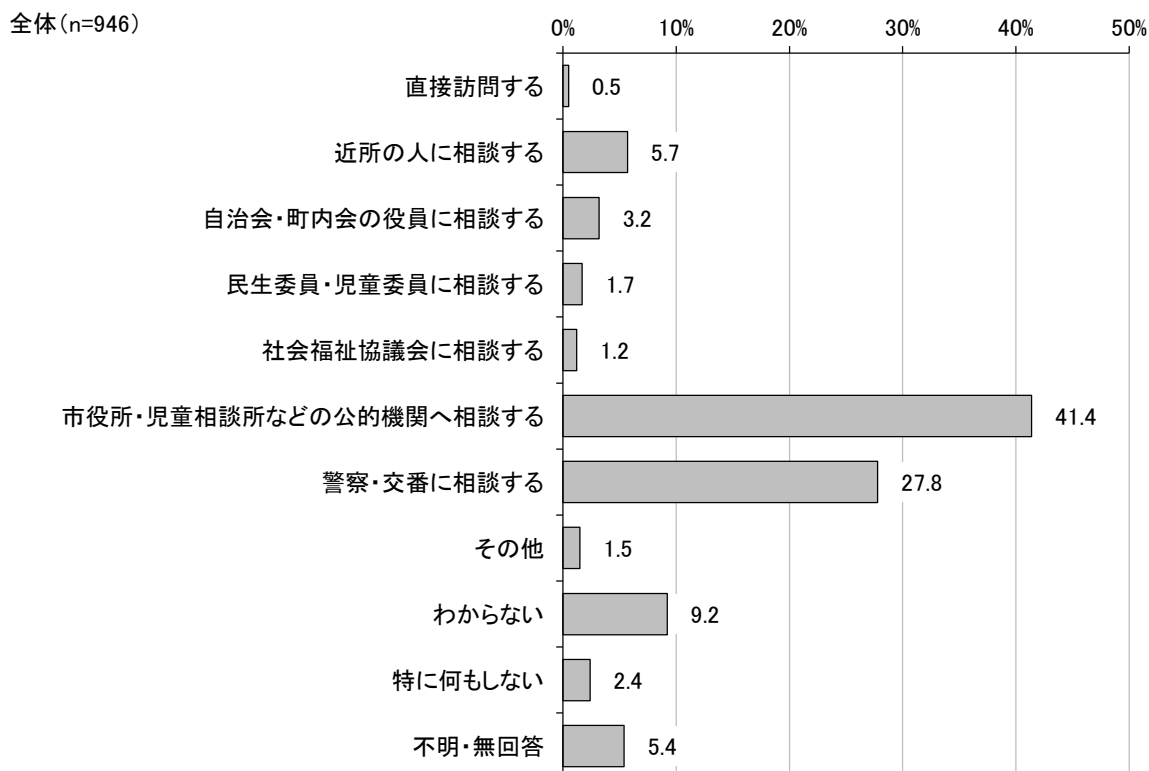
〈近所付き合いの意向別クロス〉

近所付き合いの意向別にみると、いずれの区分も「ない」が「ある」を上回っています。

単位：％		ある	ない	不明・無回答
全体 (n=946)		5.6	92.0	2.4
近所付き合いの意向別の	近所付き合いを深めたい (n=115)	8.7	87.0	4.3
	現状のままでよい (n=708)	4.9	93.4	1.7
	近所付き合いをなるべくしたくない (n=80)	10.0	88.8	1.3
	近所付き合いをやめたい (n=3)	0.0	100.0	0.0
	その他 (n=18)	0.0	88.9	11.1

問 22 もし、あなたの周辺で虐待（児童、高齢者、障害のある人）の状況を知った場合、最初にどのように対応しますか。（１つを選択）

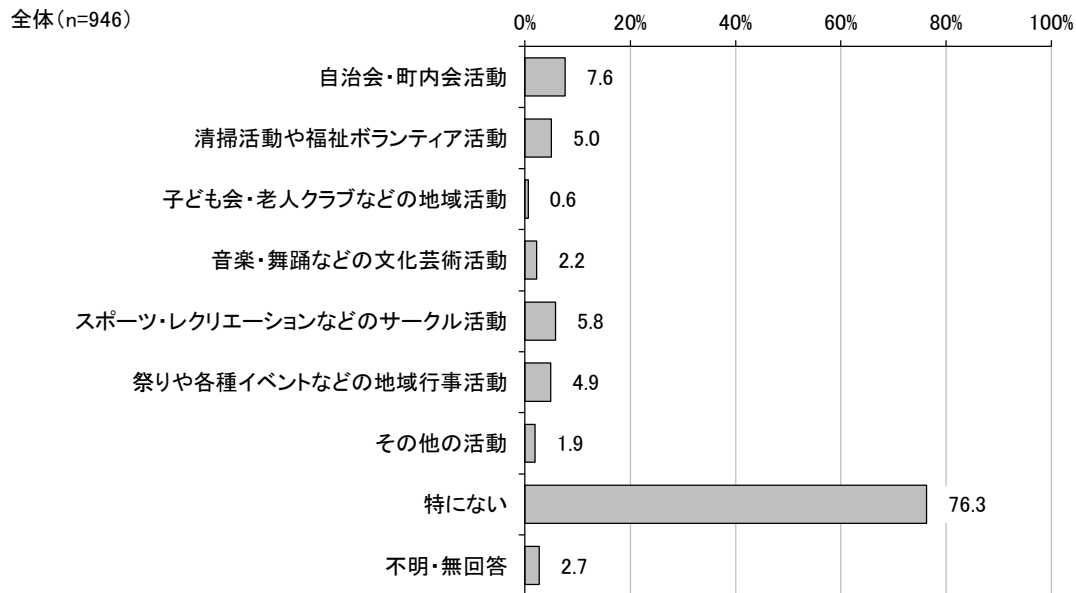
「市役所・児童相談所などの公的機関へ相談する」が 41.4%と最も高く、次いで「警察・交番に相談する」が 27.8%、「わからない」が 9.2%となっています。



7 コミュニティ活動について

問 23 あなたは日頃、地域の自治会・町内会活動やボランティア団体などで、コミュニティ活動をしていますか。(あてはまるものすべてを選択)

「特にない」が76.3%と最も高く、次いで「自治会・町内会活動」が7.6%、「スポーツ・レクリエーションなどのサークル活動」が5.8%となっています。



〈地区別クロス〉

地区別にみると、いずれの地区も「特にない」が最も高くなっています。

単位: %		自治会・町内会活動	清掃活動や福祉ボランティア活動	子ども会・老人クラブなどの地域活動	音楽・舞踊などの文化芸術活動	スポーツ・レクリエーションなどのサークル活動	祭りや各種イベントなどの地域行事活動	その他の活動	特にない	不明・無回答
全体(n=946)		7.6	5.0	0.6	2.2	5.8	4.9	1.9	76.3	2.7
地区別	地区1(n=112)	8.0	3.6	1.8	4.5	8.0	2.7	1.8	75.0	0.9
	地区2(n=173)	7.5	4.0	0.0	0.6	6.9	5.2	1.2	76.9	2.3
	地区3(n=182)	7.7	6.0	0.5	1.6	4.9	4.4	0.5	76.9	4.4
	地区4(n=122)	6.6	4.9	0.0	0.8	2.5	3.3	0.0	82.8	3.3
	地区5(n=163)	10.4	4.9	0.0	3.1	6.1	6.1	3.1	76.7	1.8
	地区6(n=158)	6.3	5.7	1.9	1.9	7.0	5.7	3.2	73.4	1.9

〈職業別クロス〉

職業別にみると、いずれの職業も「特にない」が最も高くなっています。

単位：％		自治会・町内会活動	清掃活動や福祉ボランティア活動	子ども会・老人クラブなどの地域活動	音楽・舞踊などの文化芸術活動	スポーツ・レクリエーションなどの活動	祭りや各種イベントなどの地域行事活動	その他の活動	特にない	不明・無回答
全体 (n=946)		7.6	5.0	0.6	2.2	5.8	4.9	1.9	76.3	2.7
職業別	会社員・役員 (n=328)	6.1	2.1	0.3	0.9	3.0	5.2	0.6	84.5	1.2
	自営業・フリーランス (n=55)	14.5	1.8	0.0	5.5	7.3	10.9	1.8	67.3	1.8
	専門職 (n=22)	9.1	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	86.4	0.0
	公務員・教員 (n=56)	7.1	5.4	0.0	1.8	3.6	7.1	1.8	73.2	3.6
	学生 (n=13)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.4	7.7	84.6	0.0
	専業主婦・専業主夫 (n=108)	11.1	7.4	1.9	3.7	11.1	6.5	3.7	65.7	3.7
	パート・アルバイト (n=134)	6.0	6.7	0.0	2.2	8.2	6.0	3.0	73.1	1.5
	無職 (n=188)	7.4	6.4	1.6	2.1	7.4	0.5	2.1	73.4	6.4
	その他 (n=23)	8.7	17.4	0.0	0.0	8.7	4.3	0.0	73.9	0.0

〈年齢別クロス〉

年齢別にみると、いずれの年齢も「特にない」が最も高くなっています。

単位：％		自治会・町内会活動	清掃活動や福祉ボランティア活動	子ども会・老人クラブなどの地域活動	音楽・舞踊などの文化芸術活動	スポーツ・レクリエーションなどの活動	祭りや各種イベントなどの地域行事活動	その他の活動	特にない	不明・無回答
全体 (n=946)		7.6	5.0	0.6	2.2	5.8	4.9	1.9	76.3	2.7
年齢別	18～29歳 (n=69)	0.0	1.4	0.0	0.0	1.4	7.2	2.9	87.0	1.4
	30～39歳 (n=132)	6.8	2.3	1.5	1.5	2.3	7.6	0.8	82.6	0.0
	40～49歳 (n=157)	3.2	1.9	0.0	0.6	4.5	6.4	1.3	82.8	2.5
	50～59歳 (n=197)	9.6	4.6	0.0	0.5	3.6	2.5	1.0	81.7	0.0
	60～69歳 (n=150)	8.0	8.7	0.0	3.3	8.0	5.3	2.7	68.7	2.7
	70～79歳 (n=146)	11.6	8.9	2.1	4.8	13.7	4.8	3.4	67.1	2.7
	80歳以上 (n=77)	10.4	5.2	1.3	2.6	6.5	1.3	1.3	63.6	15.6

〈家族内被支援者別クロス〉

家族内被支援者別にみると、いずれの区分も「特にない」が最も高くなっています。

単位：％		自治会・町内会活動	清掃活動や福祉ボランティア活動	子ども会・老人クラブなどの地域活動	音楽・舞踊などの文化芸術活動	スポーツ・レクリエーションなどのサークル活動	祭りや各種イベントなどの地域行事活動	その他の活動	特にない	不明・無回答
全体(n=946)		7.6	5.0	0.6	2.2	5.8	4.9	1.9	76.3	2.7
家族内被支援者別	介護保険のサービスを受けている(n=74)	5.4	5.4	0.0	4.1	2.7	2.7	4.1	75.7	9.5
	障害福祉のサービスを受けている(n=50)	6.0	6.0	2.0	4.0	6.0	10.0	0.0	72.0	2.0
	家族の介護・介助をしている(n=38)	10.5	0.0	0.0	5.3	7.9	2.6	2.6	68.4	7.9
	18歳未満の子がいる(n=168)	9.5	4.2	1.2	1.8	4.2	8.9	2.4	76.2	1.2
	高齢者(65歳以上)のみである(n=156)	10.3	7.1	1.3	6.4	10.3	4.5	3.8	66.0	5.1
	外国籍である(n=24)	8.3	8.3	4.2	0.0	0.0	4.2	4.2	62.5	12.5
	ひきこもりの状態である(n=15)	0.0	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	80.0	13.3
	いずれもない(n=471)	6.4	4.5	0.0	0.8	5.9	4.0	1.1	81.3	0.4

〈近所付き合いの変化別クロス〉

近所付き合いの変化別にみると、いずれの区分も「特にない」が最も高くなっています。

単位：％		自治会・町内会活動	清掃活動や福祉ボランティア活動	子ども会・老人クラブなどの地域活動	音楽・舞踊などの文化芸術活動	スポーツ・レクリエーションなどのサークル活動	祭りや各種イベントなどの地域行事活動	その他の活動	特にない	不明・無回答
全体(n=946)		7.6	5.0	0.6	2.2	5.8	4.9	1.9	76.3	2.7
近所付き合いの変化別	近所付き合いはかなり減った(n=63)	11.1	4.8	0.0	1.6	11.1	9.5	0.0	65.1	6.3
	近所付き合いは少し減った(n=52)	13.5	7.7	0.0	7.7	11.5	7.7	0.0	55.8	3.8
	大きな変化はない(n=433)	9.2	5.8	0.5	2.3	6.0	4.8	1.6	75.1	2.5
	近所付き合いは少し増えた(n=40)	22.5	7.5	0.0	5.0	10.0	0.0	10.0	62.5	0.0
	近所付き合いはかなり増えた(n=13)	7.7	15.4	0.0	0.0	15.4	15.4	0.0	53.8	7.7
	居住期間が短くわからない(n=266)	2.3	3.0	0.8	0.8	3.8	4.5	1.9	85.0	1.9
	その他(n=28)	3.6	0.0	3.6	0.0	0.0	0.0	7.1	89.3	0.0
	わからない(n=31)	3.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	96.8	0.0

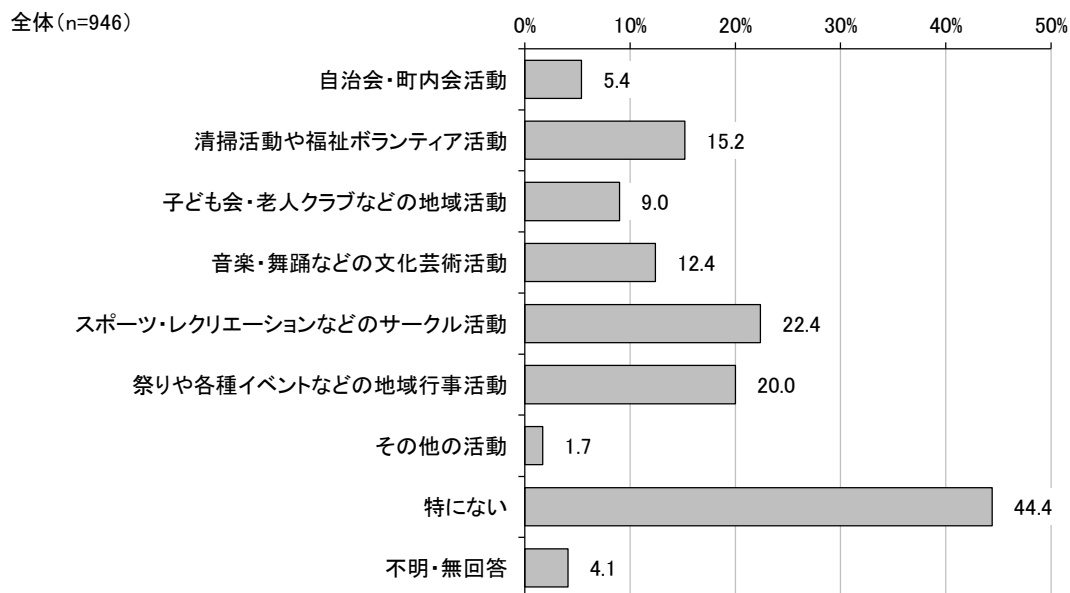
〈近所付き合いの意向別クロス〉

近所付き合いの意向別にみると、いずれの区分も「特にない」が最も高くなっています。

単位：％		自治会・町内会活動	清掃活動や福祉ボランティア活動	子ども会・老人クラブなどの地域活動	音楽・舞踊などの文化芸術活動	スポーツ・レクリエーションなどのサークル活動	祭りや各種イベントなどの地域行事活動	その他の活動	特にない	不明・無回答
全体 (n=946)		7.6	5.0	0.6	2.2	5.8	4.9	1.9	76.3	2.7
近所付き合い意向別の	近所付き合いを深めたい (n=115)	8.7	3.5	0.0	6.1	8.7	8.7	1.7	69.6	3.5
	現状のままでよい (n=708)	8.1	5.4	0.8	1.6	5.8	4.8	2.0	76.7	2.3
	近所付き合いをなるべくしたくない (n=80)	5.0	5.0	0.0	2.5	3.8	0.0	0.0	85.0	0.0
	近所付き合いをやめたい (n=3)	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0
	その他 (n=18)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	5.6	72.2	11.1

問 24 あなたは今後機会があれば、どのようなコミュニティ活動をしてみたいですか。
(あてはまるものすべてを選択)

「特にない」が 44.4%と最も高く、次いで「スポーツ・レクリエーションなどのサークル活動」が 22.4%、「祭りや各種イベントなどの地域行事活動」が 20.0%となっています。



〈地区別クロス〉

地区別にみると、いずれの地区も「特にない」が最も高くなっています。

単位：％		自治会・町内会活動	清掃活動や福祉ボランティア活動	子ども会・老人クラブなどの地域活動	音楽・舞踊などの文化芸術活動	スポーツ・レクリエーション活動	祭りや各種イベントなどの地域行事活動	その他の活動	特にない	不明・無回答
全体 (n=946)		5.4	15.2	9.0	12.4	22.4	20.0	1.7	44.4	4.1
地区別	地区1 (n=112)	8.9	11.6	8.9	10.7	25.9	17.9	0.9	42.9	8.0
	地区2 (n=173)	6.4	17.3	8.7	8.7	19.7	18.5	2.3	45.1	2.9
	地区3 (n=182)	4.4	13.7	8.2	16.5	22.5	24.2	1.6	44.0	3.8
	地区4 (n=122)	4.1	12.3	10.7	14.8	24.6	22.1	3.3	41.8	4.9
	地区5 (n=163)	7.4	15.3	8.6	8.6	23.3	15.3	1.2	52.1	1.2
	地区6 (n=158)	3.2	19.6	9.5	12.7	20.9	22.2	0.6	44.3	3.2

〈職業別クロス〉

職業別にみると、いずれの職業も「特にない」が最も高くなっています。

単位：％		自治会・町内会活動	清掃活動や福祉ボランティア活動	子ども会・老人クラブなどの地域活動	音楽・舞踊などの文化芸術活動	スポーツ・レクリエーション活動	祭りや各種イベントなどの地域行事活動	その他の活動	特にない	不明・無回答
全体 (n=946)		5.4	15.2	9.0	12.4	22.4	20.0	1.7	44.4	4.1
職業別	会社員・役員 (n=328)	4.6	14.6	9.5	11.0	22.0	28.7	2.1	45.1	0.9
	自営業・フリーランス (n=55)	3.6	18.2	5.5	18.2	25.5	18.2	3.6	41.8	5.5
	専門職 (n=22)	4.5	22.7	4.5	9.1	18.2	22.7	0.0	50.0	0.0
	公務員・教員 (n=56)	7.1	10.7	10.7	14.3	23.2	30.4	0.0	35.7	3.6
	学生 (n=13)	0.0	0.0	0.0	15.4	30.8	7.7	0.0	53.8	0.0
	専業主婦・専業主夫 (n=108)	8.3	20.4	17.6	13.0	23.1	16.7	0.9	38.0	8.3
	パート・アルバイト (n=134)	6.0	16.4	6.0	11.9	29.9	19.4	2.2	39.6	3.0
	無職 (n=188)	4.3	12.2	6.9	12.8	18.1	6.9	0.5	53.2	8.0
	その他 (n=23)	13.0	26.1	8.7	0.0	17.4	17.4	4.3	47.8	0.0

〈年齢別クロス〉

年齢別にみると、年齢の高い方が「祭りや各種イベントなどの地域行事活動」の割合が低くなる傾向にあります。

単位：％		自治会・町内会活動	清掃活動や福祉ボランティア活動	子ども会・老人クラブなどの地域活動	音楽・舞踊などの文化芸術活動	スポーツ・レクリエーションなどの活動	祭りや各種イベントなどの地域行事活動	その他の活動	特にない	不明・無回答
全体 (n=946)		5.4	15.2	9.0	12.4	22.4	20.0	1.7	44.4	4.1
年齢別	18～29歳 (n=69)	0.0	10.1	8.7	14.5	24.6	37.7	1.4	34.8	0.0
	30～39歳 (n=132)	5.3	12.1	17.4	12.1	22.7	31.1	2.3	42.4	0.8
	40～49歳 (n=157)	5.1	16.6	10.8	14.6	21.7	25.5	1.3	45.2	1.3
	50～59歳 (n=197)	5.6	15.7	2.5	8.6	19.8	17.8	3.0	51.8	3.6
	60～69歳 (n=150)	7.3	22.7	9.3	14.0	27.3	18.0	1.3	42.7	1.3
	70～79歳 (n=146)	5.5	14.4	6.8	12.3	26.7	8.2	0.7	40.4	8.9
	80歳以上 (n=77)	7.8	9.1	10.4	7.8	11.7	7.8	0.0	50.6	14.3

〈家族内被支援者別クロス〉

家族内被支援者別にみると、〔外国籍である〕では「スポーツ・レクリエーションなどのサークル活動」、その他の区分では「特にない」が最も高くなっています。

単位：％		自治会・町内会活動	清掃活動や福祉ボランティア活動	子ども会・老人クラブなどの地域活動	音楽・舞踊などの文化芸術活動	スポーツ・レクリエーションなどの活動	祭りや各種イベントなどの地域行事活動	その他の活動	特にない	不明・無回答
全体 (n=946)		5.4	15.2	9.0	12.4	22.4	20.0	1.7	44.4	4.1
家族内被支援者別	介護保険のサービスを受けている (n=74)	2.7	17.6	10.8	10.8	14.9	14.9	1.4	47.3	9.5
	障害福祉のサービスを受けている (n=50)	4.0	16.0	14.0	4.0	18.0	14.0	2.0	48.0	4.0
	家族の介護・介助をしている (n=38)	10.5	5.3	13.2	13.2	18.4	23.7	0.0	44.7	15.8
	18歳未満の子がいる (n=168)	6.0	13.1	18.5	13.1	24.4	33.9	2.4	36.3	1.8
	高齢者 (65歳以上) のみである (n=156)	7.1	10.9	10.3	13.5	27.6	9.6	1.9	39.7	7.1
	外国籍である (n=24)	4.2	8.3	20.8	29.2	37.5	25.0	4.2	16.7	0.0
	ひきこもりの状態である (n=15)	6.7	0.0	13.3	13.3	13.3	6.7	0.0	60.0	13.3
	いずれもない (n=471)	4.9	18.0	5.5	12.3	22.1	20.8	1.5	47.1	2.8

〈近所付き合いの変化別クロス〉

近所付き合いの変化別にみると、いずれの区分も「特にない」が最も高くなっています。

単位：％		自治会・町内会活動	清掃活動や福祉ボランティア活動	子ども会・老人クラブなどの地域活動	音楽・舞踊などの文化芸術活動	サークル活動	スポーツ・レクリエーションなどの活動	祭りや各種イベントなどの地域行事活動	その他の活動	特にない	不明・無回答
全体 (n=946)		5.4	15.2	9.0	12.4	22.4	20.0	1.7	44.4	4.1	
近所付き合いの変化別	近所付き合いはかなり減った (n=63)	6.3	12.7	11.1	9.5	19.0	11.1	0.0	46.0	7.9	
	近所付き合いは少し減った (n=52)	3.8	9.6	7.7	15.4	25.0	11.5	1.9	48.1	5.8	
	大きな変化はない (n=433)	6.5	15.5	7.2	11.8	20.1	16.9	1.6	49.0	2.8	
	近所付き合いは少し増えた (n=40)	10.0	25.0	10.0	7.5	25.0	27.5	0.0	30.0	7.5	
	近所付き合いはかなり増えた (n=13)	7.7	15.4	23.1	15.4	23.1	23.1	0.0	30.8	0.0	
	居住期間が短くわからない (n=266)	3.8	15.8	10.5	13.9	28.2	28.2	1.5	38.3	3.0	
	その他 (n=28)	0.0	17.9	3.6	10.7	14.3	14.3	10.7	50.0	10.7	
	わからない (n=31)	6.5	3.2	16.1	9.7	19.4	29.0	0.0	48.4	3.2	

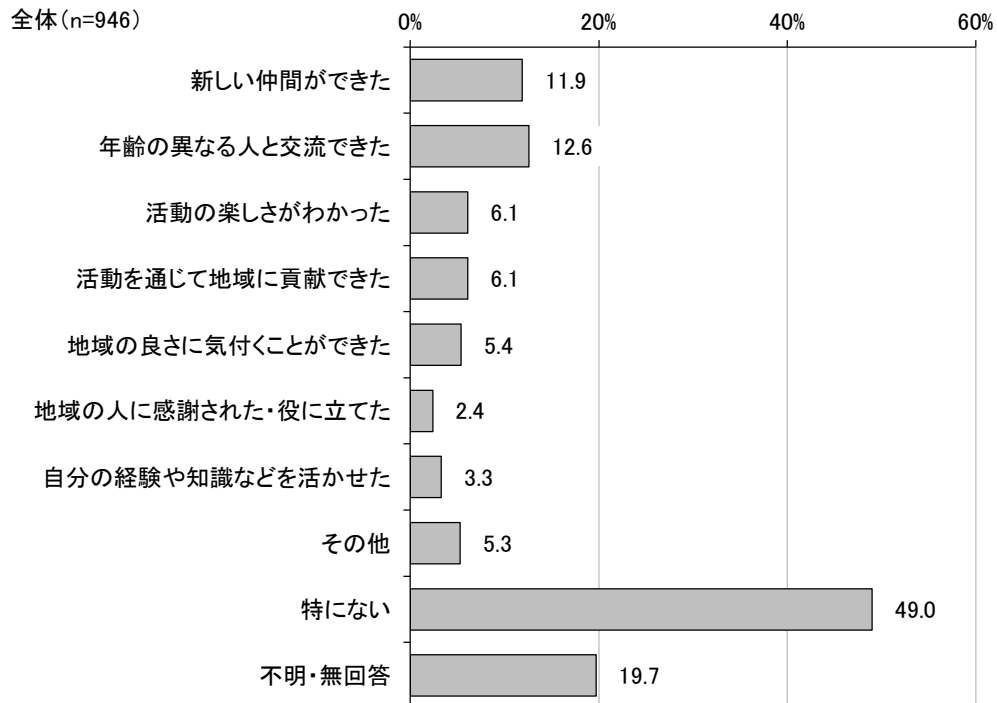
〈近所付き合いの意向別クロス〉

近所付き合いの意向別にみると、〔近所付き合いを深めたい〕では「祭りや各種イベントなどの地域行事活動」、その他の区分では「特にない」が最も高くなっています。

単位：%		自治会・町内会活動	清掃活動や福祉ボランティア活動	子ども会・老人クラブなどの地域活動	音楽・舞踊などの文化芸術活動	サークル活動	スポーツ・レクリエーションなどの活動	祭りや各種イベントなどの地域行事活動	その他の活動	特にない	不明・無回答
全体 (n=946)		5.4	15.2	9.0	12.4	22.4	20.0	1.7	44.4	4.1	
近所付き合いの意向別	近所付き合いを深めたい(n=115)	14.8	21.7	20.9	23.5	34.8	37.4	3.5	19.1	3.5	
	現状のままでよい(n=708)	4.2	14.4	7.1	11.3	21.8	18.2	1.0	47.0	4.1	
	近所付き合いをなるべくしたくない(n=80)	5.0	12.5	8.8	6.3	13.8	16.3	1.3	56.3	2.5	
	近所付き合いをやめたい(n=3)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	66.7	0.0	
	その他(n=18)	0.0	16.7	5.6	11.1	22.2	16.7	11.1	44.4	5.6	

問 25 コミュニティ活動に参加して良かったと思うことは何ですか。
(あてはまるものすべてを選択)

「特にない」が 49.0%と最も高く、次いで「年齢の異なる人と交流できた」が 12.6%、「新しい仲間ができた」が 11.9%となっています。



問 26 あなたは、地域で困っている世帯がある場合、現在既に「手助けしていること」や今後「手助けできること」はありますか。また、現在もしくは将来的に、あなた自身が地域の人に「手助けしてもらいたいこと」はありますか。

(①～⑳のそれぞれ、あてはまるものすべてを選択)

「手助けしていること」については、いずれの項目も3%未満となっています。「手助けできること」については、〔① 安否確認の声かけ〕で4割台、〔② 話し相手〕〔④ 日用品などのちょっとした買い物〕〔⑤ 電球交換などのちょっとした作業〕〔⑥ ごみ出し〕〔⑫ 散歩の付き添い〕〔⑲ 近所のイベントの手伝い〕で3割台となっています。「手助けしてもらいたいこと」については、〔⑯ 経済的な支援〕で2割台となっています。

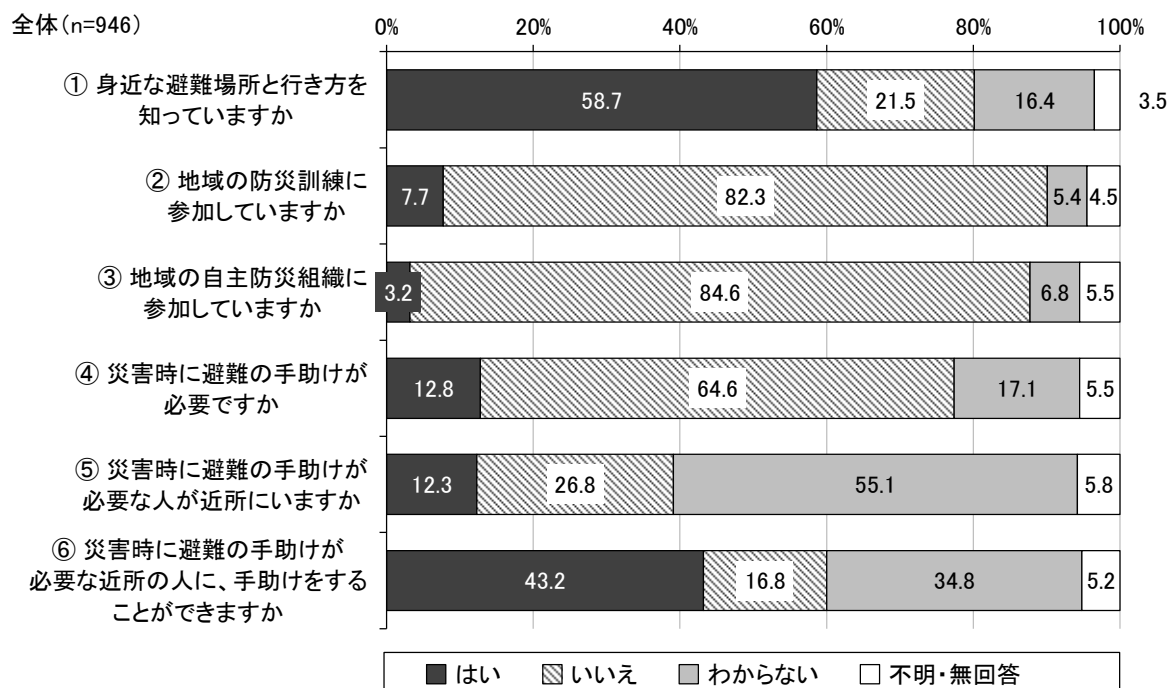
上段:度数 下段: %	全 体	手 助 け し て い る こ と	で き る 手 助 け こ と	も 手 助 け た い こ と	無 不 回 明 答 ・
① 安否確認の声かけ	946 100.0	24 2.5	404 42.7	118 12.5	400 42.3
② 話し相手	946 100.0	27 2.9	370 39.1	68 7.2	481 50.8
③ 困りごとなどの相談	946 100.0	19 2.0	277 29.3	153 16.2	497 52.5
④ 日用品などのちょっとした買い物	946 100.0	15 1.6	349 36.9	97 10.3	485 51.3
⑤ 電球交換などのちょっとした作業	946 100.0	16 1.7	315 33.3	132 14.0	483 51.1
⑥ ごみ出し	946 100.0	27 2.9	312 33.0	84 8.9	523 55.3
⑦ 家の中の掃除や洗濯	946 100.0	20 2.1	223 23.6	115 12.2	588 62.2
⑧ 庭の手入れ	946 100.0	20 2.1	216 22.8	106 11.2	604 63.8
⑨ 食事づくり	946 100.0	16 1.7	202 21.4	115 12.2	613 64.8
⑩ 短時間の子どもの預かり	946 100.0	10 1.1	229 24.2	97 10.3	610 64.5
⑪ 保育園・幼稚園の送迎	946 100.0	10 1.1	222 23.5	87 9.2	627 66.3
⑫ 散歩の付き添い	946 100.0	11 1.2	291 30.8	53 5.6	591 62.5
⑬ 通院の付き添い(送迎)	946 100.0	7 0.7	205 21.7	120 12.7	614 64.9
⑭ 買い物の付き添い(送迎)	946 100.0	12 1.3	213 22.5	99 10.5	622 65.8
⑮ 病気の時の看病	946 100.0	13 1.4	142 15.0	153 16.2	638 67.4
⑯ 経済的な支援	946 100.0	11 1.2	106 11.2	199 21.0	630 66.6
⑰ 防犯見回り、防災訓練などへの参加	946 100.0	16 1.7	271 28.6	90 9.5	569 60.1
⑱ 災害時・緊急時の手助け	946 100.0	9 1.0	275 29.1	172 18.2	490 51.8
⑲ 近所のイベントの手伝い	946 100.0	17 1.8	309 32.7	49 5.2	571 60.4
⑳ その他	946 100.0	5 0.5	38 4.0	20 2.1	883 93.3

8 防災活動について

問 27 防災に関連する項目について、①～⑥のそれぞれあてはまるものをお答えください。
(①～⑥のそれぞれ1つを選択)

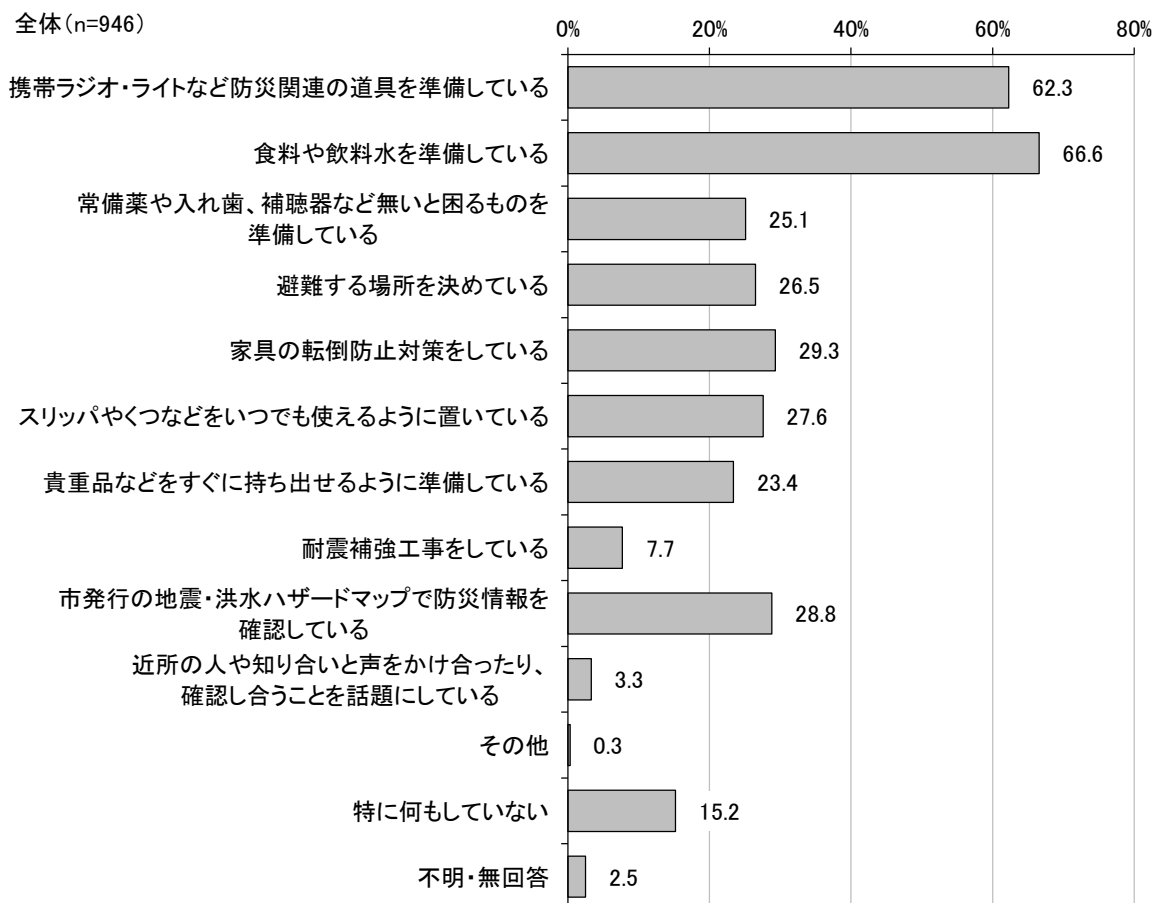
「はい」については、〔① 身近な避難場所と行き方を知っていますか〕で5割台後半、〔⑥ 災害時に避難の手助けが必要な近所の人に、手助けをすることができますか〕で4割台となっています。

「いいえ」については、〔② 地域の防災訓練に参加していますか〕〔③ 地域の自主防災組織に参加していますか〕で8割台、〔④ 災害時に避難の手助けが必要ですか〕で6割台となっています。



問 28 災害時の備えとして、普段どのようなことをしていますか。
 (あてはまるものすべてを選択)

「食料や飲料水を準備している」が 66.6%と最も高く、次いで「携帯ラジオ・ライトなど防災関連の道具を準備している」が 62.3%、「家具の転倒防止対策をしている」が 29.3%となっています。



〈年齢別クロス〉

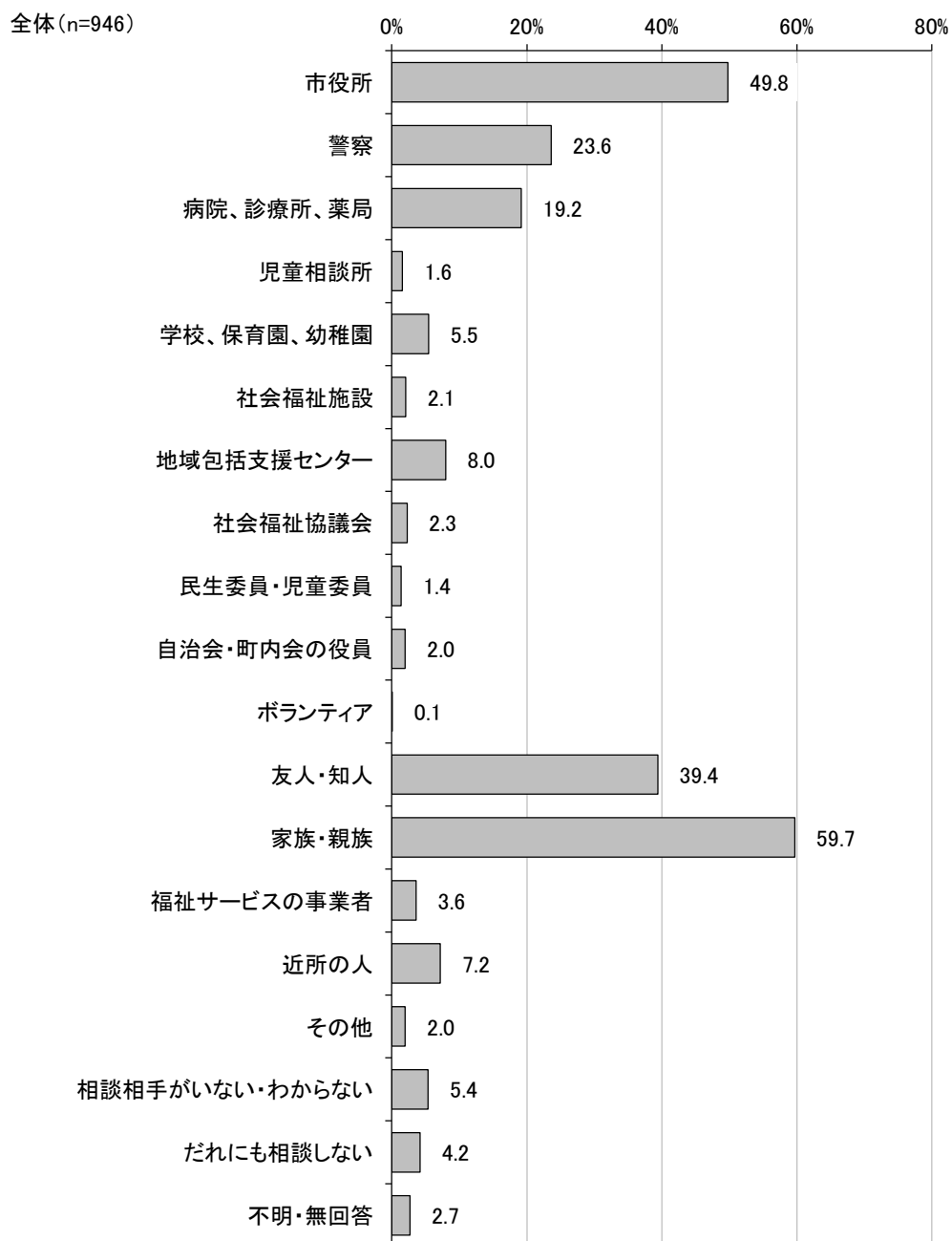
年齢別にみると、18～59 歳では「食料や飲料水を準備している」、60 歳以上では「携帯ラジオ・ライトなど防災関連の道具を準備している」が最も高くなっています。また、30～49 歳では「市発行の地震・洪水ハザードマップで防災情報を確認している」が他の年齢と比べて高くなっています。

単位：％		携帯ラジオ・ライトなど防災関連の道具を準備している	食料や飲料水を準備している	常備薬や入れ歯、補聴器など無いと困るものを準備している	避難する場所を決めている	家具の転倒防止対策をしている	スリッパやくつなどをいつでも使えるように置いている	貴重品などをすぐに持ち出せるように準備している	耐震補強工事をしている	市発行の地震・洪水ハザードマップで防災情報を確認している	近所の人や知り合いと声をかけ合ったり、確認し合うことを話題にしている	その他	特に何もしていない	不明・無回答
全体 (n=946)		62.3	66.6	25.1	26.5	29.3	27.6	23.4	7.7	28.8	3.3	0.3	15.2	2.5
年齢別	18～29歳 (n=69)	49.3	66.7	21.7	20.3	14.5	30.4	21.7	5.8	23.2	0.0	2.9	14.5	1.4
	30～39歳 (n=132)	52.3	78.0	23.5	25.0	31.1	31.8	27.3	8.3	36.4	3.8	0.0	11.4	0.8
	40～49歳 (n=157)	65.0	76.4	26.8	24.8	30.6	28.7	21.7	8.3	43.9	1.9	0.6	9.6	1.3
	50～59歳 (n=197)	60.4	61.9	20.8	26.9	26.9	24.9	16.2	8.6	28.4	1.5	0.0	16.8	1.5
	60～69歳 (n=150)	69.3	68.0	24.0	29.3	33.3	24.0	23.3	6.0	26.7	2.0	0.0	17.3	1.3
	70～79歳 (n=146)	67.8	59.6	28.8	28.8	34.2	28.1	28.1	8.9	21.9	8.2	0.0	19.9	3.4
	80歳以上 (n=77)	67.5	54.5	32.5	24.7	26.0	27.3	29.9	5.2	11.7	6.5	0.0	19.5	7.8

9 困りごとの相談について

問 29 日常生活で困ったことがあった場合、どこに相談しますか。
(あてはまるものすべてを選択)

「家族・親族」が 59.7%と最も高く、次いで「市役所」が 49.8%、「友人・知人」が 39.4%となっています。



〈地区別クロス〉

地区別にみると、いずれの地区も「家族・親族」が最も高くなっています。また、地区3では「市役所」が他の地区と比べて高くなっています。

単位：％		市役所	警察	病院、診療所、薬局	児童相談所	学校、保育園、幼稚園	社会福祉施設	地域包括支援センター	社会福祉協議会	民生委員・児童委員	自治会・町内会の役員	ボランティア	友人・知人	家族・親族
全体 (n=946)		49.8	23.6	19.2	1.6	5.5	2.1	8.0	2.3	1.4	2.0	0.1	39.4	59.7
地区別	地区1 (n=112)	42.0	16.1	17.0	0.0	5.4	1.8	7.1	3.6	2.7	2.7	0.0	44.6	68.8
	地区2 (n=173)	42.8	22.5	22.0	1.7	4.0	1.7	7.5	2.3	1.7	2.9	0.6	41.6	59.5
	地区3 (n=182)	60.4	26.4	15.9	2.2	7.7	2.7	11.5	4.9	1.1	1.1	0.0	38.5	61.0
	地区4 (n=122)	48.4	22.1	23.8	0.8	2.5	5.7	9.8	1.6	0.0	2.5	0.0	39.3	60.7
	地区5 (n=163)	50.9	26.4	18.4	2.5	6.7	1.8	6.7	0.0	0.6	3.1	0.0	32.5	54.0
	地区6 (n=158)	50.6	23.4	18.4	1.9	7.0	0.0	5.1	0.0	1.3	0.0	0.0	44.3	60.1

単位：％		福祉サービスの事業者	近所の人	その他	相談相手がない・わからない	だれにも相談しない	不明・無回答
全体 (n=946)		3.6	7.2	2.0	5.4	4.2	2.7
地区別	地区1 (n=112)	2.7	11.6	0.9	5.4	4.5	4.5
	地区2 (n=173)	1.7	7.5	2.9	4.6	5.2	3.5
	地区3 (n=182)	3.8	6.6	1.1	4.9	1.6	1.1
	地区4 (n=122)	4.1	8.2	3.3	4.9	4.9	3.3
	地区5 (n=163)	6.1	6.7	1.8	5.5	6.1	1.2
	地区6 (n=158)	3.8	4.4	1.3	6.3	2.5	2.5

〈職業別クロス〉

職業別にみると、専門職では「友人・知人」、公務員・教員では「市役所」、その他の職業では「家族・親族」が最も高くなっています。

単位：％		市役所	警察	病院、診療所、薬局	児童相談所	学校、保育園、幼稚園	社会福祉施設	地域包括支援センター	社会福祉協議会	民生委員・児童委員	自治会・町内会の役員	ボランティア	友人・知人	家族・親族
全体 (n=946)		49.8	23.6	19.2	1.6	5.5	2.1	8.0	2.3	1.4	2.0	0.1	39.4	59.7
職業別	会社員・役員 (n=328)	50.3	27.7	19.5	3.0	7.3	2.4	3.0	1.2	0.0	0.9	0.3	41.5	62.5
	自営業・フリーランス (n=55)	45.5	18.2	16.4	0.0	7.3	3.6	1.8	1.8	0.0	3.6	0.0	52.7	56.4
	専門職 (n=22)	45.5	27.3	18.2	0.0	9.1	0.0	4.5	0.0	0.0	4.5	0.0	54.5	50.0
	公務員・教員 (n=56)	58.9	26.8	12.5	1.8	7.1	1.8	8.9	3.6	0.0	1.8	0.0	48.2	57.1
	学生 (n=13)	38.5	15.4	7.7	0.0	7.7	0.0	0.0	7.7	0.0	0.0	0.0	46.2	69.2
	専業主婦・専業主夫 (n=108)	52.8	22.2	25.0	0.9	6.5	2.8	16.7	2.8	2.8	3.7	0.0	40.7	67.6
	パート・アルバイト (n=134)	50.0	14.2	13.4	1.5	7.5	0.7	10.4	3.7	2.2	0.0	0.0	49.3	65.7
	無職 (n=188)	47.3	23.4	22.9	0.5	0.0	2.1	13.3	1.6	3.2	4.3	0.0	20.2	49.5
	その他 (n=23)	56.5	30.4	26.1	0.0	0.0	4.3	0.0	4.3	0.0	0.0	0.0	43.5	65.2

単位：％		福祉サービスの事業者	近所の人	その他	相談相手がない・わかからない	だれにも相談しない	不明・無回答
全体 (n=946)		3.6	7.2	2.0	5.4	4.2	2.7
職業別	会社員・役員 (n=328)	1.5	3.7	2.4	6.1	4.6	0.9
	自営業・フリーランス (n=55)	1.8	12.7	0.0	0.0	3.6	3.6
	専門職 (n=22)	0.0	4.5	4.5	13.6	4.5	0.0
	公務員・教員 (n=56)	0.0	0.0	1.8	5.4	8.9	3.6
	学生 (n=13)	0.0	0.0	7.7	7.7	0.0	0.0
	専業主婦・専業主夫 (n=108)	6.5	15.7	0.0	4.6	0.9	2.8
	パート・アルバイト (n=134)	4.5	6.0	3.7	6.0	3.0	2.2
	無職 (n=188)	7.4	9.0	1.1	3.2	4.8	5.3
	その他 (n=23)	0.0	17.4	4.3	8.7	0.0	0.0

〈年齢別クロス〉

年齢別にみると、いずれの年齢も「家族・親族」が最も高くなっています。また、年齢の高い方が「友人・知人」の割合が概ね低くなる傾向にあります。

単位：％		市役所	警察	病院、診療所、薬局	児童相談所	学校、保育園、幼稚園	社会福祉施設	地域包括支援センター	社会福祉協議会	民生委員・児童委員	自治会・町内会の役員	ボランティア	友人・知人	家族・親族
全体 (n=946)		49.8	23.6	19.2	1.6	5.5	2.1	8.0	2.3	1.4	2.0	0.1	39.4	59.7
年齢別	18～29歳 (n=69)	39.1	20.3	13.0	0.0	2.9	1.4	2.9	1.4	0.0	0.0	0.0	44.9	69.6
	30～39歳 (n=132)	50.0	28.8	18.9	5.3	17.4	0.0	0.8	1.5	0.0	0.0	0.8	53.8	68.9
	40～49歳 (n=157)	59.9	23.6	26.1	3.8	14.6	2.5	3.2	2.5	0.0	0.0	0.0	46.5	61.8
	50～59歳 (n=197)	46.7	24.9	15.2	1.0	1.5	3.0	8.1	1.5	1.5	1.0	0.0	45.2	55.3
	60～69歳 (n=150)	54.7	22.7	18.0	0.0	0.7	2.0	7.3	3.3	2.0	5.3	0.0	32.7	55.3
	70～79歳 (n=146)	49.3	18.5	17.8	0.0	0.0	2.7	15.1	2.7	1.4	4.1	0.0	28.1	58.2
	80歳以上 (n=77)	40.3	24.7	24.7	0.0	0.0	2.6	23.4	1.3	5.2	3.9	0.0	18.2	55.8
単位：％		福祉サービスの事業者	近所の人	その他	相談相手がない・わからない	だれにも相談しない	不明・無回答							
全体 (n=946)		3.6	7.2	2.0	5.4	4.2	2.7							
年齢別	18～29歳 (n=69)	0.0	0.0	4.3	5.8	5.8	0.0							
	30～39歳 (n=132)	0.8	6.8	3.0	3.8	3.0	0.8							
	40～49歳 (n=157)	3.2	5.7	3.2	8.9	4.5	1.3							
	50～59歳 (n=197)	3.0	4.1	1.0	5.1	4.6	2.5							
	60～69歳 (n=150)	4.0	8.0	2.0	6.0	4.7	0.7							
	70～79歳 (n=146)	6.2	11.0	0.0	3.4	3.4	5.5							
	80歳以上 (n=77)	9.1	16.9	2.6	2.6	1.3	7.8							

〈家族内被支援者別クロス〉

家族内被支援者別にみると、「障害福祉のサービスを受けている」では「市役所」、その他の区分では「家族・親族」が最も高くなっています。

単位：％		市役所	警察	病院、診療所、薬局	児童相談所	学校、保育園、幼稚園	社会福祉施設	地域包括支援センター	社会福祉協議会	民生委員・児童委員	自治会・町内会の役員	ボランティア	友人・知人	家族・親族
全体 (n=946)		49.8	23.6	19.2	1.6	5.5	2.1	8.0	2.3	1.4	2.0	0.1	39.4	59.7
家族内被支援者別	介護保険のサービスを受けている (n=74)	41.9	16.2	23.0	0.0	0.0	5.4	18.9	2.7	0.0	2.7	0.0	24.3	58.1
	障害福祉のサービスを受けている (n=50)	58.0	12.0	22.0	2.0	10.0	6.0	8.0	2.0	2.0	4.0	0.0	32.0	48.0
	家族の介護・介助をしている (n=38)	39.5	15.8	18.4	0.0	0.0	2.6	21.1	5.3	0.0	0.0	0.0	55.3	60.5
	18歳未満の子がいる (n=168)	59.5	23.2	24.4	7.1	27.4	1.2	5.4	2.4	0.6	0.0	0.0	58.9	73.8
	高齢者 (65歳以上) のみである (n=156)	47.4	21.8	17.9	0.0	0.0	1.9	16.0	1.3	3.8	5.1	0.0	29.5	59.0
	外国籍である (n=24)	41.7	29.2	16.7	0.0	4.2	0.0	4.2	12.5	0.0	0.0	0.0	37.5	54.2
	ひきこもりの状態である (n=15)	13.3	13.3	6.7	0.0	0.0	13.3	0.0	6.7	0.0	0.0	0.0	20.0	40.0
	いずれもない (n=471)	48.6	26.3	17.6	0.4	0.8	1.9	5.5	2.5	0.8	1.3	0.2	38.0	57.5
単位：％		福祉サービスの事業者	近所の人	その他	相談相手がない・わからない	だれにも相談しない	不明・無回答							
全体 (n=946)		3.6	7.2	2.0	5.4	4.2	2.7							
家族内被支援者別	介護保険のサービスを受けている (n=74)	17.6	5.4	4.1	2.7	5.4	8.1							
	障害福祉のサービスを受けている (n=50)	16.0	8.0	0.0	8.0	6.0	2.0							
	家族の介護・介助をしている (n=38)	13.2	7.9	2.6	7.9	2.6	10.5							
	18歳未満の子がいる (n=168)	2.4	10.1	3.0	4.8	1.8	0.6							
	高齢者 (65歳以上) のみである (n=156)	4.5	13.5	0.6	3.2	3.8	1.3							
	外国籍である (n=24)	8.3	4.2	4.2	16.7	4.2	0.0							
	ひきこもりの状態である (n=15)	6.7	0.0	0.0	26.7	20.0	6.7							
	いずれもない (n=471)	1.3	4.5	1.3	5.3	4.9	2.8							

〈近所付き合いの変化別クロス〉

近所付き合いの変化別にみると、いずれの区分も「家族・親族」が最も高くなっています。

単位：％		市役所	警察	病院、診療所、薬局	児童相談所	学校、保育園、幼稚園	社会福祉施設	地域包括支援センター	社会福祉協議会	民生委員・児童委員	自治会・町内会の役員	ボランティア	友人・知人	家族・親族
全体 (n=946)		49.8	23.6	19.2	1.6	5.5	2.1	8.0	2.3	1.4	2.0	0.1	39.4	59.7
近所付き合いの変化別	近所付き合いはかなり減った (n=63)	55.6	22.2	14.3	0.0	1.6	4.8	17.5	1.6	4.8	0.0	0.0	30.2	58.7
	近所付き合いは少し減った (n=52)	48.1	21.2	19.2	1.9	3.8	1.9	5.8	1.9	0.0	3.8	0.0	44.2	57.7
	大きな変化はない (n=433)	50.1	23.3	19.4	1.4	5.5	1.6	7.6	2.5	1.6	2.5	0.0	39.7	59.6
	近所付き合いは少し増えた (n=40)	62.5	20.0	17.5	7.5	10.0	5.0	17.5	0.0	0.0	2.5	0.0	40.0	65.0
	近所付き合いはかなり増えた (n=13)	46.2	38.5	15.4	0.0	7.7	0.0	7.7	0.0	0.0	7.7	0.0	38.5	53.8
	居住期間が短くわからない (n=266)	48.5	25.6	20.7	1.1	6.8	1.9	6.4	2.6	0.8	0.4	0.4	43.2	62.0
	その他 (n=28)	46.4	32.1	28.6	0.0	0.0	3.6	10.7	7.1	3.6	0.0	0.0	39.3	64.3
	わからない (n=31)	38.7	9.7	16.1	3.2	6.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	29.0	48.4
単位：％		福祉サービスの事業者	近所の人	その他	相談相手がない・わからない	だれにも相談しない	不明・無回答							
全体 (n=946)		3.6	7.2	2.0	5.4	4.2	2.7							
近所付き合いの変化別	近所付き合いはかなり減った (n=63)	9.5	11.1	0.0	7.9	9.5	1.6							
	近所付き合いは少し減った (n=52)	5.8	7.7	1.9	1.9	5.8	1.9							
	大きな変化はない (n=433)	2.8	7.9	1.4	5.3	4.2	2.3							
	近所付き合いは少し増えた (n=40)	2.5	15.0	2.5	0.0	0.0	5.0							
	近所付き合いはかなり増えた (n=13)	0.0	15.4	15.4	0.0	7.7	0.0							
	居住期間が短くわからない (n=266)	1.9	5.3	2.3	6.4	3.8	2.3							
	その他 (n=28)	7.1	0.0	3.6	3.6	3.6	7.1							
	わからない (n=31)	6.5	0.0	3.2	12.9	3.2	0.0							

〈近所付き合いの意向別クロス〉

近所付き合いの意向別にみると、〔近所付き合いをやめたい〕を除き、いずれの区分も「家族・親族」が最も高くなっています。

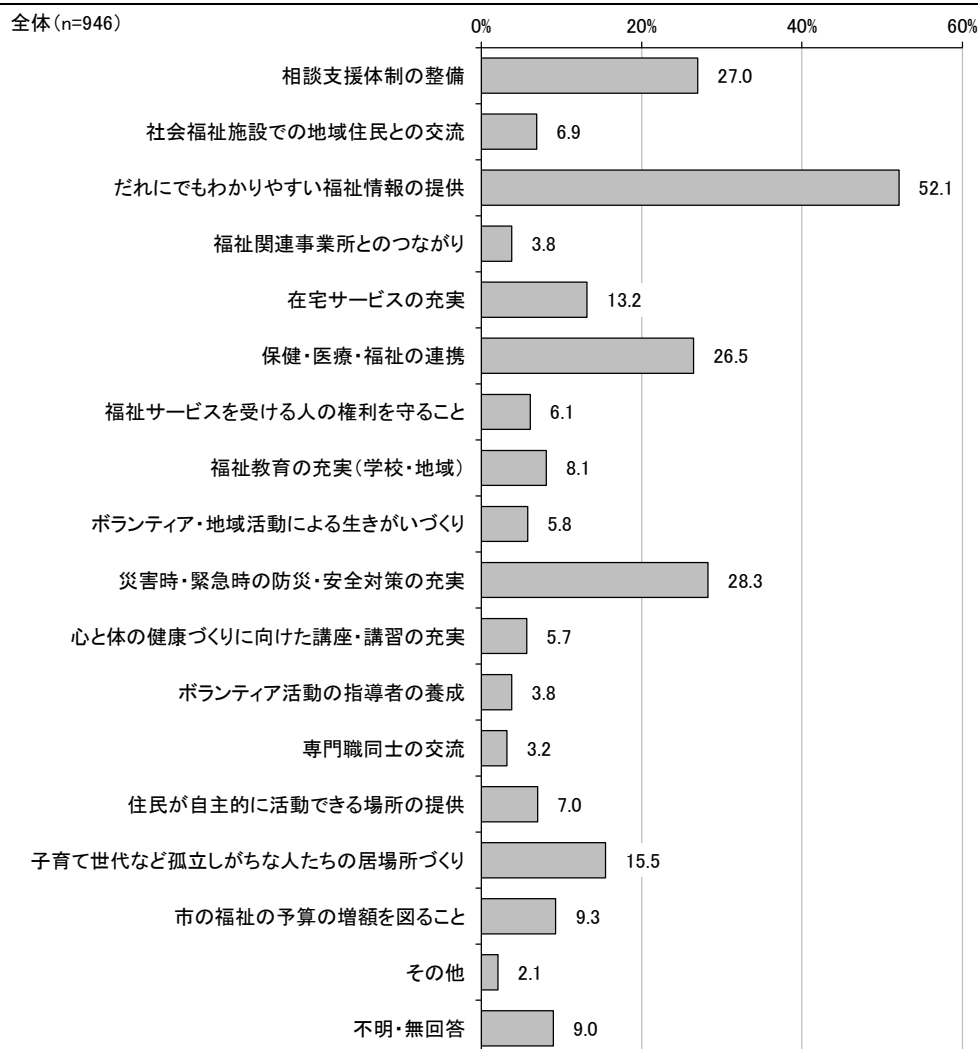
単位：％		市役所	警察	病院、診療所、薬局	児童相談所	学校、保育園、幼稚園	社会福祉施設	地域包括支援センター	社会福祉協議会	民生委員・児童委員	自治会・町内会の役員	ボランティア	友人・知人	家族・親族
全体 (n=946)		49.8	23.6	19.2	1.6	5.5	2.1	8.0	2.3	1.4	2.0	0.1	39.4	59.7
近所付き合いの意向別の	近所付き合いを深めたい (n=115)	52.2	28.7	20.9	1.7	8.7	1.7	13.9	2.6	0.9	2.6	0.9	43.5	61.7
	現状のままでよい (n=708)	50.6	23.4	19.1	1.6	5.6	2.1	7.3	2.1	1.6	1.6	0.0	40.8	61.3
	近所付き合いをなるべくしたくない (n=80)	38.8	17.5	18.8	0.0	1.3	3.8	2.5	2.5	0.0	2.5	0.0	30.0	46.3
	近所付き合いをやめたい (n=3)	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3
	その他 (n=18)	50.0	27.8	22.2	5.6	5.6	0.0	16.7	11.1	5.6	0.0	0.0	38.9	55.6

単位：％		福祉サービスの事業者	近所の人	その他	相談相手がない・わからない	だれにも相談しない	不明・無回答
全体 (n=946)		3.6	7.2	2.0	5.4	4.2	2.7
近所付き合いの意向別の	近所付き合いを深めたい (n=115)	6.1	10.4	1.7	8.7	4.3	3.5
	現状のままでよい (n=708)	3.0	7.8	1.7	3.4	3.8	2.3
	近所付き合いをなるべくしたくない (n=80)	2.5	1.3	3.8	17.5	7.5	3.8
	近所付き合いをやめたい (n=3)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他 (n=18)	5.6	0.0	5.6	11.1	5.6	5.6

10 福祉施策について

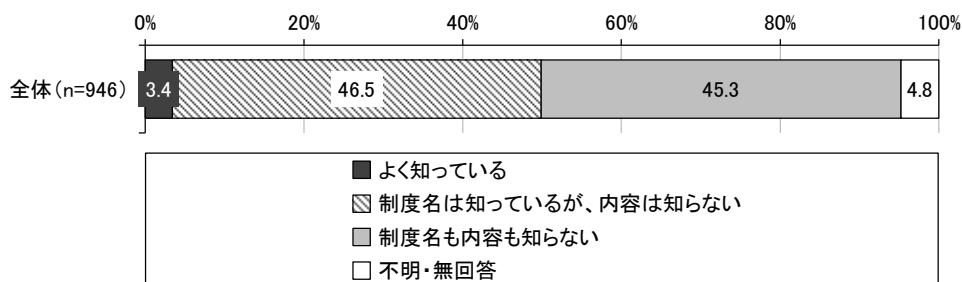
問 30 今後、朝霞市及び朝霞市社会福祉協議会で福祉のまちづくりを進めるためには、どのようなことが必要だと思いますか。（3つまで選択）

「だれにでもわかりやすい福祉情報の提供」が52.1%と最も高く、次いで「災害時・緊急時の防災・安全対策の充実」が28.3%、「相談支援体制の整備」が27.0%となっています。



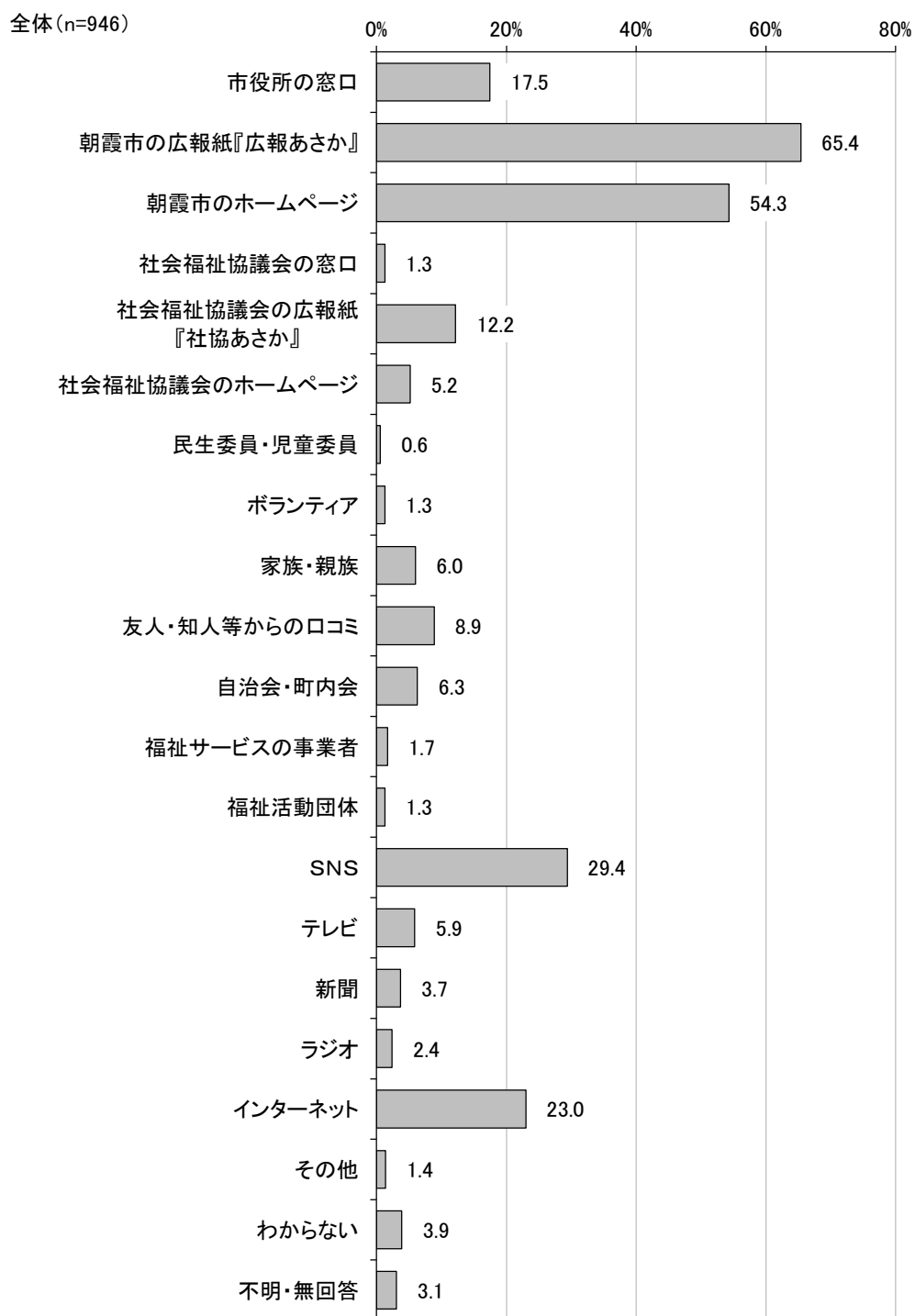
問 31 あなたは、生活困窮者自立支援制度について知っていますか。（1つを選択）

「制度名は知っているが、内容は知らない」が46.5%と最も高く、次いで「制度名も内容も知らない」が45.3%、「よく知っている」が3.4%となっています。



問 32 朝霞市の情報を今後何から手に入れたと思いますか。
(あてはまるものすべてを選択)

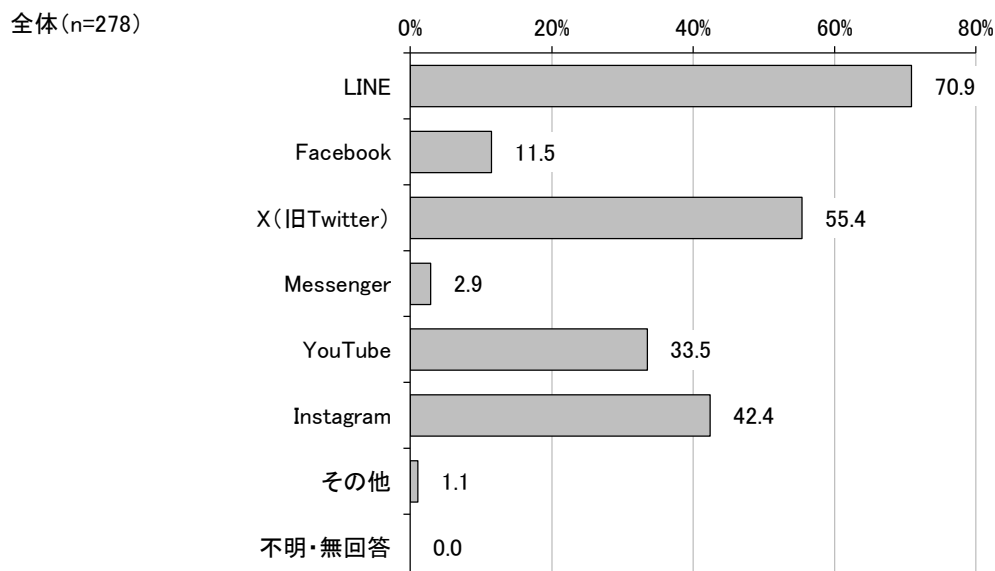
「朝霞市の広報紙『広報あさか』」が 65.4%と最も高く、次いで「朝霞市のホームページ」が 54.3%、「SNS」が 29.4%となっています。



問 32 で「SNS」を選んだ方

問 32-1 あなたが朝霞市に関する情報を手に入れる手段として、利用したい SNS は何ですか。(あてはまるものすべてを選択)

「LINE」が 70.9%と最も高く、次いで「X (旧 Twitter)」が 55.4%、「Instagram」が 42.4%となっています。



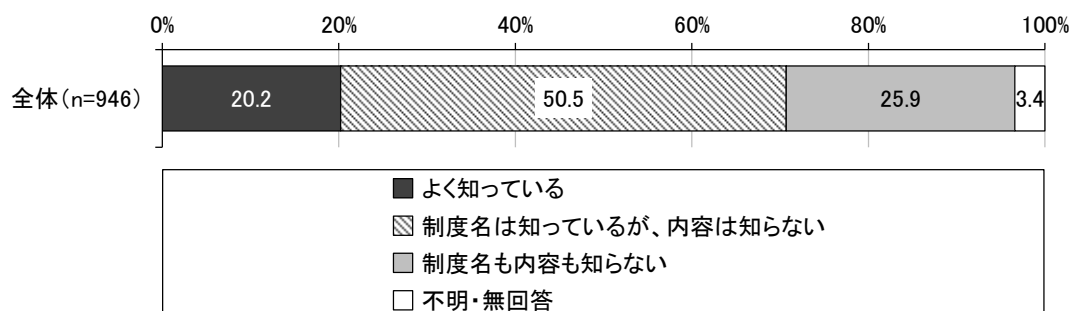
〈年齢別クロス〉

年齢別にみると、18～29 歳では「LINE」が最も高くなっています。また、他の年齢と比べて、18～29 歳では「Instagram」が高く、70～79 歳では「X (旧 Twitter)」「Instagram」が低くなっています。

単位: %		L I N E	F a c e b o o k	X (旧 T w i t t e r)	M e s s e n g e r	Y o u T u b e	I n s t a g r a m	そ の 他	不 明 ・ 無 回 答
全体 (n=278)		70.9	11.5	55.4	2.9	33.5	42.4	1.1	0.0
年 齢 別	18～29 歳 (n=46)	69.6	2.2	65.2	2.2	28.3	67.4	2.2	0.0
	30～39 歳 (n=63)	74.6	7.9	65.1	0.0	34.9	41.3	1.6	0.0
	40～49 歳 (n=65)	66.2	13.8	46.2	3.1	33.8	40.0	0.0	0.0
	50～59 歳 (n=62)	66.1	17.7	59.7	3.2	33.9	38.7	0.0	0.0
	60～69 歳 (n=22)	81.8	22.7	59.1	9.1	40.9	40.9	0.0	0.0
	70～79 歳 (n=14)	100.0	0.0	7.1	0.0	35.7	14.3	7.1	0.0
	80 歳以上 (n=3)	33.3	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0

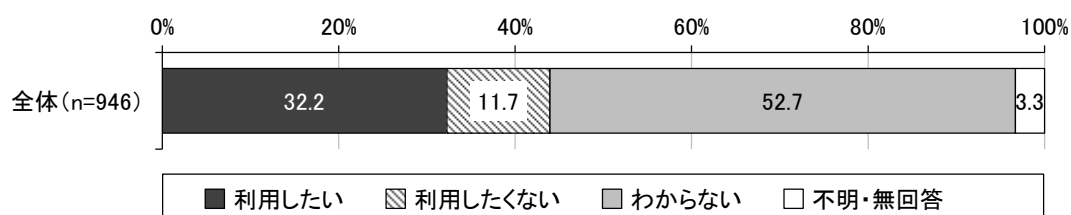
問 33 あなたは、成年後見制度について知っていますか。（1つを選択）

「制度名は知っているが、内容は知らない」が50.5%と最も高く、次いで「制度名も内容も知らない」が25.9%、「よく知っている」が20.2%となっています。



問 34 将来的にあなた自身の判断能力が不十分になった場合、成年後見制度を利用したいと思いますか。（1つを選択）

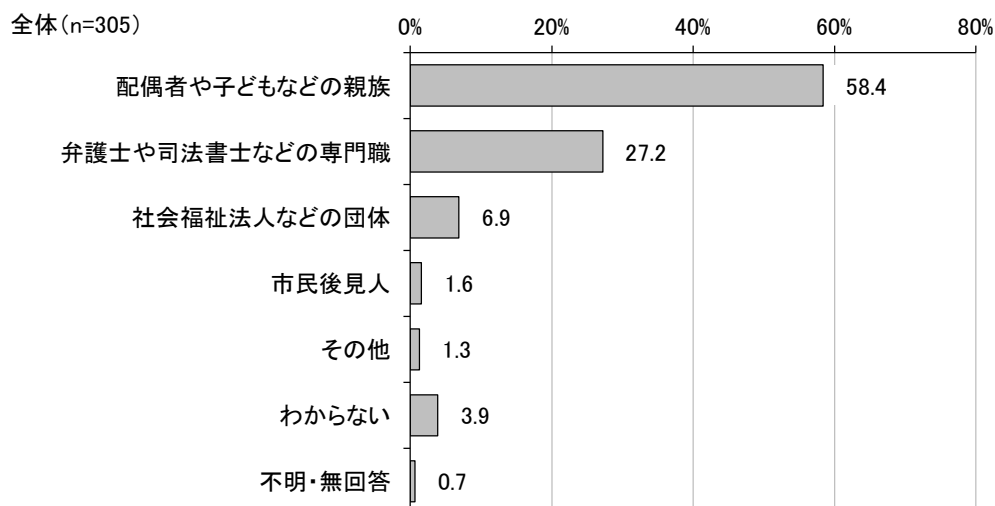
「わからない」が52.7%と最も高く、次いで「利用したい」が32.2%、「利用したくない」が11.7%となっています。



問 34 で「利用したい」を選んだ方

問 34-1 成年後見制度を利用することになった場合、だれに後見人になって支援してほしいですか。(1つを選択)

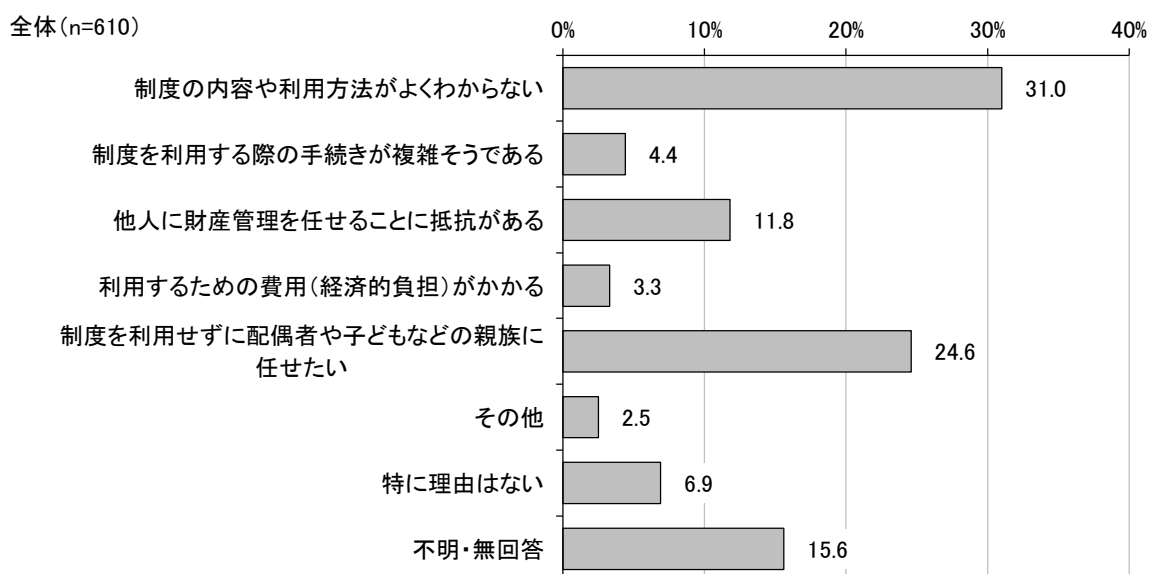
「配偶者や子どもなどの親族」が 58.4%と最も高く、次いで「弁護士や司法書士などの専門職」が 27.2%、「社会福祉法人などの団体」が 6.9%となっています。



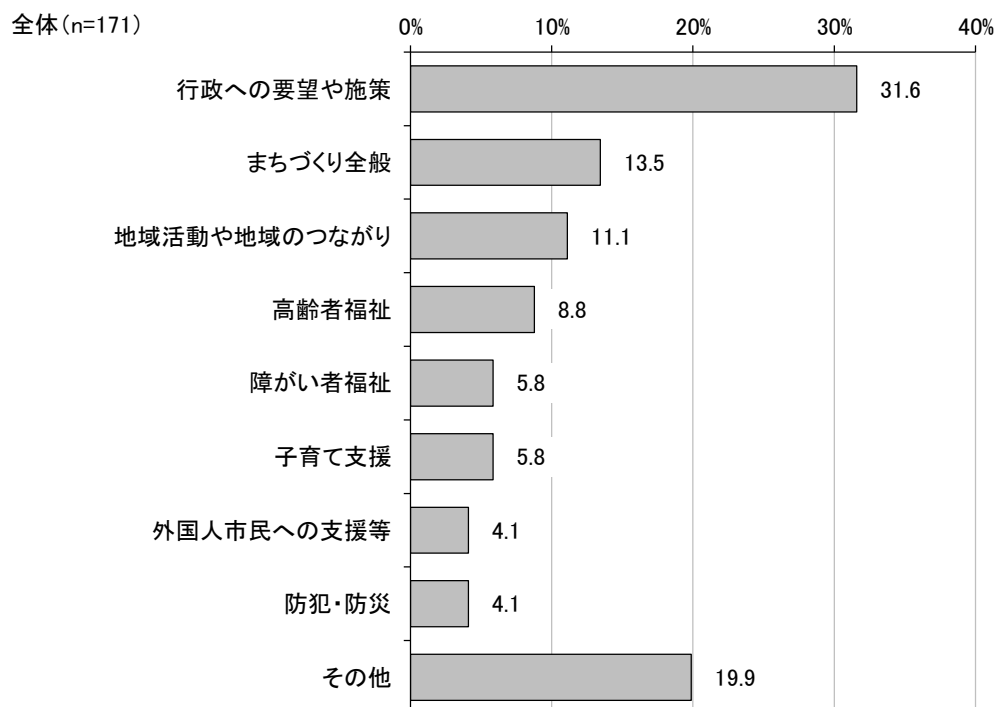
問 34 で「利用したくない」または「わからない」を選んだ方

問 34-2 「利用したくない」あるいは「わからない」と答えた理由は何ですか。(1つを選択)

「制度の内容や利用方法がよくわからない」が 31.0%と最も高く、次いで「制度を利用せずに配偶者や子どもなどの親族に任せたい」が 24.6%、「他人に財産管理を任せることに抵抗がある」が 11.8%となっています。



問 35 最後に、これからの地域福祉の取組について、ご意見などがありましたら自由にご記入ください。（自由記述）



【全体】

自由記述欄に記入があったのは回答者 946 人のうち 171 人（18.1%）である。一人が複数の意見を記入している場合は分割した。このため、意見数は 179 件となった。

「その他」を除いた回答について分類別にみると、「行政への要望や施策」が回答者全体の 31.0% と最も多く、続いて「まちづくり全般」（13.5%）、「地域活動や地域のつながり」（11.1%）となっている。

【分類別】

- 行政への要望や施策（54 件）では、「情報発信の強化、適切な発信方法の検討」「高齢者や子育て世代への支援強化」「市役所の相談窓口の改善」に関する意見が多数あった。
- まちづくり全般（23 件）では、「道路や歩道の整備、安全対策」「コミュニティバスの充実、増便」に関する意見が多数あった。
- 地域活動や地域のつながり（19 件）では、「地域のつながりや近所付き合いの希薄化」「イベント等による交流機会の創出」「負担の少ない町内会や、互助のしくみづくり」などに関する意見があった。
- 高齢者福祉（15 件）では、「移動支援の充実」「高齢者が住みやすいまちづくり」「孤立防止策」などに関する意見があった。
- 障がい者福祉（10 件）では、「相談先の充実と周知」「居場所づくり」「障がいのある人への理解促進」などに関する意見があった。
- 子育て支援（10 件）では、「保育園の充実」「子どもの居場所、遊び場の充実」「産後ケア事業の充実」などに関する意見があった。

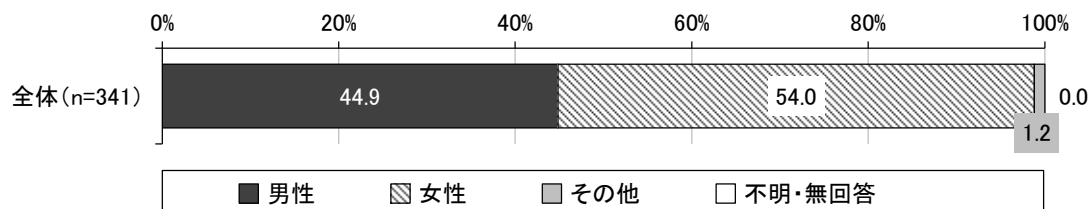
- 外国人市民への支援等（7件）では、「地域におけるゴミ出し等のマナーの遵守」「外国人労働者等の労働環境整備」などに関する意見があった。
- 防犯・防災（7件）では、「防災無線の聞き取りにくさ」「防犯対策の強化」などに関する意見があった。
- その他（34件）では、「地域福祉の更なる推進を願う声」「行政への感謝」などに関する意見が多数あった。

Ⅲ 児童生徒調査結果

1 回答者自身について

問1 あなたの性別を教えてください。(1つを選択)

「女性」が54.0%と最も高く、次いで「男性」が44.9%となっています。



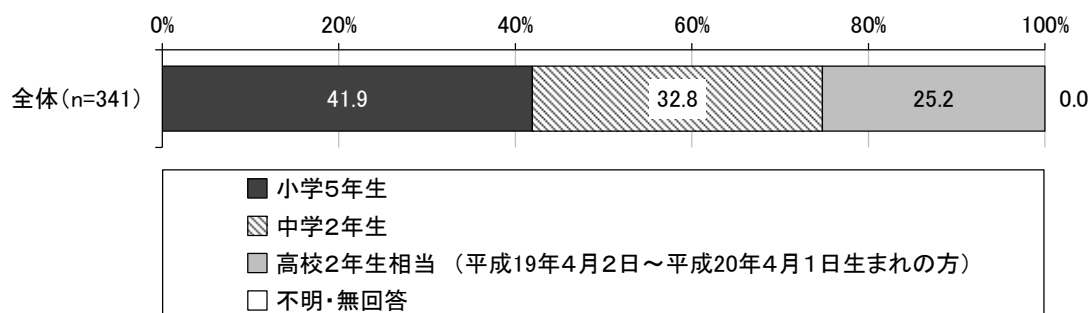
〈学年別クロス〉

学年別にみると、いずれの学年も「女性」が最も高くなっています。

単位: %		男性	女性	その他	不明・無回答
全体 (n=341)		44.9	54.0	1.2	0.0
学年別	小学5年生 (n=143)	45.5	53.8	0.7	0.0
	中学2年生 (n=112)	46.4	52.7	0.9	0.0
	高校2年生相当 (n=86)	41.9	55.8	2.3	0.0

問2 あなたの学年を教えてください。(1つを選択)

「小学5年生」が41.9%と最も高く、次いで「中学2年生」が32.8%、「高校2年生相当（平成19年4月2日～平成20年4月1日生まれの方）」が25.2%となっています。



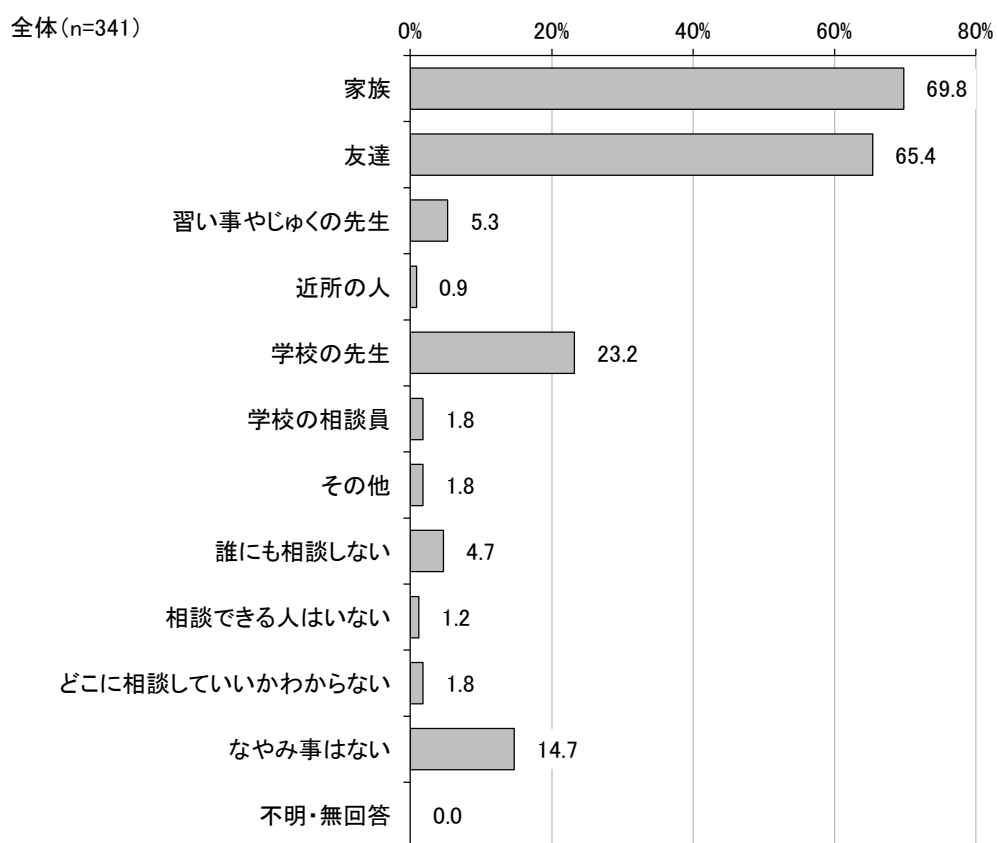
〈性別クロス〉

性別にみると、男女ともに「小学5年生」が最も高くなっています。

単位：％		小学 5 年 生	中学 2 年 生	1日（高校 5年生 ま れ の 方 ） （平成2 9年 4月 2 日 ）	不明・無 回 答
全体（n=341）		41.9	32.8	25.2	0.0
性 別	男性（n=153）	42.5	34.0	23.5	0.0
	女性（n=184）	41.8	32.1	26.1	0.0

問3 ふだんのなやみ事を誰に相談しますか。（あてはまるものすべてを選択）

「家族」が69.8%と最も高く、次いで「友達」が65.4%、「学校の先生」が23.2%となっています。



〈性別クロス〉

性別にみると、男女ともに「家族」が最も高くなっています。また、女性では「友達」の割合が男性と比べて高くなっています。

単位：％		家族	友達	習い事やじゅくの先生	近所の人	学校の先生	学校の相談員	その他	誰にも相談しない	相談できる人はいない	どこに相談していいかわからない	なやみ事はない	不明・無回答
全体 (n=341)		69.8	65.4	5.3	0.9	23.2	1.8	1.8	4.7	1.2	1.8	14.7	0.0
性別	男性 (n=153)	68.0	58.8	8.5	1.3	25.5	2.6	1.3	4.6	0.0	0.7	18.3	0.0
	女性 (n=184)	72.3	71.7	2.7	0.5	21.2	1.1	2.2	3.8	2.2	2.7	11.4	0.0

〈学年別クロス〉

学年別にみると、小学5年生では「家族」、中学2年生では「友達」、高校2年生相当では「家族」「友達」が最も高くなっています。また、高校2年生相当では「学校の先生」が他の学年と比べて低くなっています。

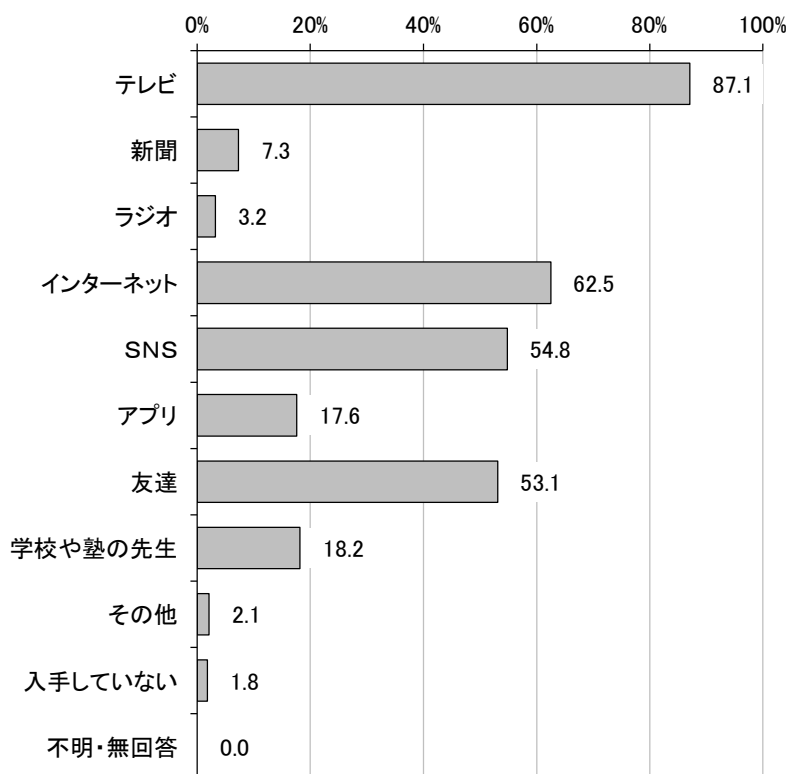
単位：％		家族	友達	習い事やじゅくの先生	近所の人	学校の先生	学校の相談員	その他	誰にも相談しない	相談できる人はいない	どこに相談していいかわからない	なやみ事はない	不明・無回答
全体 (n=341)		69.8	65.4	5.3	0.9	23.2	1.8	1.8	4.7	1.2	1.8	14.7	0.0
学年別	小学5年生 (n=143)	72.7	58.7	5.6	0.7	25.2	0.7	1.4	2.1	0.7	2.1	17.5	0.0
	中学2年生 (n=112)	71.4	75.9	7.1	0.9	27.7	3.6	1.8	4.5	0.0	1.8	11.6	0.0
	高校2年生相当 (n=86)	62.8	62.8	2.3	1.2	14.0	1.2	2.3	9.3	3.5	1.2	14.0	0.0

2 地域での暮らしについて

問4 あなたはふだんの生活で、ニュースや情報をどこから入手していますか。
(あてはまるものすべてを選択)

「テレビ」が87.1%と最も高く、次いで「インターネット」が62.5%、「SNS」が54.8%となっています。

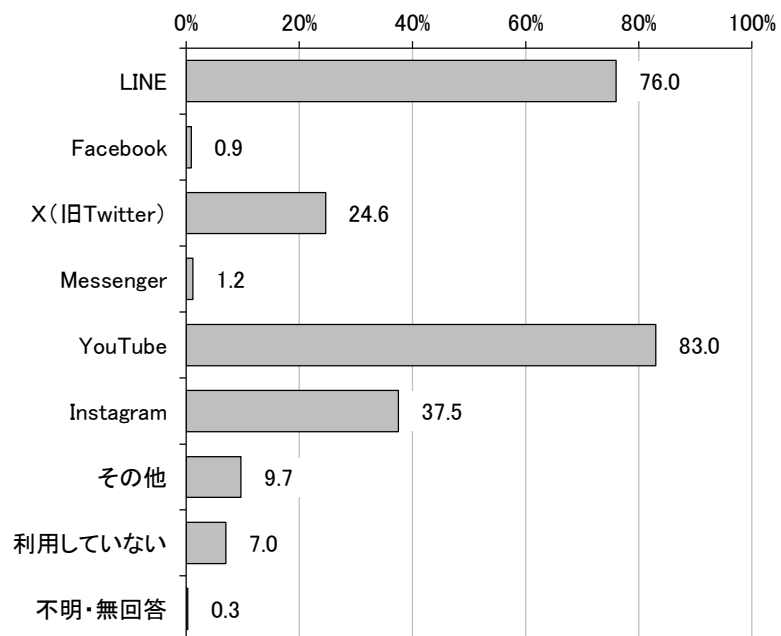
全体(n=341)



問5 あなたがふだん利用しているSNSは何ですか。(あてはまるものすべてを選択)

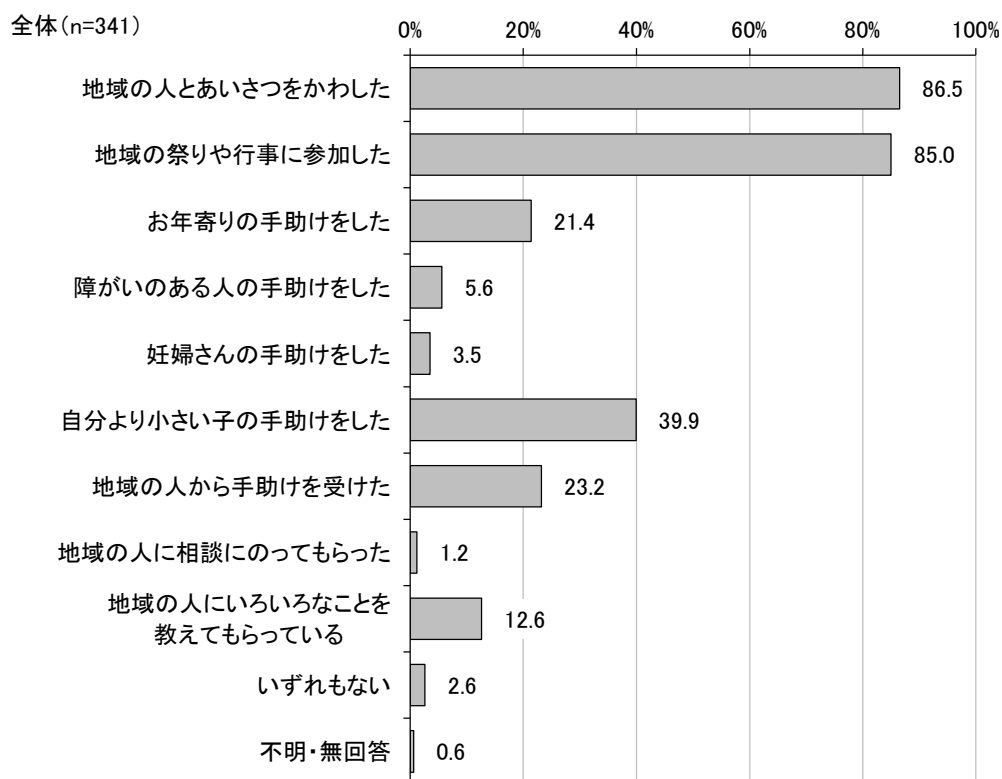
「YouTube」が83.0%と最も高く、次いで「LINE」が76.0%、「Instagram」が37.5%となっています。

全体(n=341)



問6 今までに、あなたが地域で経験したことがあることを教えてください。
(あてはまるものすべてを選択)

「地域の人とあいさつをかわした」が86.5%と最も高く、次いで「地域の祭りや行事に参加した」が85.0%、「自分より小さい子の手助けをした」が39.9%となっています。



〈性別クロス〉

性別にみると、男女ともに「地域の人とあいさつをかわした」が最も高くなっています。

単位: %		地域の人とあいさつをかわした	地域の祭りや行事に参加した	お年寄りの手助けをした	障がいのある人への手助けをした	妊婦さんへの手助けをした	自分より小さい子への手助けをした	地域の人から手助けを受けた	地域の人に相談にのってもらった	地域の人にいろいろなことを教えてもらっている	いずれもない	不明・無回答
全体 (n=341)		86.5	85.0	21.4	5.6	3.5	39.9	23.2	1.2	12.6	2.6	0.6
性別	男性 (n=153)	86.3	85.0	25.5	6.5	3.9	39.2	27.5	2.0	14.4	2.0	1.3
	女性 (n=184)	87.0	85.3	18.5	4.9	3.3	40.8	20.1	0.5	11.4	3.3	0.0

〈学年別クロス〉

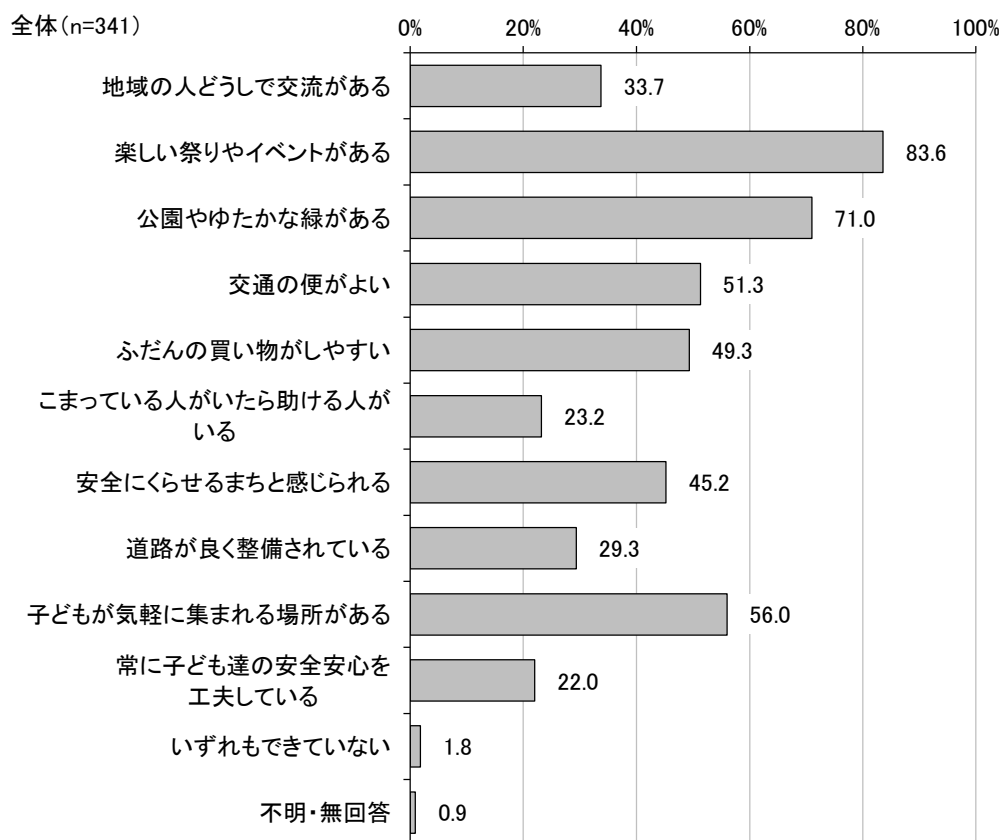
学年別にみると、中学2年生では「地域の祭りや行事に参加した」、その他の学年では「地域の人とあいさつをかわした」が最も高くなっています。また、学年の高い方が「自分より小さい子の手助けをした」の割合が低くなる傾向にあります。

単位：%		地域の人とあいさつをかわした	地域の祭りや行事に参加した	お年寄りの手助けをした	障がいのある人への手助けをした	妊婦さんへの手助けをした	自分より小さい子の手助けをした	地域の人から手助けを受けた	地域の人と相談した	地域の人に教えてもらった	いずれもない	不明・無回答
全体 (n=341)		86.5	85.0	21.4	5.6	3.5	39.9	23.2	1.2	12.6	2.6	0.6
学年別	小学5年生 (n=143)	88.1	84.6	15.4	7.7	2.8	46.2	24.5	2.1	18.2	2.1	0.0
	中学2年生 (n=112)	84.8	86.6	29.5	5.4	5.4	39.3	22.3	0.0	10.7	3.6	1.8
	高校2年生相当 (n=86)	86.0	83.7	20.9	2.3	2.3	30.2	22.1	1.2	5.8	2.3	0.0

問7 あなたにとって、今の朝霞市で、できていると思うものはどれですか。

(あてはまるものすべてを選択)

「楽しい祭りやイベントがある」が83.6%と最も高く、次いで「公園やゆたかな緑がある」が71.0%、「子どもが気軽に集まれる場所がある」が56.0%となっています。



〈性別クロス〉

性別にみると、男女ともに「楽しい祭りやイベントがある」が最も高くなっています。また、男性では「安全にくらせるまちと感じられる」が女性と比べて高くなっています。

単位：％		交流の地域がある人どうしで	楽しい祭りやイベントがある	公園やゆたかな緑がある	交通の便がよい	ふだんの買い物がしやすい	いたら助ける人がある	安全にくらせるまちと感じられる	道路が良く整備されている	子どもが気軽に集まれる場所がある	常に子ども達の安全安心を工夫している	いずれもできていない	不明・無回答
全体 (n=341)		33.7	83.6	71.0	51.3	49.3	23.2	45.2	29.3	56.0	22.0	1.8	0.9
性別	男性 (n=153)	35.3	79.7	69.3	56.9	54.2	25.5	50.3	30.1	56.2	22.9	3.3	0.7
	女性 (n=184)	33.2	87.0	71.7	47.8	45.7	21.7	40.8	29.3	56.0	21.2	0.5	1.1

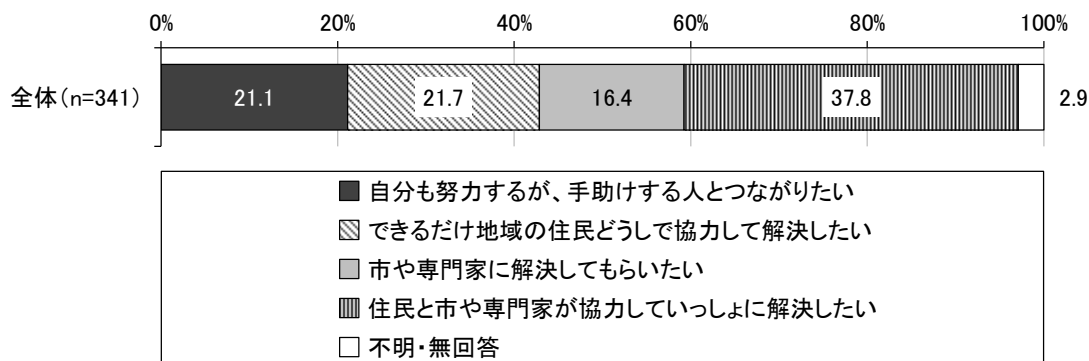
〈学年別クロス〉

学年別にみると、いずれの学年も「楽しい祭りやイベントがある」が最も高くなっています。また、学年の高い方が「交通の便がよい」の割合が高くなり、「公園やゆたかな緑がある」「こまっている人がいたら助ける人がある」「子どもが気軽に集まれる場所がある」「常に子ども達の安全安心を工夫している」が低くなる傾向にあります。

単位：％		交流の地域がある人どうしで	楽しい祭りやイベントがある	公園やゆたかな緑がある	交通の便がよい	ふだんの買い物がしやすい	いたら助ける人がある	安全にくらせるまちと感じられる	道路が良く整備されている	子どもが気軽に集まれる場所がある	常に子ども達の安全安心を工夫している	いずれもできていない	不明・無回答
全体 (n=341)		33.7	83.6	71.0	51.3	49.3	23.2	45.2	29.3	56.0	22.0	1.8	0.9
学年別	小学5年生 (n=143)	37.8	89.5	78.3	42.0	55.2	33.6	49.7	31.5	65.7	33.6	2.8	0.0
	中学2年生 (n=112)	34.8	79.5	70.5	53.6	45.5	17.9	41.1	29.5	53.6	17.0	0.9	1.8
	高校2年生相当 (n=86)	25.6	79.1	59.3	64.0	44.2	12.8	43.0	25.6	43.0	9.3	1.2	1.2

問8 今後、地域の中で起こる困り事や心配な事に対して、どのような方法で解決するのが良いと思いますか。あなたの考えに最も近いものを教えてください。(1つを選択)

「住民と市や専門家が協力していっしょに解決したい」が37.8%と最も高く、次いで「できるだけ地域の住民どうして協力して解決したい」が21.7%、「自分も努力するが、手助けする人とつながりたい」が21.1%となっています。



〈性別クロス〉

性別にみると、男女ともに「住民と市や専門家が協力していっしょに解決したい」が最も高くなっており、女性が男性と比べて高くなっています。

単位: %		自分も努力するが、手助けする人とつながりたい	できるだけ地域の住民どうして協力して解決したい	市や専門家に解決してもらいたい	住民と市や専門家が協力していっしょに解決したい	不明・無回答
全体 (n=341)		21.1	21.7	16.4	37.8	2.9
性別	男性 (n=153)	24.8	23.5	17.6	32.7	1.3
	女性 (n=184)	17.9	20.1	15.2	42.9	3.8

〈学年別クロス〉

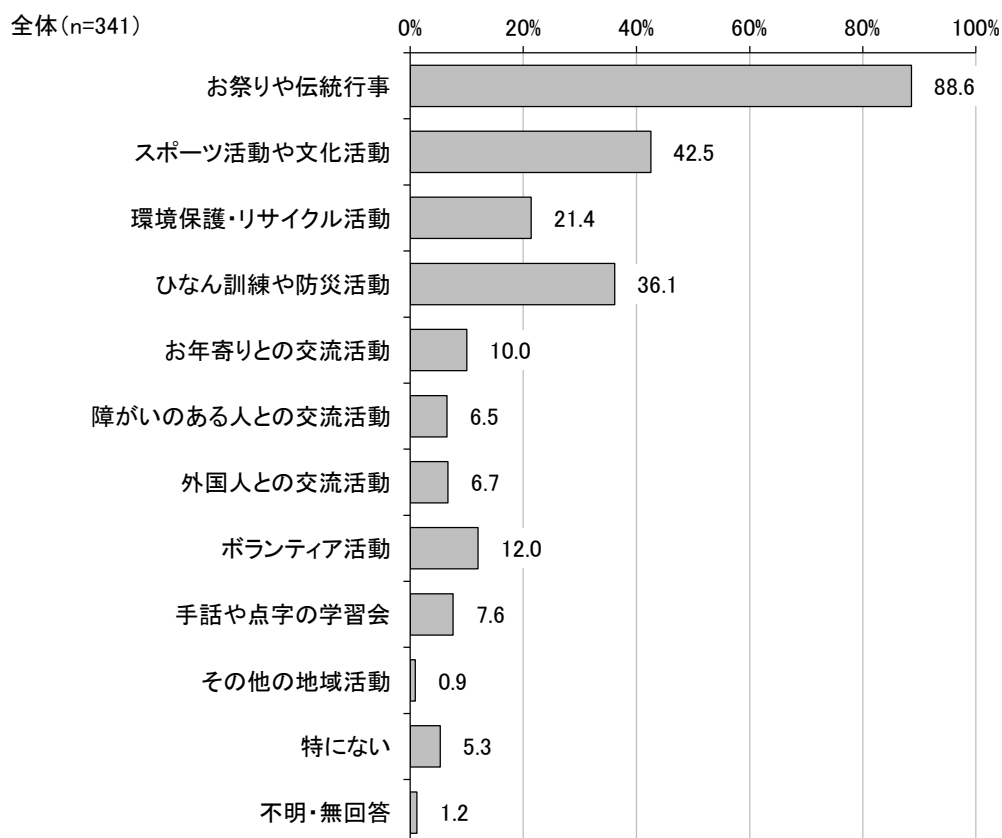
学年別にみると、いずれの学年も「住民と市や専門家が協力していっしょに解決したい」が最も高くなっています。また、高校2年生相当では他の学年と比べて「自分も努力するが、手助けする人とつながりたい」が低く、「市や専門家に解決してもらいたい」が高くなっています。

単位: %		自分も努力するが、手助けする人とつながりたい	できるだけ地域の住民どうして協力して解決したい	市や専門家に解決してもらいたい	住民と市や専門家が協力していっしょに解決したい	不明・無回答
全体 (n=341)		21.1	21.7	16.4	37.8	2.9
学年別	小学5年生 (n=143)	25.2	23.1	14.0	36.4	1.4
	中学2年生 (n=112)	24.1	21.4	13.4	37.5	3.6
	高校2年生相当 (n=86)	10.5	19.8	24.4	40.7	4.7

3 地域での活動について

問9 今までに、あなたが地域で参加したことがある活動を教えてください。
(あてはまるものすべてを選択)

「お祭りや伝統行事」が88.6%と最も高く、次いで「スポーツ活動や文化活動」が42.5%、「ひなん訓練や防災活動」が36.1%となっています。



〈性別クロス〉

性別にみると、男女ともに「お祭りや伝統行事」が最も高くなっています。また、男性では「スポーツ活動や文化活動」の割合が女性と比べて高くなっています。

単位: %		お祭りや伝統行事	スポーツ活動や文化活動	環境保護・リサイクル活動	ひなん訓練や防災活動	お年寄りとの交流活動	障がいのある人との交流活動	外国人との交流活動	ボランティア活動	手話や点字の学習会	その他の地域活動	特にない	不明・無回答
全体 (n=341)		88.6	42.5	21.4	36.1	10.0	6.5	6.7	12.0	7.6	0.9	5.3	1.2
性別	男性 (n=153)	87.6	51.0	25.5	37.9	6.5	5.9	5.9	11.1	5.2	2.0	5.2	1.3
	女性 (n=184)	89.7	35.3	17.9	34.8	13.0	7.1	7.6	12.5	9.8	0.0	5.4	0.5

〈学年別クロス〉

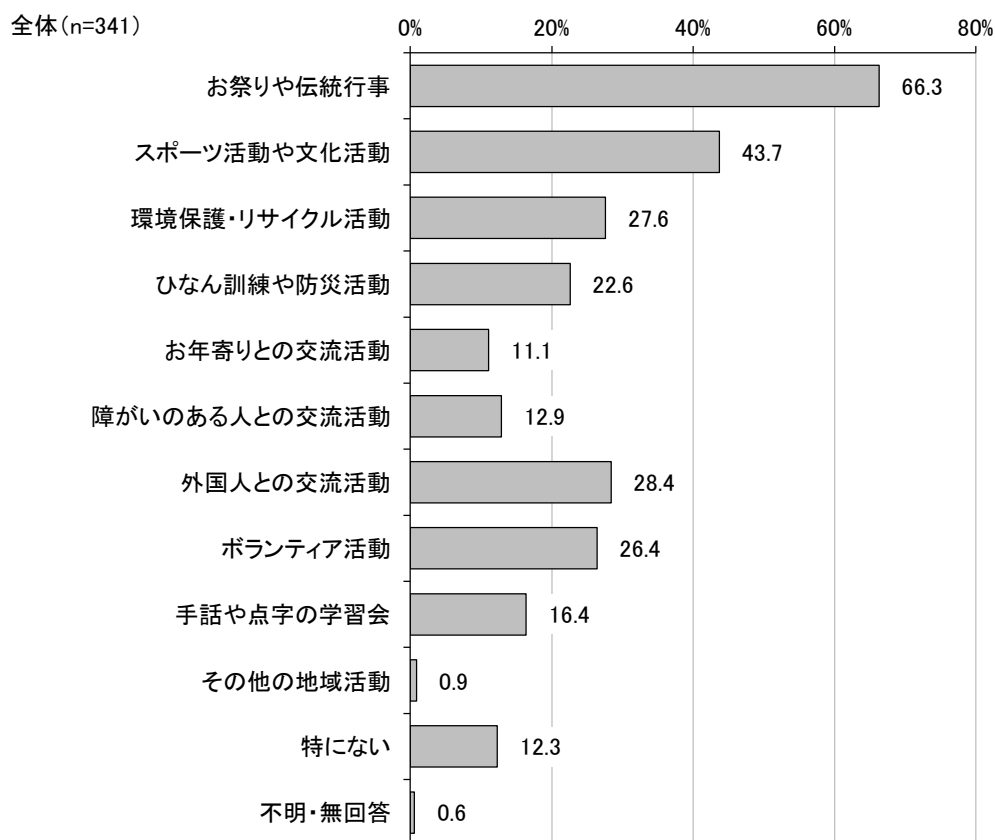
学年別にみると、いずれの学年も「お祭りや伝統行事」が最も高くなっています。また、中学2年生では「スポーツ活動や文化活動」がその他の学年と比べて高くなっています。

単位：％		お祭りや伝統行事	スポーツ活動や文化活動	環境保護・リサイクル活動	ひなん訓練や防災活動	お年寄りとの交流活動	障がいのある人との交流活動	外国人との交流活動	ボランティア活動	手話や点字の学習会	その他の地域活動	特にない	不明・無回答
全体 (n=341)		88.6	42.5	21.4	36.1	10.0	6.5	6.7	12.0	7.6	0.9	5.3	1.2
学年別	小学5年生 (n=143)	87.4	41.3	21.0	41.3	12.6	8.4	9.8	13.3	12.6	1.4	5.6	1.4
	中学2年生 (n=112)	91.1	51.8	22.3	35.7	6.3	5.4	6.3	12.5	5.4	0.0	3.6	0.9
	高校2年生相当 (n=86)	87.2	32.6	20.9	27.9	10.5	4.7	2.3	9.3	2.3	1.2	7.0	1.2

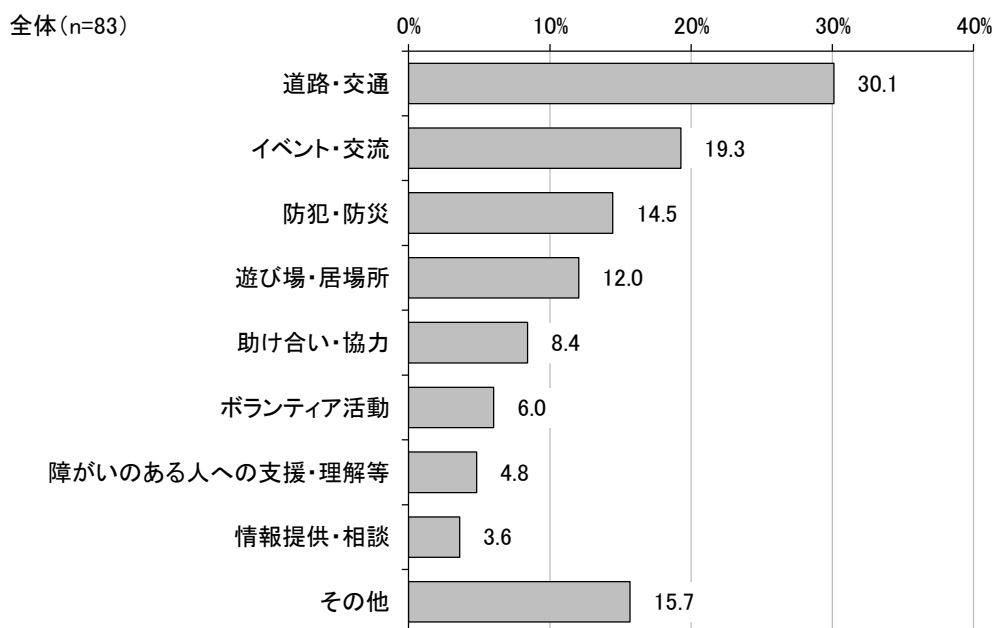
問 10 今後、あなたが地域で参加したいと思う活動を教えてください。

(あてはまるものすべてを選択)

「お祭りや伝統行事」が 66.3%と最も高く、次いで「スポーツ活動や文化活動」が 43.7%、「外国人との交流活動」が 28.4%となっています。



問 11 誰もが安心して暮らすことができる、人と人とが支え合う地域福祉を進めるために
ご意見ご要望がありましたら、どんな事でも結構ですので、ご記入ください。
(自由記述)



【全体】

自由記述欄に記入があったのは回答者 341 人のうち 83 人 (24.3%) である。一人が複数の意見を記入している場合は分割した。このため、意見数は 95 件となった。

「その他」を除いた回答について分類別にみると、「道路・交通」が回答者全体の 30.1% と最も多く、続いて「イベント・交流」(19.3%)、「防犯・防災」(14.5%) となっている。

【分類別】

- 道路・交通 (25 件) では、「道路や歩道の整備・安全対策」「自転車道の整備」「交通ルールの遵守」に関する意見が多数あった。
- イベント・交流 (16 件) では、「お祭りやイベントの増加」「高齢者との交流や子ども同士の交流など、市民の交流機会の創出」に関する意見が多数あった。
- 防犯・防災 (12 件) では、「街灯の増設」「防犯カメラの設置」「見回りの強化」に関する意見が多数あった。
- 遊び場・居場所 (10 件) では、「ボール遊びができる場所」「公園や児童館の充実」などに関する意見があった。
- 助け合い・協力 (7 件) では、「みんなで協力して助け合う」「困っている人がいたら声をかける」などの意見があった。
- ボランティア活動 (5 件) では、「ボランティア活動の増加」「ボランティアに関する情報提供」などに関する意見があった。

- 障がいのある人への支援・理解等（４件）では、「障がいのある人が暮らしやすいまちづくり」「障がい特性の理解と交流の機会づくり」などに関する意見があった。
- 情報提供・相談（３件）では、「地域での活動に関する情報提供の充実」「相談会の実施」などに関する意見があった。
- その他（１３件）では、「環境美化」などに関する意見があった。

IV 専門職調査結果

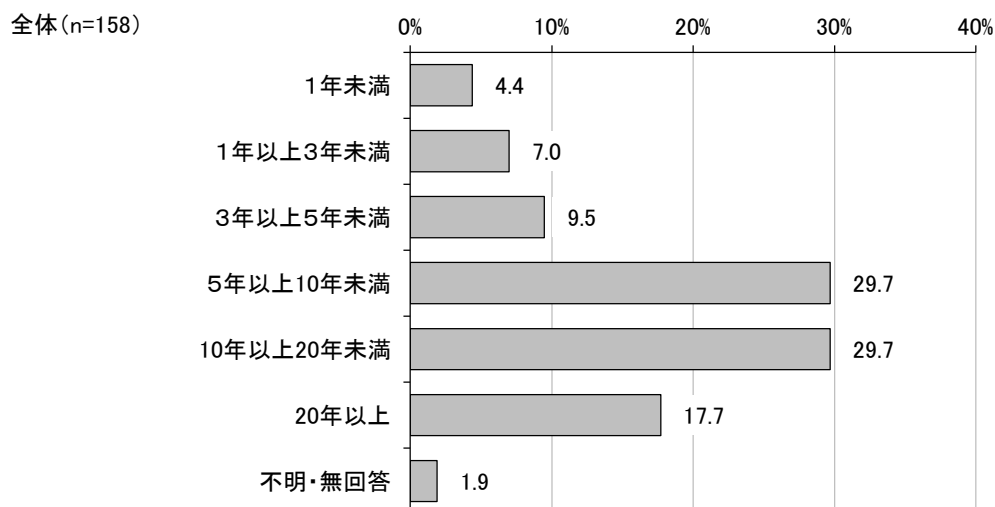
1 回答者自身について

問1 あなたの現在の職種をお書きください。（複数記載可）

回答内容	
介護士	児童発達支援事業所保育士
介護支援専門員	主任介護支援専門員
介護施設職員	社会福祉士
介護施設職員、民生委員	障害施設職員
介護福祉士、訪問介護事業所管理者	障害者就労支援員
介護支援専門員、介護福祉士	障がい者施設職員
看護、相談支援専門員	障害児通所施設職員、自立支援委員
看護師	障害者相談支援専門員 自立生活援助支援員
管理者	障害者日中支援施設施設長
管理栄養士	障害福祉施設職員
管理者兼児童指導員	生活支援員
グループホーム管理者	精神保健士
グループホーム職員	精神保健福祉士社会福祉士
ケアマネ（居宅）	相談支援専門員
ケアマネ、整体師（カイロ）	団体職員、生活介護職員
言語聴覚士	中学校サポート相談員、児童委員
作業療法士	通所介護職員
児童指導員	保育園長
児童スタッフ	保育園事務
児童発達支援センター施設長	保育士
児童発達支援管理責任者	保育士（管理職）

問2 あなたの現在の職種での延べ経験年数をお選びください。(1つを選択)

「5年以上10年未満」「10年以上20年未満」が29.7%と最も高く、次いで「20年以上」が17.7%となっています。



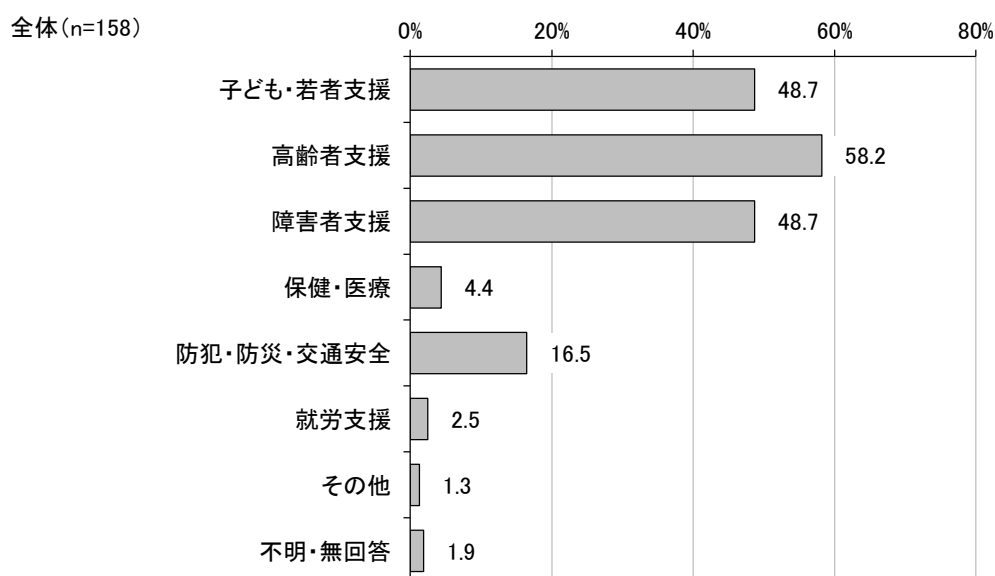
〈専門分野別クロス〉

専門分野別にみると、子ども・若者支援、障害者支援では「10年以上20年未満」、高齢者支援、防犯・防災・交通安全では「5年以上10年未満」が最も高くなっています。

単位: %		1年未満	1年以上3年未満	3年以上5年未満	5年以上10年未満	10年以上20年未満	20年以上	不明・無回答
全体(n=158)		4.4	7.0	9.5	29.7	29.7	17.7	1.9
専門分野別	子ども・若者支援(n=77)	5.2	2.6	10.4	26.0	31.2	23.4	1.3
	高齢者支援(n=92)	4.3	5.4	5.4	35.9	26.1	21.7	1.1
	障害者支援(n=77)	3.9	7.8	11.7	26.0	33.8	15.6	1.3
	保健・医療(n=7)	0.0	0.0	14.3	14.3	42.9	28.6	0.0
	防犯・防災・交通安全(n=26)	11.5	0.0	3.8	34.6	23.1	23.1	3.8
	就労支援(n=4)	0.0	0.0	25.0	25.0	50.0	0.0	0.0

問3 あなたの関わる専門分野をお選びください。(あてはまるものすべてを選択)

「高齢者支援」が58.2%と最も高く、次いで「子ども・若者支援」「障害者支援」が48.7%となっています。



〈経験年数別クロス〉

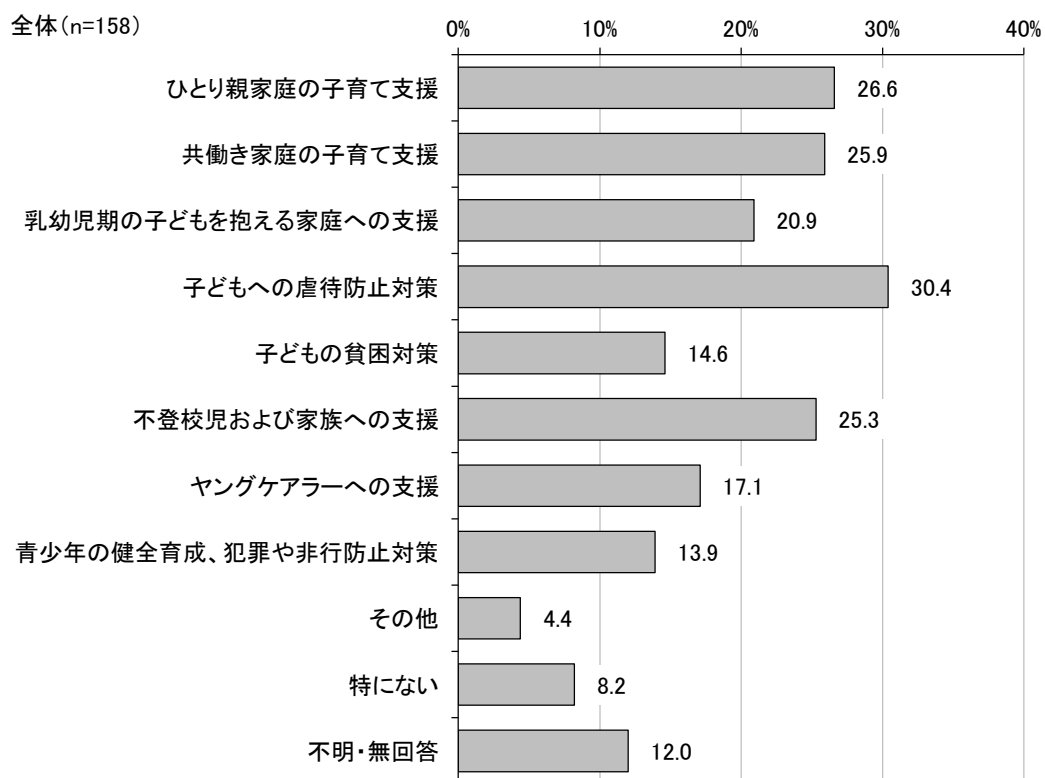
経験年数別にみると、1年以上5年未満、10年以上20年未満では「障害者支援」、5年以上10年未満、20年以上では「高齢者支援」が最も高くなっています。

単位: %		子ども・若者支援	高齢者支援	障害者支援	保健・医療	防犯・防災・交通安全	就労支援	その他	不明・無回答
全体(n=158)		48.7	58.2	48.7	4.4	16.5	2.5	1.3	1.9
経験年数別	1年未満(n=7)	57.1	57.1	42.9	0.0	42.9	0.0	0.0	0.0
	1年以上3年未満(n=11)	18.2	45.5	54.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	3年以上5年未満(n=15)	53.3	33.3	60.0	6.7	6.7	6.7	6.7	0.0
	5年以上10年未満(n=47)	42.6	70.2	42.6	2.1	19.1	2.1	2.1	2.1
	10年以上20年未満(n=47)	51.1	51.1	55.3	6.4	12.8	4.3	0.0	0.0
	20年以上(n=28)	64.3	71.4	42.9	7.1	21.4	0.0	0.0	3.6

2 地域の課題について

問4 子ども・若者支援に関して、最近、地域で気になる課題がありますか。優先的に解決すべき事項を選択してください。（2つまで選択）

「子どもへの虐待防止対策」が30.4%と最も高く、次いで「ひとり親家庭の子育て支援」が26.6%、「共働き家庭の子育て支援」が25.9%となっています。



〈経験年数別クロス〉

経験年数別にみると、1年以上3年未満では「共働き家庭の子育て支援」「乳幼児期の子どもを抱える家庭への支援」「子どもへの虐待防止対策」「青少年の健全育成、犯罪や非行防止対策」、3年以上5年未満では「ひとり親家庭の子育て支援」、5年以上10年未満では「不登校児および家族への支援」、10年以上20年未満では「子どもへの虐待防止対策」、20年以上では「ひとり親家庭の子育て支援」「子どもへの虐待防止対策」が最も高くなっています。

単位：％		てひと 支援	共 働 き 家 庭 の 子 育 て	抱乳 え る 家 庭 の 子 ど も の 支 援	子 ど も へ の 虐 待 防 止 策	子 ど も の 貧 困 対 策	不 登 校 児 お よ び 家 族 へ の 支 援	ヤ ン グ ケ ア ラ ー へ の 支 援	犯 罪 や 非 行 防 止 対 策 、 青 少 年 の 健 全 育 成	そ の 他	特 に な い	不 明 ・ 無 回 答
全体 (n=158)		26.6	25.9	20.9	30.4	14.6	25.3	17.1	13.9	4.4	8.2	12.0
経験 年 数 別	1年未満 (n=7)	28.6	14.3	28.6	14.3	14.3	14.3	14.3	42.9	0.0	0.0	0.0
	1年以上3年未満 (n=11)	18.2	27.3	27.3	27.3	18.2	18.2	18.2	27.3	0.0	18.2	27.3
	3年以上5年未満 (n=15)	40.0	33.3	6.7	26.7	13.3	13.3	6.7	13.3	20.0	13.3	13.3
	5年以上10年未満 (n=47)	21.3	17.0	14.9	23.4	17.0	29.8	17.0	14.9	4.3	8.5	14.9
	10年以上20年未満 (n=47)	19.1	31.9	25.5	34.0	6.4	31.9	21.3	8.5	2.1	10.6	4.3
	20年以上 (n=28)	42.9	32.1	25.0	42.9	21.4	21.4	14.3	10.7	3.6	0.0	17.9

〈専門分野別クロス〉

専門分野別にみると、子ども・若者支援、障害者支援では「子どもへの虐待防止対策」「不登校児および家族への支援」、高齢者支援では「子どもへの虐待防止対策」、防犯・防災・交通安全では「子どもの貧困対策」が最も高くなっています。

単位：％		てひと 支援	共 働 き 家 庭 の 子 育 て	抱乳 え る 家 庭 の 子 ど も の 支 援	子 ど も へ の 虐 待 防 止 策	子 ど も の 貧 困 対 策	不 登 校 児 お よ び 家 族 へ の 支 援	ヤ ン グ ケ ア ラ ー へ の 支 援	犯 罪 や 非 行 防 止 対 策 、 青 少 年 の 健 全 育 成	そ の 他	特 に な い	不 明 ・ 無 回 答
全体 (n=158)		26.6	25.9	20.9	30.4	14.6	25.3	17.1	13.9	4.4	8.2	12.0
専 門 分 野 別	子ども・若者支援 (n=77)	33.8	29.9	27.3	35.1	18.2	35.1	10.4	18.2	7.8	7.8	3.9
	高齢者支援 (n=92)	26.1	23.9	21.7	29.3	18.5	27.2	22.8	20.7	4.3	6.5	14.1
	障害者支援 (n=77)	23.4	26.0	22.1	32.5	14.3	32.5	13.0	11.7	6.5	11.7	11.7
	保健・医療 (n=7)	14.3	28.6	28.6	42.9	0.0	42.9	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	防犯・防災・交通安全 (n=26)	19.2	19.2	23.1	26.9	38.5	34.6	19.2	34.6	3.8	7.7	7.7
	就労支援 (n=4)	25.0	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	50.0	0.0

■ 解決に向けたアイデア・ご意見（自由記述）

【ひとり親家庭の子育て支援】

回答内容
こもりがちでまわりの人に話したら少し楽になると思うが、それがない人が多い。
日中子供が過ごせる居場所作りをした方がよいと思う。
子供の居場所の確保。
私はこども食堂のひとり親に対して食料等の配布のお手伝いをしていますが、少し疑問に感じます。
マンションが多く状況把握が難しい。ご近所とのつきあいもありなく情報が入らず。
娘が離婚して子供2人育てていますが、体調が悪く働けないので、家の場合は私達が援助しているので生活できていますが、本当に一人で子育てをするのは大変です。教育にお金がかかるのでその金額を役所、国が負担していただければありがたい。
仕事と療育の両立。
身近におりませんが助けてあげたいと思います。子供は国の宝です。
子供の悩みや相談に対応できる支援施策及び活動。
経済的支援、子ども預かり支援。
近所に頼れる親族などが居ない場合、親が1人で全てをこなすのはかなり大変だと感じます。1人で抱え込んで考えたり悩んだり不安を解消できるような専門の相談機関や集まりなどが充実するとよいと思います。
児童手当以外に住宅手当など安心して生活できるようにする。
親が安心して働けるよう保育園、放課後児童クラブ等充実させる事。待機児童がないようにする。
子供が熱を出しても預かってくれる小児科併設の保育所があれば安心して働くことが出来ると思います。
保育園の充実・病児保育や病気の時のベビーシッター利用の補助。就労支援。子ども食堂や食料品・衣料品などの配布。
補助金支給と時間外及び急な時の子供の保育預かり支援。
相談窓口の拡大。
ひとり親世帯のほとんどは母子家庭ときてます。女性の非正規雇用の賃金格差等、難しい問題です。
子供も大人も（親を問わず地域の人全て）気軽に立ち寄り集えるコミュニティの場所を市内全域に作る事が出来たら良いと思う。子供食堂等もっと増やせたらと思うが、家賃の問題で閉める所があるのは残念。
個人情報の下、近所であっても把握できません。不安を抱えている人が確認できたら、役所等連携をとります。
経済的困窮に苦しんでいないか市の給付金制度について情報得られてるのか子供の成長段階で気がつかず給付を受けられなかった等がないと良いと思う。
何年か前に並べて、一人親世帯が増えている。助け合える関係の子育てができたと思う。プレーパークの遊び場のよう。
市からの支援の情報が、親に行き渡っていない様に思われます。
精神的、物的に足りない物があれば支援したい。
特に地域で気になる課題は、見当りません。引き続き地域の課題の把握に努めていきます。
一人で抱え込んでいる人が多いと思います。安心してホッとする居場所作り、経験ママ、パパが聞き（聴き）役になり、気持ちが和む場所が欲しい。

回答内容
気軽に相談しにくいイメージがある。
就学支援の充実。子ども食堂へのバックアップ。病児保育施設の増設。
見守り話を聞きながら共助につなげて行く。
仕事と子育てを上手に出来ずにいる家庭が多くいる。相談することも出来ないでいるように感じる。
給付を増やす、、、とか？（とはいえ、現状の給付金など、、知らないです、、、）
無料で子供が病気の時の手助けができれば良いと考えます。
1人親の子育てで1番困るのは、親が病気になったりして子育てが出来なくなる事だと思います。そのような時に子どもを見てくれる人・場所が必要だと思います。
支援は金銭支給ではなく生活関連用品などの現物支給
経済的な支援と相談ができたり支援を受けられたりする情報を届ける。冊子などや健診時などに
こどもが病気になったときには仕事を休まないといけなくなるため、収入が低くなる。病欠したときの支援等があるといい。
預かり制度の充実
実態がわからないため、その把握が必要。個々による事情が異なるため、話せる場が必要。子供の意見も聞けるような仕組みが必要ではないか？

【共働き家庭の子育て支援】

回答内容
保育園の料金や支援が充実して欲しい。
少し障害がある様な子育てになっている場合アドバイスをしても受け入れが出来ない働くことの方が。
日中子供が過ごせる居場所作りをした方がよいと思う。
保育園の充実。
保護者のかわりにお子さんと接する時間が長い保育園では保護者、職員間で常に情報の共有をし、共通理解をしつつ、保育するようにしている。
保育園に入れない家庭も多いと聞いています。
マンションが多く状況把握が難しい。放課後児童クラブの受け入れ時間を朝夕の延長等。
学童施設でも1施設に集中してしまうと入れないご家庭がある。
夫婦間で当事者意識に差が大きい。
1～6年生、学童の年齢制限をなくしたらいいと思います。
親が安心して働けるよう保育園、放課後児童クラブ等充実させる事。待機児童がないようにする。
時間外保育と急な時の預り支援。
地域における親同士、子供同士のふれあい不足の為に情報の共有化が中々出来ていない為支援強化をうたっても認識、知識不足は否めない。
子供も大人も（親を問わず地域の人全て）気軽に立ち寄り集えるコミュニティの場所を市内全域に作る事が出来たら良いと思う。子供食堂等もっと増やせたらと思うが、家賃の問題で閉める所があるのは残念。
個人情報の下、近所であっても把握できません。不安を抱えている人が確認できれば、役所等連携をとります。

回答内容
自身も共働きで子どもを保育園にお願いして育てる事ができました。気になる事は町内で保育士さんの子どもに対する声かけです。強い口調が必要な時もあるでしょうが親は知らずに預けているのであろうと考えます。
保育園や学童の待機児童について。6小校区では小学2年生でも学童に入る事ができなかったと聞いた。1年生で入る事ができて次年度保留となつては意味がない。民間事業所も取り入れ、受け皿が拡充できるとよい。
休日親子でそれぞれ楽しめる場所作り。
どうしても共働きを本格的に行っているとお子さんをお預かりする時間が長時間となるのでさみしい思いをさせないように子どもたちに寄り添った保育を行っている。
子どもに寄り添った保育を行うようにしている。
親が不在の間の子供との関わり方を考えたい。
夫婦でフルで仕事の場合、長い時間子供を預け夜は寝るだけ朝はまた保育にと子供ながら忙しい日々を過ごしている。もっと余裕を持って生活してもらいたい。
特に地域で気になる課題は、見当りません。引き続き地域の課題の把握に努めていきます。
物価上昇が大きい。
駅前への公共施設の設置。(図書館、児童館、保育園、小児科、病児保育施設)
放課後子ども教室、居場所等充実。
学校行事や地域社会の交流等に参加の機会が少なくなっているのではと安んじます。子供達に対する関心が低くなっている様な気がする。それが、子供達の不登校、いじめ等につながらない事を望む。
学童クラブ等の増設。施設を新たに建てると、今後児童が減少した場合に運営が難しくなるので、児童館などに間借り等する。
核家族化・晩婚化が進んだ現代、子どもの成長を支える親が祖父母等の援助が受けられず、子どもの支援が行き届いていないと感じています。これは共働き家庭だけに留まらず、ひとり親家庭、親がいてもいなくても貧困家庭にも同じようにかんじています。親世代に時間的余裕が無く、金銭的問題も抱えている昨今、虐待問題やヤングケアラー等の問題にも直結してくる問題となっているかと思います。この問4で掲げられている課題は全て繋がっているかと思います。何から支援していくのか…が課題となっているかと思いますが、まずは子どもを産み育てる人の雇用が守られ、若い世代でも安心して結婚・妊娠・出産・子育て・生活していける基盤を作れる世の中になることがいいのかと思います。
学童終了、4年生からの地域での見守り
学童を増やしたらいかがでしょうか？3年生まで学童を使いたい人は多い気がします
保育所の人材優遇により、保育を利用している家庭の保育時間を緩やかに対応できるようにする。保育士不足がゆえに利用する共働き家庭に寄り添った対応に余裕が出来ていない現状。
朝や夕方の子供の保育が必要な時に、保育園や学童室を利用して、ボランティアで見ることができないか。
市内の放課後児童クラブの定員にあふれてしまった児童向けに放課後こども教室の事業を立ち上げる。
親が不在の間の子供の遊ぶ環境の整備
障害児を持つ正社員の場合、長時間預かってくれる所が少ない。放課後デイで長時間預かりたくても職員が足りない。

回答内容
子育てがしやすい街で、保育園の待機児童減少傾向にあると思います。しかし、小学校入学後の学童保育では1～2年で出されてしまうことが朝霞市の課題と感じています。
共働きでも収入が低い場合の補助があるといい。
預かり制度の充実
特に核家族化と併せて、社会の労働の変化、特に女性の働く環境が変わってきていることを知ること。個別の事情に合わせた、支援が必要。安心して住める環境が必要。

【乳幼児期の子どもを抱える家庭への支援】

回答内容
オムツ、ミルク代が家計をひっぱくしやすい。
利用できるサービス、施設をしっかりと情報提供してあげる。
マンションが多く状況把握が難しい。こども未来課等からもう少し情報がほしい。
おかあさんと子供と一緒に児童館などで過ごせる時間を広くアピールして、同世代の方が集まれるような機会を作ってもらう。
小さい子供をつれて集まれる(おしゃべり等)情報交換ができる場所作りが必要。
「絵本の読み聞かせ」の活動をしています。乳幼児期の子育てはやはり大変なので、お母さんたちも家庭から外へ出て友人関係を作ったり、絵本もお母さんにも楽しんでもらいたいです。
一時預かりサービスの充実または補助。保健センターでの月1回の身体計測を再開して欲しい。サークル活動をする団体が減ってしまったのは、何故か？
補助金
子どもを預かる場所を増やす。
地域における親同士、子供同士のふれあい不足の為に情報の共有化が中々できていない為支援強化をうたっても認識、知識不足は否めない。
支援センターや児童館が充実しているのでもっとPRすると利用者が増え不安や心配事を相談したり、友達ができたりとプラス要素がある。
保育園とは違う。子供達を安心して預けられるしくみ作り。少子化に歯止めをかける。
個人情報の下、近所であっても把握できません。不安を抱えている人が確認できたら、役所等連携をとります。
夜泣き、眠れないなど続くと、どうしても乳児ノイローゼになりがちです。保健婦さん等に相談できるように、検診の時などアピールをしてはいかがでしょうか。
公園などで、乳幼児親子が参加できる無料イベントが増えるとよい。内間木地区などは人通りがなく、公園も少ないため、遊べる場所がない。周知方法も市役所付近の掲示板や一部のSNSのみなので、情報が届かず、家に閉じこもるしかなく、孤立している。
子育てのマニュアルから解放できる場がほしい。
子育て支援が充実している市(千葉、流山)では、人口の増加や駅の再開発が進み活気が出ていていると聞いた。子育てサロンや福祉が充実すると街に好循環を生むと思うので子育て世代へ力を入れて欲しい。
子育てに対して行き詰った際に話を聞いてあげる他に、日頃家庭の少しの異変にも気付けるようにコミュニケーションを大切にしている。

回答内容
とにかく話を聞いてあげ、家庭の様子を気にかけてあげるようにしている。
母親1人での子育てにならないよう支援したい。
子育てサロン等の充実。
地域での声かけ。支援センターへのお誘い。
乳幼児期は、子供が保育園などで色々な病気をもらい発熱や体調不良でどこにも預ける所がなくそれでも家のローンの返済の為に、働かざるを得ない時に、体調不良の子供を預ける場所（特にひどい状態でない場合）が、保健師さんのいるセンターなどが受け入れてくれると良いなと思う。
相談できる場所が増えるといいのかな…
保育所の人材優遇により、保育を利用している家庭の保育時間を緩やかに対応できるようにする保育士不足がゆえに利用する共働き家庭に寄り添った対応に余裕が出来ていない現状。プラス、ファミリーサポートの拡大化を促進すれば、保育所のみに負担がかからず幅広い子育て支援が出来ると思う。
母子だけでの不安や、親の気分転換の手伝いとか、話し相手がある図書館などを利用して一緒に話したり遊んだりできないか。
子育てでの不安などを解消できる環境の支援
一時預かりなどをもっとしたり話せる場があったら
子育ての相談できる窓口が少なく、安心して子育てできる情報提供があるといい。
相談窓口の増設
朝霞は昔から住んでいる家庭は、親兄弟の支援がある良い風潮が残っていると思う。一方、新しく朝霞の住人となり住み始めた方の孤立も多いのではないかなと思う。何でも相談できたり、コミュニケーション取れる支援が必要。

【子どもへの虐待防止対策】

回答内容
ネグレクトの子への支援が難しい。
子供が相談しやすい環境作り。
親の心のケア、子育ての輪、支援の拡大。
身体チェックをしつつ、保護者とのコミュニケーションを大切にしている。少しでも不信があれば役所とも連携をとる。
ご近所さん方のコミュニケーションがあれば見のがすことはないかと?!
マンションが多く状況把握が難しい。こども未来課等からももう少し情報がほしい。
学校、幼児施設、医療機関の連携。虐待時保護施設の拡充。
一人で悩みを相談できる相手がいない、相談のしかたがわからないという保護者に LINE 等、若い親が日常の悩みを気軽に相談できるツールがほしい。
親の相談窓口の充実。
虐待の研修も大事だと思うが、まず子どもとの関わり方を学び虐待につながらないようにすることが大切だと思います。
外からはなかなかわからないので学校や近所の人たちがいつもまわりを気遣う事が大事だと思う。
近所からの情報を得ることが大切。深入りしづらい事です。

回答内容
なるべくご近所づき合いができる機会を持って、少しでも会話ができるようになると良いと思う。町内会のお祭りとか何か気軽に参加できるイベントとかあると良いのではと思います。
近所の連携と通報。親への指導と相談。
見守りも表裏が有り、難しい問題です。
見えにくい部分がある。幼稚園～小学生は預け園や学校での指導者の目での確認が必要だと思う。
子ども達が相談しやすい環境作り。
個人情報の下、近所であっても把握できません。不安を抱えている人が確認できたら、役所等連携をとります。
虐待などで、どうしても育てる事が長く続く様であれば、里親制度にお願いして、命を助けて頂き、里親の方の広い心、優しい人に育てて頂きたい。
親のストレス、子供を一時的に預けられる場所。気楽に近所にあると良いと思う。
部屋の中だけの子育てから outdoor のストレスのあり場があると良いのでは。
家庭の中での虐待を把握するのは本当に難しい事なので地域全体で一丸となって、とり組むしかない。
身体的虐待だけが虐待ではないということをもっと周知することが必要であると思います。（子育て家庭にもそれ以外にも）
地域での声かけ。行政と連携しながらの見守りなど。
虐待が少しも減らず、もう少し周りの大人も関心を持つように働きかけをしていってはいいいのではないのでしょうか。見回りの徹底。
子供に関わる全ての事業所に対し、事業所側が虐待防止委員会設置や、研修等、やっている旨をしっかりと家庭にも公に周知してもよいと思われる。障害では虐待防止委員会は設置義務となっているが、家庭がそれを知っているかというところが半数が知らないと感じる。それだけでも小さな予防策とはなると思われる。
高齢者や障害者の家族と同居もしくは関係しているケースが多いと思います。縦割り行政ではなく、横との連携を取りながら役割分担をしっかりと進めていく必要があると思います。
保護者のヘルプが出せる窓口があると（数が増えて、周知されること）虐待は減るのかな。。。??
保育課とこども未来課、教育課、障害福祉課、保健センターの連携が取れていない。見守り家庭である児童の認識も連携が取れておらず、防止ではなく起こってからの対処も遅いと感じる。
虐待を受けている子との関係性や関係機関との連携が取れるようにする。事案を知った時の動きなどを事前に相談しておく。
周りからとても見えにくい問題で、難しさを感じる
専門医か専門家の指導による、手伝いができるようなフォローができないか。
困りごとのある家庭を早期に発見し、福祉相談サービスへ繋げる。例えば、発達に遅れがある子や経済的に困窮している家庭の子を保育施設や学校教育現場で発見した際にソーシャルワーカーや児童発達相談員に繋がれるように積極的に外部の保育所等訪問支援事業を利用し、市内の専門機関に繋げていく事が大切であると考えます。
虐待に向かわないような開かれた多くの見守りがある環境支援
子どもを産んだ時から母親支援が必要だと思う。母親を孤独にさせないようにする。
一般の人がより通告がしやすいように、通告の制度の周知、情報提供者の保護の徹底
障害児者や子育てで孤立しないように支援する。

回答内容
子どもの虐待通報先「189」は、福祉の現場で働いている人であれば、認知しているが、市民にはなかなか広まっていないのが現実です。コンビニやスーパーなど、多くの人が見てもらえるようなポスターを掲示してもらうことで、虐待通報先がわかるのではないのでしょうか？
虐待が表面化しにくいいため、こどもが安心して通報できる仕組み作りが必要。地域連携で気になる子がいたときに連絡する場が明確になるといい。
見守りのくしみを再考 保育園、学校の連携の強化
一般市民は実態がわからないこと、関わりたくないこと、などがあると思う。市民に広く周知する講演や啓蒙運動が必要ではないかと思う。今まで気づかなかったことに気づいて情報をもらい専門家に繋げるようにする。

【子どもの貧困対策】

回答内容
実際、子どもの貧困を感じたことはないので難しいです。
TVのCM等で食事を食べれない等とありますが、本当なののでしょうか？
保護者の生活の安定。
助けてあげたいです。修学旅行の費用も高いと聞いています。
生活保護世帯の援助。学校との連携。
ご飯を3食食べられていない様子の子がいる(お昼なしなど)。こども食堂が身近にない地域もあるので、こども食堂を増やしたり、曜日に関係なくいつ行ってもご飯を食べられる場所を作ったりすると良いと感じる。
働いている親達にむけたこども食堂もあるようだが本当に困っている子供に向けたこども食堂を増やしてほしい。
こども食堂。大学生等のボランティアで勉強や宿題を教えてもらえる。
外からの判断がわからないので自己申請か子ども食堂等の利用や支援。
子供食堂等ありますが、利用者が限定的な感があります。利用者と提供者のバランスが難しいのかなと思います。
古着回収。学校で必要な教材など不要になったものを常に回収し必要な家庭に配布。気をつける事は、それを売ってしまう人がいる事。
全てについて現状が見えて来ない。担当地区では該当する事例がないのか？把握出来ないだけなのか？情報が入らない。市との連携がもっと必要なのではないかと！
学校との連携がないとできない。
子供食堂を増設しそこに中学生・高校生等のボランティアを派遣し学習指導や見守りを行う。
貧困故に、本来あるべき環境の中で安心して生活できない、十分な本人の望む教育を受ける事が難しくなっている事に、将来を危惧しています。国の宝である子供達の安全・安心な生活環境を整え、教育にもっとお金をかけて欲しいと思います。
町内会地域の公民館などで週に1回位でも子供食堂、食材の配付をしてみる。
行政からの家賃補助や定期的な給付金。
おそらく、、、なにかしてくれていると思うのですが、、、知られていないのでは？？？

回答内容
周りからとても見えにくい問題で、難しさを感じる
希望者は、学童教室で栄養補給が出来るが良い。
預け先が多種あって親が働けるようにする。
虐待と同様、表面化しにくい場合があるため、こどもが通報できるシステムが必要。
見守りの仕組みを再考 保育園、学校の連携の強化
支援金など支える支援も大事である。それと同様に貧困やお金稼ぎで闇バイトなどに手を出さないような教育も必要。貧困と犯罪は隣り合わせと思う。

【不登校児および家族への支援】

回答内容
中学にさわやか相談室がありますが、小学校にも来てほしいです。家族への支援ができています。
私のエリアには中学生が不登校している子が居て中学校に相談に行きましたがそのままかな？！家族は外国人で近所さんも話にならないと。多分、猫ちゃんの相手をして、学校に行かずにいて、母親もそれでいいとすねているのです。
今は不登校があってもそれにかわるフリースクール等がありゆっくり見守る事が大切かと。そして相談があれば話を聞き出来る事があれば協力(サポート)。
無理に行かせなくてもいいと思います。フリースクール等で支援したらよいでしょう。
学校に行くことが全てではない。学校以外に学ぶ選択肢を、当たり前に見えるような発信をしてほしい。
学校へ行きづらくなっても学習の機会が失われないようオンラインでの授業を受けられないのか？
学校では学校へ来てほしい考えで、相談室ではまずは休息が必要と案内される。相談室登校が難しい子ども他の行き場所、居場所が少ないので選択肢や場所を増やしてほしいです。
学習塾等でも出席扱いができるようにする。
学校のカウンセラー配置の推進。
先生だけに負担がかからない良い方法。
ある一年生の児童。お母さん、おじいさんが働いており一人ぼっちで留守番をしている不登校の児童です。学校も、私にも連絡が出来なくなりむろん訪問しても出てくれませんでした(私はしつこく TEL したり訪ねたりしてきられたかも)。2年生になりしばらくして担任の先生と連絡がつくようになりホッとしております。よりアイデアは浮かびませんでした。
家族との相談や学校との懇談や話し合い等を重ねる事やさわやか相談室の充実が大事。
不登校児のためのフリースクール。
全てについて現状が見えて来ない。担当地区では該当する事例がないのか？把握出来ないだけなのか？情報が入らない。市との連携がもっと必要なのではないかと！
学校ばかりが、絶対に行かなければならないところではないので？グループで話し合い、色々な悩みを話す場所があれば良いと思う。
2つという事ですが、朝霞市の子ども数の増加にともない多くなっている、親の不安をやわらげるため当事者同士のしゃべり場の設置。
気軽に出入りできる場所を市内に作って欲しい。
難しい。

回答内容
子ども、親、学校での話し合いで先生の呼びかけを、期待します。
今、学校が荒れていて、落ち着きのない子が多いように思います。そんな中で、不登校ぎみの子は、益々行きづらくなっています。子どもの個性を伸ばすのは大切だが、自由の中にも規則があり守っているから社会が成り立つことをまわりの大人が知らせて欲しい。またボーダーの子が増えている。その子に合ったカリキュラムを用意し見守る体制を考えていく。
市内に公設のフリースクールがあれば良い。いつでも自由に通える場！
不登校になるきっかけ、理由が多様化、複雑化しているように感じています。「しんどさ」を抱える子ども達が多いというのを理解した上で、不登校の先に何が待っているのかを、子ども達がどれくらい理解しているかが気になります。不登校の先輩達がどういう人生を歩んでいるのか等の調査はあるのでしょうか？
積極的に電子機器を使用しての親、子供とのコミュニケーションをとる（携帯等）。
家族対象のサークルとかを作って意見交換サポート支援を行ってみてはどうでしょうか。
高齢者や障害者の家族と同居もしくは関係しているケースが多いと思います。縦割り行政ではなく、横との連携を取りながら役割分担をしっかりと進めていく必要があると思います。
家族の意識調査
家庭内と学校だけで解決しようとする则行き詰まってしまう。学校などからカウンセラーや医療機関を提案したり紹介したりする。
どこに相談したらいいのか、わからない保護者は多そうです。医療でもないし、福祉でもないし、、、困ってセンターに連絡が来ることがあります。
数年前はコロナの影響もあると思ったが、現在での不登校となる理由の多くはなんだろうか？
ご家族も協力してくれないと登校するのも厳しいので学校や市の方含めて登校できる環境にしていける。
学校以外での「そこにいても良い場所」作り
他市では学校外に通える相談室があるのに朝霞市にはない。学校に相談室があっても学校へ行くのが辛いのにそういう視点がない。
不登校でも自宅で学習できるシステムがあるといい。スクールカウンセラーとオンライン相談等ができるといい。
学校クラス担任の指示のもと、学校運営協議会と民生委員と地域保護司と PTA と連携し、訪問支援、送迎支援などを行う
なぜそうってしまったか個別の理由がある。実態がわからないので現状どうなっているか各機関と協力して知る必要がある。カウンセリングなどで支援策を考える。

【ヤングケアラーへの支援】

回答内容
声を挙げ、助けを求めやすい窓口の設置、情報公表(学校等で具体的に知らせる)。
お手伝いと違い児童との話し合いで理解をしてもらう。そして何の支援が必要かを考える。
市の職員の方が見守り、話を聞いてあげるべきです。
役所、学校の連携推進。
関り方の初期がむずかしい。

回答内容
外からの判断がわからない。家族との話し合いや福祉相談受付を（窓口）わかりやすく設置する。
子供達への勉強会。手伝ってくれる支援があることを知らないと思うのでまずはそこから。
一人で悩まないようにする。
全てについて現状が見えて来ない。担当地区では該当する事例がないのか？把握出来ないだけなのか？情報が入らない。市との連携がもっと必要なのではないかな？！
親の介護と同時に兄弟の世話へのリスクも高い。学校と福祉連携、当事者が将来へ望みが持てるような環境・相談先。
障害を持った家族を子どもが介助しているニュースを見る事が増えた。頼る所がない、頼り方が分からず、自分の事を後回ししてせざるを得ない状況が出来てしまっているのだと思う。相談窓口を拡充、情報提供を積極的に行い、サービスや支援を受けやすい体制作りが必要だと感じる。
地域全体の協力。
今、学校が荒れていて、落ち着きのない子が多いように思います。そんな中で、不登校ぎみの子は、益々行きづらくなっています。子どもの個性を伸ばすのは大切だが、自由の中にも規則があり守っているから社会が成り立つことをまわりの大人が知らせて欲しい。またボーダーの子が増えている。その子に合ったカリキュラムを用意し見守る体制を考えていく。
相談先リスト。
ヤングケアラーと言う子どもたちの人数が当市では把握できているだろうか？
ヤングケアラーは、あまり表面化しないので、わからない場合が多い。学校で、当事者が相談しやすい環境（学活の時などにこれがヤングケアラーなんだよ）と言う話をする機会があると良いと思う。
積極的な保健センター、市の介入
困ってるよ！助けてほしいよ！ってヘルプを出す場所の周知と、ヤングケアラーがどの程度存在しているのかの把握をして、定期的に「困ってる？」など、こちらから発信するような機会があるといいのでしょうか？
地域包括支援センターでの業務の中で、ヤングケアラーとされるケースを対応したことがない。どこで、どんなタイミングで情報を得るのか？
現在の支援は縦割り行政のままなので、若い人にわかりやすい利用案内が必要と思う。
周りからとても見えにくい問題で、難しさを感じる
子供たちに負担がいかないよう、子供らしく生活できる環境整備
早期発見、多機関との連携、総合支援できる部署の開設
家庭でなにが起こっているのか把握するシステム。学校や地域、福祉など横の連携
自分だけで抱えなくていいこと、人を頼っていいことを発信して、支援の方法があること、相談窓口等の情報を届けられるといい。
生活保護受給担当職員とケースワーカーと民生委員と地域保護司と連携会議で実情を把握し、訪問支援
学校による状況把握
ヤングケアラーという言葉がまだ浸透していない。また自分自身がそれに該当していると気づいていない人もいるのではないかな。わかっていても支援のことを知らないのではないかな。

【青少年の健全育成、犯罪や非行防止対策】

回答内容
地域防犯パトロールを実施しているが、隊員が高齢化している。
この様なお子さんがいるのであれば、ご近所のコミュニケーションがあればみつけるのではと考えます。
情報が多い社会でまわりの大人がシンプルであるが事の善悪を教えるのではなく考えさせる(小学校から)。
保護司としての対象者サポート。
今、闇バイト等がはやっておりますが、警察、学校等で講演してください。
薬物乱用、闇バイトに手を出さないよう中学校で年1回ぐらいは話をしてほしい。
警察、学校の連携をする。
広報活動の充実。
SNS 拡散防止。子供1人1人の気持ち、意思の向上の為の指導、悪い事は悪いと言える空間作り。
全てについて現状が見えて来ない。担当地区では該当する事例がないのか？把握出来ないだけなのか？情報が入らない。市との連携がもっと必要なのではないかな？！
根岸台の一部の地域で外国人居住者の子ども達が貧困の為、犯罪に走る傾向があります。市の方で把握しているのでしょうか？
幼児から、紙芝居、寸劇などを使い、楽しさ、怖さの教育が必要かと思います。
「おはようございます」「さようなら」等、あいさつが良くてきています。
少しでも間違った方向に行かないよう、人の道を踏み外す事のないよう、大人がしっかり見守らないといけないと思っています。いけない事はいけないと教える必要があり小さな兆候は見逃す事のないよう、少しでも早いうちにと、微力ながら月2回程朝霞近辺の補導パトロールのサポートを仲間と続けていこうと思っています。
啓発活動に参加。
浜崎近辺は、怪しげな子はみかけません！！
乱暴な言い方だが、「発散できる場所」作り。青少年たちの意見で出来る場所作り
強盗や凶悪事件の低年齢化、貧困対策や教育の安定化を行政だけでなく、地域活動を通して、行えるものもあるのではないかな。
家庭や経済支援など上記の問題が解決すると健全育成につながると思う。
善悪が理解できるように地域全体で防犯活動等を取り組み、小学校等も巻き込み、こどもの頃から参加できるといい。
子供の頃から、教育で道徳や倫理、家庭内で躾などを当たり前のように教えるべき。上記の不登校、ひとり親家庭や共働き家庭の対策などにつながることの認識をする。大人も学ぶべきで、子どもは親を見て育つ。

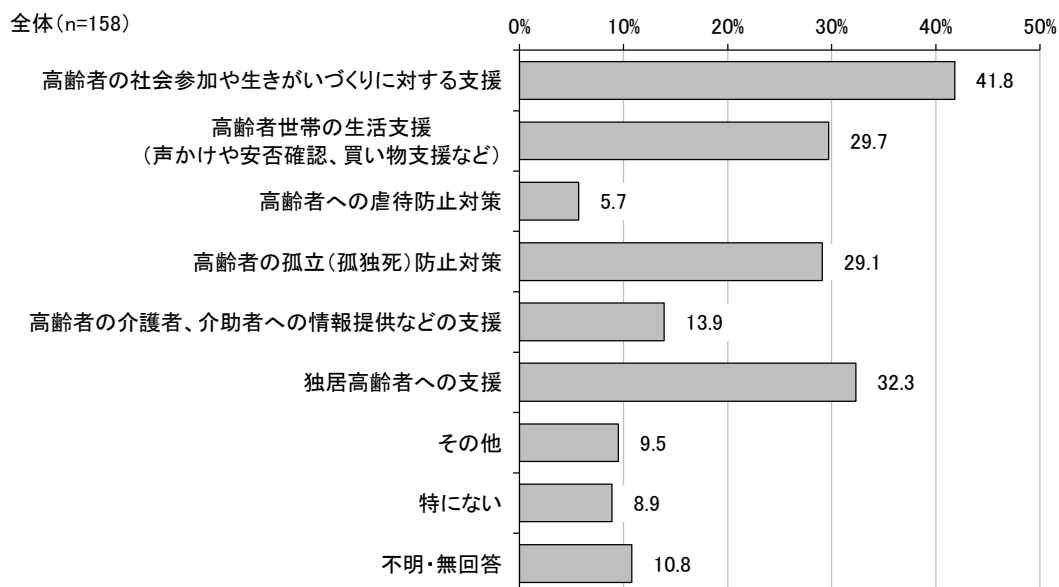
【その他】

回答内容
「挨拶の励行」の看板を提出している。
放課後の居場所
[福祉の遅れ]

回答内容
近辺の市区町村に比べて、福祉は遅れている！と、言われがちですよ…。相談支援も増えるといいのかな??
障害児者の支援、特に成人後
児童相談所の増設など、救急車並みに直行できる制度は無理なものなのか？時間がかかりすぎる。
5、6、7、8については各学校の先生方が身近に感じている問題だと思います。学校と行政、民生委員等常に連絡をとり協力していく事だと思います。
ニート・引きこもりになってしまった若者が介護職員になるシステムがあれば、介護人材不足の解消につながるのではないのでしょうか。
この頃特に、狭い道が多いにもかかわらず、トラックやダンプが増えた気がする。かなり乱暴な運転を見受けるので注意が必要。特に通学路など見ていてヒヤヒヤすることが多く思える。

問5 高齢・介護に関して、最近、地域で気になる課題がありますか。優先的に解決すべき事項を選択してください。（2つまで選択）

「高齢者の社会参加や生きがいづくりに対する支援」が41.8%と最も高く、次いで「独居高齢者への支援」が32.3%、「高齢者世帯の生活支援（声かけや安否確認、買い物支援など）」が29.7%となっています。



〈経験年数別クロス〉

経験年数別にみると、1年以上3年未満、5年以上10年未満、20年以上では「高齢者の社会参加や生きがいづくりに対する支援」、3年以上5年未満では「特にない」、10年以上20年未満では「独居高齢者への支援」が最も高くなっています。

単位: %		支援が 高齢者の 社会参加 や生き がいの ための 支援	買い物 支援 や安 否確 認支 援	高齢 者世 帯の 生活 支 援	高 齢 者 へ の 虐 待 防 止 対 策	高 齢 者 の 孤 立 (孤 独 死 防 止 対 策	高 齢 者 の 情 報 提 供 者 な ど の 介 助	独 居 高 齢 者 へ の 支 援	そ の 他	特 に な い	不 明 ・ 無 回 答
全体(n=158)		41.8	29.7	5.7	29.1	13.9	32.3	9.5	8.9	10.8	
経験 年 数 別	1年未満(n=7)	0.0	57.1	0.0	28.6	28.6	14.3	0.0	14.3	14.3	
	1年以上3年未満(n=11)	63.6	27.3	9.1	27.3	18.2	27.3	9.1	9.1	9.1	
	3年以上5年未満(n=15)	20.0	20.0	0.0	20.0	0.0	26.7	0.0	33.3	20.0	
	5年以上10年未満(n=47)	44.7	34.0	4.3	27.7	17.0	25.5	6.4	4.3	12.8	
	10年以上20年未満(n=47)	42.6	27.7	2.1	29.8	12.8	44.7	12.8	6.4	4.3	
	20年以上(n=28)	42.9	25.0	14.3	28.6	10.7	32.1	14.3	7.1	14.3	

〈専門分野別クロス〉

専門分野別にみると、子ども・若者支援、高齢者支援、障害者支援では「高齢者の社会参加や生きがいづくりに対する支援」、防犯・防災・交通安全では「高齢者の社会参加や生きがいづくりに対する支援」「独居高齢者への支援」が最も高くなっています。

単位：％		支援が きがい づくり の社会 参加 する生	高 齢 者 の 支 援 （ 声 かけ や 安 否 確 認 、 援	高 齢 者 の 世 帯 生 活 支 援	策 高 齢 者 へ の 虐 待 防 止 対	死 高 齢 者 の 孤 立 （ 孤 独	支 者 高 齢 者 の 情 報 提 供 者 な ど の 助	独 居 高 齢 者 へ の 支 援	そ の 他	特 に な い	不 明 ・ 無 回 答
全体 (n=158)		41.8	29.7	5.7	29.1	13.9	32.3	9.5	8.9	10.8	
専 門 分 野 別	子ども・若者支援 (n=77)	45.5	32.5	2.6	24.7	15.6	31.2	6.5	11.7	11.7	
	高齢者支援 (n=92)	50.0	37.0	7.6	34.8	10.9	39.1	13.0	2.2	5.4	
	障害者支援 (n=77)	45.5	37.7	5.2	29.9	11.7	32.5	9.1	7.8	11.7	
	保健・医療 (n=7)	57.1	28.6	0.0	28.6	0.0	28.6	0.0	14.3	0.0	
	防犯・防災・交通安全 (n=26)	50.0	38.5	15.4	34.6	11.5	50.0	15.4	11.5	7.7	
	就労支援 (n=4)	0.0	25.0	0.0	0.0	25.0	25.0	0.0	50.0	0.0	

■ 解決に向けたアイデア・ご意見（自由記述）

【高齢者の社会参加や生きがいづくりに対する支援】

回答内容
性格上、生きがいづくりにさそっても難しい人が多い。
いろいろなサロン等に参加してもらうこと。
先日の民生でも言っていましたが、地域包括の方々の努力で居場所作りをしているのを知らせるのがいいのだと思います。
民生委員、児童委員でサロンを運営。世代交流の場ではあるが参加者をいかに声掛けするか。特に男性は少ないのが課題。
現状ではサロンなどボランティア活動になっているのを市役所も積極的に地域人と関わってほしい。
学校に日中行けない子供達と、お仕事されていない高齢者が一緒にご飯を食べる、学習を見守る、お話を聞くことやゲームを教えてあげるなど共有できる場所作り。
老いていく道程で、コミュニケーションとるのが苦手という声は心の中を知る中でじっくり話を聞いて、一緒に考え、移行できるよう支援した。
サロン等を作り、参加して頂きたい。
ラジオ体操、清掃活動等のよびかけ。
デイサービスはリハビリ特化等、ただの預けではないところもふえてきているが、デイ未満(要介護、要支援未満)の人が参加できる必要とされる社会のために、団体をたちあげやすくする等。
多様化する趣味、生きがい作りへの対応(画一的なプログラムのメニューだけでなく金銭をとまわらない麻雀やパソコンサークルなど)。

回答内容
居住している地域に集える場所づくり。
サロンなどの紹介。
サークル活動、老人会のしょうかい、参加勧誘。
本人が喜んで参加してくれるなら良いですが、無理強いをしてまでやると互いにつらい。
中には人と接することがイヤな人もいるので、無理強いはできないが声かけで参加を促すしかないと思う。
高齢者の方は、自分の殻に閉じこもりがちで催し物の参加に誘っても中々出て来ない方が多く、いかに参加してもらえるか？
人によって生活は様々ですが、まずは健康でなくては。それには、スポーツや趣味、シルバーでの仕事、何より家族との関係を良好にして、笑顔でいられるように、家族同士の声かけなど。
社会参加してもらう為に、病院（かかりつけ）での支援など。
小学校や保育園などから近隣に住む高齢者へ「見守り」「読み聞かせや素話」「昔あそび」などの協力をもっとアピールし、高齢者が率先して参加するよう働きかける。
無料で月に何度でも高齢者が気軽に集える場があると楽しく元気に過ごすきっかけ作りが必要だと思う。
訪問時に地域のサロン等の話をする。
定年の延長、70歳、75歳でも働きたい人は、本人の希望で仕事できるようにする。
日常的に家にこもらず、他人と過ごせる場所があると良いと思う。他人との交流からスタート。
高齢者が寝たきりにならない様に月1回歌、運動、季節の行事等のボランティアをしておりますが、参加していない人に声かけをしております。
町内会のイベントに参加したり、誘うなどする（健康であっても人の関わりが苦手な方は難しい）。
近所にあると良いと思う。足腰が弱い人が多い為又は話せる場所。
内間木地区では歩道が狭く、大型車の交通量が多い。一軒ごとの間も離れており、とても社会参加や生きがいづくりができる環境ではない。中心地のみならず、全体を見て対応してほしい。
働ける場があり、個人を認めてもらえ、必要とされる所作り。
健康な高齢者が、スポーツ等で、より健康を維持する場合の施設が足りない様に思います。
ひとりで出歩けない人はデイサービス等に頼るしかない。
高齢者が増加している近年対策として社会参加は、欠く事の出来ない課題である。参加の方法として役所、社協、民生委員、公民館又は、インフォーマル等の組織を利用して、健康の増進、社会奉仕（花植え、防犯パトロール等）・地域交流・レクリエーション等の諸活動の活発化を仕向ける。
デイサービス等の施設に、公民館等でお稽古している（詩吟、カラオケ、踊り等）事を披露する。
サロンなどでつながってはいるが、一定の元気な人のみ参加。やはり、近場で少人数でお茶飲みなどして、話せると良い。
敬老会等の活性化。
本人の意欲、身体の問題等により年齢が高くなればなる程、女性よりも男性の方が社会参加や生きがいづくりに消極的になる傾向が強いように思う。人生100年時代と言われている現代で、社会参加や生きがいづくりをする事はとても大事であり、それをしやすい環境作りや啓蒙活動の必要性は感じている。
誰でも自由に出入り出来る居場所作り。軽くお茶を飲みながら世間話が出来れば良いように思う。おしゃべりをして元気になる。

回答内容
生きがいをもてる支援活動。集まって体操、脳トレ、おしゃべり等々笑って過ごせる時間場所を継続的に提供して共に過ごす。
自分の健康や老後に対する意識向上の為に意識改革ができる様な事（思いつきませんが…）。
介護予防事業や地域活動へ参加して欲しい方がいても、要介護の方だと送迎がないと難しい場合がほとんどです。決まりきった介護保険サービスだけでなく多様な参加の場へ誘導できるよう行政サービスがあると良いと感じます。
気軽に出入り出来る場所がもっとあり、その集いをもっともっと知られていけば良いかと思う。
デイサービスや地域包括支援センター、市などと協力してイベントを行う。
シニアクラブ連合会の充実
これまでに培ってきた仕事、趣味等の経験を活かす場所を提供・設定し、容易にアクセスできる環境を作っていたらと有難いです。
働き口を増やして、地域とつながる！！とか？
自治会館や町内会館の管理やルールは会の独自のものと思うが、せっかく、周辺地域住民に知られた場所ならば、高齢者の集いの場として開放してもらえるといいのではないかなと思う。
高齢者の元気な方が、介護や話し相手や買物などのお手伝いした分をクーポン券として、自分が買物などが必要になった時に使えるようなシステム
知恵や知識が生かされる社会参加
より自宅の近くで参加できるイベントの実施(集会所や公園を活用)、高齢者限定のイベントや年齢制限を設ける(80歳以上の人のみなど)
機会を作るためのリーダー作り、世代交代への対応
高齢者が「役割」をもつことは非常に大事ですし、認知症予防・症状の低減にもなります。手芸・料理など得意なこと、英会話などやりたかったことの小さなサークルがあれば良いなと思いました。

【高齢者世帯の生活支援（声かけや安否確認、買い物支援など）】

回答内容
一人暮らしの高齢者のサポートが不足していると思う。
地域で声かけをします。
日々の買い物に困っている人が多いです。配達もありますが、金額ある一定買わないと使えません。出かけたくとも、交通の便が悪いです。
身体介護を専門職が行っているが、生活援助を必要としている方が多い為資格がなくても出来る人材を増やす。
一人でいると、一日誰とも話をせず過ごしている。話し相手が乏しい。一人暮らしの老人を狙った犯罪が多く、見回りを勤めている。
やはり、ご近所のコミュニケーションでは。
車を運転していると横断歩道のない大きな道路でも平気で横断している高齢者をかなり見かける。ほぼ高齢者の方ばかりなので、危ないと思うことが多々あります。
声掛け、安否確認、おしゃべり、お話を聞いてあげる、買い物、通院等お手伝い。高齢者が集いおしゃべりする場をもうける。

回答内容
顔を合わせてあいさつできる関係をまずは目指しています。
ゴミ捨ての際など見かけたら声かけする。
高齢化社会に向けて、中学生の職業体験的なことで参加する。
自治会からの情報活用。
家族以外の方が家に入る為の取っ掛けが必須。
地域包括につなげていろいろなサービスをうけられるようにする。
家の回りはスーパーがあり便利であるが、遠い場所では買物もできないと話を書くことがあり「とくしまる」のスーパーカー利用や買物したものを自宅まで配送システムを増やした方がよい。
日常の挨拶が大事。
猛暑の時期など外へ出るのがつらくて、買物も出来ないとの声を聞きます。地方では移動スーパーがある様に、お店の方が近くに来てくれる環境が作れたら買物が楽になるかもしれない。
重い買物（お米等）がある時に声をかけて下さいと伝えています。又、自宅の前の道路を腰痛のため掃除できない隣人の為はいています。
独居の方が、今後増える。商工会、自治会で協力、市内なるべく多くの場所で移動スーパーを小分けして分散販売。
高齢者が増加している近年対策として社会参加は、欠く事の出来ない課題である。参加の方法として役所、社協、民生委員、公民館又は、インフォーマル等の組織を利用して、健康の増進、社会奉仕（花植え、防犯パトロール等）・地域交流・レクリエーション等の諸活動の活発化を仕向ける。
アンケートなどを取り、今一番何を欲しているかを聞く。結果をそのままにせず出来るかどうかは後に判断、こんな事をして欲しいとこちら側に投げてもらいたい。百に一つでも出来るかも知れない。
敬老会等の活性化。見守り、見回り。
家族機能の社会化。例（北九州市 NPO 法人抱樸）。
見守りをしている。
2、3日連絡がない時はこちらから電話する。チャイムでは聞こえない時がある。
75才以上の独居の方への訪問、イベントのお誘い、包括支援センターへのつなぎ。
支援の情報を知らない、躊躇する高齢者も多い。支援を必要とする高齢者を支援する側も把握しづらい。相互が気楽に気軽に情報交換や話しかける場所や機会がもっと増えれば良いかと感じる。
新聞屋さんとか、なんか、回ってる人たちを巻き込んで、安否確認！！
町会の人か、民生委員などが、定期的に訪ねる
障害者施設で勤務しているが、障害者の日中活動で配達とかできたら面白い
定期的に決まった人が声掛けや安否確認をする体制を作ってほしい。
地域の中で孤立することで、近隣住民と対立する事の無いよう、定期的な訪問支援
闇バイトによる今までになかった犯罪が毎日ニュースなどで当たり前になってきた。訪問や声がけが安易にできない社会情勢になってきた。活動や支援の仕組みを社会の現状に合わせないとならないと感じる。

【高齢者への虐待防止対策】

回答内容
家族、親子関係についての教育、支援するため若い世代の人に早くから人間関係の研修。

回答内容
情報と町の電気屋さん、コンビニ、新聞屋さん等から入手。
虐待する者、される者、それぞれの相談窓口を充実する。
通報システムの推進。
虐待に相談しやすい環境作り。
虐待の把握と家族の相談会等を継続的に実施、介護者の負担軽減を図る。
低賃金の為の人材不足。
入所施設を増やして、家族の負担を減らす！！施設では、、、研修か、、、もう、、、防犯カメラつけて、市が視聴できるようにする！！（本当は見なくていい）
一人に対して複数の施設、複数の人間が支援する体制

【高齢者の孤立（孤独死）防止対策】

回答内容
行政による手厚いサポートが必要と思われる。
日頃、近所とのつきあいがいとなかなか難しい。又、民生委員としての声かけも限りがある。
細かいエリアでの見守りや声かけ。
地域の行事に参加するよう勧めている。ラジオ体操。
ご近所のコミュニケーションが大事だと思う。
ご近所つきあいのないかなるべく声掛けをする。
ボランティアや郵便などで困っていることがあったら連絡してください。と役所、社協の相談窓口をつくる。
ご近所におりましたら声掛け等をしたと思います。
身寄りのない高齢者のための施設はないのかと思います。他の人と関わることは大切なことだと思います。
声かけや近所の方の情報。
地域住民の交流。
近所付き合いの若手な方が難しい。
地域包括支援センターとの連絡を窓にしてお互いの情報交換が必要。
民間のホームセキュリティーの導入にあたり工事費や月々の料金に対して一部助成する事で急変時に対応が容易になると思います。
新型コロナウイルス感染の影響で高齢者の孤立が…人と人との繋がりを実感できる居場所づくり。支援を求める声を上げやすい地域づくり。
信頼のおけるご近所さんや、民生委員などに連絡先（ご家族や親戚）を伝えられる間柄であることが望ましいが、警察・行政が把握し、何か異変があった場合すぐに連絡が取れ踏み込める状況であって欲しい。
近所の人達が日常の変化を見逃さない。
個人情報もあり専門家なりがしっかり関わった方が良い。民生委員だけではムリがある。
声かけや、郵便受、新聞等の確認をし、市役所、包括に連絡。
独居の方を地域で見守る。
兄弟や子供が、別居であれば、居住地がどこか、遠方なら知人・友人と交流があるかなどを把握できるようにしておく。

回答内容
確認の為。80才以上の家庭1人個人に1個又は、ボタンを押すこと一日一回。
内間木地区では孤立しやすい。SNSが利用できない高齢者にとって情報が届かない。近隣とのつながりが気薄のため、孤独死しても誰にも気づかれない恐れがある。
今後、単身の高齢者世帯が増えて行き、孤独死に直面してしまう恐れにある方々も多いと思う。地域住民同士でつながっていれば良いが、最近はつながりが薄れていると感じる。サロン、集会等、集まれる場所の提供や安否確認が出来る状況等、孤立しない環境整備が必要。
高齢になって孤立しないように若いうちから周りに関わりを持っておく。
高齢者の孤立化防止の為には、出来ると思われる事は、町内会・老人会、地域住民（隣家）、諸行事、防犯パトロール（社会参加）等、積極的に参加出来る仕組みづくりを醸成する。
訪問、声かけ。
民生委員として、お宅を訪問しても「来ないで欲しい」「訪問されるとみっともない」などと言う人がいる。近所の人が見守ってくれると安心するんだと思うので、負担にならない程度の訪問をしてくれるとお互いに良いかと思う。
町内会の機能がどんどんなくなってきていて地域のつながりが希薄になっていると感じます。町内会の機能自体を見直し、再生させることが地域づくりの近道なのではないかと思います。
町内会での高齢者への取り組み
提供主体にかかわらず、高齢者の安否確認、見守りを定期的に行い、情報共有できる体制が整備できれば、孤立を回避しやすくなると思います。
いざという時に地域包括支援センターや社会福祉協議会にたどり着けばなんとかなるので、ささいなことでも気軽に相談できるように受付体制を工夫して欲しい。
3番と同様。みんなを巻き込む
外に出ることが嫌い、人付き合いが苦手な人に対して、どのような支援をしたら良いのが難しい
買物などの声掛けを皆で行う。保育園の散歩のついでに行けないか？
市内の独居老人の自宅を訪問したり、高齢者がサロン、老人センターなどで福祉サービスを専門としている職員がデイサービスなどの福祉サービスを利用できることを案内して、福祉の手が必要をしている人達にいきとどくようにする。
高齢者共同住宅等の設置及び積極的な居住者の募集

【高齢者の介護者、介助者への情報提供などの支援】

回答内容
だれにでも分かりやすい情報の提供。
民生の方、若い方が情報を渡すのがいいと！チラシを渡す等する。
後期高齢者の介護者や家族に向けての研修、セミナー、仕事と介護の両立の仕方、プランナーのアドバイスなどの情報提供を手紙などで欲しいです。関わり方や、高齢者の自立と支えのよりよい距離感などのじょうほうを知りたいし、虐待防止へとつながるのではないかと思います。
朝夕、家周りで掃除などを行い、近所の方から声かけしやすい雰囲気を作って話を聞いたり相談に応じる。
話を聞いて上る情報をもっと知りたい。（介護はいつ終わるか解らず、疲れるし淋しいものであるから）。
老々介護、介護者が障害や難病等何かしら病を抱えてる家庭の把握と相談先の提供。

回答内容
老老介護、老障介護等、家族が頑張ってしまう、心労が重なって限界を迎えてしまう事実も少なくない。声を上げづらい状況にある、情報が行き届かない実情があるため、情報の提供や地域の現状を把握し、サービスが利用できる方向に持っていければ良いと思う。
とにかく注意をして、異変に気付くようにして、話を聞いてあげる。
このため役所、民生委員や上記の各インフォーマルな組織に老人の社会参加をさせることにより、孤立化を防ぐ為の認知度不足の補填を行う。
高齢者を見守る側（家族など）も実際自分の生活などで、手を貸せない状況がある。
SNSの発信！！！！ぼぼたんもみたい！！（ぼぼたんの制限きつい！）
ラインを活用したグループ作り
本人はもちろんその方の家族を含めた、包括的な情報提供が必要と思う。介護が必要になってきて、初めて知るケースが多いのではないかな。色々な方法で、介護支援が受けられることを周知しながらコミュニケーションを取ってはどうか。

【独居高齢者への支援】

回答内容
私は、気が付いたら支援する旨を伝えている。
地域での取り組み。
声をかけあいコミュニケーションをする。
定期的に訪問し、お話を聞く。
訪問をしながら包括支援センターと情報を共有し相談をしながら出来る事はする。
町内会などへの入会をより簡単にできるようにしたい。
都では、シニア向きの食事会があるそうです。我が町でもどうでしょう。
見守りサービスの拡充。
声かけや近所の方の情報。
公設の介護施設。
人との付き合い方ができないと難しい。
連帯保証人がいない為に賃貸住居に入居が難しい高齢者に対して入居が容易になる様にして頂きたいと思っています。
訪問時、体調の状態や困っている事等の確認する。留守で何回か会えない時は地域包括支援センターに連絡し生活状況を確認する。
見回り、声かけの中で不足な事、悩み事などを聞き出す。
市と民生委員が連ケイし、高齢者に声かけをする。
高齢者となるといつなん時何があるか分からないと思うので常に様子を見にいたり、異変に素早く気付き対応することでさみしい思いもせず、安心して過ごせると思う。
独居高齢者の孤独回避と支援は、１．公的機関が実施する見守りシステム改発と増設、２．地域住民が行う諸行事への参加促進、３．近隣住民からの支援、４．公民館等で行っているグループサークル。
訪問し、話を聞き、包括支援センターに依頼してますが、連絡先は明記しておく。
１の質問で答えたように、寿命が長くなったことと高齢でも元気な方々が増えてきている為に当然周囲にも独居の高齢者が増えてきている。一人でも一応日常生活に問題がなければ、何とか自分でやっていき

回答内容
いと考えられる方も多く、小さくても問題を抱える方を見つけるのは難しい。そういう方々を見つけ出す為にも周囲に目を配り見守る必要を感じている。何かあれば必要な支援を受けられるよう行政等につなぐ事も必要。
日中独居の方が多いように思う。普段の近所付き合いが大切。お互いを認めあうことにより安否確認できる。
身寄りのない高齢者の後見や意思決定の行政サポートが必要。
住居など身元保証制度が必要な独居者への対策。民間法人への認証対策。
地域ぐるみで考えなければならぬので独居の方に常に訪ねたり、お誘いすることが重要。
訪問、現状をお聞きする。
地域参加の為に子供達を巻き込んだ取組み。
高齢になると、買い物が大変なので、移動販売車を週に2回位出してもらえると助かります（現在は週に1回）。
いざという時に地域包括支援センターや社会福祉協議会にたどり着けばなんとかなるので、ささいなことでも気軽に相談できるように受付体制を工夫して欲しい。
身寄りのいない利用者への支援、生活困窮者への支援
電球替えたい！とか、ちょっと困ったに手がかせるようなボランティア制度！協力したら1ポイントで、大学進学に有利とか！！就職に有利とか！！とかとか！！
独居高齢者のリストがあるといいと感じる。避難台帳にある情報は実情とは違うことが多い。
認知症で独居の方の支援で関わっていたことが多くあり、本人、家族の了承を得て近隣、町内会も巻き込んで支援してもらっていたことがある。
外に出ることが嫌い、人付き合いが苦手な人に対して、どのような支援をしたら良いのかが難しい
定期的に保育園や学校などの給食に招待する
町内会などの協力を得て、地域の独居高齢者の人数などを把握する。
経済的状況を確認して、支援を考えてほしい。物品支援なども。
地域の見守り方法の見直し、50代、60代から独居に向けての情報発信を行っていく。
サークルや地域行事への参加支援。町内会、民生委員、保護司と連携し訪問支援。

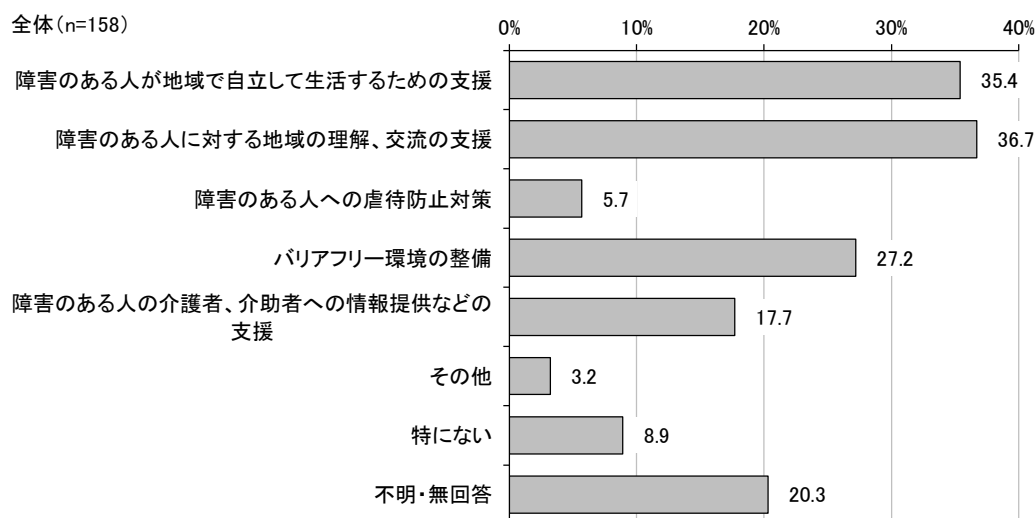
【その他】

回答内容
【デイサービス】 デイサービス利用者の方は現状に満足、安心して通所していると思う。行きたがらない理由は？提案ですが、各デイサービスの特徴を明記、選ぶ自立になるかなと思います。例えば、街を歩く。料理教室がある。体操教室がある。カラオケ、絵画教室、マッサージ等今迄やったことがない種目で楽しみを見つけて遊びながら学ぶ。一年一度発表会を催す。家族も参加出来るようになる。 高齢者でも可能な仕事メニューの紹介。
【環境】 近隣の高齢者（自身も含め）に対しては共助の気持があるためか、あいさつ、声かけが多くなったように感じます。がハード面で夜は暗いところが多く高齢者がつまずき、転倒を多くみかけます。対策を希望します。

回答内容
活動の周知と促進（現在は認知度が低いのでは）。
[栄養指導] 現在、要支援の方への栄養指導はありますが、要介護者へはなく、訪問し、相談にのっていただける制度があるといいと思います。
貧困、身寄りの無い人への支援 [ADL の維持・フレイルの予防] 大きな病気をしないように、持病を今以上悪くしないように、運動できる機会と栄養（食事）を学べる場が必要だと感じています。
月1回、高齢者とおしゃべりする機会を作っている。そんな機会に参加できない人が増えている。性格の問題多いにあり。
最近、物騒な事件が多くて、固定電話には出ず、訪問しても出てこられない(留守なのかもしれませんが)お会いできないことも多いです。
第2号介護保険サービス利用者向けのデイサービス、デイケア等が増えるとよい。
高齢者の1人住まいは地域の中でも老人だけのアパート等、片寄っています。情報となる広報もポストに山積にされていて連絡が難しい時があります。オーナーの人に理解を求め伝達しやすくなればと思います。
高齢者による高齢者の介護は、地域のつながりがあれば多少は解決できるかもしれません。また、介護保険外のサービスの充実が今後重要な役割を担うのではないのでしょうか。
1の質問で答えたように、寿命が長くなったことと高齢でも元気な方々が増えてきている為に当然周りにも独居の高齢者が増えてきている。一人でも一応日常生活に問題がなければ、何とか自分でやっていきたいと考えられる方も多く、小さくても問題を抱える方を見つけるのは難しい。そういう方々を見つけ出す為にも周囲に目を配り見守る必要を感じている。何かあれば必要な支援を受けられるよう行政等につなぐ事も必要。
地域の人たちと、町内会活動等々を通して自然と情報を得るよう心がけている。
認知症の一人暮らしも増えてく中で認知症を理解してる方の支援が重要！

問6 障害者支援に関して、最近、地域で気になる課題がありますか。優先的に解決すべき事項を選択してください。(2つまで選択)

「障害のある人に対する地域の理解、交流の支援」が36.7%と最も高く、次いで「障害のある人が地域で自立して生活するための支援」が35.4%、「バリアフリー環境の整備」が27.2%となっています。



〈経験年数別クロス〉

経験年数別にみると、1年以上3年未満、10年以上20年未満では「障害のある人が地域で自立して生活するための支援」、3年以上5年未満では「バリアフリー環境の整備」、3年以上5年未満、20年以上では「障害のある人に対する地域の理解、交流の支援」、5年以上10年未満では「障害のある人が地域で自立して生活するための支援」「障害のある人に対する地域の理解、交流の支援」が最も高くなっています。

単位: %		た め の 支 援	障 害 の あ る 人 に 対 す る 支 援	の 理 解 、 交 流 の 支 援	障 害 の あ る 人 に 対 す る 支 援	待 防 止 の 対 策	障 害 の あ る 人 に 対 す る 支 援	整 備 の 環 境	バ リ ア フ リ ー 環 境 の 支 援	提 供 の 支 援	障 害 の あ る 人 に 対 す る 支 援	そ の 他	特 に な い	不 明 ・ 無 回 答
全体 (n=158)		35.4	36.7	5.7	27.2	17.7	3.2	8.9	20.3					
経験 年 数 別	1年未満 (n=7)	28.6	57.1	0.0	14.3	0.0	0.0	28.6	14.3					
	1年以上3年未満 (n=11)	54.5	27.3	0.0	36.4	27.3	0.0	0.0	27.3					
	3年以上5年未満 (n=15)	26.7	33.3	13.3	20.0	20.0	0.0	20.0	20.0					
	5年以上10年未満 (n=47)	34.0	34.0	10.6	27.7	19.1	6.4	6.4	21.3					
	10年以上20年未満 (n=47)	44.7	34.0	2.1	31.9	14.9	2.1	12.8	12.8					
	20年以上 (n=28)	21.4	50.0	3.6	21.4	17.9	3.6	0.0	28.6					

〈専門分野別クロス〉

専門分野別にみると、子ども・若者支援、高齢者支援、防犯・防災・交通安全では「障害のある人に対する地域の理解、交流の支援」、障害者支援では「障害のある人が地域で自立して生活するための支援」「障害のある人に対する地域の理解、交流の支援」が最も高くなっています。

単位：％		た め の 支 援	で 自 立 の 支 援	障 害 の あ る 人 に 対 し て の 理 解 、 交 流 の 支 援	障 害 の あ る 人 に 対 し て の 理 解 、 交 流 の 支 援	待 障 害 の あ る 人 に 対 し て の 理 解 、 交 流 の 支 援	整 バ リ ア フ リ ー 環 境 の 支 援	提 供 、 介 助 の あ る 人 に 対 し て の 理 解 、 交 流 の 支 援	障 害 の あ る 人 に 対 し て の 理 解 、 交 流 の 支 援	そ の 他	特 に な い	不 明 ・ 無 回 答
全体 (n=158)		35.4	36.7	5.7	27.2	17.7	3.2	8.9	20.3			
専 門 分 野 別	子ども・若者支援 (n=77)	40.3	42.9	2.6	26.0	18.2	2.6	11.7	13.0			
	高齢者支援 (n=92)	30.4	34.8	2.2	25.0	14.1	5.4	9.8	25.0			
	障害者支援 (n=77)	45.5	45.5	7.8	27.3	18.2	5.2	7.8	10.4			
	保健・医療 (n=7)	57.1	14.3	0.0	0.0	42.9	14.3	14.3	0.0			
	防犯・防災・交通安全 (n=26)	26.9	30.8	0.0	23.1	11.5	11.5	19.2	23.1			
	就労支援 (n=4)	50.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0			

■ 解決に向けたアイデア・ご意見（自由記述）

【障害のある人が地域で自立して生活するための支援】

回答内容
親が亡くなった時など生活の基盤のサポート。就労などを不安に思う声が多い。
制度にもれてしまった方の見守り。
市の情報を知らせる。
グループホームや施設を必要としている人たちにグループホームや施設の存在をあまり知られていない気がします。こんな所にあったなんて長年住んでいるのに知らなかったと言われることが多いです。もっと知って頂くための工夫が必要と感じます。
働ける場所の提供を市としても積極的に支援してほしい。農協とかと連携して野菜作りなどをして売り上げを給料として支払う。自給自足は必要だと思う。
建物入口へのスロープ、点字での表記など支援できていることも沢山あると思うが、障害者目線での支援かどうか疑問に感じる事がある。具体的な策を小さな事でも講じてほしい。
障害者わくを企業でもうけて下さい。
不動産業者の理解の推進。
住まいの確保。相談支援員の確保。
作業所などあると思いますが、障害のある方が働いた賃金のみで管理し生活することや、自傷他害の可能性のある方へのサポートをするケースワーカーの増員は必要なのではないかと思います。
障害があっても社会に興味を持てるように声掛けをする。
障害があっても何かできる事はあると思うので、そういう人を受け入れる会社等をふやす。

回答内容
福祉作業所以外にも民間で受け入れてくれる会社が増えると良いと思う。そのためには、その人の個性、接し方なども注意深く説明し、理解して頂くことも必要であるが…。
シニアカーの利用が目立って来ています。交通ルールの徹底と通行区分の明確化が必要です。
障害のある人でも、できる仕事を増やしていく。時給を上げて、生活に困らないようにする。
市内就労先開拓、市内通勤により就労が可能者が増、福祉的就労事業所の誘致。知的障害者の自立訓練からの就労、自立への支援。
障害者枠で雇用される人への待遇、与える作業の改善が必要。より長期の契約、給料 up、孤独な作業のみから、仲間と話や交流ができる方向へ。
市内にグループホームが少なすぎる。これでは、障害者が地域で自立して生活することはできない。8050問題の壁を回避できない。又は地方の入所施設に行かざるを得ない。この数年、民間事業所のグループホームがヶ所できはじめ、もっと増やすべき。
コミュニケーションを良くとり状態を把握しておく。その上でご自身でできることは、ご自身でする。
ワンストップ型相談支援センターを設定。
地域にどんな方がいるのかまず把握していかなければならず、担当課の知る限りの情報提供！2にも通じます。
介護者、介助者なくひとりの方の支援がどのようにしたら良いのか。
サークルなどへの介助（声かけ）。
障害者が働ける施設を幅広くする。例えば農作業、草刈り、宿泊設備付き。
公的支援、NPO 法人の支援や地域の人材の啓発及び発掘事業などのキックオフ事業
朝霞市のグループホームの需要が高まる中、強度行動障害者に対する環境が整っておらず、お断りされるケースも多々ある。また、民間の小規模な共同生活援助は数多くあるが、現実、重度障害者が暮すには環境として適さないことも多い。改めて、市として入所施設として検討する必要があるのではないか（現実には難しいが…）グループホームが複数ある中、未だに、満床にならない事業所もあるとのこと。利用者側も選ぶ権利はあるが、しっかりとしたサービスを受けられる体制（国…）を確立し、朝霞市独自のサービスも考えても良いと思われる。福祉・保育園等の職員に処遇を考えても良いと思う。人材不足の足止めとなり、東京の事業所で働きたい方が多いため、避けたい。
自分からまたは家族から周囲へ助け等必要なことを発信できない方々が多いように思います。私たちのような福祉関係者や近隣住民からの通報等をもとに、自治体の方ではもっとアウトリーチ的な行動を起こしてほしいです。
高齢者の欄と同様に、ボランティア！！
療育施設の拡充のみで中身が伴っていない。専門者が整った専用施設に未来ある子ども達（診断がついていない段階からでも）が通いやすいようにして行ってほしい。
重度の子だと地域での自立も現状難しく受け入れ先を探す際にどうしても遠い施設になってしまうので、地域での入所も可能なら保護者さんも助かると思います。
お店など働く場所の提供の協力
普段から、支援を補助するメンバーを決めて、必要な時に連絡し合う事ができるように交流しておく
公共交通機関や店舗などで働く人たちへの障害者は怖くない面倒臭くないということを知ってもらうこと 障害者と職員が参加しての対応などの講習など

回答内容
増えてはいるが、グループホームなどが足りていない
障害のある人が地域で暮らすための施設(グループホーム)が少ないように感じます。また、最近増えてきてはいますがすぐに利用定員が一杯になってしまう。実際に朝霞市で暮らしたいと思っていても、生活の基盤がなく、やむを得ず市外や県外のグループホームに入居になってしまっている。
ニーズを吸い上げて、ニーズに合った地域資源を充実させる。バリアフリー環境の整備については、歩道が狭く、車椅子が通れない、斜めになってしまう等があるため、道路の整備が必要。
個別に事情が違うので、できることできないことで支援の方法や自立のための選択肢が変わってくる。民間の協力も必要。

【障害のある人に対する地域の理解、交流の支援】

回答内容
障害者への理解が得る様、健常者との交流の場を作る。又、小中のイベントなどの誘いもありではないかと感じる。
街をあげた障害者団体の催しの開催。複数の団体の物販、ゲームなどと地域の人にも見て参加してもらう。
就職がむずかしいです。
公共との広い範囲での協力。
これもコミュニケーションが大事だと思う！
普段障害のある人に接する機会がなくふれあいのイベント等にまわりの人達に声かけし参加し楽しむ。
地域にお互いが存じている事を認識し、挨拶したり、会話したりすることであたりまえの存在として接する。特別な交流イベントよりも数段大切だと思う。
あったら話しかけます。
地域で開催される、障害についての講習会。保育士や専門職の人だけでなく、地域の人にも誰にでも知り、学ぶことのできる講演会などがあると良いと思う。
障害の勉強会や障害のある人との交流会を行う。
障害施設周辺住民に対する啓蒙活動。
自治会で協力をして支援して欲しい。
障害者とその家族、健常者との交流の場をもっと増やすべきです。市で積極的に場の提供をしてほしいです。
理解はなかなか難しい。やはり地域でのざっくばらんな話す場とか使い、理解につなげるしかないのでは。お家の方も近隣に迷惑かけたくないの思いが強く感じる。
介助者等の育成と交流の場の企画。
昔に比べれば随分と理解が進んできたように思える。理解はできても障害によってどう対処して良いのかわからない人もいるのではないかと感じている。できる事できない事を理解した上で支えてあげるだけで障害のある人もない人も何も違いはなく、健常者と共生して楽しく交流できないか…と思う。
まだまだ一般の人の偏見が強いと思います。まずは、その見方から変えていかなければ優しい思いやりは生まれないように思います。
ワンストップ型相談支援センターを設定。

回答内容
優しい地域づくり、障害者に対する思いやりが、地域を良くすると思う。障害者スポーツを健康な人と共、子供達と企画して高齢者、障害者、児童との参加交流をする。
障害者の支援施設、作業施設等、一層の充実
幼少期から、障害のある人と接する機会をつくり、手を貸すことが当たり前になるように！！今からコツコツと！！30年後に期待！！！！
小学校や中学校の授業などで、介護の体験や、障害者と話すなど交流して壁をなくしていく。
特別視するのではなく、自然にいられる環境作り
発達に遅れがあるなどで療育に通っているお子様の、保育所等訪問支援をもっとすすめられるようにしたい。受け入れ先の幼稚園、保育園からの受け入れ困難で実現しないことが気になる。市から保育、幼稚園などに理解を求めてほしい。
障害のある人となない人との交流の場を積極的に設けることによって障害のある人への差別を減らす
人が集まる時、ストリートテラスなどで障害児者のブースを行って知ってもらう。
障害者が参加しやすいイベントを多く開催する。
地域で見守ることが障害のある方にとって安心できるかを健常者の方々に理解してもらうことが必要。災害もいつ起こるかわからない状況なので、避難訓練などを通して助け合うようなことができれば交流も進むのではないかな。

【障害のある人への虐待防止対策】

回答内容
大勢の人が、障害を持つ人の不自由な面(視覚障害、難聴)を理解し自然に補い手伝うことが出来れば良いと思う。
虐待につながらないためにも関わり方を学ぶことが大切だと思います。
施設職員の負担軽減のための福祉職員の待遇改善。
家族や支援者に対するケア、相談先の提供。虐待する側の未然対策。
障害者支援に対する正しい認識が施設職員でもまだまだ知識が十分でない事がある。研修の機会を増やす、地域の方々に対しては、福祉教育に力を入れる等して障害特性に対する理解やそもそも障害とは何かという事の理解を深める場がもっとあると良い。
ワンストップ型相談支援センターを設定。
市が開催して、虐待防止の研修をする！手帳を持っている家族も参加！！
先程の質問同様、市や関係機関との連携、起きてしまった時の対応等、事前に打ち合わせできていけばなと思います。
複数の見守りが出来る環境作り
家庭を孤立させない。福祉の人材不足を何とかして負担を減らす。福祉の人材マッチングなど。業者はお金がかかり過ぎるので公的にやってもらいたい。
家族を集めてお互いに意見交換をする場をつくったりして、気軽に相談できる環境を整えて、虐待を未然に防ぐように取り組む。

【バリアフリー環境の整備】

回答内容
公共施設のバリアフリーがおくれている。例えば、エレベーター設置要望が多い。
屋外でも車イスを使用し自走を安全にできる。交通整備、歩道がせまく段差もあるので、道路環境の整備が必要かと思います。
歩行者用専用道路、車いすでもスムーズに通れる歩道の整備。
家の中はもちろん、市の歩道等公園等のバリアフリーを直す事。城山公園はもう一年も前に市議会、市に行ってもなおっていない。公園のトイレもです。城山公園のトイレは車イスの方は使えません。
道路の整備、生活の中で目にするのは車イスの人が安心して外出がしにくい。
移動支援が少ない。予約取りにくい。
健常者であっても日頃の生活の中で少しの段差につまずいたり、視野のせまい状態を感じる事があるので、担当窓口に意見を伝えることが大切だと思う。
車イス等はあった方が良くと思います。
地域の方から、車イスやベビーカーで通るには狭く危ない道があり不便と話を聞いた。広い歩道の整備が必要とされていると感じる。
公共の場所、道等を段差をなくし、障害があってもどんどん外に出ていけるよう整える。
介護保険下とは別に身体状況の変化に合わせバリアフリーが必要な高齢者に対して住宅改善費の一部を助成して頂ければよりよく生活が出来ると思います。
歩道の整備。障害を持っている方が、どんな事に困っているか、聞き取り改善していく。
町の中は、少ししている所があるが、郊外ではまだまだです。安全ではないです。
車いすを利用して援助をする際、道路幅が狭く、デコボコが多いので安心して移動ができません。
内間木地区では歩道が狭く大型車の交通量が多い。道も穴があるなどすぐ傷んでしまい、バリアフリーはほとんど整備されていない。車いすや歩行が不安定な人を散歩に連れ出すには、とても不安である。公共施設が少ないため、排泄面でも不便を感じる。手押し信号を押しても、大型車が入ってくる事が多い。
市によって考え方やどこに重点を置くかはかわってくると思うがどんな人も同じように暮しやすい環境を確保できる権利があると思うのでどんどん障がいをもってる人の意見を聞き住みやすい町作りを行いどの人も安心して過ごしてほしい。
暮しやすいように障がいをもってる人の意見を聞き、住みやすい町にしてほしい。
障害の有無に関わらず、どんな方でも、高齢者も同様に、安心・安全を確保できる環境を整えることは必要。実際に不便を感じている方達に、何が不便か、どうすれば解決できるか等々まずは聞き取りを進めてどんどん改良していくことが重要と思う。
どこに行っても整備はされていないです。改善することにより障害者だけでなく高齢者も住みやすいと思います。
バリアフリーは人々の心も含まれるのでよく理解する研修やお話をするべきです。
障害のある方々がお住まいの所が階段などが多い。
歩道等、車椅子でも移動しやすくする。段差や傾斜をなくす。
舗道が痛みや凹凸や高低差が至る所で見受けられるので、計画を持って改修していただきたい
公共の場の対策はかなり充実してきていると思います
2と同様！ハード面は、どんどん工事する！！

回答内容
定期的に障害者と会議を持ったり、町と一緒に動いて意見を提供してもらう。
障害者の意見を聞くこと
車椅子の子と散歩などに行くと、歩道が傾いていたり、段差があったり危険な場所が多い。
公共施設の化粧室の間口や個室を広くする(車椅子の人が通れるくらい)
歩道や道路の整備、休憩場所の拡充(ベンチの設置)
補助金
朝霞市は自然が豊かであることが強みであり、特に春の黒目川の桜は圧巻の景色で「朝霞市に住んでいてよかったな」と思います。しかしながら、道に凹凸が多数あり、高齢者や車椅子利用者に優しくないと感じています。車椅子の利用者も、その介助者も同じ景色を見られたらいいなと思います。
障害者にアンケートをおこない、生活し難い場所(具体的な道路等)を把握する。
整備不足の現場を報告していただく問い合わせ窓口の明確化と広報

【障害のある人の介護者、介助者への情報提供などの支援】

回答内容
親が高齢だと心配があるみたいです。特に精神的な方はなおさらです。
さまざまな分野からの細かな情報。
声を出すのが一番だと思いますが、市に対して相談するのが一番かな?!
まずその存在と地域の人間が知る事が大切。小さなことでも情報を共有することで、支援へつながっていくと思う。
障害のある子どもをもつお母さんやお父さんから「どう関われば良いのかわからない」とよく言われます。気軽に相談できる場所や関わり方を学べる場所があると良いと思います。
抱え込まないようケースワーカーを増やし、相談しやすい環境作り。
上記1、に関して、制度上の問題であるものの、個別に事情を聴いてくれ、アドバイスしてくれる場所が必要。
福祉サービスを活用せず、家族で頑張っている家庭がある。情報を得られていない、サービスの内容が分からない等の実情もあると感じる。介助者、介護者双方の負担が減り、地域で安心して暮らせる様、情報の周知が必要。
障がいをもっている本人も不便なことがあり生きづらさを感じることもあるだろうけど、それをサポートする身内のまわりの人も同じように色々な悩みがあると思うので全面的にサポートしてほしい。生活面や心のケア、今後の本人に対する対応など。
障がいを持っている人が、何が言いたいのか、してほしいかなどを考えてサポートする、生活面や心の面でサポートする。
コロナ以降障害者の情報が、私達民生委員に届きにくなっている様に思います。
身寄りのない障害者への後見や意思決定の行政サポートが必要。
サポートできる(生活、移動など)事業所をお知らせする。外出できるチャンスを伝えていく。
自分からまたは家族から周囲へ助け等を発信できない方々が多いように思います。私たちのような福祉関係者や近隣住民からの通報等をもとに、自治体の方ではもっとアウトリーチ的な行動を起こしてほしいです。

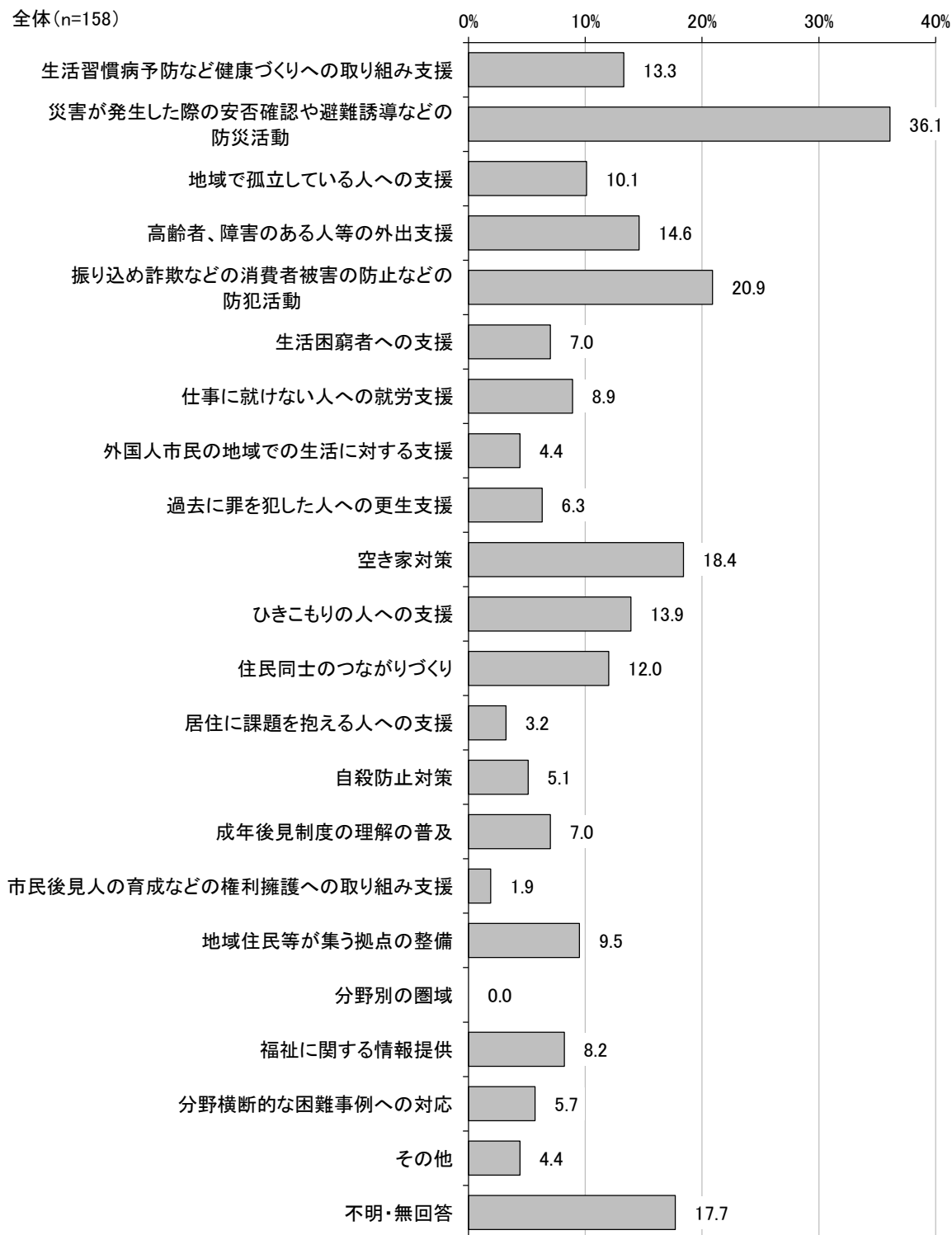
回答内容
SNS！！時代はSNS！！（ぽぽたんも、ぞきりん並にみたいよ！！）
高次脳機能障害となった家族に制度の提案やさまざまな後遺症への理解、対応の難しさゆえ、寄り添える場所や人を必要とされている方は一定数いるような気がする。
専門者との十分な面談環境の拡充をする。集団生活でグレーなお子さんが保健センターの面談で1対1では問題ないと言われたとすぐ終わってしまい、その後は様子見でとなった。どうすれば子どもの為になるかと相談をうけることがあった。
定期的に介護者と事業者の意見をもらう。
欲しい情報にたどり着くのに、ある程度経験や知識が求められるように感じるので、もっと直感的に情報が得られるシステムがあればいい。
基幹事業所の早期開設。自立支援協議会などが形骸化しないように
障害のある人、介護者、介助者へは、情報提供だけではダメだと思う。障害についてしっかり学んで適切な支援を行えるような体制が必要。
どこにどのような障害児者がいるのか把握しているのは公的機関。公的機関には手続きなどで一番接点があるのだからそこで丁寧に届ける。
公式LINE等を利用して、地域の情報を提供する。

【その他】

回答内容
小規模事業所が地域と協同して防災活動ができるしくみ作り。
〔障害者の定義〕 ここでいう障害者とは障害者手帳を取得している方と限定しているか？手帳を所持していない、手帳の申請をすることができない人の窓口はどこか？また、いままで、障害福祉課で相談をしていた方に対して、65歳になったら、高齢者支援係が担当課になるとご案内するものか？
障害がある時点でとても消極的になる。私達も気を使ってしまう。
障害者の同じ悩みを持つ者同士、家族同士のつながりの支援強化、補助。
カスタマーハラスメントが大きな問題となっております。障がい者の方にも、介助者へも気づかいを心がけていただきたいです。
なかなか情報が得られない。
障害者が、生きがいをもって生活できるように、障害者スポーツの振興をはかってほしいと思います。
何に困っているのか、そのためにはどんな具体的解決方法があるのかを明確にしていく。

問7 その他の支援に関して、最近、地域で気になる課題がありますか。優先的に解決すべき事項を選択してください。（3つまで選択）

「災害が発生した際の安否確認や避難誘導などの防災活動」が36.1%と最も高く、次いで「振り込め詐欺などの消費者被害の防止などの防犯活動」が20.9%、「空き家対策」が18.4%となっています。



〈経験年数別クロス〉

経験年数別にみると、1年以上3年未満では「災害が発生した際の安否確認や避難誘導などの防災活動」「空き家対策」、3年以上では「災害が発生した際の安否確認や避難誘導などの防災活動」が最も高くなっています。

単位：％		組み支援	健康づくりへの取り組み	生活習慣病予防など	災害確認や避難誘導	安否確認や避難誘導	地域で孤立している人への支援	高齢者の外出支援	高年齢者、障害のある人等の支援	消費者被害の防止などの防犯活動	振り込め詐欺などの被害の防止	生活困窮者への支援	仕事に就けない人への就労支援	外国人市民の地域での生活に対する支援	過去に罪を犯した人への更生支援	空き家対策	支援	ひきこもりの人への支援	住民同士のつながりづくり	居住に課題を抱える人への支援						
全体 (n=158)		13.3		36.1		10.1		14.6		20.9		7.0		8.9		4.4		6.3		18.4		13.9		12.0		3.2
経験年数別	1年未満 (n=7)	0.0		42.9		28.6		14.3		0.0		0.0		0.0		14.3		0.0		0.0		0.0		0.0		0.0
	1年以上3年未満 (n=11)	18.2		54.5		9.1		9.1		45.5		18.2		9.1		9.1		54.5		9.1		9.1		18.2		
	3年以上5年未満 (n=15)	13.3		26.7		20.0		6.7		20.0		0.0		13.3		13.3		0.0		6.7		0.0		0.0		0.0
	5年以上10年未満 (n=47)	14.9		34.0		6.4		17.0		19.1		6.4		10.6		4.3		2.1		19.1		17.0		21.3		0.0
	10年以上20年未満 (n=47)	10.6		34.0		12.8		14.9		17.0		8.5		6.4		2.1		10.6		17.0		14.9		6.4		6.4
	20年以上 (n=28)	17.9		39.3		3.6		14.3		25.0		7.1		10.7		0.0		10.7		17.9		17.9		14.3		0.0

単位：％		自殺防止対策	の普及	成年後見制度の理解	り組みの権利擁護への取	市民権の育成	点の整備	分野別の圏域	福祉に関する情報提供	例への対応	分野横断的な困難事	その他	不明・無回答													
全体 (n=158)		5.1		7.0		1.9		9.5		0.0		8.2		5.7		4.4		17.7								
経験年数別	1年未満 (n=7)	0.0		0.0		0.0		0.0		0.0		14.3		0.0		28.6										
	1年以上3年未満 (n=11)	9.1		18.2		9.1		18.2		0.0		9.1		18.2		0.0		9.1								
	3年以上5年未満 (n=15)	0.0		0.0		0.0		6.7		0.0		13.3		0.0		6.7		26.7								
	5年以上10年未満 (n=47)	0.0		6.4		2.1		8.5		0.0		10.6		6.4		4.3		10.6								
	10年以上20年未満 (n=47)	10.6		8.5		2.1		10.6		0.0		6.4		4.3		6.4		17.0								
	20年以上 (n=28)	7.1		7.1		0.0		10.7		0.0		7.1		3.6		0.0		28.6								

〈専門分野別クロス〉

専門分野別にみると、子ども・若者支援、高齢者支援、障害者支援、防犯・防災・交通安全では「災害が発生した際の安否確認や避難誘導などの防災活動」が最も高くなっています。

単位：％		組 み 支 援	健 康 支 援	生 活 支 援	安 否 確 認 や 避 難 誘 導	災 害 が 発 生 し た 際 の 防 災 活 動	人 地 域 で 孤 立 し て い る	高 齢 者 の 外 出 支 援	高 齢 者 の 外 出 支 援	振 込 め 詐 欺 な ど の 防 犯 活 動	消 費 者 被 害 の 防 止 な ど	振 込 め 詐 欺 な ど の 防 犯 活 動	生 活 困 窮 者 へ の 支 援	仕 事 に 就 け な い 人 へ の 就 労 支 援	外 国 人 市 民 の 地 域 で の 支 援	過 去 に 罪 を 犯 し た 人 へ の 支 援	空 き 家 対 策	支 援 ひ き こ も り の 人 へ の 支 援	住 民 同 士 の つ な が り	人 居 住 に 課 題 を 抱 え る
全体 (n=158)		13.3	36.1	10.1	14.6	20.9	7.0	8.9	4.4	6.3	18.4	13.9	12.0	3.2						
専 門 分 野 別	子ども・若者支援 (n=77)	11.7	41.6	13.0	14.3	22.1	3.9	11.7	5.2	9.1	19.5	14.3	18.2	0.0						
	高齢者支援 (n=92)	19.6	35.9	10.9	19.6	25.0	6.5	6.5	4.3	4.3	22.8	10.9	15.2	2.2						
	障害者支援 (n=77)	15.6	42.9	7.8	22.1	19.5	5.2	13.0	5.2	6.5	19.5	18.2	14.3	5.2						
	保健・医療 (n=7)	28.6	14.3	0.0	42.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	28.6	0.0	0.0						
	防犯・防災・交通安全 (n=26)	30.8	38.5	15.4	15.4	30.8	3.8	7.7	11.5	19.2	19.2	7.7	30.8	0.0						
	就労支援 (n=4)	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0						

単位：％		自 殺 防 止 対 策	の 普 及	成 年 後 見 制 度 の 理 解	り ど の 民 権 利 擁 護 へ の 成 取 な	市 民 の 育 成 に 関 する 情 報 提	分 野 別 の 圏 域	供 福 祉 に 関 する 情 報 提	例 へ の 横 断 的 な 困 難 事	そ の 他	不 明 ・ 無 回 答
全体 (n=158)		5.1	7.0	1.9	9.5	0.0	8.2	5.7	4.4	17.7	
専 門 分 野 別	子ども・若者支援 (n=77)	6.5	3.9	2.6	10.4	0.0	9.1	6.5	5.2	14.3	
	高齢者支援 (n=92)	2.2	7.6	2.2	10.9	0.0	4.3	5.4	1.1	17.4	
	障害者支援 (n=77)	1.3	7.8	2.6	11.7	0.0	5.2	3.9	6.5	13.0	
	保健・医療 (n=7)	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	14.3	28.6	0.0	0.0	
	防犯・防災・交通安全 (n=26)	0.0	3.8	0.0	7.7	0.0	3.8	3.8	0.0	15.4	
	就労支援 (n=4)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	25.0	

■ 解決に向けたアイデア・ご意見（自由記述）

【生活習慣病予防など健康づくりへの取り組み支援】

回答内容
食事と運動(ラジオ体操の推進)バランス研修。
保健センター等の勉強会に出席し、情報を得るか、病院に相談し話を聞いてもらう?!
町内会、包括支援センターと協力しサロンへの参加を声かけ。
フレイル体操等を取り入れては。
ラジオ体操の推奨。
ファミレスとかの朝あいている駐車場を借りてラジオ体操とか軽い運動を指導してほしい。
市民センター等で行われている、ダンスや体操サロン等はずっと支援しても良いのでは？
行政が、町内会又は各団体等に出向き運動、食事等の指導をする。
糖尿病に有効な働きかけがあると良い。
無料の健康診断（年に1回）あるのであれば、結果を有意義に活用していく様にアドバイス。
講演会の開催、運動教室の開催など
予防の具体的な情報を郵送する。
ウォーキングイベントの開催や、ポイント制で地域物産を貰える仕組みがいい。
「いつまでも口からご飯を食べたい」「トイレは自分の力でいきたい」など目標を掲げて取り組める支援をしてほしいです。

【災害が発生した際の安否確認や避難誘導などの防災活動】

回答内容
町内会に入らない人が多いため、古くから居住されている人以外はどんな家庭かわからないので災害がおきたら力をかせないだろうと思う。
コロナ前に行っていた、学校での地域をまき込んだ防災活動の実施。
いろいろな所とコンタクトをすることが大切。町内会と専門職とのつながりやすい。
家族等で話し合っておく。我が家はまだやってません。
災害時の要支援台帳をいただいています、自分家族も大変な時に支援ができるか心配です。
日中か夜間かでも異なるが安全誘導にはお互いに訓練する必要がある。名前を周知していることも安心感につながると思う。
自身が年を取ってきたので、無理をしない様にします。
避難訓練及び避難場所の徹底。
高齢者が多い地域だととても難しい。
避難誘導して欲しい人達の名簿は市からもらっているが、それだけでその先ができていない気がする。もっと実質的な事を考えてもらいたい。
オンラインの安否確認システムを確立する。
町内会の防災メンバーの活動は、実際に働くか疑問が多い。集まっても老人ばかりでは動けないと思う。
私自身の住まいが密集地で避難場所と言われている場所までたどり着く事自体大変ではないか？と思ってます。担当地区でも小さな公園はあっても地域住民が一時避難出来るほどの場所はありません。市で細かく調べて頂き、広場の設置等考えて頂きたいです。
災害時の避難拠点でもある総合福祉センターの見直し、立地から安全性が低い。

回答内容
朝霞は浸水被害が多く、対応がいそがれると思う。
障害を持った方の避難先（強度行動障害、車イスで重度の障害の方）の環境が整えてあるか。避難場所での生活を余儀なくされた場合に備え施設の整備が必要ではないか。
最近では災害も多く起きてからではどうにもならないことが沢山あるので今までの経験をいかして一人一人がもし起きたらどうしたらよいのかってことを市全体で共有することが大切なんではないかなと思う。
異常気象で大雨などもし起きたらいつでも対応できるようにしておく。
災害が起きた場合、こちらも被災しており、すぐには動けない。立ち話などでもいい、情報を知りたいと思います。
防災訓練、避難要支援有、高齢者台帳を作成し、災害時の対応を決めておく。
実際に大きな災害が起きた際の行動がイメージしづらい。予行練習を国レベルで実施した方が良いのではないのでしょうか。
突然災害が発生した時に、安否確認や避難誘導がいきなりスムーズには絶対できるはずがない。普段から近所の人達と顔のわかる関係を作り上げていくことが必要。町内会でのイベント、防災講座などで、防災の必要性を知って貰い、コミュニケーションづくりに努めたいと思う。
水害発生前の避難誘導の見直し。広報の SNS の活用の見直し。
町内会の役員になって防災活動に参加している。
障害のある人の人数と住所を把握して、どの方を優先して回るのか？
民生委員も自身を守ることが大切なので、ご自身も SOS をだしていただく方法を把握していただけるように日頃からお知らせしていく。
夜間における災害に対し、グループホームの夜勤者は 1 名～2 名程度で利用者を避難させるのは困難。BCP、災害計画を策定しているが、現実、避難できる体制ではない。なぜなら、マンツールの利用者やパニックに対し人員を要す。応援職員も参集には時間を要す。
日頃からの地域社会の交流が必要 防災意識と相互扶助、自己努力も必要かと思う。
ヘルプが必要な人の災害時避難場所の開示
避難訓練、通報訓練、消化訓練は年に規定回数行っているが地域での行事として早めに分かればイベントとして組み込めるので地域の人達との関わりもできる点もいいなと思います。
避難訓練などの実働経験をしたい。
障害者が存在していることを忘れないように
ほぼやっていないのではないかな。もっと災害に対する啓蒙が必要、周知が不足していると思う。朝霞は坂も多く河川近くに学校や住まいが多い。小学生など学生や子どもたちと共に避難訓練や危険な場所をマッピングなど活動に工夫する。

【地域で孤立している人への支援】

回答内容
人と接することが苦手な人はどうにもならないと感じる。
ご近所さんのコミュニケーションが大事だと。
自身が年を取ってきたので、無理をしない様にします。
近所付き合いのかげんでその人の気持ちが難しい。
家々が、それぞれ遠いので、歩いて行く事が難しいので送り迎えがあると良いと思います。
訪問活動（見回り、見守り、声かけ等）。
孤立している人は情報弱者であることが多いのでは？と思っている上で、必要で有用な情報の届け方が大切だと思います。
最近は形式的な人付き合いのほうが良いと考える人が増えている。今後もこの傾向は続くと思う。いざという時に誰に、どこに頼ったらいいかという情報だけは届けた方が良い。
まず、誰が孤立しているのか把握する
地域の交流を盛んにし、皆で声掛けする。
地域で孤立し、近隣住民と対立している方が散見されるので、警察や市役所職員、民生委員さんと積極的な対応が必要

【高齢者、障害のある人等の外出支援】

回答内容
高齢者、障害者が気軽に立ち寄れるサロンの様な場所を多くもつ。
私は耳のきこえが悪い人の傾聴で病院につきそっています。
タクシー券などを配布したら良いと思う。
近年の真夏の気温の高さで近くても外に出られないという声を伺います。宅配弁当などのパンフをお持ちしてみる事もあります…新しい事を取り入れる事への抵抗感で前へ進めず、買い物代行や移動スーパーなどもっと利用しやすい環境作りが出来ると良いのかも知れません。
移動支援の担い手が少ない様に感じる。移動支援先がなかなか見つからず、家族が外出に付き添わざるを得ない現状がある。
NP0 法人しか生サポできない→不足する。
膝折地区の中で交通空白に対して、試験的取り組みを行って頂きましたが、未だに解決されずにあります。早い解決を望みます。
駅の近くでない高齢者になり車の運転をやめた人などどこへ行くにも困ってしまう。家族が居ても日中は一人交通手段がないのが一番困る。ワゴン車でよいので外出手段を考えて欲しい…と思います。
生活支援での外出の適用範囲の拡大。
サポート事業所は完全に足りていないわけではないが、いくつかあるので、一覧表などお渡ししていく。
生活サポートの登録事業者が NP0 に限られており使える事業所が少なく、非常に使えないサービスになっています。登録事業所の規制緩和をお願いしたいです。また、高齢者は移送サービスを受けるには対象者のハードルが高い上、用途が通院等に限られており余暇には使えません。生活の質の向上のためにもその点を改善して欲しいです。
事業所を増やす！！
外出支援、交通手段において、自助、互助、共助でまかなえればいいが、公助の出番の気がしている。

回答内容
気軽にラインや電話などで、頼みやすいシステム作り。
自力で外出出来ない高齢者や障害のある人へ電話で予約して、車で乗せて行ってくれるような支援があると良いと思います。
朝霞市のみの地域タクシー(有料)
交通機関の減便やルートの変更、付き添いの人材確保や費用負担支援

【振り込め詐欺などの消費者被害の防止などの防犯活動】

回答内容
日頃の声かけが大事だと思います。
お年寄りの方がコンビニ、銀行でまよった人をみたら危ないので声をかける。
訪問、シニアクラブ等で声かけ。
今、高齢者を狙って情報を聞き出すメールが増えていて、実際に住所を打ち込んでしまった人が周りにいます。被害にあう人を減らすためにも防犯活動を強化すると良いと思います。
犯罪防止のピーアール、情報提供。
お金に関する事はその場で決めないよう、まわりの人に相談するよう広報活動をしつこいくらいにする必要があると思う。
こまめな情報交換の場所づくり。
住居のまわりでも電話や不審な方が家をみてまわっています。認知症独居の方も危ないところでした。行政に話したら、「警察に連絡してください」との回答でした。高齢夫婦、独居は調べるルートがあるようです。策をお願いします。
詐欺被害にあった方の救済処置がなく泣き寝入りになっている。お金は1円も戻ってこなかった。
様々な関係機関との連携、例えばコンビニ、スーパー等とも連携した活動も良いと思います。
コマーシャルみたいに、テレビで放映する。
サロン等で話を聞くチャンスがあるが、出席者は決った人のみ。これでは知り得ない。やはり少人数での集まる場所があればお誘いして、身近な事、困り事、話し聞けるのではと思います。
訪問活動による注意喚起とチラシ配布。
詐欺や強盗のニュースが流れない日はないという状況なのに「どうして…」とってしまう。実際私の知人もひっかかった人が2人、何とか未遂に抑えられた人が2人もいる。認知症とは思えない人でも「それはサギだ!」と言い聞かせても受け入れられないという事がありまして多少認知症が入っていると、独居の方のサギ被害を防止するのは難しいと感じた事があった。周りで目を光らせるしかないのだろうか…。
防止について呼びかけられているが、それでも被害が出てしまう。
啓発活動の参加、ポスティング等々の活動に積極的に参加する事に心がけている。
地域社会の繋がり、声かけ、見回り
地域の声掛け活動の徹底(どこかのコンビニのお兄さんみたいに!!)
ATMの振込操作時に年齢確認、不用品回収業者の対応拒否の徹底
AIも発達しているので、啓発活動をおこなう。
特殊詐欺や、闇バイトによる強盗が他地域で多発している。朝霞市に於いても他人ごとではないと思います。

回答内容
現在、闇バイトの話題があり、情報弱者はターゲットにされやすいと思いますので、地域で見守れるシステムがあれば心強いと思います。

【生活困窮者への支援】

回答内容
これは個人情報というので分かりません。
本当に困っている人に助けてあげて下さい。
生活支援の認定の簡素化は出来ないものなのかな？
仕事の斡旋！！（お金の斡旋ではない！）
まず何に困っているのか確認・把握しての援助が必要だと思います。

【仕事に就けない人への就労支援】

回答内容
市がよく話を聞いて支援するのが一番。ハローワークに行けない人もいる。
幼児期に知的障害と判明した保護者の不安が解消されるように見学など情報公開してほしい。
仕事を誰もがしやすいメンタルケアのしくみ作り。会社ごとに研修するだけでは不足だし、会社の負担大。
より好みをしなければ仕事は有ると思う。相手の理解と意欲次第。
精神的不調から、社会参加できない人がいる。まずは、その人がなぜ苦境に陥ったかをソフトに聞き出し体調回復など身の回りから改善できるようサポートしていく。
無料で職業訓練とか？？？
送迎がないと就労先の選択肢も減ってしまうので送迎の支援等手厚いと安心して選択肢の幅も広がるんじゃないかなと思います。
在宅ワークでできる仕事が増えるように地域に協力を呼びかける。

【外国人市民の地域での生活に対する支援】

回答内容
私の民生のエリアは国際通りと言って外国の方が多い場所です。言葉は(外国の言葉で)いわれたらわからない。
見かけたら声かけする。
民生委員も翻訳アプリなど使って訪問する者も少しはいる。スキルを上げていくこと。
国際ボランティア的ななにかと連携して？？？言葉を教える！！とか？
各外国人の生まれ育ちを尊重すること。日本の生活スタイル・文化を理解していただくこと
ベトナムなど東南アジア圏の御夫婦で住まわれている方が増えている。お子さんやご家族への日本語習得支援や通訳支援
外国人は多くこれからも増加して行く傾向にあると思う。日本の風土や習慣が違うので、毛嫌いする方もいると思うがそれを知ってもらうためのコミュニケーションの場がないのではないかな。お互いを知るコミュニケーションをとらないと外国人同士、日本人同士だけで分断が起きてしまうし、日本の生活習慣を知ってもらうためにも必要だと思う。

【過去に罪を犯した人への更生支援】

回答内容
保護司が相談にのる。
特に性犯罪をした人への再犯しないようにできるのでしょうか？
真面目にやっていたら人は信じてもらえると思う。
更生事業主の拡充。
特に中高生などの学生に対して、安全安心できる場所やそれに特化した学校があるとよいのではないかと思います。
すぐに人はあやまちを反省して正していくことは難しいと思う。その過ちがなぜ起きてしまったのか、どうすれば起こさずに済んだのかそういうところを大切に少しずつ時間がかかっても支援を油断せずにしていく。
気長に少しずつ、反省と前向きな考えで対応する。
支援まではなかなかできないが勉強会など通して学んでいる。
仕事や生活状況等把握 話し相手(相談相手) 上記の他、よりよいアドバイス
動物を愛でる！

【空き家対策】

回答内容
利用。
今日も大学でこの問題をテーマにしたが私のエリアで人に頼んだけどどうにもならないと答えがきている。
町内会など、パトロールの強化。
ラジオをつけておくとか電気をつけておく。
町内会で家周りの掃除や行政への連絡を行う。
持ち主に連絡をまめにしてほしい。
空き家の持ち主が賃貸契約を簡単に出来れば空き家がなくなると思います。空き家に対して1年以上すれば固定資産税を毎年上げるようにすると空き家にするよりは更地にした方が良いと思わせるようにした方がいいと思います。
市などで、みんなが集まれるコミュニケーションルームにする、など。
建築基準法以前の違反建築等は、解体の法の整備を見直して撤去出来る様にしたら良いかな？
住宅街での空き家の近所に住んでいるといつも気になるので放火や住み家にならないような手続きを早くしてほしいと思う。
地域の住民の集い場や、子供食堂などの場所として使用させて下さる持ち主様は居ないのか？集いの場を運営していらっしゃる方と持ち主様のマッチングが出来る様な情報提供がもっと広がると良いのでは？
空き家を生かして、人々が集える場所を作って欲しい。
若者のたまり場になっている。
近所でも空き家が増えて来ました。市で借りてくれて、話合いの場として提供してほしい。
最近多くなっています。近所の人達は、不安がいっぱい。引き継ぐ人がいないと思いますが、行政で利用できる場所であれば、みんなの居場所作りの場にしてほしいです。
植物工場への転換と促進。

回答内容
空き家になってしまうとなかなか対策が難しいと、メディアやニュースで見ました。そうなる前の対策、事前に対策すればするほどメリットのある制度作りをしてほしい。
活用する策を考えて欲しい。例えば、低所得者層等に貸し出す為に積極的に所有者にアプローチ・活用する。
自治会や警察の見回り。公的機関の長期的対策。個人やら地域自治体では難しいと思う
近所迷惑の事案が増えているが対応策が欲しい
解体のための補助金をだす
地域の空家を登録しておく。
一般的な防犯用品の貸出
公共施設を作っても、多目的スペースが確保出来ない状況なので、他市の対策を参考にして、朝霞市でも取り組んで欲しい。
事業用で使えるようにマッチングをおこなう。

【ひきこもりの人への支援】

回答内容
訪問看護や地域支援につなげていく必要がある。
ひきこもりをおこさないため、学校教育の充実と支援。
ひきこもりの人への積極的なアウトリーチ。場合によっては障害をかかえている場合もあり、社会資源へのつながりが必要。
小学校の頃からの支援を考えなおしてほしい。
声をかけあうのがいいと。
ひきこもりの人対象の生活でのアドバイスや講座、オンライン講座、カウンセリングなど。
学齢期から就職時期までのひきこもり防止策としての居場所、フリースクールなどの充実。
家族がひきこもりというケースがよくある。対応も難しい。
気になるがなかなか具体的に動けていない。
相談先をまとめたリストの発行と相談できる場があるという情報発信。
支援のアウトリーチをもっと増やしてほしい。
遊園地のチケット配る！子犬を提供（散歩に出る）。誰からでもはなしかけられないネットカフェのチケット贈呈！！とか？

【住民同士のつながりづくり】

回答内容
まずは隣の人と挨拶が出来る環境作りが必要。相手が出来なくとも私は自分から声掛け運動をしている。
町内会ごとの行事を多くもつ。
ご近所さんは立ち話をしているのでそれもいいかな。
町内会、商店会と協力イベント等に参加して、そして何らかの手伝いをお願いする。
草取り等で仲よく話をする様にする。
町内会の回覧を回す際に話したり、見かけたら声かけする。
サークル、町内会への勧誘。

回答内容
一番大事な事。顔を合わせたら先ず、挨拶を自分からする事。
町内会を、自治会を抜ける人が多くなっているので色々仕事があるので、出来ない人は、出来なくても良いのでは？
災害時だけでなく何かあった時に大きな力を発揮するのは住民同士のつながりだと思う。普段の挨拶から始めるなど「つながり」作りをがんばりたい。
町内会活動、子供会活動に積極的に参加して、色々なイベントを通してつながりづくりをしている。
町会の活動に差異が大きい
繋がりたい人だけではないので…なんとも言えないです

【居住に課題を抱える人への支援】

回答内容
問題があれば市に相談するのが一番だということを伝える。
相談窓口がある？でも、相談の後…きっとお金がないから住居がどうにもできないんだろうな…

【自殺防止対策】

回答内容
民生でも本当は話を聞き悩み事をうちあけてもらうのがいいけど。
悩み等をきちんと聞いてあげる。
心の相談室のような電話相談員の増員(以前なかなかつながらなかった子がいると聞きました)。もっと身近で親身になってじっくり話を聞いてくれ相談できる機関。困っているときに、いつでもすぐ対応してもらえるシステム。
心を病んでいる人はきっと人には打ち明けられない悩みに苦しみ、絶望感を感じてしまうと思うのでもう少しフランクに自分の悩みを打ち明けられるネットワークや会社などに窓口があると思いつめずに少しずつ考えや物の見方なども軽く考えられるのではないかなと思う。
とにかく一人で悩まずに周りに相談できる環境を作るようにする。
〇〇することが正義！！みたいな、妙な概念を振りかざす人を表に出さない！それでいい。って、思えたら、死ぬまで…いけないんじゃないかな…わからない…

【成年後見制度の理解の普及】

回答内容
成年後見になる人の信用と、個人の資金のあり方が明確でないこととどこまで信頼できるかによる。
行政に相談する。
説明会などの回数を増やす。
判断能力の不十分な人の財産管理等は難しい問題があり、安心して利用できる様になるまではねばり強くPRしていかなくてはならないと思う。
何度説明を受けても理解が難しい。
司法書士事務所などに同行することも良いと思う。
終活を進めることとか？70歳になったら、なんか、パンフレット送るとか！！
制度の説明会の開催

回答内容
市民向けに成年後見制度についての講演を開いて、現行の制度の問題点や成年後見制度を利用する際に気を付けるべき事などを知ってもらう機会を提供する。

【市民後見人の育成などの権利擁護への取り組み支援】

回答内容
情報を知らせる。
お金がけっこうかかるので良いと思います。
エンディングノートの意義を教えても、活用しようとしていない人が多い。様々な機会をみつけて根気強く説明していく。

【地域住民等が集う拠点の整備】

回答内容
町内会のイベントに出る。
自治会等がくわわって話し等をした方がよいと思います。
各世代で集まる場所はあるが、幅広い世代が集える場所がなかなかないと感じる。地域住民同士の異世代交流を生むためにも、世代間交流ができる拠点の整備が必要だと思う。
地域の人々が集まって情報交換できる場所を増やすことによって防げることは沢山あると思う。住民同士のつながりが一番大切だと思うので集まれる場所を増やしてほしい。
補助金が年々少なくなってゆく。
各地域の集会場を利用し、高齢者が気にする内容の講演会を開催することで地域住民が集まりやすいと思います。
1対1では話せるが、大勢の中には入れないと思っている人が、一人でも気を許せるような近隣にいると良い。
高齢者が集まってボランティアグループと体操をしたり、おしゃべりをしたりしているが、場所が限られていたり、狭かったり、参加したい人もいるのに呼んであげられない。ボランティアのグループにも市民センターや公民館などをもっと優先的に無償で借りられる様にする。
集会場の老朽化が進みつつある
チルズに遊びに来てください！！
空き家や企業など、場所を確保するためにも行政からの働きかけがさらに必要と考えます。その後のフォローも行っていけば、貸す側も安心できるのではないかな。

【福祉に関する情報提供】

回答内容
福祉サービスに対する認識が広まる様、積極的に情報開示していく事で生活で困った人、生きづらさを感じている人の負担感、軽減につながればと思う。
ぽぽたんが！SNSで！！楽しく発信したら、みんな見ると思う！！ぽぽたん可愛いし！！
メルマガみたいなもので発信してもいいと思う。

【分野横断的な困難事例への対応】

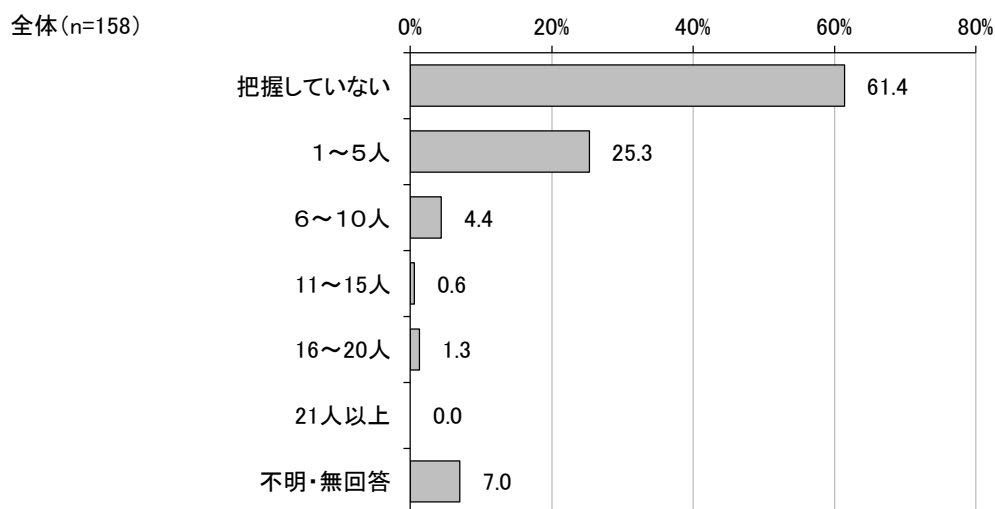
回答内容
私たちが関わるケースは、高齢者だけでなく、障害者やその子どもが一緒になって問題を発生させていることがよくあります。横のつながりをもっと作っていただきたいです。
障害・高齢・生保がそれぞれの枠組みの中での業務となっているように思う。情報が共有できたり、連携をはかるといところを行政に期待したい。主導する担当課がなく、包括職員が右往左往する事態となってしまう。
まずは研修や横の繋がりができる組織づくり

【その他】

回答内容
[情報の周知] ペーパーレス化が進み、SNS や HP などの情報周知が多い。若い世代は良いが、50 代以降は SNS を利用していない（できない）ことが多い。駅から遠い、車が運転できないなど、中心地へ出かけることが少ない人も多く、「情報を知らない、教えてもらっていない、中心地住民や若者ばかり」という声を聞いている。議員さんの力が必要ですか…。
詐欺、強盗など犯罪対策
強度行動障害のある人の家族支援
役所の中でも課を越えた情報交換・情報提供をして欲しい。例えば、保健センターからの依頼で訪問すると、引っ越されていたり、1人個人の情報を1本化して欲しい。
共働きだったり、片親だけど仕事をしていて遅く帰ってくる等生活面でのヘルパーさんも手厚ければ有難いです。

問8 専門職としての関わりの中で、ひきこもり状態に該当する方をどれくらい把握していますか。（1つを選択）

「把握していない」が61.4%と最も高く、次いで「1～5人」が25.3%、「6～10人」が4.4%となっています。



〈専門分野別クロス〉

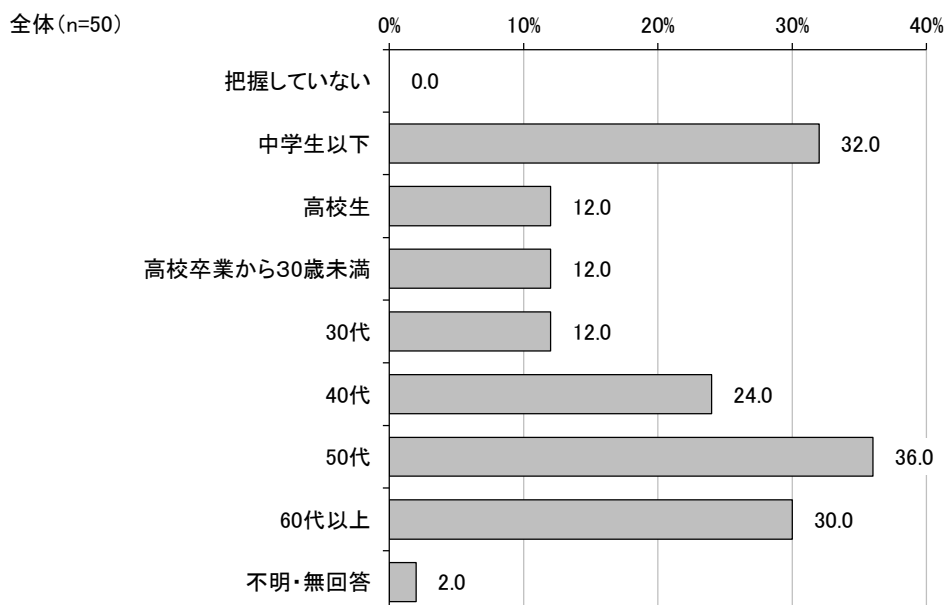
専門分野別にみると、子ども・若者支援、高齢者支援、障害者支援、防犯・防災・交通安全では「把握していない」が最も高くなっています。

単位：%		把握 してい ない	1 ～ 5 人	6 ～ 1 0 人	1 1 ～ 1 5 人	1 6 ～ 2 0 人	2 1 人 以 上	不 明 ・ 無 回 答
全体 (n=158)		61.4	25.3	4.4	0.6	1.3	0.0	7.0
専 門 分 野 別	子ども・若者支援 (n=77)	64.9	19.5	3.9	1.3	0.0	0.0	10.4
	高齢者支援 (n=92)	64.1	22.8	4.3	0.0	1.1	0.0	7.6
	障害者支援 (n=77)	55.8	28.6	7.8	0.0	2.6	0.0	5.2
	保健・医療 (n=7)	57.1	14.3	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0
	防犯・防災・交通安全 (n=26)	65.4	23.1	11.5	0.0	0.0	0.0	0.0
	就労支援 (n=4)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

問8で「把握していない」以外の方

問8-1 把握しているひきこもり状態に該当する方の年代を、分かる範囲でお答えください。(あてはまるものすべてを選択)

「50代」が36.0%と最も高く、次いで「中学生以下」が32.0%、「60代以上」が30.0%となっています。



〈専門分野別クロス〉

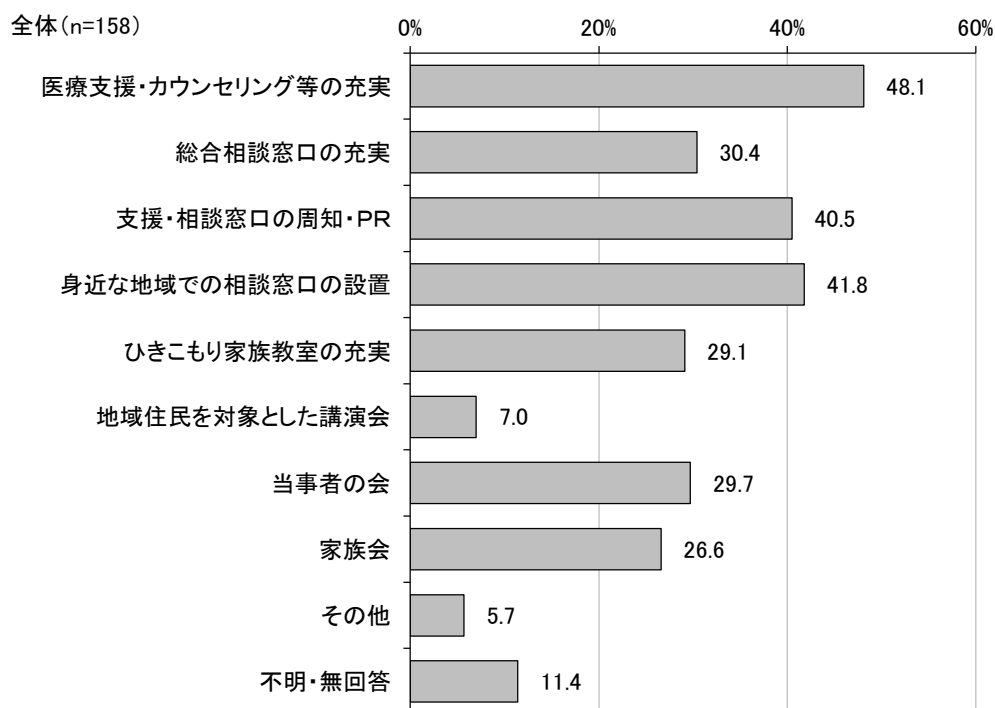
専門分野別にみると、子ども・若者支援では「中学生以下」、高齢者支援では「50代」、障害者支援では「中学生以下」「50代」が最も高くなっています。

単位: %		把握していない	中学生以下	高校生	高校卒業から30歳未満	30代	40代	50代	60代以上	不明・無回答
全体 (n=50)		0.0	32.0	12.0	12.0	12.0	24.0	36.0	30.0	2.0
専門分野別	子ども・若者支援 (n=19)	0.0	52.6	15.8	21.1	5.3	26.3	21.1	10.5	0.0
	高齢者支援 (n=26)	0.0	11.5	7.7	7.7	11.5	30.8	53.8	42.3	3.8
	障害者支援 (n=30)	0.0	36.7	10.0	16.7	13.3	26.7	36.7	26.7	3.3
	保健・医療 (n=3)	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0	33.3	66.7	66.7	0.0
	防犯・防災・交通安全 (n=9)	0.0	44.4	0.0	11.1	11.1	22.2	44.4	33.3	0.0

※〔就労支援〕は該当者がいませんでした。

問9 専門職の立場から、ひきこもりの人への支援に関して、どのような支援があればよいと思いますか。(あてはまるものすべてを選択)

「医療支援・カウンセリング等の充実」が48.1%と最も高く、次いで「身近な地域での相談窓口の設置」が41.8%、「支援・相談窓口の周知・PR」が40.5%となっています。



〈専門分野別クロス〉

専門分野別にみると、子ども・若者支援、高齢者支援、障害者支援では「医療支援・カウンセリング等の充実」、防犯・防災・交通安全では「支援・相談窓口の周知・PR」「当事者の会」が最も高くなっています。

単位: %		医療支援・カウンセリング等の充実	総合相談窓口の充実	支援・相談窓口の周知・PR	身近な地域での相談窓口の設置	ひきこもり家族教室の充実	地域住民を対象とした講演会	当事者の会	家族会	その他	不明・無回答
全体 (n=158)		48.1	30.4	40.5	41.8	29.1	7.0	29.7	26.6	5.7	11.4
専門分野別	子ども・若者支援 (n=77)	46.8	32.5	42.9	40.3	33.8	6.5	33.8	24.7	5.2	11.7
	高齢者支援 (n=92)	47.8	29.3	42.4	46.7	23.9	7.6	30.4	28.3	1.1	13.0
	障害者支援 (n=77)	46.8	29.9	42.9	41.6	31.2	9.1	33.8	28.6	9.1	3.9
	保健・医療 (n=7)	57.1	28.6	14.3	42.9	28.6	0.0	14.3	57.1	0.0	0.0
	防犯・防災・交通安全 (n=26)	46.2	42.3	50.0	42.3	34.6	11.5	50.0	34.6	3.8	3.8
	就労支援 (n=4)	25.0	25.0	25.0	75.0	25.0	25.0	75.0	50.0	0.0	0.0

問 10 最近、制度上のサービスでは解決できずに困っている問題・事例（制度のはざまの問題、分野横断的な課題への対応など）がありますか。（自由記述）

回答内容
8050 問題。息子の問題。
通所受給者証を取得することはできないが、学校になじめずにいる子への手助けができず、じれんまを抱えている。
公的福祉サービスを担っている事業所は民間がほとんどです。損益を考えての事業展開なので、地域ニーズがあっても利益が見込めないなら福祉サービス充実は困難。
学校からバスに乗って帰ってくる児童を迎えに行き、放デイでおあずかりしています。バスを降りてからが放デイの仕事だと思っていたのですが、バスの中まで迎えにきてほしいと言われました。障害児が乗るバスなのに、そうして契約上添乗員さんは乗り降りの手伝いをしないのでしょうか？（今はバスの添乗員さんが協力してくれています。）
問 7-21 にも書いたが、1 人個人の情報を 1 本化して欲しい。また、主任児童委員は、住民台帳を見ることが出来ず、学校から「現在、居住しているのか」「保護者の状況・有無」を聞かれた時など、役所内で良いので閲覧できるようにして欲しい。近隣にいる民生委員さんに聞いても、高齢者の情報しかなかったりする。
問 6 の 1 で回答したが、精神の病から就職の悩みを抱える 40 代男性とメールでつながっている。彼は障害者枠で会社に採用されるも単純作業しか与えられず、仲間との会話も少なく、給料も不充分で、短期間で離職の繰り返し。語学力があり性格的にも悪くないようであり、もう少し待遇改善してもらえないものか、と会社、行政機関に検討頂きたい。
医療的ケアを今まで以上に介護職員ができるようにならなければ、本当に困っている方を助けることができません。厚生労働者の見解を変更すべきです。
ご本人に必要なサービスでも、介護単位や障害支給時間が足りず、無料でのケア提供が増えている。自治体間で基準が異なり、予想外の対応に戸惑う。
精神疾患がある方で引きこもりをしている場合、医療機関へ行くにも移送手段がない。
介護…通院時の院内介助が自費の為に利用しづらい（独居の為に医師との面談に立会いがない人。院内を車椅子介助が必要な方のサービス。
児童クラブの受け入れ人数。所属児童が全員来る日はない。常に部屋にいることもないので参酌基準の児童一人あたり 1.65 m はなかなか実用的ではない。基本的に児童クラブの入所を希望している児童は待機させてはいけないと思う。
他利用者に安全を守るために、重度障害者及び強度行動障害者のお断りをしてしまうことがあった。
高齢者の子供が明らかに精神疾患を患っている。そのため高齢者にマイナスな影響が出ている。精神疾患と思われる子供は通院しておらず障害手帳もない。現在、そのような人には障害者支援は関わっていただく事ができない。誰が何を困っているのか、当事者（高齢の親）から相談がないと…とか、その障害があると思われる人から相談がないと動けないとか。はっきり言って、それをしてくれるようなケースならこちらも苦労しないです。
リフォーム詐欺の疑いの方への支援、保護、対策
介護保険でデイサービスを利用しているが、卒業になった後に運動をしたいが、お金をそんなにかけることができないため、路頭に迷ってしまう。デイサービスで体調不良の方がいた時に送る病院が見つかりづらい

回答内容
高齢者宅の樹木処理について
厚生支援のための話を聞いてあげられる場所の確保
不登校児は、どこに相談したらいいか、なにのサービスを頼ればいいのか迷走しています
認知症の 80 代夫婦とその息子とその息子の三世代 4 人暮らし。認知症の両親のキーパーソンが 60 代の息子であるが、定年退職をきっかけに、アルコール依存の傾向。持病の糖尿病を放置している。ほとんど食事を摂らず、医師から栄養失調と言われている。歩行能力も著しく低下しており、立っている状態を維持することも困難となっている。20 代の社会人になったばかりの息子が父親と祖父母の支援をしなくてはならない状況を把握している。高齢者未満の息子を支援しないことには、80 代夫婦の支援が滞ってしまう中、行政としては担当課となれるところがない。結果的に 20 代半ばのお子さんが、支援をしなければ、生活が立ち行かない状況となっている。後見人制度の話をしているが、市町村申し立ては同居のご家族がいるという理由で対応が難しくなっており、これについても 20 代のお孫さんのご協力をいただく必要があるかもしれない。80 代夫婦の金銭的なところの把握をご本人しかりご家族もしておらず、施設入所を検討するにしても課題が多い。
分野横断的な課題への対応。各課の連携が取れていないことが節々と感じ疑問に思うことがよくある。市役所それでいいのかなと 1 市民として思う。
独居高齢者で持病があり一人で外出することが難しい方の支援で制度上、出来ないがやむを得ず行われなければならないことについて。
若年性認知症の方（65 歳以下）への市の補助の適応不可※オムツ支給や寝たきり支援金の年齢制限
地域の方から障害を持った方の行動に苦慮しているとの相談を受けたことがある。地域の方から障害者が日中どこにも関わられていないと相談を受けたことがある
近所の苦情
本人ではなく、家族の問題の対応に苦慮する。
引きこもり状態の児童、強度行動障害の児童に加えて、家族支援が必要な家庭
医療的ケア児は注目されて取り組みがあるが、医療的ケアのある大人（者）に対しての取組が朝霞市は何も行われていない。
乳幼児期のアタッチメント愛着形成を問題とした、発達がゆっくりなお子さんが増えていると思います。出産などによる心身の体調変化や、働き方による家族と乳幼児とのかかわり方について家庭によって差がみられると思うので。専門家による継続的な訪問支援やオンラインによる子育て支援
地域の課題のその他に記入してしまいました（トラックのことについて）

問 11 問 10 に書かれた問題・事例に対して、解決に向けたアイデア・ご意見がありましたらお書きください。(自由記述)

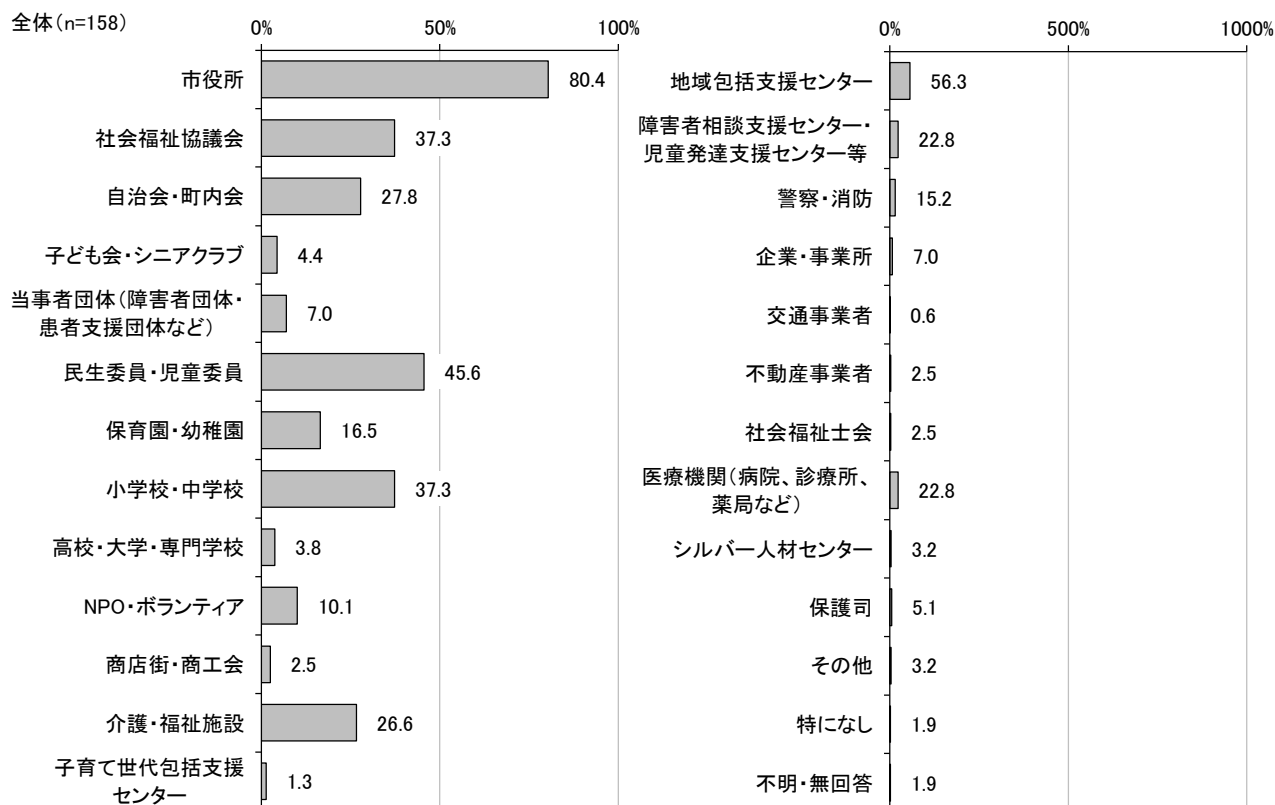
問 10 回答内容	問 11 回答内容
公的福祉サービスを担っている事業所は民間がほとんどです。損益を考えての事業展開なので、地域ニーズがあっても利益が見込めないなら福祉サービス充実は困難。	市、社協、民間が出来ること出来ないことを素直に話し合う場、問題意識を共通化し、協業する場のつくり、その場で問題解決に向けて話し合う。
学校からバスに乗って帰ってくる児童を迎えに行き、放デイでおあずかりしています。バスを降りてからが放デイの仕事だと思っていたのですが、バスの中まで迎えにきてほしいと言われました。障害児が乗るバスなのに、そうして契約上添乗員さんは乗り降りの手伝いをしないのでしょうか?(今はバスの添乗員さんが協力してくれています。)	現段階で乗り降りの手伝いをしないのは契約なので仕方ないと思いますが、子どもたちが安心して乗れるようにするためにも見直すべきだと思います。
医療的ケアを今まで以上に介護職員ができるようになれば、本当に困っている方を助けることができます。厚生労働者の見解を変更すべきです。	自費サービスの拡充が今後重要かと思います。
ご本人に必要なサービスでも、介護単位や障害支給時間が足りず、無料でのケア提供が増えている。自治体間で基準が異なり、予想外の対応に戸惑う。	自治体間で調整を行ってほしい。
精神疾患がある方で引きこもりをしている場合、医療機関へ行くにも移送手段がない。	県とも協力した移送制度の実施。
児童クラブの受け入れ人数。所属児童が全員来る日はない。常に部屋にいることもないので参酌基準の児童一人あたり 1.65㎡はなかなか実用的ではない。基本的に児童クラブの入所を希望している児童は待機させてはいけないと思う。	児童クラブの増設
高齢者の子供が明らかに精神疾患を患っている。そのため高齢者にマイナスな影響が出ている。精神疾患と思われる子供は通院しておらず障害手帳もない。現在、そのような人には障害者支援は関わっていただく事ができない。誰が何を困っているのか、当事者(高齢の親)から相談がないと…とか、その障害があると思われる人から相談がないと動けないとか。はっきり言って、それをしてくれるようなケースならこちらも苦労しないです。	とにかく、アウトリーチ支援をもっと積極的に行って欲しい。そして、縦割り行政を改善して欲しいです。
リフォーム詐欺の疑いの方への支援、保護、対策	公的機関の立ち会い、さりげない見回り
介護保険でデイサービスを利用しているが、卒業になった後に運動をしたいが、お金をそんなにかける	補助金、行政のサポート、運動教室などの開催。デイサービスと病院やクリニックなどとの連携

問 10 回答内容	問 11 回答内容
ことができないため、路頭に迷ってしまう。 デイサービスで体調不良の方がいた時に送る病院が見つかりづらい	
高齢者宅の樹木処理について、	関連部門の連携が必要
不登校児は、どこに相談したらいいか、なにのサービスを頼ればいいのか迷走しています	不登校手帳を出して、障がいとしてではなく、サービスを利用させてあげたい！！母子のために！！
分野横断的な課題への対応 各課の連携が取れていないことが節々と感じ疑問に思うことがよくある。市役所それでいいのかなと1市民として思う。	連携が必要な課同士が月々にでも連絡会等すればよいと思う。直近で保健センターに相談にきた家庭を未来課保育課福祉課が認知しておくべき。
独居高齢者で持病があり一人で外出することが難しい方の支援で制度上、出来ないがやむを得ず行われなければならないことについて。	地域との関わりもあまりないので、それぞれの力量で支援するしかないのか？
地域の方から障害を持った方の行動に苦慮しているとの相談を受けたことがある 地域の方から障害者が日中どこにも関わられていないと相談を受けたことがある	障害者に関して「とりあえずそこに相談に行けばいくつかの選択肢を答えてくれる」という場所が必要
本人ではなく、家族の問題の対応に苦慮する。	多職種連携が不可欠だが、どこの部署が担当していくのか、引っ張っていくのか。総合支援ができる窓口が必要ではないか。
引きこもり状態の児童、強度行動障害の児童に加えて、家族支援が必要な家庭	学校以外に通えたり、相談できる場を作る。支援する職員や家族の研修の機会、情報交換の機会
医療的ケア児は注目されて取り組みがあるが、医療的ケアのある大人（者）に対しての取組が朝霞市は何も行われていない。	先進市の取組を参考にして、朝霞市の問題点を考える。
地域の課題のその他に記入してしまいました。（トラックのことについて） （※この頃特に、狭い道が多いにもかかわらず、トラックやダンプが増えた気がする。かなり乱暴な運転を見受けるので注意が必要。特に通学路など見ていてヒヤヒヤすることが多く思える。）	警察や関係団体へ働きかけをお願いしたいです。特に歩道の整備を進められていることは実感しておりますが、まだまだ危険な道路が多いので安心して歩けるようにお願いします。

3 活動の状況について

問 12 現在、情報交換を行ったり、連携をしている相手先を選択してください。
(あてはまるものすべてを選択)

「市役所」が 80.4%と最も高く、次いで「地域包括支援センター」が 56.3%、「民生委員・児童委員」が 45.6%となっています。



問 12 で「特になし」以外の方

問 12-1 現在、情報交換を行ったり、連携をしている相手先との具体的な連携内容をお書きください。(自由記述)

【連携先(とその内容)】

回答内容
担当している地域で何かあると地域包括支援センターに連絡します。又、3ヶ月に一度地域包括支援センターとの話し合いがあり情報交換をしています。
学校応援団の活動に参加して学校との連携を密にしています。サロンで地域包括との連携しています。
田島団地にシニアのゆつふあ体操に行き、脳トレ、折り紙、体操の指導をしています。ソノボケアにも月1回ですが折り紙、脳トレの指導している。
地域包括支援センター。独居高齢者の見回りと介護支援、老人施設等の斡旋、痴呆症独居高齢者の相談、解決法。
社協、包括支援センター、町内会、商店会。
老人介護施設の現状を2ヶ月に1回会議があるので現在どんな状況であるかの報告を受けている。現状、

回答内容
人手不足、働き方改革などあり、大変苦しい状態なのであると思う。
子供の特性で、思うように学校に行けない悩み、母親に手がでることがあるまたその家族も、育児家事ができず子供に強くあたる。夫婦関係がうまくいっていない。児童相談所と連携して訪問等行っている。
同じ保育園系列や発達支援センターでの情報共有や市役所との連携。
高齢者の場合はほとんど地域包括支援センターにつなげてしまうが、子どもの場合、特に学校から連絡することが最近なくなったように感じる。もし、連絡があったとしても顔も分からない人の見守りをすることも難しい。
市役所の保育課とは、虐待についての連絡や研修会、巡回相談など。小学校とは、学校見学や保幼小連絡会での情報提供。
地域包括支援センター(高齢者の情報交換)。
中学校の先生方との歓談(見守りが必要な生徒さんの情報交換)。乳幼児健診の未受診児宅への訪問。
民生委員の定例会、研修、地域包括支援センター、社協。文化協会役員、社会教育委員として学校、市役所、サークル活動団体、公民館との連携。
利用者のケアマネジャーに対して身体的な変化や本人が困っている内容に対して連絡し、他のサービスが利用できるようにアドバイスやお願いをしたことがあります。
3ヶ月に一回地域包括支援センターと情報交換を行っている。週1回地域包括センター主催のラジオ体操に参加して情報収集。
中学校とは年に1回不登校の生徒の情報交換。民生委員同士では「気になる子」の情報交換。市役所・保健センターからは、「見守り依頼」「未受診訪問」。
地域の現状など情報を頂く。学校へはボランティアで校内の活動に参加し、学校の様子を知る。地域包括支援センターの方に不安のある世帯の見守りについて共有する。
中学校 不登校児などの見守り。小学校 親子の遊び場でのトラブル相談。若年性認知症の情報提供をしてもらっている。
サービス担当者会議を開催し、利用者の支援内容等の情報交換を行う。医療機関と利用者の健康管理に対する情報の共有(胃ろう対応、健康診断の実施等)。特別支援学校から実習生の受け入れ。
地域包括支援センター…困り事があると、すぐに連絡、即動いてくれ解決しております。一番頼っている場所です。サロン等にも参加してくれ参加者とも親しく、頼りにしています。
医療関係の方とのシステムによる情報交換をしております。介護業の他社様と情報交換をして、例えば弊社の人員が不足した際に協力をいただくことがあります。役所の方にはご不明点を伺ったり、ご指示をいただくために質問したりします。
担当地域のマンションでは管理人さんに協力を求め、住民の中で気になる方に気づいた時には知らせて貰う事になっており、定期的に管理人さんに会うようにしている。(マンションなどでは外から状況確認が難しい為)小さい事でも問題と感じた時は地域包括センターに連絡を入れ、相談をし情報を得て対処のアドバイスをいただくか、難しければ地域包括センターに対処をお願いしている。
市役所、民生・児童委員、社会福祉協議会、地域包括支援センター、町内会、サロン、居場所を通して情報交換。
各種連携について相談。例) サギ被害防止にむけ、消費生活センター、警察と連携。

回答内容
地域包括支援センターの方たちとは常にお話し、困りごと相談・勉強会を開いている。
民生委員会。民生をはじめて日が浅くみなさんの意見を参考にしている。
（市役所）福祉部長寿はつつ課より介護保険制度の申請からサービス利用までを講座で学習等。（中学校）民生委員、児童委員として年1回懇談会があり、各学年の生徒の様子、状況について教職員と情報共有。（地域包括支援センター）担当地区の高齢者の方の健康、福祉、医療に関する現状の聞き取りと連絡。（社会福祉協議会）身近な居場所づくり、いきいきサロンの参加で住民参加、在宅福祉サービスあり、はあと事業利用者の紹介。ホームクリーニング事業、平成8年～平成30年で終了し、あいとはあと事業、令和3年4月からなるホームクリーニングでは利用者を紹介（とても喜んでました）。
小中学校…気になる児童・生徒とその家庭の情報共有。保健センター…乳幼児健診未受診家庭への訪問事業。こども未来課…要対協への参加、気になる家庭の情報提供、見守り要請への対応。
パソコン上で看護師、リハビリテーション関係者、医師等（MCS）で連携している。
1人暮らしの高齢者の体調が悪いとの情報を近所の人から受けると、市役所の福祉課や地域包括支援センターに電話するとすぐにその高齢者の自宅に行って適切な対応をしてくれる。通学途中で、具合が悪くなった小学生がいたら近所の人から連絡をもらった時に、すぐに学校に電話したら教頭先生がかけつけてくれた（子供の親は仕事で誰も家にいないとの事だった為）。
保護司会
質問や連絡事項は他園と連絡確認を取り、すぐさま市役所へ問い合わせするよう心掛けている。
高齢者支援を行うにあたり、その方の地域である包括支援センターやかかりつけ医（訪問診療）など情報共有を行い、連携をしている。
企業や関係機関との情報交換や共有を行い、地域の高齢者や活動を支援の協力をいただいている。
困難事例は相談支援事業所に依頼して会議を開催してもらったり、個別に連絡している。相談支援事業所でも前向きな取り組みをしている所と最低限のことしかやってくれないところがある。
学校の懇談会参加 保育園の評議会参加 こども未来課との情報共有

【情報交換・情報収集・訪問】

回答内容
就労支援や訪問看護に関する報告。
連絡会への出席。スポーツ大会への参加、福祉祭りの参加。
民生委員相互の研修参加。防犯パトロールに参加。
利用児童の状況について、顔をあわせて、または電話で共有。
定期的な勉強会、虐待防止研修を行っている。
自園に対する入園、退園の情報交換と書類のやりとり。進級に伴う、提携園への情報交換。虐待が疑われる家庭の情報交換。
介護保険関係、ケアプラン作成に当たり情報収集、利用者の医療関係（入退院、訪問診療など）。
委員会、部会に出席し、勉強会に参加する。
子どもの様子に関しての情報交換。地域の催しものに関しての連携。施設管理に関しての連携。
保育所等訪問や児童の情報共有。

回答内容
市内在住の障害者の働くに関する相談、支援をさせていただく中で、様々なケース対応する際必要に応じ情報共有し当事者の働くを支援。
介護保健を利用してる方、難病の方、独居の方の報告等。
支援をする上での情報収集。地域の困りごとの把握。
中学校 不登校児などの見守り。小学校 親子の遊び場でのトラブル相談。若年性認知症の情報提供をしてもらっている。【再掲】
MCS や研修会。
園児の情報交換や園全体の運営などのサポートなど。
園児の情報を交換したり、園全体の運営のサポートをしている。
外壁塗装、屋根の修理で独居で判断能力があるのか、情報交換した。
会議・情報交換会、ライングループ。
前職が介護職だったため、情報交換はある（今の現状の把握等）
サービス計画の作成に伴う共有。
定例会 懇談会の参加
電話、会議、直接行く！、来てもらう、FAX、メール
電話や会議をおこなっている。

【見守り・イベント等への参加】

回答内容
心配な方の見守りなど。
一人暮らしのお年寄りの見守りの連絡を受け、訪ねている。
ノルディックウォークで高齢者の方々の健康とコミュニケーションでより楽しい老後が送れます様に活動をしております。又、学校生活を送る生徒の友人たちの様子、部活動等を見守っております。ほんのわずかですが助け舟の言葉を出すことが出来たと思っています。
連絡会への出席。スポーツ大会への参加、福祉祭りの参加。【再掲】
民生委員相互の研修参加。防犯パトロールに参加。【再掲】

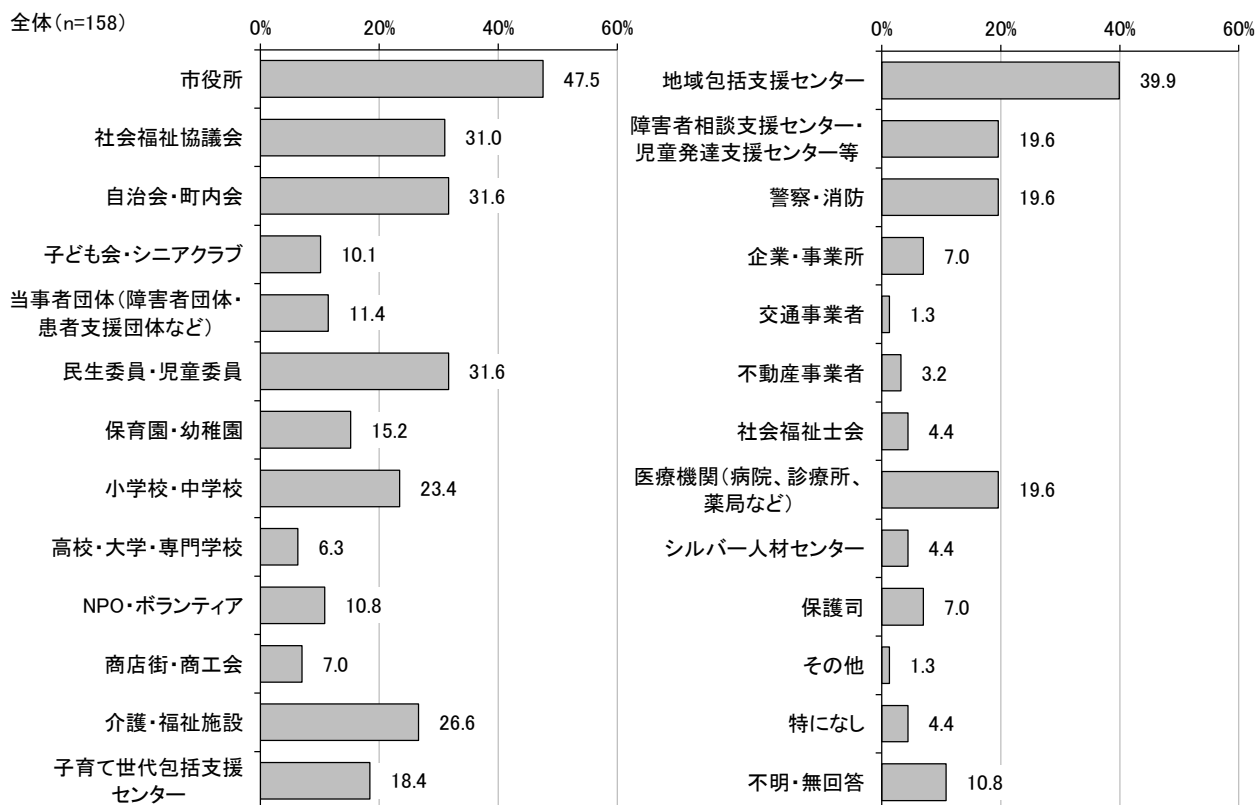
【その他】

回答内容
気になる時はすぐに相談に応じてもらって解決に取り組んでいる。
福祉関係のイベント開催のお知らせ等。
ケースワーカーと探したい。年齢が高くなり、一人暮らしが不安。どこか施設を探したいなどどこに相談したらよいかわからない。
電話
地域包括センターが一番情報を有していると思います。
学校や園での様子や、保護者が語らない学校や園での問題行動等。
1人暮らしの有無。認知症のレベル。
行政の基準の確認、手続きの確認。

回答内容
メール、電話、市窓口。
独居（75 才以上）、尚且つ障害もお持ちの方への支援についてなど。
担当する利用者や家族の情報、住宅環境などについて。
気になる世帯があった場合はこの世帯が既に支援を受けているかどうか確認する。
地域住民からの相談 入退院の支援 地域住民のお困りごと 地域ケア会議 認知症のことなど
虐待のケース、不登校のケース
訓練の実施、傷病時の協力、緊急時の協力
療育利用者の支援についての内容
市からひとり親の相談を受けて対応したが、市の内部での情報共有が全く無いため、部署を超えるやり取りが非常に面倒だった
民生委員としての活動です

問 13 今後、情報交換や連携を深めたい相手先を選択してください。
(あてはまるものすべてを選択)

「市役所」が 47.5%と最も高く、次いで「地域包括支援センター」が 39.9%、「自治会・町内会」「民生委員・児童委員」が 31.6%となっています。



問 13 で「特になし」以外の方

問 13-1 今後、情報交換や連携を深めたい具体的な理由をお書きください。(自由記述)
【子ども関係】

回答内容
児童に対して個人情報あまり入らない(秘密義務)。入らない中での見守りには限りがある。
子育てや学童の入所情報などを共有したい。
似た状況の子への支援の幅をひろげる。保護者が横のつながりをつくれるよう支援したい。
中学校では懇談会をしていますが、小学校ではしていないので現状がよく分からない。
子育てをしている親にたいしてのケアも必要だと感じるから。
地域に住む子ども達、保護者が何に困っているのかを知りたい。小・中学校では、授業において手伝えることがあれば手伝っていききたい。そうして自然と子ども達や保護者と地域とのつながりを作っていきたい。
保育園、園児の過剰な泣き声や保育士の怒鳴り声など。話し合いを持ちましようと話はできますが、実行されていない状況です。
気になる(DV、自傷行為など)子を把握する。
散歩をする際に商店街や商工会との交流などを深めておくと街の人で子どもたちの安全を守る事がよりできるのではないかなと思った。

回答内容
現在、学校によって連携がとれている、とれていないの差が大きいように感じています。（校長先生が代わるとかわってしまうとか…）。
保育施設で集団生活に苦手が見られるお子さんが病院や保健センターに相談を促し、保護者の方が行動してくれるものの、様子見だけで帰されてしまい、保護者も保育所も困ることが多い。グレーなお子様を抱える家庭に保育所以外の出来る支援をすべて認識し、保護者に向けてお伝えする内容の統一をしていきたい。
市の指定管理を受けて社会福祉協議会が運営をしている放課後児童クラブでは、児童領域を運営しているのが、現状放課後児童クラブのみなので、自分達の組織内で児童領域の専門の相談機関がなく、また、外部へ繋げる手立てがない状態である為
子供を取り巻く環境の変化や現状を知る機会がもう少し欲しい。

【障がい者関係】

回答内容
就労支援B型のため、他企業と連携した作業ができないか。障害者事業以外にも直接当事者団体と話をし、ニーズの聞きとり共有したい。
就労支援や生活支援のためのインフォーマルサービスの充実を図りたい。
児童発達支援センターの研修や認定された子についての専門的なアドバイスを知りたい。
利用児者の困り事や苦手、問題等をきちんと把握し支援に活かしていく為。
障害者の利用者さんの医療についての悩みを気軽に意見交換したい。授産で製作した製品を福祉だけで売り買いするのではなく、一般にも広めたい。販売方法や商売についての意見交換を気軽にしたい
学校とは困難事例があった時のみの事が多く、放課後等デイサービスの事を知らなかったり、あまり重要視していない、下に見ているように感じる。下校時間に学校都合で待たされる事は良くある。理解している方や学校もありますが、少ない。知らないからだと思います。

【高齢者関係】

回答内容
寝たきりで一人暮らしの高齢者。介護訪問を1日に4.5回受けて、夜7～朝の7時位まで訪問なしのベッド生活をしている方を見守っています。夜に台風や停電でエアコンが切れてしまった時、エアコンのリモコンを入れに行き、ケアマネジャーに自宅に訪問したことを電話連絡して、ことなきを納めた(ケアマネジャーとのやりとりが出来たが、一人で夜に入ることにていこうがある)。
独居高齢者の情報を交換し、対策を。
通所リハビリで勤務しており、利用者さんからは生活上の不安を聞くことが多い。よりよい生活をしてもらう為にも家族やケアマネジャー等と連絡を密にして対応する必要性があると思います。
健康に活動なさっているシルバー人材紹介で働いていらっしゃる方々との会話をしてみたい(有志の方々の名所旧跡歩き等)。
話し好きなお年寄りたくさんいるが、サロン等の活動をしている会を紹介するが、大勢の中に加わるのが苦手としている人が多い。
認知症高齢者が増加しており、地域との連携や情報は必要と思う。

【地域について】

回答内容
民生委員・児童委員の方と地域に住まわれている方の見守りや声掛け、様子など情報共有できたらいい。支援している方の生活の場になっていることが多いので、情報共有の場を設けやすくして、子ベル支援を考えていきたい。
地域の中でのそれぞれのコミュニティからの情報交換をすることで多角的に物事を捉える事ができる。単体での事業でなく、複数での連携が、必要。
近隣の住民や警察・消防と連携を深めて災害時などの繋がりを作りたい。

【その他】

回答内容
地域としての密なサポートをしていきたい。
闇バイトに関係しているような不審人物の訪問があったという利用者からの情報があったため、そのような時にすぐに情報提供をしたいため。
地域と地域包括支援センターとの連携が必要と思う。
詳細な対策。
親を知ると行動も早くなります。
東洋大の先生の脳トレはとてもいい。
経験が浅く、制度や法律などのアドバイスをお願いしたいので。
意外と不動産屋さんが色々なことをご存じで生活上の相談を受ける事が多いようです。定例会等で事例を聞いてみたいです。
元気な老人になりたい為。
情報を知りたいです。
支援が必要な方の早期発見につなげたいから。
民生の定例会に於いて、1番情報が役に立っているのは、民生員同士の体験談などの事例発表です。
現在、困り事はないのですか、住民の窓口として先ず福祉関係の部署の方との連携は大切なのではないかと思います。
町の人などの交流を深めておく。
私達はまず、それぞれの分野の現状を知りたいのです。民生委員は、部会が4つに分かれていて、1つの部会にはある程度、情報がありますが、総合的な事象が分かりません。
犯罪などが多い今、相談でき、安心したいなあと思います。
理解を深めるため。
介護業に興味を持っていただくために若い年代の方へのアプローチが必要だと考えるからです。
「個人情報」の縛りが強く、それでなくても何の権限のない個人では情報を集めるのが難しい。正しい情報を集める事が大事でそれがなければ何も判断できない。
ワンストップで理解できる情報の取得。
これから就労人口が減り、各機関で連携し市民を守っていく必要があるから。
長く民生をやられている方々の意見・活動を参考にしている。
自分らしく、明るく、楽しく、健康でいられるように地域で人と関わる活動に参加し、人とつながるよう

回答内容
心がける。
末期の方の受入れ施設等の情報収集の為。
民生委員同士だけでは、なかなか事が進まない時はやっぱり市役所などは、1 番頼れるし、住民の人も安心出来るから。
知識を広めたい。できること、叶うことが増えるかもしれない。
事情が多種にわたることで、他部門の意見 情報が必要
利用者に、多角的な視点から支援を行っていきいたため。
助け合いたい！！お互いに！
地域包括支援センターの業務遂行上必要と考えている。
制度上の支援に限界があり、その他のインフォーマルな資源が必要に思われるため。
様々な場面で協力を得られるよう交流の機会を持ちたい
急な対応も可能な施設であるため
連携を深めて行きたいと考えるが、日常業務が多く、そこまで手が回らない状況。 できるところからはじめて行きたい。
支援の可能性を広げたい。
地域の中で連携し、学びの場を維持したいから

問 13 で「特になし」以外の方

問 13-2 連携強化に向けて、必要な支援はありますか。（行政からの支援に限りません。）
（自由記述）

【情報提供、情報発信】

回答内容
市役所からどのような支援があるかを明確にしたパンフレットがあると利用者さんに説明しやすいと思います。
自分の立場では入り込めない母子家庭や障害のある方、生活保護などもう少し世帯情報を頂く事が出来るとどんな支援が出来るのか？必要ではないのか？こちらでの対応の仕方を考えられる気がします。個人情報なので難しいと思いますが…支援のチラシなどプライドを傷つけてしまうのでは？と躊躇してしまう事があります。
ワンストップのリーフレット等があると良い。全国共通で。
市から、「福祉施設でボランティアしたら？」みたいな、アナウンスとか？？？

【勉強会や交流会等の開催】

回答内容
勉強会や会議などをしてほしい。
当事者団体、家族会への直接的なアポイントが取りづらく、説明会や報告会が定期的にあると参加しやすい。
児発、放デイ、保訪の事業所の集まりを活発にし、法改定等に現場の声をとどけられるようになれば良い。
連携がスムーズに行えるよう、顔つなぎの場、お互いの機関の理解を深める機会作り。

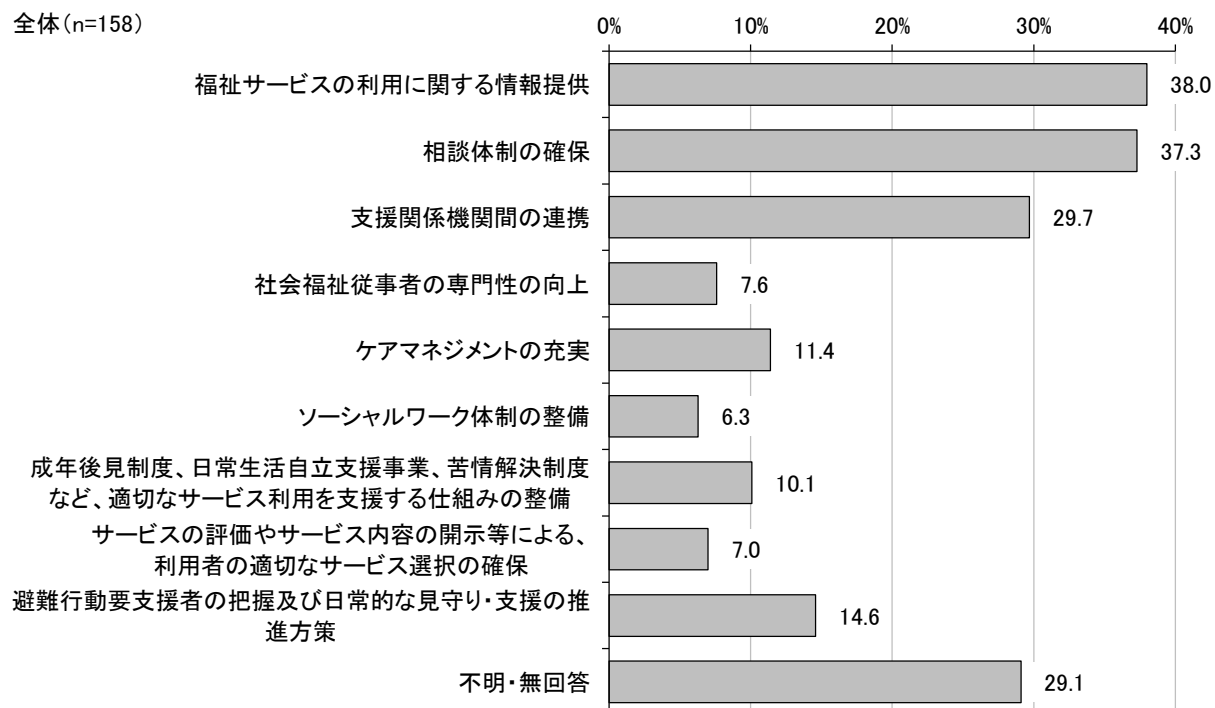
回答内容
小中学校の教員と福祉施設職員の関わる機会→特別支援教育が伴走的なものへ。ex) 支援学校→福祉施設へ移行時、情報伝達がないのが現状。ex) 発達障害又はグレーゾーンの子どもへのアプローチ、教員では難しい→障害、福祉分野の知識、技術が乏しい。
施設間で支援の悩みを話せる場があると支援で悩んでいたり、行き詰まっている所の解決のきっかけになると思う。市からそういった機会を設けていただけると貴重な情報交換の場となると思う。
就職セミナー等の開催（学校側と企業側に案内）。
やはり知り合う機会を設ける事だと思います。年度はじめに送迎を含めて会議を持つなど

【その他】

回答内容
専門職でない人だとなかなか的確な回答がもらえないことがある。
マンション等の管理会社(管理人)が協力があればもう少し 100%ではないにしろ出来ることもあるかもしれない。
集団生活の場で生きづらさを感じている子供達が増えてきている様に感じる。学校などの先生達もなかなか別での支援は難しく限界を感じる。理想は、学年ごとに心理士などのスクールカウンセラーをはいちして、いきとどいた子供や保護者対応ができればありがたい。
地域包括支援センターよりサロン作りについて。
家に閉じこもっても良くないので自分からアンテナを立てて頑張りたい。
読み聞かせ、ミシン応援、九九検定、プリントの丸つけ、ノコギリ応援…などの小学校での活動。あいさつ運動などの中学校での活動。
令和6年度の報酬改定により、事務作業量が増している。更に人員確保が難しい。人材会社へ登録しているが、経験あるスタッフとの契約に至っていない。慢性的な人手不足の解消の手立てがほしい。
商店街とアポを取り合ったり、事前に下調べを行う。
商店街との連携をとり合う。
財政支援。企業とコラボして収入を得つつ、福祉施設の運営（例カフェと図書館とサブスクでの貸本など）。
皆の本気度。口ばかりじゃない、つなげる気持ちがほしい。
連絡しやすい各窓口の公開
・精神疾患が疑われる方へのアウトリーチ支援 ・高齢者と同居している閉じこもりのかたへの支援 ・高齢者虐待が発生した際の被害者のためのシェルターとなれる場所の支援とか
インフォーマルの資源を利用するにあたり個人情報についてが難しい。
どこに行けば良いのかわからない
幼稚園という学びの場とは何かをもっと知ってほしい

問14 地域における福祉サービスの適切な利用の促進のために優先的に取り組むべき事項を選択してください。（3つまで選択）

「福祉サービスの利用に関する情報提供」が38.0%と最も高く、次いで「相談体制の確保」が37.3%、「支援関係機関間の連携」が29.7%となっています。



■ 具体的なアイデア・ご意見（自由記述）

【福祉サービスの利用に関する情報提供】

回答内容
地域包括等利用されている方は情報が入りやすいと思うが、されていない方はわからないのではと思う。
定期的な訪問。
困ったことがあった際、市役所に電話したら利用できる支援全ての情報を郵送してもらいたいです。
得られるべき情報を得られていない地域住民の方もいらっしゃるように感じるので、情報を得られる環境づくりや福祉サービスの公報が必要に感じる。ネットを使わない人も情報を得られるよう広報誌やポスターで提供すると良いと思う。
岩手県の盛岡市は各地域包括支援センターに生活支援コーディネーターを配置しており各地域の社会資源を活用し高齢者の暮らしを支援しております。もしその様な人材がはいちされれば地域の福祉サービスを活用されると思います。
住民同士の世間話的な所から、身近な情報を得ている人が多い。
新設グループホーム（障害）等の市からの情報発信がないことが疑問。なぜ、限られた人しか知る事ができないのだろうか。HP などに、建設予定などでも公表すべき。（公平性が保てない）。
利用できる福祉サービスの内容や申請方法等が分かりやすく明記、周知がされる事で、サービスの手が行き渡る様になって欲しい。
福祉サービスの利用についてまだまだ知らないサービスもあると思うので積極的にメディアや回覧などで知らせていくと知ることができると思う。
メディアでもっと情報を言い、多くの人にサポートしてもらえるようにする。
私達も、チラシ等の投函で、提供してますが、包括センターが開設しているサロンや座談会で広めていければと思います。
町内会、老人会等に分かりやすく情報提供していく。
定例会等での周知。
お話をさせていただいたお年寄りの中には「どこに聞きに行けば良いのかわからなかった」「そんなサービスがあるとは知らなかった」とおっしゃる方がいらっしゃる。情報が届かない人もいる、届いても無関心で頭に入っていない等、情報提供の難しさを感じる。問題相談・受付窓口1ヶ所から最後は福祉サービス利用の完了まであちこち回る必要なくわかりやすく窓口（1つ）があると良いと思う。
必要な人にサービスが届けられない現状。チラシなど読まない人への個別訪問。
はーとびあ等のヘルパーが出来ない介助についての情報の広報をして利用を知らせる（ペットのエサ買い、清掃、銀行（外出）介助等）。
何か相談したい時に、社会福祉協議会に行ったら良いのか地域包括支援センターに行ったら良いのかほとんどの人は分からないと思う。どこに相談したらいいかわからない場合はここに来てくださいというような入口を分かりやすくして欲しい。
SNS とスーパー、病院に掲示
なんのサービスがあって、どんな支援をしてくれるのか、どんな事業所があるのかわからない
チラシやビラにして配る
ホームページの充実

【相談体制の確保】

回答内容
民生の方がよりそって相談されるといいと思う。
まずは誰もが困った時、自由に電話等で相談できる体制を作り、どうしたら良いか解決方法を導いてくれる事が必要だと思う。
地域によつての総合的な相談窓口があるといい。
相談支援事業者を増やす。
相談支援事業所の不足。県に許認可権があるが、市の問題として対策について市、民間で策を考えるべき。
いろいろな相談に対して専門の相談員を増員することによって迅速にかつ時間のゆとりを持って相談を受けたいです。
各地域の住民がどこへ相談へ行くのかを明確にする。
気軽に相談に出向けるような支援。
一人暮らしの高齢者に対して、民生委員として、仲間と一緒に訪問している。自分一人よりも二人で訪問することで、会話が続き、相手の困りごとを誘導しやすく感じている。
サービスを提供する側の人員体制、環境の整備が手厚くされて行って欲しい。人材が確保されないため、支援が遅れてしまうという状況にならない様な体制作り。
相談が出来ずに悩んでいる人は多いと思うので気軽に情報などが漏れずに相談が出来る窓口や SNS が増えると良いのではないかなと思う。
窓口を設置する。
お話をさせていただいたお年寄りの中には「どこに聞きに行けば良いのかわからなかった」「そんなサービスがあるとは知らなかった」とおっしゃる方がいらっしゃる。情報が届かない人もいる、届いても無関心で頭に入っていない等、情報提供の難しさを感じる。問題相談・受付窓口1ヶ所から最後は福祉サービス利用の完了まであちこち回る必要なくわかりやすく窓口（1つ）があると良いと思う。
ワンストップ型の総合相談窓口を創設。
相談の窓口（入口）がシンプルで「こんなこと相談していいのかしら？」と市民を迷わせないような気軽さをアピールしてほしい。
アイデアを出して解決する…という考えはない。自分も含め（介護福祉士）責任と愛を持ち、個人のスキルを高めていくことが一番なのだと思います。
人員不足 一人で複数の担当を多く持っている為、その作業も事務的になってしまっているのではないかな。
一次的な総括相談窓口が欲しい
じーばーのセンター作る！各相談窓口の周知
地域包括支援センターの職員の増員
完全に入り口を一つにしてそこから振り分けるようにしたいと思う。
利用希望の問い合わせがとにかく多いが、受け入れが難しく断っている状態。家庭や状況を踏まえどのサービスを受ける事が妥当なのかを相談出来る場所があると良い。
なかなか気軽に相談に来てもらえない可能性が高いので、スーパーや郵便局などの施設で相談できるような環境の整備
人材確保が急務。働き方や労働環境を整備しながら、従事者の専門性や人間性のスキルアップが必要ではないかな。

回答内容
様々な場を設けて顔を合わせたコミュニケーションをまずとる。相手がわかれば、ITの活用でコミュニケーションを取れる方法が広がる。まずは入口の体制を整えて欲しい。

【支援関係機関間の連携】

回答内容
窓口となる市福祉課での連絡フローチャートの作成。
横のつながりほしいこと沢山あります。
普段からの交流が必要。
横の連携がない。
個人情報もあると思うが、お互い信頼関係ができれば教えて頂かないと先に進まないと思います。
アイデアを出して解決する…という考えはない。自分も含め（介護福祉士）責任と愛を持ち、個人のスキルを高めていくことが一番なのだと思います。
縦割り行政の改革
支援センターにおける連携は凄いとっています
学校、保育園幼稚園が、もっと協力的になるといいんだけど…心意気は、各園各学校次第か…
堅苦しい会議ではなく、福祉施設の合同販売会や施設対抗運動会などのイベント
縦割を少しでも見直して、横の関係を繋げる関係作りが必要。仲を取り持つ、部署が必要ではないか。

【社会福祉従事者の専門性の向上】

回答内容
質の確保より量の確保が急務。
給与を上げてもっと人材確保が必要だと思う。
公の施設では、資格手当がない。モチベーションを維持することが、専門性の向上へとつながると思う。また、資格を活かすことのできる部署への配属も、向上につながると思う。
支援する側の知識向上は、制度が変わる、時代が進んでいく中で、対応も刻々と変化する状況にある今、大事な事だと思う。研修の機会は増えても良いと思う。
研修、育成。
アイデアを出して解決する…という考えはない。自分も含め（介護福祉士）責任と愛を持ち、個人のスキルを高めていくことが一番なのだと思います。
市で研修を開催してほしい
社会福祉協議会の研修は継続しているんな課題で行ってほしい
研修の機会、特に市内のみで
向上の前に人員不足が課題となっているため、社会福祉従事者の仕事の魅力を伝え、人材確保する。
さらなる研鑽の充実

【ケアマネジメントの充実】

回答内容
地域包括支援センターのおかげで、私たち民生委員は見守りは少なくなったと思う。

回答内容
実質生活には困り感がないが、あまり人に会わない高齢者の巡回。例えば、80歳になったらケアマネの訪問があるなど。
医療、介護、福祉、保健、行政の横のつながり。
ケアマネジャーの紹介は、包括センターはもちろん、利用者同士の口コミがけっこうあります。
ケアマネジャーの方々の障がい福祉サービスの理解を深めていただく機会があると良いと思います。
アイデアを出して解決する…という考えはない。自分も含め（介護福祉士）責任と愛を持ち、個人のスキルを高めていくことが一番なのだと思います。
最終段階で頼りになるのはケアマネジャーと思います
人材が足りていないような
民間も巻き込んだ社会資源やサービスの充実が必要と考える。財政的な問題もあると思うが、企業とコラボすることで、お互いが得する対策をしていけるように体制を見直して行く必要があるのではないか。
さらなる研鑽の充実

【ソーシャルワーク体制の整備】

回答内容
給料増やして、辞めない体制づくり！！目指せ海外！！障害者へ関わる人は、一般の職業より30%給料アップ！！とか
向上の前に人員不足が課題となっているため、社会福祉従事者の仕事の魅力を伝え、人材確保する。
さらなる研鑽の充実

【成年後見制度、日常生活自立支援事業、苦情解決制度など、適切なサービス利用を支援する仕組みの整備】

回答内容
申請から承認までに時間がかかるためすぐに介入して欲しい人につなげられない。
成年後見制度についての講座を聞きに行ったら信託銀行についての話だった。これはこれで役に立つと思うけど。
成年後見制度は、お金が大部かかると思います。公共の場所で元気なうちに登録して時々情報交換できるような仕組みがあると良いと思う。
身寄りのない方の後見の制度が使いやすくなると助かる。
成年後見センターの設置と周知。
役所内で、「仕組み作る部署」結成する！！
後見制度の申し立ての支援とか
地域活動支援センター事業がどんどん減っている。サービス事業では補えない部分もフォローできると思うが朝霞市が前向きに動いていないと思う

【サービスの評価やサービス内容の開示等による、利用者の適切なサービス選択の確保】

回答内容
どんなサービスがあるか知ってもらう。実際、自分が困らないとサービスを使う事を意識していない。

回答内容
保訪について、学校や園に評価をもとめることになったが、保訪問したいへの理解が低い中で評価をもとめる事の意味がわからない。
サービスを受ける側は弱い立場なのでいろいろ思っても言えないことが多いと思う。サービスを提供する側もいろいろな人が居るので教育も徹底してほしい。
こちらが、利用ストップ！を促しても、保護者が利用したくて、サービスを使いたがる人は一定数いて…受給者証が出ている限り、サービスは断れないので。なんか…もう終わり！！！みたいな何かがあれば「適切な」に、なるのかな…（児童発達の話をしてすいません）

【避難行動要支援者の把握及び日常的な見守り・支援の推進方策】

回答内容
書類をもらっても会う機会がありません。機関が集まることもなく、もったいないと思います。
民生で台帳があるが、全員を廻って(年一度は廻る)ないし、家族のいる方がいいですといえばそれ以上言えない。
把握はしても当日にならないと使用できず、他の団体との共有がむずかしい。
実際災害があった場合、民生委員の自分がどれだけ支援者の援助が出来るか不安がある。把握はしても自分の家族が第一になるから難しい。
要支援者の把握は、市でできていると思うが、具体的な支援内容、支援方法、留意点も把握する必要がある。
正確に把握できていません。
「避難行動要支援者台帳」を預かってはいるが、内容は簡素と感じる。『個人情報』の関係があるのか、私達が内容を充実させていく必要があるのか？わからないが、お名前、居住先を把握できているだけでも良いと思う。
本当に必要な人は載っていないと思います。個人の意志で登録するものなので仕方ないと思いますが～、元気な人が多いように思います。本当に必要な人は、ケアマネさんや包括さんが介入しているので良いのかもしれませんが～？
詳細の個人情報までいらないけど…みんなで、この辺に要救助者がいるよ！って知ってほしい気持ちはある
避難行動要支援者の内容がタイムリーなもので随時更新されていると活用がしやすいかもしれない。
年に一回程度、地域全体での避難訓練を行う。各地域の避難所に集まる練習を行う。
車椅子に乗っている肢体不自由児も多いので、いざ災害が起こった時に不安がある。

問 15 権利擁護活動（福祉サービス受給のための支援、生活・金銭管理、施設内での虐待防止活動など）につながる取組を行っている場合、その内容をお書きください。
（自由記述）

回答内容
研修の拡充。全自社事業所が集まってのディスカッション等でリアルな理解を促している。
権利擁護、虐待防止研修。
ミーティングや勉強会を行い、逆艇について話しています。
定期的に虐待防止や身体拘束廃止関連の研修等を行っています。
虐待防止委員会の設置。
虐待防止のためのポスターを掲示して知らせている。
虐待防止につとめている。
通帳管理の難しい場合に社協の安心サポートの利用をすすめる。判断力がないとこられた方は民間の生活支援をしている法人へ依頼。
虐待防止委員会。各事業所がどのような形で行っているのか、共有できる場が必要。
センターで、委託相談しています。必ずしもサービスにつなげているわけではないですが、療育を使うきっかけになっている事もあるかもしれません
地域住民に向けての防犯講座の開催。利用できる制度のご提案。虐待案件の対応、行政との連携等
虐待やグレーゾーンの方がいた場合に、必ず、市や地域包括ケアセンター連絡・相談している。又、他事業所間での研修を行い、事例検討会をしている。
規定を設けてチェック体制を整えている。
できる方にはお金の計算、お小遣い帳など日々お金に触れるような取り組みをしている。虐待については常に職員同士で利用者視点で支援するようにしている。
虐待防止研修を行っている。
成年後見制度講座の開催
職員会議を頻繁に行う。同じ業種の横の繋がり。送迎時に様子を見て報告し合う。
施設内での虐待防止活動

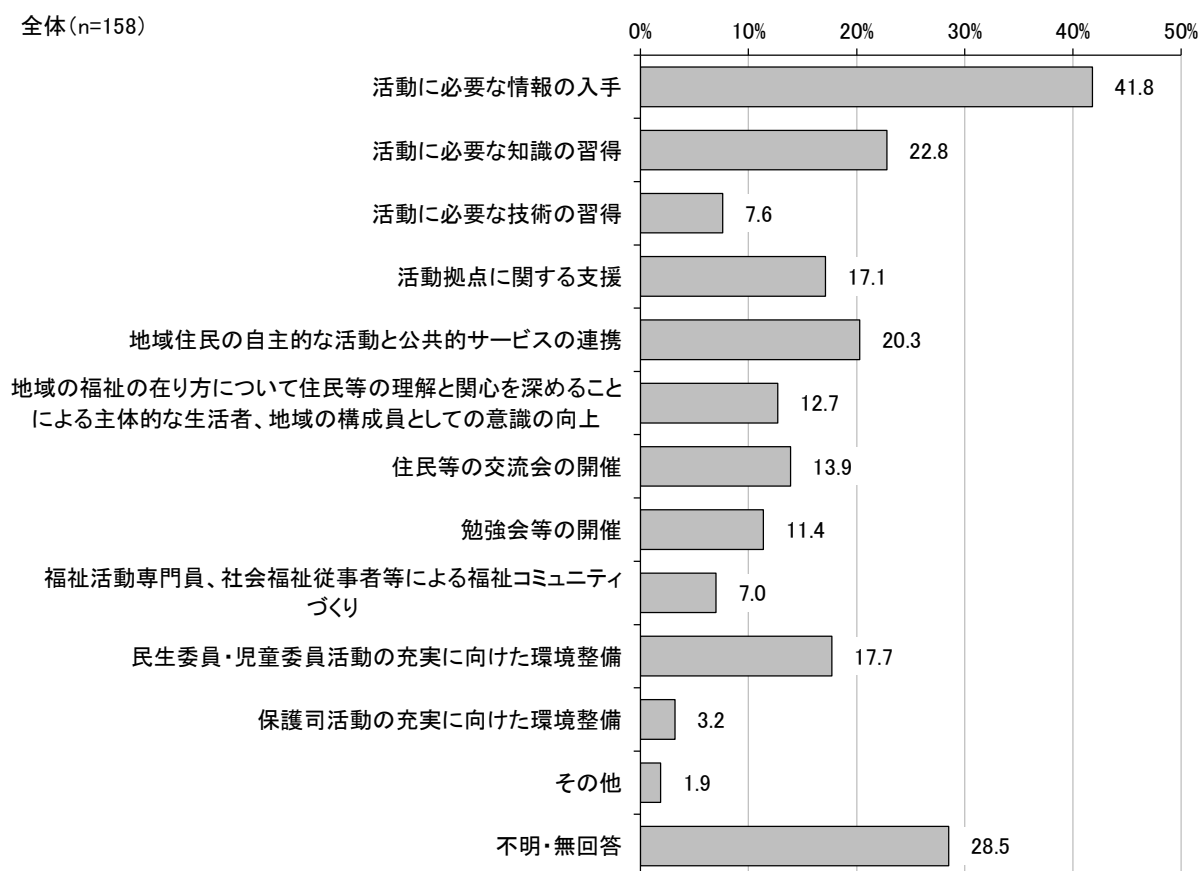
問 15 に記入された方

問 15-1 上記の権利擁護活動を円滑に進める上で、行政や専門機関等からの支援が必要と感じた場合、その内容をお書きください。(自由記述)

回答内容
行政が持っている事例の提供など。
利用者の保護者から学校で虐待を受けたかもと相談の電話があり、すぐに(夜だったので)相談員さんに電話しました。相談員さんは朝 1 番に市役所に電話してくれましたが、別の所にかけてくださいと言われたそうです。その日の夕方に学校に電話にしてみますと返事があったのですが次の日から被害を受けた児童は学校に行かなくてはいけないのに、実際に動くのが遅いと思います。保護者の方も仕事があるから学校に行かせなさいいけない。どうしよう。と不安がっていました。的確な指示を受けることができれば良いと思います。
弊所は、通所施設で児童達の療育を行っていますが、将来利用児童達がグループホームに行くのか？通所して作業所等に勤務するのか保護者が、どこまで理解して考えているのか不明なので、色々なパターンを想定し情報提供が出来るのと良いと考えます。
虐待防止について職員個人が支援に対し振り返る機会を作る。障害者への虐待を未然に防ぐために適切な支援を施設では心がけているか、何かあればすぐに「朝霞市障害者虐待センター」につなぐ。
全てが全て虐待とは限らないので慎重で丁寧な対応が必要になると思う。また〇才児健診などで様子をよく見たり来ない家庭には積極的に声掛けなどを行っていくと良いと思う。
虐待の判断が難しいので慎重につとめている。健診などでチェックする。
後見制度のすみやかな導入。市長申立の円滑化。
センターで…意見書…とか…かく？ドクター居なくてもいいのであれば…
生活保護の申請にまつわるところ。精神疾患と思しき方を医療につなぎたいとき。認知症疾患と思しき方を医療につなぎたいとき。制度のはざまのかたへの支援が必要な時。多問題ケース対応の際など
虐待や独居高齢者の生活支援について。
細分化されて規定がどんどん増えていくので大枠でくくってほしい。
成年後見センターの創設、市民後見の活動促進
こども未来課、児童相談所との連携の継続

問 16 地域福祉に関する活動への住民の参加促進のために、優先的に取り組むべき事項を選択してください。（3つまで選択）

「活動に必要な情報の入手」が 41.8%と最も高く、次いで「活動に必要な知識の習得」が 22.8%、「地域住民の自主的な活動と公共的サービスの連携」が 20.3%となっています。



■ 具体的なアイデア・ご意見（自由記述）

【活動に必要な情報の入手】

回答内容
まずは情報を得ることが大切だと思う。市の広報などは HP からの情報が多く、気軽に出来ない人も多い。
SNS での発信。
その地域にどのような社会資源があるかをパンフレット等で明確化し、ケアマネジャーを通すことで要介護者の皆さんに知ってもらうことになると思います。
若年層は知らないことが多い。または、他人事。情報発信の媒体、興味を持ちやすい企画や POP があるとよい。
地域福祉に関心を持ってもらえる様に情報を提供。住民が地域の情報を得られやすく、意見を出しやすい環境を作る。
情報がなければ活動にも移せないと思うのでその時の時代にあったニーズで知らせていくことが大事だと思う。
時代にあったニーズで知らせる。

回答内容
私達が知らない情報も、包括センターが把握している場合があります。是非、情報を共有してほしいと思います。
守秘義務が強く、御近所さんの話もなかなか聞けない。所々に知り合いを作り、相手側からの情報を得ています。ご近所さんは何でも知っています。
定例会での周知。
情報の周知等。
できる限りの情報は行政側から知らせるべき。
シルバー世代（素晴らしい方がたくさん）にチラシなど個々にお知らせ。
子供、高齢者、障害と一つになり活動する為の共同の為に一緒になって模索するのも必要かと思う。
SNS！そして、参加者には、ぼぼたんの記念品とか！！なんか配る！！（プラスがないと参加しない）
地域福祉が自分たちの生活にどのように結びつくのかの情報を発信する。自分の生活している場所にどんな施設があるのかを知る。
地域福祉の活動というものが機能している実感がないので、取り組むのであれば、市が主体で周知してほしい。
世帯表だけでは必要な情報が集まらない

【活動に必要な知識の習得】

回答内容
NETにより情報を得ている(体操、折り紙、お料理等)。
研修はしていても中々還元できずいつか役に立つだろうと頑張っています。
何かしたい気持ちはあるが自信や経験がないという方に向けた講習会があればいいと思います。
町内会の行事は盛んに行っている自治体なので、高齢者の人達にぜひ参加してほしい。
オンラインで情報を載せる。
福祉に対する実際にあった事例の勉強会があると参考になる。
小中学校の授業の一貫として取入れてはどうか？
定例会、講習会で、参加して、得ていますが、時間がなく、SNS等で、自分で学ぶしかない時もありますが、中々、それも、時間が取れません。
定例会に合せた研修。
3にも通じるが、知識を学ぶ機会を作る。
集会所など利用して楽しく講習会など。
意識に間違いがないか勉強が必要
知識が必要すぎると、参加者は減ります
直接的なボランティアだけが支援ではないということの理解
上記を行った上で、知識を習得するための勉強会を行うと良いと思います。

【活動に必要な技術の習得】

回答内容
努力しています。
何かしたい気持ちはあるが自信や経験がないという方に向けた講習会があればいいと思います。

回答内容
町内会の行事は盛んに行っている自治体なので、高齢者の人達にぜひ参加してほしい。
各団体に必要な技術の講習会の開催。
集会所など利用して楽しく講習会など。
一本化した上で必要な技術の習得の為に講座の開催もしくは、電子機器（Zoom）等での可能ならば活用する。
技術を習得したい！！くらいの意気込みの人は、すでに福祉の仕事についているのではないのでしょうか…

【活動拠点に関する支援】

回答内容
市民センター等に避難する際、車移動になる為、より近くの家、倉庫等手広く利用出来る協力者を確保。
拠点の数を増やし身近な集いの場の提供。
高齢者、障害者が利用しても、階段が急とか、段差が多いという集会所がある。バリアフリー化を推進すべき。
サロンをするにも、話しあいたいことがあっても場所が少なく、部屋を借りることが出来ない。無料で利用できる場所が欲しい。
空き家などを使いやすくする。
市内各地域ごとに空き家とかを利用して活動拠点があれば良い。現在絶対的に不足してる。
現在ボランティアで地域包括支援センターの人達と一緒に活動していますが、地域で色々な活動をする場所が足りないの、空き家や空き店舗があるなら市役所の人などが何とか活動出来るような所に行って、借りられる様話をしてくれるとありがたい。
委託の金額…あげてほしいな…委託のために、人員を割けるほどの金額ではなく…厳しい限りです

【地域住民の自主的な活動と公共的サービスの連携】

回答内容
町内会各層を通して。
どのような活動があり、どのような集団があり、どのような方が所属しているのかの情報と、この流れの逆の情報提供。
各自治会と福祉に関する情報の共有を強め誰でも気軽に利用して良いもの、すべきものと高齢者側の認識を変えてもらえる様な活動の仕方が必要。（高齢者の方は、自分には必要ない、世話にならないという考えの方も多く見られるので）。
地域住民だけでは限界があり、やはり行政との連携が大切だと思います。地域的に遠い所での開催では、そこへ行くまでも大変。交通手段も大切だと思います。
こども食堂などへの参画。
体制を理解して、連携できる知識を学びたい
自主的な活動の場を知らないの、やはり、周知させることがまず先決ではないかと思います

【地域の福祉の在り方について住民等の理解と関心を深めることによる主体的な生活者、地域の構成員としての意識の向上】

回答内容
防犯活動等で年齢の離れた方との会話からいろいろな情報を得る。
地域のつながりがなくイベント等を通して多くの人達と交流、理解してもらいながら活動を楽しんでもらう。
各自治会と福祉に関する情報の共有を強め誰でも気軽に利用して良いもの、すべきものと高齢者側の認識を変えてもらえる様な活動の仕方が必要。（高齢者の方は、自分には必要ない、世話にならないという考えの方も多く見られるので）。
住民は、最終的に行政やその関連団体に委ねる印象がある。
強く動機づけを行わないと、地域の方に意識が浸透しないと思います。
一回、遊びに来てもらう！！そして、「いいところだな。手伝おうかな」と思ってもらおう！！
主体的に活動している方はとにかく忙しい。地域福祉の理解を共有しながら、人材発掘、育成を行っていく必要がある。

【住民等の交流会の開催】

回答内容
町内会等で聞く。
サロン等で話し合い等よいと思います。
日頃から住民同士が交流を持っていることで、地域福祉に関する活動への積極的な参加にもつながると思う。自分の住む地域について皆さん関心があると思うので、地域について話せたり知れたりするような交流会が良いと思う。
住民同士のつながりが一番大事だと思う。となり同士お互いに関心を持って声をかけあうだけで防げる事は沢山あるように思う。
町内会の行事は盛んに行っている自治体なので、高齢者の人達にぜひ参加してほしい。
夏の盆踊り大会が夏祭りとして6月に町内会行事として行った所、子供達と若い親が多数参加して大盛況、又、バーベキュー大会も好評だった。
交流会を開催する事によって広く住民に福祉についての理解を深める。各団体及び一般市民を募集する。
マンションの集会室が狭い。エアコンなど設備が古いなど使い難いところがある。空室の利用、設備の更新などが必要。
住民同士の交流の場も近年減ってきている。若い人が地域の事に関心を持てる様な催し等あれば良いと思う。
少人数での話し合いが本音を聞ける。
高齢者や障がい者の独居の方々を地域全体で支える社会をつくるために必要かと思います。
餅つきしたい！！
施設見学会や授産施設の合同販売会など

【勉強会等の開催】

回答内容
時間が取れない場合もある。

回答内容
各地域で高齢者が気にしている運動機能面や認知機能面、健康等に関する講演を開催することで外出の機会を増やすきっかけになると思います。
地域福祉に関する活動とは、そもそも何か？どういった形で参加が出来て、意見を出せるのか等、知る機会を作っても良いと思う。
やはり知識がないと取り組むことは難しくなってくるのでそういう学ぶ機会をもつことは大事ななと思う。
勉強しておかないと、いざという時、何もできないので必要である。
地区別に開催。
障がいの方々が避けられない（当たり前存在する）社会づくりのために知識が国民1人1人にいきわたると良いです。
役所開催の勉強会を、・・・・・・チ・・・・チルズで・・・・やりますか？？

【福祉活動専門員、社会福祉従事者等による福祉コミュニティづくり】

回答内容
専門の方にきて頂いて話を聞きたいです。
みんな忙しくて、つながるタイミングが取りにくいんだと思います。市が、ライングループとかとか作ってみたいかがですか？؟؟？強制参加で！！
同事業種別に集まれる場を作る。

【民生委員・児童委員活動の充実に向けた環境整備】

回答内容
民生委員も高齢化するにつれ、新しい民生委員の引き受ける人がいない。
民生委員の認知度アップは当然ですが、他の機関との連携が不可欠かと。
地域別に活躍しております。
現状仕事をしながらの活動には限界がある。今は定年後も働いている人が多く、なり手不足だと思う。1人のボランティアがいくつものボランティア団体で活動していて、ボランティア疲れしているのでは？
活動内容を具体的にアピールする。後継者が出やすい環境作り。
委員の年齢が高齢すぎて、明日は我が身の人ばかりで若年齢の人が参加しやすい場所に世代のつながりで増員出来たらと思う。
仕事をしながら完ペきに民生のお手伝いは難しく、休日等を利用し高齢者宅訪問をしている現状である。人員増員した方が良いと思う。
地域の人達と話す場があるといいなと思います。
民生委員・児童委員の周知がされていないように思う。また、委員の活動についても温度差があるように思います。受けたからには前向きに参加して欲しいです。
他県、他市で始まりつつあるサポート民生委員を年ごとの少しの報酬で設置する。
常駐しなくても1ヶ月に1度、集まる（情報交換等の為）部屋の確保できると安定した支援、活動につながるのでは？
現活動への積極的取組
朝霞の民生委員が、存在していることを存じ上げておらず…もうしわけありません

回答内容
民生委員の知名度の圧倒的な欠陥(変な宗教団体と間違えられるなど)

【保護司活動の充実に向けた環境整備】

回答内容
対象者と面接をする際の場所の拡充。
現状仕事をしながらの活動には限界がある。今は定年後も働いている人が多く、なり手不足だと思う。1人のボランティアがいくつものボランティア団体で活動していて、ボランティア疲れしているのでは?
面接の時に自宅以外を使っていきたいと思います。積極的に応援お願いいたします。
対象者との面接場所確保
ある程度のお金を差上げるべきです!!

【その他】

回答内容
町内会の改革
町内会の高齢化を改善したい。
過度な期待はしていない。これはどの機関にも言える。

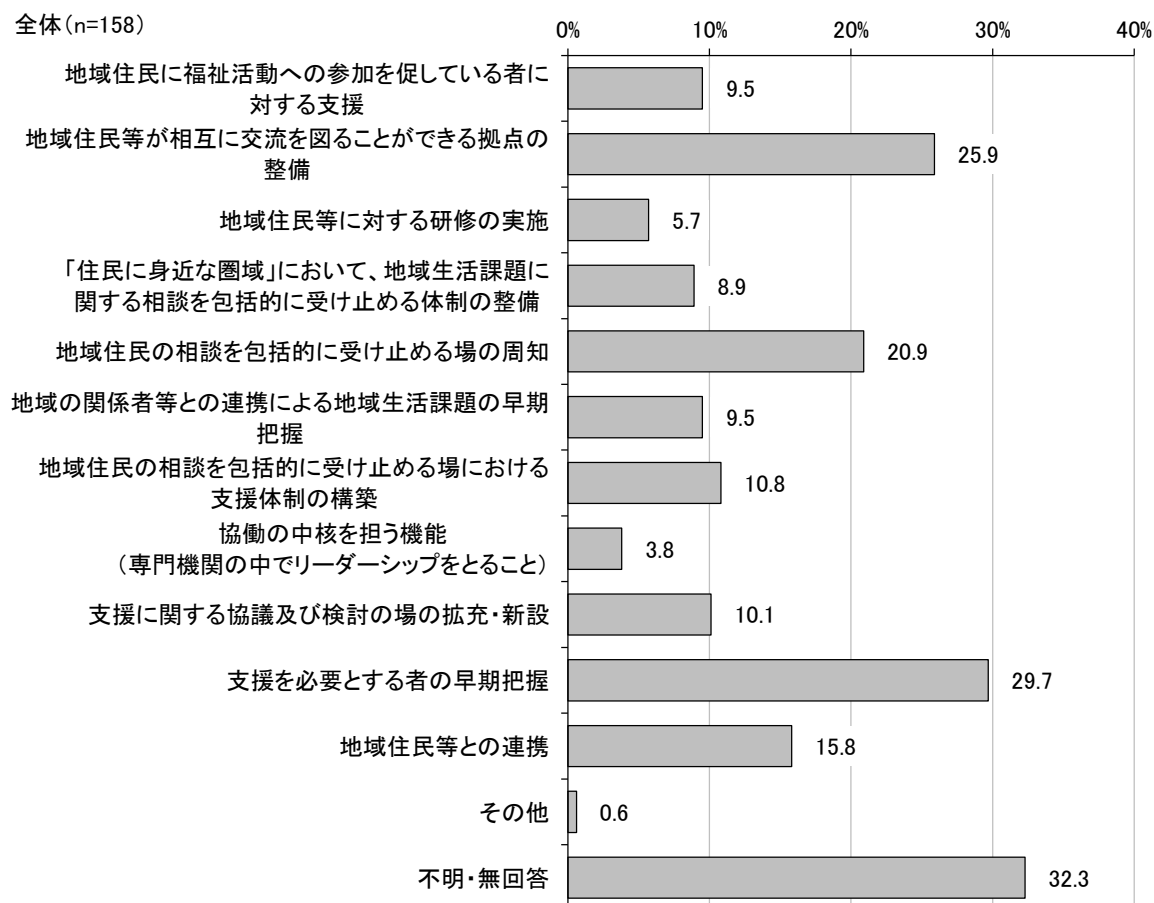
問 17 コロナ禍を経て、地域福祉に関する活動への住民の参加促進に向けて課題となっていることがあれば、お書きください。(自由記述)

回答内容
コロナで外出しない事になれてしまっている姿。
このコロナ禍の4年間はシニアにとって大きな差が出ていると考えています。認知症の方はひどくなっており、死亡した方もいた。
男性の参加、若い人達の参加を呼びかけしています。イベントには参加しますが、一過性に終わり継続させるのは何が必要？
一度リセットされているので、もう一回初めから朝霞市の地域課題の住民間の共有が必要。
活動の住民への周知方法。
コロナで交流を持つ機会が少なくなっていたせいか、以前よりも集まって交流を持つことに積極的な住民の様子が見られる。
まだコロナ終息がみえないので、以前のように活動に消極的である。
活動の幅が狭くなったことにより地域住民への浸透・理解が薄まってしまった。関係性・近所での交流が気薄になってしまった。
声かけが重要だと思います。1歩参加への気持ちを押すことにより参加率も上がると思います。企画の充実。何が興味あるかを知る事が大事でもあります。
以前よりも人と人との集まりが消極的になっている。
コロナ以降、ボランティア団体の会員の参加者が少なくなり近所のお年寄りに声をかけてもなかなか参加してくれません。この先会が自然消滅するのかと懸念しています。
非対面型の活動もあるとよい。
コロナ禍で一時的に交流の機会が減ってしまったが、地域の方々は、周囲とのつながりを意識していると思う。地域懇談会やサロン等、交流の場に定期的に参加されている方だけでなく、情報が行き届いていない単身高齢世帯や若い世代、働いている人達が地域の交流の場に参加しやすい場の提供がまだ不足している様に感じる。
今でも後遺症に苦しむ人もいると思うので、そういう人へのケアなどを行ってほしい。ワクチンを打ったとしても街へいけば移ってしまうこともあるのでかかった後の事後の配慮も大切にしてほしい。
後遺症などもあり、その辺のケアが必要だと思う。
高齢者が増え、トボトボ歩く年配の方が多く目立ちます。少人数での話す場があるといいなあと思います。以前のように家に上ってお茶少なくなりました。
それまで参加できていた高齢者が引きこもりがちとなり、要支援、要介護状態になることが多々見られる。
コロナになり訪問する事がなくなり、人との関わりが出来なくなりました。何う事に遠慮しています。
引きこもりの方（外出しない方）が、安全な様な気持ちがある方もいる。住民参加の意識の低下がある。まだ終息していないので暫くは続くのではと思う。
訪問しづらくなった
中断した行事等の再始動は、思いのほか大変
もう、コロナを気にして集まらない人はいません！！
町内会。都内はなくなってきている。自分の住まいは隣市だが、コロナ禍で活動が減ったため班ごと町内会から脱退した。

回答内容
障害を持っている人と一つの場所に集まるということに、潜在的な不安があるように感じることもある。
コロナ禍の影響を受けた人(外出できなかったことによって認知症になってしまったなど)の救済
コロナ禍の期間は高齢者にとっても、とても影響がありました。今できることを提案、提供して、新しい生活スタイルの中で活動できるように支援していきたい。
研修など全てにおいて顔を合わせての活動が減っている。
感染予防につとめていれば安全安心であることを周知する事
感染症対策が甘いと思います。

問 18 地域共生社会の実現に向けた包括的な支援体制の整備に関する事項として、優先的に取り組むべき事項を選択してください。（3つまで選択）

「支援を必要とする者の早期把握」が 29.7%と最も高く、次いで「地域住民等が相互に交流を図ることができる拠点の整備」が 25.9%、「地域住民の相談を包括的に受け止める場の周知」が 20.9%となっています。



■ 取り組んでいる事例・具体的なアイデア・ご意見（自由記述）

【地域住民に福祉活動への参加を促している者に対する支援】

回答内容
私も老人会に入会してませんが、その様な会に入ると色々話がきけるのではと感じます。
地域住民の福祉活動は高齢者が多く中々世代交代が出来ず、若い人に経済的、時間的等事業者に協力してもらう。
若年層が興味を持てる企画、活動があるとよい。東洋大学の学生とのコラボなどはいかがでしょうか？
「促している者」とは…どなたなのでしょう…

【地域住民等が相互に交流を図ることができる拠点の整備】

回答内容
高齢者がいろいろなスポーツ、ノルディック等で交流をはかっている。お話をすることで生き生きと健康寿命をのばしていることは良いと思う。
週1回のラジオ体操でもコミュニケーションが出来ると思いますが(おしゃべりの中で)。
誰もが参加できるサロンを運営し世代交流の場としています。社協、包括支援センター、こども未来課、障害福祉課、長寿はつらつ課等全て出入り自由。
要支援者も含めた地域住民の交流を図ることができる仕掛け作り。
サロン作り。
地域の方と手芸の会を行っている。
サロン活動を町内住民対象に行っているが、コロナ禍で休会した為、回数も減り、利用する参加者も減った。
近くに公園ができました。現在その公園の更なる整備が行われていますが、今後管理をどのようにしてくださるのか不安です。地域住民の交流の場となるよう安心、安全な公園作りを行っていただきたい。夜間、トイレ、遊具などの管理ができなければ交流の場にはならないと考えます。
若い世代や働いている人で、中々地域福祉の事に目が行かない人達を地域の交流の場への参加を促していく方法があると良い。懇談会だと敬遠してしまうが、清掃、祭りの準備、レク的な企画への参加から色々な世代が交流できると良い。
サロン、ただおしゃべりだけでも良いので、居場所作りが大切、必要と思う。
地域の居場所、認知症カフェを午前 9:00～午後 16:00 迄開催してるいつでも好きな時間に来て語り合う場。
町会行事の開催
拠点は…どこなのでしょう…
住民等が気軽に徒歩 15 分圏内で交流できる場所が整備されると良い。他市や企業など広域に渡り、協力体制をつくることはできないのか。

【地域住民等に対する研修の実施】

回答内容
防災訓練など。
例えば、はあとぴあでやっている様な生活支援員の研修で若い母親・父親等、シルバー。

回答内容
どのような研修を指しているのか、いまひとつピンときません…ぽぽたんのプロフィールを学ぶ！…とか？

【「住民に身近な圏域」において、地域生活課題に関する相談を包括的に受け止める体制の整備】

回答内容
地域住民と行政（関連団体）では認識に違いがある。また、社会福祉協議会の分野が広すぎる。地域のみ にフォーカスして専門性を向上させ包括的な役割は担えないか。
子供食堂等と連携して実施する。話し相手からお困りの相談等と把握する。
福祉に携わっていてお恥ずかしいのですが…体制が、わかりません…

【地域住民の相談を包括的に受け止める場の周知】

回答内容
包括や基幹センターに SNS、ライン等で気軽に相談できるようにするといい。
どこに相談したらよいだろう。というスタートだと、対応が遅くなってしまうと思うので、包括的な相談 窓口の周知は必要だと思う。そしてその窓口が市民の身近にあることが必要だと思う。ネット、広報等様々 な媒体で広く周知し、存在を認識してもらうと良いと思う。
何を相談して良いか、頼っても良いのか悩んでいて、行動出来ず、抱えてしまっている人も少なくない。 困っている事を気軽に相談できる窓口の設置、情報の周知。
そういう場があるということを知らない人もいるので周知させる必要があると思う。方法はさまざまだ と思うので色んな取り組みを行い周知させていく。
もっと相談ができる所があるという事を広める事が必要。
サロンで話していますが。まだまだ知らない人が多い。
地域包括支援センターの存在が大きいと思っています
福祉に携わっていてお恥ずかしいのですが…体制が、わかりません…
困り事を気軽に相談出来る場所があると良いと思います

【地域の関係者等との連携による地域生活課題の早期把握】

回答内容
問 14 の 2. に関連するが、お困りの家庭を訪問する際、お困りごとに応じて、社労士、行政書士などの専 門職と同行できれば、心強い！問題解決への成果も得やすい。
NO. 10、11 と同じに近い。「早期」が重要。
市、社協、関係機関との連携。
「地域の関係者」とは誰をさすのかわからず…更に、その把握って…難しいです。

【地域住民の相談を包括的に受け止める場における支援体制の構築】

回答内容
高齢者、障害者、子供、生活困窮者の各分野の相談員を市役所におく。各相談員が各分野で連絡を図るこ とで支援がスムーズになると思います。
地域包括センターの支援が必要なので一番に相談している。

回答内容
地域包括支援センターのレベル up による専門性を活用した住民支援を行う。又、包括自身、市民の認知度が低いのではないかと。この為、職員自身の努力と、国、県、市が平準化した統一的研修を行い、支援体制の構築を図る。
総合的な相談支援センターの創設。例（明石市社協「福祉まるごと相談」）
まずは、市役所に部署を作る！！

【協働の中核を担う機能（専門機関の中でリーダーシップをとること）】

回答内容
基幹ができるって噂。。。

【支援に関する協議及び検討の場の拡充・新設】

回答内容
本人との交流のなかで生活苦を知り、市とのやり取りの中で生活苦を知り、何度か本人と市の支援を得るため生活保護の申請にこぎつけた。
できるだけ多くの住民を巻き込んでの意見の集積が、とても大事だと思う。まとめる必要はなく住民の欲しい支援を引き出すことをして欲しい。
児童発達に関しては、アサカツで実施していきます

【支援を必要とする者の早期把握】

回答内容
行政と訪問看護の連携を強化してつながりやすく、サポートを充実したい。
このことが一番重要であると思う。話を聞いたなかで早く市、社会福祉協議会と密に取り合い、本人からも良い方法で解決していくことがのぞましい。
包括支援センター、町内会、商店会の情報収集。
ひとり親支援として、シェアハウスや賃貸がスムーズにいく支援があるといい。
地域包括センターとの連絡を密にしている。
地域福祉の活動に関心のある人ばかりでなく、情報弱者とされる人や本来なら福祉のサービスが必要にも関わらず、本人が意識出来ていない例もある。地域の方々が相談しやすい環境の整備が必要。
訪問活動、郵送による照会。
高齢になると一旦体調を崩すと驚く程、悪化が急に進み最悪簡単に亡くなってしまうという事態になるという経験を2度しました。変化の早期把握はとても大事で、油断をしてはいけないと考えて動いている。
アウトリーチ事業の創設。
相談窓口、SNS の DM とか？？？？
生活の悩みを吐露しやすい環境の整備(普段はなかなか人に言いにくいため)

【地域住民等との連携】

回答内容
ご近所さんとの立ち話も必要だと感じている。
普段からあいさつ程度のお付き合いが大事だと思う。
専門職にも参加してもらう。

回答内容
担当地区の自治会の方と面識が無い事に気づきました。災害時等でも協力が必要なので各地区の福祉に携わる横のつながりを持つ場があると良いのでは？
支援している人と無関心な人の温度差が大きくなる。
私個人では住民の方々の情報を得ることは難しく、近所の方々との協力なくしては動けないと思っている。災害も増え大きくなって来ており、高齢化も進み、独居の方も増えてきている現況では、皆も意識を変えて住民同士コミュニケーションをとる必要があると思う。
町内会加入者も減少、高齢化も大きいと思います。何をやっても役員のなり手がいない！
高齢者の訪問活動は月１～２回行ってる。
地域福祉に携わる市の職員を増員して、職員を地域ごとに配置して活動を連携させる役割を担って欲しい。
地域に根付いた場所で、交流会実地

【その他】

回答内容
常時、地域の方への周知が望ましい。（行事やイベント他）

問 19 その他、地域福祉に関して、市・社会福祉協議会へご意見・ご提言等ありましたら
お書きください。(自由記述)

回答内容
密な連携、受けやすい様にサポートしていける様よろしくお願いします。
ばくぜんとしたことへの取り組みを記入することは困難です。今迄、記入出来ることは記入しましたが私の経験のなさがあり深く入り込んで回答、意見は記入出来ません。すみません。最後に、時々アンケートの要望があり協力していますが、結果については全くこないがどうなっているのでしょうか。
地域福祉は皆さん本当によくやっていると思います。同じような研修はまとめてできると良いと思います。いざ、書こうとするとあまり書けませんでした。機会をありがとうございました。
民生委員を引き受けるにあたり、こんな自分に出来るのだろうか、私の思いえがいていた委員とずいぶん違っていた。昔は、それなりの人、今は歳をとっても働いている方が多い。老人のお話を訪ねた時「私も民生委員を引き受けて頂けないか」と相談されたがご自分の父親から「おまえごときに出来る仕事ではない」と言われやめたなど。今は引き受けて下さる方がいない。引き受けてもそれなりに活動されている方が少ない。良かった点は、いずれ私自身も歳をとります。その時に備えての勉強が出来る。老人のお話が参考になる。まだ、こんな老人になりたいと思える人には出会えていないが、出会えたらと思っています。
先日警察の方が自転車でこられて、私は丁度でかける所に出くわし、どうしたのですかと問うと不審車(黒い車)が何時間も止まっていたといってました。どなたかが通報したのですかと聞いても相手は答えてくださらなかった。紙メモを入れておきますと言ってメモを入れていきました。やはりこれも必要ですね！お互いに声掛けを。
空らんの部分が多いのは意味がよくわかりません。もう少し、簡単な言葉で書いた方がよいのでは。
高齢者が定期的に参加できる、もしくは主体的に参加してもらう何かがあるといいと思う。ノルディックウォーキングは成功例だと思うが、目黒川も歩きやすく整備して行って市外からも人が訪れるような場所になれば、街の活性化にもつながると思う。
1日1回家から出る。専門の体操指導者に見守られながら軽い体操をファミレスとかの駐車場を借りてやれたらなと思います(1週間に1回とか)。
聞くだけでなくまず動く事、出向く事だと思う。
具体的なものが無く役に立てず申し訳ありません。情報はとても大切です。相互協力が一番大切だと思っています。
朝霞市は、時代と逆行しているかのように、子ども・児童数が増え、それと共にマンションが増え、ますます核家族化が増し、地域との関わり、子ども会やPTAなどの活動が減っています。時代のニーズに合わせた地域の活動、関わりが求められていると思われます。マルシェ等の充実、公園や緑の多い環境はとても良いと思うので、それを生かし、子育てしやすい街づくりをしていきたいです。子ども食堂や、子育て世代の情報交換の場所づくり、子育てから手が離れた人が手伝える環境づくりを充実させていきたいです。
市も社協も良くやっていると思います。現実には動ける人が不足している現在、高齢者も一段と気をつけて、健康を維持して行かなくては、先行き、暗すぎます。
各問に対して具体的なアイデアを求めています、地域住民の意識がないとできません。意識があっても様々な問題に住民が自覚して行動する事は個人情報の関係もあり難しいです。行政が、市民の中に飛び込んで実態を把握して適切な体制に取り組む事だと思います。

回答内容
町内会、NPOの中には、人材難、資金難なのか、優れた活動をして、実績を上げている団体がある、市・社協は、従来より取組まれていると思うが、より客観的に活動を評価し、実績に応じた補助金などの支給、また必要とされる人材・ボランティアを積極的に紹介し、団体に定着しうようご協力を頂きたい。
市内に障害分野のグループホームを増やしてほしい。社会福祉協議会、同じ分野での異動をすることで、専門性の向上、情報共有がしやすいのではないか？また資格手当などがあると、モチベーションが上がり、離職率が下がるのではないかと？内間木地区の防犯、交通安全に力を入れてほしい。街灯が少ない、歩道が狭い、防犯カメラがなく物騒、大雨時の冠水が多すぎるのに、根本的な改善が見られない。シンボルロード付近ばかりにお金をかけているが、駅から遠い場所には力を入れない。お金は公平に使ってほしい。
他市での地域福祉の取り組みなどを一緒に勉強し朝霞市に取り入れたいですね。他を見る事は大事だと思います。
市、社協が連携を深め、今後も地域の福祉に貢献出来る様努めて行きます。
福祉活動というのはやはり簡単に出来ることではないと思います。忍耐力や体力もつかうことだと思います。もう少し色々な形でそういったことに取り組んでいる人にフォーカスを当てて見てほしいです。現場は思っている以上に日々せわしく、大変なので配慮してほしいです。それも配慮してほしい事業だけでなく、各事業に当たり前のようにやってほしいです。人と人とのつながりは大変なことが多いと思うので。
福祉は知識や理解がないと出来ない。もっと勉強の場を増やしてほしい。
定例会に社会福祉協議会も毎回出席してはいかがでしょうか。
市の役割の明確化。社会福祉協議会の実行力の強化。現場へ出向く機会をつくる（これまで以上に）。市との連携を。※市は県との連携強化を見相もできるので、その強化を望む。
民生委員のなり手不足に大変困ってます。民生委員退職者の代わりがなかなか見つかりません。
金融機関やお寺などとの連携も必要と思います。
自分が今出来る事に取り組んで努力する事に心がけています。
共に生きる社会づくり、お互いに力を合わせ「暮らしつづけたい町朝霞」「朝霞に住んで良かった」まちづくりを市民同士の支え合い助け合い公的な支援サービス協働で目指しましょう。
全体的にバラバラな活動をしている気がします。
毎年、充実に向かっての活動がうかがえます。ありがとうございます。
ゴミ屋敷に対する支援
このアンケート長くてちょっと辛かったです。ろくなことかけなくて、ごめんなさい。
国から県から社会から地域からやらされてやるのではなく、より良い朝霞市を作っていきたいという思いを持って何事もやってほしい。それに対しては全面的に協力する姿勢はある
市が担当すべき案件と民生委員が担当すべき案件を明確に分けてほしい
福祉の事業所が増えているので仕方ありませんが、顔を合わせる場がない。福祉フェスティバルのようなイベントもあったら良い。

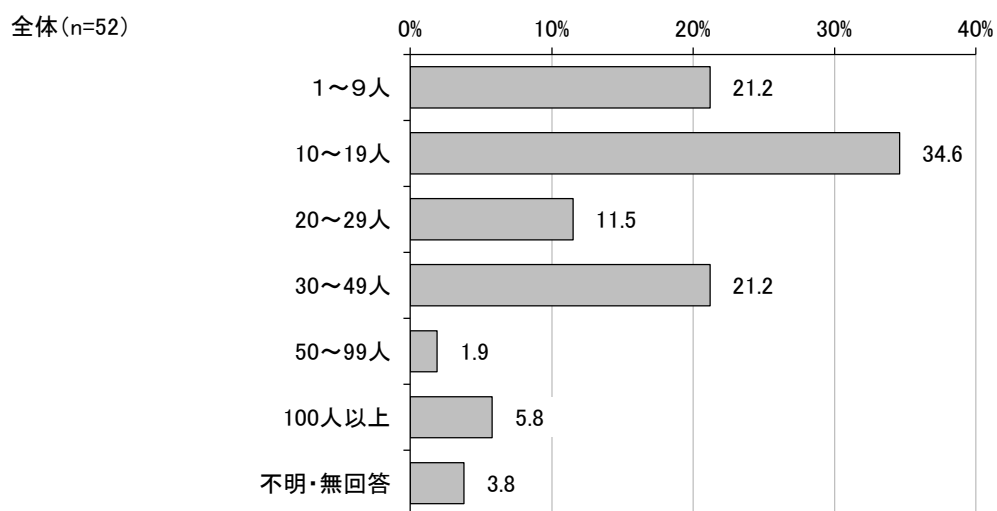
V 団体調査結果

1 団体について

◎ 貴団体の概要についてお書きください。

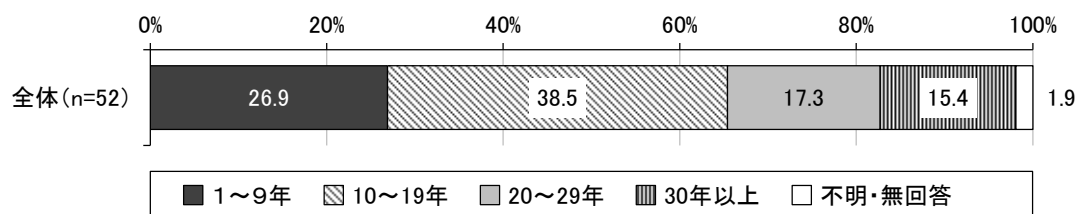
■ 会員数

「10～19人」が34.6%と最も高く、次いで「1～9人」「30～49人」が21.2%となっています。



■ 活動年数

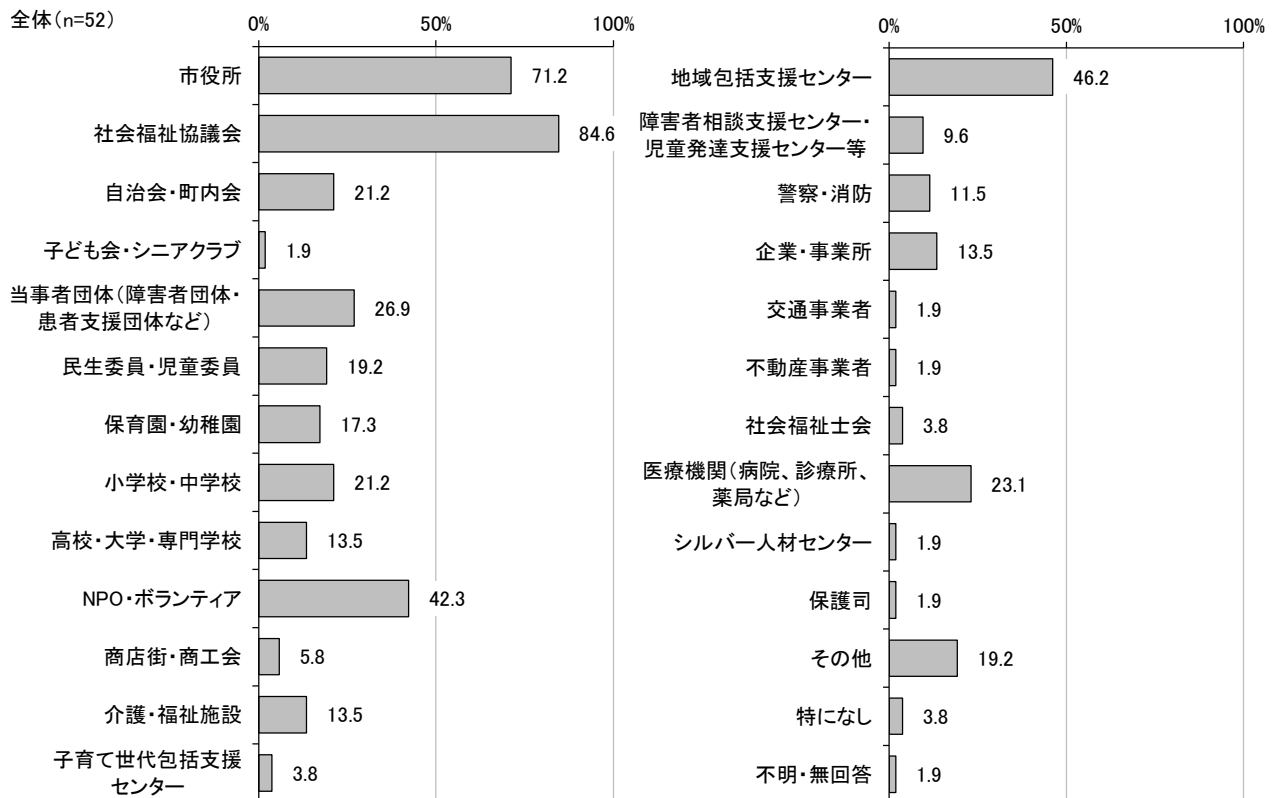
「10～19年」が38.5%と最も高く、次いで「1～9年」が26.9%、「20～29年」が17.3%となっています。



2 団体の活動について

問1 貴団体では、活動を行う上で地域にある他の団体・機関等との交流や連携、協力関係がありますか。(あてはまるものすべてを選択)

「社会福祉協議会」が84.6%と最も高く、次いで「市役所」が71.2%、「地域包括支援センター」が46.2%となっています。



問1で「特になし」以外の方

問1-1 交流や連携、協力関係があると回答した団体・機関等とどのような関係がありますか。(自由記述)

【情報発信、広報活動】

回答内容
情報交換、補助金申請。
情報を提供していただく、意見交換、交流会。

【イベント等への協力、協力依頼】

回答内容
自然観察会、虫取り観察会などへの参加要請対象。
助成金や補助金を頂き、講習会やイベントを開催。又、市民講座等の依頼を頂いている。保育園型ニューボラ事業に講師として依頼して頂いている。
学習会、コミュニティカフェの後援、講師の依頼、地域包括支援センター運営協議委員、コミュニティあさかの参加するあさかいいききネットワークに参加、自分が社会福祉会に入会など。

回答内容
手話講習会、手話通訳者派遣等。
出張教室の実施。ウォーキング大会等のイベントにおける協力、連携。後援、共賛等。
相互に参加したり、情報共有、行事開催協力。
講座、講演などを不定期ですがやっています。
チラシの設置や掲出、食糧支援、見学の受け入れや研修会での講話。
講話の依頼、経済支援。

【連携先（とその内容）】

回答内容
市役所による出前講座、他団体の代表・会員に講師依頼他。
地域包括支援センターからは時々、見守りや情報を寄せてくれます。社会福祉協議会とは、ボランティア団体登録しご指導いただいています。医療生協さいたまより、講師派遣などしていただいています。
社協に活動等紹介していただいています。補助金をいただいています。
1,2→補助金の受領。24→協同事業開催。
各課題事項別に問い合わせや活動に参加して頂いております(特に地域包括支援センターモーニングパーク)。
市役所-広報誌の音声化の依頼、イベントの後援等、当事者、NP0-視覚障害者をサポートする方々と協力してイベントなど。
情報交換、地域包括支援センターの民生委員。サロン等のたちあげでは、社会福祉協議会。団地管理室。
サロン未来館からの相談があれば関係機関に連絡し場合によっては情報共有し、見守る。
市役所、場所の提供。社会福祉協議会、助成金をいただいている。民生委員、ボランティアスタッフとして協力してもらっている。地域包括支援センター、いろいろアドバイスをもらっている。
社会福祉協議会とはこれからあると思います。市とのやりとりは、公園の整備でコミュニケーションをとったぐらい。
朝霞市みどり公園(運営協議会参加団体代表との情報交換)など。朝霞市立中学校美術部員作品展での協力など。社協とは、学童、児童館などとも育開催の情報発信を支援いただいている。元気きつず、さくらんぼ保育室には園児の作品を展示するなど密に連携をしている。東洋大学ボランティア部の方と情報共有とコラボ相談。朝霞警察と交通安全のアナウンスのためのグッズ提供(とも育イベントにて)。秋田の農家からの食料(無農薬)食育の提案など。
弊会の宣伝(1,2,10,14)。講演会時の講師(21)。定例会時の参加(10,14)。
市役所や地元企業とのコラボ企画の開催。
市役所の福祉課と連絡を取り当事者や家族の相談を受けている。補助金を活動の一部としている。
朝霞市とは災害協定を定結し、発災時には情報収集、非常通信、ボランティアセンター協力等を行う。
2. 歳末援護金等活動費を活用させてもらっています。5. 21. 県内の他地域の親の会との交流会(県立小児医療センターで開催)。9. 立教大学ボランティアサークルの学生さんに、イベント時の保育をお手伝いしていただくことがあります。12. 15. 21. 療育施設や病院の先生方に講師になっていただき、子育てについてや歯科講習、OT(作業療法)ST(言語療法)などの勉強会を開催。24 地域の(ダウン症児)情報提供、情報共有。
地域包括支援センター、介護度の低い方の紹介。

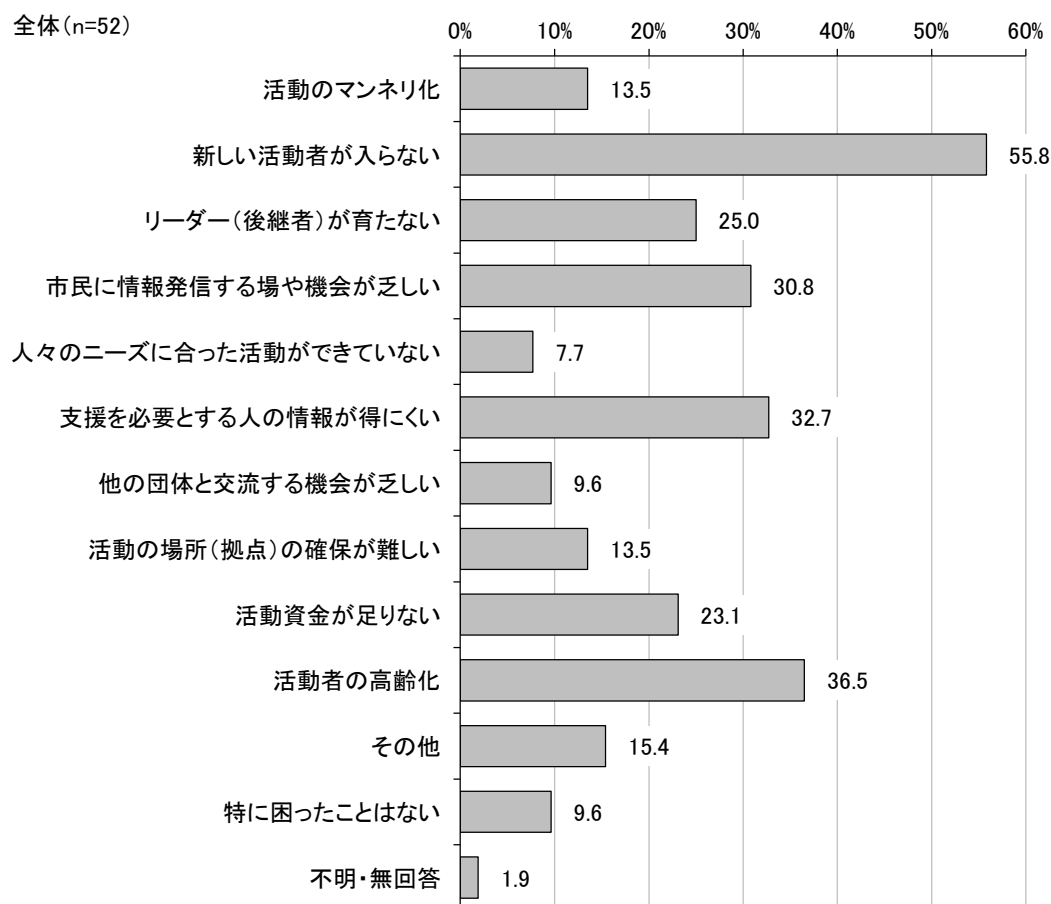
回答内容
1：委託窓口、ゴミ回収、他 2：保険
1.お互いに持てる物、人との協力。2.包括支援センターとは高齢者スマホ教室などでズーム対応などお世話になった。3.活動に通所者を紹介して頂いた。4.通所者の安否確認に協力して頂いた。5.小学校で国際協力交流に協働で授業をしたり昔遊びを教えたり世代間交流。
朝霞市の福祉の事業を通じて、病院のリハビリ科の先生により、介護予防体操などを指導してもらった。詐欺防止の講座をお願いした。
包括支援センターの方に、月に1度来ていただき、最近の状況や気をつけて行くことなど、困り事など相談させてもらっています。
行事を実施する際に必要に応じて相談に行ったりしています。生活ホームでは口腔ケアに力を入れているので毎月歯科に通院実施と課の歯科衛生士会と契約してケアをしてもらっています。
1.市役所～放課後こども教室の実施等。2.社会福祉協議会～補助金申請等。10.NPO ボランティア 13.子育て世代包括支援センター、他団体とネットワークを組み活動を実施。
①プレーパークの委託を受けている。②活動のための助成金。⑦⑧親または子のもめ事などを学校と連携。⑨東洋大の学生と遊び場を作る。
町内会会場借用、地域包括支援センター、包括支援センターのお知らせの案内、脳トレの資料の配布、社会福祉協議会助成金交付、地域情報勉強会等。
市役所の生涯学習ボランティアは5年講師を行う。福祉協議会は依頼を受けて演奏に行っている。病院から打診はあったがその後向こうの都合で取りやめになったらしい。ひいらぎの里からも打診あったが、その後会場のクーラーが壊れ依頼取り消しになった。

【その他】

回答内容
会員募集の補助。
自治会等、サロンに対し全面的に声掛け応援して頂いている。地域包括(朝光苑)相談頂いている。団地内での活動で、他地域との交流なし。
公民館の部屋予約。参加者募集、連絡。支援センターからのお知らせ、告知。
ポスター掲示、情報公開、場所の貸出。
年金者組合の会員です。川柳の仲間。
大半はボランティア活動を行っている場所です。
法人だけでなく、運営している地活が交流等をしている所もある。

問2 貴団体が活動を行う上で困っていることはどのようなことですか。
(あてはまるものすべてを選択)

「新しい活動者が入らない」が55.8%と最も高く、次いで「活動者の高齢化」が36.5%、「支援を必要とする人の情報が得にくい」が32.7%となっています。



〈活動年数別クロス〉

活動年数別にみると、1～9年では「新しい活動者が入らない」、10～19年では「新しい活動者が入らない」「活動者の高齢化」が最も高くなっています。

単位: %		活動のマンネリ化	新しい活動者が入らない	リーダー(後継者)が育たない	市民に情報発信する場や機会が乏しい	人々のニーズに合った活動ができていない	支援を必要とする人の情報が得にくい	他の団体と交流する機会が乏しい	活動の場所(拠点)の確保が難しい	活動資金が足りない	活動者の高齢化	その他	特に困ったことはない	不明・無回答
全体(n=52)		13.5	55.8	25.0	30.8	7.7	32.7	9.6	13.5	23.1	36.5	15.4	9.6	1.9
活動年数別	1～9年(n=14)	14.3	42.9	14.3	35.7	21.4	35.7	7.1	14.3	21.4	21.4	21.4	7.1	7.1
	10～19年(n=20)	10.0	55.0	35.0	25.0	5.0	30.0	10.0	15.0	15.0	55.0	10.0	10.0	0.0
	20～29年(n=9)	22.2	66.7	22.2	22.2	0.0	22.2	11.1	0.0	33.3	22.2	11.1	22.2	0.0
	30年以上(n=8)	12.5	75.0	25.0	50.0	0.0	50.0	12.5	25.0	25.0	37.5	25.0	0.0	0.0

問2で「特に困ったことはない」以外の方

問2-1 問2で挙げた課題を解決するためには何が必要だと感じますか。(自由記述)

【情報発信、広報活動】

回答内容
市民に今以上に周知してもらい会員を増やす。特に若い世代に周知してもらう。
情報交換の場、情報発信の一本化。
募集チラシの配布。
活動のPR、特に若い人への周知活動、SNSの活用など。
高齢化でリーダー不足なので口コミで若い方をおさそいしている。
公報あさかに、地域活動団体の共同チラシの折り込み。幅広い地域の連携、社協の設置。WEB上の地域活動団体共有ページやSNS。駅など認知の高い場所での掲示。
活動内容の周知、広報。個人情報保護のためだと理解はしているが、困っている当事者につながるがむずかしい。
こどもや家庭にチラシを配布したい。
4と6について。案内やチラシを願っているが、置いておくだけではダメで、口こみや手渡しでもっと良さをアピールすることが必要。
親の会の存在や活動内容を広く周知していく。市役所のHPや掲示板のりようなど。新生児については、保健師さんとのつながりを密にして、乳幼児・児童期のお子様については療育施設や小中学校(支援級・支援学校)とのつながりを密にして、団体の存在をお知らせしてもらう。魅力のある活動を企画開催する。退会者については、通院・仕事・家族の介護などやむを得ない理由もありますので仕方ないですが、特に成人期になると、会に在籍するメリットが少なく感じられるのではないかと?大人になっても楽しめる企画を考えると共に、OB・OGという形での接点はつないでいたいと思います。
NP0法人だから自助努力は言うまでもないが、ミニデイのエアコン等の設備費の助成があると良い。ミニデイを会場にする事業も広報に載せて欲しい。
活動内容についての広報活動。障害福祉課においての橋渡し。
自力で各方面に発信できれば良いのですが、会員が高齢化しているので無理。若い活力あふれた人材が入ればと思います。
広報面の充実化。
福祉協議会、町内会の広報でのPR。

【資金援助、バックアップ】

回答内容
潤沢な資金、活動場所の確保。
資金の積極的なサポート。
補助金
朝霞市の小さなボランティア団体に対するバックアップが足りていない。大きな団体ばかりに注力している。
行政のボランティア活動への理解不足。ボランティア団体の活動をしやすいするための支援、人、資金の予算増やすこと。ボランティア団体を紹介する機会がない。

回答内容
NP0 法人だから自助努力は言うまでもないが、ミニデイのエアコン等の設備費の助成があると良い。ミニデイを会場にする事業も広報に載せて欲しい。
助成金があればうれしい。
民生委員や学校、こども未来課などと連携をしていくことなのかと思います。助成金の申請のみでは限界を感じている。子ども、親ともう少し活動日数を増やし、見守るための予算をつけてほしい。こども未来課へはたらきかけ、企業との連携。

【活動場所の確保】

回答内容
公民館に準ずる気軽に活動できる場所を増やしていきたい。
活動場所、日時が一定ではない為、支援が途切れてしまう。自治体から業務委託という形で、一定の場所一定の時間に活動ができれば参加者のハードルが下がると考えている。
潤沢な資金、活動場所の確保。
活動場所が土日祭日も利用できたなら、近所の方にも知っていただけるのではないのでしょうか。

【その他】

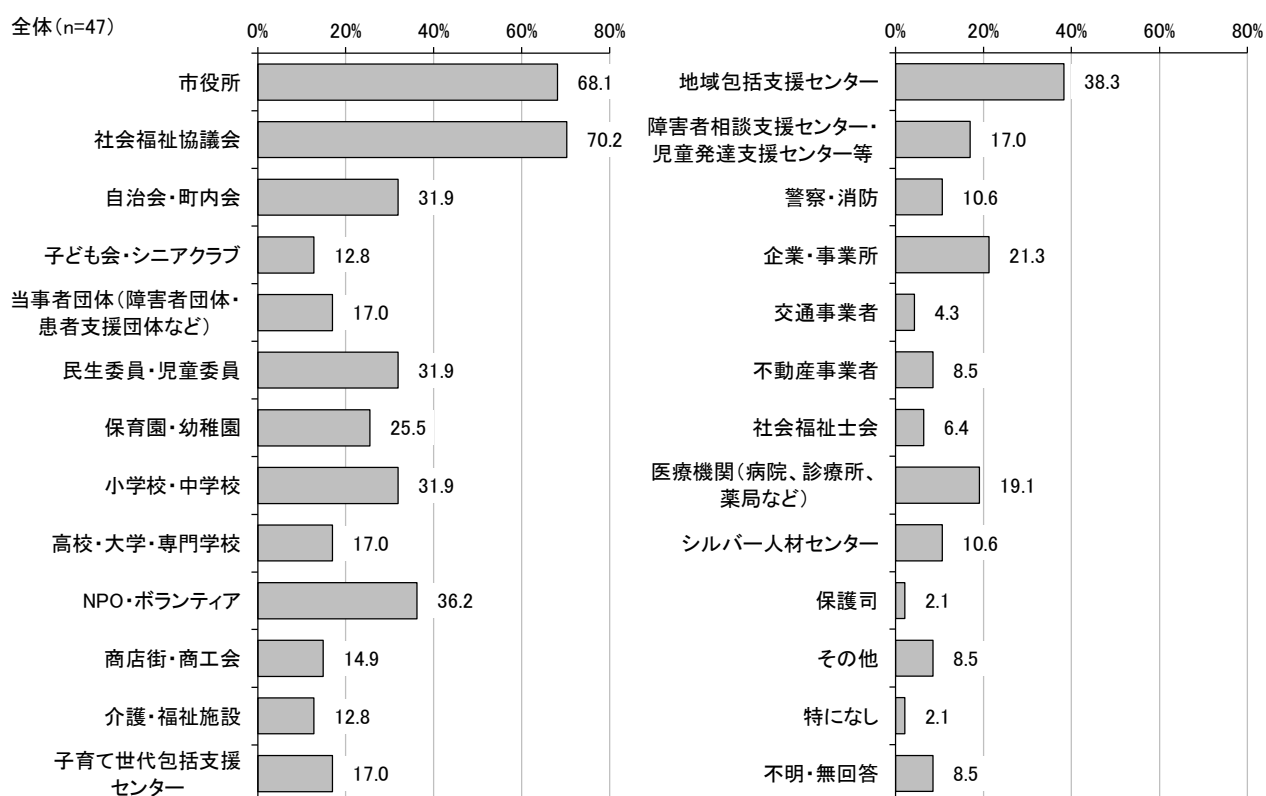
回答内容
活動内容が身近に感じられない。
活動といっても日頃の自分のための活動しかしていません。活動(運動のあとで)薬のみ忘れるぐらい元気になってほしいと思っています。
何回かお願いにうかがっていますが、保健センターの乳児健診の際に、はみがき指導と同じように寄りたい人が寄れる、長机に座らせていただけたら、健診に来た外国人親子の人たちに、ばんびーの存在を知っていただけたと思っています。つながりができれば、困っている時に手をさしのべることができるので、ありがたいです。
手話普及のための講習会(通訳育成の講習会とは別に開催)。
居住者が高齢化しすぎているので大変です。動いている役員も高齢化です。次の代に移れない。
民生委員、児童委員が活動しているがこれから民生委員のなりてがない。
自然消滅寸前。
本当に困っている人々ととどけること。そしてその人々が何をもめているのかを知ること。
理解をしてもらう機会がない。行政との連携が少ない。
うらの会が24年も続いており、住民の中に気軽に参加できる様な雰囲気作りがもっと必要なのではないかな。
当事者との新たな出会いの場を作りたい。
重度知的障害者を持つ子供と共に生活している中での限られた時間での活動なので、行政や理解をしてくださる市民の皆様に協力をしていただき、一緒に活動してほしい。手伝うという感じで。
問2で選択したものが多岐にわたっている為、一言では回答しにくいですが、例えば20代~50代の現役世代の力を借りて、解決の糸口を見つける場を作る。その為のノウハウは民間企業のアイデアも借りる。庁内、社協内の担当以外の20代~50代の職員も参画する、とにかく高齢者ばかりでは先に進まない。

回答内容
利用者が亡くなったり施設に入ったりして、人数が少なくなっている。掲示板に募集のチラシをはったりしているが。
新しいメンバーの加入。

問2で「特に困ったことはない」以外の方

問2-2 問2で挙げた課題を解決するために、どのような機関・団体と連携したいですか。
(あてはまるものすべてを選択)

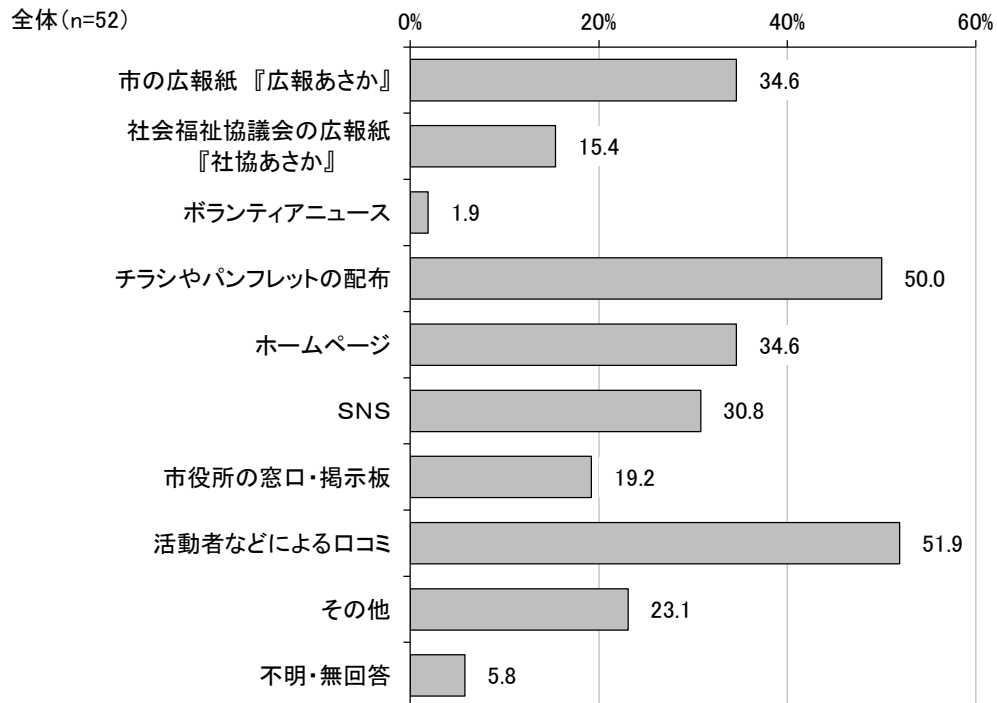
「社会福祉協議会」が70.2%と最も高く、次いで「市役所」が68.1%、「地域包括支援センター」が38.3%となっています。



問3 貴団体では、団体の活動情報をどのように発信していますか。

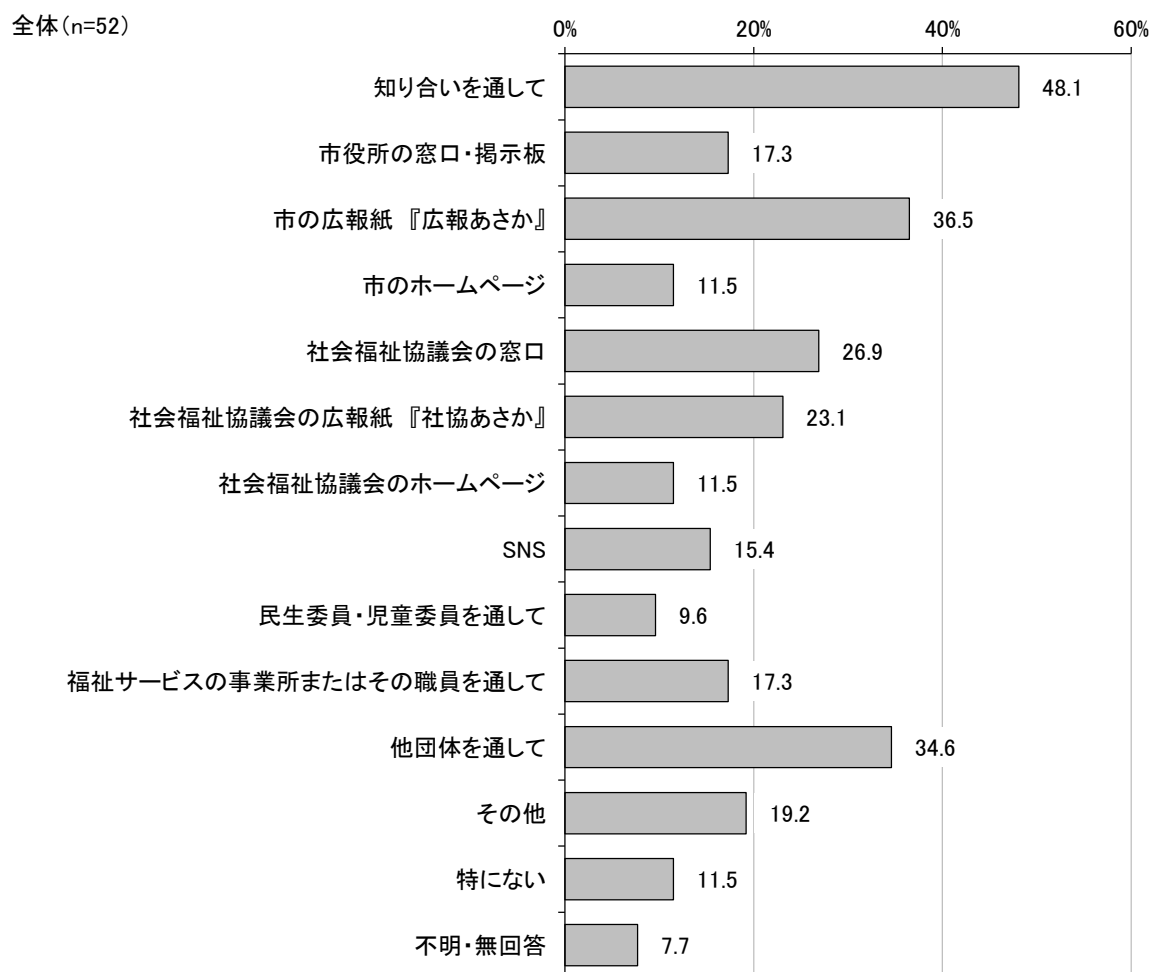
(あてはまるものすべてを選択)

「活動者などによる口コミ」が51.9%と最も高く、次いで「チラシやパンフレットの配布」が50.0%、「市の広報紙『広報あさか』」「ホームページ」が34.6%となっています。



問4 貴団体では、団体の活動に必要な情報を主にどこから入手していますか。
(あてはまるものすべてを選択)

「知り合いを通して」が48.1%と最も高く、次いで「市の広報紙『広報あさか』」が36.5%、「他団体を通して」が34.6%となっています。



〈活動年数別クロス〉

活動年数別にみると、1～9年では「知り合いを通して」「他団体を通して」、10～19年では「知り合いを通して」が最も高くなっています。

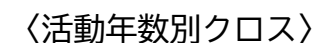
単位: %		知り合いを通して	市役所の窓口・掲示板	市の広報紙『広報あさか』	市のホームページ	社会福祉協議会の窓口	社会福祉協議会の広報紙『社協あさか』	社会福祉協議会のホームページ	S N S	民生委員・児童委員を通して	福祉サービスの事業所またはその職員を通して	他団体を通して	その他	特にない	不明・無回答
全体 (n=52)		48.1	17.3	36.5	11.5	26.9	23.1	11.5	15.4	9.6	17.3	34.6	19.2	11.5	7.7
活動年数別	1～9年 (n=14)	50.0	14.3	14.3	7.1	35.7	14.3	7.1	28.6	0.0	7.1	50.0	21.4	7.1	7.1
	10～19年 (n=20)	55.0	15.0	50.0	20.0	25.0	30.0	10.0	10.0	20.0	25.0	45.0	15.0	15.0	5.0
	20～29年 (n=9)	33.3	33.3	33.3	11.1	22.2	11.1	11.1	11.1	0.0	22.2	0.0	11.1	22.2	11.1
	30年以上 (n=8)	37.5	12.5	50.0	0.0	25.0	37.5	25.0	12.5	12.5	12.5	25.0	25.0	0.0	12.5

〈活動上の困り事別クロス〉

活動上の困り事別にみると、「新しい活動者が入らない」「支援を必要とする人の情報が得にくい」では「知り合いを通して」、「リーダー（後継者）が育たない」「市民に情報発信する場や機会が乏しい」「活動者の高齢化」では「市の広報紙『広報あさか』」、「活動資金が足りない」では「知り合いを通して」「他団体を通して」が最も高くなっています。

単位：％		知り 合い を 通 し て	市 役 所 の 窓 口・ 掲 示 板	市 の 広 報 紙 『 公 報 あ さ か 』	市 の ホ ー ム ペ ー ジ	窓 口 社 会 福 祉 協 議 会 の	広 報 紙 『 公 報 あ さ か 』 社 協 議 会 の	ホ ー ム ペ ー ジ 社 会 福 祉 協 議 会 の	S N S	民 生 委 員・ 児 童 委 員 を 通 し て	福 祉 サ ー ビ ス の 職 事 を 通 し て	他 団 体 を 通 し て	そ の 他	特 に な い	不 明・ 無 回 答
全体 (n=52)		48.1	17.3	36.5	11.5	26.9	23.1	11.5	15.4	9.6	17.3	34.6	19.2	11.5	7.7
活動上の 困り 事別	活動のマンネリ化 (n=7)	57.1	42.9	28.6	0.0	0.0	28.6	0.0	0.0	0.0	14.3	14.3	28.6	0.0	14.3
	新しい活動者が入らない (n=29)	48.3	24.1	44.8	10.3	27.6	27.6	17.2	13.8	3.4	13.8	24.1	17.2	3.4	3.4
	リーダー（後継者）が育たない (n=13)	38.5	23.1	53.8	15.4	30.8	38.5	15.4	15.4	15.4	15.4	30.8	23.1	7.7	7.7
	市民に情報発信する場や機会が乏しい (n=16)	50.0	31.3	56.3	25.0	25.0	12.5	12.5	25.0	6.3	25.0	50.0	12.5	6.3	0.0
	人々のニーズに合った活動ができていない (n=4)	50.0	50.0	25.0	25.0	50.0	0.0	0.0	25.0	25.0	0.0	50.0	25.0	0.0	0.0
	支援を必要とする人の情報が得にくい (n=17)	64.7	23.5	41.2	11.8	35.3	23.5	11.8	23.5	17.6	23.5	58.8	17.6	0.0	0.0
	他の団体と交流する機会が乏しい (n=5)	60.0	40.0	60.0	0.0	40.0	40.0	0.0	20.0	20.0	40.0	40.0	20.0	0.0	0.0
	活動の場所（拠点）の確保が難しい (n=7)	14.3	14.3	42.9	14.3	14.3	14.3	14.3	42.9	0.0	14.3	14.3	28.6	14.3	14.3
	活動資金が足りない (n=12)	58.3	25.0	50.0	8.3	33.3	8.3	0.0	33.3	25.0	25.0	58.3	33.3	8.3	0.0
	活動者の高齢化 (n=19)	36.8	21.1	42.1	15.8	36.8	26.3	15.8	0.0	10.5	10.5	21.1	21.1	10.5	10.5
	その他 (n=8)	62.5	12.5	25.0	25.0	37.5	25.0	25.0	37.5	12.5	0.0	87.5	37.5	0.0	0.0
	特に困ったことはない (n=5)	40.0	20.0	40.0	20.0	20.0	60.0	20.0	0.0	20.0	40.0	20.0	0.0	40.0	0.0

「単発で良いので気軽に参加してほしい」が44.2%と最も高く、次いで「活動の内容によっては、単発で参加してもらうものがあるのも良い」が30.8%、「固定の活動者での活動しか行えないため、そのような形は難しい」が9.6%となっています。



活動年数別にみると、1～9年では「活動の内容によっては、単発で参加してもらっても良い」、10～19年では「単発で良いので気軽に参加してほしい」が最も高くなっています。

単位：%		う か 行 定 の が 単 活 動 の 加 し て ほ し い の で 気 軽 に 参	そ の 他	不 明 ・ 無 回 答		
全体 (n=52)		9.6	30.8	44.2	5.8	9.6
活 動 年 数 別	1～9年 (n=14)	14.3	42.9	35.7	0.0	7.1
	10～19年 (n=20)	5.0	5.0	70.0	10.0	10.0
	20～29年 (n=9)	0.0	33.3	33.3	11.1	22.2
	30年以上 (n=8)	25.0	62.5	12.5	0.0	0.0

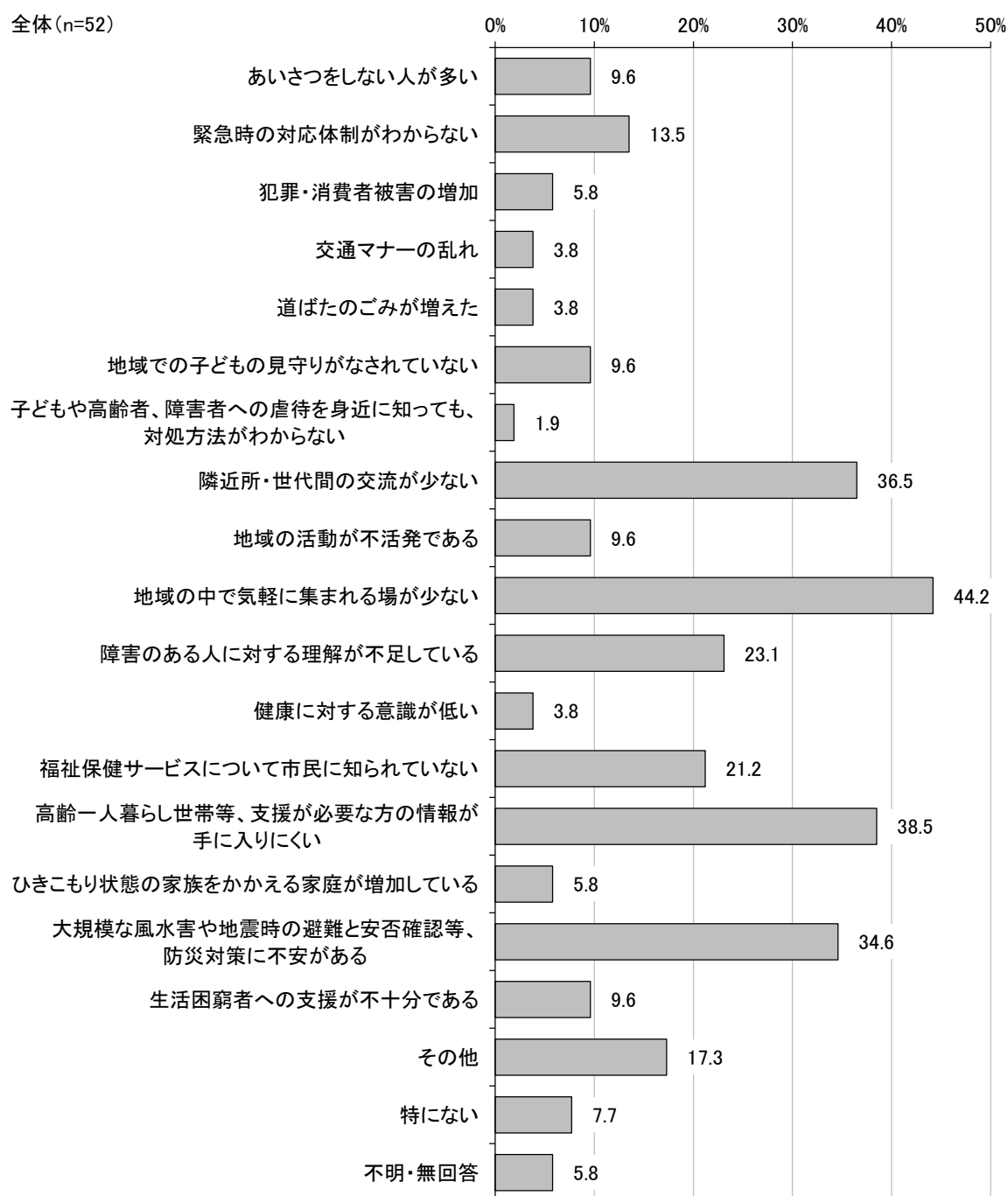
活動上の困り事別にみると、〔新しい活動者が入らない〕〔リーダー（後継者）が育たない〕〔支援を必要とする人の情報が得にくい〕〔活動資金が足りない〕〔活動者の高齢化〕では「単発で良いので気軽に参加してほしい」、〔市民に情報発信する場や機会が乏しい〕では「活動の内容によっては、単発で参加してもらうものがあるのも良い」が最も高くなっています。

単位：%		うか固の単活加単 な行定の発動発 形えのがあでの はな活のあ参 難いた者も加 しため、の良 、そ活い の動 よし	30.8	44.2	5.8	9.6
全体 (n=52)		9.6	30.8	44.2	5.8	9.6
活動上の困り事別	活動のマンネリ化 (n=7)	0.0	28.6	42.9	14.3	14.3
	新しい活動者が入らない (n=29)	10.3	31.0	44.8	3.4	10.3
	リーダー（後継者）が育たない (n=13)	15.4	23.1	38.5	15.4	7.7
	市民に情報発信する場や機会が乏しい (n=16)	0.0	50.0	43.8	6.3	0.0
	人々のニーズに合った活動ができていない (n=4)	0.0	75.0	25.0	0.0	0.0
	支援を必要とする人の情報が得にくい (n=17)	5.9	29.4	52.9	11.8	0.0
	他の団体と交流する機会が乏しい (n=5)	0.0	20.0	80.0	0.0	0.0
	活動の場所（拠点）の確保が難しい (n=7)	0.0	57.1	42.9	0.0	0.0
	活動資金が足りない (n=12)	8.3	25.0	58.3	8.3	0.0
	活動者の高齢化 (n=19)	10.5	15.8	47.4	10.5	15.8
	その他 (n=8)	12.5	50.0	37.5	0.0	0.0
	特に困ったことはない (n=5)	40.0	0.0	40.0	0.0	20.0

3 地域の課題について

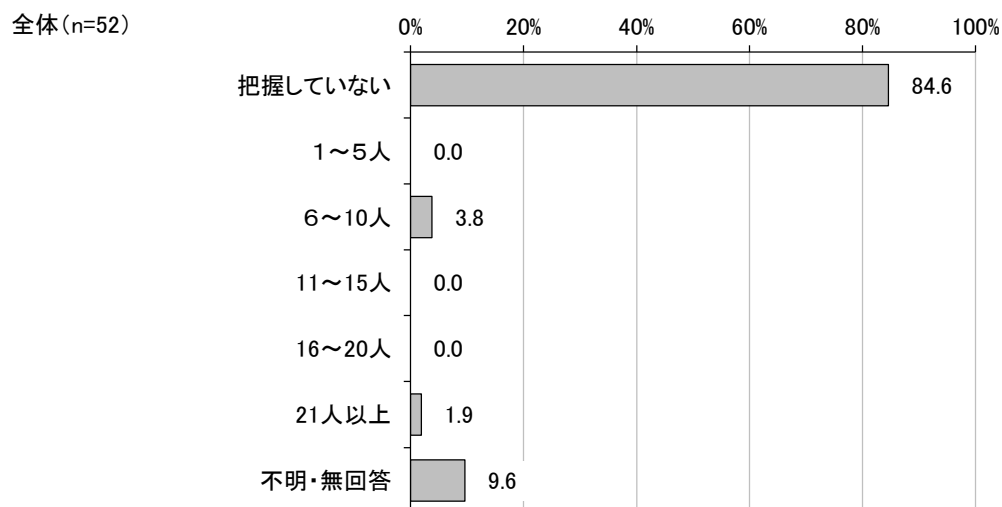
問6 貴団体の活動を通じて感じる、地域の問題点や課題はどのようなものですか。
(あてはまるものすべてを選択)

「地域の中で気軽に集まれる場が少ない」が44.2%と最も高く、次いで「高齢一人暮らし世帯等、支援が必要な方の情報が手に入りにくい」が38.5%、「隣近所・世代間の交流が少ない」が36.5%となっています。



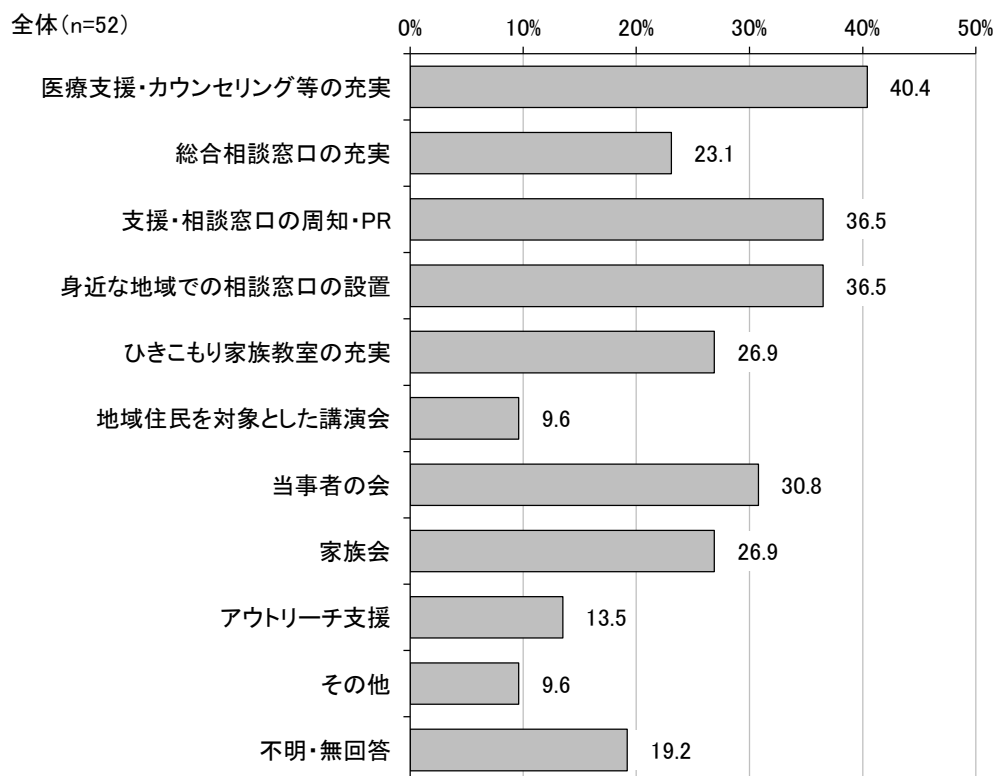
問7 貴団体の活動地域に、ひきこもり状態に該当する方をどれくらい把握していますか。
(1つを選択)

「把握していない」が84.6%と最も高く、次いで「6～10人」が3.8%、「21人以上」が1.9%となっています。



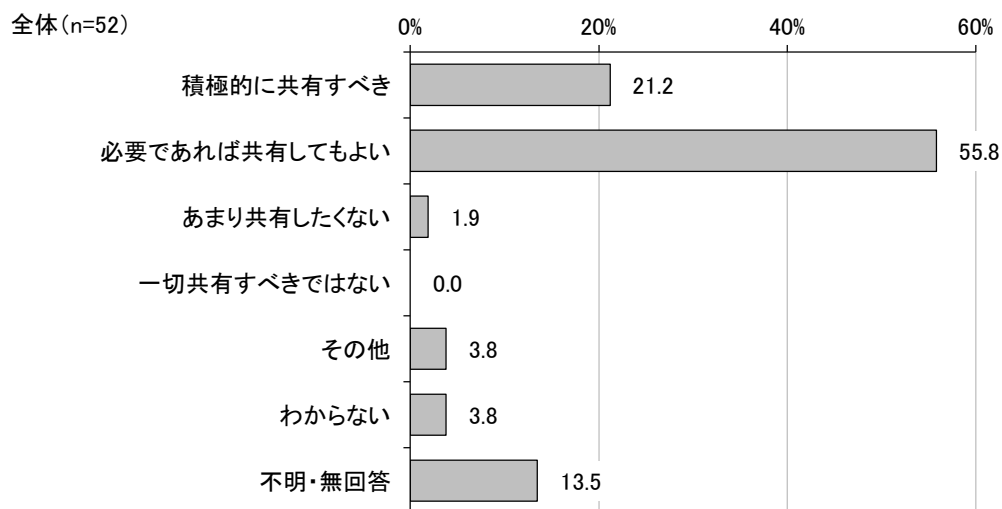
問8 ひきこもりの人への支援に関して、どのような支援があればよいと思いますか。
(あてはまるものすべてを選択)

「医療支援・カウンセリング等の充実」が40.4%と最も高く、次いで「支援・相談窓口の周知・PR」「身近な地域での相談窓口の設置」が36.5%となっています。



問9 貴団体では、地域での支え合いや孤独死・孤立死の防止等のために、支援者が必要な個人情報を共有することについてどのように思いますか。(1つを選択)

「必要であれば共有してもよい」が55.8%と最も高く、次いで「積極的に共有すべき」が21.2%、「わからない」が3.8%となっています。



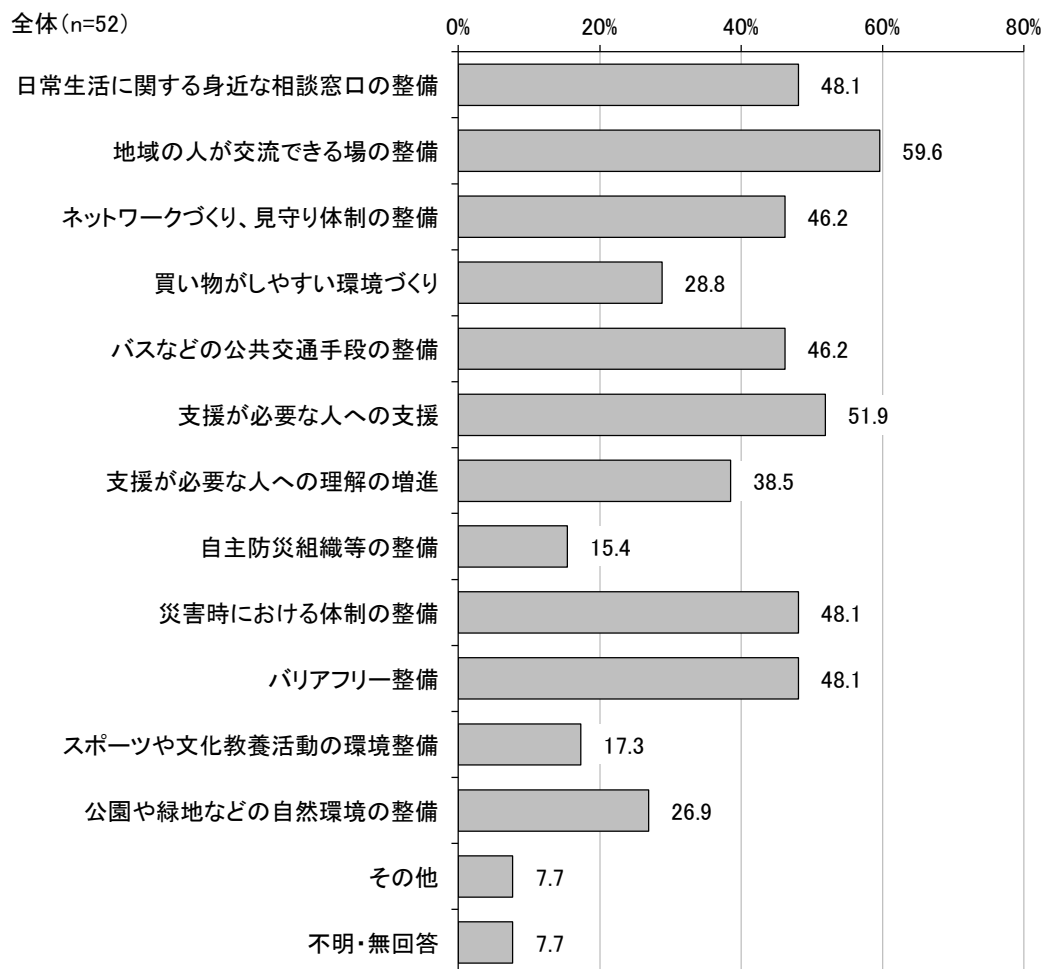
〈活動上の困り事別クロス〉

活動上の困り事別にみると、〔新しい活動者が入らない〕〔リーダー（後継者）が育たない〕〔市民に情報発信する場や機会が乏しい〕〔支援を必要とする人の情報が得にくい〕〔活動資金が足りない〕〔活動者の高齢化〕では「必要であれば共有してもよい」が最も高くなっています。

単位：％		積極的に共有すべき	よい必要であれば共有しても	あまり共有したくない	一切共有すべきではない	その他	わからない	不明・無回答
全体 (n=52)		21.2	55.8	1.9	0.0	3.8	3.8	13.5
活動上の困り事別	活動のマンネリ化 (n=7)	28.6	57.1	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3
	新しい活動者が入らない (n=29)	13.8	65.5	3.4	0.0	3.4	0.0	13.8
	リーダー（後継者）が育たない (n=13)	0.0	76.9	7.7	0.0	0.0	0.0	15.4
	市民に情報発信する場や機会が乏しい (n=16)	18.8	62.5	0.0	0.0	12.5	0.0	6.3
	人々のニーズに合った活動ができていない (n=4)	50.0	25.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0
	支援を必要とする人の情報が得にくい (n=17)	17.6	70.6	0.0	0.0	5.9	0.0	5.9
	他の団体と交流する機会が乏しい (n=5)	20.0	80.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	活動の場所（拠点）の確保が難しい (n=7)	14.3	42.9	0.0	0.0	0.0	14.3	28.6
	活動資金が足りない (n=12)	25.0	50.0	8.3	0.0	8.3	0.0	8.3
	活動者の高齢化 (n=19)	0.0	78.9	5.3	0.0	0.0	0.0	15.8
	その他 (n=8)	12.5	62.5	0.0	0.0	12.5	0.0	12.5
	特に困ったことはない (n=5)	60.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0

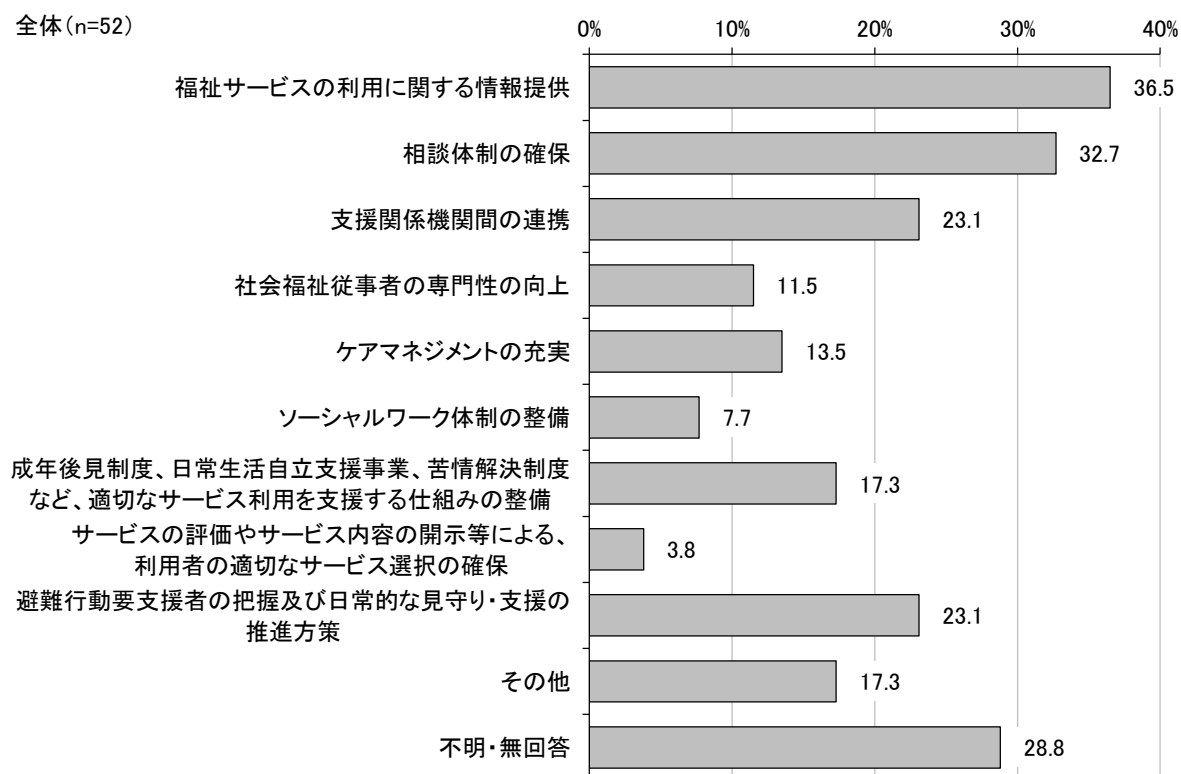
問 10 すべての市民が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるためには、どのようなことが必要だと考えますか。(あてはまるものすべてを選択)

「地域の人が交流できる場の整備」が 59.6%と最も高く、次いで「支援が必要な人への支援」が 51.9%、「日常生活に関する身近な相談窓口の整備」「災害時における体制の整備」「バリアフリー整備」が 48.1%となっています。



問11 地域における福祉サービスの適切な利用の促進のために優先的に取り組むべき事項を選択してください。（3つまで選択）

「福祉サービスの利用に関する情報提供」が36.5%と最も高く、次いで「相談体制の確保」が32.7%、「支援関係機関間の連携」「避難行動要支援者の把握及び日常的な見守り・支援の推進方策」が23.1%となっています。



■ 取り組み可能な具体的なアイデア・ご意見（自由記述）

【福祉サービスの利用に関する情報提供】

回答内容
個人、施設などに訪問時、小冊子などの配布。
SNS や LINE(公式)を通しての情報提供、LINE チャットグループを作成し、気軽に市民が質問できるようにする。
どのような福祉サービスが受けられるのかわからない人がほとんどでは。利用した本人などの話や利用方法などを広報などのコラムに掲載しては。
チラシを回覧板で流す。
例えば、不登校をかかえる親のカウンセリングや学校の環境を整える。
いくら家族が介護サービスを利用すると言っても拒絶する人が一定数いる。本人に聞き取り調査に来てもらって希望を聞いて、半日からでもサービスを受けることを義務化してほしい。
広報に具体的な掲載スペースの確保を申し入れる。
定期的に市民向けに情報を伝える会を設定してほしい。
ボランティアで、脳トレなど必要。

回答内容
会員が利用しているサービスを把握して、不都合なものへの改善をする。
地域の人たちが交流できる無償の場所、自転車や歩行者が安全に通れる道路を整備。公園をもっと増やしてほしい。
多くの人が気軽に訪れられる場が必要。公民館に登録した団体のみ使用できる場以外は誰でも訪れることのできる部屋(親子も高齢者も)が必要。そこに派遣されたスタッフ民生委員が情報の聞き取り、アドバイスをする。必要なら支援機関への連携をとる。

【相談体制の確保】

回答内容
相談の担い手、実働人の確保。
地域社会、町内会ベースで各班毎に相談担当者を置き、何でも相談できるように努める。
虐待防止など。
朝霞市はフリースクールなど相談や資金体制を充実させた方が良いのでは？
相談できる場の周知。
朝霞市の相談窓口の1本化。1本化しにくい場合はできるだけスリムに絞り込む。総合窓口は、たらい回しになりかねない。例えば障害関連の窓口を、障害福祉課、健康づくり課の1本化。高齢者関係でいえば長寿はつらつ課、地域包括センターなどで、個人情報が許される範囲で共有、連携。
会員の意向を把握して相談者を探す。
市役所、社協、包括支援センター連携してほしい。
相談と改まると話さない人もいるので、相談所の充実の一方でフランクに困りごとを話せる場や人が必要。

【支援関係機関間の連携】

回答内容
支援機関が集まっての情報交換会や申し送り。共有プラットフォームをつくり、リアルタイムで共有(支援内容は進捗)。市民への困りごとがおきた時のパンフレット配布(又はSNS発信)。
地域包括支援センターの方から、お知らせを頂いて、参加される方を受け入れている。
助成サービスはとかく個々個別に独立がち。情報の横串、連携の日常化は必要。
全ての支援機関が情報共有すべき。
行政は病院との連携を密にすべき。
市役所、社協、包括支援センター連携してほしい。

【社会福祉従事者の専門性の向上】

回答内容
愛着障害などの理由をかかえるひきこもりや非行にはしる子供の交わり、関りの向上。
家族会との交流。
市民の勉強会等増やしてほしい。
積極的に職員を募集し、研修を行い専門性を高める。

【ケアマネジメントの充実】

回答内容
多職種連携の強化。例、自治体―民生委員―市民活動団体。医師―保健センター―子育て支援団体など。
地域社会、町内会ベースでケアマネジメント、地域包括支援センターとの連絡網を作り、定期的な情報交換が必要と思う。
家族会との交流。
本人を重視したケアマネジメントを。
介護申請していないと関係性が少ない。

【ソーシャルワーク体制の整備】

回答内容
地区社協の設置、事例研究会の開催、家計相談支援事業の実施。
家族会との交流。
介護、病気、福祉等に関わらなければ一般市民には関わりを持たない。

【成年後見制度、日常生活自立支援事業、苦情解決制度など、適切なサービス利用を支援する仕組みの整備】

回答内容
高齢者が日常的に出向き、気がるに話ができる場が増えると良い。
いろいろな国の人が暮らすようになって、それぞれの文化や生活習慣の違いにより苦情もでやすくなっている。苦情の内容について、日本人からの一方的なものにならないように通訳をつけてきちんと話をきいて解決できるようにしてもらえたらいいと思う。
市の柔軟な対応が必要。
成年後見制度、日常生活自立支援制度と苦情解決制度とは内容が異なるため回答するのは難しい。
会員の意向を把握してサービス利用できるようにしたい。

【サービスの評価やサービス内容の開示等による、利用者の適切なサービス選択の確保】

回答内容
どんなサービスがあるのか？がだれにでもしっかりと見える(理解される)事が一番。
PR し、通所者を増やしていく。

【避難行動要支援者の把握及び日常的な見守り・支援の推進方策】

回答内容
視覚や聴覚に障害がある方々が、災害が起きた時にとり残されたり、情報が少ない状況が考えられるので、

回答内容
手帳などでしっかり把握して、連絡がとれるようにしておくと思う(もうしているかもしれませんが)。
地域社会、町内会ベースで要支援者リストの作成(個人情報も含めるとリスト記載に周知確認必要ですが)し、その支援者を明らかにしての活動。
個人的な意見として、集合住宅では「近所つきあい」がまったくないのでいざというときの助け合いや声かけにどうすればよいのか。又、適切な行動とはどうすれば可能なのか。
民間要支援施設の見守り、支援(公共施設以外)。
地域の町内会との連絡を密に取れる体制作り。
把握だけでなく具体的にどのような支援が必要かまで聞き取りをしてほしい。それぞれ支援の仕方が違うので、いざそうなった時に把握だけでは意味がないと思う。
避難行動要支援者の把握及び日常的な見守り、支援の推進方策とは意味合いが違うのでアイデアは出しにくい。避難行動要支援者でいえば、登録者の名簿を整理、配布先の民生委員、町内会、警察、消防署等々で、実際に災害に遭遇した場合を想定し、何が盲点かなどを話し合う。その為にはまずはモデル地域を設定し、対象者を絞り込んだシミュレーションをやりながら先に進む。
高齢者の多いマンションです。目の前の歩道が狭く歩きにくく 50 年以上前よりこの状況です。県道ですが利用者の多くは朝霞市民です。この歩道の整備をすぐやってください。

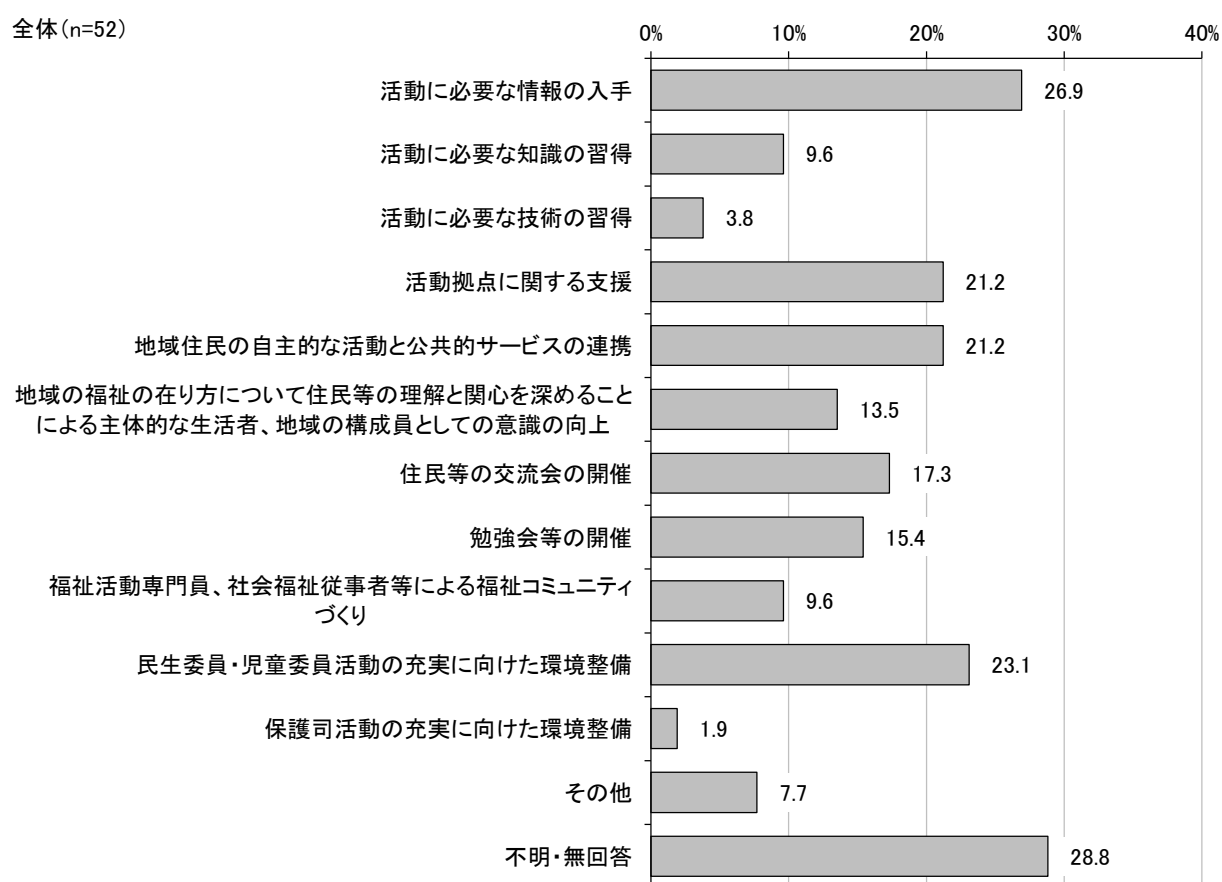
【その他】

回答内容
〔統括部門〕 一番、二番を実現する為には全ては把握、マネジメントする人(部門)が必要。
〔1～9までをまとめて〕 長い目で見たとき、市民1人1人が小さな時から「人間力」を身に付けていくことが、「人材確保、質の向上」につながると思う。また「相談しなくてはならない状態」の人を少しでも減らす事になる。朝霞市に1ストップ施設(湯～ぐうじょうあとなど)をつくる。朝霞の独自カリキュラム。子供～高齢者まで「学びの場」ボランティアや行政、地元事業者などいろんなカリキュラムを提供。学校だけではなく学び。大人の得意を伝える事で高齢者も活躍し学ぶ。カリキュラムの中にいろいろな実ケースを混え想定を広げていく。
〔集いの場〕 市内各所に集いのルールを作り、日変わり時間変わりで、いけばいつでも誰かいるような場を作ってほしい。市民センターにシルバーサロンを設けているが、空いている時が多くてもったいない。
〔自ら学ぶことの普及〕 普及活動に協力。
皆さん何でも良く知っていますよ。介護のこと、道具(用品)の事など。
子育て世代、高齢者が集える場所に相談できる人が居て、行政につなげられるシステムがあると良い。
市の施設の窓口にある外国語のカードが、それぞれの国の言語が日本語で書かれてあるので外国の人には自分の言語がどれなのかわからないと思う。何度か窓口の人に伝えたが、改善されていないのが気になる。

回答内容
積極的に行動しないとけっきょく孤立老人になってしまうのではと感じるこのごろです。老人会食などを利用して知り合いを1人でも増やせる機会を(お茶会)作りたい。
受け皿は用意されているが、市民が公に求めることを知らない。出来ない、しないのではないかなと思う。自分が困ったら求めることを普通にすればよいと思う。

問 12 地域福祉に関する活動への住民の参加促進のために、優先的に取り組むべき事項を選択してください。(3つまで選択)

「活動に必要な情報の入手」が26.9%と最も高く、次いで「民生委員・児童委員活動の充実に向けた環境整備」が23.1%、「活動拠点に関する支援」「地域住民の自主的な活動と公共的サービスの連携」が21.2%となっています。



■ 取り組み可能な具体的なアイデア・ご意見 (自由記述)

【活動に必要な情報の入手】

回答内容
地域の町内会への参加を進め定期的な活動に参加してもらい情報の交換に努める。
他の会食グループの活動内容など情報があれば知りたい。
子供や大人の成長に必要な情報を集める。不登校児や発達障害の子供のセルフイメージを上げる。
広報あさかをもっと使える様にしてほしい。

回答内容
マンネリ化を防ぐために必要。
住民の方の福祉に対する意義がどのようなものか解ると良い。
認知症にならない対策、方法、意識。怠心を打ち消してくれる、対策、方法、意識。
地域の活動に参加している人は情報は入ってくるが、家に閉じこもりの人たちは情報は少ないので、市役所、社協、包括の方たちが家を回る。

【活動に必要な知識の習得】

回答内容
講習などがあれば積極的にうけていきたい。
家族教育などの充実。
お知らせ等勉強会。

【活動に必要な技術の習得】

回答内容
長年にわたり朝霞市では音訳者養成講座を開催していないので、初級講座等で活動メンバーを育成したい。

【活動拠点に関する支援】

回答内容
自然の中でのリフレッシュ。
現在、調理室での会食となっているが、テーブルが狭くて座りにくい。食べる時は会議室？などゆったり座れるところに移動できたらいいなど。
空き家などの提供(アトスペースなど)。役割を与えることができる。
空き家などの一戸建て 1F は食堂、2F は学習支援ができるなどの居場所が必要。
地域の居場所を作る。空き家利用など、行政で借り上げて。
拠点が大事なので、空き家利用を考えて欲しい。
気軽に集まる活動拠点がありません。市民センター、公民館など自由スペースの拡張を希望します。カフェのような雰囲気も重要です。
市役所、社協、包括等。

【地域住民の自主的な活動と公共的サービスの連携】

回答内容
朝霞市には、たくさんの子育て支援サークルがあり、その内 12 団体が所属している朝霞子育てネットワークという任意団体があるが、活動拠点が固定ではない為ひきつづきのサポートができない。定点になる所がほしい。拠点を自治会で提供してくれたら、連携可能ではないか？
主に防災関連で地域住民に声かけし、参加してもらう。
NORDIC あさかは活動を進めながら、都度ご支援を頂ける所を探し、説明しご理解を頂いた所からサービスを提供して頂いています。
地域での生活が出来る様にしたい。

【地域の福祉の在り方について住民等の理解と関心を深めることによる主体的な生活者、地域の構成員としての意識の向上】

回答内容
地域住民一人ひとりの意識の向上のための活動。福祉寄りでなく、一般のイベントにも参加。
福祉として、サービスに何があって、利用した先にこんな成功があった。という事例の紹介をわかりやすくマンガなどでみせてほしい。生活の質が向上していく様を肌で感じる事ができたらうける側も提供する側も達成感が得られるのでは？

【住民等の交流会の開催】

回答内容
だれでも参加できるフェス。
地域に住む外国の方たちと、近隣の人たちとの交流の場として、日本の文化を知ってもらったり、外国の方の文化や料理を知ったりする場ができると、相互理解につながると思う。
イベントを通して積極的にお手伝い等をお願いし参加してもらう。
気軽に参加できる会があると良い。
顔を合わせることが大事なので、交流会を定期的に設定する。
顔の見える関係のため、定期的に開催すべき。
住民同士が集い楽しむ機会が多ければ良いつながりが広がると思う。
朝霞の森秋祭りなどの開催で他団体との交流ができる。

【勉強会等の開催】

回答内容
子供の未来アクション学習会などの学習会の開催。
いろいろな国の人々と共生するためにいろいろな国の方に講師を担当していただき、文化を相互に理解できるような会ができたら良い。
人生 100 年まで学ぶことを日常生活レベルで届けている。

【福祉活動専門員、社会福祉従事者等による福祉コミュニティづくり】

回答内容
福祉というと、障害やシニアの問題がないと自分事ととらえにくい。「福祉はみんなのもの」ということの認知が必要だと思う。例、地域イベントと連携させる。
地域包括支援センターの活用を定期的に行い相互で理解し合う体制。
福祉活動専門員が配属されていますが、カタカナ文字で具体的には何を専門とされるのか分かりません。もう少し具体的にどんな仕事をされるのか団体にご紹介ください。

【民生委員・児童委員活動の充実に向けた環境整備】

回答内容
あまり活動が知られていないと思うので、もっと活動を公報して、支援を必要としている人に支援の手が届くようにしてほしい。
地域担当の民生委員が誰かを知らしてもらい、何かあれば相談出来る様に勧める。
個人情報保護があり障害者、こども関連の情報が入らない。現在、見守りのみ。

回答内容
高齢者にとって、民生委員との接触は多い方が良いと思う。
見守りをもっと積極的に。
民生委員を地域の住民に知ってもらう事が大事なので町内会単位で民生委員と住民の出会う場を作る。
地域住民に地域の民生委員を周知する機会をつくる。
民生委員、児童委員の若返りも重要です。その為にも民生委員、児童委員の仕事を見直す。また何らかの報酬、それなりの見返りも必要だと思います。法律に引っかからない程度で朝霞市独自のやり方で良いと思います。
民生委員の方が障害者に理解をしてくださっていて、いろいろ勉強したがっているのがボランティアで来てくださったりと交流している。
子ども食堂との連携で外ランチ会、朝霞の森であればサポート可能。
子ども食堂を市民センター等に作ってほしい。

【保護司活動の充実に向けた環境整備】

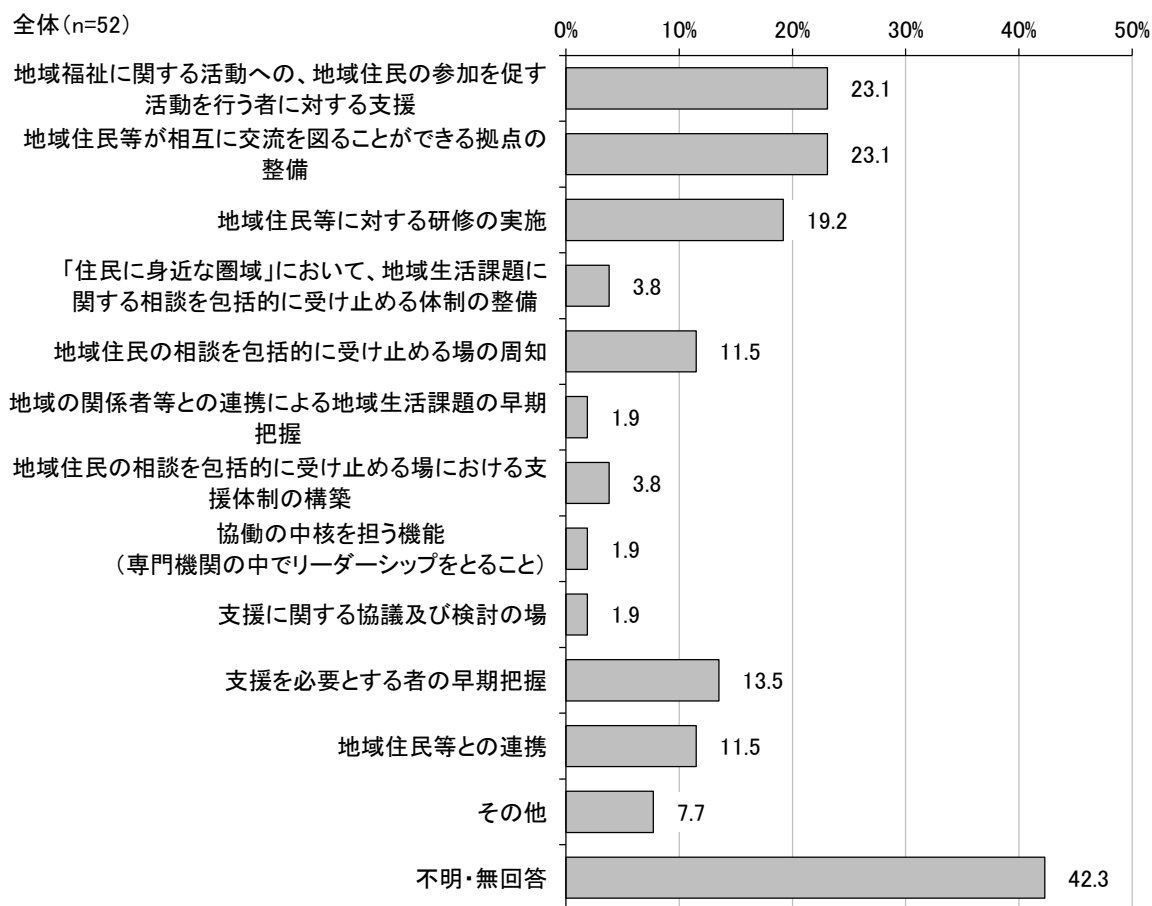
回答内容
保護司の活動を充実する為に、地域住民に伝える機会を増やす。

【その他】

回答内容
[1～11]
おしゃれに、わかりやすく発信すること。民生委員も1人担当ではなく仕事をもっていてできるように1地区2～3名にしてチームで取りくむなど考えてみる。
活動資金がギリギリなので助成金の支援をお願いしたい。
脳の特性のある子供(アスペ、ADHA)などの子供の二次障害をへらす取り組み。親子関係など。
住民がひとりで参加するのはとても勇気がいることなので、なじむまでサービススタッフが同行する。

問13 包括的な支援体制の整備に関する事項として優先的に取り組むべき事項を選択してください。（3つまで選択）

「地域福祉に関する活動への、地域住民の参加を促す活動を行う者に対する支援」「地域住民等が相互に交流を図ることができる拠点の整備」が23.1%と最も高く、次いで「地域住民等に対する研修の実施」が19.2%となっています。



■ 取り組み可能な具体的なアイデア・ご意見（自由記述）

【地域福祉に関する活動への、地域住民の参加を促す活動を行う者に対する支援】

回答内容
オンラインと会場参加のハイブリッド参加にすることにより従来よりもはるかに参加者をうけ入れられ、アーカイブ録画することにより、当日参加できなかった方へのサポートも可能になる。
地域社会、町内会ベースの働きかけをもっと行い、地域住民に参加を働きかける。
NORDIC あさかの活動は身体の健康と仲間とコミュニティを育んでいます。これを市民に少しでも多く知って欲しい。
精神障害者が一人で生活出来る様にアウトリーチを作りたい。

【地域住民等が相互に交流を図ることができる拠点の整備】

回答内容
朝霞の森の活用。

回答内容
主に、子育て世代に対して交流を図ることができる様、サロンを展開しているが、場所が固定でない為、毎回募集・予約をとっている。もっと気軽に参加してほしいという課題はある。
町内会館の利用を増やし、気軽に利用する様に町内会ベースでも勧める。
町内会館、お祭り。
放置された空き家を市又は運営団体が借り上げ1回あたり200円程度の利用料で高齢者等の居場所作りとする。公共料金は市が負担、至る所に拠点。
昔の井戸端会議ができるような、いつでもだれでも参加できる場所があると良い。
地域の居場所を作る。空き家利用など行政で借り上げて。
拠点が大事なので、空き家利用を考えて欲しい。
気軽に集まりやすい拠点が必要。
井戸端会議が気安くできるようなちょっと集まれる場所があったらよいです。あの場所へ行ったら誰かしらに会えるという場所。

【地域住民等に対する研修の実施】

回答内容
弊社では、すでに福祉課より助成金を頂き、子どもの発達、生活の質を上げるべく専門家をお呼びしての講演会を多数開催しています。
避難訓練
理解出来る様な研修。
研修というよりフラットな集いの場を考え開催する。
研修は住民間でやれば良い。

【「住民に身近な圏域」において、地域生活課題に関する相談を包括的に受け止める体制の整備】

回答内容
地域包括支援センターの存在をもっと知ってもらう様に、センターさん側に協力をお願いする。

【地域住民の相談を包括的に受け止める場の周知】

回答内容
1人暮らしの高齢者が多くなるので、一層必要になると思います。
広報の活用充実。
どこに行けば相談して解決できるのか、その場所が周知できれば良いと思う。

【協働の中核を担う機能（専門機関の中でリーダーシップをとること）】

回答内容
当事者を中心としたアウトリーチの構築。

【支援を必要とする者の早期把握】

回答内容
災害時には町内の役割が必要。個人情報云々より命を守ることが優先する。支援して良いとする人との情報共有が必要。

【地域住民等との連携】

回答内容
各世帯の状況を把握するためには、地域住民、民生委員からの情報提供がかかせない。向こう三軒両隣の関係を構築する必要がある。
町会の加入率を増やす。
町内会とのつながりを濃くする。
町内会、他の団体と積極的な交流。お祭りなどを通し、仲良くなる。又、座談会も良い。団体活動ができる方は地域に関心がある為、課題についても理解されてる方が多い為。

【その他】

回答内容
[学校での外国人親子支援について] 以前、日本語がわからない外国のお子さんの支援を頼まれたことがあったが、地域のサークルの方や民生委員さんと話したりしてすすめた。しかし、支援者側が親御さんへのサポートも必要と話したが学校側はそこまでできないと話していて、うまくいかないと思った。外国人の親への支援をやらないと子どもが将来的にヤングケアラーになることが多いので、家族全体を地域で協力してサポートできるといいと思う。 当事者の話を聞く。団体間のメンバーで無理のないよう困っている人を共有する。ただし個人情報にも十分気をつける。今自分たちは何のために活動しているか、これからするかを自問すること。 プレーパークなどとの連携。 NORDIC あさかの平均年齢は 74 才です(201 名)。日本の健康寿命の平均とほぼ同年齢ですが、皆しっかり歩いています(歩けるようになっています)。 活動資金を志で支援する。

問 14 身近に困っている人がいるとき、貴団体ではどのような手助けができますか、又はやりたいですか。現在の活動状況に限定せず、できること、やりたいことをお答えください。(自由記述)

回答内容
継続的な相談。
内容ごとに関係機関につなげる。
年齢に関係なく個になる人を無くしたい。子育て中の人、支援をされている方などと集まり茶話会やお話がしたい。
いっしょに活動すること。自然を守る活動。
専門機関におつなぎすること。その方が必要としている内容によっては弊社でも対応可能です。
カフェ「さんぽみち」では仕事にもやもやのある人、仕事を探している人の居場所ケア。ひきこもりの方なども含みます。コミュニティあさは、社会参加を増やすことを目的にしています。そのためにできることを増やしていけたら良いと考えています。
外国の方が窓口に行きたい時につきそう(通訳までできるかはわからないが、ほんやくアプリ等でサポートできる)。
町内会で手助けの組織表を作成して有り、町内会内ではこの組織表に基づいて行動を取る様にしております。
民生委員に連絡。管理事務所に行き話をする。包括に連絡。
相談者の話を聞きどうしたいかによってどうすればいいのかをじっくり聞く。専門的な事が必要ならば関係者に連絡。
楽しく食事がとれるようにしたい。月に1回でもそこに行けば食事をしながら話ができる。こんなことがあったとつぶやくことができる。そんな会をめざしたい。
年齢問わず誰でも参加できる場所作りを行いたい。認知症や障害の方など特定の方が参加できる支援を行いたい(オレンジカフェなど)。
情報提供(障害年金など)、脳の特性のあるかた(自覚が無い方への促し)、不登校家族で苦しんでいる方への助言、居場所提供。
歩行困難者への歩行運動指導。
通常のとも育活動が子育て世代、子供に対する活動なので特にない。
介護者側の気持ちに添って話をきく。
とにかく何でもいいので困っている所を解決にむすびつけられるようなハブでありたい。
何故ひきこもっているのか？病気なのか？分からない方の相談を受けて行きたい。
発達のゆっくりなお子さんや保護者様の不安を和らげられるよう、寄り添ってお話を聞いてあげたり、病院や療育や学校支援級の情報提供なども含めて、子育ての実体験をお話ししてあげられるのではないかと思います。そういった意味でも、様々な障がいを持っている方々や団体のネットワークも持てみたいと思います。(他市の親の会では、市の依頼で新生児訪問に保健師さんに同行してお話を聞いているそうです。)
①ミニデイにお誘いする。②行政や民生委員につなぐ。③集いの場を紹介する。若者への学習支援。高齢者との交流も兼ねて。
まず話を聞き、状況を理解し、関係機関に相談し連携する。

回答内容
相手の困っていることを聞いて必要な機関につなげる。話を聞いてあげる。
何かに困っている人がいれば解決できる範囲で手助けしたいと思います。
足、手、目、耳の少し不自由な高齢者が多いサロンなので、遠いところまで行けません。サロンに来ていただくのが第一条件です。そのように取り組んでいるのですが。
様々な年齢、子ども～高齢者がともに集い、話したり体験をすることで地域社会を活性化していけるのではないかと考えます。
不登校児の支援、居場所の提供、学習支援を他団体と連携。
当団体は高齢者のみの集まりやお茶会である為手助けは難しいと思います。

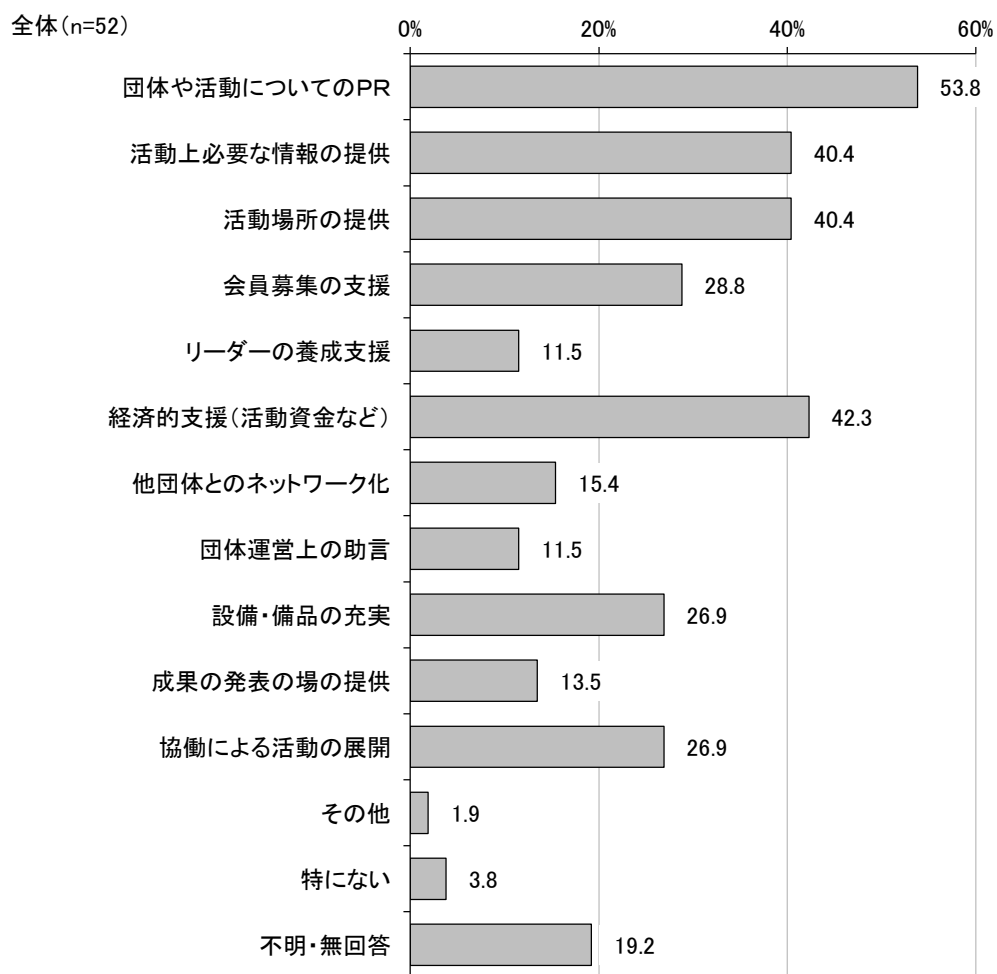
問 15 今後、活動団体が増えていく、また継続していくためには、どのようなことが必要と考えますか。(自由記述)

回答内容
当団体の担い手の確保。
運営団体の人員確保。
広く報知すること。
後継者の育成。活動している人たちも介護や病気等で活動ができなくなることが考えられる。又、ボランティアでは気持ちが続いていかない為固定の収益も必要。
ボランティアをしている人達の自己肯定感を高める。団体へ資金援助。
地域活動は、主体的に取り組むために教育したり指示したりすることは困難です。しかし、地域活動の必要性やおもしろさがもっと伝わることは大事だと思います。特に現役世代では、そのような情報に接する機会もなく、ますます地域への参加が減っており、情報、活動場所、活動費用などの支援は大切だと思います。
市として、「こういう方がいるのでよろしく」と丸投げではなく、団体へのサポート体制はほしいと思う。AISの方々も、交通費にちょっと出るくらいの金額でお子さんたちの支援をしているので、もう少し多文化共生サポーターの方とかを利用して、和光市のように時給ができるようにしてほしいと思う。
各地域での清掃活動などを通じて地域社会の集まりの場、コミュニケーションの機会を多く持てばと思います。
団地では、いろいろなサロンを継続して行く為に役員も高齢者ですので体力、健康に気をつけなければならない。次のリーダーがいらない為。
民生委員、児童委員の充実。地域の企業等の協力を頂き、有休ではなく特別休暇を考えてほしい(社会貢献としての協力)。
規則も制約も必要だが、自由に使える場所、時間などがあるといいですね。
団体メンバー(会員)。
高齢化の為、発展や拡大は考えにくい。
資金のサポートや必要なアイテム、市とのアートの事ができる。場所の提供があると色々広がる。
やろうと思う人が増えること。活動資金支援は後押しになると思う。

回答内容
集まる場が地味すぎる。誰でも行きやすい目立つ場所。客の入っていない中央公民館のこりすカフェを集いの場にする。
活動する人と場所、お金などの支援が必要。
朝霞市が福祉にもっと関心をもってほしい。
不便に感じること、疑問に思うことをかいぜんしていこうとするバイタリティー、行動力、それに賛同する人々の思いをつないでいくための PR、周知活動。リーダーシップをとれる人材の育成。福祉活動に必要な知識や資格を取得するためのサポート。
居心地の良い環境、自然豊かな環境、様々な生き物、植物が多い場所を皆が求めている。そういう環境を残すこと、そういう環境作りをして居る団体ボランティア等の理解、支援を積極的に行うことが大切。
行政と共働して PR 活動。活動の場の確保、空き家を行政が借り上げ、団体が複数で安く借りられるように、いつでも気軽に相談に行ける場を増やすこと。
会員数が増えることがまず第一。少数の人に責任や負担がかかることなく、多くの人が少しずつできることを、できる範囲で関わっていく体制。
活動者、利用者共高齢化しているので、声掛けはしているが入会には至らないのが悩みです。
私達のネットワークはつながりが大事なので、仲間の団体行事には率先して参加することが大事。
少人数の団体ができたとして、やはり活動資金が必要と思いますので補助金を出してあげると良いと思います。
孤独は知らぬ間に心と体に悪い影響を及ぼします。サロンに参加して楽しい時間を送ってほしいと取り組んでいます。でも誘ってもなぜか参加しない方が多いです。
それぞれの活動団体が活動しやすい環境、活動資金、活動場所の確保等を安定して進めて行けることが必要と考えます。
より多くの親子と出会う機会を増やす為、プレーパーク開催日を増やす。不登校、うつ状態の親や子の支援が月5日間ではとぎれてしまう。
会員 60 歳超の人へ呼びかける広報。

問 16 貴団体が活動をしていく上で、市役所に望むことはどのようなことですか。
(あてはまるものすべてを選択)

「団体や活動についてのPR」が53.8%と最も高く、次いで「経済的支援（活動資金など）」が42.3%、「活動上必要な情報の提供」「活動場所の提供」が40.4%となっています。



〈活動年数別クロス〉

活動年数別にみると、1～19年では「団体や活動についてのPR」が最も高くなっています。

単位：％		て団体 PRや活 動につ いて	の活動 上必要 な情報	活動場 所の提 供	会員募 集の支 援	援リー ダーの 養成支 出	資金等 経済的 支援（活 動資金 など）	他団体 とのネ ットワ ーク化	団体運 営上の 助言	設備・ 備品の 充実	成果の 発表の 場の提 供	展開協 働によ る活動 の	その他	特に ない	不明・ 無回答
全体 (n=52)		53.8	40.4	40.4	28.8	11.5	42.3	15.4	11.5	26.9	13.5	26.9	1.9	3.8	19.2
活動年 数別	1～9年 (n=14)	64.3	50.0	50.0	28.6	14.3	50.0	28.6	7.1	21.4	7.1	28.6	0.0	0.0	7.1
	10～19年 (n=20)	50.0	35.0	40.0	30.0	15.0	30.0	10.0	15.0	35.0	15.0	20.0	5.0	5.0	30.0
	20～29年 (n=9)	22.2	44.4	33.3	22.2	0.0	44.4	11.1	22.2	22.2	22.2	44.4	0.0	11.1	22.2
	30年以上 (n=8)	87.5	37.5	25.0	37.5	12.5	50.0	12.5	0.0	12.5	12.5	25.0	0.0	0.0	12.5

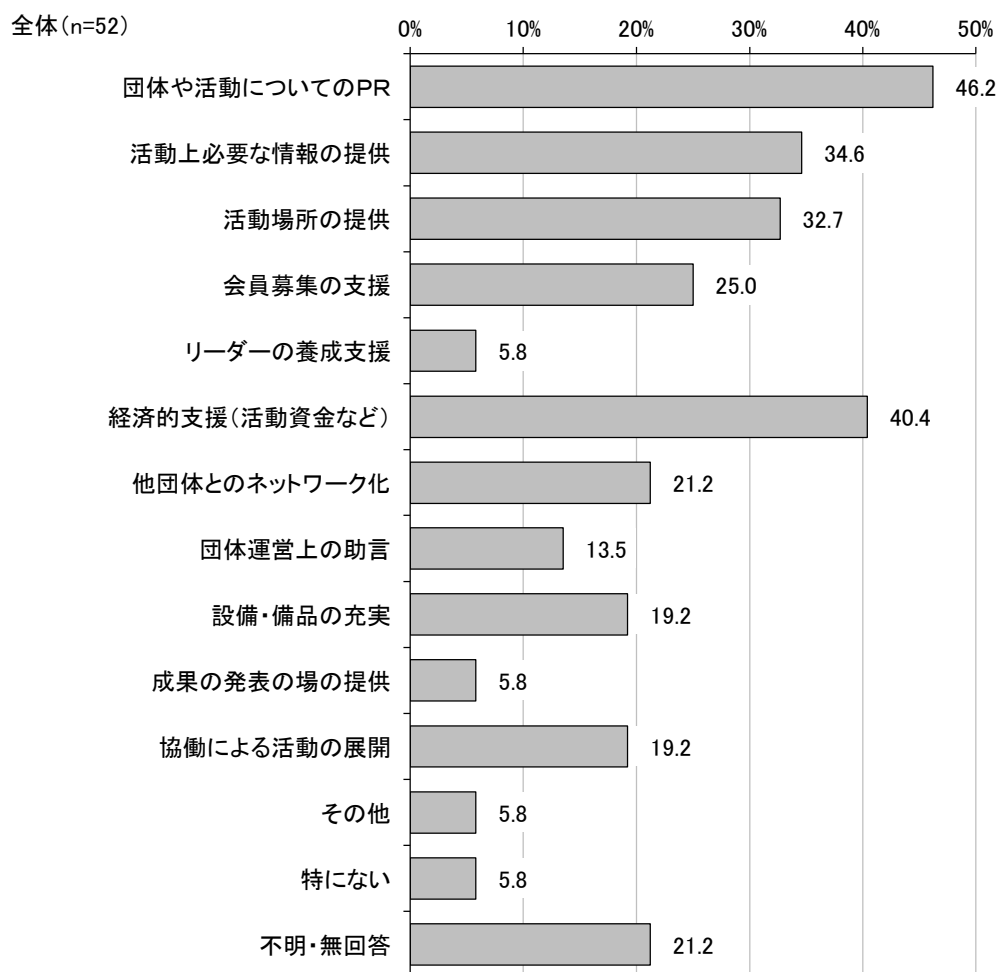
〈活動上の困り事別クロス〉

活動上の困り事別にみると、「新しい活動者が入らない」「市民に情報発信する場や機会が乏しい」「支援を必要とする人の情報が得にくい」「活動者の高齢化」では「団体や活動についてのPR」、「リーダー（後継者）が育たない」「活動資金が足りない」では「団体や活動についてのPR」「経済的支援（活動資金など）」が最も高くなっています。

単位：％		て団体 PRや活 動につ いて	の活動 上必要 な情報	活動場 所の提 供	会員募 集の支 援	援リー ダーの 養成支 出	資金等 経済的 支援（活 動資金 など）	他団体 とのネ ットワ ーク化	団体運 営上の 助言	設備・ 備品の 充実	成果の 発表の 場の提 供	展開協 働によ る活動 の	その他	特に ない	不明・ 無回答
全体 (n=52)		53.8	40.4	40.4	28.8	11.5	42.3	15.4	11.5	26.9	13.5	26.9	1.9	3.8	19.2
活動上 の困 り事 別	活動のマンネリ化 (n=7)	42.9	42.9	28.6	42.9	14.3	28.6	0.0	0.0	28.6	14.3	0.0	14.3	0.0	28.6
	新しい活動者が入らない (n=29)	51.7	44.8	37.9	37.9	17.2	44.8	20.7	13.8	20.7	13.8	31.0	3.4	3.4	17.2
	リーダー（後継者）が育たない (n=13)	53.8	46.2	38.5	38.5	15.4	53.8	15.4	15.4	23.1	7.7	38.5	7.7	0.0	15.4
	市民に情報発信する場や機会が乏しい (n=16)	87.5	75.0	62.5	50.0	18.8	62.5	43.8	31.3	37.5	25.0	50.0	6.3	0.0	0.0
	人々のニーズに合った活動ができていない (n=4)	75.0	75.0	50.0	50.0	25.0	50.0	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	支援を必要とする人の情報が得にくい (n=17)	82.4	64.7	41.2	41.2	11.8	47.1	35.3	23.5	23.5	17.6	35.3	5.9	0.0	5.9
	他の団体と交流する機会が乏しい (n=5)	80.0	80.0	60.0	40.0	20.0	80.0	40.0	20.0	40.0	40.0	40.0	0.0	0.0	0.0
	活動の場所（拠点）の確保が難しい (n=7)	57.1	14.3	100.0	28.6	0.0	57.1	0.0	0.0	28.6	0.0	28.6	0.0	0.0	0.0
	活動資金が足りない (n=12)	83.3	41.7	75.0	41.7	16.7	83.3	16.7	33.3	58.3	41.7	50.0	0.0	0.0	0.0
	活動者の高齢化 (n=19)	52.6	42.1	26.3	42.1	21.1	26.3	5.3	10.5	31.6	5.3	10.5	5.3	5.3	26.3
	その他 (n=8)	87.5	62.5	50.0	37.5	0.0	50.0	25.0	12.5	62.5	12.5	25.0	0.0	0.0	0.0
	特に困ったことはない (n=5)	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	20.0	20.0	20.0	0.0	20.0	40.0

問 17 貴団体が活動をしていく上で、社会福祉協議会に望むことはどのようなことですか。
(あてはまるものすべてを選択)

「団体や活動についてのPR」が46.2%と最も高く、次いで「経済的支援（活動資金など）」が40.4%、「活動上必要な情報の提供」が34.6%となっています。



〈活動年数別クロス〉

活動年数別にみると、1～19年では「団体や活動についてのPR」が最も高くなっています。

単位：％		の団体や活動についてPR	活動上必要な情報の提供	活動場所の提供	会員募集の支援	リーダーの養成支援	経済的支援（活動資金など）	他団体とのネットワーク化	団体運営上の助言	設備・備品の充実	成果の発表の場の提供	開協働による活動の展開	その他	特にない	不明・無回答
全体 (n=52)		46.2	34.6	32.7	25.0	5.8	40.4	21.2	13.5	19.2	5.8	19.2	5.8	5.8	21.2
活動年数別	1～9年 (n=14)	57.1	35.7	42.9	28.6	14.3	50.0	21.4	14.3	21.4	7.1	21.4	7.1	0.0	14.3
	10～19年 (n=20)	45.0	35.0	35.0	30.0	5.0	35.0	20.0	10.0	20.0	5.0	10.0	5.0	5.0	35.0
	20～29年 (n=9)	33.3	33.3	33.3	22.2	0.0	44.4	11.1	33.3	33.3	11.1	33.3	0.0	11.1	11.1
	30年以上 (n=8)	50.0	37.5	12.5	12.5	0.0	37.5	37.5	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	12.5	12.5

〈活動上の困り事別クロス〉

活動上の困り事別にみると、〔新しい活動者が入らない〕〔活動者の高齢化〕では「団体や活動についてのPR」、〔リーダー（後継者）が育たない〕では「活動上必要な情報の提供」、〔市民に情報発信する場や機会が乏しい〕では「団体や活動についてのPR」「活動上必要な情報の提供」、〔支援を必要とする人の情報が得にくい〕では「団体や活動についてのPR」「活動上必要な情報の提供」「経済的支援（活動資金など）」、〔活動資金が足りない〕では「経済的支援（活動資金など）」が最も高くなっています。

単位：％		の団体や活動についてPR	活動上必要な情報の提供	活動場所の提供	会員募集の支援	リーダーの養成支援	経済的支援（活動資金など）	他団体とのネットワーク化	団体運営上の助言	設備・備品の充実	成果の発表の場の提供	開協働による活動の展開	その他	特にない	不明・無回答
全体 (n=52)		46.2	34.6	32.7	25.0	5.8	40.4	21.2	13.5	19.2	5.8	19.2	5.8	5.8	21.2
活動上の困り事別	活動のマンネリ化 (n=7)	57.1	28.6	42.9	28.6	0.0	28.6	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	14.3	0.0	28.6
	新しい活動者が入らない (n=29)	48.3	37.9	34.5	37.9	3.4	41.4	17.2	10.3	17.2	6.9	20.7	3.4	6.9	20.7
	リーダー（後継者）が育たない (n=13)	38.5	53.8	46.2	30.8	7.7	46.2	23.1	15.4	23.1	0.0	23.1	7.7	7.7	15.4
	市民に情報発信する場や機会が乏しい (n=16)	68.8	68.8	50.0	50.0	18.8	50.0	50.0	31.3	18.8	18.8	37.5	6.3	0.0	6.3
	人々のニーズに合った活動ができていない (n=4)	50.0	25.0	50.0	25.0	25.0	25.0	50.0	50.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0
	支援を必要とする人の情報が得にくい (n=17)	52.9	52.9	41.2	35.3	17.6	52.9	47.1	23.5	17.6	5.9	35.3	5.9	0.0	11.8
	他の団体と交流する機会が乏しい (n=5)	60.0	80.0	40.0	40.0	0.0	80.0	60.0	20.0	40.0	20.0	40.0	0.0	0.0	20.0
	活動の場所（拠点）の確保が難しい (n=7)	57.1	14.3	57.1	14.3	0.0	42.9	14.3	0.0	14.3	0.0	28.6	0.0	0.0	14.3
	活動資金が足りない (n=12)	50.0	41.7	58.3	33.3	8.3	66.7	33.3	25.0	33.3	16.7	33.3	16.7	8.3	0.0
	活動者の高齢化 (n=19)	42.1	36.8	26.3	31.6	5.3	26.3	15.8	10.5	21.1	0.0	10.5	5.3	10.5	26.3
	その他 (n=8)	62.5	25.0	25.0	25.0	0.0	62.5	50.0	12.5	37.5	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0
	特に困ったことはない (n=5)	40.0	20.0	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	40.0

問 18 その他、福祉環境をよくするためのご意見・ご提言等ありましたらお書きください。
(自由記述)

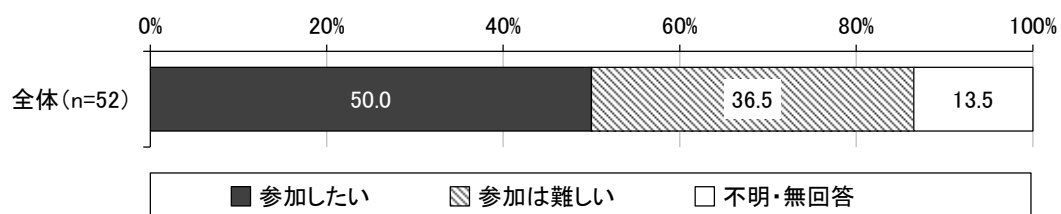
回答内容
隣に誰が住んでいるのかわからないほど地域の繋がりが希薄なこの地域においては、過度に干渉されることはないことが精神障害者にとっては暮らしやすい地域かもしれないが、人との交流を求める時には、当事者や支援者のもとへ訪問することがほとんどです。障害特性を理解しつつ、近隣住民の方への理解を求めていくことは、長期に継続的な地道な活動が必要です。地域づくりの特効薬はありませんので、少しずつ息の長い事業展開が必要と考えます。
朝霞市はシニア支援はあるが子育て支援は少ないと感じています(自治体主導の)。療育を必要とする子どもが増加傾向にあり、発達障害がわからないと療育を受けることができないシステムの中、グレーゾーンの中にいる母子が不安を抱えることなくつどえる拠点があることが望ましいのではと思っています。
成年後見利用支援事業、家計相談支援事業所などぜひ実施してほしいです。一方、地域活動団体が関わることができ、地域福祉を活性化することができる重要な仕組みが地区社協(地域社協)の創設だと思います。福祉の制度は進歩していますが、互助、共助を支える地域資源は、自治会加入率低下に表れる通り、弱体化しています。社会参加の減少を食い止め、地域社会を維持するために連携を強化し、お互いに知恵を出し合う必要があると考えています。微力ながらお手伝いできればと思っています。
介護、福祉に携わる人たちの時給を上げること。時給が上がれば、人も集まって人手不足も解消していくと思う。人手が足りないと、提供したい質の良いケアもできない(時間が足りない)。
社協の方々には、いろいろお世話になっており、協力していただいております。
大部分の人は「どこで、何が行われているのか。どんな支援が具体的にうけられるのか」を知らないと思います。又、興味がないと、広報や公民館などにおかれている資料などを手にすることもないでしょう。誰でもいつでも情報が手に入れられるためにはどうすればよいか。たとえば、市内放送を使って、簡単なお知らせを流すとか。具体的でもなくとも「健康体操が〇〇日から△△で始まります。」ぐらいの「知るキッカケ」を作ることも必要だと思います。アンケートの設問も言葉と問われていることが(私には)難解でした。もう少しやわらかいことばだとありがたいですね。
当然のことだが、このアンケートは現役の方向けでよい事だと思いますが、人生 100 年時代の 80 才過ぎには違う世界が待っていますので、参考にならず申し訳ありません。旨い着地を日々考えながら、朝霞という恵まれた処に生きている事を感謝したらの営みです。実は、サロンかわせみも今年内までの活動と話し合っています。今までの活動に感謝いたします。
地域のメンタルヘルスが問題となり大人のいじめ問題やマウントをとりたがる大人が増えているように思います。子供も親のクセをうけついでいく流れがある為に、学校や地域でのいじめや仲間はずしを心理的にうけているやりとりを見ます。市に相談しても、それは～と言われ窓口もないように思いました。今の時代に必要なやりとりができるのではないのでしょうか。朝霞のメンタルヘルス向上を祈ります。
子供も戦力。高齢者も戦力。守るだけでなく、支援者となれる事を前向きに発信し「育む」事が大切。「自分の足で立つ」=自立に初めて他者を支援できる。互助につながる。
こども食堂(こどもの居場所)という面で見ると、いつでもやっている食堂や居場所が必要である考える。24 時間 365 日、不登校の子でも、ここならこれるよという場所。いつも同じ人もいるけれど、いろんな食堂の人が日替わりでくればよいと思う。それを NP0 と協力して行うなど。
理解と環境を整えてほしい。

回答内容
困りごとがある人と困りごとを解決してくれる(助けてあげたい)団体をマッチングしてくれる窓口(ハブ機能)を充実させる。困り事があった時に、気軽にそうだんできる窓口で、助けてくれる人(団体)を紹介してもらえたら、早い対応ができるのではないかと思います。そのためにも、団体のリスト化やネットワークは大事なかなと思う。近年では、インクルーシブ教育、インクルーシブ公園、インクルーシブ遊具など「障害のある子もない子と一緒に～」というキャッチフレーズが冠されることが多くなりました。池袋のとしまキッズパークや世田谷の砧公園は有名です。来年度は、新座の大和田水辺の丘公園がグランドオープンされます。朝霞においても宮戸二丁目公園やまぼりひがし、まぼりみなみ公園ができる予定です。よくも悪くも周知させるという意味で「インクルーシブ」という言葉は必要だと思いますし、参加する側も気軽に利用できるのありがたいと思います。その中で最近思うのは、公民館等で開催される子ども向けイベントに、対象幼児までとか未就学児までとか小学校低学年まで、或いは小学生までとか書いてあることが多いなということです。障がいのある子は、年齢に沿った成長よりもゆっくりの子が多いので「このイベント行ってみたいな」と思っても「あ。小学生じゃダメなんだ。」とか「あ。中学生じゃ行けないんだ、残念。」と思って参加できないことが多々あります。個別に問い合わせするのも、説明が面倒だし困られたら嫌な思いをするので私は断念しています。イベント開催者様も年齢に応じた企画をされていると思うので致し方ない部分もありますが、日常生活でインクルーシブという空気感を育てていくためにも主催者様のご理解が得られた場合には「対象小学生までのお子さんと障がいを持っているお子さん」のような参加条件が明記されていると、参加しやすいと思います。子どもはいろいろな体験をして成長していくものです。障がいがある故に、体験する場(機会)が失われてしまうのが残念です。いずれは、インクルーシブという言葉がなくても、誰もが皆自然にふれあえる社会になってほしいと思います。
朝霞市は人口増と同時に児童数も急増している。それだけに朝霞を知らない人が増え、益々住民間関係が希薄になります。町内会加盟率も一向に上がらないので大きな課題です。朝霞の森シンボルロード、彩夏祭などでのイベントが多く経費をかけて実施されるが、市内の交通の便も悪く恩恵とはいかない。高齢者へのパスモ年間補助は、もっと多様な補助制度を工夫して、市内を動きやすいようにしてほしい。補助金を減らしてでもヘルプを必要としている人が元気になる方に予算処置を。②広報朝霞の充実で福祉の自助、互助、共助、公助の趣旨普及と拠り所のPRを根気よく伝える内容になってほしい。
積極的な人はどんどん種々の活動に参加しているが、家から出ない人を外出させるためにはどうしたらいいですか。
私達の団体は重度知的障害者の親の集まりで、行政に対してまだ理解していないことが多く、取り組むことなど具体的な事まで考えるところまではもう少し時間がかかりそうです。困っている事、親なき後に子供をどうするか、助けてほしい事等相談できる相談支援員さんの数もまだまだ不足していると感じています。誰もが気軽に話すことができる場がもっと増えてほしいと思います。
①先駆的な活動をされている団体と交流。②朝霞市全体がやさしい地域になる様積み上げていけたらと思います。それには小さい頃からの教育が充実していないと実践につながらない。保育園小学校から形を変えた福祉教育が大半ではないでしょうか。③障害を持った方はもっと外へ出て頂く。社協だけが受け入れるのではなく。④誰も取り残されない、みんな一緒にという考えの土壌づくり。
行政と団体の協働で行政がとどかない所を団体が補うような形が良いと思う。多忙な社会からほっと一息つける場作りが必要かなと活動をしているうえで考える。職員も市民も同じ。

回答内容
社協自体が実際に何をしているか見えにくい。当団体は相当以前に登録したが1件依頼があったほか、数年間全く連絡なかった。去年もう1度登録に行ったがそれ以来も1件紹介あっただけにとどまっている。社協にそもそも情報が集まってないように感じる。市役所も地域福祉にどういう取り組みをしてるか分かりにくい。5年間生涯学習の講師をしたが、場所の紹介など役所内での目的が定まっていなかったように感じた。今年は2つの講座をやってみたが、やめても特に支障はないようで5年間の努力が本当に役に立っていたのか疑問を持っている。

問 19 本アンケート調査票にご回答いただいた団体を対象に、後日、分野ごとのグループヒアリングを実施する予定です。グループヒアリングへの参加意思をお答えください。（1つを選択）

「参加したい」が50.0%、「参加は難しい」が36.5%となっています。



VI アンケート調査結果からみえる主な課題・方向性

1. 福祉関連の情報発信・周知

福祉制度や福祉関連機関の中には、認知度が低いものが多く見られることから、周知方法の改善を図るとともに、広報紙やホームページの他、SNS なども活用しながら、誰にでもわかりやすく、届きやすい情報発信を進めていくことが求められています。

- ・「朝霞市社会福祉協議会自体を知らない」が 43.0%で最多。【P27 市民:問 12】
- ・福祉のまちづくりを進めるために必要なことでは、「だれにでもわかりやすい福祉情報の提供」が 52.1%で最多。【P64 市民:問 30】
- ・生活困窮者自立支援制度については、「制度名は知っているが、内容は知らない」が 46.5%で最多。【P64 市民:問 31】
- ・朝霞市の情報を今後何から入手したいかでは、「朝霞市の広報紙『広報あさか』」が 65.4%、「朝霞市のホームページ」が 54.3%、「SNS」が 29.4%。【P65 市民:問 32】
- ・成年後見制度については、「制度名は知っているが内容は知らない」が 50.5%で最多。【P67 市民:問 33】
- ・地域福祉に関する活動への住民の参加促進のために、優先的に取り組むべき事項では、活動に必要な情報の入手」が 41.8%と最多。【P157 専門職:問 16】
- ・地域における福祉サービスの適切な利用の促進のために優先的に取り組むべき事項では、「福祉サービスの利用に関する情報提供」が 38.0%と最多。【P149 専門職:問 14】
- ・地域における福祉サービスの適切な利用の促進のために優先的に取り組むべき事項では、「福祉サービスの利用に関する情報提供」が 36.5%と最多。【P190 団体:問 11】

2. 相談支援体制の強化

生活上の問題や悩み事は多岐にわたっていますが、そうした中、必要な支援を受けられていない人や、どこに相談してよいか分からない人も少なくありません。福祉のまちづくりに向けて、プッシュ型・アウトリーチ型（おせっかい型）の相談体制づくりなど、これまで相談や支援につながりを持ちにくかった人たちを想定し、相談支援体制を強化していくことが求められています。

- ・生活上の問題や悩み事についての相談や支援では、「問題や悩み事は特にない」が 43.1%と最多であるが、「ほとんど支援を受けていない」が 13.1%、「どこに相談してよいか分からない」が 8.5%【P13 市民:問 8】。〔18～29 歳〕では、「どこに相談してよいか分からない」が 15.9%で他の年代と比べて高い。【P14 市民:年齢別クロス】
- ・福祉のまちづくりを進めるために必要なことでは、「相談支援体制の整備」が 27.0%で 3 番目に高い。【P64 市民:問 30】
- ・地域における福祉サービスの適切な利用の促進のために優先的に取り組むべき事項では、「相談体制の確保」が 2 番目に多い。【P149 専門職:問 14】

3. 子育て支援の充実

子ども・若者支援に関して、優先的に解決すべき事項としては、子どもへの虐待や、ひとり親家庭、共働き家庭、乳幼児のいる家庭への支援をはじめ、不登校児やその家族、ヤングケアラーへの支援などが上位に挙がっています。

また、家庭や学校以外にも、子どもたちが安心して過ごせる居場所を確保するとともに、保護者も孤立しないよう、相談の場や交流の機会づくりが求められています。

- ・ 5年前と比べて暮らしやすいかについて、〔18歳未満の子がいる〕家庭では、「居住期間が短くわからない」が44.0%と他と比べて高い。【P18 市民:問9 家族内被支援者別クロス】
- ・ これからの地域福祉の取組についての意見では、「保育園」などサービスの充実の他、「子どもの居場所、遊び場の充実」などが見られた。【P70 市民:問35 自由記述】
- ・ 子ども・若者支援に関して優先的に解決すべき事項では、「子どもへの虐待防止対策」が30.4%、「ひとり親家庭の子育て支援」が26.6%、「共働き家庭の子育て支援」が25.9%、「不登校児および家族への支援」が25.3%、「乳幼児期の子どもを抱える家庭への支援」が20.9%、「ヤングケアラーへの支援」が17.1%。【P87 専門職:問4】
- ・ 〔ひとり親家庭の子育て支援〕についての解決策では、子どもの居場所の確保や、保護者も不安を解消できる専門の相談機関や集まりなどを求める意見が挙がっている。【P89-90 専門職:問4 自由記述】
- ・ 〔不登校児および家族への支援〕についての解決策では、フリースクールなど学校への登校以外の選択肢を求める意見や、家族も安心できる場や相談相手を求める意見が挙がっている。【P96-97 専門職:問4 自由記述】

4. 高齢者支援の充実

5年前との暮らしの変化を伺ったところ、高齢者のみ世帯にとって、暮らしにくくなったと感じる割合が1割を超えています。また、高齢者から、生活上の不安の声が多く寄せられています。高齢者世帯の日常生活への支援をはじめ、孤立防止、社会参加、生きがいにづくりに向けた支援が求められています。さらには、介護・介助を行う家族に対する支援など、地域が連携して支援に取り組むことが重要です。

- ・ 5年前と比べて暮らしやすいかでは、〔高齢者（65歳以上）のみである〕家庭で「あまり変わらない」が53.2%と最多であるが、「暮らしやすくなった」が6.4%と他と比べて低く、「暮らしにくくなった」が10.9%と他と比べて高い。【P18 市民:問9 家族内被支援者別クロス】
- ・ 高齢者支援に関して優先すべきことでは、「高齢者世帯の生活支援（声かけ、安否確認、買い物支援など）」が50.0%、「孤立（孤独死）防止対策」が41.3%、「高齢者の社会参加や生きがいにづくりの支援」が31.5%、「介護者、介助者への情報提供などの支援」が26.1%。【P31 市民:問16】
- ・ 誰もが安心して暮らすことができる、人と人との支え合う地域福祉を進めるための自由意見では、「お祭りやイベントの増加」や「高齢者との交流や子ども同士の交流など、市民の交流機会の創出」に関する意見が見られた。【P82 児童生徒:問11】
- ・ 高齢・介護に関して、優先的に解決すべき事項では、「高齢者の社会参加や生きがいにづくりに対する支援」が41.8%で最多、次いで「独居高齢者への支援」が32.3%。【P101 専門職:問5】
- ・ 今後、情報交換や連携を深めたい理由として、サービス利用者である高齢者から、生活上の不安の声を聞くことが多い、との意見が見られた。【P145 専門職:問13-1】

5. 障害者支援の充実

5年前との暮らしの変化を伺ったところ、障害のある人たちにとって、暮らしやすさが向上している割合が高くなっています。一方で、障害のある人が地域で自立して生活するためには、バリアフリー環境の整備や障害に対する理解をはじめ、介護者、介助者に対しては、情報提供など、地域ぐるみの取組が求められています。

また、障害者のいる家族では、身近に虐待を見聞きする割合が高くなっていることから、虐待防止に向けた一層の取組と支援が求められています。

- ・5年前と比べて暮らしやすいかについては、〔障害福祉のサービスを受けている〕家族で「暮らしやすくなった」が18.0%と他と比べて高い。【P18 市民:問9 家族内被支援者別クロス】
- ・障害者支援に関して優先すべき事項では、「障害のある人が地域で自立して生活するための支援」が54.0%で最多、次いで「バリアフリー環境の整備」が41.8%、「障害のある人に対する地域の理解、交流の支援」が30.5%【P33 市民:問17】。〔障害福祉のサービスを受けている〕家族では、「障害のある人が地域で自立して生活するための支援」が60.0%、「介護者、介助者への情報提供などの支援」が40.0%と他と比べて高い。【P34 市民:家族内被支援者別クロス】
- ・身近な地域で、虐待（児童、高齢者、障害のある人）の状況を見たり聞いたりしたことがあるかでは、「ある」が5.6%【市民 P41 問21】。〔障害福祉のサービスを受けている〕家族では「ある」が12.0%と他と比べて高くなっている。【P43 市民:家族内被支援者別クロス】
- ・障害者支援に関して、優先的に解決すべき事項では、「障害のある人に対する地域の理解、交流の支援」が36.7%で最多、次いで「障害のある人が地域で自立して生活するための支援」が35.4%。【P111 専門職:問6】

6. 地域コミュニティ・地域活動の活性化

5年前との暮らしの変化を伺ったところ、近所付き合いが希薄化しており、新たな交流も生まれにくい状況がうかがえます。暮らしにくさと、近所付き合いの減少に相関も見られる中で、近所付き合いを深めるきっかけとなる、地域での交流の場や交流機会の創出が求められています。

また、現在活動していなくても、今後何らかのコミュニティ活動をしてみたいと考える人や、日常生活の様々な場面で手助けできると考えている人が多くいることがうかがえます。こうした潜在的な地域力を、積極的に活かす仕組みづくりも求められています。

- ・5年前と比べた普段の近所付き合いでは、「近所付き合いに大きな変化はない」が45.8%で最多、次いで「居住期間が短くわからない」が28.1%、『減った』が12.2%。一方、『増えた』は5.6%にとどまる【P19 市民:問10】。5年前と比べた〔暮らしやすさ別〕では、〔暮らしにくさ〕と〔近所付き合いの減少〕に相関がみられる。【P22 市民:暮らしやすさ別クロス】
- ・普段の近所付き合いの今後の希望では「現状のままでよい」が74.8%、「近所付き合いを深めたい」が12.2%、「近所付き合いをなるべくしたくない」が8.5%。【P23 市民:問11】
- ・「近所付き合いを深めたい」と回答した人の中では、近所付き合いを深めるためのきっかけとして、「気軽に集える場所」が45.2%と最多、次いで「趣味を通じたサークル活動」が41.7%、「地域の見守り、声かけ活動」が36.5%。【P26 市民:問11-1】
- ・日頃コミュニティ活動をしているかでは、「特にない」が76.3%と最多。【P45 市民:問23】
- ・今後機会があればしてみたいコミュニティ活動では、「特にない」が44.4%、「スポーツ・レクリエーションなどの活動」が22.4%、「祭りや各種イベントなどの地域活動」が20.0%。【P48 市民:問24】

- ・コミュニティ活動に参加して良かったと思うことでは、「特にない」が49.0%と最多。次いで「年齢の異なる人と交流できた」が12.6%、「新しい仲間ができた」が11.9%。【P52 市民:問 25】
- ・今後、地域の人を手助けできることでは、「安否確認の声かけ」、「話し相手」、「日用品などのちょっとした買い物」、「電球交換などのちょっとした作業」、「ごみ出し」、「散歩の付き添い」、「近所のイベントの手伝い」で、それぞれ3割を超える。【P53 市民:問 26】
- ・今後、地域で参加したいと思う活動では、「お祭りや伝統行事」が66.3%と最多、次いで「スポーツ活動や文化活動」が43.7%、「外国人との交流活動」が28.4%。【P81 児童生徒:問 10】
- ・団体活動を通じて感じる、地域の問題点や課題では、「地域の中で気軽に集まれる場が少ない」が44.2%と最多、「隣近所・世代間の交流が少ない」が36.5%と3番目に高い。【P185 団体:問 6】
- ・すべての市民が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるためには、どのようなことが必要かでは、「地域の人が交流できる場の整備」が59.6%と最多。【P189 団体:問 10】

7. 防災・防犯対策の強化

近年の自然災害の多発等を受け、「災害時の安否確認や避難誘導などの防災活動」を重視する割合が高くなっています。特に、介護・介助を要する家族で、ニーズが高くなっています。

一方で、防災訓練への参加割合の低さや、振り込め詐欺などの消費者被害防止が優先事項として上げられるため、情報伝達をはじめとする防災・防犯対策などの備えも十分ではないとの意見がみられます。

身近な地域での実践的な防災訓練への参加や、災害時の安否確認、避難誘導、防犯カメラの設置など、防災・防犯対策の充実が求められています。

- ・地域の防災訓練に参加しているかでは「はい」が7.7%。【P54 市民:問 27】
- ・災害時に避難の手助けが必要かでは「はい」が12.8%。【P54 市民:問 27】
- ・災害時に避難の手助けが必要な近所の人に手助けすることができるかでは「はい」が43.2%。【P54 市民:問 27】
- ・その他の支援に関して、今後優先すべきことでは「災害時の安否確認や避難誘導などの防災活動」が48.8%で最多【P35 市民:問 18】。また、〔家族の介護・介助をしている〕家族では71.1%。【P37 市民:家族内被支援者別クロス】
- ・今後、朝霞市及び朝霞市社会福祉協議会で福祉のまちづくりを進めるために必要なことでは、「災害時・緊急時の防災・安全対策の充実」が28.3%で2番目に高い。【P64 市民:問 30】
- ・これからの地域福祉の取組についての意見では、防犯・防災に関して、「防災無線の聞き取りにくさ」、「防犯対策の強化」などに関する意見があった。【P70 市民:問 35】
- ・今までに、地域で参加したことがある活動では「避難訓練や防災活動」が36.1%と3番目に高い。【P80 児童生徒:問 9】
- ・誰もが安心して暮らすことができる、人と人々が支え合う地域福祉を進めるための意見として、防犯・防災に関しては、「街灯の増設」「防犯カメラの設置」「見回りの強化」に関する意見があった。【P82 児童生徒:問 11】
- ・その他の支援に関して、優先的に解決すべき事項では、「災害が発生した際の安否確認や避難誘導などの防災活動」が36.1%と最多、次いで「振り込め詐欺などの消費者被害の防止などの防犯活動」が20.9%。【P119 専門職:問 7】

8. 生活困窮者への支援

その他の支援に関して優先すべきこととして、生活困窮者への支援、就労支援、子どもの貧困対策などが挙げられていますが、特にひきこもりの状態の人がいる家庭で、経済的な支援を求める割合が高くなっています。一方で、支援制度についての普及が進んでいない状況がうかがえます。

今後は、支援を必要とする人に対して、様々な分野が連携し、支援や情報提供を図ることが求められます。

- ・子ども・若者支援に関して今後優先すべきことについて、〔ひきこもりの状態である〕人のいる家族では「子どもの貧困対策」が40.0%、「ヤングケアラー対策」が33.3%となっている。【P30 市民:問15 家族内被支援者別クロス】
- ・その他の支援に関して優先すべきことについて、〔ひきこもりの状態である〕人のいる家族では「生活困窮者への支援」が46.7%、「仕事に就けない人への就労支援」が40.0%となっている。【P37 市民:問18 家族内被支援者別クロス】
- ・生活困窮者自立支援制度については「よく知っている」が3.4%、「制度を知っているが内容は知らない」が46.5%、「制度名も内容も知らない」が45.3%。【P64 市民:問31】

9. 外国籍市民への支援

5年前との暮らしの変化を伺ったところ、外国籍の人たちでは、暮らしやすくなったとする割合、暮らしにくくなったとする割合ともに、他と比べて高い傾向が見られます。

外国籍市民については、言語支援や文化交流などを通じた、相互理解の重要性や、教育支援では本人だけでなく家族への支援も必要であるなど、幅広い支援の必要性が指摘されています。一方で、外国籍市民は「近所付き合いを深めたい」とする割合も高く、スポーツ活動など、外国籍の人たちのニーズを踏まえつつ、地域での交流機会を創出していくことが求められています。

- ・5年前と比べて暮らしやすいかについては、〔外国籍である〕人のいる家族で「暮らしやすくなった」が16.7%と他と比べて高い。一方で、「暮らしにくくなった」も12.5%で他と比べて高い。【P18 市民:問9 家族内被支援者別クロス】
- ・普段の近所付き合いの今後の希望について、〔外国籍である〕では「近所付き合いを深めたい」が他の区分と比べて高い。【P25 市民:問11 家族内被支援者別クロス】
- ・今後してみたいコミュニティ活動について、〔外国籍である〕では「スポーツ・レクリエーションなどのサークル活動」が37.5%と他と比べて高い。【P50 市民:問24 家族内被支援者別クロス】
- ・その他の支援に関して、解決に向けた意見では、言葉の支援や、相互の文化を知るためのコミュニケーションの場などの必要性が挙げられている。【P126 専門職:問7 自由記述】
- ・団体活動上の課題解決に向けた意見では、児童生徒本人だけでなく、保護者への支援も必要との意見が見られる。【P200 団体:問13 自由記述】
- ・今後、地域で参加したいと思う活動では、「外国人との交流活動」が28.4%と3番目に高い。【P81 児童生徒:問10】

10. 交通・移動環境の充実

交通・移動環境に関しては、道路や歩道の整備と安全対策、コミュニティバスの充実や増便を求める意見が見られます。特に、児童生徒から、道路・交通の改善に関する要望が多くなっています。また、高齢者や障害のある人等の外出支援も求められています。

今後は、国・県等と連携し、インフラの維持・充実を図るとともに、市民の活動・交流の活性化に向けて、移動手段の充実を図ることが求められています。

- ・これからの地域福祉の取組についての自由意見では、「道路や歩道の整備、安全対策」「コミュニティバスの充実、増便」に関する意見がみられる。【P69 市民:問 35】
- ・誰もが安心して暮らすことができる、人と人が支え合う地域福祉を進めるための自由意見では、「道路や歩道の整備・安全対策」「自転車道の整備」「交通ルールの遵守」に関する意見がみられる。【P82 児童生徒:問 11】
- ・「高齢者、障害のある人等の外出支援」の解決に向けた自由意見では、「タクシー券の配布」、「移送サービス」「生活サポート」の充実に関する意見がみられる。【P124-5 専門職:問 7】

11. 専門職や団体への支援・ネットワークづくり

団体活動の中では、新規の活動メンバーの不足や活動者の高齢化が大きな課題となっており、単発でも、市民が気軽に活動へ参加することが望まれています。

また、専門職や地域の支援団体等は、様々な連携とネットワークの中で、情報共有や助け合いを行っています。しかし、支援を要する人の情報入手が困難な状況も見られます。そのため、活動を進める上で団体間の連携・ネットワークの強化への支援が求められています。

- ・現在、情報交換を行ったり、連携をしている相手については、「市役所」が 80.4%と最多、次いで「地域包括支援センター」が 56.3%、「民生委員・児童委員」が 45.6%。【P139 専門職:問 12】
- ・今後、情報交換や連携を深めたい相手については、「市役所」が 47.5%と最多、次いで「地域包括支援センター」が 39.9%、「自治会・町内会」「民生委員・児童委員」が 31.6%。【P144 専門職:問 13】
- ・地域における福祉サービスの適切な利用の促進のために優先的に取り組むべき事項では、「支援関係機関間の連携」が 29.7%と 3 番目に多い。【P149 専門職:問 14】
- ・活動を行う上で地域にある他の団体・機関等との交流や連携、協力関係があるかでは、「社会福祉協議会」が 84.6%と最多、次いで「市役所」が 71.2%、「地域包括支援センター」が 46.2%。【P173 団体:問 1】
- ・団体活動上の困りごとでは、「新しい活動者が入らない」が 55.8%で最多、次いで「活動者の高齢化」が 36.5%、「支援を必要とする人の情報が得にくい」が 32.7%、「市民に情報発信する場や機会が乏しい」が 30.8%。【P176 団体:問 2】
- ・団体活動上の困りごとを解決するために、どのような機関・団体と連携したいかでは、「社会福祉協議会」が 70.2%と最多、次いで「市役所」が 68.1%、「地域包括支援センター」が 38.3%。【P179 団体:問 2-2】
- ・市民の方が団体活動に単発で参加することについて「単発で良いので気軽に参加してほしい」が 44.2%と最多。【P183 団体:問 5】

Ⅶ グループヒアリングの概要

1 調査の目的

本調査は、第5期朝霞市地域福祉計画及び第5期朝霞市地域福祉活動計画の策定にあたって、市内で福祉に関する活動を行う団体の『地域福祉』に対するご意見を各々の計画に反映させるため、実施しました。

2 調査概要

実施日	令和7年1月29日（水）
実施場所	朝霞市総合福祉センター（第1会議室）
対象団体	第5期朝霞市地域福祉計画・第5期朝霞市地域福祉活動計画策定に係るアンケート調査で参加の承諾をいただいた14団体
対象分野	子ども、高齢者、障害者、地域活動の4分野

Ⅷ グループヒアリング結果

1 子ども分野

① 地域の問題点や課題について

- ・コロナ禍はオンラインも多く、リアルでの母親同士の交流がなくなった。
- ・産婦人科に行くのも旦那といくみたいなのが增え、母親同士で声を掛け合うことが減った。親同士が交流をしてはいけないような雰囲気というかそんなものを感じる。これは、コロナの前には無かった雰囲気。
- ・どのようにお友達になりましたかと聞くと、支援センターに何回も行って顔を合わせると、そこでお友達になれる、ということを聞いた。支援センターのように、定点で会う機会があれば輪が広がりやすい。
- ・パパの育児参加もしてほしいということで、土日事業を開催することが多いが、そうすると家族ごとになってしまうということは感じた。
- ・月に1回中央公民館を借りているが、拠点がないため、いつでも来れるようなものではない、居場所になるのは難しい。
- ・外国籍の子どもも増えている。ハローワークと一緒に行ってほしいとか、ファミサポの手続きと一緒にいったりとか、仕事するための相談も増えてきている。
- ・不登校のこどもは来ずに、親だけが相談をしに来るようなパターンも増えている。
- ・189に電話相談をしたことがあるが、長時間保留にされる。対応者が訓練されておらず、結局市役所に相談してください、との回答のみであったなど、対応がずさん。
- ・教員の働き方改革などの影響か、普段から先生が不在のことが多く、そのタイミングで不安になる子どもがいる。子ども食堂に来るときは笑顔しか見たことがなかったので、学校とも色々な面で連携出来たら、もっと手厚いサポートができるのでは。
- ・民生委員として、不登校児に関する情報はもらうが、その後なにをしていいのかわからない。
- ・学校いっだけかすべてではなく、居場所が他にあっていいのではないかと思います。そのため、月に5日間という本団体の活動頻度（補助金の制約）では足りない、そのため、子どもにも、親にももっと居場所になる場所がほしい。
- ・こども達が信頼して相談してくるようになるような、子どもとの関係性を築くことは時間のかかるもの。
- ・地域のつながりがない。子育てが孤立に繋がり、親が不安になったりしている。不安な子育てをしていることが、少子化などにもつながっていると感じる。
- ・子どもあまり外に出ないと、体調不良や人間関係などもうまくいなくなる。
- ・朝霞は流動性も高いため、交流の仕組みを意図的に作らないと交流は生まれない。
- ・常設の居場所づくりを、少しずつでも進めていきたい。
- ・地域活動でいつでも使える場所が一か所でもあると、だいぶ違うと思う。ぜひ作ってほしい。

② ひきこもりの人への支援について

- ・スクールソーシャルワーカー、カウンセラーを常置してもらいたい。その人達を核にして、民生委員など地域の活動団体などと連携していければいい。地区ごと、学校ごとに、関係者が集まって協議できる場があると良いと思う。そうすると、情報共有もでき、ある程度専門性も持たせることができる。
- ・不登校に対する認識もまちまち。学校に通うべきという人もいれば、通わなくてもよいという人もいる。最終的には個別の対応が必要。学校に行ってもらうように支援する方がよい子どももいれば、無理をして学校に行かせない方がよい子もいる。
- ・子どもがどういう形で勉強したいかが一番大事。不登校にはレベルがあって、親の生活習慣が影響していることもある、家庭に何がおきているか知れるようなネットワークが必要。いろんな立ち位置の人の目で複眼的に見るとというのが大事。
- ・情報は全てネットに頼るお母さんが多い。また出産ぎりぎりまで仕事していることで、妊婦仲間ができにくい。子育て自体初めての体験で、不安になりやすい。
- ・発達障害はもともとないのに、親が作りだしてしまっているケースもある。子育て支援をしている人、歯科医なども気が付き始めているが、不登校につながるような、神経が繊細になってしまうのは、子どもの育ちのところがすごく大事。子どもが言葉を発する前に培われてしまっている。表面に現れるのが、学校には行ってからというのが多いが、元々は生活基盤、生活習慣のところをしっかりとっていくことが大事。また、子育て道具を使いすぎる弊害もある。快・不快の両方を感じて、学び取っていくことが大切であるはずだが、「快」の部分だけ与えすぎている。動画を見せる五感が育たないし、人との距離もわからないようになってしまう。
- ・オランダ人家族をホームステイで受け入れたことがあるが、小学生は8時に就寝。絶対ネットは見せない。テレビを見る時は家族税員で見る、という子育てを目の当たりにしたとき、日本人の子育てはどんどんダメになっていくと危機感を覚えた。

③ 個人情報の共有について

- ・活動の情報共有をする場があると、そこから団体同士の連携が生まれたり、より充実した支援に繋がると思う。
- ・子育てについて、正しい情報はどこから得ればいいのか、知らせるようなこともやっていきたい。
- ・お母さんたちが、SNS などネットの情報をうのみにして、妊娠中に飲まない方がいいとされる薬を飲もうとすることもある。信頼できる情報の取り方、使い方を親にも教えないといけない。
- ・生活保護世帯の情報など、困っている人の情報をもらっても、何をすればよいのかわからない。どこまで踏み込んでよいのかわからない。支援をする人に対する研修などの予算をつけ、サポートしてほしい。

④ 優先的に取り組むべき事項（福祉サービスの適切な利用の促進のために）

- ・市の案内資料として、外国人向けの外国語カードがあるが、何語かを日本語で書いているため、外国人は把握できない。
- ・今まで中国の人が多かったが、最近は、ネパール、モンゴル、ベトナムが多くなっている。英語が通じない人が増えた。
- ・支援を受けられずに困っている人を見つけるための仕組みが重要。
- ・困っている人がいた時に、それに関係する人が集まってそのような事例に関して会議を行う仕組みが

あればよい。

- ・生活困窮者に関する相談窓口が身近にあった方がよい。
- ・グレーゾーンな障がいを持っている方への支援では、あそび場に来てくれる人であれば支援ができるが、来ない人は見つけられない。頻繁に関われるような場や機会が必要。町内会にも期待している。
- ・周りに目を配ってくれるような人がいれば、地域になれば良いと思う。
- ・県の公式ラインから情報が流れてくるが、市ではラインがない。インスタから若い方が入ってくることもある。SNS で正しい情報を積極的に流していくことが必要。若い人への情報提供ではインスタが良いと聞いている。X よりも伸びやすい。

⑤ 優先的に取り組むべき事項（地域福祉に関する活動への住民の参加促進のために）

- ・地域の人が集まるイベントも、楽しそう、とか面白そう、がないと若い人の参加は望めない。キャンプギアの企業とのコラボなど、自治体と民間とが一体となって進めていく必要があるのではないかな。
- ・食を通した繋がりづくり、親も子も、一緒に食事をする体験はとても大事。周りの子育てを見ながら、修正もできる。
- ・固定的な活動拠点があることがとても大事。一つでも固定した場所があれば不安を抱えた人にとっても安心を感じる要素となるのではないかな。
- ・民生委員があまり知られていないのが問題。
- ・どのようにサポートすればよいのか、あまりわかっていない民生委員もいる。何をすればよいかわかっていないのであれば、地域で見守っていることがわかるような支援をしてほしい。
- ・民生委員が訪問する際、パンフレットを用意するとか、ジュースの1本も渡せるようにするなど、民生委員が活動しやすいようなサポートが重要。訪問してみることが大事。対象者に会えなかったとしても、それも一つの情報となる。

⑥ 優先的に取り組むべき事項（包括的な支援体制の整備に関する事項として）

- ・外国籍の子どもたちは、普段話せているからといって、必ずしも日本語への理解、学習内容への理解ができているわけではない。学習支援を適切にする必要がある。

⑦ 福祉環境をよくするためのご意見・ご提言

- ・常時誰かがいる、みたいな体制を作る。市だけで難しければ民間や企業を巻き込むなどして。
- ・ほっとできるような場所が多層的にあると良いと思う。既存の活動の場もうまく使って。
- ・保育士、訪問介護担当者への待遇を良くしてほしい。福祉に関わる人の生活水準が他の仕事よりも低いのはおかしい。男女とも、生活に密着している仕事ほど給料が低い。
- ・地区社協を創設する。

2 高齢者分野

① 地域の問題点や課題について

- ・町内会館が無料で使えているが、事前の申請が必要なので、ふらっと立ち寄る、集まるみたいなことができない。
- ・曜日を固定して活動しているが、他の予定と被っていつも参加できない方もいる。
- ・宮戸市民センターを借りて活動しているが、会場費がかなりかかる。現状、助成金で会場費は賄えている。
- ・活動日を増やせないのは、スタッフの体力、予定などが影響している。
- ・地域での孤立が問題。家族を支えるために、サロンに來れなくなり、孤立化が進行する。また、単身男性にも声掛けするが、なかなか地域に馴染めない。
- ・マンションの集会室を無料で借りて活動を行っている。1年目はマンション住民に限っていたが、地域の人たちとの協力も必要と考え、2年目からはマンション住民に縛らず実施。
- ・去年、マンションで風呂での孤独死などが3件あった。市の通報ベルが使えず、しばらく見つからなかった、など。同じ階に住む人でも会わないこともある。どのようにしたら防げるのか。
- ・マンションの前に大きな県道があるが、歩道が40年以上できない、最初は作る前提であったが、話が進まない。歩道のないところを、大きなトラックが通り、非常に危険。
- ・昔はマンションに何班にも分かれるほど子どもがいたが、今は1班しかいないほど子どもが減っている。
- ・非常ベルを、風呂に入っても使えるような仕様にできないか。

② ひきこもりの人への支援について

- ・ひきこもりは1人暮らしよりも家族と暮らしている人が多い。
- ・民生委員もやっており、近所の方から話を聞いたりする。ひきこもりの方が50歳くらいになっている世帯もある。話を聞いたら、定期的な情報交換の中で包括センターの方に話はしている。
- ・ひきこもりの話が来た時には、役所で担当される職員に相談したりする。
- ・民生委員として何うと、話はしたいからぜひ来てほしいと言われるが、会のような集団のところには行きたくないという人もいる。無理に出てこなくても、こうしたつながりを維持することが大事。
- ・話をしてくれる人はいる。そのようなつながりを維持することはできている側面もある。
- ・月1回役員会をするときに情報交換し、そこにメンバーとしている民生委員に動いてもらったりすることしかできない。
- ・自分たちだけでは対応できないので、参加している方にも声掛けなどをお願いしている。
- ・限界あるが、できる範囲で、個人情報に注意しながら、包括センターにも情報共有している。
- ・サロンのメンバー同士で、来なくなった人にアプローチすることで、参加を再開してくれる人もいた。役員会で情報共有できているのは、ちょっとした機会での声かけにつながるなど、良い取り組みであると思っている。
- ・単身者には声かけもするが、断られることも多く、連れてくるのは難しい。距離感も、一人ひとり違う。

③ 個人情報の共有について

- ・昔からの町内であるため、お互いのことはよく知っている場合が多い。去年、一人暮らしの方が亡くなった時、地域の方が気づいて、比較的すぐに見つかったことがあった。しかし最近は、高齢になって町会の回覧をやめてしまう人も出てきて、その人たちの情報が入らなくなった。高齢のため町会を抜けた方の情報共有は必要。
- ・地域の清掃を自発的にしてくれる人も何人かいる。町内もきれいに保たれている。
- ・記録が残るときは個人情報詳細に伝わりすぎないようにしている。どうしても困った時は包括センターなどに協力を求める。
- ・普段から包括センターと連絡がとれる仕組みは作れている。包括センターの職員が対応に来てくれることもある。親密な関係を持っていると思う。
- ・マンションで亡くなった方がいて、親族に連絡しないといけない状況があったが、連絡先がわからないことがあった。マンションでは、当初そのような時に連絡できるように情報がまとめており、今も多く世帯からは提供があるが、全ての世帯ではなく8割程度。

④ 優先的に取り組むべき事項（福祉サービスの適切な利用の促進のために）

- ・町内会で毎年避難訓練はしているが、会の集まりの際に災害が実際に起こったら、どのように対処したらよいのか分からない。
- ・サロン参加者の娘が鬱気味で、色々調べて電話などしたが、行政から思うような回答が得られなかったそう。やっとの思いで電話しており、自分であれば、相談するのが嫌になりそうだと感じた。相談窓口の一本化を進めて欲しい。
- ・時間や場所に制約があり、相談したいときに相談できる窓口ではないというのを実感した。消費者センターのように、いつでも電話すれば誰かが対応してくれるような、相談しやすい形にする必要がある。
- ・総合窓口による案内も、もっとしっかりと最後まで支援してくれるところに繋げてくれるような仕組みにしないといけない。他の部署に回すだけでなく、そこでしっかりと受け止めてくれる窓口がほしい。
- ・要支援者でなくても名簿登録している人がおり、使いにくい。実際の災害を想定して名簿を活用できるように見直していくべき。行政や消防が把握しているのかもしれないが、何が使いにくくて、どうしたら使いやすくなるか、一度実際の災害を想定してやってみてはどうか。
- ・歩道の整備を早急に進めて欲しい。

⑤ 優先的に取り組むべき事項（地域福祉に関する活動への住民の参加促進のために）

- ・毎年4月に、1年間の活動内容を決めるが、毎年似た内容となっている。新企画などあれば参加者も増えるかもだが、スタッフも高齢化してきて、新しいことを考えることも難しい。他団体でどのようなことを実施しているのか知りたい。
- ・民生委員も引き受けてくれる人がいない、スタッフに若い人が欲しいが、声をかけても難しい。肩書や役割を与えられるのが嫌という人が多い。お手伝いくらいならやってくれる人もいるが。
- ・民生委員も、活動は大変だと感じているが、民生委員へのやりがいなど、もっとわかりやすくあると増えるのかもと思う。知ってもらう機会や、やりがいが伝わるものがあると良い。
- ・社協の夏休み体験ボランティアを通じて、今よりも若い方が来てくれたり、学校支援のボランティアを通じて、少し年齢層が下がった。これからは、地域の若い母親のグループと連携して何かしらでき

ないか、と考えている。

- ・同じ施設で活動している団体とも繋がりたいと思っている。いきなり来てもらうのは難しく、関係づくりにも時間がかかると思うが、交流がないともったいない。アプローチを考えている。
- ・活動に学生を呼び込むのはどうか。朝霞市には学生が多くいる。大学で単位をとるために学生ボランティアが来たこともあったが、若い人が来ると雰囲気が大きく変わるため、そういう学生と連携する何か仕組みがあれば、役所にもお願いしたい。
- ・認知症にならない習慣など、参加者が興味を持つテーマがある。認知症にならないための対策として、ぜひサロンに参加してください、と呼び掛けている。
- ・団体同士が情報共有できる機会がないかと思っている。良い事例、活動結果などを共有したい。
- ・高齢者ばかりなので、移動も難しい。バスなどの支援もあればうれしい。
- ・イベントの支援など、来てくれる方がいればベストだがそういう人についての情報なども教えて欲しい。

⑥ 優先的に取り組むべき事項（包括的な支援体制の整備に関する事項として）

- ・女性たちだけであるが、町内の八百屋にいつも集まっており、それを町内会館でも出来たらいいと思う。何もしないけれど、ふらっと集まれるような場所。
- ・小学校の桜の木の下にベンチを設置してもらった。そのようなところも集まるのに利用されている。自然な形で話せるような場所が出来たら良いと思う。
- ・研修を実施するから集まって、と声をかけてもなかなか集まらない。研修を呼びかけるよりも、自然発生的に、住民同士が自然と情報交換や教え合いができるような場や仕組みがあれば良い。
- ・地区ごとに担当者がいて、何かあると担当者に相談できるようにしている。小さい範囲で、困った時にいつでも支援を必要とする当事者が話しやすい環境づくりが大切。
- ・役場まで遠いため、役場の近くで何か活動があってもなかなかいけない。サロンにきて情報を提供したり、お話ししてもらえると非常に助かる。
- ・マンションで避難訓練するが、放水の仕方を教わるだけで終わる。せっかくなので、そのような人が集まる機会を利用して、朝霞市ではこういう例がありました、こういう点に気を付けましょうなど、身近な例で防災に関する講話をしてもらえないか。

⑦ 福祉環境をよくするためのご意見・ご提言

- ・町内会で12月に餅つき大会があり、ついた餅を来た人に配るが、それにはお年寄りの方も子育て世代の人も結構来ている。そうした何かイベントをやると、普段外に出てこないような人も出てきやすい。コロナで中止していたが、去年から再開した。
- ・参加者を増やすために、他のイベントを通して活動参加につなげてもらったりすればよいと思う。
- ・町内は交流などしているほうで、問題があると各々で対処していたり、行事などもあるため住みやすい地域であると思う。
- ・声かけや見守りなど、地域の中で細かく目配りして活動するグループに対して、小さな助成でもいいので個人的な活動をする人たちが利用できる助成金に関する情報がもっと得られるとよい。
- ・災害時の支援、家族の病気時の支援など、障害者とその家族の困りごとを地域みんなで支える、絶対に取り残さない仕組みづくり、基盤づくりをしていけたら良い地域になると思う。
- ・参加者を増やすために、ラジオ体操で参加者にスタンプ押す、貯まったら景品をもらえるみたいな、

なにか参加したくなる楽しみがあればいいかも。ボックスティッシュを配る程度の補助はできないか。

- ・子ども、高齢者、障がい者というように分けなくて、分野で分けなくて、みんなと一緒に活動できるような形ができればよい。
- ・先駆的、効果的な活動の情報など、横に広げていける仕組みづくり。
- ・私たちが小さい頃は隣近所との関係性が深かったが、今はない。今は個人情報が、ということで難しいかもしれないが、もう少し気軽に互いを知り、交流ができる地域になれるとよいと思う。
- ・この地域は、何か問題があるとみんなで対処してくれる。環境もよいし、町内会でも行事がたくさんあり、とても住みやすいまち。

3 障害者分野

① 地域の問題点や課題について

- ・障害のある方への理解が不足している。
- ・家族、周囲の人できちんと理解している人は少ない。
- ・周りからの対応が変わるのではないかと、などの不安から言い出せないパターン。
- ・本人が統合失調症を理解しないパターンが多い。本人も含め、初期から理解が進んでいけば、こんなにも苦労しなくても済んだのに、ということも少なくない。発症自体は10代～20代に多いが、それも知られていない。教師もどこまで知っているのか。
- ・特に高次機能障害は外見ではわからない。記憶障害、疲れが出る。周りから何回聞くのか、と言われることで、本人はすごく落ち込む。まずは周囲に理解してもらわないと、本人や家族の負担も増えるばかり。
- ・障害の診断を受けても、どこに相談すればよいかわからない。相談に行けても、うまく話せない。本人だけだと、引きこもりになってしまう。
- ・事故に遭った場合、当初から全身の検査を受けていないと、後日脳機能の障害が見つかった場合、保険等の対応が受けられない。
- ・緊急時の対応体制わからない。緊急のことが起きて、障害児・者を預けないといけない場合、グループホームなどが制度上あるが、すぐには預かってもらえず、実際の役には立っていない。
- ・部屋を借りる費用、常に使える場所を確保したいが、空きがないと抽選になってしまうため、使いたいときに使えない、障害のある方だと、場所や日時を毎回変えると間違ってしまうことがあるので、同じ場所、同じ時間と固定的に使える場所があると良い。
- ・町内会館はバリアフリー化されておらず、行きづらい。予約など手続きもあるため、簡単に行けるようになれば尚よいが、難しい。

② ひきこもりの人への支援について

- ・通所施設に行きたがらないこどもは一定数いる。親が連れ出したりすることもあるが、やはりこどもの気持ちが大変であるため、なかなか改善されない。
- ・家族会、地域活動に参加している人は、外に出て参加しようという意思をもっている。8050問題、障がいをお持ちのお子さんの面倒を、高齢の親が見切れなくなる、という問題は、家族会や地域活動にアプローチして来ない人こそ問題になっている。
- ・周りの理解が得られないと思い込んで引きこもってしまうことのないように、どのようにアプローチしていくかは、それぞれのケースで考えていくしかない。正解はない。
- ・どうやって病院に行ってもらい、診断してもらうのか。そこからの問題かもしれない。
- ・親が介護疲れになっている。当人も通院が必要な状態であるが、キャンセルが続き、支援団体から面倒を見切れないと言われる事例もある。家族自体が疲れ切っている世帯をどう助けるかが問題。

③ 個人情報の共有について

- ・包括センターから紹介を受けた方、障害者関係の講演会に参加した方が団体のことを知り、参加の希望がきたこともある。
- ・統計的には障害を持った方はたくさんいるはずだが、実際に集まっているのは少なく、そのような隠

れた方々を見つけ出して支援していくことも必要。

④ 優先的に取り組むべき事項（福祉サービスの適切な利用の促進のために）

- ・障害を持っていても、家族会などのつながりを持たない方がたくさんいる。そのような人たちともつながっていきたい。
- ・専門領域について、領域が近い専門領域の知識持つ人とのつながりを作れると、もっと活かせたりすると思う。
- ・市で相談支援を統括できるような窓口があれば良い。
- ・日曜日にも移動支援が利用できるようになると良い。
- ・どのようなサービスがあるのか、当事者も家族も分かっていないことが多い。費用面の助成があるのかどうかなど。
- ・知らない人がどう支援を見つけることができるのか、が一番肝心。そのために家族会がある。専門職でなくても、家族会みたいなのがあると情報や経験を共有してもらえる。
- ・障害の診断を受けてから、支援サービスを受けるまでは、ほぼ自力での作業となっている。診断からサービスの利用開始まで、アウトリーチの支援が必要。
- ・医療と福祉の連携がとれればよい。漏れがないような仕組みづくりに向けて、朝霞市では医師会等との連携などを進める必要がある。

⑤ 優先的に取り組むべき事項（地域福祉に関する活動への住民の参加促進のために）

- ・地域の色々な方に障害を知ってもらい、理解してもらうのが良い。
- ・知らないは怖いにつながる。精神障害者の場合は施設に通っていることを近所にばれたくないこともある。周りからの理解とともに、当事者自身にも、周りの人とのコミュニケーションが大事であるとの意識づけも重要。
- ・障がい者が活動しやすい場が増えれば。地域でどんな仕事ができるのか、模索しているところ。障がい者ができる仕事を一緒につくってってもらえるとよい。
- ・地域住民とともに活動するようなことはないが、来てくださった方に障害を理解してもらえればと思っている。
- ・共助が地域住民に広がれば。顔見知り同士で、病院に連れていくだとか、買い物するだとか、そのような形でなにかネットワークができればよいと思っている。
- ・気軽に参加できるイベントが数多くあれば、参加者の数も増えると思う。

⑥ 優先的に取り組むべき事項（包括的な支援体制の整備に関する事項として）

- ・向こう三軒両隣のネットワークが広がっていけばよい。

⑦ 福祉環境をよくするためのご意見・ご提言

- ・朝霞市は、平均年齢は若い一方、隣近所との関係性は浅い。地域コミュニティをどのように築いていくかが重要。
- ・精神障害者にとっては、周りとの関係性が浅い方が住みやすいと考える場合もある。それでも、ある程度お互いを知ったうえでのコミュニケーションづくりが、これからの課題かと思う。
- ・お互いを知るための取組みを継続していく、長く続けていくことが大事だと思っている。

- ・理解をしてもらえれば地域で仕事をし、暮らしていくための環境も整ってくるかと思っている。
- ・統合失調症の場合は、一人暮らしできると一歩前に進めるということにもなるため、それを目安として持ちつつ、それは現状難しいため、環境が整っていけば良いと思う。
- ・成年後見人制度についても、朝霞市では市長申立てに支援が限定されているが、本人・家族からの申し立てについても支援を速やかに進めてほしい。
- ・気安く集える場所、いつ行っても誰かがいて、話や相談をできる場があると救われると思う。
- ・誰にでも問いかけられる、話を聞いてもらえる環境が必要だと思う。障害者だからではなく、一人の人間として話を聞いてもらえる、受け止めてくれる環境が必要だと思う。
- ・受け止めてくれる人が近くにいて、その輪が広がっていけば、行政だけに頼らず、自分たち地域でやっていけるのではないかなと思う。
- ・福祉的アプローチは昔から行っているが、最近は一般企業が色々なイベントを始めているため、そのようなところに障害者理解のブースを設けるなど、福祉ベースのイベントではなく、一般ベースのイベントに福祉の要素を入れるような形が良いと思う。民間の力を引き出していく取組を進めてもらいたい。

4 地域福祉活動分野

① 地域の問題点や課題について

- ・コロナ前と比べて、活動メンバーの人数が大きく減少してしまった。
- ・地域によっては、世帯が新旧で別れ、全く交流がない。
- ・古くからいる人たちは年齢が上がり、外に出なくなってしまうている。
- ・若い人との交流、地域との交流がない。
- ・町内会も人が減り、催し物も減っている。
- ・世代間の隔たりを感じる。子ども連れの若い人に手助けの気持ちで声をかけても、拒否反応を示されることがある。一度でも嫌な思いすると、もう声かけられない。世代間の交流が取りづらくなっていると、強く感じている。
- ・緊急時の対応体制について、実際に問題が起こった際、機能するのか。優先順位をつけて行動できるのか。地域の防犯活動メンバーも高齢化しており、災害時には助けられる側ともいえる。
- ・町内会の人たちに聞くと、自助の意識はあるが、共助の意識がない。行政がやってくれて当たり前と思っている人が多い。
- ・町内会を抜けるとごみ当番、集金等をしなくてよい、ということで、高齢になると抜ける人も出ている。
- ・新しく来た人との交流はない。こどもがいれば話しかけたりもできるが、そうでないとコミュニケーションをとるきっかけがすらない。もっとできたら民生委員としても活動範囲が広がる。
- ・民生委員を嫌がる人もいるので、町内会として聞くこともある。情報を聞くにも、誰に聞くか、どのような立場で聞くかなど、ひじょうに気をつかう。
- ・最低限の隣近所の付き合いができればと思うが、民生委員などの肩書がないと話しかけるのも難しい状況。
- ・交通マナーが大きな問題。歩道があまりない。狭い道に車と自転車が早いスピードで通る、バス停に行くだけでも気をつけていかないといけない、大変危ない。それぞれがマナーをわきまえないといけない。
- ・気安く集まる場所がない。高齢者のいきがい活動を支援する事業から補助が出ているが、人件費も出ず年中赤字で、集まるほど赤字となる。参加費がかかると来なくなることもある。お金をかけず、ふらっと来られるような場所と、常設できるよう人件費の補助があれば良い。
- ・バス停までも遠い人もいる。バスがあっても乗り継ぎが難しいこともある。集うところへの交通の問題は大きな課題。
- ・気楽に行ける場所がないため、他の目的があるような場に行って、そこで時間をつぶしたりしているような人もいる。色々な個性的な居場所があると良い。

② ひきこもりの人への支援について

- ・高齢になると、車や自転車の運転を家族に止められることが多い。講座への参加など興味があるけれど行くまでの足がない、バスはあるけど本数が少ない。出るのが億劫になり、引きこもりたくはないが、引きこもりにならざるを得なくなる。興味をもつものはあるが、足がないから引きこもってしまうというのも大きな要因の一つ。
- ・高齢者は、足が痛いなど、体調に問題があると外出がおっくうになってしまう。

- ・せめてバスが細かく運行されていれば、出るきっかけになる。
- ・無料で行ける場所があるとよい。
- ・老人会や包括センターから情報は得ているが、引きこもりの人の情報はあまり入らない。
- ・家族会の支援もとても重要。親子ともに支援を受けながら、徐々に外出頻度が高くなっていった例もある。
- ・行政からの訪問制度などもあれば頼りやすいのかなと思う。
- ・本人は支援を拒否しても、どのレベルであれば支援につなげた方が良いかなど、判断に迷うことがある。
- ・家族から、電話に絶対出ないように言われている人や、自分がかかる時以外は携帯の電源を切っている人もいる。今日の詐欺被害などへの警戒もあるかもしれないが、集まりに来なければ孤立してしまいそうな人と、思うように連絡が取れないケースもある。

③ 個人情報の共有について

- ・あまりにも個人情報保護が前に出過ぎて、気になる家庭を見つけても、民生委員としてその後どうなったかの確認、フォローができない。
- ・田舎では、お悔み欄に、住所、氏名、年齢など全て載っている。これを朝霞でやったらどうなのだろう、と感じた。怖い気もするが、誰かが亡くなっても、隣近所に誰も知らせないのも問題ではないか。
- ・情報を得てもそれをどこにあげていけばいいのか、本人家族が嫌がる場合もあり、難しい。
- ・シニアの体操教室を週1回実施しており、そこに参加する人同士の情報が安否確認にひじょうに役に立っている。
- ・自分たちには声かけくらいしかできていないが、声かけを当事者の家族に拒否されるようなこともある。そうした、課題をかかえる家族についての情報は、どこに上げていけばよいのか、ひじょうに悩む。
- ・地域や活動のつながりで、問題が見つかることもあるが、それを支援機関までどのようにつないでいくか、そこが組織立っていないので、線としてつながらない。時に、噂話のレベルで終わってしまう。
- ・朝のラジオ体操など、活動の前後の雑談が貴重な情報源。誰それがどうした、など、いろいろと情報が集まってくる。担当のケアマネさんよりも、当人の状況を把握していることもある。
- ・LINEでグループを作り、既読の頻度傾向などから安否確認をしている事例もあった。
- ・昔でいう、井戸端会議のような場があれば、もっと情報は共有できる。しかし今は、日中時間のある人は少ない。

④ 優先的に取り組むべき事項（福祉サービスの適切な利用の促進のために）

- ・支援制度や団体は、必要ないから知らない人が多い。啓蒙活動の足りなさもあると思う。
- ・制度を使った経験を人から聞かされるとわかりやすくなる。そのような意味でもふらっときて話をできるような場は重要。
- ・自分が困らないと、素通りしてしまう。困って初めて興味を持つ。
- ・包括支援センターや社協すらあまり知られていなかった。広報に毎月少しずつでもよいので、繰り返し伝えていくことが効果的なのでは。

⑤ 優先的に取り組むべき事項（地域福祉に関する活動への住民の参加促進のために）

- ・定年を迎えた後の人だと、福祉みたいな複雑なことをやりたがらない。やってくれる人は、いくつも

引き受けることになる。結果として、同じメンバーになる。

- ・講師は引き受けてくれるが、企画運営までは引き受けてくれないことが多い。
- ・単発ではやってくれても、続かない。
- ・一人ずつ地道に育てなければいけない。好きなところからやってもらい、徐々に定着してもらう。次のイベントでも同じ方に連絡することで、少しずつでも目的意識の醸成に繋がるかもしれないと思いやっている。
- ・定年後の人よりも、現役で働きながらボランティアで参加してくれる人の方が多い。
- ・活動を継続していく為の、基盤整備を進めることが重要。
- ・自分たちがやっていることの PR をもっともっとしていく必要がある。今の流れを見ていると、SNS で PR しているところが善、という傾向がある。
- ・社協にボランティア登録する人は、福祉への理解がある。そこで、いかに自分たちの活動へと導いていくかが大切。
- ・ボランティアといっても、無給でなければ来る人もいる。

⑥ 優先的に取り組むべき事項（包括的な支援体制の整備に関する事項として）

- ・どこまでを共助でやり、どこから公助につなげていくか、現場レベルできちんと整理しておく必要がある。
- ・単純なものでいいので、公助につなげる判断の基準や、つなげる仕組みがあればよい。
- ・支援団体など、地域の様々な社会資源が、もっと市民に知れ渡るような広報も必要。

⑦ 福祉環境をよくするためのご意見・ご提言

- ・朝霞では 80 歳を超えると女性の割合が増えている。そのようなところからヒントを得て、朝霞独自の政策や福祉活動ができると良いと思う。
- ・学校の整備でも、将来的な福祉利用も視野に入れながら進めてもらえると、朝霞らしい、福祉と教育の連携ができていいのではないか。
- ・どこまでが共助、公助か、基準を作る。

5 ヒアリング結果からみえる主な課題・方向性

居場所・活動場所について

- ・団体活動を進める上で、事前の予約や費用の問題なく、柔軟に使える場の提供が望まれる。
- ・既存の施設等も活用しながら、ふらっと立ち寄れる身近な居場所を重層的に展開することが望まれる。

情報提供・相談体制の充実について

- ・市や社協だけでなく、民間や企業等とも連携し、いつでも相談しやすい環境づくりが望まれる。
- ・相談に対応する人材の、対応力の向上が望まれる。
- ・市からの情報提供に SNS の活用が望まれる。
- ・支援を受けられずに困っている人を見つけるための仕組みづくりが望まれる。
- ・福祉サービスや相談機関、支援団体など、普段から広報などで繰り返し伝えていくことが望まれる。
- ・地区社協の創設が望まれる。

交流の機会づくりについて

- ・普段地域と関わる機会の少ない人に向けて、意図的に交流の仕組みを作ることが望まれる。
- ・ここに行けば、同じ境遇の人たちと出会える、という常設の場づくりが望まれる。
- ・民間と連携し、障害者理解の普及や交流を図っていくことが望まれる。

ひきこもり・不登校への支援について

- ・気になる家庭を、様々な立場の人の目で複眼的に見守り、サポートするネットワークづくりが望まれる。

個人情報の共有について

- ・情報の扱い方など、支援をする立場の人に対する研修が望まれる。
- ・朝霞市避難行動要支援者台帳の更新・共有と、実際の災害を想定した訓練の実施が望まれる。

活動の活性化について

- ・民生委員活動を、わかりやすく知ってもらう機会や、やりがい伝える機会づくりが望まれる。
- ・夏休み体験ボランティアや学校支援ボランティア等を通じた、若い世代とのつながりづくりが望まれる。
- ・先駆的、効果的な活動の情報などを、横断的に広げていく仕組みづくりが望まれる。
- ・誰もが活動の場に参加できるよう、道路環境・移動手段の充実が望まれる。

朝霞市らしい地域福祉の展開について

- ・市内に立地する大学キャンパスの学生・教員・施設等と連携した地域福祉活動の展開が望まれる。
- ・市の将来の人口動態等をふまえた活動の展開や施設等の整備を進めることが望まれる。
- ・共助で支えていたものを公助につなげる際の判断基準や、つなげる仕組みづくりが望まれる。

第5期朝霞市地域福祉計画・
第5期朝霞市地域福祉活動計画
策定にかかる
アンケート調査・グループヒアリング
結果報告書

発行：朝霞市 福祉部 福祉相談課 地域福祉係
TEL：048-463-1594（直通）
FAX：048-463-1025

発行年月：令和7年3月

I アンケート調査の概要

1 調査の目的

本調査は、第5期朝霞市地域福祉計画及び第5期朝霞市地域福祉活動計画の策定にあたって、一般市民、市内で福祉・医療・介護または教育・保育機関で業務を行う皆様の『地域福祉』に対するご意見を各々の計画に反映させるため、アンケート調査を実施しました。

2 調査概要

種別	対象	調査方法	調査期間
市民調査	市内在住の18歳以上の方 (無作為抽出)	郵送配布・ 郵送回収 及びWEBによる 本人回答方式	令和6年 11月8日(金) (児童生徒調査は11 月15日(金))～ 11月29日(金)
児童生徒 調査	市内の小学5年生、中学2年生、 高校2年生相当にあたる方		
専門職 調査	市内で福祉・医療・介護または 教育・保育機関で業務を行う方 (代表者)		
団体調査	市内に組織されている 福祉関係団体の方(代表者)	郵送配布・ 郵送回収による 本人回答方式	

3 集計・分析のための地区区分

区分	地区
地区1	大字上内間木、大字下内間木、宮戸、大字宮戸、朝志ヶ丘
地区2	東弁財、西弁財、三原、泉水
地区3	本町1・2丁目、溝沼1～5丁目、大字溝沼、膝折町3～5丁目
地区4	仲町、根岸台、大字根岸、大字台
地区5	青葉台、栄町、幸町、膝折町1・2丁目、大字膝折、本町3丁目
地区6	北原、西原、浜崎、大字浜崎、田島、大字田島、岡、大字岡、溝沼6・7丁目

4 回収結果

種別	配布数	有効回収数	有効回収率
市民調査	3,000 件	946 件	31.5%
児童生徒調査	1,000 件	341 件	34.1%
専門職調査	450 件	158 件	35.1%
団体調査	83 件	52 件	62.7%

5 報告書の見方

- ◇回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- ◇複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- ◇図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- ◇図表中の「n (number of case)」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。
- ◇本文中の設問の選択肢は簡略化している場合があります。
- ◇集計対象者総数（n）が少ない（10件未満）クロス集計については、分析文の記載を省略しています。

VI アンケート調査結果からみえる主な課題・方向性

1. 福祉関連の情報発信・周知

福祉制度や福祉関連機関の中には、認知度が低いものが多く見られることから、周知方法の改善を図るとともに、広報紙やホームページの他、SNS なども活用しながら、誰にでもわかりやすく、届きやすい情報発信を進めていくことが求められています。

- ・「朝霞市社会福祉協議会自体を知らない」が 43.0%で最多。【P27 市民:問 12】
- ・福祉のまちづくりを進めるために必要なことでは、「だれにでもわかりやすい福祉情報の提供」が 52.1%で最多。【P64 市民:問 30】
- ・生活困窮者自立支援制度については、「制度名は知っているが、内容は知らない」が 46.5%で最多。【P64 市民:問 31】
- ・朝霞市の情報を今後何から入手したいかでは、「朝霞市の広報紙『広報あさか』」が 65.4%、「朝霞市のホームページ」が 54.3%、「SNS」が 29.4%。【P65 市民:問 32】
- ・成年後見制度については、「制度名は知っているが内容は知らない」が 50.5%で最多。【P67 市民:問 33】
- ・地域福祉に関する活動への住民の参加促進のために、優先的に取り組むべき事項では、活動に必要な情報の入手」が 41.8%と最多。【P157 専門職:問 16】
- ・地域における福祉サービスの適切な利用の促進のために優先的に取り組むべき事項では、「福祉サービスの利用に関する情報提供」が 38.0%と最多。【P149 専門職:問 14】
- ・地域における福祉サービスの適切な利用の促進のために優先的に取り組むべき事項では、「福祉サービスの利用に関する情報提供」が 36.5%と最多。【P190 団体:問 11】

2. 相談支援体制の強化

生活上の問題や悩み事は多岐にわたっていますが、そうした中、必要な支援を受けられていない人や、どこに相談してよいか分からない人も少なくありません。福祉のまちづくりに向けて、プッシュ型・アウトリーチ型（おせっかい型）の相談体制づくりなど、これまで相談や支援につながりを持ちにくかった人たちを想定し、相談支援体制を強化していくことが求められています。

- ・生活上の問題や悩み事についての相談や支援では、「問題や悩み事は特にない」が 43.1%と最多であるが、「ほとんど支援を受けていない」が 13.1%、「どこに相談してよいか分からない」が 8.5%【P13 市民:問 8】。〔18～29 歳〕では、「どこに相談してよいか分からない」が 15.9%で他の年代と比べて高い。【P14 市民:年齢別クロス】
- ・福祉のまちづくりを進めるために必要なことでは、「相談支援体制の整備」が 27.0%で 3 番目に高い。【P64 市民:問 30】
- ・地域における福祉サービスの適切な利用の促進のために優先的に取り組むべき事項では、「相談体制の確保」が 2 番目に多い。【P149 専門職:問 14】

3. 子育て支援の充実

子ども・若者支援に関して、優先的に解決すべき事項としては、子どもへの虐待や、ひとり親家庭、共働き家庭、乳幼児のいる家庭への支援をはじめ、不登校児やその家族、ヤングケアラーへの支援などが上位に挙がっています。

また、家庭や学校以外にも、子どもたちが安心して過ごせる居場所を確保するとともに、保護者も孤立しないよう、相談の場や交流の機会づくりが求められています。

- ・ 5年前と比べて暮らしやすいかについて、〔18歳未満の子がいる〕家庭では、「居住期間が短くわからない」が44.0%と他と比べて高い。【P18 市民:問9 家族内被支援者別クロス】
- ・ これからの地域福祉の取組についての意見では、「保育園」などサービスの充実の他、「子どもの居場所、遊び場の充実」などが見られた。【P70 市民:問35 自由記述】
- ・ 子ども・若者支援に関して優先的に解決すべき事項では、「子どもへの虐待防止対策」が30.4%、「ひとり親家庭の子育て支援」が26.6%、「共働き家庭の子育て支援」が25.9%、「不登校児および家族への支援」が25.3%、「乳幼児期の子どもを抱える家庭への支援」が20.9%、「ヤングケアラーへの支援」が17.1%。【P87 専門職:問4】
- ・ 〔ひとり親家庭の子育て支援〕についての解決策では、子どもの居場所の確保や、保護者も不安を解消できる専門の相談機関や集まりなどを求める意見が挙がっている。【P89-90 専門職:問4 自由記述】
- ・ 〔不登校児および家族への支援〕についての解決策では、フリースクールなど学校への登校以外の選択肢を求める意見や、家族も安心できる場や相談相手を求める意見が挙がっている。【P96-97 専門職:問4 自由記述】

4. 高齢者支援の充実

5年前との暮らしの変化を伺ったところ、高齢者のみ世帯にとって、暮らしにくくなったと感じる割合が1割を超えています。また、高齢者から、生活上の不安の声が多く寄せられています。高齢者世帯の日常生活への支援をはじめ、孤立防止、社会参加、生きがいにづくりに向けた支援が求められています。さらには、介護・介助を行う家族に対する支援など、地域が連携して支援に取り組むことが重要です。

- ・ 5年前と比べて暮らしやすいかでは、〔高齢者（65歳以上）のみである〕家庭で「あまり変わらない」が53.2%と最多であるが、「暮らしやすくなった」が6.4%と他と比べて低く、「暮らしにくくなった」が10.9%と他と比べて高い。【P18 市民:問9 家族内被支援者別クロス】
- ・ 高齢者支援に関して優先すべきことでは、「高齢者世帯の生活支援（声かけ、安否確認、買い物支援など）」が50.0%、「孤立（孤独死）防止対策」が41.3%、「高齢者の社会参加や生きがいにづくりの支援」が31.5%、「介護者、介助者への情報提供などの支援」が26.1%。【P31 市民:問16】
- ・ 誰もが安心して暮らすことができる、人と人との支え合う地域福祉を進めるための自由意見では、「お祭りやイベントの増加」や「高齢者との交流や子ども同士の交流など、市民の交流機会の創出」に関する意見が見られた。【P82 児童生徒:問11】
- ・ 高齢・介護に関して、優先的に解決すべき事項では、「高齢者の社会参加や生きがいにづくりに対する支援」が41.8%で最多、次いで「独居高齢者への支援」が32.3%。【P101 専門職:問5】
- ・ 今後、情報交換や連携を深めたい理由として、サービス利用者である高齢者から、生活上の不安の声を聞くことが多い、との意見が見られた。【P145 専門職:問13-1】

5. 障害者支援の充実

5年前との暮らしの変化を伺ったところ、障害のある人たちにとって、暮らしやすさが向上している割合が高くなっています。一方で、障害のある人が地域で自立して生活するためには、バリアフリー環境の整備や障害に対する理解をはじめ、介護者、介助者に対しては、情報提供など、地域ぐるみの取組が求められています。

また、障害者のいる家族では、身近に虐待を見聞きする割合が高くなっていることから、虐待防止に向けた一層の取組と支援が求められています。

- ・5年前と比べて暮らしやすいかについては、〔障害福祉のサービスを受けている〕家族で「暮らしやすくなった」が18.0%と他と比べて高い。【P18 市民:問9 家族内被支援者別クロス】
- ・障害者支援に関して優先すべき事項では、「障害のある人が地域で自立して生活するための支援」が54.0%で最多、次いで「バリアフリー環境の整備」が41.8%、「障害のある人に対する地域の理解、交流の支援」が30.5%【P33 市民:問17】。〔障害福祉のサービスを受けている〕家族では、「障害のある人が地域で自立して生活するための支援」が60.0%、「介護者、介助者への情報提供などの支援」が40.0%と他と比べて高い。【P34 市民:家族内被支援者別クロス】
- ・身近な地域で、虐待（児童、高齢者、障害のある人）の状況を見たり聞いたりしたことがあるかでは、「ある」が5.6%【市民 P41 問21】。〔障害福祉のサービスを受けている〕家族では「ある」が12.0%と他と比べて高くなっている。【P43 市民:家族内被支援者別クロス】
- ・障害者支援に関して、優先的に解決すべき事項では、「障害のある人に対する地域の理解、交流の支援」が36.7%で最多、次いで「障害のある人が地域で自立して生活するための支援」が35.4%。【P111 専門職:問6】

6. 地域コミュニティ・地域活動の活性化

5年前との暮らしの変化を伺ったところ、近所付き合いが希薄化しており、新たな交流も生まれにくい状況がうかがえます。暮らしにくさと、近所付き合いの減少に相関も見られる中で、近所付き合いを深めるきっかけとなる、地域での交流の場や交流機会の創出が求められています。

また、現在活動していなくても、今後何らかのコミュニティ活動をしてみたいと考える人や、日常生活の様々な場面で手助けできると考えている人が多くいることがうかがえます。こうした潜在的な地域力を、積極的に活かす仕組みづくりも求められています。

- ・5年前と比べた普段の近所付き合いでは、「近所付き合いに大きな変化はない」が45.8%で最多、次いで「居住期間が短くわからない」が28.1%、『減った』が12.2%。一方、『増えた』は5.6%にとどまる【P19 市民:問10】。5年前と比べた〔暮らしやすさ別〕では、〔暮らしにくさ〕と〔近所付き合いの減少〕に相関がみられる。【P22 市民:暮らしやすさ別クロス】
- ・普段の近所付き合いの今後の希望では「現状のままでよい」が74.8%、「近所付き合いを深めたい」が12.2%、「近所付き合いをなるべくしたくない」が8.5%。【P23 市民:問11】
- ・「近所付き合いを深めたい」と回答した人の中では、近所付き合いを深めるためのきっかけとして、「気軽に集える場所」が45.2%と最多、次いで「趣味を通じたサークル活動」が41.7%、「地域の見守り、声かけ活動」が36.5%。【P26 市民:問11-1】
- ・日頃コミュニティ活動をしているかでは、「特にない」が76.3%と最多。【P45 市民:問23】
- ・今後機会があればしてみたいコミュニティ活動では、「特にない」が44.4%、「スポーツ・レクリエー

- ・ ションなどの活動」が 22.4%、「祭りや各種イベントなどの地域活動」が 20.0%。【P48 市民:問 24】
- ・ コミュニティ活動に参加して良かったと思うことでは、「特にない」が 49.0%と最多。次いで「年齢の異なる人と交流できた」が 12.6%、「新しい仲間ができた」が 11.9%。【P52 市民:問 25】
- ・ 今後、地域の人を手助けできることでは、「安否確認の声かけ」、「話し相手」、「日用品などのちょっとした買い物」、「電球交換などのちょっとした作業」、「ごみ出し」、「散歩の付き添い」、「近所のイベントの手伝い」で、それぞれ3割を超える。【P53 市民:問 26】
- ・ 今後、地域で参加したいと思う活動では、「お祭りや伝統行事」が 66.3%と最多、次いで「スポーツ活動や文化活動」が 43.7%、「外国人との交流活動」が 28.4%。【P81 児童生徒:問 10】
- ・ 団体活動を通じて感じる、地域の問題点や課題では、「地域の中で気軽に集まれる場が少ない」が 44.2%と最多、「隣近所・世代間の交流が少ない」が 36.5%と3番目に高い。【P185 団体:問 6】
- ・ すべての市民が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるためには、どのようなことが必要かでは、「地域の人が交流できる場の整備」が 59.6%と最多。【P189 団体:問 10】

7. 防災・防犯対策の強化

近年の自然災害の多発等を受け、「災害時の安否確認や避難誘導などの防災活動」を重視する割合が高くなっています。特に、介護・介助を要する家族で、ニーズが高くなっています。

一方で、防災訓練への参加割合の低さや、振り込め詐欺などの消費者被害防止が優先事項として上げられるため、情報伝達をはじめとする防災・防犯対策などの備えも十分ではないとの意見がみられます。

身近な地域での実践的な防災訓練への参加や、災害時の安否確認、避難誘導、防犯カメラの設置など、防災・防犯対策の充実が求められています。

- ・ 地域の防災訓練に参加しているかでは「はい」が 7.7%。【P54 市民:問 27】
- ・ 災害時に避難の手助けが必要かでは「はい」が 12.8%。【P54 市民:問 27】
- ・ 災害時に避難の手助けが必要な近所の人に手助けすることができるかでは「はい」が 43.2%。【P54 市民:問 27】
- ・ その他の支援に関して、今後優先すべきことでは「災害時の安否確認や避難誘導などの防災活動」が 48.8%で最多【P35 市民:問 18】。また、〔家族の介護・介助をしている〕家族では 71.1%。【P37 市民:家族内被支援者別クロス】
- ・ 今後、朝霞市及び朝霞市社会福祉協議会で福祉のまちづくりを進めるために必要なことでは、「災害時・緊急時の防災・安全対策の充実」が 28.3%で2番目に高い。【P64 市民:問 30】
- ・ これからの地域福祉の取組についての意見では、防犯・防災に関して、「防災無線の聞き取りにくさ」、「防犯対策の強化」などに関する意見があった。【P70 市民:問 35】
- ・ 今までに、地域で参加したことがある活動では「避難訓練や防災活動」が 36.1%と3番目に高い。【P80 児童生徒:問 9】
- ・ 誰もが安心して暮らすことができる、人と人が支え合う地域福祉を進めるための意見として、防犯・防災に関しては、「街灯の増設」「防犯カメラの設置」「見回りの強化」に関する意見があった。【P82 児童生徒:問 11】
- ・ その他の支援に関して、優先的に解決すべき事項では、「災害が発生した際の安否確認や避難誘導などの防災活動」が 36.1%と最多、次いで「振り込め詐欺などの消費者被害の防止などの防犯活動」が 20.9%。【P119 専門職:問 7】

8. 生活困窮者への支援

その他の支援に関して優先すべきこととして、生活困窮者への支援、就労支援、子どもの貧困対策などが挙げられていますが、特にひきこもりの状態の人がいる家庭で、経済的な支援を求める割合が高くなっています。一方で、支援制度についての普及が進んでいない状況がうかがえます。

今後は、支援を必要とする人に対して、様々な分野が連携し、支援や情報提供を図ることが求められます。

- ・子ども・若者支援に関して今後優先すべきことについて、〔ひきこもりの状態である〕人のいる家族では「子どもの貧困対策」が40.0%、「ヤングケアラー対策」が33.3%となっている。【P30 市民:問15 家族内被支援者別クロス】
- ・その他の支援に関して優先すべきことについて、〔ひきこもりの状態である〕人のいる家族では「生活困窮者への支援」が46.7%、「仕事に就けない人への就労支援」が40.0%となっている。【P37 市民:問18 家族内被支援者別クロス】
- ・生活困窮者自立支援制度については「よく知っている」が3.4%、「制度を知っているが内容は知らない」が46.5%、「制度名も内容も知らない」が45.3%。【P64 市民:問31】

9. 外国籍市民への支援

5年前との暮らしの変化を伺ったところ、外国籍の人たちでは、暮らしやすくなったとする割合、暮らしにくくなったとする割合ともに、他と比べて高い傾向が見られます。

外国籍市民については、言語支援や文化交流などを通じた、相互理解の重要性や、教育支援では本人だけでなく家族への支援も必要であるなど、幅広い支援の必要性が指摘されています。一方で、外国籍市民は「近所付き合いを深めたい」とする割合も高く、スポーツ活動など、外国籍の人たちのニーズを踏まえつつ、地域での交流機会を創出していくことが求められています。

- ・5年前と比べて暮らしやすいかについては、〔外国籍である〕人のいる家族で「暮らしやすくなった」が16.7%と他と比べて高い。一方で、「暮らしにくくなった」も12.5%で他と比べて高い。【P18 市民:問9 家族内被支援者別クロス】
- ・普段の近所付き合いの今後の希望について、〔外国籍である〕では「近所付き合いを深めたい」が他の区分と比べて高い。【P25 市民:問11 家族内被支援者別クロス】
- ・今後してみたいコミュニティ活動について、〔外国籍である〕では「スポーツ・レクリエーションなどのサークル活動」が37.5%と他と比べて高い。【P50 市民:問24 家族内被支援者別クロス】
- ・その他の支援に関して、解決に向けた意見では、言葉の支援や、相互の文化を知るためのコミュニケーションの場などの必要性が挙げられている。【P126 専門職:問7 自由記述】
- ・団体活動上の課題解決に向けた意見では、児童生徒本人だけでなく、保護者への支援も必要との意見が見られる。【P200 団体:問13 自由記述】
- ・今後、地域で参加したいと思う活動では、「外国人との交流活動」が28.4%と3番目に高い。【P81 児童生徒:問10】

10. 交通・移動環境の充実

交通・移動環境に関しては、道路や歩道の整備と安全対策、コミュニティバスの充実や増便を求める意見が見られます。特に、児童生徒から、道路・交通の改善に関する要望が多くなっています。また、高齢者や障害のある人等の外出支援も求められています。

今後は、国・県等と連携し、インフラの維持・充実を図るとともに、市民の活動・交流の活性化に向けて、移動手段の充実を図ることが求められています。

- ・これからの地域福祉の取組についての自由意見では、「道路や歩道の整備、安全対策」「コミュニティバスの充実、増便」に関する意見がみられる。【P69 市民:問 35】
- ・誰もが安心して暮らすことができる、人と人との支え合う地域福祉を進めるための自由意見では、「道路や歩道の整備・安全対策」「自転車道の整備」「交通ルールの遵守」に関する意見がみられる。【P82 児童生徒:問 11】
- ・「高齢者、障害のある人等の外出支援」の解決に向けた自由意見では、「タクシー券の配布」、「移送サービス」「生活サポート」の充実に関する意見がみられる。【P124-5 専門職:問 7】

11. 専門職や団体への支援・ネットワークづくり

団体活動の中では、新規の活動メンバーの不足や活動者の高齢化が大きな課題となっており、単発でも、市民が気軽に活動へ参加することが望まれています。

また、専門職や地域の支援団体等は、様々な連携とネットワークの中で、情報共有や助け合いを行っています。しかし、支援を要する人の情報入手が困難な状況も見られます。そのため、活動を進める上で団体間の連携・ネットワークの強化への支援が求められています。

- ・現在、情報交換を行ったり、連携をしている相手については、「市役所」が 80.4%と最多、次いで「地域包括支援センター」が 56.3%、「民生委員・児童委員」が 45.6%。【P139 専門職:問 12】
- ・今後、情報交換や連携を深めたい相手については、「市役所」が 47.5%と最多、次いで「地域包括支援センター」が 39.9%、「自治会・町内会」「民生委員・児童委員」が 31.6%。【P144 専門職:問 13】
- ・地域における福祉サービスの適切な利用の促進のために優先的に取り組むべき事項では、「支援関係機関間の連携」が 29.7%と 3 番目に多い。【P149 専門職:問 14】
- ・活動を行う上で地域にある他の団体・機関等との交流や連携、協力関係があるかでは、「社会福祉協議会」が 84.6%と最多、次いで「市役所」が 71.2%、「地域包括支援センター」が 46.2%。【P173 団体:問 1】
- ・団体活動上の困りごとでは、「新しい活動者が入らない」が 55.8%で最多、次いで「活動者の高齢化」が 36.5%、「支援を必要とする人の情報が得にくい」が 32.7%、「市民に情報発信する場や機会が乏しい」が 30.8%。【P176 団体:問 2】
- ・団体活動上の困りごとを解決するために、どのような機関・団体と連携したいかでは、「社会福祉協議会」が 70.2%と最多、次いで「市役所」が 68.1%、「地域包括支援センター」が 38.3%。【P179 団体:問 2-2】
- ・市民の方が団体活動に単発で参加することについて「単発で良いので気軽に参加してほしい」が 44.2%と最多。【P183 団体:問 5】

Ⅶ グループヒアリングの概要

1 調査の目的

本調査は、第5期朝霞市地域福祉計画及び第5期朝霞市地域福祉活動計画の策定にあたって、市内で福祉に関する活動を行う団体の『地域福祉』に対するご意見を各々の計画に反映させるため、実施しました。

2 調査概要

実施日	令和7年1月29日（水）
実施場所	朝霞市総合福祉センター（第1会議室）
対象団体	第5期朝霞市地域福祉計画・第5期朝霞市地域福祉活動計画策定に係るアンケート調査で参加の承諾をいただいた14団体
対象分野	子ども、高齢者、障害者、地域活動の4分野

5 ヒアリング結果からみえる主な課題・方向性

居場所・活動場所について

- ・団体活動を進める上で、事前の予約や費用の問題なく、柔軟に使える場の提供が望まれる。
- ・既存の施設等も活用しながら、ふらっと立ち寄れる身近な居場所を重層的に展開することが望まれる。

情報提供・相談体制の充実について

- ・市や社協だけでなく、民間や企業等とも連携し、いつでも相談しやすい環境づくりが望まれる。
- ・相談に対応する人材の、対応力の向上が望まれる。
- ・市からの情報提供に SNS の活用が望まれる。
- ・支援を受けられずに困っている人を見つけるための仕組みづくりが望まれる。
- ・福祉サービスや相談機関、支援団体など、普段から広報などで繰り返し伝えていくことが望まれる。
- ・地区社協の創設が望まれる。

交流の機会づくりについて

- ・普段地域と関わる機会の少ない人に向けて、意図的に交流の仕組みを作ることが望まれる。
- ・ここに行けば、同じ境遇の人たちと出会える、という常設の場づくりが望まれる。
- ・民間と連携し、障害者理解の普及や交流を図っていくことが望まれる。

ひきこもり・不登校への支援について

- ・気になる家庭を、様々な立場の人の目で複眼的に見守り、サポートするネットワークづくりが望まれる。

個人情報の共有について

- ・情報の扱い方など、支援をする立場の人に対する研修が望まれる。
- ・朝霞市避難行動要支援者台帳の更新・共有と、実際の災害を想定した訓練の実施が望まれる。

活動の活性化について

- ・民生委員活動を、わかりやすく知ってもらう機会や、やりがい伝える機会づくりが望まれる。
- ・夏休み体験ボランティアや学校支援ボランティア等を通じた、若い世代とのつながりづくりが望まれる。
- ・先駆的、効果的な活動の情報などを、横断的に広げていく仕組みづくりが望まれる。
- ・誰もが活動の場に参加できるよう、道路環境・移動手段の充実が望まれる。

朝霞市らしい地域福祉の展開について

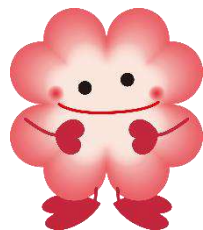
- ・市内に立地する大学キャンパスの学生・教員・施設等と連携した地域福祉活動の展開が望まれる。
- ・市の将来の人口動態等をふまえた活動の展開や施設等の整備を進めることが望まれる。
- ・共助で支えていたものを公助につなげる際の判断基準や、つなげる仕組みづくりが望まれる。

第5期朝霞市地域福祉計画・第5期朝霞市地域福祉活動計画
策定に関する地域懇談会

朝霞の「ふくし」考えてみませんか 2024
実施結果報告書



©むさしのフロントあさか



アーシャ♥るくるん

令和7年2月

朝霞市・朝霞市社会福祉協議会

◆ 目 次 ◆

1 懇談会の実施概要.....	1
1-1 実施目的.....	1
1-2 実施日時・場所・参加人数	1
1-3 募集方法	1
1-4 懇談会の全体プログラム	2
2 実施結果.....	3
2-1 第1回.....	3
2-2 第2回.....	5
2-3 第3回.....	7
2-4 第4回.....	9
2-5 第5回.....	11
2-6 第6回.....	13
3 地域懇談会後アンケート集計結果(全 6 回合計)	15
4 参考資料.....	21
4-1 オリエンテーション①資料	21
4-2 オリエンテーション②資料.....	27

1 懇談会の実施概要

1-1 实施目的

第5期朝霞市地域福祉計画及び第5期朝霞市地域福祉活動計画の策定にあたり、市民の方が普段の地域生活の中で感じていることや、地域で課題と感じていることを伺い、それらに対して自助、互助の観点で意見を出し合うことで、計画における取り組みの参考とすることを目的として実施しました。

1-2 実施日時・場所・参加人数

	日時	場所	参加人数
①	令和6年11月26日(火) 14:00~16:00	根岸台市民センター	17人
②	令和6年11月27日(水) 14:00~16:00	膝折市民センター	15人
③	令和6年11月28日(木) 14:00~16:00	宮戸市民センター	18人
④	令和6年12月5日(木) 14:00~16:00	産業文化センター	20人
⑤	令和6年12月6日(金) 18:30~20:30	コミュニティセンター (中央公民館内)	22人
⑥	令和6年12月7日(土) 10:00~12:00	総合福祉センター (はあとぴあ)	14人

1-3 募集方法

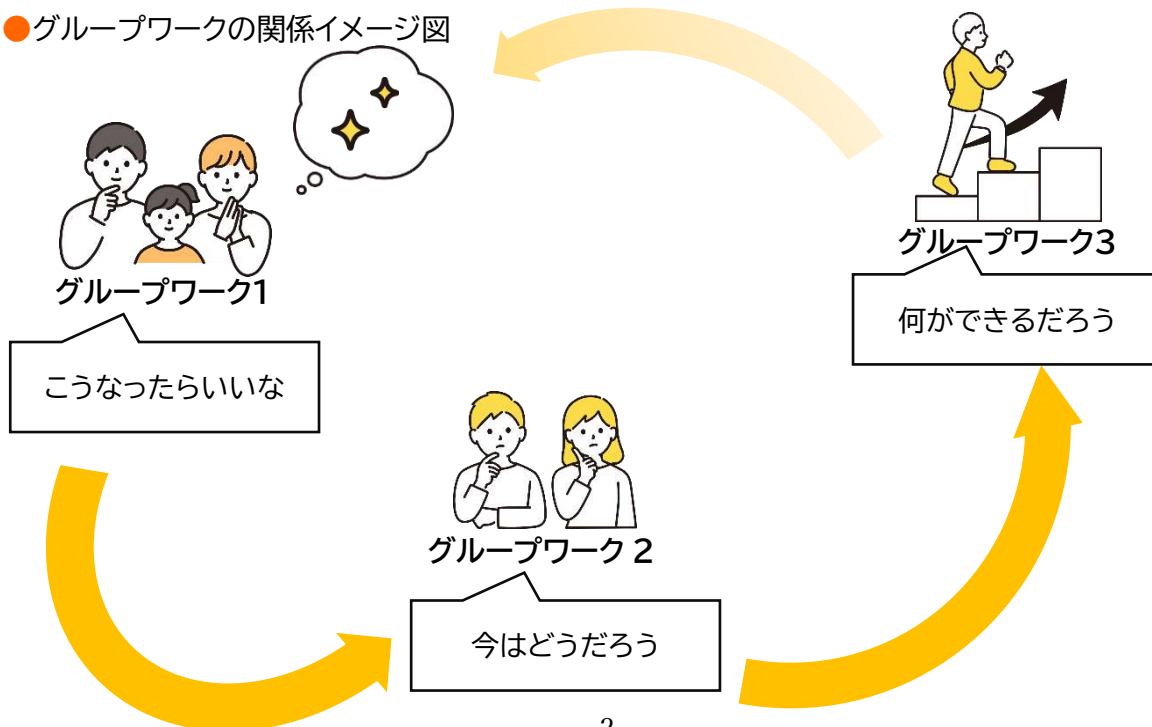
朝霞市社会福祉協議会のホームページ、SNS で周知した他、「広報紙あさか」に掲載しました。また、チラシを作成し配布、掲示を行いました。チラシの配布・掲示先は以下の通りです。

チラシ配布・掲示先	
1. 自治会・町内会	7. 市内高等学校
2. 社会福祉協議会理事・監事・評議員	8. 東洋大学
3. 各事業参加者・講座参加者	9. 市内企業
4. 地域福祉活動団体・ボランティア団体	10. 民生委員児童委員
5. 市内公共施設	11. シニアクラブ連合会
6. 市内福祉施設	12. 市掲示板

1-4 懇談会の全体プログラム

オリエンテーション①	「地域福祉」や「懇談会の目的・進め方」について説明を行いました。
オリエンテーション②	「統計からみる市の現状」について説明を行いました。
アイスブレイク	自己紹介を兼ねて参加者同士でアイスブレイクを行いました。
グループワーク①	テーマ「<u>5 年後の朝霞市 ～こうなったらいいな～</u>」 5 年後の朝霞市が「こうなったらいいな」というイメージを付箋に書いたのち、内容をグループ内で共有しました。
グループワーク②	テーマ「<u>2024 年の朝霞市 ～今の朝霞市はこんなまち～</u>」 グループワーク①で出た意見の「現在の状況」をグループ内で共有し、将来の姿と現在の状況に違いがあれば、どのような違いがあるかを深掘りしました。
～休憩～	
グループワーク③	テーマ「『<u>こうなったらいいな</u>』を目指して ～何ができるだろう？～」 グループワーク①で話した地域にしていくために、どのようなことができるかを付箋に書き出し、内容をグループ内で共有しました。さらに、書いた内容を「自分を含めた近隣住民ができること」・「組織的に取り組むこと」に分類しました。
発表	各班で検討した内容を発表し、全体で情報の共有を行いました。

●グループワークの関係イメージ図



2 実施結果

[illegible]

① 实施概要

実施場所:根岸台市民センター

実施日時:令和6年11月26日(火) 14:00~16:00

参加人数:17 人



②グループワークで挙げたテーマ・キーワード

◇見守り ◇交流の場 ◇近所付き合い ◇交通移動 ◇子育て ◇健康 ◇在宅で暮らせる
◇高齢者 ◇サービス ◇防犯 ◇公共施設

③テーマ・キーワード別の主な意見

テーマ	グループワーク1 (こうなったらいいな)	グループワーク2 (今の朝霞はこんなまち)	グループワーク3 (何ができるだろう)
見守り・交流の場・近所付き合い	・地域で子どもを見守る ・近所の人と助け合いができる ・近所に誰が住んでいるか分かる(顔の見える関係性を築く) ・災害時に助けてくれる人がいる ・近くに交流できる場(おしゃべりできる場)が増える	・隣近所で声を掛け合い、挨拶もしている ・若い世代や、引っ越してきた人の挨拶がなく、顔が分からない ・地域の人との交流が少ない ・交流の場の情報が少ない ・町内会を抜ける人がいる	・自分から近所の人とあいさつをする ・近所でお互いに協力し合う(ゴミを出してあげる) ・お互い協力して見守りをする ・町内会としてイベントを企画する ・地域のイベントに参加する ・公民館などで交流を行う ・SNS を利用する
交通移動	・移動支援が増える ・街灯を増やし、夜間でも歩きやすくなる ・高齢者が気軽に利用できる交通手段が増える ・歩道が整備され、交通インフラが充実する	・交通マナーを守る人多い ・自転車を利用している人が多い ・市内バスの運行が少ない(夜) ・バス、タクシーが来ない ・坂道や段差が多く、狭い道が多い ・天候が悪いと移動が難しい ・移動支援や生活サポート事業所の人手が不足している	・交通ルールを守る ・車の乗り合わせなど、近所で声掛けをする

子育て	・子育て世代が利用できる施設の増加など、支援体制が充実する ・子育て支援団体と自治体の連携が充実している ・保育料など子育てに掛かる負担が軽減する	・子育て支援団体が多いが、自治体とのつながりが少ない ・年代によって保育料に差がある ・0歳児を受け入れてくれる保育園が少ない	・育児支援講座や子育てサロン交流会を実施し、保護者が情報を得られる機会を増やす ・学校教育の他に、家庭内での教育を行う
健康・在宅で暮らせる	・健康になれる町づくりに取り組む ・高齢になっても自宅で暮らせるように、訪問介護などが充実する	・運動施設の料金が安い ・施設入所の料金が安い	・生きがいを持てることを見つける ・日課である散歩を継続し、健康を維持する

《その他の意見》

- ◇ 補助金や助成金を増やしてほしい
- ◇ 最近は詐欺や不審な電話があり怖いと感じる
- ◇ 情報を得るツールとしてスマホが主流となってきたが、スマホの扱いが難しい
- ◇ 多様性を認め合える地域になるためには学校教育が重要だと思うが、教育内容が社会に追い付いていないように感じる



防犯・防災	・地震など災害に強い街づくりを行う ・子どもたちが外で遊べる環境づくりを行う ・照明を増やして、夜間でも安心できる街になる ・近隣住民同士に挨拶が増えることで不審者が減る	・詐欺の電話が多い ・公衆トイレがしっかりと管理されていない ・街灯が少なく暗い場所がある	・公衆トイレをきれいに保つ ・子どもや若い世代にも防災活動(火の用心の見回り活動)に参加してもらう
情報	・必要な情報が簡単に取得できるようになる ・町内会へ加入することのメリットが発信できる ・SNS などの情報発信ツールだけではなく、紙媒体での周知も継続する ・スマホの使い方を学べる機会や場所が増える	・情報がデジタル化され、情報収集が難しい ・町内会に入りたいと思える情報を発信できていない	・デジタルツールと紙媒体の両方を使った周知を行う ・スマホ、IT 教室を開催する ・情報を得るために、地域の場に参加する ・加入している町内会の良さをPR する
高齢者	・高齢者が生きがいを持って地域で暮らせる ・高齢者が利用できる移動手段が増える ・支援サービスが充実する	・高齢者に優しい街	・独居の高齢者に積極的に声を掛ける

《その他の意見》

- ◇ 公共施設などで車いすの貸し出しができると良い
- ◇ 車イスや歩行器などで歩きやすいように、バリアフリー化が進むと良い
- ◇ 遠くへの買い物が難しい人のために、移動販売や移動スーパーの利用ができると良い
- ◇ 身近な地域にサロンがあることを地域懇談会で知ることができた



防犯・防災	・街灯を増やして、夜間でも安心できる街になる ・地域全体がきれいになり、空き家がなくなる ・防犯、防災に関する支援が充実している ・災害に強い街になる	・街灯が少ない ・空き家が増えている	・地域住民全員で防犯意識を高める ・清掃活動を地域住民で行うように呼び掛ける ・災害備蓄品の保管状況を分かりやすくしておく ・災害時に集合できる場所を確保しておく
交通移動手段	・出かけた際にちょっと休憩できる場所が市内に増える ・バリアフリー化が進み、誰でも外出し易い街になる ・移動支援が充実している	・遊歩道があって、花を見ながら散歩ができる ・バスのルート、ダイヤが不便	

《その他の意見》

- ◇ 朝霞市の特徴を聞かれても答えが出てこない
- ◇ 朝霞市民はやさしさと協調性があり、積極的に関わると充実感がある
- ◇ 福祉を支える専門職の育成が必要
- ◇ 相談内容によって窓口がそれぞれ違うので、相談の窓口を一本化できると良い
- ◇ 若い世代の考えや意見を聞き、若者と協働して活動を行いたい



交通移動	・公共バスなど交通の便がよくなる ・高齢になっても、行動できる移動手段がある ・歩きやすく安全な歩道が増える ・散歩中に休憩できるベンチが増える ・買い物のための移動支援が充実する	・道路が狭く、歩行に危険を感じる ・バスの本数が減り移動手段がない ・高齢者の交通費助成金がある（バス、電車限定）	・乗合タクシーの活用 ・自分で歩けるように、健康事業に参加する ・地域の企業や事業所に働きかけ協力してもらう
高齢者	・相談窓口や支援サービス内容が分かりやすく、独居の人でも暮らしやすい街 ・気軽に相談できる、利用しやすい場所が増える ・高齢者が社会参加できる	・介護、介護予防に対する意識は高いが、行動に至らない ・現役で働いている人もいる ・長年続いているサロンやクラブ、サークル活動はあるが、新規参加しにくい ・サロンのスタッフやボランティアが高齢化しているが、次を担ってくれる人がいない ・高齢者がふらっと行けるところが少ない ・熱心な訪問医療の事業者が複数ある	・近所に友人を作り、一緒に外出する機会を増やす ・活動する場所を徐々に増やしていく ・世代交流のサロン、町内会、防災、防犯パトロール、民生委員児童委員を元気な高齢者が中心となって担っていく

《その他の意見》

- ◇ 情報を入手しやすいように、様々な媒体による情報発信がされるとよい
- ◇ スーパーのレジの無人化、レストランの注文にタブレットの使用が増えており、利用しづらくなった
- ◇ 子どもの遊び場が少ない
- ◇ 30年前に比べると、いろいろな面で良くなっている



子ども	・子育てする環境が整い、子どもが元気に過ごせる街 ・子どもが外で安全に遊べる場所が増える ・生活拠点以外の場所にも子どもと過ごせる場所がある ・地域で子どもを見守るという意識が根付く ・不登校児や引きこもりの人の情報し、サポートできる体制ができている	・下校時に家の外に出て、見守ってくれている人がいる ・小学校が多い ・コミュニティスクールが多い ・保育園、幼稚園が多い ・不登校児が多い	・子どもの体験をサポートする（木登り、火起こし、泥遊びなど） ・自分が経験した知識を子どもに伝える ・子育て支援ボランティアを継続する ・近所の人と仲良く声掛けをしていく ・子育て中の世帯に対して、手助けをする（保育園のお迎え等） ・保育園や学校の先生、東洋大学学生など、たくさんの人と関係を築く
街づくり・見守り	・年齢や性別、国籍に関係なく生き生きと過ごせる街 ・バリアフリー化が進み、誰でも行き来し易い街 ・心身の状況に関係なく地域で暮らせる街 ・支援が必要な人が気軽に周りに頼れる街 ・災害に強い街づくり ・住民同士がお互いに見守りができる関係を築く ・住民主体の見守りと、制度に基づく見守り体制の両方が充実する	・子育てもしやすく、老後でも暮らしやすい街 ・自然が多く、都心への交通の利便性もあるため、引っ越してくる人も多い ・駅から離れた場所から点字ブロックが設置され、駅までつながっている ・買い物が不便な地域でも、移動スーパーが来てくれる ・道路が狭い ・水害が多い ・高齢者、障害者等の移動手段が少ない	・防災に強い街になるために、防災講座を開催している ・落ち葉掃きや雪かき等、自分が協力できることを地域で行う ・外国の方を助ける場所づくりを行う（言葉、日本の習慣） ・地域懇談会のような、話す場を増やしていく ・声掛け、あいさつをする

《その他の意見》

- ◇ 障害者が働く場所、住む場所を選択肢できるとよい
- ◇ 食に関するイベントが多く、人が集まるコミュニティとして今後も継続してほしい
- ◇ 多くの住民に行事等を通じて地域に愛着を持ってもらえるようになると良い
- ◇ 情報を待っているだけではなく、自ら情報を収集しに動く
- ◇ 行政や病院・保健所等は充実しているが、連携が少ない
- ◇ 高齢者が移動し易いように、インフラ整備が必要



《その他の意見》

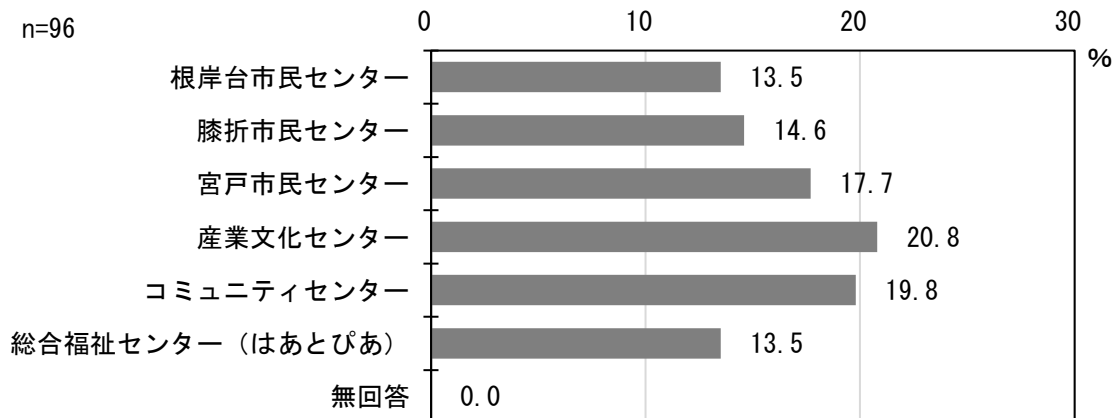
- ✧ 近所の人と車の乗り合いができれば、行動範囲が広がる
- ✧ 家の近くまで移動スーパーに来てもらいたい
- ✧ 高齢になっても健康でいるため、継続して運動する
- ✧ スマホが情報の入手のメインとなっているが、掲示板への掲示やチラシなどでの情報発信も続けてほしい
- ✧ 地域の催し物への申し込み方法として、Web 申込が増えると良い
- ✧ 住民が定期的に通える、継続した催し物が増えると良い
- ✧ 「認知症にならない」ではなく、「認知症になっても安心して暮らせる」地域にしていきたい
- ✧ 地区社協が地域に設置できると良い
- ✧ 市の中心部から遠ざかるにつれ、移動手段や道路整備に格差がある



3 地域懇談会後アンケート集計結果（全6回合計）

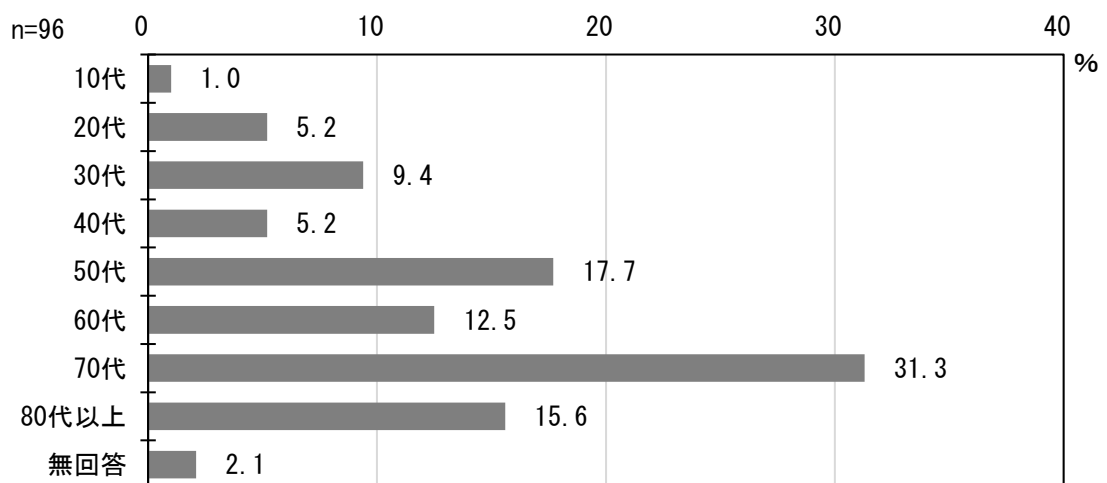
①参加会場

参加会場について、「産業文化センター」が 20.8%で最も高く、次いで「コミュニティセンター」が 19.8%、「宮戸市民センター」が 17.7%となっています。



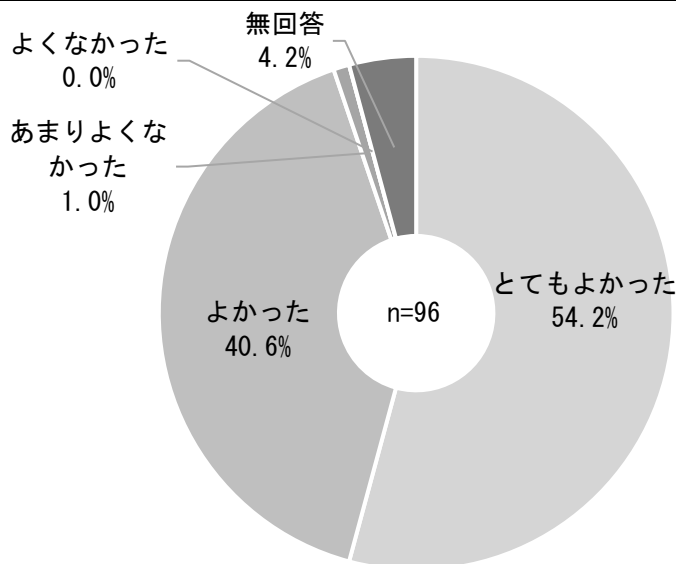
②年齢

年齢について、「70代」が 31.3%で最も高く、次いで「50代」が 17.7%、「80代以上」が 15.6%となっています。



③参加しての感想

参加しての感想について、「とてもよかった」が 54.2%で最も高く、次いで「よかった」が 40.6%となっています。



◆「とてもよかった」と感じた理由

- ◇ 様々な、年代、職種、立場の方の意見を聞くことができた。
- ◇ いろいろな意見がお聞きできて、お会いできない方とお話できて良かった。
- ◇ いろいろな考えが聞かれてよかった。今後「ふくし」を考えていく上で参考になった。
- ◇ 色々な、年齢の方々の意見が聞けてとても楽しく、ためになる時間を過ごせた。
- ◇ たくさんのご意見伺えてよかった。本日参加された方々が次の活動につながると良い。
- ◇ 沢山の方々、立場での意見を知る事が出来とても良かった。「できない」ではなく「できる」を大切にしていきたい。
- ◇ 進行もよかった。色々な方の話を聞く事ができて良かった。
- ◇ 皆様と気軽な気持ちでお話し出来た。
- ◇ ふくしについての理解が深まった。色々なお話が聞けて楽しかった。
- ◇ 今まで気付かないことが色々聞く事が出来た事はよかった。
- ◇ みなさんの考えを知ることができて有意義だった。今、どんな活動がなされているかも知ることができて良かった。
- ◇ 子育ての意見等、困っている事が知れて良かった。
- ◇ 沢山の意見が出てこれからの生き方の参考になった。
- ◇ 町内会長、子育て支援サークルの方など、いろいろな立場、年齢の人の意見が聞けて勉強になった。
- ◇ 朝霞の現存の状況を教えて頂きありがたかった。本当にだれもが幸せな気持ちで過ごせる様、今出来る事を探して、行動出来る様にしたいと思った。

- ✧ 自分の気づかなかったこととか、たくさんの方で話すことにより、とてもすてきな意見が出ることになり、有意義な時間だった。
- ✧ 地域の今後の事について、真剣に考えている方とまずつながれたことがよかった。このつながりから、何かが生まれるかも、と思った。このような場を、定期的に作ってもらいたい。つながることから支え合いが始まると思う。
- ✧ 地域の方々の「福祉」への関心の高さに驚いた。引きつづき、地域のために役立つことができるよう頑張ります！
- ✧ 話し合っている時わくわくした。朝霞を誇れる町にしていこう。
- ✧ 地域での問題、課題を考えるきっかけになった。
- ✧ 思った事をふせんに書いて話しあうのはとても良かった。話し下手でこういう会は苦手でしたが、いきなり意見を言うのではなく、楽しい時間でした。グループの人達ともうちとける事ができた。
- ✧ ふだんのくらしの幸せについて考えることが出来た。
- ✧ 朝霞の現状は良くわかった。
- ✧ グループに障害のある方もいて、多様な意見が聞けた。

◆「よかった」と感じた理由

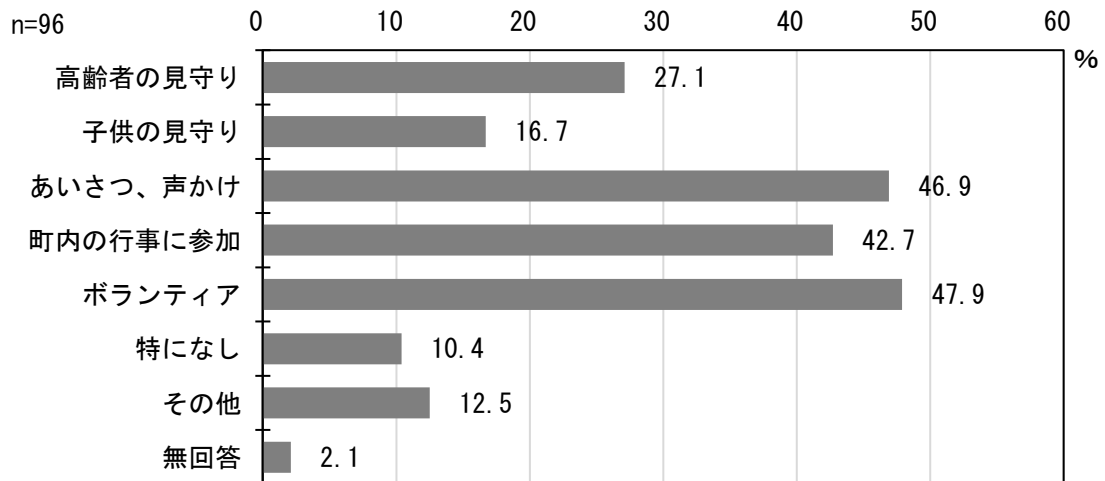
- ✧ 多くの意見が出て、新たな気づきがあった。
- ✧ 他の人が思っている要望等を聞くことができた。
- ✧ 朝霞の地域をよくしたいという人がたくさんいて面白かった。
- ✧ いろんな考え方があることがわかり、自分の頭の中が整理できた。
- ✧ 地域で活動する人々の意見が参考になった。
- ✧ 他の方々と市の問題点や将来について話し合いができた。
- ✧ 地域により意見もそれぞれ、各地に合った深掘りが出来れば良かった。
- ✧ 色々な立場・考え方の方々のご意見をうかがえて勉強になった。
- ✧ はじめての方と縁をもてた。
- ✧ 市民の目線で「朝霞」について思うことを出しあえたことがとても有意義だった。
- ✧ 朝霞市に住みとても楽しい。
- ✧ 新ためて、良い朝霞市になるように！ 考えたいと思う。
- ✧ 朝霞市に転入して十年。近所との交流がなく市の様子がわかりませんでした。現状を知ることが出来た。
- ✧ ぜひ、たくさんの方のアイデアを少しでも形にしていけたらうれしい。

◆「あまりよくなかった」と感じた理由

- ✧ 前提として皆が仲良くできる(したい)、お互いに助けあえる(したい)という進行と感じた為、皆が仲良くなくていいし、引きこもっていてもいい。一般的な幸せを前提としない会であった方が良かったと思った為。

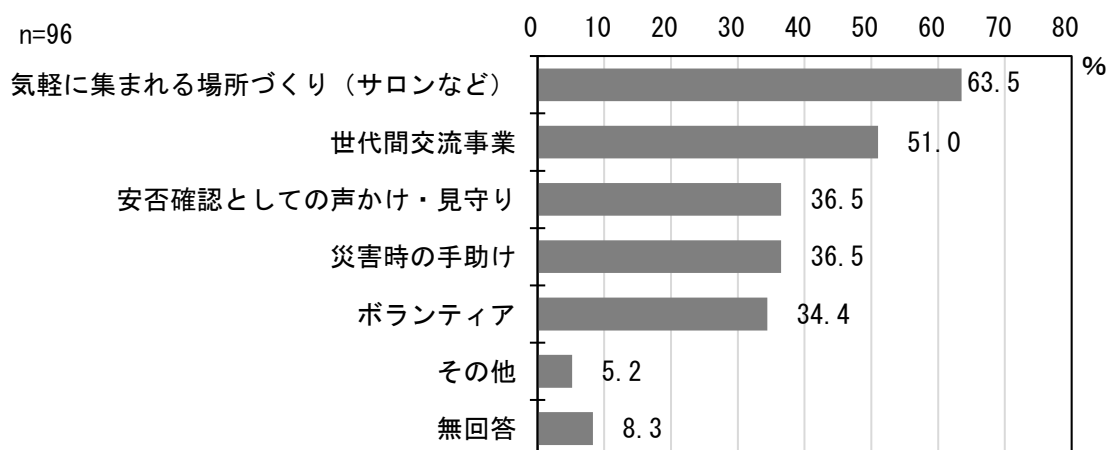
④普段地域で取り組んでいること

普段地域で取り組んでいることについて、「ボランティア」が47.9%で最も高く、次いで「あいさつ、声かけ」が46.9%、「町内の行事に参加」が42.7%となっています。



⑤やってみたいと思う活動や地域に必要なだと思うこと

やってみたいと思う活動や地域に必要なだと思うことについて、「気軽に集まれる場所づくり（サロンなど）」が63.5%で最も高く、次いで「世代間交流事業」が51.0%、「安否確認としての声かけ・見守り」が36.5%、「災害時の手助け」が36.5%となっています。



⑥感想や気づいたこと

- ✧ とても楽しく、良かったです。たまには、こういうのもあった方がいいと思います。また次の機会まで楽しみにしています。スタッフの皆様ありがとうございました。
- ✧ 皆様いろんな立場からの意見を交換する場があって、とても良いと思いました。参加してよかったです。
- ✧ 地域交流、多世代交流の必要性を、本日改めて感じました。市が主体となってこのような懇談会、交流会を定期的に開催してほしいです。
- ✧ もっと多くの市民が、こういう場所を設けていただければ意識の向上につながると思います。
- ✧ 一般の方々にもふるって参加してほしい。
- ✧ KJ 法のグループワークが良かった。社協の方の意見もうかがいたかったです。
- ✧ データを紹介していただいたにもかかわらず、あまり触れられなかったのは、勿体ないと思った。
- ✧ 市民、役所、社協方等と一緒に一つのテーマで議論出来たことは非常に良かった。
- ✧ 市役所の方、社協の方々、地域の方との交流ありがとうございました。計画書作成の為だけでなく、これからも市民の思いを知り、又、行政の方々の努力を。
- ✧ ただ福祉のまちづくりの話を受け身で聞くのではなく、自分のこととして地域の将来について考えて話し合うというワークショップの形がとても良かったです。こういう場に多くの人が参加してくれるようになればと思います。
- ✧ この会のあとで集まってしゃべる場所が大事だと思う。
- ✧ こういう形で話し合いを重ねる事が大事な行動の第一歩だと思います。
- ✧ 今後も継続していただきたい。
- ✧ 色んなジャンルの沢山の意見、思いが聞けてとても参考になりました。これからも色んなボランティアを続けて行きたい。
- ✧ 同じグループに学生さんが参加、朝霞の今後に希望を感じました。
- ✧ 異年代の方々とお話しできた時間が良かった。社協の職員の方々が、とても良い対応でした。おつかれ様でした。
- ✧ 世代間の交流の大切さ、ポイントになります。ありがとうございました。
- ✧ ベテラン世代の方々と上手にマッチングできる仕組みがあれば…一緒に何かできると良いなと思います。
- ✧ 色々な意見が出て良かったと思いました。地域のサロン等、全く知らないという方がおり、周知方法を考えていく必要があると改めて思いました。
- ✧ 様々な活動・考え方等知ることは大切だと思った。
- ✧ 情報を必要な人々に届けることは、難しいなと思いました。いろいろな活動をしている人がいて、良い活動もあるのに、知ってもらうにはどうすればいいのかなと悩みました。
- ✧ “地域づくり”は“人づくり”だと思うので、1人1人の意識が変わっていけるよう、働きかけができると良いと思いました。

- ◇ ハードだけでなく「人」が一番地域をつくる事を改めて知る、感じる事ができました。ありがとうございました。
- ◇ やはりご近所付き合いがかかせない、基本となる事が改めてわかった。
- ◇ 朝霞市が今後くらしやすく、過ごされること願い、お互いが助けあいながら町づくりをしたいと思う。
- ◇ 地域の孤独死防止、(外から見て分かる目印など)あるといいなと思います。
- ◇ 歩行が困難になってきた時に車が自由に乗れるようになるとよいと思います。
- ◇ 地域交通の大切さに気付かされました。ありがとうございました。
- ◇ 自身が高齢なので、これから、どれだけ、みなさんのお世話になるかと思うと今のうちに来る、ボランティアを頑張りたいと思う。
- ◇ 何かできることをやりたいと思っています。ありがとうございました。
- ◇ 今後も地域福祉のために情報収集していきたいと思った。
- ◇ 一人暮らしなので不安で生活していますがこの話し合いの中で勇気をもらいました。
- ◇ 今日の会場はもっと広い所で！
- ◇ 企画ありがとうございました。施策に生かして下さい。よろしくお願いします。
- ◇ よりよい朝霞市にするために、今回の会で出た意見を今後つなげて活用してほしい、いきなたいです。実現できる事から、実行してほしいと思います。勉強になりました。ありがとうございました。
- ◇ この企画に参加しなかった 14 万人の方の意見を聞いて、参加・感心をもってもらうための施策を打ち出してほしい。
- ◇ 初めての参加、朝霞市良くなりますお願いします。
- ◇ 5年先を楽しみに、健康に気をつけて更に頑張ろうと思った。
- ◇ 緊張した。
- ◇ とても現実的な考えを持つ方が多かった。
- ◇ 福祉、ボランティアといった言葉が減っていく社会になるといいと感じた。
- ◇ 職員のみなさま夜まで、お疲れ様でした。
- ◇ $1+1=2$ といったはっきりした答えはない。むずかしいと思いました。
- ◇ いろいろ参考になりました。

4 参考資料

4-1 オリエンテーション①資料・・・・・・・・・・・・・・・・

地域懇談会 朝霞の「ふくし」考えてみませんか 2024



©おさしのフロントあさが





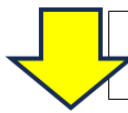
朝霞市社協マスコット
アーシャ♥るくるん

ご参加いただきありがとうございます。
自己紹介のときに、「最近幸せに感じたこと？」をみなさんにお聞きしたいと思います。
開始時間まで少し最近の幸せを思い返してみてください！

1

今回の地域懇談会では・・・

みなさんが普段生活している中で、「こうなったらいいのにな」、「自分だったらこんなことができるのに」という思いを話し合しましょう！
話し合うことで新たな発見があったり、アイデアが出てくるかもしれません。

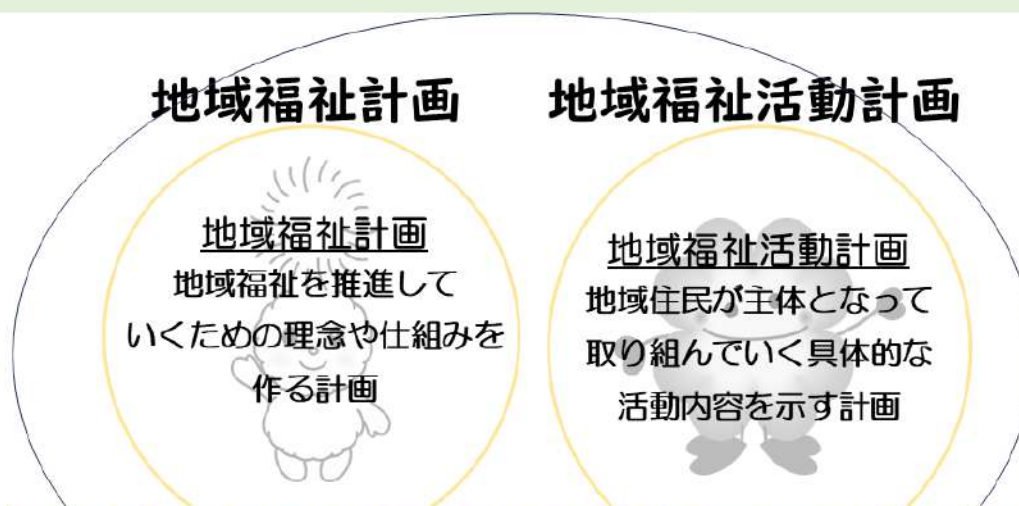


そのご意見、アイデアを・・・

朝霞市と朝霞市社会福祉協議会の計画で活用させてください！

2

朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画



朝霞市と朝霞市社会福祉協議会は、両計画を協働で策定し、一体的に推進しています！

3

福祉（ふくし）って何でしょう？

『福祉（ふくし）』とは？

ふ だんの

特別な誰かのためのもではなく、
『みんな』のものであること

く らしの



し あわせ

『みんな』とは自分も含めた地域
で暮らしているすべての人たちの
ことです。

4

『地域』福祉とは・・・？

誰もが住み慣れた地域で、安心して暮らしていけるように、「助け合い」、「支え合い」の関係・仕組みを作っていく取り組みのことです。



今回の地域懇談会で主に話し合うことは・・・

自助：自発的に自身の生活課題を解決すること

互助：地域の中で関係性を持つ人たちが助け合い、
お互いの生活課題を解決し合うこと

5

グループワーク

お願いしたいこと！

①グループワークでは、みなさんが普段感じていることを話し合いますので、意見に間違いはありません。
積極的な発言をお願いします！

②他の人の意見を否定、批判せずに、いろいろな価値観の違いを楽しみましょう！

6

グループワーク①

テーマ

「5年後の朝霞市～こうなったらいいな～」

①お住いの地域が「こうなったらいいな」ということを、ふせんに書き出してみよう！

近所付き合い

福祉の情報

防災

7

グループワーク①

テーマ

「5年後の朝霞市～こうなったらいいな～」

②みなさんが書いたものを模造紙に貼ってください。どのような意見がありましたか？



8

グループワーク②

テーマ

「2024年の朝霞市



～今の朝霞市はこんなまち～」



現在の朝霞市の状況はどうでしょうか？

地域の良いところやお困りごとはありますか？

9

グループワーク③

テーマ

「こうなったらいいなを目指して



～何ができるだろう～」



「こうなったらいいな」と思う地域にしていくために、みなさんが行っている活動、できそうなことはどんなことがあるでしょうか？

自助、互助をイメージしながら、ふせんに書き出してみてください。

10

グループワーク③

テーマ

「こうなったらいいなを目指して
～何ができるだろう～」

みなさんのご意見をグループ内で共有
しましょう！

11

発表

他のグループの話し合った内容を
聞いてみましょう。

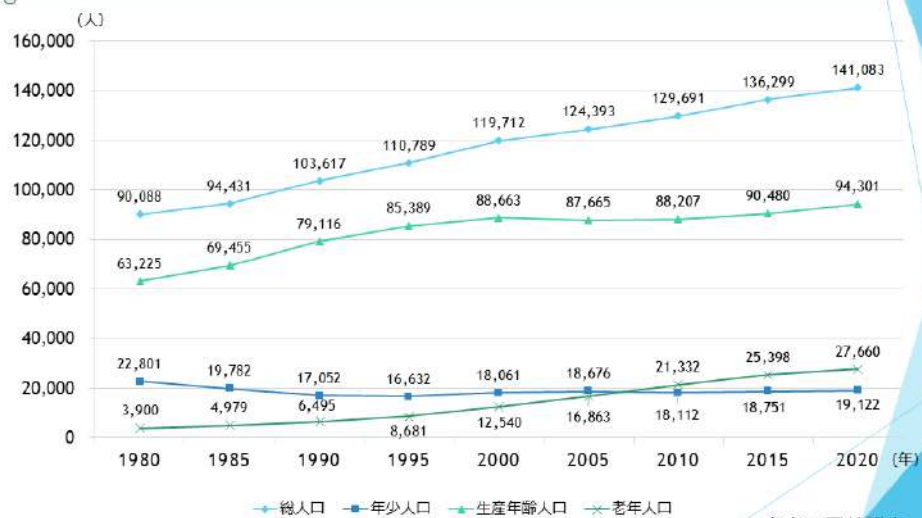
12

4-2 オリエンテーション②資料

1

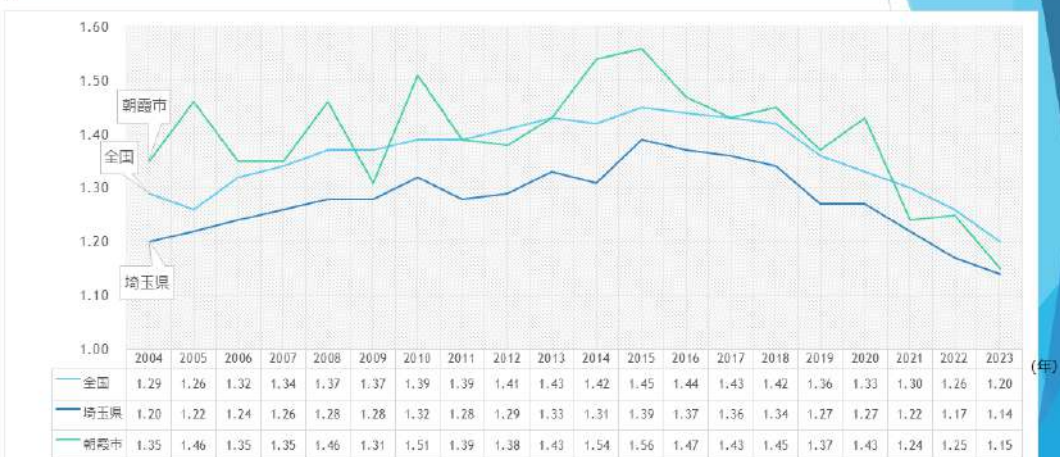


年齢3区分別人口の推移



3

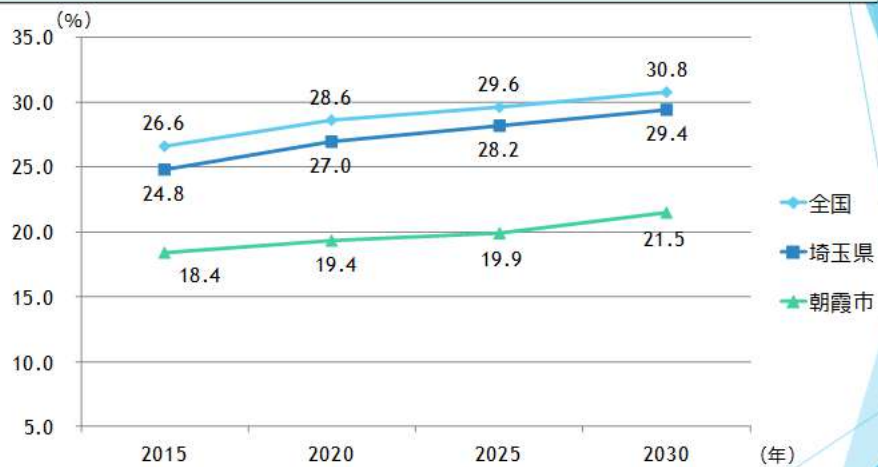
合計特殊出生率の推移



参考：埼玉県「埼玉県の合計特殊出生率」

4

高齢化率（国・県と比較）



参考：(国)(県)国立社会保障・人口問題研究所
(市)2020までは住民基本台帳、2025以降は推計

5

本市の要介護認定者の推移

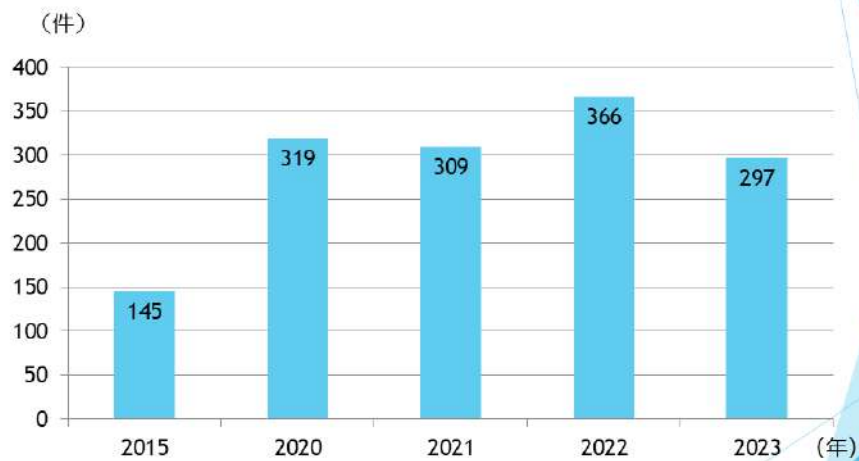


	2023	2024	2025	2026	2030	2040
第1号被保険者数(人)	28,211	28,515	28,851	29,254	31,619	40,325
認定者数(人)	4,832	5,313	5,533	5,731	6,563	7,796

参考：2023年第1号被保険者数は「第9期朝霞市高齢者福祉計画・介護保険事業計画」
2023年認定者数は厚生労働省「介護保険事業状況報告」
2024年以降は推計

6

所沢児童相談所が受付けた朝霞市における児童虐待相談の推移



参考：所沢児童相談所

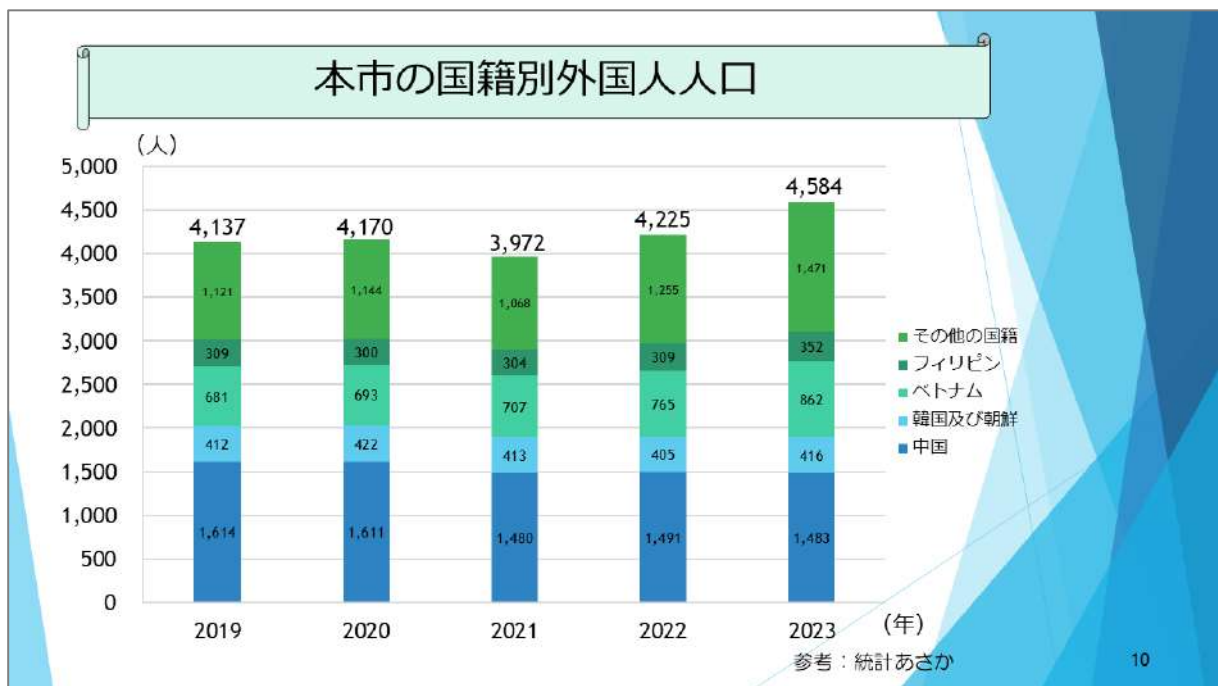
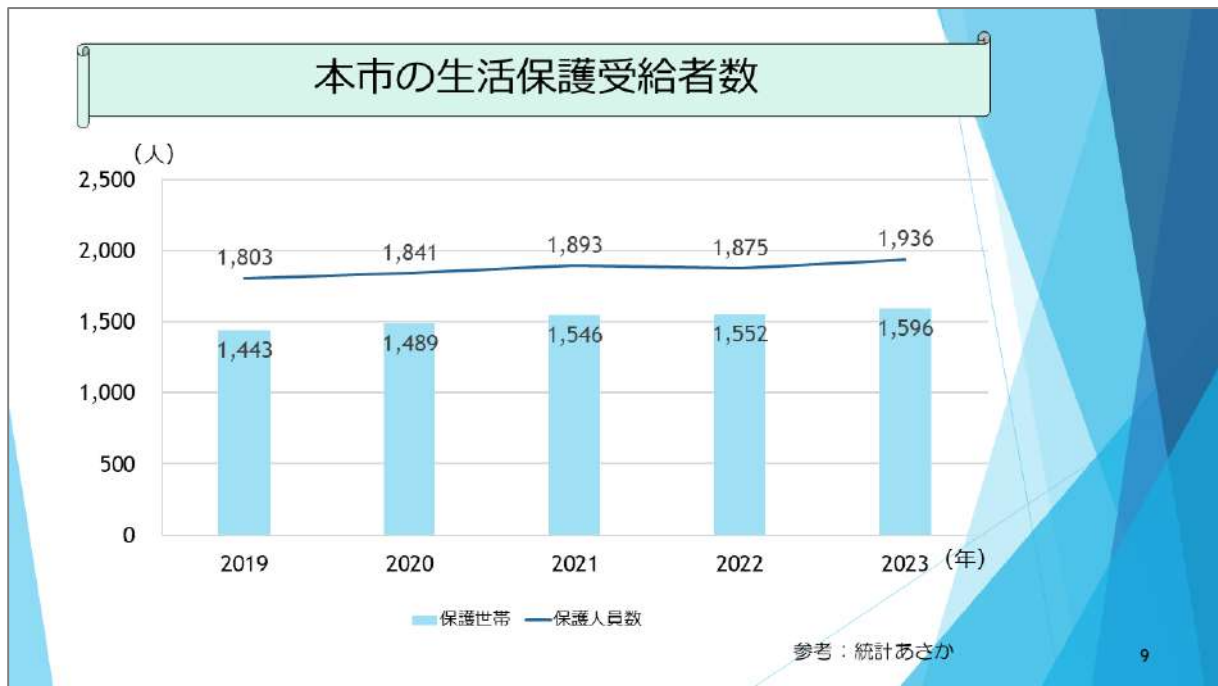
7

本市の障害者手帳交付状況

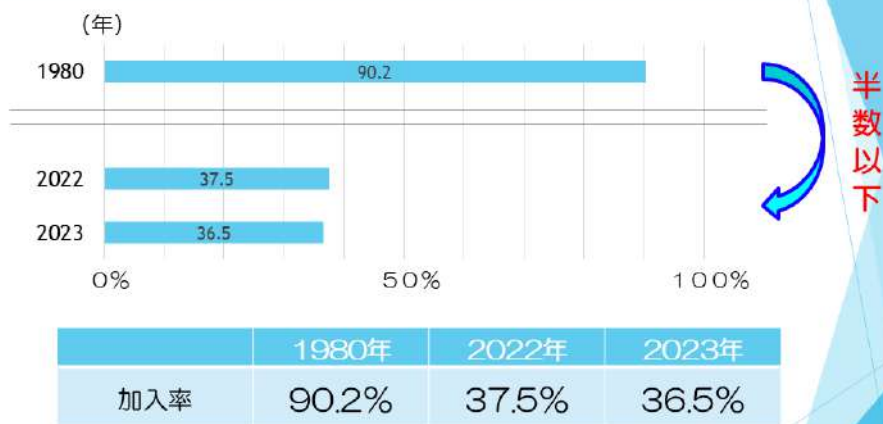


参考：統計あさか

8



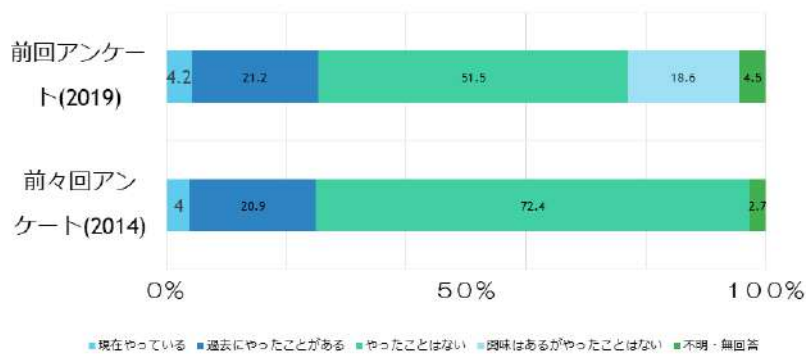
本市の自治会・町内会加入率



参考：朝霞市地域づくり支援課

11

ボランティア活動への参加状況

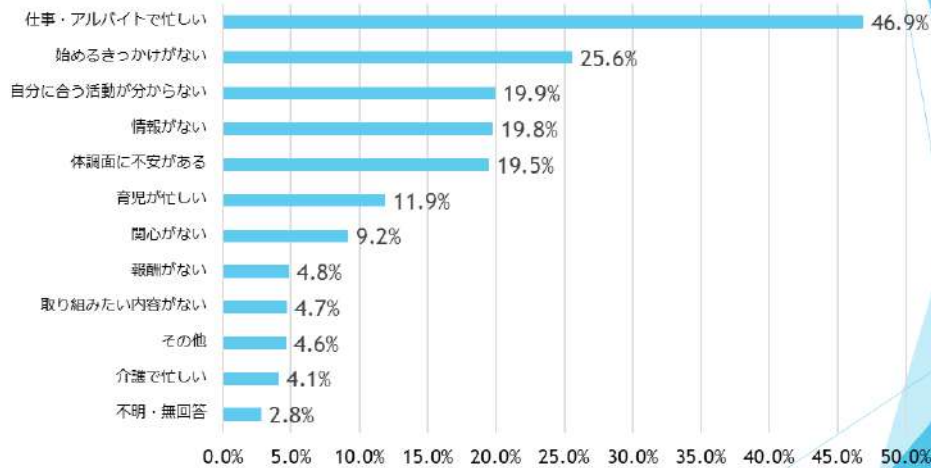


参考：朝霞市の地域福祉に関する市民アンケート調査

12

ボランティア活動に参加できない理由

(複数回答可)



参考：朝霞市の地域福祉に関する市民アンケート調査

13

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 基本理念 ～支え合いの心を育み、誰もが地域でつながるまち～

基本目標1 市民の暮らしを支える仕組みづくり

施策の方向性1 地域共生社会の実現に向けた仕組みづくり	施策の方向性2 相談支援体制の充実
施策の方向性3 保健医療・社会福祉サービスの充実	施策の方向性4 権利擁護の推進
施策の方向性5 生活困窮者等への支援の充実	施策の方向性6 地域住民の交流の促進

基本目標2 思いやりと支え合いの心づくり

施策の方向性7 地域福祉に関する理解と参加の促進	施策の方向性8 支え合い・助け合いの気持ちの醸成
施策の方向性9 地域での見守りの充実	施策の方向性10 情報共有・発信の充実
施策の方向性11 地域福祉を支える団体の活性化・人材の育成	

基本目標3 安心して暮らしやすい地域づくり

施策の方向性12 施設等の整備・充実	施策の方向性13 防災対策の充実
施策の方向性14 防犯対策の充実	施策の方向性15 外出・移動の支援
施策の方向性16 住まいの確保等への支援	施策の方向性17 再犯防止の推進(再犯防止推進計画)

14

地域懇談会の実施概要

1-1 地域懇談会の目的(報告書 P1)

第5期朝霞市地域福祉計画及び第5期朝霞市地域福祉活動計画の策定にあたり、市民の方が普段の地域生活の中で感じていることや、地域で課題と感じていることを伺い、それらに対して自助、互助の観点で意見を出し合うことで、計画における取り組みの参考とすることを目的として実施しました。

1-2 実施日時・場所・参加人数(報告書P1)

	日時	場所	参加人数
①	令和6年11月26日(火) 14:00~16:00	根岸台市民センター	17人
②	令和6年11月27日(水) 14:00~16:00	膝折市民センター	15人
③	令和6年11月28日(木) 14:00~16:00	宮戸市民センター	18人
④	令和6年12月5日(木) 14:00~16:00	産業文化センター	20人
⑤	令和6年12月6日(金) 18:30~20:30	コミュニティセンター (中央公民館内)	22人
⑥	令和6年12月7日(土) 10:00~12:00	総合福祉センター (はあとぴあ)	14人

合計:106人

- ・参加者の年齢は、70代が31.3%で最も高く、次いで50代が17.7%でした。
- ・保育対応1件。手話通訳対応1件。また、障害(知的・視覚・聴覚)のある方や大学生の参加がありました。

1-3 周知・募集方法(報告書P1)

社協のホームページ、SNSで周知した他、「広報あさか」に掲載しました。また、チラシの配布・市掲示板への掲出を行いました。申込方法は電話申込が24人と最も多く、次いでWeb申し込みが21人でした。その他にメール、FAX、持参など、様々な方法で申込がありました。

1-4 懇談会の全体プログラム(報告書P2)

オリエンテーションでは、「懇談会の目的」や「地域福祉」について説明し、統計資料から朝霞市の現状を確認しました。懇談会のメインであるグループワークでは、3つのテーマについて話し合いを行いました。

- ・ 5年後の朝霞市
参加者が「こうなったらいいな」と思う未来の姿を共有しました。
- ・ 現在の朝霞市
現在の状況を踏まえ、課題や問題に感じているところだけでなく、今の朝霞市(暮らしている地域)の強みを挙げ、現状を共有しました。
- ・ 『こうなったらいいな』を目指して
地域をより良くするために取り組めることを挙げ、その中で自分自身や地域住民でできること、行政や社協など組織的に取り組むことを考えました。

2-1 実施結果と主な意見(報告書P3~14)

全6回の懇談会で多く挙がったキーワードと主な意見は以下の通りです。

(1)交流の場/近所付き合い

- ・ 困ったときに助け合えるよう、近所の人たちと顔の見える関係性を築いていきたい。
- ・ 誰でも気軽に立ち寄れる地域の交流の場が増えてほしい。
- ・ いろいろな世代の人が交流できる機会が必要である。

(2)交通移動

- ・ 高齢者が使いやすい移動手段の増加や交通整備の改善が求められる。
- ・ 車いすが通やすく、歩行器で歩きやすい道が増えてほしい。
- ・ 市内にベンチや休憩できるスペースがあれば、外出しやすくなる。

(3)高齢者

- ・ 生きがいを持って地域で暮らせるよう、社会参加をできる方法を考える。
- ・ サロンのスタッフが高齢化しており、次の世代に運営を引き継いでいきたいが担い手がいらない。
- ・ 情報提供のツールに関して、SNSが主流になってきたことにより、情報を得にくくなった。

(4)防犯・防災

- ・ 地域全体での防犯意識を高める取り組みや、災害時の備えを充実させていきたい。
- ・ 市内の環境を清潔に保ち、夜間でも危なくないよう街灯を増やしてほしい。

2-2 参加しての感想(報告書P16~20)

「とてもよかった」、「よかった」が全体の94.6%となっており、様々な人と出会い話すことができた、地域の状況を知ることができたなど、地域懇談会実施に関する前向きな感想を多数いただきました。

一方で、会場の広さへの指摘や、地域ごと話の深掘りができればよかった、統計データの説明が話し合いであまり触れられていなかったことが勿体ないという意見もありました。

3. 懇談会から見えた課題

参加した人の多くが地域住民同士の付き合いの希薄化を感じていました。近所に住んでいる人と顔の見える関係を築くための交流の場や、交流の機会を求める意見が多く挙がっていました。そのために空き家の活用や交流機会の創出といった意見がありましたが、地域には交流の場やイベントが割とあり、その情報が行き届いていないのではないかという意見もありました。

また、子どもの警戒心が強く、挨拶しづらいという意見もあり、地域全体で子どもを見守る地域づくりの必要性も求められていました。

交通に関するテーマでは、バスの本数増加や移動支援サポートの充実といった交通整備への意見が挙がると共に、歩道の整備が進み、地域にちょっとした休憩スペースが増えれば、徒歩で外出できる範囲が広がるとの意見も挙がっていました。

情報伝達として使い慣れた紙媒体を継続してほしいという意見がある中、SNSは便利だがスマホなどの電子媒体の使い方が難しいという声もありました。



お聞かせください!



朝霞市社協マスコット
アーシャ♡くるん

地域懇談会

©むさしのフロントあさか

朝霞の「ふくし」考えてみませんか2024

わたしたちの

ふだんのくらしのしあわせ

について一緒に考えましょう!



対象

朝霞市在住・在勤・在学の方はどなたでも参加できます!

手話通訳・保育あり 申込の際にお申し出ください。

①11月26日(火)

14:00~16:00

根岸台市民センター

②11月27日(水)

14:00~16:00

膝折市民センター

③11月28日(木)

14:00~16:00

宮戸市民センター

④12月5日(木)

14:00~16:00

産業文化センター

⑤12月6日(金)

18:30~20:30

コミュニティセンター
(中央公民館内)

⑥12月7日(土)

10:00~12:00

総合福祉センター
(はあとぴあ)

※各回、同じ内容となります。

【お申し込み・お問い合わせ】

朝霞市社会福祉協議会 地域福祉推進係

TEL:048-486-2485

FAX:048-486-2418

E-MAIL:chiiki@asaka-shakyo.or.jp

URL:https://www.asaka-shakyo.or.jp

2次元コード、メール、電話、FAX、持参
いずれかの方法によりお申込ください。



朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画とは？

地域福祉計画

地域福祉を推進して
いくための理念や仕組みを
作る計画

一体的に
推 進

地域福祉活動計画

地域住民が主体となって
取り組んでいく具体的な
活動内容を示す計画



令和元年度 地域懇談会の様子

『地域懇談会 朝霞の「ふくし」考えてみませんか2024』は、
「未来の朝霞市の福祉がこうなったらいいな」、「自分たちができることは
何だろう？」を皆さんと一緒に考えるワークショップです。

令和8年度（2026年度）から5年間を計画期間とする、第5期の計画策定に向けて、ご意見をうかがいます。

【参加申込書】参加希望日にチェックしてください

- ☐①11月26日（火） 14：00～16：00 根岸台市民センター
- ☐②11月27日（水） 14：00～16：00 膝折市民センター
- ☐③11月28日（木） 14：00～16：00 宮戸市民センター
- ☐④12月 5日（木） 14：00～16：00 産業文化センター
- ☐⑤12月 6日（金） 18：30～20：30 コミュニティセンター(中央公民館内)
- ☐⑥12月 7日（土） 10：00～12：00 総合福祉センター（はあとぴあ）

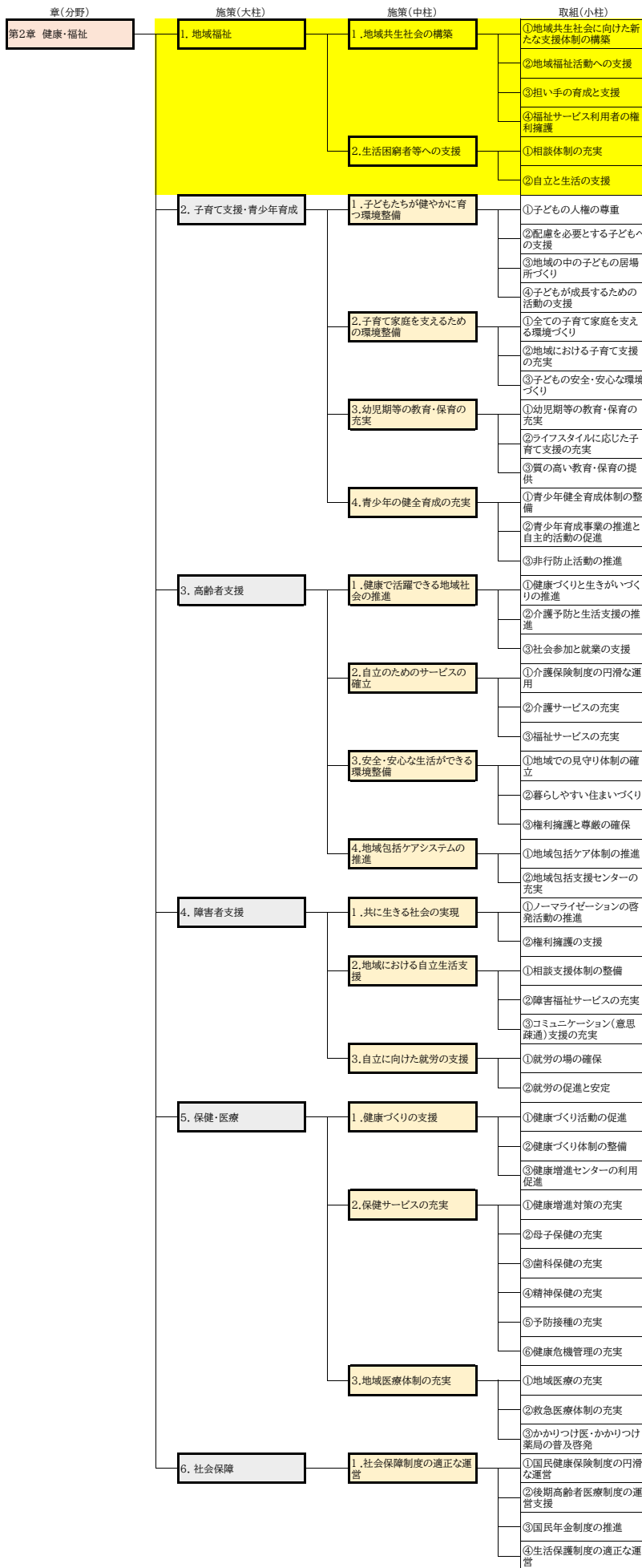
氏名	年齢	住所	電話番号もしくはメールアドレス

下記の配慮が必要な方はお選びください。その他を選択した方は内容をご記入ください。

☐手話通訳 ☐保育 ☐その他：

※ご提出いただいた個人情報につきましては、当懇談会以外の目的で使用することはありません。

朝霞市社会福祉協議会 電話：048-486-2485 FAX：048-486-2418





令和5年度
第4期朝霞市地域福祉計画
進行管理・評価シート

委員会会議資料

朝霞市

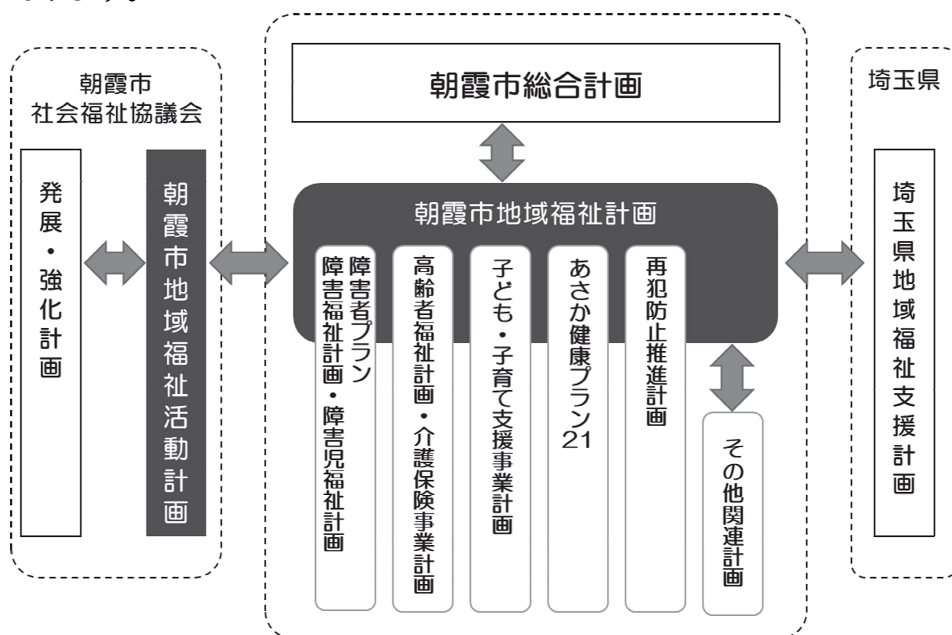
1 地域福祉とは

地域福祉とは、子どもから高齢者まで、障害のある人もない人も、誰もが住み慣れた地域の中で自分らしく生き生きと暮らしていくために、それぞれの役割を持ち、支え合いながら、安心して自立した生活が送れるようにするための取組のことをいいます。



2 関連計画の位置づけ

朝霞市地域福祉計画は、社会福祉法第107条に規定する「市町村地域福祉計画」として、朝霞市(以下「市」という。)における地域福祉推進の基本的指針を定めるものです。社会福祉法の改正により、福祉に関する各個別計画の上位計画としての位置づけが明確になったことにより、市の最上位計画である第5次朝霞市総合計画を基盤としながら、福祉に関する各個別計画(「第2期朝霞市子ども・子育て支援事業計画」、「第8期朝霞市高齢者福祉計画・介護保険事業計画」、「第5次朝霞市障害者プラン・第6期朝霞市障害福祉計画・第2期朝霞市障害児福祉計画」「あさか健康プラン21」との整合性を保ちながら、市における地域福祉施策の基本的な方向性を示すことになります。



また、朝霞市地域福祉活動計画は、社会福祉法人朝霞市社会福祉協議会（以下「社協」という。）が呼びかけて、住民、地域において社会福祉に関する活動を行う者、社会福祉を目的とする事業（福祉サービス）を経営する者が相互協力して策定する、地域福祉の推進を目的とした活動・行動計画です。主に自助、互助、共助を重点的に支援する範囲としています。

社協では、地域福祉を推進する団体としての使命や経営理念を明確にするために策定している朝霞市社会福祉協議会発展・強化計画との連携を図りながら計画を進めていきます。

市と社協では、この2つの計画が開始時期、策定の根拠などの経緯は異なるものの、互いに地域福祉の推進に資するという目的が同じであることから、第3期の計画（平成28（2016）年3月策定）において、基本理念や計画期間を統一することにより、相互に補完し合いながら計画を推進することとしました。

さらに、第4期の計画においては、市と社協のそれぞれの特性を生かしながら、さらに地域福祉を一体的に推進するため、地域福祉計画及び地域福祉活動計画（以下「本計画」という。）について、策定作業の過程から協働し、計画書自体も一体的に策定しました。

3 基本理念と基本目標

本計画では、市における今後5年間の地域福祉に関わる活動や取組を市民（地域住民）、関係団体、市及び社協が相互に連携して効果的に行うことにより、計画の基本理念である「支え合いの心を育み、誰もが地域でつながるまち」を目指していきます。

また、この基本理念を実現するために、基本目標を「仕組みづくり」、「心づくり」、「地域づくり」の3つに分けて定め、それぞれの施策に取り組んでいきます。

基本理念 支え合いの心を育み、誰もが地域でつながるまち

基本目標① 市民の暮らしを支える仕組みづくり

誰もが住み慣れた地域で安心して暮らしていくために、様々な各分野に共通するサービスを横断的に提供できる仕組みづくりについて取り組んでいきます。

基本目標② 思いやりと支え合いの心づくり

地域福祉の推進にあたり、福祉情報の提供や、支援に必要な情報の共有、さらに、福祉教育の充実、地域福祉を学ぶ機会の提供等、福祉に触れる機会を多く設けていくことを中心に取り組んでいきます。

基本目標③ 安心して暮らしやすい地域づくり

防災・防犯、住居の確保等、安心して暮らすことができる地域づくりに向けて取り組んでいきます。

4 進捗管理について

令和3年度から令和7年度までの5年間を実施機関とする第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画では、計画を立て(Plan)、実行し(Do)、その進捗状況を定期的に把握・評価したうえで(Check)、その後の取組を改善する(Action)、一連のPDCAサイクル(計画、実行、評価、改善)の構築に努めることとしています。

なお、計画の進行管理や評価を行うため、学識経験者や関係機関・市民活動団体の関係者、公募市民等で構成する「朝霞市地域福祉計画推進委員会」及び「朝霞市地域福祉活動計画推進委員会」(以下「推進委員会」という。)において、「主な取組等」、「指標・目標」に基づき、進捗状況の把握及び評価を行います。

また、社会環境の大きな変化や制度の変更などがあった場合には、必要に応じて、本計画に記載した内容以外にも施策や事業の充実等に努めていきます。



5 評価方法と重点施策について

- (1) 下記の記入方法に基づいて、事業担当課で進行管理・評価シートを作成することにより、自己評価、振り返りを行いました。

R5年度						
第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート						記入方法
部局名	福祉部	課名	福祉相談課	係名	地域福祉係	
第4期計画掲載内容	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(9)地域				
	事業名	①民生委				
	事業概要	地域福祉の担い手である民生委員児童委員の活動を支援し、欠員地区の委員補充、現任委員のスキルアップを図る。				
「基本目標」、「施策の方向性」、「事業名」、「事業の概要」、「担当課」について、計画の内容を転記しています。 上記の事業について、R5年度に行った取組内容を具体的に記入してください。						
1 取り組み内容・成果・進捗状況						
R5年度の取り組み内容		R5年度の実績値(見込み)を記入してください。 注)R4年度の実績値(見込み)は、昨年度の照会回答で記入していただきましたが、R4年度の実績値に修正がある場合は、修正後の数値を記載し、アンダーラインで修正したことがわかるようにしてください。				
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
民生委員児童委員延べ活動日数	目標値	14,400日	14,400日	14,400日	14,400日	14,400日
	実績値	11,003日	11,639日	10,000日		
進捗状況及び自己評価		① 令和5年度の実績値について、自己評価をお願いします。指標の達成状況や、成果が上がった理由(または上がらなかった理由)等についてご記入ください。また、取組の成果として、目に見えないような(数値に表せない)成果があれば、併せてご記入ください。 ② 右欄を参考にA～Cで判定してください。 B A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				
2 課題・今後の取り組み方針						
課題	令和5年度の実績値に係る課題についてご記入ください。					
今後の取り組み方針	令和6年度以降の取組方針についてご記入ください。(拡大、縮小、廃止等)					
3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)						
高齢者や障害のある人登下校時などの見守り	上記の事業推進のために、市民や地域の方々に協力してもらいたいことがあれば、追記・修正をお願いします。					
4 推進委員会の意見(評価)						
地域福祉計画推進委員会での意見について、事務局で取りまとめて記入します。						

(2)推進委員会では、各担当課で作成した進行管理・評価シートに基づいて報告を行い、取組状況や成果、進捗状況、今後の取組方針等について意見をいただきました。

(3)計画には、131の事業(市86事業、社協45事業)が記載されており、取り組み毎にシートを作成し、提示することになりますが、その中でも特に重点的に評価を行う施策を、以下の5つに定め、5年間を通じて、経年の進行管理を行うとともに評価をしていきます。

◇◇◇重点的に評価を行う施策◇◇◇

方向性(1) 地域共生社会の実現に向けた仕組みづくり

方向性(2) 相談支援体制の充実

方向性(7) 地域福祉に関する理解と参加の促進

方向性(10) 情報共有・発信の充実

方向性(13) 防災対策の充実

その他、単年度毎に主要に取り組んだ施策に関しても、市と社協がそれぞれ報告を行います。

(3)推進委員会での検証結果や意見は、各担当課にフィードバックし、事業の推進や事業内容の見直しを図ります。

6 朝霞市地域福祉計画 施策体系別事業進捗状況

基本目標	施策の方向性	事業名	担当課	頁	進捗状況				
1 市民の暮らしを支える仕組みづくり					R3	R4	R5	R6	R7
	(1)地域共生社会の実現に向けた仕組みづくり	1 重層的支援体制整備事業の検討	福祉相談課	9	C	B	B		
		2 生活困窮者・世帯の自立支援	福祉相談課	10	A	A	A		
		3 地域包括ケアシステムの深化	長寿はつらつ課	11	B	A	B		
		4 児童虐待への対応	こども未来課	12	B	A	A		
		5 市民参画と協働による地域づくりの促進	政策企画課	13	A	B	B		
	(2)相談支援体制の充実	1 福祉の総合相談	福祉相談課	14	A	A	A		
		2 障害者相談支援	障害福祉課	15	A	A	B		
		3 精神保健福祉相談	障害福祉課	16	A	A	A		
		4 障害者相談支援センター等による相談	障害福祉課	17	B	A	A		
		5 高齢者総合相談	長寿はつらつ課	18	A	A	B		
		6 子ども家庭総合支援拠点の整備	こども未来課	19	A	A	A		
		7 女性総合相談・DV相談	人権庶務課	20	A	A	A		
		8 人権相談	人権庶務課	21	B	B	A		
		9 消費生活相談	地域づくり支援課	22	B	B	B		
	(3)保健医療・社会福祉サービスの充実	1 地域医療の確保	健康づくり課	23	A	A	A		
		2 各種健(検)診事業の促進	健康づくり課	24	C	B	B		
		3 妊娠・出産包括支援	健康づくり課	25	A	A	A		
		4 自殺対策の推進	健康づくり課	26	B	B	B		
		5 地域活動支援センター及び生活ホームへの支援	障害福祉課	27	A	A	A		
		6 介護サービスの基盤整備	長寿はつらつ課	28	B	B	A		
		7 在宅医療・介護の連携強化	長寿はつらつ課	29	B	B	B		
		8 保育士の雇用環境の改善	保育課	30	B	B	B		
	(4)権利擁護の推進	1 成年後見制度の利用促進	障害福祉課 長寿はつらつ課	31	A	A	A		
		2 障害者虐待の防止	障害福祉課 (障害者虐待防止センター)	32	B	B	B		
		3 高齢者虐待の防止	長寿はつらつ課	33	B	B	B		
		4 児童虐待の防止	こども未来課	34	B	A	A		
	(5)生活困窮者等への支援の充実	1 生活困窮者・世帯の自立支援(再掲)	福祉相談課	35	A	A	A		
		2 生活保護の適正な運営	生活援護課	36	A	A	A		
		3 生活困窮者等の学習支援	福祉相談課 こども未来課	37	A	B	B		
		4 内職相談	産業振興課	38	B	B	B		
	(6)地域住民の交流の促進	1 総合福祉センターの利用	福祉相談課	39	B	B	B		
		2 老人クラブ会員による世代間交流	長寿はつらつ課	40	C	C	B		
		3 生活支援体制整備事業の推進	長寿はつらつ課	41	C	B	B		
		4 生きがい活動の支援	長寿はつらつ課	42	B	B	A		
		5 多文化共生への理解の促進	地域づくり支援課	43	B	B	B		
		6 地域団体間の交流・連携の促進	地域づくり支援課	44	C	B	A		

基本目標	施策の方向性	事業名	担当課	頁	進捗状況				
2 思いやりと支え合いの心づくり					R3	R4	R5	R6	R7
	(7)地域福祉に関する理解と参加の促進	1 地域福祉講演会の開催	福祉相談課	45	C	C	A		
		2 スポーツ・レクリエーションの集いの開催	障害福祉課	46	C	B	B		
		3 ふれあいスポーツ大会の開催	障害福祉課	47	C	B	B		
		4 市民参画と協働による地域づくりの促進(再掲)	政策企画課	48	A	B	B		
		5 市民活動の周知・啓発及び参加の促進	地域づくり支援課	49	B	B	B		
		6 スポーツの振興	生涯学習・スポーツ課	50	B	B	B		
	(8)支え合い・助け合いの気持ちの醸成	1 認知症への理解の促進	長寿はつらつ課	51	B	B	B		
		2 学校における福祉教育の充実	教育指導課	52	B	B	A		
		3 人権教育の推進	生涯学習・スポーツ課	53	A	A	B		
	(9)地域での見守りの充実	1 民生委員児童委員の活動支援	福祉相談課	54	B	B	B		
		2 地域包括支援センターと関係機関の連携	長寿はつらつ課	55	B	B	B		
		3 安心見守り支援	長寿はつらつ課	56	A	A	B		
		4 児童相談所等との連携	こども未来課	57	B	A	A		
	(10)情報共有・発信の充実	1 多職種参加の地域ケア会議の実施	長寿はつらつ課	58	B	B	B		
		2 介護保険制度の周知	長寿はつらつ課	59	B	B	B		
		3 子育て情報誌の作成	こども未来課	60	A	A	A		
		4 広報の充実	シティ・プロモーション課	61	B	B	A		
		5 避難行動要支援者支援制度の推進	障害福祉課 長寿はつらつ課 危機管理室	62	A	A	A		
	(11)地域福祉を支える団体の活性化・人材の育成	1 地域保健福祉活動振興事業費補助金の交付	福祉相談課	63	B	B	B		
		2 老人クラブへの支援	長寿はつらつ課	64	C	B	B		
		3 介護人材の育成	長寿はつらつ課	65	B	B	B		
		4 生活支援コーディネーターによる地域活動団体支援	長寿はつらつ課	66	B	B	B		
		5 認知症総合支援	長寿はつらつ課	67	A	B	B		
		6 青少年の健全育成	こども未来課	68	C	B	B		
		7 心の健康づくりの推進	健康づくり課	69	B	A	B		
		8 コミュニティ活動の活性化	地域づくり支援課	70	C	C	B		
		9 コミュニティ活動への参加促進	地域づくり支援課	71	C	B	B		
		10 市民活動の活性化	地域づくり支援課 (市民活動支援ステーション)	72	B	B	B		

※ 部分は、重点的評価施策

基本目標	施策の方向性	事業名	担当課	頁	進捗状況					
3 安心して暮らしやすい地域づくり					R3	R4	R5	R6	R7	
	(12)施設等の整備・充実	1 公共施設の修繕・改修	財産管理課	73	A	B	B			
		2 公共施設のバリアフリー化	財産管理課	74	A	A	A			
	(13)防災対策の充実	1 避難行動要支援者支援制度の推進(再掲)	障害福祉課 長寿はつらつ課 危機管理室	75	A	A	A			
		2 防災意識の高揚	危機管理室	76	A	A	A			
		3 自主防災組織の結成促進	危機管理室	77	C	B	B			
	(14)防犯対策の充実	1 防犯情報の発信	危機管理室	78	A	A	A			
		2 防犯活動の推進	危機管理室	79	A	A	A			
		3 消費生活相談(再掲)	地域づくり支援課	80	B	B	B			
	(15)外出・移動の支援	1 重度心身障害者福祉タクシー利用料等の補助	障害福祉課	81	A	A	A			
		2 高齢者バス・鉄道共通カードの給付	長寿はつらつ課	82	A	A	A			
		3 市内循環バス等の利便性向上	まちづくり推進課	83	B	A	A			
		4 自転車駐車場の整備	まちづくり推進課	84	B	B	A			
	(16)住まいの確保等への支援	1 住居確保給付金の支給(再掲)	福祉相談課	85	A	A	A			
		2 高齢者への住宅支援	長寿はつらつ課	86	A	A	A			
		3 住宅政策	開発建築課	87	B	A	A			
	(17)再犯防止の推進(再犯防止推進計画)	1 更生保護関係団体への支援	福祉相談課	88	B	B	B			
		2 更生保護サポートセンターの支援	福祉相談課	89	B	A	A			
		3 社会を明るくする運動	福祉相談課	90	B	B	A			
		4 再犯防止に関する広報の推進	福祉相談課	91	A	A	A			
		5 生活困窮者自立支援	福祉相談課	92	A	A	A			
		6 青少年健全育成啓発キャンペーン	こども未来課	93	C	C	A			
		7 非行防止教室の実施	教育指導課	94	B	A	A			

※ 部分は、重点的評価施策

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	福祉相談課	係 名	地域福祉係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(1)地域共生社会の実現に向けた仕組みづくり				
	事業名	①重層的支援体制整備事業の検討				
	事業概要	既存の相談支援等の取り組みを活かしつつ、地域住民の複雑化・複合化した支援ニーズに対応する包括的な新たな支援体制を構築するために、相談支援、参加支援、地域づくりに向けた支援を一体的に実施する事業について検討していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	地域住民の複雑化・複合化した支援ニーズに対応する包括的な支援体制の構築に向けて検討していくため、情報収集や調査・研究に努めた。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
重層的支援体制の構築	目標値	—	検討	検討	検討	検討
	実績値	—	情報収集・研修	情報収集・研修		
進捗状況 及び 自己評価	福祉部内で重層的支援体制に関する研究チームを作り、社会福祉協議会の職員と、県内自治体へ視察(ふじみ野市、越谷市)を行うとともに、国・県の研修会等に参加し、情報収集に努めた。今後も包括的な支援体制の構築に向けた情報収集、調査・研究に努める。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	地域住民が抱える課題が複雑化・複合化する中、従来の属性別の支援体制では複合的な課題や多様な分野への対応が困難となっている。
今後の取り組み方針	埼玉県が実施しているアドバイザー派遣事業制度を利用するとともに、国・県の研修会等への参加を通じて他自治体の取組等の情報収集に努める。また、庁内連携の方法や課題等を把握し、当該事業の検討を行っていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

支援体制を構築する中で、支援ニーズについて情報交換等の機会への協力

4 推進委員会の意見(評価)

目標値が「検討」となっているが、達成の段階を数値化できるような目標にするのが良いと思う。

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	福祉相談課	係 名	福祉相談係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(1)地域共生社会の実現に向けた仕組みづくり				
	事業名	②生活困窮者・世帯の自立支援				
	事業概要	生活困窮者の自立の促進を図るために、生活困窮者自立支援法に基づき、相談や就労支援、学習支援、住居確保給付金の支給などの各種支援を実施します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	生活困窮者自立支援法に基づき、生活困窮者に対して市町村の必須事業とされている自立相談支援事業及び住居確保給付金の支給、任意事業の学習支援事業及び家計改善支援事業を実施した。 (R5年度実績) 住居確保給付金 決定件数12件、支給件数33件、総支給額1,542,900円 学習支援事業 学習教室 年46回、利用者数31人 内訳(中学生20人、高校生10人、高校生世代※1人) ※中学校修了後、18歳に達する日以降の最初の3月31日までの間にある方 家庭訪問 年120回(延べ) 利用者数10人 内訳(中学生5人、高校生4人、高校生世代1人) 家計改善支援事業 実人数22人、延べ相談件数45件 ※7月より事業開始 生活困窮者自立支援法で規定する支援会議を設置 ※4月より設置 実施回数2回					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
生活困窮に関する相談件数	目標値	600件	600件	600件	600件	600件
	実績値	1,772件	1,424件	850件		
進捗状況及び自己評価	生活困窮に関する相談件数は、コロナ禍前に戻つつあるが、令和5年度は、経済的困窮をはじめとして就労活動困難、病気、住まいの不安定、家庭の課題、メンタルヘルス、家計管理の課題、就労定着困難、債務問題など多岐に渡り、1ケースあたりの支援時間も長くなっている傾向があった。 また、様々な関係機関(庁内・庁外)との調整や連携を必要とする業務特性より、令和5年4月に生活困窮者自立支援法で規定する支援会議を設置し、関係機関等がそれぞれ把握している困窮が疑われるような個々の事案の情報共有を行い、支援の検討を行うことができた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	複雑化かつ多様化している生活困窮者の有する課題に対応するためには、就労、家計など様々な面から自立に向けた包括的な支援を提供できる体制を整えていくことが必要である。
今後の取り組み方針	生活の困窮に関わる相談を含め、日常生活における様々な困りごとや悩みごとをはじめ、ひきこもりの方、8050問題など、複合化かつ複雑化する問題を包括的に受け止められる相談体制などを検討していく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

生活に困窮している人を身近で見かけたときに、相談先を案内する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	長寿はつらつ課	係 名	地域包括ケア推進係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(1)地域共生社会の実現に向けた仕組みづくり				
	事業名	③地域包括ケアシステムの深化				
	事業概要	介護や支援の必要性に関わらず、住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、各種事業を実施します。 地域包括支援センターでは、地域包括ケアシステムの推進拠点としての機能強化を進めながら、高齢者等の総合相談支援、権利擁護、包括的・継続的ケアマネジメント支援等の包括的支援事業を実施します。 また、在宅医療・介護連携推進事業、生活支援体制整備事業、地域ケア会議運営事業、認知症総合支援事業を行うとともに、高齢者虐待防止事業や、成年後見制度利用支援事業等を進めていきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	各地域包括支援センターで高齢者等の総合相談支援などを実施する。 各地域包括支援センターの業務運営に支障がないよう必要な支援を行う。 地域包括支援センターの機能強化に向けた検討を行う。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
地域包括支援センターの数	目標値	5か所	6か所	6か所	6か所	6か所
	実績値	5か所	6か所	6か所		
進捗状況 及び 自己評価	市民を対象とした介護保険制度説明会などを通じて、地域包括支援センターの役割や自助・互助の取組について周知することができた。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	総合相談等だけではなく、地域ケア会議や生活支援体制整備事業等の包括的支援事業において、地域包括支援センターが主体的に、医療や介護の専門職、地域住民と連携した取組が行えるような支援に課題がある。
今後の取り組み方針	地域包括支援センターが各専門職等と効率的な連携ができるような体制を整備する。 地域共生社会を見据えた基幹型地域包括支援センターの設置に向けた検討を行う。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

地域包括ケアシステムの必要性を理解し、自助・互助の意識を高める。

4 推進委員会の意見(評価)

生活支援コーディネーターが地域包括支援センターにいたり、なやみごとがあった場合、どこに相談しに行けばいいのかなど、広報等で周知して欲しい。

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	こども・健康部	課 名	こども未来課	係 名	こども相談係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(1)地域共生社会の実現に向けた仕組みづくり				
	事業名	④児童虐待への対応				
	事業概要	要保護児童対策地域協議会の代表者会議及び実務者会議を定期開催し、体制づくりや情報共有など関係機関との連携強化を図るとともに、個別支援会議を適宜開催し、児童虐待対応に取り組めます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	要保護児童対策地域協議会の代表者会議及び実務者会議を開催し、関係機関との情報共有や方針の検討を行ったほか、個別支援会議を開催し連携して児童虐待対応に取り組んだ。 児童虐待に関する通告について、要保護児童対策地域協議会関係機関に対し通知するなど、関係機関が把握した気になる家庭の情報を、調整機関であるこども未来課に集約するための働きかけを行った。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
要保護児童対策地域協議会実務者会議の開催回数	目標値	6回	6回	6回	6回	6回
	実績値	6回	6回	6回		
進捗状況 及び 自己評価	要保護児童対策地域協議会の代表者会議及び実務者会議など計画していた会議を実施することで、児童虐待の早期発見・早期対応や体制づくりにつなげることができた。 個別支援会議を積極的に開催し、児童虐待ハイリスク家庭ばかりではなく、関係機関が連携して見守りを要する家庭の支援にあたることができた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	要保護児童対策地域協議会の関係機関が、児童虐待に対して連携した対応が行えるよう、各関係機関の当事者意識の醸成など、連携強化について検討する必要がある。
今後の取り組み方針	要保護児童対策地域協議会の代表者会議をはじめとする会議や、広報・通知など様々な機会を捉えて、児童虐待対応について周知・啓発に努めるとともに、関係機関と連携しながら児童虐待対応を行う。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

子どもの養育に不安を抱える家庭を把握した際、こども未来課に相談するように促し、つなげる。
子どもの養育に心配な様子がある、児童虐待が疑われるなどの状況があった場合には、児童相談所、警察、こども未来課に通告する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	市長公室	課 名	政策企画課	係 名	政策企画係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(1)地域共生社会の実現に向けた仕組みづくり				
	事業名	⑤市民参画と協働による地域づくりの促進				
	事業概要	講座や講演会等の開催を通し、地域での活動に関心を持つ人材を発掘するとともに、お互いのつながりづくりのきっかけとなる機会を提供することで、これから実際に地域に関与する活動に取り組む担い手を育成します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	(1)第6次朝霞市総合計画策定のため、市民ワークショップや分野別市民懇談会を開催し、未来の朝霞市について、市民と意見交換を行った。 (2)市民参画と協働を推進するため、職員向けの講演会を開催した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
市民参画に係る講座・講演会の開催回数	目標値	1回	1回	1回	1回	1回
	実績値	1回	0回	3回		
進捗状況 及び 自己評価	今年度から策定に取り掛かっている総合計画への意見の反映のため、市民から直接意見を伺う機会を設けることができた。 また、市民参画と協働を推進するために、他自治体の事例や取り組み方法についての講演会を開催し、87名の職員が参加した。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	市民ワークショップや分野別市民懇談会においても、参加者や世代が固定化しているため、引き続き職員、市民ともに市民参画の機運醸成が重要と捉えている。特に、市民参画や協働に対する職員の意識啓発が課題である。
今後の取り組み方針	職員研修会を開催することで、市民参画、市民との協働について、庁内体制を整備し、職員の意識啓発を図っていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

市が実施する講座等に積極的に参加するとともに、参加を契機として、参加者同士がつながりを深め、地域での実際の活動に取り組む。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	福祉相談課	係 名	福祉相談係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(2)相談支援体制の充実				
	事業名	①福祉の総合相談				
	事業概要	高齢者の困りごと相談をはじめ、生活困窮など複雑化・複合化した様々な相談に対応していくほか、アウトリーチを含む早期的な対応や本人・世帯を包括的に受け止めるなどの支援に努めます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容		福祉に関する様々な相談を受け、関係部署や関係機関と連携しながら、必要な支援につなげた。必要に応じ、訪問による支援を行った。また、相談を受けた市職員が、適切に必要な支援へつなげられるよう福祉相談アドバイザー事業を実施し、活用した。 (令和5年度実績) 総合相談延べ件数1,000件、訪問延べ件数35件で、主な相談内容として、生活困窮に関すること、高齢者に関すること、家族・親族の悩み、トラブルに関することの順に多かった。 福祉相談アドバイザー事業利用実績 年2回				
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
福祉の総合相談件数	目標値	1,400件	1,400件	1,400件	1,400件	1,400件
	実績値	1,994件	1,686件	1,000件		
進捗状況及び自己評価		生活困窮に関する相談件数は、コロナ禍前に戻りつつあるが、令和5年度は、経済的困窮をはじめとして就労活動困難、病気、住まいの不安定、家庭の課題、メンタルヘルス、家計管理の課題、就労定着困難、債務問題など多岐に渡り、1ケースあたりの支援時間も長くなっている傾向があった。また、様々な関係機関(庁内・庁外)との調整や連携を必要とする業務特性より、令和5年4月に生活困窮者自立支援法で規定する支援会議を設置し、関係機関等がそれぞれ把握している困窮が疑われるような個々の事案の情報共有を行い、支援の検討を行うことができた。				
		A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない			

2 課題・今後の取り組み方針

課題	福祉ニーズの多様化・複雑化によって、制度の狭間に陥っているケースや、複合的に分野をまたがる困難ケースなど様々な相談を受けることから、支援員の資質向上や庁内関係部署及び庁外の福祉事務所やハローワークといった関係機関との連携強化が必要である。
今後の取り組み方針	支援員の資質向上のため、研修等に参加するとともに、様々な制度等の情報収集に努める。また、複合的に分野をまたがる困難ケース、ひきこもりケースなど、タイムリーな支援に繋ぐため、関係部署や関係機関を含めた支援会議を積極的に開催し、支援の連携強化を行っていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

ひきこもりなど、問題を抱えている方(本人及び家族)へ、近所からの声掛けや相談先の案内を行う。

4 推進委員会の意見(評価)

相談件数が目標値だと多い方が良いのか、少ない方がいいのか分からないため、例えば見込み値として件数を設定し、見込みより件数が少ない場合はこのような取り組みがあり見込みより実績が減りましたというような説明を記入するのが良いと思う。

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	障害福祉課	係 名	障害福祉係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(2)相談支援体制の充実				
	事業名	②障害者相談支援				
	事業概要	指定特定相談支援事業所等が障害児者とその保護者に対し、必要なサービスや制度の案内を行うとともに、困り事などの相談に対応していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・障害福祉サービスを利用者に対して、サービス等利用計画の作成を促す。 ・市内特定相談支援事業者等に対して、研修の案内や情報共有する機会を設け質の向上を目指す。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
計画相談支援月間実利用者数	目標値	360人	402人	450人	504人	565人
	実績値	371人	410人	456人		
進捗状況 及び 自己評価	計画相談支援の利用は継続しているが、新規利用希望者の受け入れができていない状況。セルフプラン利用者に対しプラン作成の補助を行うと同時に、計画相談を促す方法を検討していく。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	・一時的にセルフプランで支給決定された利用者に計画相談支援事業所の利用を促す必要がある。 ・新規利用希望者に計画相談について周知する必要がある。
今後の取り組み方針	・障害福祉サービスの利用者は、サービス等利用計画の作成を促し、必要なサービスを利用できるようにする。 ・セルフプラン作成者に対してもサービス等利用計画の作成を促す。 ・各相談支援専門員の質の向上を目指す。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

障害福祉サービス等の利用を検討している方に対して、積極的に相談するよう促し、つなげる。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	障害福祉課	係 名	障害福祉係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(2)相談支援体制の充実				
	事業名	③精神保健福祉相談				
	事業概要	主に精神障害のある人やその家族の困りごとなどに対して、精神保健福祉士が相談に対応していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	精神保健福祉士による専門相談を月2回実施。広く市民に利用してもらえるよう、また、相談支援専門員等の支援機関や関係課からの相談も受けられるよう、周知に努めた。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
精神保健福祉士による専門相談件数	目標値	24件	24件	24件	24件	24件
	実績値	47件	50件	32件		
進捗状況 及び 自己評価	精神保健福祉士による専門相談を月2回継続実施している。広く市民に利用してもらえるよう、広報・ホームページ掲載の他、関係者会議での周知等を図った。精神障害のある人やその家族からの相談だけでなく、相談支援専門員等の支援機関からの利用も積極的に実施した。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	市民や支援機関、関係課が必要な時に利用できるよう、周知や利用方法の検討が必要。
今後の取り組み方針	精神保健福祉士による専門相談(月2回)の継続。周知の拡大。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

市役所(障害福祉課)にて実施しているため、積極的に活用する。
民間レベルでは専門相談をしている所は多いと思うので、そういう所と連携する。

4 推進委員会の意見(評価)

実績の32件中20件が手帳申請につながったというような評価や、相談で安心して心配ごとがなくなったことで申請が減少したなど、二次的な評価をしても良いのではないかと。

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	障害福祉課	係 名	障害福祉係 障害給付係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(2)相談支援体制の充実				
	事業名	④障害者相談支援センター等による相談				
	事業概要	障害のある人に何か困り事や相談があった場合には、障害者相談支援センターのほか、各施設職員、身体障害者・知的障害者相談員、ケースワーカー等が対応していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	朝霞市社会福祉協議会が行うはあとぴあ障害者相談支援センターの充実を図るとともに、既存の事業所との連携により、一人一人の状況に応じた相談支援に努めた。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
はあとぴあ障害者相談支援センターにおける相談件数	目標値	2,400件	2,400件	2,400件	2,400件	2,400件
	実績値	2,099件	2,987件	2,882件		
進捗状況 及び 自己評価	はあとぴあ障害者相談支援センターや市内相談支援事業所等と障害福祉課ケースワーカーが連携し、様々な障害のある人に対し、適切な相談支援を行った。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	・基幹相談支援センターの設置に向けた調査研究を行う。 ・特定相談支援事業所連絡会等を活用し、相談支援の質の向上を図る。
今後の取り組み方針	先進自治体の事例研究等を行い、基幹相談支援センターの設置に向けて、具体的な取り組みを行っていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

障害のある人に何か困り事や相談があった場合には、障害者相談支援センターを案内する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	長寿はつらつ課	係 名	高齢者支援係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(2)相談支援体制の充実				
	事業名	⑤高齢者総合相談				
	事業概要	市と各地域包括支援センターに配置した認知症地域支援推進員を中心に、高齢者や家族に対する相談体制の充実を図ります。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	市と各地域包括支援センターに配置している認知症の医療や介護の専門的知識や経験を有する認知症地域推進員が、認知症当事者や家族、関係者等に対して、介護保険や社会資源等の活用について説明するとともに、認知症の正しい知識や対応方法等について記載された認知症ケアガイドブックを用いて、普及・啓発を図ることができた。 また、認知症地域支援推進員が定期的に集り、認知症施策等について話し合いを行う「認知症地域支援推進員連絡会」を毎月開催することができた。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
認知症地域支援推進員連絡会開催回数	目標値	12回	12回	12回	12回	12回
	実績値	12回	11回	11回		
進捗状況 及び 自己評価	認知症地域支援推進員による各種制度や社会資源等について、説明することができ、かつ、認知症について普及・啓発を図ることができた。 認知症地域支援推進員連絡会を毎月開催することができた。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	市や地域包括支援センターの職員の入れ替わり等で技能にバラつきが生じないように、継続的に技能向上を図っていく必要がある。
今後の取り組み方針	職員の入れ替わり等に合わせて、国が定める認知症地域推進員研修などを受講し、認知症に関する知識や技能習得に努め、引き続き、認知症をはじめとした各種相談業務を継続していく。また、意見交換等を通じて、情報の共有や目的の再確認等を行う。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

認知症サポーター養成講座に参加して、地域の見守りを行い、少しでも気にかかることがあれば市や地域包括支援センターに連絡していただきたい。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	こども・健康部	課 名	こども未来課	係 名	こども相談係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(2)相談支援体制の充実				
	事業名	⑥子ども家庭総合支援拠点の整備				
	事業概要	子どもとその家庭、妊産婦等を対象に地域の実情の把握、相談対応、調査、継続的支援等を行う子ども家庭総合支援拠点の設置を検討し、福祉、保健、医療、教育等の関係機関と連携した支援を行います。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	令和4年4月1日に子ども家庭総合支援拠点を開設した。 妊娠期からの切れ目ない支援を行うため、母子保健担当との情報共有や協働による方針検討などを行う場として、連絡会議を毎月開催した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
連絡会議の開催回数	目標値	12回	12回	12回	12回	12回
	実績値	12回	12回	12回		
進捗状況 及び 自己評価	子ども家庭総合支援拠点を開設し、連絡会議を開催することで、延べ228人のハイリスク妊婦、延べ136人の特定妊婦について情報共有し、生まれてからの切れ目のない支援について検討した。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	設置形態としては一体的な運営とはならなかった。令和6年4月の児童福祉法改正により、自治体に対し、新たに子ども家庭センターの設置に関して努力義務の規定が設けられたことから、子ども家庭センター設置に向け、検討する必要がある。
今後の取り組み方針	子育て家庭の妊娠期からの切れ目のない支援に向けて、関係機関と連携して必要な支援を行うとともに、児童虐待の早期発見・早期対応に努める。 こども家庭センターについて、令和7年4月の開設に向け、関係機関との調整を図る。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

子どもの養育に不安を抱える家庭を把握した際、こども未来課に相談するように促す。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	総務部	課 名	人権庶務課	係 名	男女平等推進係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(2)相談支援体制の充実				
	事業名	⑦女性総合相談・DV相談				
	事業概要	それいゆぱらざ(女性センター)では、女性が抱える悩み事全般に関する女性総合相談と、配偶者やパートナーからの暴力に関するDV相談を行います。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	女性総合相談については、毎週木曜日に女性が抱える悩み全般についての相談を実施。DV相談については、毎週火・水・金・土曜日にDV専門相談員が相談を実施した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
女性総合相談・DV専門相談実施日数	目標値	女性総合相談(52日) DV専門相談(205日)	女性総合相談(51日) DV専門相談(205日)	女性総合相談(52日) DV専門相談(205日)	女性総合相談(51日) DV専門相談(205日)	女性総合相談(51日) DV専門相談(205日)
	実績値	女性総合相談(52日) DV専門相談(205日)	女性総合相談(51日) DV専門相談(205日)	女性総合相談(52日) DV専門相談(204日)	—	—
進捗状況 及び 自己評価	女性総合相談及びDV相談を継続的に実施し、市民が安心していつでも相談できる体制で実施することができた。また、相談窓口の周知のために市内公園の公衆トイレにポスターを掲示した。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	相談の場を広く周知し、相談体制を充実させるとともに、複合化する相談内容に対し、迅速な庁内連携や関係機関との連携が必要である。
今後の取り組み方針	相談窓口の周知に努めるとともに、様々なケースの相談内容に対応できるよう、研修参加を通じて支援する側のスキル向上を図っていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

DV相談及び女性総合相談の利用、また相談窓口の周知をする。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	総務部	課 名	人権庶務課	係 名	人権庶務係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(2)相談支援体制の充実				
	事業名	⑧人権相談				
	事業概要	人権擁護委員と連携しながら人権相談を実施し、市民の基本的人権の擁護に努めるとともに、市民の人権尊重意識の向上を図ります。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	人権相談について、毎月第1月曜日に実施した。また、市内小学校での人権の花運動の実施など、人権擁護委員とともに各種啓発活動を行った。さらに、市民の人権意識の向上の取組として、人権週間(12月4日～10日)に合わせて、人権について考えていただくよう市のホームページのリンクを貼ったメールをメール配信サービス登録者に送付した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
人権相談の実施日数	目標値	12日	12日	12日	12日	12日
	実績値	12日	12日	12日		
進捗状況 及び 自己評価	人権相談については、対面での相談以外にも、電話などで問い合わせを受けることがあり、その際は、さいたま地方支務局での常設人権相談を案内するなど適切に対応した。また、相談内容を傾聴し、他部署へ繋ぐ等の対応を行った。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	人権に関わる相談については、内容が複雑、多様化しているケースが想定されるため、人権相談の相談員や担当職員については、そのような相談に対し、適切な対応ができるようスキルアップが課題と考える。また、人権相談を希望する市民に対して、人権相談の窓口をSNS等を活用し、周知啓発していく。
今後の取り組み方針	人権問題は複雑化多様化の傾向にあり、新たな人権課題が生じることを想定し、解決に向けて正しい人権教育・啓発活動を工夫するとともに支援体制の充実を図る必要がある。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

相談をしたい方や地域で困っている方にとって、まずは話を聞いてくれる方が地域にいてくれると悩みを抱え込むようなことがなくなる。 身近に相談できる方がいない方々のためにも市や社協に設置されている総合相談の周知・啓発や助言・案内に協力する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	市民環境部	課 名	地域づくり支援課	係 名	市民生活・相談係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(2)相談支援体制の充実				
	事業名	⑨消費生活相談				
	事業概要	消費者被害の未然防止・被害回復のために、消費生活相談員による相談を行います。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	開庁日の10時～正午、午後1時～4時に面談及び電話で消費生活相談を実施。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
消費生活相談件数	目標値	900件	940件	980件	1020件	1070件
	実績値	829件	846件	800件		
進捗状況 及び 自己評価	相談件数は目標値に至らなかったものの、例年同様の件数が見込まれた。 相談件数が目標値に至らなかったのは、トラブルの件数が少なかったと見える反面、消費生活相談の認知度が低いという観点も認識する必要があると捉えている。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	消費者トラブルは年々多種・多様化している。また、高齢者の消費者被害も依然として高い状況が続いていることから、消費者トラブルに対応するため、消費生活相談員のスキルアップを図り、消費生活相談の充実を図る必要がある。
今後の取り組み方針	消費者トラブルにあった時の相談窓口として、引き続き啓発活動を行い、消費生活センターの認知度を高めていくよう努める。 また、消費生活相談員には、各種研修に参加できるように環境等の整備を行っていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

高齢者や自己判断が難しい市民に対し、隣り近所の方が見守りを行い、消費者トラブルの発生や見込まれる場合に、消費生活センターにつなげる。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	こども・健康部	課 名	健康づくり課	係 名	予防係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(3)保健医療・社会福祉サービスの充実				
	事業名	①地域医療の確保				
	事業概要	医療機関が休診となる休日夜間においても、市民が医療機関で受診することができるように、医療体制の整備を図ります。また、地域医療体制の確立と保健衛生事業の推進に寄与することにより、市民の健康増進の拡充を図ります。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	朝霞市民の健康を守る地域医療体制の確立と、朝霞地区看護専門学校等の安定した運営に資するため、朝霞地区医師会等に補助金を交付する。朝霞地区4市が朝霞地区医師会と委託契約を締結し、日曜及び休日の昼間の初期救急医療、救急病院が実施する日曜休日及び夜間の二次救急医療を確保する。朝霞地区4市及び埼玉県が慶応大学と協定を締結し、同大学に寄附講座を設置することにより、小児科医を確保する。骨髄提供者、早期不妊治療者等への助成費の交付を行う。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
小児救急実施率	目標値	100%	100%	100%	100%	100%
	実績値	100%	100%	100%		
進捗状況及び自己評価	・在宅当番医制運営事業/朝霞地区医師会に診療業務を委託 ・小児救急医療支援事業/小児二次救急医療業務を委託 ・病院群輪番制病院運営事業/二次救急医療業務を委託 ・小児救急医療寄附講座支援事業/慶応大学に寄附講座を設置 【補助金】朝霞地区医師会、朝霞地区歯科医師会、朝霞地区看護専門学校(朝霞地区医師会)に補助。骨髄移植ドナー助成費補助事業/骨髄・末梢血幹細胞提供者のうち、条件に該当する者に対し助成。早期不妊検査・不育症検査・早期不妊治療助成費補助事業/不妊検査、不育症検査及び不妊治療を行った者のうち、条件に該当する者に対し助成					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	特定不妊治療について保険適用が開始されたことに伴い、早期不妊治療費助成事業のあり方について検討が必要
今後の取り組み方針	今後も医療体制を維持できるように支援を行う。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

地域の病院等の情報を把握する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	こども・健康部	課 名	健康づくり課	係 名	健康推進係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(3)保健医療・社会福祉サービスの充実				
	事業名	②各種健(検)診事業の促進				
	事業概要	乳幼児健康診査、がん検診、歯科検診など各種健(検)診事業として、受診ができる体制を図ります。また、健(検)診に関する情報を市民に周知し、疾患の予防及び早期発見につなげられるよう、取り組みます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	胃・肺・大腸・乳・子宮・前立腺がん検診の実施。(個別／集団／こくほの総合健康診査) がん検診無料クーポン券の交付。がん検診推進事業助成金の実施。 成人健康診査(30代のヘルスチェック)、生活保護受給者を対象とした健康診査、肝炎ウイルス検診、骨粗しょう症予防検診の実施。 3歳児健診時フツ化物塗布、幼児歯科健診、成人歯科健康診査の実施。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
がん検診受診率 (女性特有:子宮頸がん、乳がん受診率)	目標値	子宮頸がん 40.0% 乳がん 40.0%	子宮頸がん 40.0% 乳がん 40.0%	子宮頸がん 40.0% 乳がん 40.0%	子宮頸がん 40.0% 乳がん 40.0%	子宮頸がん 50.0% 乳がん 50.0%
	実績値	子宮頸がん 7.6% 乳がん 9.3%	子宮頸がん 7.3% 乳がん 8.4%	子宮頸がん 7.6% 乳がん 8.6%		
進捗状況 及び 自己評価	指標のがん検診受診率について前年度よりも上昇した。また、成人健康診査(30代のヘルスチェック)の受診者数は近年で最も多かった。健康課題の多くは壮年期以降に表出するため、それ以前の若い世代をターゲットとした本事業において受診者数が増加したことは成果といえる。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	各健(検)診の周知。健康に関心の薄い層の受診勧奨。
今後の取り組み方針	各健(検)診の周知、正しい知識の普及、受診しやすい環境整備。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

定期的な各健(検)診の受診。必要時における精密検査の受診。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	こども・健康部	課 名	健康づくり課	係 名	保健係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(3)保健医療・社会福祉サービスの充実				
	事業名	③妊娠・出産包括支援				
	事業概要	母子手帳の交付の際、保健師等の専門職がすべての妊産婦等の状況を把握し、必要に応じて支援プランを作成することにより、切れ目のない支援の実施を図ります。また、退院直後の母子の心身のケアや育児サポート等を行います。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	母子手帳の交付時に、本人または代理で来所された方と必ず面談を行うことで、妊娠・出産、産後に関する相談や情報提供を行うとともに、必要に応じて関係機関とも連携を図りながら、必要な支援を行った。また、R5年度から伴走型相談支援を開始し、妊娠時の面談、妊娠8か月目のアンケート、産後の新生児訪問による面談を実施し、妊娠時、出産後に各5万円の給付を実施した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
母子手帳交付時に専門職が面談する妊婦数	目標値	1,350人	1,350人	1,350人	1,350人	1,350人
	実績値	1,202人	1,117人	1,122人		
進捗状況 及び 自己評価	母子手帳の交付や転入の手続き等、生活状況や経済状況等の確認も含めて、必ず面談を行い、不安等の軽減に努めている、妊婦本人が体調不良等で来所できない場合も、電話等で状況の把握を行っている妊娠初期からかかわることで、産後や育児に関する相談先の周知や不安の軽減につながっている。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	子育て世代包括支援センターは現在、保健センター内に1か所の設置となっており、北朝霞方面の方へ利便性が課題である。また、今後、虐待対応部署との連携強化のため、子ども家庭センターの設置に向けた検討を行っていく。
今後の取り組み方針	引き続き、母子手帳交付時からの関わりを継続しながら、産後の支援の充実に向けて、事業の展開を検討していく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

現状1か所のみの運営のため、保健センターへの来所、手続きを行う。給付金の手続きについては、電子申請とし、市民の利便性を図る。

4 推進委員会の意見(評価)

妊娠時、出産時に給付金5万円給付を実施したとなっているが、給付時おむつセットを渡す等の支援を行いながら、マタニティ支援、保護者支援を一括でやって欲しい。

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	こども・健康部	課 名	健康づくり課	係 名	保健係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(3)保健医療・社会福祉サービスの充実				
	事業名	④自殺対策の推進				
	事業概要	朝霞市自殺対策計画に基づき、「誰もが支えあい つながりある朝霞を目指して」を基本理念に掲げ、自殺予防の視点を取り入れた形で関係部署と連携を図りながら予防に取り組めます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	朝霞市自殺対策計画に基づき、「誰もが支えあい つながりある朝霞を目指して」を基本理念に掲げ、自殺予防の視点を取り入れた形で関係部署と連携を図りながら予防に取り組んだ。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
人口10万人当たりの自殺死亡率	目標値	11.3人	11.3人	11.3人	11.3人	11.3人
	実績値	14.9人	16.02人	11.7人		
進捗状況 及び 自己評価	市の様々な事業を自殺予防という視点を取り入れた形で、基本施策に位置づけた、朝霞市自殺対策計画を策定しており、進捗管理を行いながら、対策に取り組んでいる。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	自殺予防という視点を取り入れて、様々な事業を実施しており、各課の事業評価を行い、関係各課と連携を図りながら、さらに取組を推進していく必要がある。
今後の取り組み方針	基本施策の5本柱と若年層、中高年層、ハイリスク者への対策を重点施策とし、関係部署の取組状況を把握・評価し、朝霞市自殺対策計画に基づいて、施策を推進する。また、令和6年度までの計画となっているため、次年度、計画の見直しを行う。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

自殺予防の普及・啓発に協力する。

4 推進委員会の意見(評価)

具体的に行っている施策の内容が分からない。どのような事業をしているのか取り組み内容を記載して欲しい。

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	障害福祉課	係 名	障害給付係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(3)保健医療・社会福祉サービスの充実				
	事業名	⑤地域活動支援センター及び生活ホームへの支援				
	事業概要	障害のある人の社会参加促進を図る地域活動支援センター及び社会的自立の助長を図るための生活ホームの運営費等に対し、補助金を交付します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	地域活動支援センター3か所、生活ホーム1か所への補助金の交付を行い、適正な運営による、安定的な受け入れ体制の確保を図ります。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
補助金交付対象事業所数	目標値	4か所	4か所	4か所	4か所	4か所
	実績値	4か所	4か所	4か所		
進捗状況 及び 自己評価	所要額に見合う補助金の交付を行った。また、物価高や介護報酬引き上げに関連して朝霞市障害福祉施設従事者処遇改善補助金、朝霞市障害福祉施設等光熱費等高騰対策支援金の交付を行った。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	法定施設の整備状況や利用者の意向等、需要と供給を見極め、今後の支援の在り方について検討する必要があります。
今後の取り組み方針	利用者の実態に応じた施設の運営の支援に努めます。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

施設の運営に対して地域で理解を深め、協力する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	長寿はつつ課	係 名	介護保険係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(3)保健医療・社会福祉サービスの充実				
	事業名	⑥介護サービスの基盤整備				
	事業概要	需要に合った施設を整備していくため介護給付費とのバランスを図りながら、国の基本方針に基づき、介護保険事業計画(第8期令和3～5(2021～2023)年度、第9期令和6～8(2024～2026)年度)の中で計画するとともに、地域密着型サービスについては、地域密着型サービス運営委員会に諮りながら整備を進めていきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	令和4年度公募で応募がありました定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所は、令和5年12月に開設しました。また応募がなかった看護小規模多機能型居宅介護事業所は、第9期朝霞市高齢者福祉計画・介護保険事業計画で令和6年度以降も引き続き整備を目指すこととなり、その運営する法人について公募を行う予定となりました。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
地域密着型サービス事業所数	目標値	22か所	22か所	24か所	24か所	24か所
	実績値	22か所	22か所	24か所		
進捗状況 及び 自己評価	令和4年度公募で応募がありました定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所は開設したので、進捗しています。また応募がなかった看護小規模多機能型居宅介護事業所は、令和6年度以降も引き続き運営する法人について公募を行うことが決定したため、進捗しています。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	看護小規模多機能型居宅介護事業所について、令和4年度に公募したものの応募がなかったため、今後の公募方法を改善する必要があります。
今後の取り組み方針	看護小規模多機能型居宅介護事業所について、今後の公募方法を工夫し、より応募されるよう努めて参ります。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所について開設されたため、ご理解、ご協力をお願いいたします。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	長寿はつらつ課	係 名	地域包括ケア推進係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(3)保健医療・社会福祉サービスの充実				
	事業名	⑦在宅医療・介護の連携強化				
	事業概要	「自分が望んだ場所で望んだ暮らしの実現」「安心して療養できる地域」を目指し、高齢者が医療と介護の両方を必要とする状態になっても、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるように、医療と介護が連携し、包括的かつ継続的な在宅医療・介護サービスを提供できる体制作りに取り組みます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容		「自分が望んだ場所で望んだ暮らしの実現」に向けて、自身の望みを表現する手法であるACPを軸とした研修や意見交換会等を開催した。 国立長寿医療研究センターで提供されるACPに関する人材育成等のプログラムの提供を受け、研修会を開催し、その後、修了者を中心にACPワーキンググループを立ち上げ、市民への普及・啓発に向けた取組を行った。 情報連携シートの活用状況を把握した。				
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
研修・情報交換・講演会等の開催	目標値	7回	7回	7回	8回	8回
	実績値	10回	10回	9回		
進捗状況及び自己評価		医療・介護職を対象にACPをはじめとする研修や意見交換会の実施により、医療と介護の連携強化が図るとともに、参加者同士の交流機会を提供することができた。 また、人材育成プログラム研修の修了者を中心とするACPワーキンググループを立ち上げることができた。				
		B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない			

2 課題・今後の取り組み方針

課題	情報連携シートの活用に向けた普及・啓発 ACPに関する発信内容の確立と情報発信ツールの検討
今後の取り組み方針	ACPに関する発信内容の確立及びリーフレット等の作成検討 ACPワーキンググループを活用した市民啓発活動

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

・ACPの必要性を理解し、知識を習得する。

4 推進委員会の意見(評価)

研修を行った回数が目標、実績となっていて、研修に何人参加した等の中身が分からない。参加人数を目標にすることや、自己評価の欄に内容を記載して欲しい。

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	こども・健康部	課 名	保育課	係 名	保育係 保育総務係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(3)保健医療・社会福祉サービスの充実				
	事業名	⑧保育士の雇用環境の改善				
	事業概要	ハローワークや地域の保育団体、社協等と協力して、年に1回就職相談会を開催し、市内での保育所等への就職につなげていきます。また、保育士の処遇の改善を目的として、月額1万円の補助を行います。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・保育士や放課後児童クラブの指導員の採用に関する就職相談会を、ハローワークや地域の保育団体、社協等と協力し、産業文化センターで開催した。保育園と放課後児童クラブ合わせて、10法人が参加し、来場した参加者は48名だった。 ・民営の保育施設に対して、保育士の処遇の改善を目的として、月額1万円の補助を行った。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
就職相談会の実施回数	目標値	1回	1回	1回	1回	1回
	実績値	0回	1回	1回		
進捗状況 及び 自己評価	・就職相談会では、法人・参加者ともにアンケートで概ね満足という声をいただけた。また、来場した参加者48名のうち8名が採用に繋げることができた。 ・民営の保育施設に対して月額1万円の補助を行い、保育士の処遇改善に繋げることができた。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	・保育士確保のため、処遇改善及び就職相談会のほか、公設公営保育園での保育士募集などを行っているが、保育士不足の状況が続いている。 ・園によっては、入職した保育士がなかなか定着せず転職、退職してしまう場合がある。
今後の取り組み方針	引き続き、保育士の処遇の改善を目的として、月額1万円の補助を行う。合わせて、就職相談会の開催時期や募集方法について検討を重ねていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

市内スーパーなど、より求職者の目につきやすい場所に就職相談会や求人チラシの掲示できるよう協力する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	障害福祉課 長寿はつらつ課	係 名	障害福祉係 高齢者支援係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(4)権利擁護の推進				
	事業名	①成年後見制度の利用促進				
	事業概要	認知症や知的障害のある人、精神障害のある人など、判断能力の不十分な人が不利益とならないよう、財産管理や身上監護を必要とする場合で、その人に身寄りがいない等の場合に、市長による審判請求や後見人等の報酬を助成します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	支援者や家族等からの相談に対して、権利擁護に関する制度説明等を行い、必要に応じて、成年後見制度の市長申立てや成年後見人に対する報酬助成を行った。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
成年後見市長申立て件数	目標値	障害のある人 3件 高齢者 7件	障害のある人 3件 高齢者 8件	障害のある人 3件 高齢者 9件	障害のある人 4件 高齢者 10件	障害のある人 4件 高齢者 10件
	実績値	障害のある人 1件 高齢者 4件	障害のある人 1件 高齢者 8件	障害のある人 3件		
進捗状況 及び 自己評価	包括支援センター、相談支援専門員等と連携し、支援者や家族等からの相談に対して、成年後見制度をはじめとした権利擁護に係る説明や関係団体に繋ぐことができた。 また、必要に応じて成年後見制度の市長申立てを行い、成年後見人に対して、報酬助成を行った。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	認知症高齢者等の増加が見込まれることから、相談体制の充実を図る必要がある。
今後の取り組み方針	相談体制の充実に努めながら、普及・啓発活動を継続する。 必要に応じて成年後見制度の市長申立て及び成年後見人に対する報酬助成を継続する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

制度について理解促進を深める。 お困りの方がいたら市民・地域同士で支えあう。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	障害福祉課 (障害者虐待防止センター)	係 名	障害福祉係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(4)権利擁護の推進				
	事業名	②障害者虐待の防止				
	事業概要	障害のある人への虐待について、相談、通報又は届出を受けたときは、関係機関との連携により、円滑な解決を図ります。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	障害者虐待防止センターの業務内容(虐待を受けた又は見聞かした場合は通報・相談先であることや障害のある人の養護者の負担軽減、虐待に該当する行為等)を広報、ホームページ等で周知する。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
障害者虐待防止センター事業の広報への掲載回数	目標値	3回	3回	3回	3回	3回
	実績値	3回	3回	3回		
進捗状況 及び 自己評価	「虐待防止ダイヤル#7171」のリーフレットやポスターを市内障害福祉施設や相談支援事業所等へ設置依頼をし、障害者虐待の未然防止等をお願いした。また、虐待に関する通報・相談があった際に関連部署と密に連絡を取り合った。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	障害者虐待を未然に防止するための啓発活動を継続する。
今後の取り組み方針	埼玉県等主催の虐待防止研修に参加(web等)し、障害者虐待防止センターの機能強化を図り、同センターの業務内容を広報、ホームページ等へ掲載し、積極的な啓発に努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

障害者虐待と思われる場面を発見したら、速やかに通報する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	長寿はつらつ課	係 名	高齢者支援係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(4)権利擁護の推進				
	事業名	③高齢者虐待の防止				
	事業概要	高齢者の虐待について関係機関と連携を図るとともに、より早期に発見、対応していけるように、市民や関係者などを対象とした研修の充実に努めます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・介護施設職員、居宅介護支援事業所及び地域包括支援センター職員に対する高齢者虐待防止研修を実施することができた。 ・介護者の相談内容に応じた介護保険制度等をご案内することにより高齢者虐待の抑制を図ることができた。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
虐待防止研修参加者数(事業者)	目標値	60事業者	60事業者	60事業者	60事業者	60事業者
	実績値	35事業者	47事業者	28事業者		
進捗状況及び自己評価	・介護施設職員、居宅介護支援事業所及び地域包括支援センター職員に対する高齢者虐待防止研修を実施することができた。 ・介護者の相談内容に応じた介護保険制度等をご案内することにより高齢者虐待の抑制を図ることができた。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	市民を対象にした高齢者虐待防止に関する普及・啓発活動の充実。
今後の取り組み方針	現在の事業を継続するとともに、市民を対象にした高齢者虐待防止に関する普及・啓発活動を検討する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

虐待疑いの事案の早期発見のため、相談窓口(市、地域包括支援センター等)の把握と利用に協力する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	こども・健康部	課 名	こども未来課	係 名	こども相談係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(4)権利擁護の推進				
	事業名	④児童虐待の防止				
	事業概要	要保護児童対策地域協議会の代表者、実務者及び児童福祉施設等職員向けに研修を実施し関係機関との連携を図るほか、市民向けにセミナーを開催するなど虐待の防止に取り組みます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	要保護児童対策地域協議会の代表者・実務者向けに、児童虐待対応における多機関連携に関する研修会を2回開催。普段子どもと接する機会が多い関係機関職員向けに、児童虐待対応に関する研修会を1回開催。 児童虐待防止推進月間の11月に、市民向けセミナーを開催。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
要保護児童対策地域協議会の関係機関職員向け研修開催	目標値	2回	2回	2回	2回	2回
	実績値	2回	2回	3回		
進捗状況及び自己評価	要保護児童対策地域協議会の構成機関をはじめとする関係機関の職員向けに、各種研修会を実施し、児童虐待対応における関係機関間の連携の重要性について共有することができた。 市民向けセミナーについて、コロナ禍で開催を中止していたが、令和5年度から講演会の形式で再開することができた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	児童虐待防止や児童虐待対応において効果的なものとなるよう、研修内容を検討する必要がある。 また、参加者が参加しやすい開催日程となるよう検討する必要がある。
今後の取り組み方針	社会情勢、関係機関のニーズや研修アンケートなどを踏まえながら、研修テーマ、講師の選定や開催日程などの選定に取り組み、研修会を実施する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

研修で学んだことを各関係機関に持ち帰り、職員間で共有し、実務に活かす。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	福祉相談課	係 名	福祉相談係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(5)生活困窮者等への支援の充実				
	事 業 名	①生活困窮者・世帯の自立支援(再掲)				
	事業概要	生活困窮者の自立の促進を図るために、生活困窮者自立支援法に基づき、相談や就労支援、学習支援、住居確保給付金の支給などの各種支援を実施します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	生活困窮者自立支援法に基づき、生活困窮者に対して市町村の必須事業とされている自立相談支援事業及び住居確保給付金の支給、任意事業の学習支援事業及び家計改善支援事業を実施した。 (R5年度実績) 住居確保給付金 決定件数12件、支給件数33件、総支給額1,542,900円 学習支援事業 学習教室 年46回、利用者数31人 内訳(中学生20人、高校生10人、高校生世代※1人) ※中学校修了後、18歳に達する日以降の最初の3月31日までの間にある方 家庭訪問 年120回(延べ) 利用者数10人 内訳(中学生5人、高校生4人、高校生世代1人) 家計改善支援事業 実人数22人、延べ相談件数45件 ※7月より事業開始 生活困窮者自立支援法で規定する支援会議を設置 ※4月より設置 実施回数2回					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
生活困窮に関する相談件数(再掲)	目標値	600件	600件	600件	600件	600件
	実績値	1,772件	1,424件	850件		
進捗状況及び自己評価	生活困窮に関する相談件数は、コロナ禍前に戻りつつあるが、令和5年度は、経済的困窮をはじめとして就労活動困難、病気、住まいの不安定、家庭の課題、メンタルヘルス、家計管理の課題、就労定着困難、債務問題など多岐に渡り、1ケースあたりの支援時間も長くなっている傾向があった。 また、様々な関係機関(庁内・庁外)との調整や連携を必要とする業務特性より、令和5年4月に生活困窮者自立支援法で規定する支援会議を設置し、関係機関等がそれぞれ把握している困窮が疑われるような個々の事案の情報共有を行い、支援の検討を行うことができた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	複雑化かつ多様化している生活困窮者の有する課題に対応するためには、就労、家計など様々な面から自立に向けた包括的な支援を提供できる体制を整えていく必要がある。
今後の取り組み方針	生活の困窮に関わる相談を含め、日常生活における様々な困りごとや悩みごとをはじめ、ひきこもりの方、8050問題など、複合化かつ複雑化する問題を包括的に受け止める相談体制などを検討していく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

生活に困窮している人を身近で見かけたときに、相談先を案内する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	生活支援課	係 名	第1・2・3係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(5)生活困窮者等への支援の充実				
	事業名	②生活保護の適正な運営				
	事業概要	ケースワーカー等が生活困窮者の相談を受け、利用可能な支援策について助言を行う。 また、生活保護が必要な人には、生活保護を適用し、生活保護受給者に対しては、適正な保護を実施するとともに、必要に応じて自立助長を促す。				

R5年度の取り組み内容	生活困窮者の相談については、面接相談員やケースワーカーが受付し、利用可能な支援についての助言を行い、必要に応じて生活保護の申請を受理した。 令和6年1月末現在の実績は、前年同時期と比較すると、生活保護世帯数1,592世帯は1%増、保護人員1,929人は0.7%増、保護率1.33%は同率である。また、相談延べ件数は、623件で17.1%増、申請は、209件で6.1%増、このうち195件が保護を開始し、6.6%増となり、自立助長に向けて必要な支援を実施した。また、廃止の実績は、152件となり、1.3%増となった。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
生活保護受給世帯の 高校等進学率	目標値	100%	100%	100%	100%	100%
	実績値	90%	100%	100%		
進捗状況 及び 自己評価	令和5年度の高校進学実績については、6人中6人が高校進学した。 内訳としては、全日制(県立2人、私立2人)4人、特別支援学校1人、通信高校1人と結果としては、進学100%となったが、希望通りの高校進学が実現できなかった方もいるので、希望が叶うよう対象世帯へ支援する。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	生活保護受給家庭で育った子供は、様々な生活上の問題を抱えていることが少なくない。親の教育に対する考え方や生活スタイルなどは、子どもの勉強するという姿勢だけでなく、健全育成へ影響する部分が大い。 このことから、親と子、両者への適切な支援が必要であるため、関係機関と連携を密に図り対応していく必要がある。
今後の取り組み方針	現在、福祉相談課で中学生・高校生を対象に実施している無料の学習塾(アスポート事業)を生活保護受給世帯が活用できるようCWにより支援することはもとより、教育機関との積極的な連携や、他施策の活用などにより、受給世帯の子どもの健全育成を進めていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

地区の民生委員や各関係機関と連携を図り、協力しながらその世帯の自立に向けての支援を実施していく。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	福祉相談課 こども未来課	係 名	福祉相談係 こども給付係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(5)生活困窮者等への支援の充実				
	事業名	③生活困窮者等の学習支援				
	事業概要	ひとり親世帯や生活保護世帯等の生活困窮世帯の中学生・高校生を対象に、高校への進学及び中退の防止等を目指し、学習支援事業を実施します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の 取り組み内容	校長会にて本事業の概要説明を実施し、教職員や保護者への周知及び声掛け等を依頼。 本事業についての高等学校への進学及び中途退学防止のための学習教室を週1回開催したほか、家庭訪問等により学習や進学、生活習慣を身につけるための相談支援等を行った。 学習支援事業 学習教室 年46回、利用者数31人 内訳(中学生20人、高校生10人、高校生世代※1人) ※中学校修了後、18歳に達する日以降の最初の3月31日までの間にある方 家庭訪問 年120回(延べ) 利用者数10人 内訳(中学生5人、高校生4人、高校生世代1人)					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
生活困窮等世帯の学習支援事業の利用者数	目標値	28人	30人	32人	34人	36人
	実績値	32人	30人	31人		
進捗状況 及び 自己評価	学習教室の開催や訪問による支援等を実施した。また、生活保護ケースワーカー向けに事業の説明会を実施したほか、児童扶養手当の受給者証の送付時や、就学援助の決定通知にチラシを同封するなど、事業を周知した。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	朝霞駅方面で行っており、朝霞台駅方面からは遠いとの声がある。また、対象者の拡大のほか、多くの方に本事業を周知して行く必要がある。
今後の取り組み方針	当面は訪問学習の利用や、小学生対象の方へは市内で活動するNPO法人が実施する学習支援教室を案内し、支援につなげていく。また、本事業の制度や利用方法について、様々な場を活用して、周知に努めていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

生活に困窮している人を身近で見かけたときに、相談先を案内する。

4 推進委員会の意見(評価)

教育に興味を持つ高齢者が多くいるため、ボランティアで教育に携わると思う。

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	市民環境部	課 名	産業振興課	係 名	産業労働係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(5)生活困窮者等への支援の充実				
	事業名	④内職相談				
	事業概要	家庭外で働くことが困難で内職を希望する人に対し、内職の相談・紹介を行うとともに、内職提供事業所の調査、開拓及び仕事提供の依頼を行います。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	毎週火曜日と金曜日の10時から16時まで、市民相談室で内職相談員による相談事業を実施した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
相談件数	目標値	150件	150件	150件	150件	150件
	実績値	113件	122件	138件		
進捗状況 及び 自己評価	相談件数は、増加傾向で推移している。 生活資金のあてとして内職を希望する相談者も多いが、内職を主として生計を立てることは現実的ではないことを具体的な工賃等で説明することで、斡旋後のミスマッチを防止する役割を担っているものと考えられる。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	相談件数は増加傾向にあるものの、目標値には達していない状況にある。
今後の取り組み方針	引き続き、相談業務の実施と周知を行う。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

事業周知に協力していただきたい。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	福祉相談課	係 名	地域福祉係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(6)地域住民の交流の促進				
	事業名	①総合福祉センターの利用				
	事業概要	総合福祉センターを利用することにより、高齢者、障害のある人及び児童の交流を促進します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	社会福祉法人朝霞市社会福祉協議会を指定管理者として、総合福祉センターの管理及び運営を適正に実施することで、高齢者、障害のある人及び児童が安全に交流できる場を提供した。 利用者アンケートを実施し、利用者の意見を伺った。 運営協議会を2回開催し、総合福祉センターの事業報告及び事業計画について説明し、協議した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
会議室等利用人数	目標値	10,000人	10,000人	10,000人	10,000人	10,000人
	実績値	4,525人	4,621人	5,200人		
進捗状況 及び 自己評価	コロナ禍で設けていた利用人数の制限を解除したことなどで、利用者数が5,000人台に回復した。また会議室の申請受付期間を変更(1か月前から3か月前)したことで、利便性を図った。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	地域福祉の推進を担う観点から、高齢者、障害のある人及び児童が利用できる施設として、今後も安定した運営により様々なサービスを提供していく必要がある。
今後の取り組み方針	総合福祉センターの指定管理者と連携し、適宜必要な工事・修繕等を行うことで、安全かつ適正に管理運営していくとともに、施設の周知を図り利用促進に努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

総合福祉センターの利用を通じて、地域の様々な交流の場に積極的に参加する。

4 推進委員会の意見(評価)

ハード面だけでなく、ソフト面(交通の利便性を図れるような)取組を盛り込めるように今後、検討して欲しい。

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	長寿はつらつ課	係 名	高齢者支援係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(6)地域住民の交流の促進				
	事業名	②老人クラブ会員による世代間交流				
	事業概要	老人クラブ会員が児童館事業の「伝承遊び」の講師として指導するなど、様々な機会に、様々な形の世代間の交流を行います。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	主に老人福祉センターを利用している高齢者と同一建物内の児童館を利用している児童や学生(以下、児童等という。)と交流を図ることができたが、老人クラブ会員と児童館を利用している児童等の交流を図ることはできなかった。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
老人クラブ会員と児童館を利用している児童の交流の機会	目標値	1回	1回	1回	1回	1回
	実績値	0回	0回	0回		
進捗状況 及び 自己評価	老人福祉センターと児童館の利用者の世代間交流事業は、8回開催することができたが、高齢者が老人クラブに所属しているかは不明である。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	事業実施に向けた老人クラブと児童館の連携体制を構築する必要がある。また、参加した高齢者の老人クラブの加入状況を確認する必要がある。
今後の取り組み方針	事業実施に向けた連携体制を構築できるように、老人福祉センターや老人クラブに働きかけを行い、参加した高齢者の感想を伺うとともに、老人クラブの加入状況を把握する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

興味のある老人クラブの活動に参加していただき、世代間交流事業を実施する際は、参加していただきたい。

4 推進委員会の意見(評価)

- ・興味があるものから交流できれば発展性がある。学習面のサポートも検討して欲しい。
- ・高齢者側からだけでなく、ゲームをこども達から教わるなどの多世代交流を検討して欲しい。

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	長寿はつらつ課	係 名	地域包括ケア推進係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(6)地域住民の交流の促進				
	事業名	③生活支援体制整備事業の推進				
	事業概要	地域の住民や各種団体、企業の関係者など様々な人々が連携しながら、多様な日常生活上の支援体制の充実・強化、また、地域住民や高齢者の社会参加を図る「助け合いの活動」の推進を目標に、協議体や生活支援コーディネーターの活動により、地域の課題や資源の把握、課題解決に向けた検討を進めて行きます。 また、地域資源を可視化し、地域のニーズとの円滑なマッチングや支援を進めます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	生活支援コーディネーター会議を毎月開催し、各生活支援コーディネーターの活動を支援した。 第1層協議体を立ち上げ、会議を開催した。 地域とのつながり、資源の把握等を目的に市内の活動団体が主催するイベントに参加した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
第2層協議体の会議開催回数	目標値	60回	60回	60回	72回	72回
	実績値	46回	56回	58回		
進捗状況 及び 自己評価	生活支援コーディネーター会議を毎月開催し、ニーズに合った事業の企画・実施や、第2層協議体の活動状況の共有、第1層協議体の立ち上げを行った。 第2層協議体の役割の再確認や先進市の取組を学ぶため、学習会を開催した。 地域とのつながり、資源の把握等を目的に市内の活動団体が主催するイベントに参加した。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	第6圏域における第2層協議体の設置に至っていない。 第2層協議体の効果的な運営活動支援が必要である。
今後の取り組み方針	住民主体の活動を支援するための体制・仕組みづくりを整備する。 第6圏域における第2層協議体の設置に向けて支援する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

自助・互助を基本とする支え合いの必要性について理解を深める。

4 推進委員会の意見(評価)

第1層協議体について、朝霞ならではのオリジナリティを出して欲しい。

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	長寿はつつ課	係 名	高齢者支援係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(6)地域住民の交流の促進				
	事業名	④生きがい活動の支援				
	事業概要	高齢者地域交流室及びシルバーサロンの適切な管理を行い、市民に提供します。また、高齢者地域交流室の効率的な運用方法について検討していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	新型コロナウイルスの影響により、利用者数が減少していたため、令和5年3月のマスク着用の自由化や同年5月の類型見直しに伴い、休止中であった備品の提供を再開し、利用促進に関する周知啓発を行う。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
シルバーサロンの利用者数	目標値	600人	700人	800人	900人	1000人
	実績値	583人	716人	2,500人		
進捗状況 及び 自己評価	高齢者地域交流室及びシルバーサロンの適切な管理を行い市民に提供することができている。 高齢者地域交流室の拡張部分等の活用については、生活支援コーディネーターを通じて、交流室の未利用団体に意向調査を実施した。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	高齢者地域交流室やシルバーサロンの概要等について、広く周知していく必要がある。
今後の取り組み方針	高齢者地域交流室やシルバーサロンの利用を広く周知していく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

- ・シルバーサロンについては、利用制限がないことから、積極的に活用していただきたい。
- ・高齢者地域交流室を利用している団体が実施している活動内容に興味がある場合は、参加していただきたい。

4 推進委員会の意見(評価)

- ・評価は利用者人数だけではなく、周知の状況等から判断してほしい。交流の場を増やすことを検討して欲しい。
- ・ミニデイサービスについて高齢者福祉計画では併記されているため、地域福祉計画でも併記することを検討して欲しい。

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	市民環境部	課 名	地域づくり支援課	係 名	地域づくり支援係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(6)地域住民の交流の促進				
	事業名	⑤多文化共生への理解の促進				
	事業概要	異なる文化への理解を深め、共生する社会を目指し、市民活動団体や関係機関と連携し、外国人市民を交えた交流会等の開催及び周知を行い、異文化に触れる機会を増やすことで相互理解の促進に努めます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容		多文化共生に関する情報発信(広報・HP等での周知・啓発) 多文化推進サポーター事業の実施 国際化推進事業庁内連絡会議開催				
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
多文化推進サポーター実働回数	目標値	31回	32回	33回	34回	36回
	実績値	2回	25回	7回		
進捗状況及び自己評価		指標である多文化推進サポーター実働回数について、目標に対し遅れているが、多文化推進に関する情報発信、多文化推進サポーター事業を実施したほか、小中学校に対し英語指導助手を派遣し活動を行っている。				
		B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない			

2 課題・今後の取り組み方針

課題	外国人市民は今後も増加することが見込まれており、外国人市民が地域社会の一員として生活できるよう、多文化共生意識の醸成を図る必要がある。
今後の取り組み方針	市内の多文化共生に取り組む団体と連携し、外国人市民の現状の把握に努めながら、多文化推進サポーター等を活用し、多文化共生意識の啓発を図る。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

言語や文化の差異を認め、外国人市民も地域社会の一員として生活できるよう異なる文化の相互理解を深める。

4 推進委員会の意見(評価)

多文化の理解活動や国際理解教育を推進している地域の団体との連携を広げることを検討して欲しい。多国籍の市民が参画できる仕組みを作って欲しい。

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	市民環境部	課 名	地域づくり支援課	係 名	地域づくり支援係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(6)地域住民の交流の促進				
	事業名	⑥地域団体間の交流・連携の促進				
	事業概要	自治会連合会が実施するコミュニティ活動や朝霞市コミュニティ協議会(朝霞市民まつり実行委員会)が主催する朝霞市民まつり「彩夏祭」などの開催について支援します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・自治会等運営費補助金の交付 ・自治会等集会所建設事業補助金の交付 ・自治会連合会事務局の運営 ・朝霞市コミュニティ協議会に補助金(市民まつり補助金を含む。)の交付 ・彩夏祭のよさこい鳴子踊りに参加する小中学校に補助金を交付 ・朝霞市コミュニティ協議会及び市民まつり実行委員会の事務局運営					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
朝霞市民まつり「彩夏祭」来場者数	目標値	700,000人	710,000人	710,000人	710,000人	720,000人
	実績値	0人	350,000人	990,000人		
進捗状況 及び 自己評価	指標である朝霞市民まつり「彩夏祭」来場者数は目標値を上回っている。また、自治会等や市民まつりに補助金を予定通り実施している。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	人口の流入が多く、ふるさと意識が希薄になりがちで、かつ、独自の文化が育ちにくい状況にある。ふるさと意識を形成し、市民が地元に着と誇りを持てるよう、自治会活動や彩夏祭の地域独自の文化を、いかに市民の間に根付かせていくかが課題である。
今後の取り組み方針	彩夏祭などの地域独自の文化が市民の間に根付くよう積極的に情報発信を行っていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

彩夏祭は、市民が主役のイベントであり、主催団体である市民まつり実行委員会が主導し、市がサポートする体制は変わらないが、市が担っている役割と市民が担っている役割が適当であるか両方で確認していく。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	福祉相談課	係 名	地域福祉係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(7)地域福祉に関する理解と参加の促進				
	事業名	①地域福祉講演会の開催				
	事業概要	市民の福祉に対する理解と関心を深め、地域で共に支え合う意識を高める機会づくりを目的に、地域の生活課題等をテーマとする講演会を開催します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	市民の福祉に対する理解と関心を深め、地域で共に支え合う意識を高める機会づくりを目的に、地域福祉講演会を開催した。 実施日:令和5年11月20日(月) テーマ:これからの地域福祉のありようを考える 参加者:108人(民生委員98名、一般来場者7名、社会福祉協議会3名)					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
地域福祉講演会参加人数	目標値	100人	100人	100人	100人	100人
	実績値	0人	0人	108人		
進捗状況及び自己評価	保育や手話、ヒアリンググループの設置など、講演会に参加しやすい環境を整えるとともに、民生委員・児童委員の勉強会を兼ねた開催として、多くの方に参加いただいた。講演テーマ、内容についてのアンケート結果で「まあまあわかりやすかった」と「とてもわかりやすかった」回答が9割を超えていたことから、好評なものだったと考える。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	地域福祉を推進していくため、行政だけでなく地域住民の福祉に対する理解と関心を深めていく必要がある。多くの方が参加しやすい、参加したいと思える講演会の開催・方法を検討していく。
今後の取り組み方針	地域福祉に理解と関心を深めていただける講座内容を企画・立案するとともに、多くの方が参加できる機会の提供、事業の周知・開催方法等を検討する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

地域で共に支え合う意識を高める機会として、積極的に講演会に参加する。

4 推進委員会の意見(評価)

民生委員などのすでに地域福祉に関わっている方だけでなく、一般の方も多く講演会に参加していただけるよう、広報、開催の曜日や回数、講義内容等工夫していった欲しい。

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	障害福祉課	係 名	障害福祉係 障害給付係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(7)地域福祉に関する理解と参加の促進				
	事業名	②スポーツ・レクリエーションの集いの開催				
	事業概要	毎年7月の第一週に、障害のある人もない人も、誰もが楽しめるフライングディスクやボッチャなどのさまざまなスポーツを体験できるスポーツ・レクリエーションの集いを開催します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	「スポーツ・レクリエーションの集い」は、令和4年度から「障害者レクリエーション事業」として、障害者団体等のレクリエーション事業に対する補助金交付事業に移行した。令和5年度は、広く周知を行い、対象の事業は2件となった。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
スポーツ・レクリエーションの集い(障害者レクリエーション事業)参加人数	目標値	130人	140人	150人	150人	150人
	実績値	0人	44人	37人		
進捗状況 及び 自己評価	令和5年度は、広く周知を行い、対象の事業は2件となった。今後においても引き続き幅広く周知を行い、より多くの事業について補助を行っていく。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	令和5年度は広く周知を行ったが、団体や事業者のイベント等の活動が消極的であった。
今後の取り組み方針	今後においても引き続き幅広く周知を行い、より多くの事業について補助を行っていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

障害のある人もない人も共に楽しめる事業の開催及び情報提供に協力する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	障害福祉課	係 名	障害福祉係 障害給付係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(7)地域福祉に関する理解と参加の促進				
	事業名	③ふれあいスポーツ大会の開催				
	事業概要	障害のある人もない人も、一緒にスポーツを楽しみながら交流を図り、親睦を深めるふれあいスポーツ大会を開催します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の 取り組み内容	スポーツ大会は毎年9月下旬頃(令和5年度は9月23日(土))に、市立総合体育館メインアリーナに於いて開催した。令和5年度は半日開催とし、4種目を実施した。 ※令和2年度・令和3年度と新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点より、参加団体の意向等も踏まえ、参加者の安全を第一に考え、中止となった。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
ふれあいスポーツ大会の 参加者数	目標値	280人	280人	280人	280人	280人
	実績値	0人	93人	123人		
進捗状況 及び 自己評価	障害者及びその家族と施設関係者との親睦を深めることに有効な事業と判断します。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	令和5年度は、広く周知を行ったが、団体や事業者のイベント等の活動が消極的であった。
今後の取り組み方針	今後においても引き続き幅広く周知を行い、より多くの事業について補助を行っていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

ふれあいスポーツ大会への参加や運営ボランティアに協力する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	市長公室	課 名	政策企画課	係 名	政策企画係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(7)地域福祉に関する理解と参加の促進				
	事業名	④市民参画と協働による地域づくりの促進(再掲)				
	事業概要	講座や講演会等の開催を通し、地域での活動に関心を持つ人材を発掘するとともに、お互いのつながりづくりのきっかけとなる機会を提供することで、これから実際に地域に関与する活動に取り組む担い手を育成します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	(1)第6次朝霞市総合計画策定のため、市民ワークショップや分野別市民懇談会を開催し、未来の朝霞市について、市民と意見交換を行った。 (2)市民参画と協働を推進するため、職員向けの講演会を開催した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
市民参画に係る講座・講演会の開催回数	目標値	1回	1回	1回	1回	1回
	実績値	1回	0回	3回		
進捗状況 及び 自己評価	今年度から策定に取り掛かっている総合計画への意見の反映のため、市民から直接意見を伺う機会を設けることができた。 また、市民参画と協働を推進するために、他自治体の事例や取り組み方法についての講演会を開催し、87名の職員が参加した。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	市民ワークショップや分野別市民懇談会においても、参加者や世代が固定化しているため、引き続き職員、市民ともに市民参画の機運醸成が重要と捉えている。特に、市民参画や協働に対する職員の意識啓発が課題である。
今後の取り組み方針	職員研修会を開催することで、市民参画、市民との協働について、庁内体制を整備し、職員の意識啓発を図っていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

市が実施する講座等に積極的に参加するとともに、参加を契機として、参加者同士がつながりを深め、地域での実際の活動に取り組む。

4 推進委員会の意見(評価)

障害者の方を講師として呼び出すことを検討して欲しい。

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	市民環境部	課 名	地域づくり支援課	係 名	市民活動支援係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(7)地域福祉に関する理解と参加の促進				
	事業名	⑤市民活動の周知・啓発及び参加の促進				
	事業概要	市民活動やボランティアに関する情報を収集し提供するとともに、多くの人に市民活動に参加していただく機会の提供、市民活動の周知・啓発等を行います。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	メールマガジンや広報・ホームページなどで市民活動に関する情報発信を行ったほか、市民活動パネル展を開催し、市民活動の周知・啓発に努めた。また、パネル展開催時にあわせて「出張市民活動相談会」を実施し、ステーション以外でも市民活動に関する相談が出来る様にした。市民活動の新たな担い手を育成することを目的とした「地域デビュー支援セミナー」を開催した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
市民活動支援ステーションの延べ利用団体数	目標値	510団体	520団体	530団体	540団体	550団体
	実績値	451団体	456団体	530団体		
進捗状況及び自己評価	指標の施設利用団体数については、コロナ禍の収束による団体活動活性化の影響もあり、前年度を上回ることが出来た。また、市民活動パネル店をカインズ朝霞店で、地域デビュー支援セミナーを産業文化センターで実施したことにより、ステーション以外でも市民活動の周知・啓発を図ることが出来た。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	活動の担い手の高齢化や会員の不足など
今後の取り組み方針	多くの方に市民活動に関心・興味をもち参加していただけるよう、引き続き工夫を図りながら、市民活動の周知・啓発等を行っていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

パネル展、セミナーやイベントボランティア登録制度など市民活動への参加や担い手の育成に関する事業等を、今後も開催・運営していくので、関心のある方の積極的な参加が望まれる。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	生涯学習部	課 名	生涯学習・スポーツ課	係 名	スポーツ係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(7)地域福祉に関する理解と参加の促進				
	事業名	⑥スポーツの振興				
	事業概要	市民の親睦と健康増進を図り、あわせてスポーツ及びレクリエーションの振興に寄与するとともに、市民生活を明るく豊かにすることを目的として、スポーツイベント等を開催します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	市民の親睦と健康増進を図り、あわせてスポーツ及びレクリエーションの振興に寄与するとともに、市民生活を明るく豊かにすることを目的として、市民体育祭を開催した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
町内会・自治会参加数	目標値	20団体	20団体	20団体	20団体	20団体
	実績値	—	5団体	10団体		
進捗状況 及び 自己評価	競技種目の見直しや地区対抗種目の一部種目をオープン参加として一般開放し、多くの一般参加者を迎えることができた。テントや椅子の設置の業者委託などの自治会・町内会の皆さんが参加しやすくなる取組、競技参加者に対し参加賞のほかに抽選券を配布し、抽選会を行う取組は継続し、コロナ禍前の開催形式をほぼ踏襲した形で、市民体育賞表彰式を含め、市民体育祭を開催した。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	近年、自治会・町内会の市民体育祭への参加地区数が減少傾向にあるなか、今年度は昨年度に引き続き、一般参加者が多くなり、スポーツイベントに対する潜在的な需要が確認できたことから、引き続き需要を喚起するため、朝霞市スポーツ協会や朝霞市スポーツ推進委員連絡協議会などと連携し、事業を展開していく必要がある。
今後の取り組み方針	朝霞市スポーツ協会や朝霞市スポーツ推進委員連絡協議会などと連携し、多くの方に参加していただけるようなスポーツイベント等の企画・運営を行っていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

多くの市民・地域が市民体育祭等へ参加し、互いの親睦と健康増進を図る。

4 推進委員会の意見(評価)

地域のコミュニティが薄れ、市民体育祭の参加団体が減少してきている。競技種目や体育祭のあり方を考えながら、地域の方々や子ども達が参加して楽しい祭りになるよう、内容を検討して欲しい。

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	長寿はつらつ課	係 名	高齢者支援係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(8)支え合い・助け合いの気持ちの醸成				
	事業名	①認知症への理解の促進				
	事業概要	認知症サポーター養成講座や、認知症の家族介護教室などを実施します。また、認知症ケアガイドブックを作成、配布し、認知症の高齢者等との接し方などの周知を図ります。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・認知症サポーター養成講座及び家族介護教室を開催することができた。 ・公共施設、スーパー及び歯科医院等に認知症ケアガイドブックを配付し、認知症の正しい知識や対応方法等について普及・啓発を図ることができた。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
認知症サポーター養成講座参加者数	目標値	1,350人	700人	700人	200人	200人
	実績値	249人	167人	123人		
進捗状況及び自己評価	・認知症サポーター養成講座を開催することはできたが、小中学生向けに開催することができなかった。 ・認知症ケアガイドブックを公共施設やスーパー等に配付し、普及・啓発を図ることができた。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	認知症への理解が多世代に広がるよう、若年層への働きかけについて検討していく必要がある。
今後の取り組み方針	現在認知症の方を介護している方だけでなく、社会全体で認知症への理解を進めていくための取組を検討していく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

認知機能の低下が疑われるが、支援者がいらいっやらないような高齢者を見かけた場合は、長寿はつらつ課や地域包括支援センターに連絡していただきたい。

4 推進委員会の意見(評価)

認知症の方を受け入れてる地域資源への支援を検討して欲しい。

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	学校教育部	課 名	教育指導課	係 名	—
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(8)支え合い・助け合いの気持ちの醸成				
	事 業 名	②学校における福祉教育の充実				
	事業概要	小・中学校の総合的な学習の時間において、アイマスク体験・車いす体験等を実施します。また、福祉部局と連携し、認知症サポーター養成講座を実施するなど、地域共生社会の実現に向けた教育を推進していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	「特別の教科 道徳」における思いやりの心の醸成。 「総合的な学習の時間」における障害者理解や体験等の実施。 「社会科」における福祉等に関する学習。 人権教育学習における人権意識の醸成、人権作文への取組。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
福祉教育の実施学校数	目標値	10校	10校	13校	13校	15校
	実績値	10校	10校	15校		
進捗状況 及び 自己評価	市内15の全小中学校において、各教科や領域において横断的に思いやりや支え合いの心、助け合いの気持ちの醸成に取り組んでおり、福祉教育の推進・充実を図っている。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	児童生徒本人やその家族に何らかの障害等がある場合、授業での取り上げにあたり本人の意向を確認する等の配慮を要する場合がある。 そうした際には慎重な対応が必要であり、本人や保護者との確認を丁寧に行っていくことが求められる。
今後の取り組み方針	学校だけでなく家庭や地域社会が一体となり取り組んでいくことが重要であることを踏まえながら、引き続き障害理解や福祉に関する意識の醸成を図っていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

コロナ禍の終息に伴い、学校公開等で地域の方に学校での福祉教育の様子を参観していただくとともに、アイマスク体験や車いす体験等に協力する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	生涯学習部	課 名	生涯学習・スポーツ課	係 名	生涯学習係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(8)支え合い・助け合いの気持ちの醸成				
	事業名	③人権教育の推進				
	事業概要	市民人権教育研修会、企業人権教育研修会、人権問題講演会等の各種人権教育研修会を開催し、人権尊重の意識を高め、人権感覚の育成に努めます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	市民人権教育研修会、人権問題講演会、企業人権教育研修会及び公民館人権教育講座の実施。朝霞市人権教育推進協議会と共催し、現地研修会(フィールドワーク)の実施。成人の日記念式典や各種人権教育研修会における人権啓発品や啓発冊子の配布。朝霞市人権教育推進協議会への補助金の交付。《補助金/135,000円》					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
各種研修会・講座開催回数	目標値	10回	10回	10回	10回	10回
	実績値	3回	6回	5回		
進捗状況 及び 自己評価	指標の目標値には届かなかったが、各種研修会・講座には多くの市民の参加があった。また、成人の日記念式典開催時に人権啓発品や啓発冊子を配布することで、若い世代に向けた人権啓発の推進が図られた。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	例年、世の中に存在する様々な人権課題から偏ることなく、現代的な課題をテーマとして取り上げ、講演会や研修会を実施しており、参加者から満足度の高い評価をもらっているが、若い世代を含めた幅広い世代にさらに関心を持っていただけるよう、より効果的な実施手法について研究し、継続して人権啓発を推進する必要がある。
今後の取り組み方針	引き続き、第4期朝霞市地域福祉計画の基本目標や施策の方向性を意識し、多様な人権課題に対応した人権教育事業を幅広い世代に関心を持ってもらえるよう工夫しながら実施し、人権啓発の推進に務める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

人権教育に関する研修会等へ積極的に参加し、思いやりと支え合いの心を育み、地域に還元する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	福祉相談課	係 名	地域福祉係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(9)地域での見守りの充実				
	事業名	①民生委員児童委員の活動支援				
	事業概要	地域福祉の担い手である民生委員児童委員の活動を支援し、欠員地区の委員補充、現任委員のスキルアップなどに努めます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	民生委員児童委員が東・西・南・北・東北・南西の6地区に分かれ、毎月の定例会で事例研究や情報交換を行うとともに、行政や地域包括支援センター等の関係機関に講師を依頼するなど、福祉をはじめ消費者問題や防災等、地域課題に関する理解を深めた。また、活動や組織運営にかかる費用を補助することで、活動を促進し、地域福祉の推進を図った。民生委員推薦会を1回実施し、4名の新任候補者について、適格性を審議することができた。地域福祉講演会を開催した際には、来場者に民生委員児童委員制度を周知するため、パネル展示を行った。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
民生委員児童委員 延べ活動日数	目標値	14,400日	14,400日	14,400日	14,400日	14,400日
	実績値	11,003日	11,639日	10,000日		
進捗状況 及び 自己評価	民生委員児童委員の見守り活動や相談により、様々な悩みを抱える方々を、市役所や社会福祉協議会等の関係機関に繋いでもらうことで、諸問題が解決できた。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	民生委員児童委員の定数に欠員が生じている。また、民生委員児童委員の高齢化が進んでいるため、人材の確保と新しい担い手の育成が必要となっている。
今後の取り組み方針	引き続き、各地区協議会の会長や副会長と協力して、欠員補充に努めるとともに、他自治体での補充方法や委員の担い手の育成等について調査を行っていき、改善策を検討する。また、民生委員児童委員が活動しやすくなるように、その活動を周知するとともに、各委員へ活動に関する情報提供を行っていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

高齢者や障害のある人、子どもなどへの見守りや声掛けを行う。
登下校時などの見守り活動に協力する。

4 推進委員会の意見(評価)

・校長先生によって民生委員の扱いにばらつきがある。
・色々な方法で周知をして欲しい。

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	長寿はつらつ課	係 名	地域包括ケア推進係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(9)地域での見守りの充実				
	事業名	②地域包括支援センターと関係機関の連携				
	事業概要	地域包括支援センターと民生委員等関係機関が連携し、一人暮らしの高齢者等の見守り活動を随時行います。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	民生委員児童委員定例会の定期的な参加を中心に、民生委員との連携体制を構築し、日頃の相談業務における連携や見守り活動等の取組を推進した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
民生委員児童委員定例会への定期的な参加	目標値	12回	12回	12回	12回	12回
	実績値	20回	25回	34回		
進捗状況 及び 自己評価	定例会への定期参加に加え、民生委員を対象に講座等を開催することで、連携体制の構築を推進した。日々の相談業務における連携や見守り活動などを協働することができている。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	引き続き、連携体制の構築に向けた取組を推進していく。
今後の取り組み方針	定例会等への参加を通じて、連携体制の構築に努め、見守り活動の支援など高齢者を支えるための一助としていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

高齢者等を地域で見守る体制をつくる。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	長寿はつらつ課	係 名	高齢者支援係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(9)地域での見守りの充実				
	事業名	③安心見守り支援				
	事業概要	高齢者が安心して日常生活を送るために緊急通報システム・安心見守り通報システム事業を、安否確認のために配食サービスや乳酸飲料配付事業等を実施します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・ひとり暮らし高齢者等に対し、配食サービスや乳酸飲料を直接届けることで安否確認を行っており、必要に応じて、市職員が自宅等を訪問し、支援を行うことができた。 ・ひとり暮らし高齢者及び高齢者世帯の方が、安心して日常生活を送ることができるように緊急時にボタンを押すだけで救急要請ができる緊急通報システムや安心見守り通報システム事業を実施することができた。 ・配食事業者及び乳酸飲料配付事業者と見守り協定を締結したにより、高齢者等に対する見守りを強化することができた。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
高齢者配食サービスの延べ利用者数	目標値	3,150人	3,200人	3,250人	3,300人	3,350人
	実績値	3,394人	2,985人	2,700人		
進捗状況及び自己評価	・配食サービスや緊急通報システムの設置などは、例年安定した需要が見られ、日常生活を営むための見守り事業として定着している。 ・今年度は、近隣市の担当者が集まり、対面式の情報交換を実施した。 ・乳酸飲料配付事業については、委託事業者内の慢性的な配達員不足によって、令和5年度をもって事業を終了する。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	民間事業者でも様々な見守りサービスを実施しているため、住民ニーズの把握等を行い、見守り体制の見直しを検討する必要がある。
今後の取り組み方針	見守り体制の更なる充実に向けた見直しを図ることで、ひとり暮らし高齢者及び高齢者世帯の方が、住み慣れた地域で自立し、安心して日常生活を送ることができるように努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

地域住民に見守り意識を持っていただき、異変を感じた際の通報や、情報提供に協力していただく。

4 推進委員会の意見(評価)

地域包括支援センター、配食などのほかにも地域資源と関わっていくように周知して欲しい。

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	こども・健康部	課 名	こども未来課	係 名	こども相談係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(9)地域での見守りの充実				
	事業名	④児童相談所等との連携				
	事業概要	児童相談対応において、一時保護、児童福祉司指導などの権限を有する児童相談所をはじめとする関係機関と適宜、情報共有や協議など連携を図ります。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	児童虐待事例に対して、緊急性や重大性などに応じて児童相談所と連携して対応を行った。一時保護や児童福祉司指導などの行政権限が伴う対応が必要となる事例や処遇困難事例について、児童相談所に対して通告、協議相談を行った。多機関連携が必要となる事例について、児童相談所をはじめとする関係機関が集まり個別支援会議を開催し、情報共有や処遇検討を行った。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
個別支援会議実施	目標値	10回	10回	10回	10回	10回
	実績値	62回	39回	73回		
進捗状況 及び 自己評価	児童虐待ハイリスクの家庭ばかりではなく、継続した見守りが必要な家庭についても、繰り返し個別支援会議を開催した。リスクアセスメントシートを活用してリスクを可視化し、関係機関と共通認識をもって支援にあたることができた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	児童虐待事例は、子どもの置かれている環境の複雑化に伴い、その対応も困難なものが増えていることから、関係機関がより一層連携して対応を行っていく必要がある。
今後の取り組み方針	児童虐待が深刻化しないよう、早期発見と早期対応が必要であり、円滑な情報共有による連携した対応が重要であるため、引き続き関係機関の連携を図る。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

子どもの養育に不安を抱える家庭を把握した際、こども未来課に相談するように促し、つなげる。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	長寿はつらつ課	係 名	地域包括ケア推進係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(10)情報共有・発信の充実				
	事業名	①多職種参加の地域ケア会議の実施				
	事業概要	地域包括ケアシステムの推進に向け、地域包括支援センター及び居宅介護支援事業所が携わっている個別ケースについて、アセスメントの効果的な方法や自立支援・重度化防止に資するケアプランの作成のために、多職種と検討を重ね、支援能力の向上につなげていきます。また、個別事例の積み上げから見えてくる地域の共通課題を共有し、課題解決に向け、関係者間で調整、ネットワークの構築、新たな資源の開発、さらには施策をボトムアップで推進していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	地域ケア会議の開催とともに共通の課題を整理し、地域ケア推進会議を開催した。 令和4年度に地域ケア会議運営マニュアルを作成し、回数の見直しなど令和5年度より運用を開始した。 地域包括支援センター担当職員を交えて、地域ケア会議の運営方法などの検討会議を開催した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
地域ケア会議(全体・圏域)の実施回数	目標値	44回	46回	48回	48回	44回
	実績値	43回	34回	30回		
進捗状況 及び 自己評価	昨年度策定した地域ケア会議運営マニュアルを基に地域ケア会議を実施した。 市主催の地域ケア会議を年12回実施する予定だったが、事例提出数の減少により予定回数を下回ったため、今後、マニュアルの見直しをする必要がある。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	地域ケア会議における運営目的を達成できるかなどのマニュアルの精査 参加者へ向けた共通認識の醸成等に関する取組の継続
今後の取り組み方針	地域ケア会議の定期開催 地域包括支援センターとの定期的な会議の開催及びマニュアルの見直し

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

必要に応じて会議等に参画する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	長寿はつらつ課	係 名	介護保険係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(10)情報共有・発信の充実				
	事業名	②介護保険制度の周知				
	事業概要	介護サービスや介護保険等について、パンフレットやホームページ、市民説明会、あさか学習おとどけ講座等、様々な機会を通じて、よりわかりやすい情報提供を行います。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	高齢者福祉と介護保険制度の市民説明会を6回開催し、42名に参加いただきました。また、あさか学習おとどけ講座を2回開催しました。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
介護保険制度説明会参加者数	目標値	200人	100人	100人	200人	100人
	実績値	219人	39人	42人		
進捗状況 及び 自己評価	高齢者福祉と介護保険制度の市民説明会の参加者数は目標に届きませんでしたが、今年度もプロジェクトを使用し、よりわかりやすい説明となるよう努めました。他の方法による介護保険制度の周知も継続しており、事業全体としてはある程度進捗しています。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	高齢者福祉と介護保険制度の市民説明会は令和4年8月に開催しましたが、計画期間の2年目であることから、参加者数は昨年度より微増にとどまったと分析しています。効果的な開催方法については課題と捉え、よりよい手法を模索して参ります。
今後の取り組み方針	市民説明会については、今後も効果的な開催方法を検討して参ります。他の方法による介護保険制度の周知は、今後も継続して参ります。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

市民説明会開催の際には、ぜひご参加ください。

4 推進委員会の意見(評価)

説明会だけではなく動画作成等で情報提供することも検討して欲しい。

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	こども・健康部	課 名	こども未来課	係 名	こども未来係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(10)情報共有・発信の充実				
	事業名	③子育て情報誌の作成				
	事業概要	子育てに関する情報を一元化した子育て情報誌「あさか子育てガイドブック」を作成し、子育て関連施設を通じて子どものいる家庭に配布するとともに、ホームページに掲載し、子育て等に関する情報を提供します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	子育てに関する情報誌「あさか子育てガイドブック」を作成し、児童館や保健センター、子育て支援センターなどの交流拠点の紹介及び子育てに関する様々な情報を提供する。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
子育て情報誌の作成部数	目標値	7,500部	7,500部	7,500部	7,500部	7,500部
	実績値	7,500部	7,500部	7,500部		
進捗状況 及び 自己評価	子育て情報誌の作成・配布の他、市ホームページに同内容を掲載し、子育て応援サイト(サブサイト)と共に、更なる情報発信を図ることができた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	適時、適切な情報掲載を心がける。
今後の取り組み方針	市の子育て情報の他、NPOや市民団体等が行う情報等も掲載できるよう調査・研究する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

市の子育て情報の他、NPOや市民団体等が行う情報等を集約できる団体の発掘・育成をする。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	市長公室	課 名	シティ・プロモーション課	係 名	広報係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(10)情報共有・発信の充実				
	事業名	④広報の充実				
	事業概要	行政情報施策及び行事等の情報を収集し、読みやすく編集した広報あさか(毎月1回)を作成・発行し、配布については市内全世帯へ配布します。また、市民ハンドブックなど市政情報紙を発行するとともに、ホームページやツイッター等のSNS、掲示板、電光掲示板などで随時最新の情報を発信していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	広報あさかを毎月発行し、市内全戸へ配布した。 ホームページの維持管理・運用、暮らしの便利帳あさか(市民ハンドブック)の更新、掲示板の維持管理、防災行政無線の運用、X(旧Twitter)、Facebook等のSNSを利用した情報発信、メール配信サービスの運用、テレビ埼玉データ放送の更新、コミュニティエフエムなど、市の持つあらゆる情報伝達手段を活用し、市民への情報発信を行った。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
広報あさか配布部数	目標値	67,800部	68,300部	68,800部	69,300部	69,800部
	実績値	67,500部	68,000部	68,900部		
進捗状況 及び 自己評価	行政情報の発信に関しては、さまざまな媒体を活用することで、市民へ情報が伝わるよう努めた。 また、災害時は、Yahoo!防災アプリやLINEでも情報発信を行った。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	行政情報を、より効果的に発信する方法について調査、検討する。 広報紙から情報を得る市民に、有益な市政情報の伝達漏れなどが起こらないよう、留意して編集する。
今後の取り組み方針	必要とする情報を、誰もが入手することができるよう努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

市民…災害時等の状況に応じて、市が発信しているホームページやSNSなど様々な媒体を活用し、正確な情報を収集するよう心掛ける。 市内活動団体等…掲示板や広報あさかを積極的に活用して市民へ周知啓発するとともに、わかりやすい表現を使うよう努める。

4 推進委員会の意見(評価)

本当に必要な情報を定期的に載せて欲しい。

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート						
第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部 危機管理室	課 名	障害福祉課 長寿はつらつ課 危機管理室	係 名	障害福祉係 高齢者支援係 危機管理係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(10)情報共有・発信の充実				
	事 業 名	⑤避難行動要支援者支援制度の推進				
	事業概要	災害時における避難行動要支援者への支援を円滑に実施するため、関係課が連携し、避難行動要支援者台帳を作成します。また、自治会・町内会、民生委員児童委員、消防団、地域包括支援センター等の避難支援者となる各団体に配付を行い、災害時における支援のほか、日頃からの顔の見える関係づくりに活用します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・災害時における避難行動要支援者の支援を円滑に実施するため、福祉部門と連携し、避難行動要支援者台帳を作成し、自治会・町内会、民生委員児童委員等の避難支援者となる方々に配付を行い、災害時における支援のほか、日頃からの顔の見える関係づくりに活用いただく。 ・調査実態を踏まえ様式と調査方法を調整し、自治会・町内会等からの意見を元に、要綱改正を経て様式等を決定した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
避難行動要支援者台帳の更新及び配付	目標値	年1回	年1回	年1回	年1回	年1回
	実績値	年1回	年1回	年1回		
進捗状況及び自己評価	予定通り令和5年6月中に更新及び配布を行った。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	・見直し後の個別避難計画作成の速度と精度。 ・台帳を活用した訓練等が実施できていない。
今後の取り組み方針	・引き続き、避難行動要支援者台帳の更新及び配付を計画的に実施するとともに、台帳を活用した訓練の実施等、活用支援について検討を行う。 ・来年度以降は、新たに決定した様式と調査方法で、浸水想定地区から順次調査を進めていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

個別避難計画を作成する際は、自治会・町内会、民生委員児童委員は周知・協力をする。

4 推進委員会の意見(評価)

評価は台帳を更新、配布したかどうかだけではなく、実態に合わせた内容の精査や、住民の防災意識を高めることができてくるか等で判断して欲しい。

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	福祉相談課	係 名	地域福祉係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(11)地域福祉を支える団体の活性化・人材の育成				
	事業名	①地域保健福祉活動振興事業費補助金の交付				
	事業概要	地域における保健福祉活動の振興を図るために、地域福祉の振興事業を実施している、または計画している各種地域団体に対しその事業費の一部を助成します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	地域の高齢者の交流や障害のある人の補助事業等、NPO法人や地域の高齢者の団体、障害のある人を含む団体に対し補助金を交付し、地域における保健福祉活動の振興を図った。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
補助金交付件数	目標値	24件	24件	24件	24件	24件
	実績値	19件	17件	15件		
進捗状況 及び 自己評価	令和5年度 15団体 計1,699,600円交付 その他、本補助金の申請には結びつかなかったが、交付団体以外の団体などからも問い合わせがあったことから、引き続き、地域団体に対しその事業費の一部を助成していく必要がある。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	多くの団体に補助金を活用・認知してもらうため、広報やホームページ、SNS等で広く周知を行う必要がある。また、交付申請金額に対して、交付率が88.2%(令和5年度交付率)となっている。
今後の取り組み方針	引き続き、市民団体が行う福祉事業に係る費用に対し、補助金を交付できるよう、当該補助金の周知や予算額について検討していく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

地域で行われている福祉団体の事業に積極的に参加する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	長寿はつらつ課	係 名	高齢者支援係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(11)地域福祉を支える団体の活性化・人材の育成				
	事業名	②老人クラブへの支援				
	事業概要	老人クラブ等への補助金交付により、運営に対する資金的サポートを実施します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・各老人クラブに対して、補助金の交付を行った。 ・老人クラブ連合会に対して、補助金の交付を行った。 ・社会福祉協議会と協力して、各老人クラブの負担軽減につながる支援を行った。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
老人クラブ団体数	目標値	25団体	25団体	25団体	25団体	25団体
	実績値	24団体	21団体	25団体		
進捗状況 及び 自己評価	・老人クラブ等に補助金を交付しているが、老人クラブ連合会への加入団体の増加は見られない状況が続いている。 ・新型コロナウイルスの類型見直しに伴い、市が主催するシニアスポーツフェスティバルを開催することができた。 ・老人クラブが主催する各種行事の開催にも協力することができた。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	老人クラブ内での高齢化と新たな加入者の伸び悩み等により、全体の加入者が減少傾向にあるため、引き続き、社会福祉協議会等と課題解決に向けた検討を行う必要がある。
今後の取り組み方針	補助金の交付による経済的な支援のほか、新規加入を促進するための支援についても検討していく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

介護予防を検討している方や新たな趣味を探している方がいたら、老人クラブの活動や各種行事を案内する。

4 推進委員会の意見(評価)

老人クラブについて周知をして欲しい。

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	長寿はつらつ課	係 名	介護保険係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(11)地域福祉を支える団体の活性化・人材の育成				
	事業名	③介護人材の育成				
	事業概要	近隣市とも連携をしながら研修を開催する等、介護人材確保と人材育成の取組を進めていきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	令和6年1月18日から23日にかけて、「介護に関する入門的研修」を開催し、これまで介護との関わりがなかった介護未経験者が、介護に関する基本的な知識を身につけるとともに、介護の業務に携わる上で知っておくべき基本的な技術を学ぶことができるよう努めました。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
研修参加人数	目標値	30人	35人	40人	40人	40人
	実績値	22人	13人	20人		
進捗状況 及び 自己評価	研修の参加人数が増加したため、ある程度進捗しています。なお、研修の最終日には、介護事業者を会場に招致し、研修受講者の就労支援を行っており、介護事業所の人材不足の解消を目指しています。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	より多くの人に参加していただくための周知方法、より効果的な就労支援の方法については課題ととらえ、今後もよりよい手法を模索して参ります。
今後の取り組み方針	よりよい手法を模索しつつ、今後も継続して研修を開催して参ります。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

介護施設への就業を希望される方や介護に興味のある方は、お気軽にご参加ください。

4 推進委員会の意見(評価)

介護の仕事は大変なイメージばかりが強調されているが、やりがいもたくさんあるので、良い面をPRして欲しい。

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	長寿はつらつ課	係 名	地域包括ケア推進係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(11)地域福祉を支える団体の活性化・人材の育成				
	事業名	④生活支援コーディネーターによる地域活動団体支援				
	事業概要	各地域包括支援センターに1名ずつ生活支援コーディネーターを配置し、課題や資源を地域ごとに把握すると共に、生活支援コーディネーターが定期的に集まり、地域活動団体への支援など、地域資源の新たな活用方法等を検討していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	地域の活動団体の支援を目的に、リハビリテーション専門職によるフレイル予防体操などを行った。生活支援コーディネーターを中心に作成した社会資源マップにより、地域活動団体等の周知を図った。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
フレイル予防講座の開催回数	目標値	5回	6回	6回	6回	6回
	実績値	6回	1回	6回		
進捗状況 及び 自己評価	リハビリテーション専門職によるフレイル予防体操などを実施することで、地域で活動する6団体に対して支援することができた。 市民団体イベント等あらゆる機会を捉え、地域資源マップを活用し、地域活動団体などの周知をすることができた。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	社会福祉協議会や他部署と連携し、活動団体の情報を一元化する。 地域活動団体が継続的に活動できるよう支援する仕組みづくり。
今後の取り組み方針	引き続き、リハビリテーション専門職と連携し、地域活動団体への支援を行う。 地域資源マップと併せて統合型GISを活用し、地域活動団体の情報を一元化し、周知する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

地域活動へ主体的・積極的に参加する。

4 推進委員会の意見(評価)

確実な支援をしていくことで、二層協議体のメンバーになる人も増えると思う。

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	長寿はつらつ課	係 名	高齢者支援係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(11)地域福祉を支える団体の活性化・人材の育成				
	事業名	⑤認知症総合支援				
	事業概要	認知症初期集中支援チーム員会議、認知症地域支援推進員会議の定期的な開催と、新任職員研修等への参加により技能向上を図ります。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・認知症初期集中支援チーム員会議及び認知症地域支援推進員会議は概ね予定通り開催することができた。 ・関係者間では、令和6年度以降の取り組み方法等について意見交換を実施した。 ・市や地域包括支援センター職員の異動等を勘案して、各種研修に参加することができた。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
認知症初期集中支援チーム員会議の開催(回)	目標値	12回	12回	12回	12回	12回
	実績値	12回	11回	11回		
進捗状況 及び 自己評価	計画的に初期集中支援チーム員会議等の開催や各種研修に参加することができている。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	初期集中支援チーム員会議に提出する事例が減少している。また、専門職による訪問を積極的に実施するなど、見直しが必要である。
今後の取り組み方針	初期集中支援チーム員会議の候補者が増加する仕組みを検討するとともに、チーム員のスキルアップ等を目的とした研修の実施も検討する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

認知機能の低下が疑われるが、支援者がいないような高齢者を見かけた場合は、長寿はつらつ課や地域包括支援センターに連絡していただきたい。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	こども・健康部	課 名	こども未来課	係 名	こども未来係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(11)地域福祉を支える団体の活性化・人材の育成				
	事業名	⑥青少年の健全育成				
	事業概要	青少年健全育成団体(青少年育成市民会議、青少年相談員朝霞市協議会、子ども会連合会)に補助金を交付し、団体の活動を支援するとともに、関係機関・学校・地域と連携して、青少年健全育成啓発活動を実施します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	青少年健全育成団体(青少年育成市民会議、青少年相談員朝霞市協議会、子ども会連合会)に補助金を交付し、団体の活動を支援するとともに、関係機関・学校・地域と連携して、青少年健全育成啓発活動を実施した。 ・青少年健全育成の集い、地域安全マップ作成事業、標語作成、防犯パトロール、駅頭キャンペーンなど					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
青少年健全育成啓発活動事業数	目標値	37事業	36事業	36事業	35事業	35事業
	実績値	8事業	16事業	18事業		
進捗状況 及び 自己評価	新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、中止としていた事業が再開できた。 今後についても、各団体の活動や事業について、参加や協力が得られるよう実施や開催を行っていただき、青少年健全育成の推進につなげたい。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	青少年健全育成団体への新規加入促進が課題であるため、児童館管理運営事業や市民による子育て支援活動を掌握し、青少年健全育成に結び付けていく努力が必要である。
今後の取り組み方針	既存団体の取組や考え方を尊重しつつ、課題に挙げた部分を改善できるよう努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

子育て支援団体やスポーツ・文化団体等を通じ、青少年健全育成の機運を高める。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	こども・健康部	課 名	健康づくり課	係 名	保健係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(11)地域福祉を支える団体の活性化・人材の育成				
	事業名	⑦心の健康づくりの推進				
	事業概要	社会情勢の変化等により、精神的なストレス要因の増大に伴う精神的不健康の増大に対し、ライフサイクルに応じた心の健康づくりの推進を図ります。また、相談援助業務に携わる保健師等が精神保健に係る事例検討を通して、相談援助技術の向上を図ります。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	相談援助業務に携わる保健師等が相談援助技術の向上を図るため、精神保健に係る事例検討会を9回実施。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
事例検討会実施回数	目標値	150回	150回	150回	150回	150回
	実績値	82回	107回	66回		
進捗状況 及び 自己評価	事例検討会を通して、関係機関がお互いの役割を理解し、考え方や視点の持ち方について学びを深めることができています。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	多機関・多職種が参加することにより、お互いの役割を理解し、支援に活用することができると考えるため、継続した参加が望ましいが、現状では難しい。
今後の取り組み方針	相談が複雑化する中、相談援助業務に携わる関係機関が協力し、今後においても相談スキルの向上を図る。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

関係機関との連携する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	市民環境部	課 名	地域づくり支援課	係 名	地域づくり支援係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(11)地域福祉を支える団体の活性化・人材の育成				
	事業名	⑧コミュニティ活動の活性化				
	事業概要	市民が相互に連携し主体的にまちづくりに参加するように意識高揚を図り、自治会・町内会及びコミュニティ関係団体への助成を行います。また、自治会連合会やコミュニティ協議会の活動内容等を市ホームページに掲載するとともに、団体が発行する広報紙の発行、配布の支援を行います。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容		・自治会等運営費補助金の交付 ・自治会等集会所建設事業補助金の交付 ・自治会連合会事務局の運営 ・朝霞市コミュニティ協議会に補助金の交付 ・朝霞市コミュニティ協議会及び市民まつり実行委員会の事務局運営				
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
自治会・町内会加入世帯数・加入率	目標値	41.4%	41.4%	41.4%	41.4%	41.4%
	実績値	39.5%	38.5%	37.5%		
進捗状況及び自己評価		指標の自治会・町内会加入世帯数・加入率については、目標値を下回ってはいるものの、自治会等や朝霞市コミュニティ協議会への助成は実施している。				
		B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない			

2 課題・今後の取り組み方針

課題	地域コミュニティの希薄化や市民の価値観の多様化、自治会・町内会が抱える課題など、様々な要因により自治会加入率の低下が進んでおり、加入率向上が喫緊の課題である。また、役員の高齢化や担い手不足が進んでおり、負担軽減についても取り組む必要がある。
今後の取り組み方針	加入率の低下や役員の負担軽減などの課題解決に向けて、自治会連合会と連携して取り組む必要がある。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

行政の支援を受けながら、主体的に地域自治活動に取り組んでいく。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	市民環境部	課 名	地域づくり支援課	係 名	地域づくり支援係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(11)地域福祉を支える団体の活性化・人材の育成				
	事業名	⑨コミュニティ活動への参加促進				
	事業概要	朝霞市コミュニティ協議会(朝霞市民まつり実行委員会)が主催する朝霞市民まつり「彩夏祭」の開催に対し、補助金の交付や事務局として積極的に支援していきます。また、彩夏祭を通して、朝霞市の文化に親しみ、ふるさと意識の醸成を図るために、市内小中学校に市民まつりの鳴子踊りの参加に係る費用を補助します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容		・朝霞市コミュニティ協議会に補助金(市民まつり補助金を含む。)の交付 ・彩夏祭のよさこい鳴子踊りに参加する小中学校に補助金を交付 ・朝霞市コミュニティ協議会及び市民まつり実行委員会の事務局運営				
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
市民まつり補助金交付金額	目標値	22,900,000円	22,900,000円	22,900,000円	22,900,000円	22,900,000円
	実績値	4,810,000円	22,000,000円	38,500,000円		
進捗状況 及び 自己評価	指標の市民まつり補助金交付金額については、目標値より上回る金額の補助となった。また、朝霞市コミュニティ協議会(朝霞市民まつり実行委員会)が主催する朝霞市民まつり「彩夏祭」の事務局として支援を行った。 市内小中学校に市民まつりの鳴子踊りの参加に係る費用の補助も実施した。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	彩夏祭を通して、朝霞市の文化に親しみ、ふるさと意識の醸成を図るために、市内小中学校に市民まつりの鳴子踊りの参加に係る費用を補助しているが、より多くの小中学校に参加してもらうことが課題である。
今後の取り組み方針	現在の取り組みを引き続き実施しつつ、さらに多くの小中学校に市民まつりの鳴子踊りに参加してもらうよう呼びかけ等を実施していく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

彩夏祭は、市民が主役のイベントであることから、実行委員やコミュニティ協議会加盟団体などの関係者だけでなく、市民がボランティアとして活動に参加することで、地域を支える人材の育成や交流を図っていく。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	市民環境部	課 名	地域づくり支援課	係 名	市民活動支援係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(11)地域福祉を支える団体の活性化・人材の育成				
	事業名	⑩市民活動の活性化				
	事業概要	NPO法人の新設や市民活動団体が実施する事業に補助金を交付します(市民活動団体支援補助事業)。また、地域活動の担い手となる人材の発掘、活動に参加することに繋がる機会、ボランティア団体と市民活動団体の交流や連携等を目的とした事業を実施します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容		市民活動団体支援補助金の交付(事業補助をNPO法人など全14団体に交付)やNPO税務会計・設立運営相談会やSNS活用相談会など市民活動相談会を開催するなど団体運営に関する支援を行った。市民活動の新たな担い手を育成することを目的とした「地域デビュー支援セミナー」を開催した。市内の市民活動団体の活動の幅を広げるため、志木市、新座市、和光市と共催で「市民活動団体交流会」を開催した。				
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
NPO法人数	目標値	52法人	54法人	56法人	58法人	60法人
	実績値	47法人	48法人	47法人		
進捗状況及び自己評価		指標のNPO法人数については、目標に至らなかったが、相談件数は増加している。団体の事業に係る補助金の交付や個別相談会の開催により団体運営の支援に努めた。また、地域活動への参加促進に繋がるセミナーの開催や団体交流会の実施などにより、活動の活発化、人材の育成、活動範囲の拡大等に関する支援を行うことができた。				
		B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない			

2 課題・今後の取り組み方針

課題	活動の担い手の高齢化や会員の不足など
今後の取り組み方針	関係機関や他市の市民活動担当と連携を図りながら、活動への参加の機会の提供や情報発信の強化、団体同士の連携等が図れる事業を実施していく。また、団体が抱える課題の解決に向けて、引き続き、支援する側の職員の資質向上に努めていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

補助金の支給、各種相談会や交流会など市民活動への参加、担い手の育成や団体活動の拡大に関する事業等を、今後も実施・運営していくので、関心のある方や団体の積極的な参加が望まれる。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	総務部	課 名	財産管理課	係 名	営繕係
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(12)施設等の整備・充実				
	事業名	①公共施設の修繕・改修				
	事業概要	地域福祉の活動拠点として、市民が安心・安全に公共施設を利用できるように、必要に応じて施設改修を行います。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	第二中学校の体育館や柔剣道場に新しく空調設備を設置、市庁舎及び東朝霞公民館の空調設備の更新、市庁舎の屋上防水改修工事などを実施した。 その他にも仲町市民センターの大規模改修や、博物館の外壁等改修のための設計をおこなった。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
改修工事实施設数	目標値	10件	10件	10件	10件	10件
	実績値	12件	7件	9件		
進捗状況 及び 自己評価	上記のとおり工事や設計をおこない、市民の活動拠点の環境をより安心安全なものへと向上させた。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	マネジメント実施計画に基づき計画的に施設の改修を行っていくが、計画順位の低い各施設の修繕は緊急性が高いものからの実施となり後手に回りがちである。
今後の取り組み方針	マネジメント実施計画に基づき計画的に施設の改修を行っていく。 また、修繕については施設点検結果を各施設所管課に報告し、修繕実施を促す。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

施設利用にあたり不便な点を改善要望として挙げる。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	総務部	課 名	財産管理課	係 名	営繕係
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(12)施設等の整備・充実				
	事業名	②公共施設のバリアフリー化				
	事業概要	公共施設の利用者が、長期間継続して、安心、安全、快適に使用できるように、ユニバーサルデザインを取り入れた設計を行い、バリアフリー化を推進していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	朝霞第九小学校校舎増築工事及び仲町市民センター大規模改修工事の設計業務において、スロープ及び点字ブロック、車いす用トイレ、手すりを設置するなど埼玉県福祉のまちづくり条例の整備基準に適合した計画といたしました。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
公共施設におけるバリアフリー化項目の延べ整備数(項目:点字ブロック、スロープ、エレベーター、バリアフリートイレ、音声ガイド用スピーカー、車いす用駐車場、ローカウンター)	目標値	193項目	194項目	195項目	196項目	197項目
	実績値	202項目	204項目	204項目		
進捗状況及び自己評価	朝霞第九小学校校舎増築工事設計業務及び仲町市民センター大規模改修工事設計業務委託において、埼玉県福祉のまちづくり条例の整備基準に適合させた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	既存の敷地が狭小であることや段差が大きいため、必要なエレベーターやスロープなどのバリアフリー化を図るための設備設置スペースの確保が困難な場合がある。
今後の取り組み方針	改修工事の際は、バリアフリー化のための提案、設計を積極的に行う。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

施設利用にあたり不便な点を改善要望として挙げる。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部 危機管理室	課 名	障害福祉課 長寿はつらつ課 危機管理室	係 名	障害福祉係 高齢者支援係 危機管理係
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(13)防災対策の充実				
	事業名	①避難行動要支援者支援制度の推進(再掲)				
	事業概要	災害時における避難行動要支援者への支援を円滑に実施するため、関係課が連携し、避難行動要支援者台帳を作成します。また、自治会・町内会、民生委員児童委員、消防団、地域包括支援センター等の避難支援者となる各団体に配付を行い、災害時における支援のほか、日頃からの顔の見える関係づくりに活用します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・災害時における避難行動要支援者の支援を円滑に実施するため、福祉部門と連携し、避難行動要支援者台帳を作成し、自治会・町内会、民生委員児童委員等の避難支援者となる方々に配付を行い、災害時における支援のほか、日頃からの顔の見える関係づくりに活用いただく。 ・調査実態を踏まえ様式と調査方法を調整し、自治会・町内会等からの意見を元に、要綱改正を経て様式等を決定した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
避難行動要支援者台帳の更新及び配付	目標値	年1回	年1回	年1回	年1回	年1回
	実績値	年1回	年1回	年1回		
進捗状況 及び 自己評価	予定通り令和5年6月中に更新及び配布を行った。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	・見直し後の個別避難計画作成の速度と精度。 ・台帳を活用した訓練等が実施できていない。
今後の取り組み方針	・引き続き、避難行動要支援者台帳の更新及び配付を計画的に実施するとともに、台帳を活用した訓練の実施等、活用支援について検討を行う。 ・来年度以降は、新たに決定した様式と調査方法で、浸水想定地区から順次調査を進めていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

個別避難計画を作成する際は、自治会・町内会、民生委員児童委員は周知・協力する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	危機管理室	課 名	危機管理室	係 名	危機管理係
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(13)防災対策の充実				
	事業名	②防災意識の高揚				
	事業概要	防災意識の高揚を図るため、防災に関する情報を市から発信するとともに、自衛隊、消防署及び消防団等の防災関係機関と協力し、子どもから大人まで誰でも参加できる防災イベントを実施します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	自助・共助の役割や災害への備えに役立つ防災知識の習得及び防災意識の高揚を図るため、自衛隊、消防署及び消防団等の防災関係機関と協力し、防災フェアを実施する。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
メール配信サービスへの登録者数	目標値	6,000人	7,000人	8,000人	9,000人	10,000人
	実績値	6,840人	6,507人	6,581人		
進捗状況及び自己評価	令和5年9月30日(土)に総合防災訓練にて、防災フェアを開催した。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	来年はカインズ朝霞に会場が戻るため、内容を更に充実させる
今後の取り組み方針	自衛隊、消防署及び消防団等の関係機関と協力し、子どもから大人まで楽しく学ぶことができる体験型の防災プログラムを実施する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

防災フェアに、様々な方々が参加する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	危機管理室	課 名	危機管理室	係 名	危機管理係
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(13)防災対策の充実				
	事業名	③自主防災組織の結成促進				
	事業概要	自主防災組織未結成の自治会に対し、地域防災アドバイザーと協力し、自主防災組織の必要性、活動内容を説明し、結成を促進します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	自主防災組織未結成の自治会に対し、地域防災アドバイザーと協力し、自主防災組織の必要性、活動内容を説明し、結成を促進する。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
自主防災組織数	目標値	48組織	49組織	50組織	51組織	52組織
	実績値	47組織	48組織	48組織		
進捗状況 及び 自己評価	新たに自主防災組織の結成はなかったが、引き続き結成促進を図り、自主防災組織の結成を促していきたい。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	更なる結成促進
今後の取り組み方針	地域防災アドバイザーと協力し、引き続き結成促進を図るとともに、既存の自主防災組織が行う訓練や資機材整備に対する補助金を交付し、自主的な防災活動を支援していく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

自主防災組織を新たに結成する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	危機管理室	課 名	危機管理室	係 名	危機管理係
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(14)防犯対策の充実				
	事業名	①防犯情報の発信				
	事業概要	防犯ニュースの配信、防災行政無線の放送等、様々な方法で適時適切な情報発信を通して防犯意識の高揚に努めます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	警察及び関係機関との連携のもと、複雑巧妙化する犯罪などの防犯ニュースの配信のほか、防災行政無線での振り込み詐欺被害防止の放送等、様々な方法で情報発信を行い、防犯意識の高揚を図る。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
防犯ニュースの発信	目標値	週1回	週1回	週1回	週1回	週1回
	実績値	週1回	週1回	週1回		
進捗状況 及び 自己評価	防犯情報を迅速に配信できるよう、日頃から警察等の関係機関との連携を推進していく必要がある。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	防犯情報を迅速に配信できるよう、日頃から警察等の関係機関との連携を推進していく必要がある。
今後の取り組み方針	引き続き警察等の関係機関と連携し、適時適切な情報発信を通して防犯意識の高揚に努めていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

市や警察が発信する犯罪情報をみて、防犯意識を高める。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	危機管理室	課 名	危機管理室	係 名	危機管理係
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(14)防犯対策の充実				
	事業名	②防犯活動の推進				
	事業概要	防犯パトロールカーの運行を実施するとともに、わがまち防犯隊やスクールガードによる地域の自主的な防犯活動を支援し、市及び地域コミュニティによる見守り活動を推進していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	防犯パトロールカーの運行を実施するとともに、わがまち防犯隊やスクールガードによる地域の自主的な防犯活動を支援し、市及び地域コミュニティによる見守り活動を推進する。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
警備員による青色防犯パトロールカーの運行	目標値	週5回	週5回	週5回	週5回	週5回
	実績値	週5回	週5回	週5回		
進捗状況及び自己評価	週5回防犯パトロールカー運行を実施することができた					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	犯罪発生を抑止力として地域の防犯意識を高めるため、継続的にパトロール活動を行っていく必要がある。
今後の取り組み方針	犯罪を起こさせにくい環境づくりを推進するため、引き続き防犯パトロールカーの運行を行うとともに、わがまち防犯隊やスクールガードによる地域の見守り活動の支援に努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

普段生活している中で、不審者や迷い人等をみかけたら警察へ連絡する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	市民環境部	課 名	地域づくり支援課	係 名	市民生活・相談係
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(14)防犯対策の充実				
	事業名	③消費生活相談(再掲)				
	事業概要	消費者被害の未然防止・被害回復のために、消費生活相談員による相談を行います。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	開庁日の10時～正午、午後1時～4時に面談及び電話で消費生活相談を実施。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
消費生活相談件数	目標値	900件	940件	980件	1020件	1070件
	実績値	829件	846件	800件		
進捗状況 及び 自己評価	相談件数は目標値に至らなかったものの、例年同様の件数が見込まれた。 相談件数が目標値に至らなかったのは、トラブルの件数が少なかったと見える反面、消費生活相談の認知度が低いという観点も認識する必要があると捉えている。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	消費者トラブルは年々多種・多様化している。また、高齢者の消費者被害も依然として高い状況が続いていることから、消費者トラブルに対応するため、消費生活相談員のスキルアップを図り、消費生活相談の充実を図る必要がある。
今後の取り組み方針	消費者トラブルにあった時の相談窓口として、引き続き啓発活動を行い、消費生活センターの認知度を高めていくよう努める。 また、消費生活相談員には、各種研修に参加できるように環境等の整備を行っていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

高齢者や自己判断が難しい市民に対し、隣近所の方が見守りを行い、消費者トラブルの発生が見込まれる場合に、消費生活センターにつなげる。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	障害福祉課	係 名	障害給付係
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(15)外出・移動の支援				
	事 業 名	①重度心身障害者福祉タクシー利用料等の補助				
	事業概要	重度の心身障害のある人の社会生活圏の拡大と経済的負担の軽減のため、福祉タクシー利用券、バス・鉄道共通ICカード、自動車燃料費の中から選択制により補助を行います。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	身体障害者手帳1、2級、下肢機能障害3級所持者、療育手帳○A、A、B所持者、精神障害者保健福祉手帳1、2級所持者に対し、交通費を助成する。(バス・鉄道共通ICカードチャージ費用の補助、自動車燃料費の補助、福祉タクシー券の交付のいずれかの選択)					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
福祉タクシー利用料券、バス・鉄道共通ICカード及び自動車燃料費(いずれか1つを選択)の重度心身障害者利用者数	目標値	2,500人	2,500人	2,500人	2,500人	2,500人
	実績値	2,358人	1,873人	1,992人		
進捗状況及び自己評価	令和5年度は、福祉タクシー券交付者数422名、自動車燃料費676名、バス・鉄道共通ICカード894名(いずれもR6.3.31時点の未確定値)に対し補助した。年度当初に、補助対象者に申請書と返信用封筒と送付し、利便性向上に努めた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	近隣市と比較しても高い水準で補助を行っており、引き続き申請方法など利便性向上に努める。
今後の取り組み方針	利用者の需要を把握するとともに、申請方法を検討しより利便性向上に努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

市民の利便性向上のための郵送による申請等を積極的に活用する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	長寿はつらつ課	係 名	高齢者支援係
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(15)外出・移動の支援				
	事業名	②高齢者バス・鉄道共通カードの給付				
	事業概要	高齢者の外出支援を目的として、バス・鉄道共通カードの交付及び給付を行います。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	郵送申請用の返信用封筒を同封し、窓口の混雑を避ける工夫を行い、チャージ料の給付を行うことができた。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
高齢者バス・鉄道共通カード申請者数	目標値	16,000人	16,500人	17,000人	17,500人	18,000人
	実績値	15,076人	15,311人	15,500人		
進捗状況 及び 自己評価	多くの方にチャージ料を給付することができている。また、令和2年度から郵送申請用の返信用封筒を同封し、申請を促すことができている。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	関係部署と情報共有を図り、新たな外出支援を含めた自立支援施策を検討する必要がある。
今後の取り組み方針	高齢者の外出支援事業として、高齢者バス・鉄道共通カードの交付事業は高い利用率で、一定の成果を得られている一方、高齢者の移動支援については、様々なニーズがあることから関係部署との連携・情報共有や他自治体の施策の調査・研究などを通じ、新たな外出支援も含め、高齢者の自立支援施策のありかたを検討していく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

事業の周知のため、未申請者への申請の働きかけについて協力する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	都市建設部	課 名	まちづくり推進課	係 名	交通政策係
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(15)外出・移動の支援				
	事業名	③市内循環バス等の利便性向上				
	事業概要	持続可能な地域公共交通の実現を目指し、市内循環バスの運行計画等の見直しに向け検討を行います。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・バス事業者3社との協定に基づき、運行に係る経費のうち運賃を除いた経費をバス事業者に助成することにより、市内循環バスを運行した。 ・公共交通空白地区の改善に向け、先行検討地区の地域住民と協働して取り組んだ。 ・防災フェアにわくわく号乗車体験コーナーを出展し、バスの魅力PRやバスの乗り方等について周知啓発を実施した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
年間利用者数	目標値	288,000人	328,000人	334,000人	340,000人	346,000人
	実績値	334,493人	379,307人	383,000人		
進捗状況 及び 自己評価	・バス事業者3社との協定に基づき、市内循環バスを適正に運行した。 ・公共交通空白地区の改善では、先行検討地区と協働で仮運行計画を作成し、アンケート調査及び試験運行を実施した。 ・令和5年7月に運賃改定を行ったものの、バスの年間利用者数については、前年度より3,000人以上増加した。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	交通事業者全体が深刻な運転手不足にある中、持続可能な運行計画の見直しについて検討を必要がある。
今後の取り組み方針	令和6年度から2か年で第2次公共交通計画の策定に着手することから、アンケート調査や交通事業者へのヒアリングなどを実施するとともに、地域公共交通協議会での議論を踏まえながら、持続可能な交通計画の見直しについて検討を行う。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

持続可能な地域公共交通の実現に向け、目的地や日によって公共交通を使い分けるなど、積極的に公共交通を利用する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	都市健康部	課 名	まちづくり推進課	係 名	交通政策係
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(15)外出・移動の支援				
	事業名	④自転車駐車場の整備				
	事業概要	自転車駐車場のキャンセル待ち対応、3人乗り自転車や大型化する車両への対策、施設の老朽化対策について検討していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・指定管理者と基本協定書及び年度協定書に基づき管理を実施した。 ・駅前自転車駐車場における大型自転車のキャンセル待ちを解消するため、令和3年度から運用を開始している大型自転車臨時駐車場についても適正に管理した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
自転車駐車場等整備、維持管理箇所数	目標値	10か所	10か所	10か所	10か所	10か所
	実績値	10か所	10か所	10か所		
進捗状況及び自己評価	・各自転車駐車場について、指定管理者により適正に維持管理を実施した。 ・朝霞台駅南口第一自転車駐車場では1階部分を定期利用とする運用の見直しを行ったほか、北朝霞駅東口地下自転車駐車場では大型自転車の駐車スペースを創出するため改修工事を実施し、キャンセル待ちの大幅な減少(100台以上)につながった。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	自転車駐車場のキャンセル待ちについては各種対策により減少傾向にあるが、キャンセル待ちの解消に向け、引き続き対応を行う必要となる。
今後の取り組み方針	令和6年度は、朝霞駅東口大型自転車臨時駐車場の受け入れ台数を増加するための改修工事を実施する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

キャンセル待ちの解消のため、市が整備した大型臨時駐車場の利用に協力する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	福祉相談課	係 名	福祉相談係
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(16)住まいの確保等への支援				
	事業名	①住居確保給付金の支給				
	事業概要	離職等により経済的に困窮し、住居を喪失した人又は喪失のおそれのある人からの申請に対し、審査の上、家賃相当分の住居確保給付金を一定期間支給します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	住居確保給付金の申請を受け、適正な支給を行った。 制度改正があった際には、ホームページ等への掲載を行い周知を図った。 (R5年度実績) 住居確保給付金 決定件数12件、支給件数33件、総支給額1,542,900円					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
住居確保給付金の支給件数	目標値	10件	10件	10件	10件	10件
	実績値	156件	12件	12件		
進捗状況及び自己評価	令和2年度から令和4年度まではコロナによる特例措置があったため、申請件数・支給額ともに増加していたが、特例措置が令和5年3月31日で終了となり、令和5年度は、コロナ禍前の申請状況に戻りつつあった。 すべての支給決定者へプランを作成し、自立に向けた就労支援を併せて実施した。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	受給中に常用就職が困難で収入の改善が見込めない方については、速やかに生活保護への相談・申請を促しているが、中々繋がらず、生活が安定しない方もいた。また、本事業の周知方法についても検討していく必要がある。
今後の取り組み方針	制度改正内容の周知が行き届くよう、ホームページ等への掲載内容を工夫するとともに、相談者に応じた支援方法の検討・提案などを行い、相談者に寄り添った支援を行っていく。 また、受給中に常用就職が困難な方で収入改善が見込めない方については、生活保護への繋ぎを丁寧に行っていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

生活に困窮している方に対して、相談窓口の案内などの協力

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	長寿はつらつ課	係 名	高齢者支援係
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(16)住まいの確保等への支援				
	事業名	②高齢者への住宅支援				
	事業概要	民間賃貸住宅の借上げにより、住宅の確保が困難な高齢者に対して住宅を提供していきます。また、住宅確保要配慮者への情報提供や住宅改善費の助成を実施していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・高齢者住宅は、空き部屋が発生次第、速やかに募集記事を広報や市ホームページに掲載し、申請者に対して提供することができた。 ・住宅確保要配慮者に対して、市営住宅やセーフティネット住宅等の情報を提供することができた。 ・住宅改善費は、安全な日常生活を営む上で居室等の改修が必要な方に対して、改修費用の一部を助成することができた。 ・まちづくり推進課が実施する居住支援相談を通じて、連携を図る体制を構築することができた。 ・関係各課及び市内不動産事業者と定期的に意見交換を実施した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
高齢者住宅の利用者数	目標値	22人	22人	22人	22人	22人
	実績値	22人	22人	22人		
進捗状況及び自己評価	・高齢者住宅の提供、市営住宅等の情報提供、住宅改善費の助成及び関係機関と連携を図るなど、高齢者への住宅支援を実施することができている。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	・各種事業の普及・啓発を図り、ニーズに合わせた必要な支援を行う必要がある。 ・関係部署や不動産事業者等と情報の共有や連携を図りながら協力するなど、住宅確保要配慮者に対して、支援を継続する必要がある。
今後の取り組み方針	要支援や要介護の認定を受けた方等が住み慣れた自宅で安心した生活を継続するために必要な事業であり、今後も需要が見込まれるため、事業の普及・啓発を図るほか、不動産事業者等と意見交換を行うなど、令和6年度以降も各種取組を継続していく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

近隣に住宅の確保が困難な高齢者や住宅改善を検討されている高齢者がいた場合、市の事業(取り組み)について案内する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	都市建設部	課 名	開発建築課	係 名	住宅政策係
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(16)住まいの確保等への支援				
	事業名	③住宅政策				
	事業概要	住宅を自力で確保することが難しい低額所得者、高齢者、障害のある人などが、安心して暮らせる住宅を確保できる環境の実現に努めます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	公益社団法人埼玉県社会福祉士会と業務委託契約を締結し、住宅確保要配慮者への居住の確保及び居住の安定を図るための居住支援相談を開設し、福祉部局と連携しながら相談業務を行っている。また、相談内容に応じ、必要な場合は継続した居住支援を行っている。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
住宅に関する相談件数	目標値	10件	15件	20件	25件	30件
	実績値	12件	12件	35件		
進捗状況 及び 自己評価	居住支援相談の実施により、福祉部局や関係機関との連携体制が強化され、より強靱な体制づくりを築きながら、住宅確保要配慮者への居住支援を推進することができた。 また、5月、11月、2月には福祉部局や不動産事業者等を交えた居住支援に関する意見交換会を実施し、居住支援における課題の共有や、連携の強化を図ることができた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	将来的に居住支援協議会を設置(国の住生活基本計画の目標:令和12年までに県内人口カバー率50%以上の協議会設置)することを目標に据え、安定した事業運営を図る。
今後の取り組み方針	居住支援相談では、相談後の継続的支援の実施を業務委託内容に組み込み、更なる支援を行う。 また、居住支援に関する意見交換会を引き続き実施し、更なる居住支援体制の構築を推し進める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

身近に支援が必要な方がいる場合に相談窓口を案内する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	福祉相談課	係 名	地域福祉係
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(17)再犯防止の推進				
	事業名	①更生保護関係団体への支援				
	事業概要	保護司は保護観察対象者に対し、立ち直りに必要な指導や就学、就職支援にあたるほか、矯正施設等から社会復帰した人が、円滑な社会生活を営めるよう帰住先の環境の調整や更生保護相談を行っています。犯罪や非行をした人たちの再犯防止と社会復帰に取り組むよう保護司会の活動を支援します。また、犯罪や非行の未然防止のための啓発活動を行うほか、青少年健全育成など改善更生に協力する更生保護女性会の活動についても協力します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	埼玉県更生保護観察協会朝霞支部の活動に対し負担金、保護司会の活動に対し補助金を交付した。また、保護司会が自ら行う自主研修会を3回、矯正施設の視察研修を1回実施し、事務局として会場の設営や資料作成などを行い、研修会が円滑に進められるよう協力をした。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
市内における刑法犯認知件数	目標値	905件	887件	868件	850件	831件
	実績値	600件	653件	791件		
進捗状況 及び 自己評価	更生保護関係団体の活動を支援することで、犯罪や非行をした人たちの改善更生を助けるとともに、犯罪を予防し、地域社会の安全及び住民福祉の向上に寄与することができている。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	更生支援を行う保護司の定数に欠員が生じている。また、犯罪や非行をした人たちが円滑に社会復帰を目指せるように、引き続き、保護司会と福祉関係機関との連携を図っていく必要がある。
今後の取り組み方針	保護司会と連携を図りながら、保護司の担い手確保に向けた取り組みを行っていく。 また、保護観察対象者の社会復帰に必要な就労・住居・保健医療・福祉等の支援策について、保護司会へ積極的な情報提供を行っていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

保護司会の活動や社会を明るくする運動などを通じて、再犯防止を含む犯罪抑制への理解を深める。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート						
第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	福祉相談課	係 名	地域福祉係
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(17)再犯防止の推進				
	事 業 名	②更生保護サポートセンターの支援				
	事業概要	地域における更生保護の活動拠点として、朝霞地区更生保護サポートセンターを総合福祉センター(はあとぴあ)内で運営することに引き続き協力します。更生保護サポートセンターの設置により、保護司と保護観察対象者との面接場所が確保されるほか、保護観察所や保護司との情報交換などが円滑になり、更生保護活動の充実が図られます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	朝霞地区更生保護サポートセンターを総合福祉センター内に設置することで、更生保護活動を支援できた。朝霞地区更生保護サポートセンターは、毎週火曜日から金曜日の午前10時から午後4時まで開所しており、経験豊富な企画調整保護司が常駐して、保護司の処遇活動に対する支援や更生保護関係団体との連携の推進を行った。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
更生保護サポートセンター利用件数	目標値	84件	84件	84件	84件	84件
	実績値	35件	48件	57件		
進捗状況 及び 自己評価	朝霞地区更生保護サポートセンターの活動場所として、総合福祉センターの利用を通じて、保護司と保護観察対象者との面接場所が確保されたなど、更生保護活動の充実が図られた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	施設の工事修繕等の影響により総合福祉センターが休所した際に、代替となる面接場所を確保する必要がある。
今後の取り組み方針	引き続き、地域における更生保護の活動拠点である更生保護サポートセンターの運営に協力する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

保護司会の活動や社会を明るくする運動などを通じて、再犯防止を含む犯罪抑制への理解を深める。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	福祉相談課	係 名	地域福祉係
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(17)再犯防止の推進				
	事業名	③社会を明るくする運動				
	事業概要	保護司会及び更生保護女性会と協力して、7月の再犯防止啓発月間に、犯罪や非行の防止と犯罪や非行をした人たちの更生について理解を深めるよう、懸垂幕の掲出や、駅頭での啓発活動など「社会を明るくする運動」を推進します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	7月の再犯防止啓発月間において、市役所での懸垂幕の掲出と、朝霞駅前電光掲示板の放送を行い、周知を図った。また、朝霞地区保護司会の各支部と連携して、第73回「社会を明るくする運動」朝霞地区大会を開催し、講演会や啓発品の配布を行った。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
啓発活動	目標値	1回	1回	1回	1回	1回
	実績値	1回	1回	1回		
進捗状況 及び 自己評価	「社会を明るくする運動」の開催及び広報誌やホームページ、懸垂幕、電光掲示板を活用した広報活動により、犯罪や非行の防止と犯罪や非行をした人たちの更生に関する市民理解の促進を図ることができた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	犯罪や非行の防止と犯罪や非行をした人たちの更生について、市民一人ひとりの理解を深める必要がある。
今後の取り組み方針	引き続き、朝霞地区保護司会や朝霞地区更生保護女性会と協力し、「社会を明るくする運動」を推進していく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

保護司会の活動や社会を明るくする運動などを通じて、再犯防止を含む犯罪抑制への理解を深める。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	福祉相談課	係 名	地域福祉係
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(17)再犯防止の推進				
	事業名	④再犯防止に関する広報の推進				
	事業概要	7月の再犯防止啓発月間において、再犯防止に関する広報を行い、市民への理解と周知に努めます。また、朝霞地区保護司会の各支部と連携して、「社会を明るくする運動」朝霞地区大会を開催し、講演会や啓発品の配布を行った。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	7月の再犯防止啓発月間において、広報誌及び朝霞駅前電光掲示板の放送による周知を行った。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
広報紙、ホームページでの情報発信	目標値	1回	1回	1回	1回	1回
	実績値	1回	1回	1回		
進捗状況及び自己評価	啓発活動などにより地域全体で立ち直りを支える再犯防止について、市民への周知を図ることができた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	再犯防止や犯罪をした者等の社会復帰支援の重要性について理解を促進する必要がある。
今後の取り組み方針	ホームページをはじめSNSを活用するなど、様々な媒体を通じて再犯防止に向けた啓発活動を実施する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

保護司会の活動や社会を明るくする運動などを通じて、再犯防止を含む犯罪抑制への理解を深める。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	福祉部	課 名	福祉相談課	係 名	福祉相談係
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(17)再犯防止の推進				
	事業名	⑤生活困窮者自立支援				
	事業概要	犯罪や非行をした人に対して、生活困窮者自立支援法に基づき、相談や就労支援、学習支援、住居確保給付金の支給など、各種支援を行います。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	生活困窮者自立支援法に基づき、生活困窮者に対して市町村の必須事業とされている自立相談支援事業及び住居確保給付金の支給、任意事業の学習支援事業及び家計改善支援事業を実施した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
生活困窮に関する相談件数	目標値	600件	600件	600件	600件	600件
	実績値	1,772件	1,424件	850件		
進捗状況 及び 自己評価	生活困窮に関する相談件数は、コロナ禍前に戻りつつあるが、令和5年度は、経済的困窮をはじめとして就労活動困難、病気、住まいの不安定、家庭の課題、メンタルヘルス、家計管理の課題、就労定着困難、債務問題など多岐に渡り、1ケースあたりの支援時間も長くなっている傾向があった。また、様々な関係機関(庁内・庁外)との調整や連携を必要とする業務特性より、令和5年4月に生活困窮者自立支援法で規定する支援会議を設置し、関係機関等がそれぞれ把握している困窮が疑われるような個々の事案の情報共有を行い、支援の検討を行うことができた。令和5年度は犯罪や非行をした方の相談は把握できていない。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	複雑化かつ多様化している生活困窮者の有する課題に対応するためには、就労、家計など様々な面から自立に向けた包括的な支援を提供できる体制を整えていく必要がある。
今後の取り組み方針	生活の困窮に関わる相談を含め、日常生活における様々な困りごとや悩みごとをはじめ、ひきこもりの方、8050問題など、複合化かつ複雑化する問題を包括的に受け止める相談体制などを検討していく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

生活に困窮している人を身近で見かけたときに、相談先を案内する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	こども・健康部	課 名	こども未来課	係 名	こども未来係
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(17)再犯防止の推進				
	事業名	⑥青少年健全育成啓発キャンペーン				
	事業概要	青少年育成市民会議が主体となって、青少年をはじめ市民を対象に、啓発物の配布など非行防止・薬物乱用防止に関する啓発に努めます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	夏季及び冬季に駅前等での啓発キャンペーンを実施した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
啓発キャンペーン実施回数	目標値	2回	2回	2回	2回	2回
	実績値	0回	0回	2回		
進捗状況及び自己評価	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により数年間中止となっていたが、令和5年度は中学生をはじめ多くの方に協力をいただき、事業を再開することができた。 来年度以降についても、引き続き実施していく。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	若い父親、母親世代の方々を青少年健全育成活動に取り込んでいくための方策を検討する。
今後の取り組み方針	街頭キャンペーンのほか、HPやSNS等での啓発も検討したい。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

若い父親、母親世代の方々やスポーツ少年団、自治会町内会等の地域の人々が協力することで、市民総ぐるみでの青少年健全育成の啓発を進める。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	学校教育部	課 名	教育指導課	係 名	—
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(17)再犯防止の推進				
	事業名	⑦非行防止教室の実施				
	事業概要	学校が保護者、地域、警察等の関係機関と連携を図り、児童生徒の非行防止や薬物乱用防止等の教育を推進するため、教室等を実施します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	各学校の状況に応じて様々な取組を実施した。以下に例を挙げる。 ・e-ネットキャラバンによる「ビデオオンデマンド講座」を実施した。 ・ビデオを視聴しながら、資料を活用し、家庭でのルールを見直した。 ・朝霞警察署・生活安全課の職員を招いて防犯・非行防止教室を行った。ネットトラブルの問題も増えているため、SNSの正しい使い方についても講話していただいた。 ・県警非行防止指導班「あおぞら」による非行防止教室を開催した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
非行防止教室や薬物乱用防止教室等の実施校	目標値	15校	15校	15校	15校	15校
	実績値	15校	15校	15校		
進捗状況 及び 自己評価	毎年全校での実施ができています。非行防止については、義務教育期間をかけて児童生徒へ非行防止に関する意識を涵養していくことが必要であるので、今後も継続していく。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	○地域と協働した非行防止
今後の取り組み方針	○保護者や地域住民の参加を促したり、コミュニティスクールでより効果的なものになるよう熟議したりしていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

学校公開等を通じて、各校の児童生徒の様子を地域の方々に知っていただき、「子供たちを地域で見守り、育てる」基盤を強化する。

4 推進委員会の意見(評価)

令和5年度
第4期朝霞市地域福祉活動計画
進行管理・評価シート

委員会会議資料

基本目標	施策の方向性	事業名	担当課	頁	進捗状況				
1 市民の暮らしを支える仕組みづくり					R3	R4	R5	R6	R7
	(1)地域共生社会の実現に向けた仕組みづくり	① 関係機関との連携			A	A	A		
		② 身近な福祉圏域の検討			B	B	B		
		③ CSWの配置			B	B	B		
	(2)相談支援体制の充実	① 特別な配慮が必要な子どもへの相談・支援			B	A	A		
		② 身近な総合相談支援の充実			A	A	A		
		③ ボランティア活動の相談・コーディネート			A	A	A		
		④ 身近なボランティアの相談窓口の充実			A	A	A		
	(3)保健医療・社会福祉サービスの充実	① 機関連携研修会			A	A	A		
		② 障害のある人の就労支援			A	A	A		
		③ 社会福祉法人の連絡会議			B	B	B		
	(4)権利擁護の推進	① 成年後見制度の理解・普及			A	A	A		
		② 虐待防止対策			A	A	A		
		③ あんしんサポートねっと			A	B	B		
	(5)生活困窮者等への支援の充実	① 生活再建のための相談支援			A	A	A		
		② 子どもの貧困対策に関わる団体への支援			B	A	A		
	(6)地域住民の交流の促進	① 地域住民の交流の機会の提供			B	A	A		
		② 地域住民の交流の活性化			B	A	A		
		③ 外国人への支援			A	A	A		
2 思いやりと支え合いの心づくり					R3	R4	R5	R6	R7
	(7)地域福祉に関する理解と参加の促進	① ボランティア・実習生の受け入れ			A	A	B		
		② 出前講座の実施			A	A	A		
		③ ボランティア講座の開催			A	B	A		
		④ 手話体験・要約筆記体験の実施			B	A	B		
		⑤ 地域福祉財源の確保			B	B	B		
		⑥ あいはあと事業			A	A	A		
	(8)支え合い・助け合いの気持ちの醸成	① 教職員対象の研修会の実施			A	A	A		
		② 他機関と連携した福祉教育の実施			A	A	A		
	(9)地域での見守りの充実	① 住民参加による見守り事業の推進			B	A	A		
	(10)情報共有・発信の充実	① 分かりやすい福祉情報の提供			B	A	B		
		② メディア戦略の強化			A	B	B		
	(11)地域福祉を支える団体の活性化・人材の育成	① 福祉活動団体に対する活動支援			A	A	A		
		② 手話講習会の実施			A	A	B		
		③ 老人クラブに対する活動支援			B	A	A		
		④ ボランティア講座の開催(再掲)			A	B	A		
		⑤ 地域活動団体間の交流事業			B	B	B		

※ 部分は、重点的評価施策

基本目標	施策の方向性	事業名	担当課	頁	進捗状況				
3 安心して暮らしやすい地域づくり					R3	R4	R5	R6	R7
	(12)施設等の整備・充実	① 地域の人が集える拠点づくり			A	B	B		
		② 施設の点検・修繕			A	A	A		
	(13)防災対策の充実	① 災害ボランティア講座			B	A	B		
		② 災害ボランティアセンター設置訓練の実施			B	B	B		
		③ 防災訓練の実施			A	A	A		
		④ 小地域福祉活動における防災事業の相談支援			A	A	A		
	(14)防犯対策の充実	① 子どもへの防犯教室の実施			B	A	A		
		② 住民の防犯への意識の啓発			B	B	B		
	(15)外出・移動の支援	① 障害のある人や高齢者の外出支援			A	A	C		
		② 車いすの貸出し			A	B	B		
	(16)住まいの確保等への支援	① 生活困窮者等への支援			A	A	A		
	(17)再犯防止の推進(再犯防止推進計画)	①							

※  部分は、重点的評価施策

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	課 名	係 名
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり	
	施策の方向性	(1)地域共生社会の実現に向けた仕組みづくり	
	事業名	①関係機関との連携	
	事業の概要	高齢者・障害者・子育て支援等、様々な関係者との会議や情報交換等を通じて連携を深めてきました。今後、さらに「連携・協働の場」としての役割を十分に発揮し、地域住民や地域の様々な関係者・地域団体の参加と協働をもとに、地域の生活課題(ニーズ)について解決できる仕組みをつくっていきます。	

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容		・社協理事会(2)・評議員会(2)・地域ケア会議出席(5)・生活支援コーディネーター会議(9)・第1層協議体会議(2) ・第2層協議体会議(2)・保護司会連絡会(1)・校長会議・教頭会議(1)・民協会長会(1) ・朝霞市地区民生委員児童委員協議会(6)・あんしんサポートねっと担当者四市ブロック会(1) ・特定相談支援事業所等連絡会(8)・特定相談支援事業所等連絡会事務局会議(10) ・進路連絡協議会(和光南特別支援学校等)(4)・福祉事業所合同説明会(1) ・南西部地域就労支援センター等情報交換会(4)・埼玉県障害者就労支援センター等連絡協議会(2) ・手話調整会議(2)・朝霞市障害者プラン推進委員会(4)・四市内福祉施設医療職ネットワーク会議(1) ・朝霞市子ども子育て会議(7)・児童館運営協議会(3)・要保護児童対策協議会(8) ・朝霞市高齢者福祉計画及び介護保険事業計画推進会議(3)・地域包括支援センター運営協議会(2) ・地域密着型運営委員会(2)				
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
各関係機関や各事業に関わる情報交換	目標値	80件	80件	90件	90件	100件
	実績値	82件	86件	93件		
進捗状況及び自己評価	・利用者のニーズ解決に向けて、総合的かつ効果的にサービスが提供できるよう、多様な関係者(保健・医療・福祉・教育等)と連携を図ることに努め、顔の見える関係づくりができた。 ・福祉団体・企業等と地域活動への参加や、現状や抱えている課題について意見交換を行うことで、お互いの役割や協力体制について理解が深まった。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	・福祉分野以外(医療・教育・雇用・企業等)の関係機関とのつながりを広げていく必要がある。 ・様々な地域の生活課題の解決に取り組む中で、慎重に取り扱わなければならないケース(貧困、虐待等)や個人情報の取り扱い等の課題が発生している。
今後の取り組み方針	・地域住民や地域の生活課題を解決するために、関係機関との継続的な連携体制を維持する。 ・社協内部の部署間での連携・情報共有に努める。 ・個人情報の取り扱い(第三者に提供する際の本人同意の取り方等)について管理をしっかり行う。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

・地域の生活課題について考える。 ・地域にある福祉団体や関係機関等について情報収集する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(1)地域共生社会の実現に向けた仕組みづくり				
	事業名	②身近な福祉圏域の検討				
	事業の概要	第3期活動計画では、地域包括支援センターの圏域に合わせ地区活動を行っていましたが、住民が身近に感じる福祉圏域について見直し・検討していく必要があることを認識しました。地域での福祉活動を、市民や関係団体と共に進めてきた従来のエリア(福祉圏域)を参考にしつつ、市内の他分野の圏域について情報を収集し、地域住民が身近に感じ、参加しやすい新たな福祉圏域を検討・研究していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	令和5年度は、地区の実情を把握するために、第3期地域福祉活動計画で作成した地域アセスメントシートの情報を基に、地区ごとに情報の更新作業を行った。あわせて、社協が設定した6地区と、行政(高齢者福祉)が推進する生活支援体制整備事業(2層協議体)における6圏域の一部の地区で担当職員同士の打ち合わせ等を行った。 また、住民参加型在宅福祉サービス(あいはあと事業)では、協力会員の活動可能範囲の確認や、ボランティアセンターでは、活動希望地域の確認等、実態の把握を行った。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
身近な福祉圏域の検討	目標値	調査・研究			1回	2回
	実績値	調査・研究				
進捗状況及び自己評価	・地域アセスメントシートの情報を更新することにより職員の担当地区に対する理解が深まった。今期計画期間中は、社協が設定した6地区で福祉圏域の検討を行っていくが、社協の6地区と自治会・町内会、民生委員児童委員、生活支援体制整備事業のエリア分けが異なり、境界線を合わせる事が困難であることを改めて認識した。 ・一部の地区ではあるが、社協の地区と、行政(高齢者福祉)が推進する生活支援体制整備事業において協力体制についての話し合いができ、地域住民の交流事業の開催につながった。 ・あいはあと事業の協力会員・利用会員の地域ごとの登録分布表を作成したことで、登録者のバランスを把握することができ、次年度の新規協力会員向け講習会の実施等、事業の推進体制の参考とすることができた。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	・新型コロナウイルス感染症の影響で停滞していた地域の福祉活動が再開され始めたが、その実情が変化しており、それらを把握する必要がある。 ・エリアの境界線が異なっている、社協が設定した6地区(児童館ごと)と、行政(高齢者福祉)が推進する生活支援体制整備事業の6圏域(地域包括支援センターごと)の全ての地区で連携するための方策を模索する必要がある。
今後の取り組み方針	・現場におもむき、地域福祉活動の実情等の情報の把握に努める。 ・行政(高齢者福祉)が推進する生活支援体制整備事業とエリアの境界線の違いがあっても連携できる方策について、地域包括支援センターと協議を行う。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

地域生活課題や地域福祉活動等の情報を社協に提供する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(1)地域共生社会の実現に向けた仕組みづくり				
	事業名	③コミュニティソーシャルワーカー(CSW)の配置				
	事業の概要	地域において、ちょっとした困りごとから生活上の課題を抱える個人や世帯等、様々な地域課題が存在し、社協は地域住民と共に課題解決に向けて取り組んでいます。しかし、困りごとがあっても自ら相談できないなど、福祉課題を抱えている人が増えてきています。そのような人たちが地域で孤立しないように、身近な生活課題を見つけ(気づく)、近隣住民や生活支援コーディネーターなどの関係者、関係機関等との連絡調整をしながら(つなぐ)、地域で支え合う仕組みを一緒に考え(つくる)、地域の多様な生活課題の解決に向けて取り組んでいけるようCSWの配置に向けて検討していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・既にCSWを配置している他社協(和光市・戸田市)への視察を行った。 ・社協の地域福祉推進課にて、職員の研修会を行い、CSWの基本的な役割の理解や他社協の現状等を把握することで、CSWへの理解を深めた。 ・住民参加型在宅福祉サービス(あいはあと事業)での活動者、利用者の地域分布を集約する等、地域の状況把握を行った。また、日々の業務で関わる支援ケースを集約し、地域課題に関する情報の蓄積を行った。 ・地域ケア会議や生活支援コーディネーター会議等に参加し、行政と社協との連携や地域の生活課題等について情報交換を行った。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
CSWの検討	目標値	調査・検討				設置
	実績値	調査・検討				
進捗状況及び自己評価	・社協内の各部署において、各々対象となる分野で、地域福祉団体との連携や個別の利用者への相談支援を行っており、事例の積み上げができています。あわせて、職員の経験やスキルも向上している。 ・他社協への視察を行い、実状や課題を確認したことで、CSWを朝霞市社協として設置する際の配置形態、業務内容等を検討する準備を進めることができた。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	・縦割りの役割分担では解決できない地域の多様な生活課題を解決するためのCSWの配置を念頭に置いた社協内部配置や仕組みづくりを構築する必要がある。 ・CSWを担う人材の育成が必要である。
今後の取り組み方針	・CSWの業務や役割分担を明確化する等、配置に向けての調査・検討を行う。 ・CSW関連の研修に参加し、他市の状況等について把握する。 ・地域の生活課題等の情報収集に努め、市内の地域の生活課題の解決に取り組んでいる関係機関や地域福祉団体との情報交換等に努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

・身近な地域の困りごと気づき、その情報を共有する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	高齢者・児童福祉課	係 名	
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(2)相談支援体制の充実				
	事業名	①特別な配慮が必要な子どもへの相談・支援				
	事業の概要	社協が運営する児童を対象とした施設において、児童がいつもと違う様子であれば専門機関へ相談するなど、他機関と連携を図っています。一人で悩まないように相談ができる場があることを広く周知し、多様な相談に対応できるように関係機関との連携をさらに深めていきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・児童館にて、不登校児の見守り支援を行った。(4) ・児童館にて、不登校児の見守り支援の際、保護者・学校等と連絡調整を行った。また、家庭児童相談員の来館の調整を行った。 ・放課後児童クラブにて、児童の相談支援を行った。(46) ・放課後児童クラブにて、関係機関の会議や専門機関への情報提供等を行った。(37) ・県指定のアドバイザーに配慮を必要とする児童について相談し、アドバイスを受けた。(8) ・児童に携わる関係機関が集まる会議やヤングケアラー支援者研修等に出席した。(3)					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
相談支援件数	目標値	45件	45件	45件	50件	50件
	実績値	43件	48件	98件		
進捗状況及び自己評価	・社協が運営する児童を対象とした施設(児童館・放課後児童クラブ)にて、家庭環境が複雑な児童や障害児の他に気になる児童等に対して、保護者・学校・行政等と連携を図りながら相談支援を行うことで、児童とその保護者が安心して施設を利用できる環境を整えることができた。また、日頃より保護者と関係を築くことで、相談件数の増加につながった。 ・専門的な支援が必要な場合は、関係機関につなげた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	専門的な支援、また児童の権利擁護への配慮等が必要なケースもあり、施設だけでは解決できない場合がある。
今後の取り組み方針	・児童が安全・安心に暮らせるよう、日頃から保護者・学校・行政等との連携を図る。また、専門的な支援が必要な場合は関係機関につなげていく。 ・会議等に出席し、関係機関と顔の見える関係づくりに努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

困りごとがあれば利用している施設や市・社協に設置されている窓口相談する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(2)相談支援体制の充実				
	事業名	②身近な総合相談支援の充実				
	事業の概要	平成29(2017)年度から総合相談の窓口を設置し、住民の困りごとを幅広く受ける体制を整えました。日常生活の中で住民が感じる不安や困りごとに対し、誰もが気軽に利用できる総合相談窓口を目標に、様々なニーズに応えるため児童・高齢・障害等の各専門機関と連携し、総合相談の充実を図ります。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	- 福祉に関するあらゆる相談(高齢者関係、障害者関係、就労、生活困窮、権利擁護等)に対して、困りごとに耳を傾け、情報提供等を行い、必要に応じて、関係機関(市役所、保健所、地域包括支援センター、病院等)につなげた。 - 食料がないという生活困窮者に対し、食材支援を行った。 - 広報紙「社協あさか」やSNSで、総合相談窓口の周知を図った。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
総合相談件数	目標値	20件	20件	25件	25件	30件
	実績値	30件	26件	47件		
進捗状況及び自己評価	- それぞれの困りごとに耳を傾け、社協だけで解決できない場合は、関係機関につなぐ等、課題解決に向けた支援を行うことができた。 - 関係機関との連携等により、昨年度より多くの住民からの相談を受け付けた。 - 広報紙「社協あさか」やSNS等で総合相談窓口の周知に努めた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	誰もが気軽に利用できる、社協の総合相談窓口の存在を市民や関係機関により広く周知する必要がある。
今後の取り組み方針	- 広報紙「社協あさか」やSNS、ホームページ等を活用して、総合相談窓口の周知・啓発を行う。 - 日常生活の中で住民が感じる不安や困りごと等を解決するために、関係機関との継続的な連携体制を維持する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

身近に困りごとを抱えている人がいたら、社協の総合相談窓口を紹介する。

4 推進委員会の意見(評価)

- 目標値は例年増えているが、相談件数が増えることが良いのか、減っていくことが望ましいのか、朝霞市を良くするために根本的な改善を検討していただきたいと思う。 - 家庭の中には高齢者、子ども、障害者など複合的な問題を抱えている場合があり、その複合的な問題にどのように対応していくかという課題があると思う。

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(2)相談支援体制の充実				
	事業名	③ボランティア活動の相談・コーディネート				
	事業の概要	ボランティアコーディネーターは、市内の福祉施設や活動団体、関係団体等のボランティアに関する情報を集約し、ボランティアをやりたい人とボランティアに来てほしい人をコーディネートします。また、ボランティア募集やボランティア団体の活動状況等をボランティアニュース・広報紙「社協あさか」・SNS等で発信し、ボランティア情報を必要としている人へ届けるとともに、ボランティアに参加する人が増えるように努めます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・ボランティア活動をしたいという市民やボランティアに来てほしいという施設等からの相談を受け、必要な情報提供やコーディネートを行った。(延べ174件) ・誰もが気軽にボランティア活動に参加できるきっかけづくりのための事業(彩の国ボランティア体験プログラム)のメニュー作りを行い、参加者と受け入れ先の活動調整を行った。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
ボランティア相談件数	目標値	80件	80件	90件	90件	100件
	実績値	106件	122件	174件		
進捗状況 及び 自己評価	・新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことで、市内福祉施設等からのボランティア依頼が再開し、コーディネートを行った結果、相談件数が増加した。 ・ボランティア登録をした市民とのつながりが途切れないよう、ボランティアニュースやボランティア情報のメール配信を行い、継続的に関わることができた。 ・彩の国ボランティア体験プログラムをきっかけにボランティア活動を継続する参加者がおり、活動のきっかけ作りにつながった。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	・社協がボランティアセンターを運営していることを知らない市民がいる。 ・ボランティア活動希望者へ紹介する活動先の拡充する。
今後の取り組み方針	・地域の福祉活動が活性化するように、またボランティア登録者等とつながりをたやさないよう、情報発信を継続して行う。 ・ボランティア活動のコーディネートを幅広く行うため、市内で活動している施設・団体とつながりをもち、活動状況を把握する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

・ボランティア活動に興味があったら、ボランティアセンターに連絡をする。 ・ボランティアを必要としている人や団体はボランティアセンターに相談する。

4 推進委員会の意見(評価)

・NPO法人として社協にボランティアコーディネートをお願いすることがある。 ・高齢者施設では、コロナ禍前は多くのボランティアに来てもらい入居者の援助をお願いしていたが、コロナが5類移行になった今でもウイルス予防を継続しており、以前のように戻っていないのが現状である。地域の人と交流ができるように検討していきたい。

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(2)相談支援体制の充実				
	事業名	④身近なボランティアの相談窓口の充実				
	事業の概要	ボランティアセンターは、「地域に開かれた社協のフロント(窓口)」としての機能を有するため、ボランティアに関する相談や情報掲示ができるスペースを確保し、ボランティアセンター窓口の機能充実を図ります。また、ボランティアセンターまで来所することが難しい人へ向けて、市内の公共施設、スーパーやドラッグストア等に出張ボランティアセンターの開設を働きかけ、ボランティア相談スペースの確保を図ることで相談窓口の拡充を検討していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・市主催の「地域デビューセミナー」にて朝霞市ボランティアセンターのブースを設け、ボランティア相談を行った。(1) ・市民活動支援ステーションとの連携により、ステーションにてボランティア保険の受付を出張窓口を開設して行った。(4)					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
出張ボランティア相談実施回数	目標値	2件	2件	2件	3件	3件
	実績値	6件	7件	5件		
進捗状況及び自己評価	・市主催のイベント等に参加し、相談窓口を開設することで、ボランティア相談を受けたり、ボランティアセンターの周知を行うことができた。 ・昨年度「今後も継続してほしい。」という市民の声を受け、ボランティア保険の受付を出張窓口にて行い、利用者の申し込みを受け付けた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	・交通の利便性の問題で、ボランティアセンターまで来所が困難な人がある。 ・出張窓口を開設したが、定期的な開設ではないため、認知されにくい。
今後の取り組み方針	・市民活動支援ステーションと連携し、出張窓口を開設する。 ・開設にあたっては、ボランティアニュースやメール配信等にて、日時、場所等の周知を行っていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

市民が利用しやすいボランティア相談窓口の場所について情報提供する。

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(3)保健医療・社会福祉サービスの充実				
	事業名	①機関連携研修会				
	事業の概要	保険医療と介護及び障害者支援の専門機関同士は、カンファレンス等を通じて個別に連携が図られていますが、地域住民の複雑化・複合化した課題に対応するためには制度によらない支援体制の一層の充実が求められています。このことから、保健医療、介護、障害者支援及びその他の社会福祉の推進に係る機関等の参加により、それぞれの活動内容や機能を十分に理解し、連携の質の向上を図ることを目的とした研修会を実施していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	はあとびあ障害者相談支援センターとはあとびあ障害者就労支援センターの合同で研修会を開催した。 ・「高次脳機能障害の理解」を開催した。 ・「障害のある方に「親なきあと」に向けて知ってほしいこと」を開催した。 ・「障害児のライフプラン」を開催した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
機関連携研修会の実施	目標値	調査・検討		1回	1回	1回
	実績値	調査・検討		1回		
進捗状況及び自己評価	・はあとびあ障害者相談支援センターとはあとびあ障害者就労支援センターで研修会を合同企画することで、より多くの関係機関が参加し、連携及び資質向上が図れる関係づくりができた。 ・昨年度の研修会参加者からのアンケート結果を基に、関心の高い内容を盛り込んだことで、参加者が多く、日々の支援に活かせるような研修会を開催することができた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	・事業所、事業種別によって、参加しやすい日時、研修内容等が異なるため、多くの関係機関が参加できる研修会をどのように企画していくか工夫が必要である。 ・関係機関がより関心をもって参加してみようと思えるテーマを検討していく必要がある。
今後の取り組み方針	・研修会の開催日時や場所・テーマ等のニーズ把握に努め、関係機関の共通課題や関心の高い内容を研修内容に反映していく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

利用者へ提供できる支援体制を整えるために、関係機関がお互いの業務内容について情報を共有する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(3)保健医療・社会福祉サービスの充実				
	事業名	②障害のある人の就労支援				
	事業の概要	障害のある人の働きたいという気持ちを尊重し、相談や現場同行を通じて、その人の能力が発揮できる就労につながるよう支援を行います。一方、障害のある人を雇用する事業所については、一緒に働くにあたっての相談や助言を行い、障害がある人の働きやすい環境を整える支援が必要です。そのため、障害者就労支援センターでは、埼玉県障害者雇用サポートセンター、ハローワークと連携して障害のある人をサポートすることにより、地域で生活し、就労を通じて社会参加ができるよう、地域住民や事業所等に障害についての理解を深めていきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・市内企業からの雇用相談(213件) ・SNS、広報への関連記事の掲載(56件) ・関係機関へ障害者就労支援センターのサービス説明を行った(1件)					
指標名		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
啓発・働きかけ	目標値	180件	180件	185件	185件	190件
	実績値	193件	277件	270件		
進捗状況 及び 自己評価	・障害のある人がより安定した障害者雇用につながるよう他機関と連携を図りながら、雇用したいという企業を紹介する支援を行った。その際、働きやすい環境を整えられるよう企業と調整を行い、障害への理解を深めることにつながった。 ・X(旧ツイッター)・広報紙の活用を意識し、市内の企業・市民に広く就労支援センターや障害者雇用の啓発の働きかけを行うことで、障害のある人が「働く」ことについて理解を深めるきっかけ作りができた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	企業や市民に向けて、障害者雇用や一般就労についての普及啓発が必要である。
今後の取り組み方針	X(旧ツイッター)や広報紙を活用して、障害者雇用についての情報を発信していくとともに、市内企業や就労支援施設に対して、障害者雇用や一般就労に関する情報提供を行う。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

自分に合った福祉サービスを選べるように情報を収集する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(3)保健医療・社会福祉サービスの充実				
	事業名	③社会福祉法人の連絡会議				
	事業の概要	長年、市内の社会福祉法人等の障害者福祉施設との横のつながりを強めていくために、「はあとねっと会議」や四市福祉施設看護師の「医療職ネットワーク会議」等を開催しています。今後、さらに市内の社会福祉法人に働きかけ、お互いに顔が見える関係を築き、協働・連携しながら積極的な地域福祉活動の取り組みを推進するため「社会福祉法人の連絡会議」を立ち上げ、地域福祉活動を支えるための仕組みづくりを進めていきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・埼玉県社協が主催する会議にて、社会福祉法人の連絡会議に関連する情報収集を行った。 ・他市での社会福祉法人の連携についての情報収集を行った。 ・地域住民が抱える困難な福祉課題の解決のために、県内の社会福祉法人が協働し社会貢献活動に取り組む「埼玉県社会福祉法人社会貢献活動推進委員会」の会員として、事業(衣類バンク、食材支援等)の周知啓発に努めた。 ・障害者福祉分野での特定相談支援事業所等連絡会の事務局を務めた。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
社会福祉法人の連絡会議	目標値	調査・検討		検討・準備	1回	1回
	実績値	調査・検討		検討・準備		
進捗状況及び自己評価	・他市での社会福祉法人の連携について情報収集を行い、法人によって連携する分野を整理したほうが効果的な連携が図れることがわかった。 ・埼玉県社会福祉法人社会貢献活動推進委員会会員の活動は行ったが、会員である市内社会福祉法人との連携にまでは至らなかった。 ・特定相談支援事業所等連絡会の開催を通して、関係機関との連携を強めることができた。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	・市内の社会福祉法人の活動について情報収集を行うとともに、社会福祉法人の連絡会議の実施形態について検討していく必要がある。 ・埼玉県社会福祉法人社会貢献活動推進委員会会員の市内社会福祉法人との連携が図れていない。
今後の取り組み方針	連携に向けて、協議するテーマを絞ったり、テーマに関心のある社会福祉法人をピックアップして声掛けする等、段階を踏みながら準備を進めていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

社会福祉法人としての活動を地域に発信していく。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(4)権利擁護の推進				
	事業名	①成年後見制度の理解・普及				
	事業の概要	日々の暮らしに不安を抱える、認知症高齢者や障害のある人等が、住み慣れた地域で安心して生活を続けていく一助となる成年後見制度については、市民の関心が高まりつつあるものの、広く普及するまでには至っていません。そのため、制度の理解・普及を目指し、市民を対象とした講座を開催します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・市民向け講座「障害のある方に『親なきあと』にむけて知ってほしいこと」を開催し、において、成年後見制度についての周知・啓発を行った。(1) ・行政書士による成年後見制度等の無料相談会を実施した。(1) ・SNSで成年後見制度に関する情報発信を行った。 ・他市(新座市・志木市・戸田市)での成年後見制度への対応について、職員による視察を行った。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
成年後見制度の講座開催	目標値	1回	1回	1回	1回	1回
	実績値	2回	3回	2回		
進捗状況 及び 自己評価	SNSでの情報発信や市民を対象にした講座、無料相談会を開催することで、成年後見制度の周知・啓発を行うことができた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	成年後見制度の理解・普及のために、多くの関係機関・市民に制度を知ってもらう必要がある。
今後の取り組み方針	・成年後見制度についての知識が深められるよう、SNSや広報紙での情報発信や研修会を企画していく。 ・社協職員の意識の醸成を図るため、研修会等に参加し、幅広い知識を得られるよう努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

成年後見制度を知るため、市や社協が開催する講座に参加する。

4 推進委員会の意見(評価)

・認知症や知的障害のある人のために権利擁護は非常に大事だと思う。近年、非常に複雑なケースが増えており一個人では対応しきれないので、法人後見を進めていただきたい。

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	総務課 地域福祉推進課 高齢者・児童福祉課 あさか福祉作業所 はあぴあ福祉作業所	係 名	
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(4)権利擁護の推進				
	事業名	②虐待防止対策				
	事業の概要	社協が管理運営する施設に虐待防止のポスター等を掲示し、虐待防止の理解、啓発を図ります。また、施設利用者の様子を確認し、家族とコミュニケーションをとりながら状況確認を行い、必要に応じて関係機関に報告し、虐待の早期発見・抑制に努めます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の 取り組み内容	・虐待防止に係る掲示物を掲示し、市民への啓発を行った。(21) ・社協が主催する講座等で、該当しそうな案件があれば社協に相談してほしい等、虐待防止について周知を行った。(8) ・虐待防止に関する研修を受講した。(7) ・障害者施設において、虐待防止委員会を設置し、開催した。(2)										
指標名	年度	R3年度		R4年度		R5年度		R6年度		R7年度	
市民等への啓発及び 職員の研修	目標値	啓発 研修	21件 7件	啓発 研修	21件 9件	啓発 研修	21件 9件	啓発 研修	21件 9件	啓発 研修	21件 9件
	実績値	啓発 研修	30件 15件	啓発 研修	26件 9件	啓発 研修	29件 9件	啓発 研修		啓発 研修	
進捗状況 及び 自己評価	・虐待防止に関する研修を内部で開催したり、外部での研修に参加することで、社協職員の虐待防止についての理解が深まった。 ・地域住民等からの相談に対し関係機関を紹介したり、場合によっては関係機関に報告する等、虐待の早期発見・抑制につながるよう努めた。										
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない									

2 課題・今後の取り組み方針

課題	高齢者・障害者・児童等への虐待防止について、関係機関だけでなく地域全体が興味を持ち、理解をより深める必要がある。
今後の取り組み方針	・市民の目につきやすい場所にポスター掲示を行ったり、社協が主催する講座等で説明を行うなど周知・啓発に努める。 ・虐待防止への理解を深めるため、社協職員は積極的に研修に参加する。また、虐待の早期発見・抑制のため、関係機関との連携に努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

虐待が疑われる場面に遭遇したら、関係機関に通報・相談する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート						
第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(4)権利擁護の推進				
	事 業 名	③あんしんサポートねっと				
	事業の概要	住み慣れた地域の中で、高齢者や障害のある人が、安心してその人らしく生活できるよう、多様な地域資源を活用しながら専門員による相談援助や生活支援員による定期訪問等の援助を行います。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・判断能力の不十分な高齢者や知的・精神障害のある方が、安心して生活が送れるよう、福祉サービス利用援助事業(あんしんサポートねっと)の新規契約に向けた支援や、福祉サービスの利用援助、日常生活上の手続き援助、日常的金銭管理、書類等の預りサービスの援助を行った。 ・令和5年度契約者数:12人(内新規3人) ・令和4年度契約者のうち、2人契約終了(死去、成年後見制度への利用移行)					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
福祉サービス利用援助事業利用人数	目標値	11人	12人	13人	14人	15人
	実績値	12人	11人	12人		
進捗状況及び自己評価	生活支援員養成研修で登録していた方も含めて3名に生活支援員の委嘱を行った。あわせて、ケース会議等を通じて、行政・福祉・医療等の関係機関と積極的に連携を行うことで、利用者や利用希望者のニーズに応えるための体制整備を図ることができた。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	利用希望者からの問い合わせ(特に金銭管理の支援を希望する方)が増えている。移動手段や通帳預かりの面から、支援の調整が困難な場合がある。
今後の取り組み方針	・関係機関と連携を深めたり、SNSや広報紙での情報発信を行う等、新規の生活支援員の確保等の体制整備を図る。 ・SNSや広報紙での情報発信等、あんしんサポートねっと事業による支援が必要な方に情報が届くよう努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

身近に金銭管理や事務手続き等に不安のある人がいたら、あんしんサポートねっとを紹介する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート						
第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(5)生活困窮者等への支援の充実				
	事 業 名	①生活再建のための相談支援				
	事業の概要	近年、非正規雇用や新型コロナウイルス感染症等を背景に、生活再建に関する相談が増加しています。当座の生活資金の相談から生活の安定が図られるまでに、その他の複合的な課題を抱えている人も多いため、市との連携強化を図り、様々な社会資源やその他の生活再建に必要な他制度を活用して、相談者の課題解決に向けて支援します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・生活困窮に関する相談支援を行った。(280件) ・生活福祉資金特例貸付(令和4年9月30日受付終了)の借受人の償還猶予申請に伴い、埼玉県社会福祉協議会と連携して生活状況の聞き取りや面談を行った。 ・食材の確保が困難な相談者に対し食料支援を行った。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
生活困窮に関する相談件数	目標値	100件	100件	100件	100件	100件
	実績値	3182件	743件	280件		
進捗状況及び自己評価	・特例貸付で知名度が上がった社協の相談窓口に、特例貸付受付終了後も生活困窮に関する相談が増えた。生活困窮に関する相談があった際、現在の生活状況をよく聞き取り、課題解決に向けて相談者と一緒に考え、生活福祉資金の案内や適切な資源(生活保護、住居確保給付金、ハローワーク等)の情報提供を通して、生活再建に向けて支援することができた。 ・相談者の状況によっては自宅に訪問し、食材や日用品の無償提供を行い、急場をしのげる支援を行うことができた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	年々相談内容が複雑化しており、家計管理に問題のあるケースや慢性的な生活困窮だと思われるケース等が増えてきている。
今後の取り組み方針	相談者に適切な情報提供ができるよう、日々更新・変更される社会資源(生活保護、住居確保給付金、ハローワーク等)の情報を収集し、課題解決に向けて関係機関との連携強化を図る。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

身近に生活困窮者等の情報が寄せられた場合、市や社協等と協力して支援を行う。

4 推進委員会の意見(評価)

・目標値は例年増えているが、相談件数が増えることが良いのか、減っていくことが望ましいのか、朝霞市を良くするために根本的な改善を検討していただきたいと思う。

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(5)生活困窮者等への支援の充実				
	事 業 名	②子どもの貧困対策に関わる団体への支援				
	事業の概要	子どもの貧困に関する問題は、単に金銭的な援助で解決するものではなく、居場所づくりや様々な学びの支援も行う必要があり、市内では子ども食堂や学習支援団体等がその活動を行っています。社協ではボランティアの募集や助成金情報等を提供する他、市民へ団体の活動を周知するなどの支援を行っています。今後も、団体等の支援を行うとともに、地域の中で身近な人たちが子どもの貧困について学びを深め、関心を持つことで、温かい食事や学習をサポートしてくれる地域の助け合いをします。今後も活動につなげていくことができるよう、啓発活動等に取り組んでいきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・企業や個人から寄贈・寄付の相談を受け、市内の子ども食堂ネットワークやフードパントリーにつなげ、活用してもらった。(2件) ・子ども食堂、フードパントリー、学習支援団体にボランティア希望者のコーディネートを行った。(3件) ・子どもの貧困に関わる団体への支援として、本会X(旧ツイッター)、ホームページ、朝霞市総合福祉センター1階情報コーナーにて随時助成金等の情報発信を行った。(1件) ・ひとり親家庭等支援事業利用者に対して、子ども食堂、フードパントリー、学習支援団体の情報提供等を行った。(3件) ・各団体から助成金等の申請希望があった場合、申請支援を行った。(1件)					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
子ども対象団体への支援	目標値	5回	5回	10回	10回	10回
	実績値	4回	9回	10回		
進捗状況 及び 自己評価	寄付・寄贈やボランティアのコーディネート、助成金の情報提供、ボランティア募集の周知等、子どもの貧困に関わる団体への支援を通じて、団体と情報交換を行い、今後の協力体制について協議することができた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	子どもの貧困対策に関わる団体がどのような支援を必要としているのか、情報収集する必要がある。
今後の取り組み方針	・子どもの貧困対策に関わる団体との情報交換等に努める。 ・食材寄付や助成金の情報提供を行う等、団体の支援を継続して行う。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

子どもの貧困に対する活動団体を理解し、様々な形で応援する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	総務課 地域福祉推進課 高齢者・児童福祉課 あさか福祉作業所 はあとびあ福祉作業所	係 名	
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(6)地域住民の交流の促進				
	事業名	①地域住民の交流の機会の提供				
	事業の概要	福祉の関心を広げる仕掛けとしてのボランティア活動や地域デビュー講座、市内を5つの地区に分けての社協主催の地域懇談会などを積極的に開催してきたことで、幅広い世代の住民の参加・参画により住民同士の身近な交流の機会を作ってきました。このような地域づくりの中で、交流を深めながら温かく見守り、時にはおせっかいを受け入れるような、顔の見える地域づくりが大切です。これからも、このような地域を目指し、住民が主体となってより身近な地域で支え合う仕組みができるように、社協が実施する事業などを通じて、人材育成や地域づくりにつながるような交流できる機会を提供していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・切り絵体験教室(10)・ノルディック・ウォーク教室(28)・健康太極拳教室(36) ・合同健康相談会(溝沼老人福祉センター・地域包括支援センター・一般介護予防事業の共催) ・児童館乳幼児親子交流事業(6)・児童館夏祭り(6)・児童館クリスマス会(6)・児童館春祭り(5) ・HIZAORI春祭り(ひざおり児童館・周辺の町内会の共催)・朝霞市児童館in彩夏祭(6館合同) ・交流事業(溝沼老人福祉センター・みぞぬま児童館、浜崎老人福祉センター・はまさき児童館、はまさき児童館・浜崎老人福祉センター・はあとびあ福祉作業所、みぞぬま児童館・第2層協議体、ねぎしだい児童館・老人クラブ、はあとびあ福祉作業所・向陽園)(6) ・あいはいと事業協力会員ミーティング・サロン交流会・あんしんサポートねっと事業生活支援員交流会 ・ボランティア講座・朝霞市ふれあいスポーツ大会・はあとびあふれあい祭り・ふれあいマルシェ					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
地域住民の交流事業	目標値	75回	80回	85回	90回	100回
	実績値	64回	81回	113回		
進捗状況 及び 自己評価	社協が運営する施設等において、地域住民が主体となって支え合う仕組みができるよう、また、地域づくりにつながるような交流の機会を提供することで、幅広い世代の地域住民の交流や、地域住民の自主的な活動につなげることができた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	・多くの事業が企画され、地域住民の交流の機会が増えてきているため、地域住民が情報を得やすいように、より広く周知する必要がある。 ・地域福祉団体や自治会・町内会等、社協との顔の見える関係が途切れてしまわない関係づくりが必要である。
今後の取り組み方針	・SNSや広報紙等を活用し、また関係機関とのつながりを活かして、事業等の周知に努める。 ・地域福祉団体や自治会・町内会に訪問する等、顔の見える関係づくりに努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

地域交流の機会があれば参加する。

4 推進委員会の意見(評価)

・自治会、町内会に加入している人が年々減ってきており、地域のコミュニティが非常に薄れてきていると感じる。地域の人たちが参加して良かったと思える内容を検討していただきたい。 ・高齢者からだけでなく、子どもたちから教わるような多世代交流を検討できないか。

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(6)地域住民の交流の促進				
	事業名	②地域住民の交流の活性化				
	事業の概要	地域では住民主体による高齢者や子育て支援などの身近なサロン活動が増えており、そうした活動や、関係づくりを支援することで、地域福祉を支える活動の活性化を図りました。こうした住民主体の活動により、身近な地域で支え合う意識が向上し、安心した暮らしにつながります。このような地域での助け合い、支え合いの活動をより広めるため、地域づくりや人づくりにつながる新たな場の立ち上げや、既存の活動支援を行っています。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・サロン・会食団体の相談支援を行った。(電話・訪問含む)(156件) ・赤い羽根共同募金を財源として、団体の運営費や事業費を支援する「地域福祉活動助成金(地域福祉活動団体を除く)」を実施した。(運営費交付団体数:21団体、事業費申請団体:2団体、開設費助成金:1団体)(サロン・会食団体) ・地域歳末たすけあい募金を財源として、「歳末援護金交付事業(地域福祉活動団体を除く)」を実施し、新年を迎える時期に支援を必要としている人へ支援を行うため活動している住民主体団体へ活動支援を行った。(交付団体数:10団体)(サロン・会食団体) ・サロン交流会を開催した。(2回)					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
住民主体の活動への相談・支援	目標値	120件	120件	125件	125件	130件
	実績値	113件	138件	192件		
進捗状況 及び 自己評価	・助成金の交付等、団体の運営面を支援した他、サロン交流会において、地域の活動者同士が話し合う場を設け、意見交換、情報交換をすることで、同じ思いを持つ人同士の横のつながりを作ることができ、活動を続けるモチベーションにつながった。 ・新規サロンの立ち上げに関する相談を受け付け、開設費助成金を交付し、新規団体立ち上げの支援を行うことができた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	スタッフ・利用者の高齢化により、活動継続が課題となっているサロン・団体等への支援が必要である。
今後の取り組み方針	・団体への助成金等の支援を継続するとともに、団体との顔の見える関係作りに努め、必要な相談支援を行っていく。 ・各団体が情報共有できる場所(サロン交流会等)を設け、団体同士がつながりを持てるよう支援する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

自治会・町内会や地域の活動団体に加入し、地域活動に参加する。

4 推進委員会の意見(評価)

・社協にボランティアコーディネートをお願いしているが、仕事をしている人たちでボランティア登録をしている人の中には、活動日を早めに伝えてもらえれば休暇を取って活動できるという人もいる。

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(6)地域住民の交流の促進				
	事業名	③外国人への支援				
	事業の概要	外国人が地域で暮らす中で、言葉や制度、心の壁等、様々な課題があると言われていますが、その課題を解決するには、地域で暮らしている外国人住民への関りや、多文化を理解する必要があります。外国人が安心して暮らすことのできる地域づくりをすすめていくために、外国人を支援する団体等との連携を図るとともに、知る・学ぶ・交流する機会を設けていきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・障害のある外国人が就労している会社に訪問し、本人、会社担当者と面談して困りごと等の確認を行った。(18件) ・外国人からの相談(主に生活困窮、特例貸付の償還について)において、分かりやすい日本語や、多国語の資料、翻訳機等を活用しながら支援を行った。また、必要に応じて、関係機関へつなぐ等の支援を行った。(21件) ・放課後児童クラブにおいて、利用している児童の中には外国人児童もあり、安心して過ごせるよう相談等の支援を行った。(6件) ・ひとり親家庭等食材支援事業の周知において、チラシの英訳版を作成した。また、外国人支援団体に周知の依頼を行った。その際、外国人のいる世帯から申し込みがあり、食材支援を行った。(4件)					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
支援件数	目標値	40件	40件	45件	45件	50件
	実績値	162件	70件	49件		
進捗状況及び自己評価	・障害のある外国人への就労支援を行うことで、安定した就労につなげることができた。 ・特例貸付の受付が終了し、外国人からの相談件数は減ったが、コミュニケーション方法を工夫したり、関係機関と連携することで外国人の生活課題への支援ができた。 ・施設との連絡方法や書類の書き方を説明する等の支援を行った結果、安心して施設を利用してもらうことにつながった。 ・食材支援を通じて、外国人支援団体と連携するきっかけとなった。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	外国人の中には、日本語の理解に乏しい方もいたり、国籍・文化によって価値観が違い、困りごとでも多様化しているため、就労を継続していくのが困難であったり、施設利用がスムーズにいかなかったりする方がいる。研修や支援の事例を通して、外国人支援の現状を知り、多様な支援について検討する必要がある。
今後の取り組み方針	・引き続き、コミュニケーション方法等を工夫しながら、就労への支援や生活困窮についての相談支援を行う。 ・多方面からの支援が行えるよう、関係機関・団体との連携を深める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

身近に困りごとを抱えている外国人がいる場合は、社協を紹介する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	総務課 地域福祉推進課 高齢者・児童福祉課 あさか福祉作業所 はあどびあ福祉作業所	係 名	
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(7)地域福祉に関する理解と参加の促進				
	事業名	①ボランティア・実習生の受け入れ				
	事業の概要	誰もが暮らしやすい地域づくりには、世代を問わず福祉への関心と参加が必要なことから、地域福祉の担い手の育成及び活動支援のため、ボランティアや実習生の受け入れを行います。また、児童館等においては、子どもボランティア事業を実施し、福祉やボランティアに関わるきっかけ作りに取り組んでいきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・社協が運営する施設で、ボランティアの受け入れを行った。(老人福祉センター1件、児童館44件、放課後児童クラブ251件、障害者支援施設13件、彩の国ボランティア体験プログラム20件、地域福祉推進係1件、福祉教育サポーター44件、合計374件) ・社協の運営する施設で、実習生の受け入れを行った。(社会福祉士実習3件、保育実習14件、介護等体験3件、手話通訳実習1件、合計21件) ・中学生(職業体験)、高校生(授業プログラム)、大学生(施設体験)の受け入れを行った。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
ボランティア・実習生受け入れ人数	目標値	ボランティア 300件 実習生 20件	ボランティア 300件 実習生 20件	ボランティア 330件 実習生 25件	ボランティア 330件 実習生 25件	ボランティア 330件 実習生 25件
	実績値	ボランティア 316件 実習生 20件	ボランティア 335件 実習生 25件	ボランティア 374件 実習生 21件	ボランティア 実習生	ボランティア 実習生
進捗状況及び自己評価	・社会福祉士実習の受け入れでは、各部署の実習指導者間で実習方法の検討や振り返りを行い、実習生の地域福祉への理解と関心を深めることができた。 ・彩の国ボランティア体験プログラムの参加者の中から、ボランティア活動につながった人がおり、活動のきっかけ作りを提供することができた。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	ボランティアの受け付けについて、社協全体で福祉の担い手を育てるという意識を持って、参加の企画や募集の広報等、より参加しやすい体制整備を行う必要がある。
今後の取り組み方針	ボランティアの受入れについて、彩の国ボランティア体験プログラムを利用する等、活動のきっかけ作りに努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

福祉施設、ボランティア団体等のボランティア活動に参加する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	総務課 地域福祉推進課 高齢者・児童福祉課 あさか福祉作業所 はあとびお福祉作業所	係 名	
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(7)地域福祉に関する理解と参加の促進				
	事業名	②出前講座の実施				
	事業の概要	社協では出前講座の実施とともに、新たな講座の検討やメニューの見直しを図ってきました。今後は、さらに地域の様々な団体、企業等に対し、身近な地域でいつでも福祉の活動を「知る」「体験する」ことができるような講座の実施、メニューの充実積極的な情報発信を行っていきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・身近な福祉情報を交えた講座を社協職員等が講師となり、出前講座として実施した。 (「車いす体験教室」「福祉の仕事について」「障害の理解について」「地域における発達障害者支援について」「高齢者の栄養について」「気功講座」「切り絵講座」「輪投げ体験」「施設見学」等) ・企業等への会員会費募集や卓上募金のお礼状送付の際に「企業×福祉」チラシ(出前講座情報含む)を同封し、出前講座のPRを実施した。(1) ・別の相談で来所していた企業へ出前講座のチラシを配布し、直接説明を行った。(1) ・市生涯学習ガイドブックに、出前講座のメニューの一部を掲載した。(1) ・出前講座実施の際に、他団体から企画に困っている等聞いていることがあれば、社協の出前講座を紹介してほしいことを伝えた。(1)					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
団体・企業等への働きかけ	目標値	3件	3件	3件	6件	6件
	実績値	6件	5件	4件		
進捗状況 及び 自己評価	朝霞社協まるわかり帳やホームページ等に、出前講座の情報を掲載し周知した他、サロン交流会においては、今まで実施した内容を紹介したことで、実施に向けた相談につながった。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	申請する団体が固定化してきており、地域の様々な団体・企業への働きかけが必要である。
今後の取り組み方針	地域での行事やイベント、地域福祉団体の定例会等でのチラシや冊子の配布に加え、SNS等も使用して、社協の取り組みとともに出前講座の周知啓発に努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

協働事項	社協の出前講座に参加し、得た知識や経験を地域に伝えていく。

4 推進委員会の意見(評価)

推進委員会の意見(評価)	

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(7)地域福祉に関する理解と参加の促進				
	事業名	③ボランティア講座の開催				
	事業の概要	講座内容の充実を図るため、地域に出向きサロン活動者やボランティア等から、現在のボランティアニーズの聞き取りを行っています。引き続き、ボランティアニュースや社協ホームページ、ツイッター等のSNSを用いて講座情報を広く発信していきます。また、地域福祉の担い手となる人材の育成を目的とした講座等、参加する側が選択できる様々な目的別の講座を開催し、受講後も地域福祉を進める担い手となるよう継続的に参加者の支援を行っていきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・あいはいと事業新規協会員向け講習会(6) ・彩の国ボランティア体験プログラム説明会(2) ・ボランティア講座～ふくしをみんなde学び隊～(1)					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
ボランティア講座の開催回数	目標値	7回	8回	8回	9回	10回
	実績値	17回	7回	9回		
進捗状況及び自己評価	・あいはいと事業新規協会員向け説明会を会場とオンラインで開催した。また、講習会の日程に都合がつかない方に対しては、個別に説明を行ったことで、地域で活動する新たな協力者を増やすことができた。 ・彩の国ボランティア体験プログラムの説明会では事業の説明だけでなく、ボランティア活動とは何かについて説明し、理解してもらったうえで活動に参加してもらうことができた。 ・ボランティア講座では、学びの機会の提供、またボランティア活動のきっかけづくりとなるような講座として実施した。昨年度とは異なる地域で開催することにより、周辺の地域の担い手の育成につながった。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	多くの地域住民に講座に参加してもらえるよう、会場の検討や講座内容の充実を図る必要がある。
今後の取り組み方針	令和5年度とは異なる地域で、ボランティア活動を始めるきっかけとなるような講座を開催し、地域の担い手の育成に努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

講座に参加して得た知識や経験を活かし、地域で活動をする。

4 推進委員会の意見(評価)

・必要な人に情報が行き届くように、これからもPRを行ってほしい。 ・潜在的に意欲を持っている人を含め、講座や講演会に参加し学んだことを実践してもらえるような、参加者の目線に立った環境整備が今後必要だと思う。 ・働いている世代をターゲットにしているのであれば、参加し易い曜日設定や興味を持つ企画をお願いしたい。 ・企業によってはボランティア休暇制度があるので、早めに情報をいただければ、参加しやすいと思う。また、そのような世代をターゲットにしているのであれば、参加し易い曜日設定を考えた企画をお願いしたい。

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	総務課	係 名	
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(7)地域福祉に関する理解と参加の促進				
	事業名	④手話体験・要約筆記体験の実施				
	事業の概要	聴覚障害者に対する理解を深め、手話や要約筆記の普及を図ることを目的に、初歩的な手話や要約筆記を学ぶ場としての体験会を実施します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・手話体験の実施(1) ・パソコン要約筆記体験の実施(1)					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
手話体験・要約筆記体験会開催回数	目標値	2回	2回	3回	3回	3回
	実績値	2回	2回	2回		
進捗状況及び自己評価	・手話体験では、小学生以上の年齢層を募集することで、幅広い世代への手話の普及につながった。 ・要約筆記体験では、参加者募集を行ったものの申し込みがなかったため、実施までには至らなかった。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	・地域住民に興味・関心をもってもらえるような企画・立案を行う必要がある。 ・体験の参加者が増えるよう、体験の広報に努める必要がある。
今後の取り組み方針	地域住民が参加しやすい事業になるよう、実施回数を検討する等、継続的に事業を実施する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

事業に参加し、手話や要約筆記への理解を深める。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	総務課 地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(7)地域福祉に関する理解と参加の促進				
	事業名	⑤地域福祉財源の確保				
	事業の概要	共同募金、寄付、社協会費等が有効に地域の福祉活動に活用されるよう、地域住民、企業、社会福祉法人等の参加度を高め、また、その資金に協力する人、助成を受けて活動する人、誰もが地域福祉の支え手として参画できるよう、分かりやすい周知の在り方を検討し、透明性の高い運動を展開します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・募金実績額：赤い羽根共同募金(6,260,532円)、地域歳末助け合い募金(4,078,464円) ・自治会・町内会を通して市民に対して募金への協力依頼を行った。 ・ほんちよう児童館と連携し、学生ボランティア11名と街頭募金を行った。 ・一般介護予防事業参加者、老人クラブ連合会等に、プリペイドカード等の募金協力を依頼した。 ・広報紙「社協あさか」に募金の使い道を掲載したり、市の広報紙・SNS・メール配信等にて募金運動の実施について周知した。 ・広報紙にて「るくるん募金箱」の設置先の紹介を行った。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
共同募金(赤い羽根・歳末)の募金実績額	目標値	11,000,000円	11,000,000円	11,000,000円	11,000,000円	11,000,000円
	実績値	10,742,898円	10,824,414円	10,338,996円		
進捗状況及び自己評価	・共同募金について、社協の広報紙やSNSだけでなく、市の広報紙やSNSを活用することで、幅広い世代の地域住民に周知啓発することができた。 ・児童館の学生ボランティアに、共同募金について説明したことで、より理解を深めてもらい、思いやりの心を育む活動につながった。 ・共同募金・寄付(るくるん募金箱)等について周知啓発を行うことで、社協をPRすることにもつながった。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	多くの地域住民に寄付金や募金活動について知ってもらい、協力してもらえるよう周知啓発を図る必要がある。
今後の取り組み方針	多くの地域住民に寄付金や募金活動について知ってもらえるよう、広報紙やSNSを通じて周知・啓発を行う。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

社協の募金活動は身近な地域の福祉に役立つことを知り、活動に参加する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(7)地域福祉に関する理解と参加の促進				
	事業名	⑥住民参加型在宅福祉サービス「あいはあと事業」				
	事業の概要	これまで住民参加型在宅福祉サービスとして、「ふれあいサービス事業」と「ホームクリーニング事業」を実施してきましたが、この2つを統合し、新たに「あいはあと事業」を開始します。この事業は地域の支え合いの仕組みをつくることを目的としており、日常生活の中で「ちょっと人の手を借りたい」、「空いているときに人のお手伝いをしたい」、そんな想いをつなげる地域の支え合い活動を展開していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・あいはあと事業のパンフレットを配布した。(利用会員、新規協力会員向け講習会受講者、民生委員、ボランティア活動団体、市役所職員、ボランティア講座受講者、サロン会食団体、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所等) ・広報紙「社協あさか」やSNS等で、あいはあと事業の概要記事を掲載し、周知啓発を行った。 ・身近に困っている人がいる場合は、あいはあと事業のパンフレットや紹介をしてほしいことを、職員より利用会員、協力会員に伝え、情報発信を依頼した。 ・住民の紹介による利用件数(121件うち12件) ・あいはあと事業利用者(高齢者)宅訪問時は、担当ケアマネージャーに同行依頼し、関係機関との顔の見える関係づくりを行った。 ・協力会員ミーティングにて活動紹介を行い、地域の支え合い活動であることを共有し、協力会員の活動意欲の維持・向上を図った。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
住民の紹介による利用件数	目標値	10件	10件	10件	15件	15件
	実績値	14件	17件	12件		
進捗状況及び自己評価	利用会員・協力会員による紹介で利用につながるケースが毎年度あり、広報紙等の広報媒体からの情報だけでなく、人と人とのつながりの中から支援につながっていく地域の支え合い活動を展開することができた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	地域の支え合い活動であるあいはあと事業の周知・啓発のため、広報紙・SNSだけでなく、地域住民が気軽に情報を手に入れられる場所・手段について検討が必要である。
今後の取り組み方針	・地域住民への情報発信者となってもらえるよう利用会員・協力会員に事業の地域の支え合い活動という趣旨説明を伝えていく。 ・引き続き、広報紙やSNSにて事業の周知を行いながら、新しい手法も検討していく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

社協で得た情報、知識を地域に伝えていく。

4 推進委員会の意見(評価)

・良い取り組みなので、必要な人に情報が行き届くように、これからもPRを行ってほしい。

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート						
第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(8)支え合い・助け合いの気持ちの醸成				
	事 業 名	①教職員対象の研修会の実施				
	事業の概要	福祉教育の推進には、教職員や福祉教育に携わる人の理解と連携が必要不可欠です。そのために、小・中・高等学校の教職員や地域の福祉教育に携わる人を対象に、具体的な事例や福祉体験等を取り入れ、より充実した研修会を継続的に実施していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・朝霞市、和光市、志木市、新座市社協のボランティアセンター共催で「朝霞地区四市福祉教育研修会」を開催した。四市の担当職員が打ち合わせを重ね、内容や実施方法の検討を行い、実施した。 - 参加者：四市合計：45人(朝霞市：8人) ・市内小・中・高等学校に案内と福祉教育のメニューを送付し、小・中学校の校長会・教頭会議に出席し、口頭でも周知を行った。 ・次年度に向けて、教職員の参加が増え福祉教育の充実が図れるよう、教育委員会と打合せを行った。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
教職員向けの研修会の開催	目標値	1回	1回	1回	1回	1回
	実績値	1回	2回	1回		
進捗状況及び自己評価	・教職員や福祉教育に携わる人の理解と連携を目的に、障害のある方の講演や教職員からの事例発表、大学講師による講演等を盛り込んだ「四市福祉教育研修会」を開催することで、福祉教育への理解を深めることができた。 ・他市に比べ朝霞市の教職員の出席が少なかった。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	教育現場での福祉教育の実践にあたっては、指導する教職員の理解が不可欠であり、より多くの研修参加者を募る必要がある。
今後の取り組み方針	四市福祉教育研修会においては、福祉教育の推進に携わる小・中・高等学校の教職員の参加者が増えるよう、教育委員会との連携を深めるとともに、周知啓発に努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

研修会で得た知識・経験を子どもたちに伝えていく。

4 推進委員会の意見(評価)

・学校の取り組みや行事に、地域の人たちが関わっていることを伝えていくことが必要だと感じる。

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(8)支え合い・助け合いの気持ちの醸成				
	事業名	②他機関と連携した福祉教育の実施				
	事業の概要	毎年、小・中学校の総合的な学習の時間において、当事者の講演や体験等によるさまざまな福祉教育を実施してきました。今後は、社協で実施してきた福祉教育を、市内の施設等の協力を得ながら、子どもから大人までを対象とした、支え合い・助け合いの気持ちを醸成する福祉教育として実施していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・小中学校での福祉教育の実践では、各小中学校へ福祉教育メニュー等を送付した他、教育委員会と連携し、校長会・教頭会に出席し、周知啓発を行った。 ・小中学校での福祉教育の実践では、社協職員だけではなく、障害のある方や福祉教育サポーター(ボランティア)の協力を得て、実施した。 ・出前講座として、地域福祉活動団体主催のイベントで福祉体験(視覚障害と指先の不自由さの体験)を実施した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
福祉教育の実施	目標値	50回	50回	55回	55回	60回
	実績値	64回	96回	100回		
進捗状況 及び 自己評価	通年で学校から依頼があり、障害のある方や福祉教育サポーターの協力を得て実施することで、支え合い・助け合いの気持ちを醸成する福祉教育を深めることができた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	・小学校での福祉教育の実施が中心であり、中学校や高校、地域住民等からの依頼が少ない。 ・福祉教育の実践に協力してくれる福祉教育サポーター(ボランティア)を増やす必要がある。
今後の取り組み方針	・福祉教育(出前講座での実践等含む)について、紙媒体やSNS等で情報を発信し、周知を図る。 ・福祉教育サポーター(ボランティア)を増やすために、社協主催の講座等で周知啓発を行う。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

福祉教育の体験学習等に参加して、支え合い・助け合いの気持ちを育む。

4 推進委員会の意見(評価)

・福祉教育に関心を持っている高齢者がいると思うので、ボランティアで係ることができると思う。 ・障害者が講師を務め、実生活を理解してもらえる機会を増やしていくことを検討してほしい。

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	総務課 地域福祉推進課 高齢者・児童福祉課	係 名	
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(9)地域での見守りの充実				
	事業名	①住民参加による見守り事業の推進				
	事業の概要	住み慣れた地域で安心して暮らしていくためには、日頃から顔が見える、声をかけあえる関係が必要です。そのために、地域住民が主体となって見守り活動ができるよう、ボランティアや事業協力者、講座参加者に働きかけを行い、子どもたちの登下校時等における地域の見守りの目の強化について啓発していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・あいはいと事業新規協力会員向け講習会・協力会員フォローアップ研修会にて、互助の助け合いや地域の見守りの重要性、日頃から気づいてほしい点を紹介した。(8) ・あんしんサポートねっと事業の生活支援員交流会において、地域の見守り活動について周知啓発を行った。(1) ・生活福祉資金貸付事業で関わった民生委員に見守り活動の周知啓発を行った(4) ・総合福祉センターの1階談話コーナー等で、地域住民の見守り活動の推進に係る資料の掲示を行った。(1) ・地域包括支援センター主催の徘徊高齢者声掛け訓練に協力し、参加者に声掛けについてのアドバイスや重要性について情報共有することができた。(1)					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
見守り活動の啓発	目標値	10回	10回	15回	15回	20回
	実績値	4回	10回	15回		
進捗状況 及び 自己評価	あいはいと事業新規協力会員向け講習会・協力会員フォローアップ研修会、あんしんサポートねっと事業の生活支援員交流会等にて、社協事業の協力者を中心に、見守り活動についての周知啓発を図ることができた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	社協事業の利用者への見守りの強化について周知啓発できたが、地域の見守りの目の強化にまでは至っていない。
今後の取り組み方針	社協とつながりのあるボランティアや協力員を中心に、見守り活動の周知啓発を行い、地域住民による地域の見守りの目を増やしていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

高齢者や障害のある人、子どもなどへの見守りや声掛けを行う。

4 推進委員会の意見(評価)

・高齢化社会で、どの町内会も高齢者が増えているので、独居の人の見守りもその地域で考えていく必要があると思う。

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	総務課 地域福祉推進課 高齢者・児童福祉課 あさか福祉作業所 はあど福祉作業所	係 名	
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(10)情報共有・発信の充実				
	事業名	①分かりやすい福祉情報の提供				
	事業の概要	広報紙「社協あさか」、ホームページ等を用いて多くの福祉情報を提供していますが、今後は、誰もが必要な時に、必要な情報を得ることができるよう、従来の広報手段に加え、YouTube、ホームページ及びSNS等を活用し、分かりやすい地域の福祉情報の提供に努めます。また、各種イベント等の顔の見える環境において、社協のサービスや福祉情報の周知を行っていきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・朝霞社協全体で、ホームページ、X(旧ツイッター)(1,709回)、フェイスブック(1,578回)、YouTube(150回)を使用した情報発信を行った。 ・社協内で、SNSの発信回数の目標を定め、各部署にて情報発信を行った。 ・広報紙「社協あさか」(4月号、7月号、10月号、1月号)、ボランティアニュース(7月号、2月号、3月号)、手話ニュース(春・夏・秋・冬)を発行した。また、広報あさかに記事掲載を依頼した。(18)					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
福祉の情報提供	目標値	SNS 200回 紙媒体 20回	SNS 210回 紙媒体 20回	SNS 230回 紙媒体 23回	SNS 240回 紙媒体 23回	SNS 250回 紙媒体 25回
	実績値	SNS 140回 紙媒体 18回	SNS 242回 紙媒体 21回	SNS 286回 紙媒体 18回	SNS 紙媒体	SNS 紙媒体
進捗状況及び自己評価	・社協ホームページ・X(旧ツイッター)・フェイスブック・ユーチューブや広報紙等、SNS、紙媒体の両方を活用することで、多くの福祉情報を提供することができた。 ・SNSについて、毎月の発信回数の目標を決めたことで、意識的に情報発信を行い、回数の増加につながった。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	・情報媒体ごとの利点を理解し、わかりやすい単語や写真を使う等、より効果的な情報提供を行う必要がある。 ・地域住民と顔の見える環境での福祉情報の提供をより図っていく必要がある。
今後の取り組み方針	・引き続き、多様な情報媒体を使って、福祉の情報提供を行う。 ・社協主催の講座や地域の活動団体等の活動場所や主催イベント等で、広報紙等を配布し、広く情報を提供する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

「社協あさか」を読み、福祉サービスの情報を得る。

4 推進委員会の意見(評価)

・困りごとに関する相談先の情報について、地域住民に情報が届くように周知方法を考えていただきたい。 ・高齢者が情報を受け取る機会が少なく、若い人たちはいろいろな方法で情報を得ていると感じた。 ・対象者の目線に立った広報の方法も考えていく必要がある。 ・社協独自の地域密着を活かして、市民が興味を持つ情報発信をしていけるようお願いしたい。

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	総務課	係 名	
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(10)情報共有・発信の充実				
	事業名	②メディア戦略の強化				
	事業の概要	複雑化・多様化する情報社会に対応するため、広報紙「社協あさか」等の既存の媒体に加え、SNSや新しいツールを弾力的に活用して、正確で鮮度の良い社協の情報や地域の情報の提供を目指し、メディア戦略の強化を図っていきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・市民活動ステーションのメールマガジンに、ボランティアセンターの情報を掲載してもらった。 ・外部の子育てサイトに、児童館の情報を掲載してもらった。 ・コミュニティFMラジオ(775ライブラリーFM)に、社協の講座の情報を提供し、宣伝してもらった。 ・募金活動の説明の動画を作成し、ユーチューブにて限定公開した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
広報紙等の設置先の拡大	目標値	2件	2件	2件	2件	2件
	実績値	5件	0件	1件		
進捗状況 及び 自己評価	・広報紙の設置先の拡大には至らなかったが、行政(市民活動ステーション)・企業・外部の子育てサイトと連携し、SNS等にて情報提供してもらうことで、より広く福祉の情報を提供することができた。 ・募金説明会に出席できない自治会・町内会に向けて、募金活動の説明の動画を作成し、ユーチューブにて限定公開し、情報の提供に努めたが、多くの視聴には至らなかった。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	社協が持っている情報手段だけではなく、関係機関と連携し、幅広く情報提供できる体制づくりが必要である。
今後の取り組み方針	引き続き、関係機関等に、広報紙の設置先の拡大や情報提供の協力について、連携を図っていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

福祉サービスの情報を得るための「社協あさか」の設置場所を紹介する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(11)地域福祉を支える団体の活性化・人材の育成				
	事業名	①福祉活動団体に対する活動支援				
	事業の概要	身近な地域での見守り・支え合いの基盤となる自治会・町内会や福祉活動団体等に対して継続的な活動ができるよう助成等の支援を行います。また、団体と連携・情報共有し、地域福祉に参画する住民の増加や地域の活性化を図ります。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・福祉活動団体相談連絡件数(電話・訪問含む):延べ214件 ・社協支部活動費助成金及び広報折込料助成金を交付し、自治会・町内会への活動支援を行った。(社協支部活動費及び広報折込料:68件) ・赤い羽根共同募金等を財源とした地域福祉活動助成金(サロン・会食団体を除く)を交付し、地域福祉活動団体への活動支援を行った。(運営費:19件、事業費:7件) ・地域歳末たすけあい募金を財源とした歳末援護金(サロン・会食団体を除く)を交付し、新年を迎える時期に支援を必要としている人へ支援を行うため活動している地域福祉活動団体へ活動支援を行った。(11件) ・社協の地区活動において、住民主体の活動(「どんぐりの会」「わくわくフェスタin朝霞」「朝霞の森秋まつり」)への活動支援やブースの出展協力等を行った。(13件)					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
自治会・町内会・福祉活動団体等への相談・支援	目標値	210件	210件	210件	220件	220件
	実績値	259件	317件	332件		
進捗状況及び自己評価	自治会・町内会、福祉活動団体に助成金を交付したり、相談支援を行った。あわせて、社協が設定した6つの福祉圏域に担当職員を地区割し、各地区ごとに、住民主体の活動の支援を行ったことで、地域の福祉活動の活性化を図ることができた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	より多くの自治会・町内会や地域福祉団体等と顔の見える関係づくりを行う必要がある。
今後の取り組み方針	・福祉活動団体等に対して、助成金交付及び情報提供を継続的に行う。 ・福祉活動団体等の活動の場に訪問し、顔の見える関係づくりができるよう努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

身近な地域活動に参加する。

4 推進委員会の意見(評価)

・自治会、町内会に加入している人が年々減ってきており、地域のコミュニティが非常に薄れてきていると感じる。

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	総務課	係 名	
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(11)地域福祉を支える団体の活性化・人材の育成				
	事 業 名	②手話講習会の実施				
	事業の概要	市からの受託事業の取組として、登録手話通訳者を育成するため、段階的に手話講習会を実施します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	手話講習会(昼間:中級・養成、夜間:養成)を実施した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
登録手話通訳者数	目標値	10人	10人	11人	12人	13人
	実績値	11人	10人	9人		
進捗状況 及び 自己評価	熟練度にばらつきはあるが、講習会受講に対する受講生の意識は高く、将来的な手話通訳者の増加に向けて、人材育成を行うことができた。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	毎年度、通訳者養成講習会を開催できないため、講習会受講生からの受講申し込みを見込めない年度が発生する。
今後の取り組み方針	通訳者養成講習会の受講に向けて、受講生の知識・技術の向上とともに、モチベーションが維持できるよう、人材育成に努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

担い手になりそうな人に声をかけて、人材を育成していく。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	高齢者・児童福祉課	係 名	
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(11)地域福祉を支える団体の活性化・人材の育成				
	事業名	③老人クラブに対する活動支援				
	事業の概要	高齢者が地域で楽しく豊かに充実した生活を送るための地域コミュニティの一つである老人クラブについて、市民の認知度を上げるとともにスポーツ及び芸能文化活動等の支援を行います。また、長年の知恵と経験のある会員の技能を活用した支え合い活動がより効果的に展開されるよう支援していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・老人クラブ連合会の年間事業の検討や予算編成などの会議に参加し、協議を行った。(29) ・老人クラブの定例会に、社協職員が出向き介護予防体操(365歩のマーチ)や防犯講習会を行う等の支援を行った。(58)					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
相談支援件数	目標値	43件	43件	53件	53件	64件
	実績値	33件	44件	87件		
進捗状況 及び 自己評価	・老人クラブ連合会への支援を行うことで、コロナ禍以前のような老人クラブ主催の年間行事の実施につながった。 ・定例会を実施しているクラブについては、社協職員が介護予防体操を行ったり、社協について説明する機会を設ける等、高齢者が地域で楽しく豊かな生活が送れるよう支援することができた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	年間事業の参加者を増やすためにどのような企画・運営をしたらよいかを老人クラブ連合会と協議する必要がある。
今後の取り組み方針	・年間事業の実施について、老人クラブ連合会と協議し、クラブ会員への周知に努める。 ・高齢者が地域で楽しく豊かな生活が送れるように、介護予防体操を実施する等の支援に努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

地域の老人クラブ活動に参加する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(11)地域福祉を支える団体の活性化・人材の育成				
	事業名	④ボランティア講座の開催(再掲)				
	事業の概要	地域のボランティアニーズを把握し、ボランティアニュースや社協ホームページ・ツイッター等のSNSを用いて広く発信します。また、地域福祉の担い手となる人材育成を目的とした講座等、参加する側が選択できる様々な目的別の講座を開催し、講座後も継続的に参加者の支援を行います。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・あいとはと事業新規協力会員向け講習会(6) ・彩の国ボランティア体験プログラム説明会(2) ・ボランティア講座～ふくしをみんなde学び隊～(1)					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
ボランティア講座の開催回数	目標値	7回	8回	8回	9回	10回
	実績値	17回	7回	9回		
進捗状況及び自己評価	・あいとはと事業新規協力会員向け説明会を会場とオンラインで開催した。また、講習会の日程に都合がつかない方に対しては、個別に説明を行ったことで、地域で活動する新たな協力者を増やすことができた。 ・彩の国ボランティア体験プログラムの説明会では事業の説明だけでなく、ボランティア活動とは何かについて説明し、理解してもらったうえで活動に参加してもらうことができた。 ・ボランティア講座では、学びの機会の提供、またボランティア活動のきっかけづくりとなるような講座として実施した。昨年度とは異なる地域で開催することにより、周辺の地域の担い手の育成につながった。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	多くの地域住民に講座に参加してもらえよう、会場の検討や講座内容の充実を図る必要がある。
今後の取り組み方針	令和5年度とは異なる地域で、ボランティア活動を始めるきっかけとなるような講座を開催し、地域の担い手の育成に努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

講座に参加して得た知識や経験を活かし、地域で活動をする。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(11)地域福祉を支える団体の活性化・人材の育成				
	事業名	⑤地域活動団体間の交流事業				
	事業の概要	朝霞市ボランティアセンターでは、地域福祉を支える団体の活性化を図るため、個々の団体への支援だけでなく、市が設置する市民活動支援ステーションと共催で、地域活動団体の交流事業を実施していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・市民活動支援ステーション主催の地域デビュー支援セミナーにおいて、協働によりボランティアセンターのブースを設けた。(1) ・地域福祉活動団体間の交流事業としてサロン交流会を実施した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
地域活動団体交流事業	目標値	1回	1回	2回	2回	2回
	実績値	6回	1回	2回		
進捗状況 及び 自己評価	・市民活動支援ステーションと協議を行い、市民活動支援ステーション主催のイベントに参加したり、ボランティア保険受付出張窓口の場所を借用する等、連携を深めることができた。 ・市民活動支援ステーションとの共催ではないが、地域福祉活動団体の交流事業としてサロン交流会を実施することで、地域福祉を支える団体の活性化を図ることができた。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	市民活動支援ステーションとの連携はとれているが、共催で交流事業を実施するまでには至っていない。
今後の取り組み方針	市民活動支援ステーションとの連携を強化しつつ、地域福祉活動団体の交流会の実施等、団体の活性化を図ることに努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

地域活動の活性化のために、ボランティアに参加する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(12)施設等の整備・充実				
	事業名	①地域の人が集える拠点(場)づくり				
	事業の概要	住民主体の地域活動を活性化していくには、地域の情報共有や取組について、地域住民が気軽に集まれて話し合える拠点(場)が必要とされています。そのために、拠点(場)となる場所について、空き家や営業店舗の一部分等の情報収集を行い、地域住民が気軽に利用しやすい場作りについて活用可能か検討していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・生活支援コーディネーター会議にて、地域住民が集える場所等の情報共有を行った。(1) ・ふれあいいきいきサロンの活動場所のコーディネートを行った。(1) ・市内高齢者施設を見学し、施設の一部スペースの有効活用について意見交換を行った。(1)					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
拠点の調査・開拓	目標値	3件	3件	3件	6件	6件
	実績値	4件	2件	3件		
進捗状況及び自己評価	・生活支援コーディネーター会議での情報共有によって、より多くの地域資源の情報を得ることができた。 ・市内高齢者施設の一部スペースの有効活用について意見交換を行うことで、協力関係を築くきっかけとなった。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	拠点として活用できる場の情報収集が必要である。
今後の取り組み方針	関係機関と情報共有を行いながら、拠点として活用できる場の情報収集および開拓に努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

地域の人が集える場について情報提供する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	総務課 高齢者・児童福祉課 あさか福祉作業所 はあとびあ福祉作業所	係 名	
	基本目標	3 安心で暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(12)施設等の整備・充実				
	事業名	②施設の点検・修繕				
	事業の概要	社協が管理運営する施設において利用者が安心・安全に施設利用ができるよう、日頃から施設内外の点検を継続的かつ定期的に行っていきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・利用者が安心・安全に施設利用できるよう、社協が管理運営する全施設において、建物及び設備の定期的な点検・保守を実施した。 ・必要に応じて施設及び設備の修繕を行った。 ・事故、破損につながらないように、備品等の設置場所の環境整備を必要に応じて実施した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
点検施設数	目標値	21か所	21か所	21か所	21か所	21か所
	実績値	21か所	21か所	21か所		
進捗状況及び自己評価	・施設及び設備の定期的な点検(業者による法定点検や職員による施設及び公用車等の点検等)を実施し、安全な施設運営に努めた。 ・修繕が必要となった箇所については、行政と協議しながら、利用者の安全を優先順位として修繕等を行った。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	・施設・設備の老朽化により、修繕箇所が増え、それに伴い費用も増加する施設が出ている。 ・指定管理事業の範囲では実施できない高額な修繕も発生しているため、市担当課との情報共有・連携が必要である。
今後の取り組み方針	・点検・保守・修繕を実施して、利用者が安心・安全に利用できる施設運営に努める。 ・職員の施設等の安全管理に関する意識の向上に努める。 ・施設内設備の老朽化が懸念される施設においては、稼働状況に注意しながら管理を行う。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

施設のルールを守り、有効に活用する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(13)防災対策の充実				
	事業名	①災害ボランティア講座の実施				
	事業の概要	災害は全て想定内で起こるとは限りません。想定外のことも踏まえ普段から地域のつながりや防災意識を高めるため、これまでも災害ボランティア講座を開催してきました。今後さらに地域住民同士が支え合う意識の醸成を図るため、地域住民や社協職員を対象とした講座を開催します。また、災害ボランティアとして活動できる人材を増やしています。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・被災地における災害ボランティアセンターの運営支援について、被災地に派遣された職員を講師として、社協担当課にて、報告会を行った。(1) ・埼玉県社協主催の災害対応力強化研修(マネジメント編)に職員が出席した。 ・社協職員で能登半島地震災害義援金の街頭募金を行った。 ・朝霞市総合防災訓練において防災の工作教室を開催した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
災害ボランティア講座	目標値	1回	1回	1回	1回	1回
	実績値	0回	1回	1回		
進捗状況及び自己評価	・災害ボランティアセンターに関する報告会を社協内で開催したり、埼玉県社協等が主催した研修に出席することで、職員の災害ボランティアに関する知識が深まった。 ・社協職員による街頭募金の実施や朝霞市総合防災訓練に参加することにより、地域住民・行政とのつながりを深め、地域の防災意識を高めるきっかけづくりができた。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	防災や災害ボランティアについて、地域住民に、より理解を深めてもらうことができるような仕掛けづくりが必要である。
今後の取り組み方針	地域住民を対象に、災害時の対応について、意識の醸成を図ることができるような講座を企画する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

災害ボランティア講座で得た知識を家族や周りの地域住民に伝える。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(13)防災対策の充実				
	事業名	②災害ボランティアセンター設置訓練の実施				
	事業の概要	災害ボランティアセンターは、社協職員だけでは運営が難しいとされています。そのため、災害発生時、社協が災害ボランティアセンターを設置・運営していくためには、継続的な訓練が必要です。社協職員に限らず、行政や地域住民にも参加を呼びかけ、横のつながりを確認しながら訓練に取り組んでいきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・災害ボランティアセンター設置時に使用する資機材の充実及び点検を行った。(1) ・朝霞市と災害ボランティアセンターの設置・運営等に関する協定を締結した。 ・社協内の全ての部署において、災害用伝言ダイヤル171を使用した安否確認訓練を実施した。 ・埼玉県社協の依頼に基づき、被災地の災害ボランティアセンター運営支援として職員を派遣した。 ・埼玉県社協等が主催する災害ボランティアセンター関連研修に社協職員が出席した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
災害ボランティアセンター設置訓練	目標値	1回	1回	1回	1回	1回
	実績値	1回	1回	1回		
進捗状況及び自己評価	・資機材の充実及び点検を行ったり、行政と協定を締結したり、職員の安否確認訓練を行うことで、災害ボランティアセンターの設置について体制整備を図ることができた。 ・被災地への職員派遣や埼玉県社協等が主催した研修会に参加することで職員の知識と経験が深まった。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	・市(福祉相談課・危機管理室等)との情報共有・連携を深めていく必要がある。 ・社協内の災害ボランティアセンターの運営体制について、検討していく必要がある。
今後の取り組み方針	・災害ボランティアセンターの運営体制等について検討し、設置・運営マニュアルの見直しを図る。 ・職員の意識の向上を図るため、引き続き災害ボランティアセンターに関する研修等の情報を、全部署に配信し参加を促す。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

災害ボランティアについて関心を持ち、社協が開催する講座等に参加する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	総務課 高齢者・児童福祉課 あさか福祉作業所 はあとびあ福祉作業所	係 名	
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(13)防災対策の充実				
	事業名	③防災訓練の実施				
	事業の概要	社協が管理運営する施設において、火災や自然災害を想定した防災訓練を実施し、平時から災害に備えるとともに、施設利用者や地域住民に対して防災意識の啓発に努めます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・施設利用者と職員等含めて、火災・地震・水害等を想定した避難訓練を実施した。また消防設備機器等の操作訓練(消火や通報等)を行った。 ・地震発生時の初動行動の訓練(シェイクアウト訓練)を行ったり、水害時の避難場所が離れている施設においては徒歩での避難訓練を行ったり、複合施設では合同の避難訓練を実施したり、施設の防災訓練に自治会・町内会の参加があったり、土日勤務者向けの消防設備説明会を開催する等、それぞれの施設で防災訓練を行った。 ・社協内の全ての部署において、災害用伝言ダイヤル171を使用した安否確認訓練を実施した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
防災訓練の実施施設数	目標値	21か所	21か所	21か所	21か所	21か所
	実績値	21か所	21か所	21か所		
進捗状況 及び 自己評価	・法令に定める訓練(避難・消防等)を実施し、安心して地域住民に施設を利用してもらえるよう体制整備を行うことができた。 ・施設ごとに、その立地、利用特性に応じた訓練を行い、職員・利用者等に防災意識の啓発ができた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	職員、利用者、地域住民を巻き込んだ防災訓練を継続して実施していく必要がある。
今後の取り組み方針	法令に定める消防訓練・避難訓練を行い、平時から災害に備えるとともに、利用者だけでなく地域住民にも声かけして参加してもらえる訓練を企画する等、防災意識の向上に努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

日頃から防災への開催を持ち、施設等が行う防災訓練に参加する。

4 推進委員会の意見(評価)

・今までは地震を中心に災害想定をしていたが、水害災害なども想定していく必要がある。

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(13)防災対策の充実				
	事業名	④小地域福祉活動における防災事業の相談支援				
	事業の概要	自治会・町内会やボランティア団体が行う防災関連事業に対し、災害発生時の初期対応や身の回りにあるもので作れる防災グッズ等の情報提供を行ってきました。今後は、災害時の様々な場面で役立つ情報や災害関連の講座案内等、地域住民の支え合いによる防災活動について社協から情報発信を行いつつ相談支援を行っていきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・自治会・町内会における防災事業について、事前の連絡会議に参加し、当日は災害時に役立つ工作教室を行うブースを設けた。(1) ・朝霞市総合防災訓練(防災フェア同時開催)やふれあいいきいきサロンへの出前講座で、災害時の役立つ紙食器等の工作教室を行った。(2) ・自治会・町内会における防災訓練に参加した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
防災関連情報の周知・啓発・相談支援	目標値	3件	3件	3件	6件	6件
	実績値	3件	4件	3件		
進捗状況及び自己評価	・災害時に役立つ紙食器等の工作教室の開催を通して、地域住民に向けて災害に対する意識の醸成を図ることができた。 ・地域の防災訓練に参加することを通して、自治会・町内会の防災事業への支援を行い、顔の見える関係づくりができた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	災害関連の講座の開催や地域住民の支え合いによる防災活動への参加について、広く地域住民に周知啓発を図る必要がある。
今後の取り組み方針	・市が主催する防災に関するイベントに参加したり、災害ボランティア講座を企画する等、地域住民に向けて災害に対する意識の醸成を図る。 ・社協が主催する講座やボランティア・小学校区等の団体が実施する防災に関するイベント等について、SNSや広報紙等を活用して周知啓発を行う。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

日頃から防災に関心を持ち、地域で実施する防災訓練等に参加する。

4 推進委員会の意見(評価)

・各町内会において、小学校区などでまとまって防災会を実施している。東日本大震災時には帰宅困難者の対応があった。 ・ご近所付き合いがあれば各世帯の状況を把握できていると思うが、付き合いのない世帯は個人情報保護法の関係で状況確認が難しい。

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	高齢者・児童福祉課	係 名	
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(14)防犯対策の充実				
	事業名	①子どもへの防犯教室の実施				
	事業の概要	社協が管理運営する児童を対象とした施設において、自分の身を守るために普段からできること等、分かりやすく防犯について学ぶための機会を提供します。また、施設間でも防犯対策について情報を共有し、防犯対策の充実を図っていきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・社協が運営する放課後児童クラブにて、防犯教室を開き、児童が防犯を学ぶ機会を提供した。(10) ・放課後児童クラブ主任会議や児童館長会議にて、地域の防犯に関する情報や対策について、情報交換を行った。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
子どもへの防犯教室	目標値	10回	10回	10回	10回	10回
	実績値	9回	10回	10回		
進捗状況 及び 自己評価	・放課後児童クラブにて、社協職員が紙芝居や寸劇で防犯教室を開催し、児童に伝わりやすい工夫を行うことで、子どもたちに学ぶ機会を提供できた。 ・放課後児童クラブや児童館の職員間で情報共有することで、地域の防犯に対する意識の向上につながった。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	様々な事案に応じた防犯教室を開催する必要がある。
今後の取り組み方針	子どもたちが、自分で自分の身を守るような知識が増えるよう、防犯教室を継続して開催していく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

身近な地域での見守りや防犯活動に参加する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課 高齢者・児童福祉課	係 名	地域福祉推進係
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(14)防犯対策の充実				
	事業名	②住民の防犯への意識の啓発				
	事業の概要	地域住民に対して、朝霞警察署と社協の見守りネットワークの協定により提供される「地域防犯支援情報」を活用した情報提供を行います。また、社協が開催する講座や研修会、集い等の場でも地域の中で取り組んでいる防犯活動の事例を紹介・周知し、防犯意識を高める啓発を行っていきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・朝霞警察署より提供される地域防犯支援情報について職員間で情報共有を行った。(1) ・社協が運営する老人福祉センターにて、埼玉県警察が作成した「特殊詐欺」に関する注意喚起やクーリングオフに関する情報等のポスター掲示したり、チラシを配布し、利用者へ情報提供した。また、スマホ相談にて、迷惑メールの対応方法を利用者に伝えた。(3) ・老人クラブ連合会理事会にて、消費者生活支援センターからのクーリングオフについてのチラシを配布した。(1) ・社協が運営する放課後児童クラブにて、朝霞市からの不審者情報等を周知し、児童及び保護者に情報提供を行った。(10) ・朝霞警察署との見守りネットワークの協定に基づき、放課後児童クラブから防犯に関する相談を行った。(1)					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
防犯関連情報の周知・啓発	目標値	20件	20件	20件	25件	25件
	実績値	13件	17件	16件		
進捗状況及び自己評価	・社協が運営する施設にて、防犯に関する注意喚起、啓発活動を行い、施設利用者の防犯に対する意識付けを行うことができた。 ・職員間で情報を共有することで防犯意識の醸成を図ることができた。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	防犯情報を周知するために、防犯の知識・情報を有している関係機関との連携を図る。
今後の取り組み方針	・チラシや印刷物など紙媒体を用いた情報提供を継続して行う。 ・地域や施設で行われる講座等で防犯に関する情報提供を行う。 ・ご近所同士が顔見知りになることが、その地域の防犯につながることを地域住民に周知啓発する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

自分たちの安全は自分たちで守るという意識を持ち、日頃から防犯に関する情報への関心を高める。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(15)外出・移動の支援				
	事業名	①障害のある人や高齢者の外出支援				
	事業の概要	障害のある人や高齢者が地域で安心して暮らしていくためには、外出時の手段も大切な役割を担っています。その手段の一つである住民による生活支援サービス「あいはあと事業」により、外出を支援していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	あいはあと事業で、高齢者等の買い物や通院の同行の支援の依頼はあったが、利用には至らなかった。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
外出支援活動件数 (あいはあと事業)	目標値	30件	30件	35件	35件	35件
	実績値	31件	27件	0件		
進捗状況 及び 自己評価	定期的に利用していた利用会員からの依頼がなくなったため、外出支援の活動実績は0件だった。通院同行の相談はあったが、身体介助が必要であったり、活動先が市外であったため、利用には至らなかったが、居宅介護支援事業所からの相談の連絡はあるため、外出支援のための社会資源の一つとして認知されていると思われる。					
	C	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	外出支援の相談はあるが、身体介助などの理由により、利用には至らないことが多い。
今後の取り組み方針	あいはあと事業にて、外出を支援する活動(利用会員の身体や車いす等にふれる内容は除く)があることを事例紹介等を通じて周知する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

身近な地域の支え合いにより、外出を支援する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(15)外出・移動の支援				
	事業名	②車いすの貸出し				
	事業の概要	けがをして車いすが必要になった、病院から退院する際に車いすを使いたい等、生活の中で短期的に車いすを必要とする人へ貸出しを行います。貸出し時には、操作方法について説明し、車いす利用時の事故を予防していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・自立歩行の困難な方の社会参加を促進し、また、介護者の日常介護活動を援助し、在宅福祉の増進を図るため、社協で所有する車いすの貸出しを行った。(51) ・適宜、メンテナンスを行った。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
車いすの貸出し	目標値	55件	55件	60件	60件	60件
	実績値	61件	64件	51件		
進捗状況及び自己評価	・広報紙やSNSでの周知の効果もあり、初めての利用の方も多く見られた。 ・ケガや病気等による緊急の貸し出しもあったが、柔軟に対応することができた。 ・ケガや病気等に限らず、高齢の家族がいる旅行等で使いたいというニーズにも対応することができた。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	利用者の中には、期限内に返却がなかったり、返却の連絡がなかなかとれないケースがあった。
今後の取り組み方針	・ケガ等による緊急の利用希望にも対応しつつ、高齢の家族の一時退院や帰省などの短期的・単発的なニーズにも役立ててもらえるように、周知啓発を行う。 ・貸し出し時に、ルールの確認を丁寧に行い、利用者の理解を得る。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

移動サービスの情報を地域の中で共有する。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名		課 名	地域福祉推進課	係 名	
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(16)住まいの確保等への支援				
	事業名	①生活困窮者等への支援				
	事業の概要	住宅の確保が困難な人に対し、住居に関する必用経費の相談や課題の整理を行い、必要に応じて生活福祉資金貸付等の支援を行います。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R5年度の取り組み内容	・住宅の確保が困難な人に対し、住居確保給付金の案内や食料支援等を行った。慢性的に困窮しており、貸付の対象にならない人には、生活保護への相談を勧めた。 ・低所得に該当しないが、生活費が不足しているという人に対して、生活状況と収支の確認を行い、家計の見直しを提案した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
住宅に関する相談件数	目標値	15件	18件	18件	20件	20件
	実績値	31件	22件	27件		
進捗状況及び自己評価	住宅の確保が困難な人に対し、本人の状況をよく確認・傾聴し、本人の生活課題に対応できそうな社会資源の情報を提供する等、住居が確保できるような支援に努めた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	低所得世帯ではないが、金銭の使い方により、住居確保が困難になっている相談者が増えている。
今後の取り組み方針	社会資源の情報収集等、複合的な相談にも対応できるように努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

住居確保が困難な方がいたら、社協等の相談窓口を紹介する。

4 推進委員会の意見(評価)

【施策の方向性】

- (1) 地域共生社会の実現に向けた仕組みづくり
- (2) 相談支援体制の充実
- (3) 保健医療・社会福祉サービスの充実
- (4) 権利擁護の推進
- (5) 生活困窮者等への支援の充実
- (6) 地域住民の交流の促進
- (7) 地域福祉に関する理解と参加の促進
- (8) 支え合い・助け合いの気持ちの醸成
- (9) 地域での見守りの充実
- (10) 情報共有・発信の充実
- (11) 地域福祉を支える団体の活性化・人材の育成
- (12) 施設等の整備・充実
- (13) 防災対策の充実
- (14) 防犯対策の充実
- (15) 外出・移動の支援
- (16) 住まいの確保等への支援
- (17) 再犯防止の推進

【取組】

- ①関係機関との連携
- ②身近な福祉圏域の検討
- ③コミュニティソーシャルワーカー（CSW）の配置
- ①特別な配慮が必要な子どもへの相談・支援
- ②身近な総合相談支援の充実
- ③ボランティア活動の相談・コーディネートとの推進
- ④身近なボランティアの相談窓口の充実
- ①機関連携研修会
- ②障害のある人の就労支援
- ③社会福祉法人の連絡会議
- ①成年後見制度の理解・普及
- ②虐待防止対策
- ③あんしんサポートねっと
- ①生活再建のための相談支援
- ②子どもの貧困対策に関わる団体への支援
- ①地域住民の交流の機会の提供
- ②地域住民の交流の活性化
- ③外国人への支援
- ①ボランティア・実習生の受け入れ
- ②出前講座の実施
- ③ボランティア講座の開催
- ④手話体験・要約筆記体験の実施
- ⑤地域福祉財源の確保
- ⑥住民参加型在宅福祉サービス「あいはあと事業」
- ①教職員対象の研修会の実施
- ②他機関と連携した福祉教育の実施
- ①住民参加による見守り事業の推進
- ①分かりやすい福祉情報の提供
- ②メディア戦略の強化
- ①福祉活動団体に対する活動支援
- ②手話講習会の実施
- ③老人クラブに対する活動支援
- ④ボランティア講座の開催（再掲）
- ⑤地域活動団体間の交流事業
- ①地域の人が集える拠点（場）づくり
- ②施設の点検・修繕
- ①災害ボランティア講座の実施
- ②災害ボランティアセンター設置訓練の実施
- ③防災訓練の実施
- ④小地域福祉活動における防災事業の相談支援
- ①子どもへの防犯教室の実施
- ②住民の防犯への意識の啓発
- ①障害のある人や高齢者の外出支援
- ②車いすの貸出し
- ①生活困窮者等への支援

朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画推進委員会

令和7年度計画策定スケジュール

時 期	内 容
R 7 年 5月下旬～6月頃	第1回委員会 ・骨子案の検討
R 7 年 9月頃	第2回委員会 ・素案の検討（1回目）
R 7 年 11月頃	第3回委員会 ・素案の検討（2回目）
R 7 年12月頃	パブリックコメント実施
R 8 年 1月下旬	第4回委員会 ・最終案の確認
R 8 年3月	計画の正式発行

※時期については変更することがあります。詳細の日時は決定次第改めてお知らせします。